別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　　本　　計　　画		
事　　項	記　　入　　欄	備　　考
計　画　の　区　分	学部の設置	
フ　リ　ガ　ナ 設　　置　　者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾄｳﾖｳﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　東洋大学	
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	ﾄｳﾖｳﾀﾞｲｶﾞｸ 東洋大学　(Toyo University)	
大 学 本 部 の 位 置	東京都文京区白山5丁目28番地20号	
大　学　の　目　的	創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、「国際化」「キャリア教育」そしてその基盤となる「哲学教育」の3つを教育の柱とし、時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事を捉え、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人財」を育成することを目的とする。	
新設学部等の目的	**福祉社会デザイン学部** ①現在の社会情勢を大局的に捉え、社会に真に必要な対応を考えられると同時にその実現に向けて行動できる人材、②人間の生活や営みを理解すると同時に多様な価値を受容し、社会の多様性の実現に貢献できる人材、③学びに立脚したプロフェッションを構築すると同時に、他分野とのコミュニケーション・協働に優れた能力が発揮できる人材、④イノベーティブな視点を持ち、新たな価値の創造に貢献できる人材、⑤グローバル化が進行する時代において、国際性への理解を持つ人材を養成する。 **福祉社会デザイン学部　社会福祉学科** 社会福祉学を基礎とし、誰もがその人らしく生活できる共生社会実現に貢献すると共に、国内外の様々な課題に対峙できるグローバルな人材を育成する。そして、加速する少子高齢化、グローバル化など、社会経済の構造変化に対応する政策・制度、支援技術や福祉ビジネス等を研究し、国内外の幅広い分野において活躍し、それぞれの分野において指導的立場を担える人材、および新たな事業やサービスを展開できる知性と行動力を担える人材の養成を目指している。 **福祉社会デザイン学部　子ども支援学科** ①専門性に裏打ちされた人材養成 専門的知識と技術を備えた専門職（保育士・幼稚園教諭・社会福祉士等）養成を柱としながら、より広い視野から国内外のさまざまな現場における施策、あらゆる環境のもとでの子ども支援や子ども福祉の行動計画の策定・実行・評価ができる人材を養成する。 ②ローカルおよびグローバルな視点を兼ね備えた子ども支援職のリーダー養成 国連・持続可能な開発目標（SDGs）を見据え、地球規模の視野と豊かな国際感覚を持ち、多文化共生社会の実現に向け、国内外で活躍できる子ども支援のプロフェッショナルを養成する。 ③既存の学問領域を横断的に学ぶ幅広い視野をそなえた人材養成 総合大学の強みを生かして多様な学問領域を横断的に学び、さらに地域に暮らす人々のQOL向上を視野におき、多くの機関と連携・協働しながら、社会のさまざまな領域で子どもや子育てを支援する人材を養成する。 ④保育・幼児教育・子ども家庭福祉領域でICTを活用しながら子育て課題に対応できる人材養成 保育・幼児教育・子ども家庭福祉の実践の評価や家庭とのコミュニケーションの発展につながるICTの活用の推進を通じて、現場でリーダーシップを発揮できる人材を養成する。 **福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科** ①建築設計や商品開発・デザインに関する高い技能を有し、社会の要請に応じる都市・建築環境、製品の開発提案が行える人材、デザイン行為を通じて新たなイノベーションを創生し社会をリードする人材を育成する。特に、デザイン提案・商品開発の場面において、ユニバーサルデザインやユーザビリティの視点を備えていることで、独自性および質の高い提案ができる人材の育成に重点を置く。 ②実務業務における広報、企画、営業などにおいて、デザインあるいはユーザビリティの知識を活かしながら、所属する組織・団体・企業などのイノベーション、顧客へのサービス向上に貢献できる人材を育成する。特に、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を発揮しながら、オリジナリティの高い業務展開・貢献が図れる人材の育成に重点を置く。 ③デザインに関する技能・知識を活かしながら、多領域の人材との連携により、新たなビジネスを創成する起業家を育成する。特に、福祉、健康増進、情報などの領域の人材との連携により、例えば、福祉施設のICT化に伴うサービス向上、大規模集合住宅地におけるパーソナルモビリティのサービス事業など、新たなビジネスを展開できる人材の育成に重点を置く。	

	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年 月 第 年次		
新設学部等の概要	福祉社会デザイン学部 [Faculty of Design for Welfare Society]								
	社会福祉学科 [Department of Social Welfare Studies]	4	216	－	864	学士 (社会福祉学) [Bachelor of Social Welfare]	令和5年4月 第1年次	東京都北区赤羽台一丁目７番１１号	
	子ども支援学科 [Department of Child Studies]	4	100	－	400	学士 (子ども支援学) [Bachelor of Child Studies]	令和5年4月 第1年次	同上	
	人間環境デザイン学科 [Department of Human Environment Design]	4	160	－	640	学士 (人間環境デザイン学) [Bachelor of Human Environment Design]	令和5年4月 第1年次	同上	
	計		476	－	1,904				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）

○学部等設置
福祉社会デザイン学部
社会福祉学科　(216)
子ども支援学科　(100)
人間環境デザイン学科　(160)
健康スポーツ科学部
健康スポーツ科学科　(230)
栄養科学科 (100)
健康スポーツ科学研究科
健康スポーツ科学専攻（博士前期課程20、博士後期課程5)
栄養科学専攻（博士前期課程10、博士後期課程3)

○廃止
社会学部第1部
社会福祉学科（廃止）　(△150)
ライフデザイン学部（廃止）
生活支援学科生活支援学専攻（△116)
生活支援学科子ども支援学専攻（△100)
健康スポーツ学科　(△180)
人間環境デザイン学科　(△160)
食環境科学部
食環境科学科スポーツ・食品機能専攻（廃止）　(△50)
ライフデザイン学研究科
健康スポーツ学専攻（廃止）（修士課程△10)

※令和5年4月学生募集停止

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
教育課程	福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	162　科目	102　科目	25　科目	289　科目	124　単位	
	福祉社会デザイン学部 子ども支援学科	132　科目	106　科目	23　科目	261　科目	124　単位	
	福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科	157　科目	75　科目	21　科目	253　科目	124　単位	

		学部等の名称	専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
教員組織の概要	新設分	福祉社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部　社会福祉学科	10 (13)	11 (10)	1 (1)	1 (9)	23 (33)	0 (0)	139 (139)	
		子ども支援学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (3)	11 (14)	0 (0)	147 (147)	
		人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	8 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (14)	0 (2)	186 (186)	
		健康ｽﾎﾟｰﾂ科学部　健康ｽﾎﾟｰﾂ科学科	7 (9)	9 (9)	4 (4)	3 (3)	23 (25)	0 (0)	155 (155)	※令和4年4月設置届出予定
		栄養科学科	5 (4)	3 (2)	2 (2)	3 (3)	13 (11)	3 (3)	125 (125)	※令和4年4月設置届出予定
		計	37 (42)	31 (29)	8 (8)	7 (18)	83 (97)	3 (5)	- -	
	既設分	文学部　第1部　哲学科	7 (7)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	34 (34)	
		東洋思想文化学科	9 (9)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	36 (36)	
		日本文学文化学科	7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	64 (64)	
		英米文学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	36 (36)	
		史学科	9 (9)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	44 (44)	
		教育学科	17 (17)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	46 (46)	
		国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	58 (58)	
		経済学部　第1部　経済学科	12 (12)	11 (11)	2 (2)	2 (2)	27 (27)	0 (0)	55 (55)	
		国際経済学科	12 (12)	3 (3)	7 (7)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	22 (22)	
		総合政策学科	12 (12)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	12 (12)	
		経営学部　第1部　経営学科	11 (11)	14 (14)	7 (7)	2 (2)	34 (34)	0 (0)	32 (32)	
		ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ学科	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	6 (6)	
		会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学科	12 (12)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	11 (11)	
		法学部　第1部　法律学科	18 (18)	9 (9)	3 (3)	2 (2)	32 (32)	0 (0)	21 (21)	
		企業法学科	19 (19)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	16 (16)	
		社会学部　第1部　社会学科	6 (7)	7 (7)	2 (2)	2 (2)	17 (18)	0 (0)	24 (24)	
		国際社会学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	39 (39)	
		ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	12 (12)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	17 (17)	
		社会心理学科	8 (8)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	25 (25)	
		国際学部　ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	14 (14)	
		国際地域学科	16 (17)	7 (7)	2 (2)	2 (2)	27 (28)	0 (0)	54 (54)	
		国際観光学部　国際観光学科	20 (20)	9 (9)	7 (7)	2 (2)	38 (38)	0 (0)	35 (35)	
		理工学部　機械工学科	10 (10)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	15 (15)	
		生体医工学科	12 (12)	4 (5)	0 (0)	1 (1)	17 (18)	0 (0)	31 (31)	
		電気電子情報工学科	12 (12)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	15 (15)	
		応用化学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	19 (19)	
		都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	13 (13)	

教員組織の概要	既設分	建築学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	29 (29)	
		総合情報学部　総合情報学科	18 (18)	7 (7)	3 (3)	5 (5)	33 (33)	0 (0)	24 (24)	
		生命科学部　生命科学科	12 (13)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	16 (17)	0 (0)	18 (18)	
		応用生物科学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	1 (1)	
		食環境科学部　食環境科学科	11 (11)	4 (6)	0 (0)	2 (2)	17 (19)	0 (0)	9 (9)	
		健康栄養学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	5 (5)	5 (5)	
		情報連携学部　情報連携学科	21 (21)	12 (12)	4 (4)	6 (6)	43 (43)	0 (0)	13 (13)	
		文学部　第2部　東洋思想文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		日本文学文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		教育学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		経済学部　第2部　経済学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		経営学部　第2部　経営学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		法学部　第2部　法律学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		社会学部　第2部　社会学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		国際教育ｾﾝﾀｰ	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)	
		IR室	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		計	396 399	190 (193)	73 (73)	51 (51)	710 (716)	5 (5)	- -	
	合　　計		433 (441)	221 (222)	81 (81)	58 (69)	793 (813)	8 (10)	- -	

教員以外の職員の概要	職　　種	専　任	兼　任	計
	事　務　職　員	390 (390)	216 (216)	606 (606)
	技　術　職　員	0 (0)	87 (87)	87 (87)
	図　書　館　専　門　職　員	30 (30)	10 (10)	40 (40)
	そ　の　他　の　職　員	0 (0)	11 (11)	11 (11)
	計	420 (420)	324 (324)	744 (744)

校地等	区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計
	校　舎　敷　地	336,413.19 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	336,413.19 ㎡
	運　動　場　用　地	189,576.05 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	189,576.05 ㎡
	小　　計	525,989.24 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	525,989.24 ㎡
	そ　の　他	302,924.81 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	302,924.81 ㎡
	合　　計	828,914.05 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	828,914.05 ㎡

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計
	248,130.6㎡ (248,130.6㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	248,130.6㎡ (248,130.6㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	358室	143室	385室	39室 (補助職員　9人)	5室 (補助職員0人)	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室　数
	福祉社会デザイン学部	70　室

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕冊	学術雑誌〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料点	機械・器具点	標本点	
	福祉社会デザイン学部	1,616,816〔347,393〕 (1,590,888〔344,061〕)	16,342〔5,451〕 (16,342〔5,451〕)	23,808〔23,624〕 (23,808〔23,624〕)	15,360 (14,608)	73,723 (73,723)	0 0	学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	1,616,816〔347,393〕 (1,590,888〔344,061〕)	16,342〔5,451〕 (16,342〔5,451〕)	23,808〔23,624〕 (23,808〔23,624〕)	15,360 (14,608)	73723 (73,723)	0 0	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	18,371.33㎡	2,524	1,668,100	大学全体
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	25,438.24㎡	野球場1面、サッカー場2面	テニスコート13面等	

経費の見積り及び維持方法の概要		区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	経費の見積り	教員１人当り研究費等		532千円	532千円	532千円	532千円	－	－	
		共同研究費等		80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	－	－	大学全体
		図書購入費	5,471千円	4,259千円	8,465千円	12,675千円	16,534千円	－	－	図書購入費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ・ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽの整備費（運用ｺｽﾄ含む。）を含む。
		設備購入費	39,512千円	30,757千円	61,132千円	91,535千円	119,409千円	－	－	学部全体

	学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	
		福祉社会デザイン学部　社会福祉学科、子ども支援学科	1,360千円	1,110千円	1,110千円	1,110千円	
		福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科	1,540千円	1,290千円	1,290千円	1,290千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。					

既設大学等の状況	大学の名称	東洋大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	文学研究科								
	哲学専攻	2	5	－	10	修士(文学)	0.70	昭和27年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
	ｲﾝﾄﾞ哲学仏教学専攻	2	4	－	8	修士(文学)	0.37	昭和27年度	同上
	日本文学文化専攻	2	10	－	20	修士(文学)	0.35	昭和27年度	同上
	中国哲学専攻	2	4	－	8	修士(文学)	0.62	昭和29年度	同上
	英文学専攻	2	5	－	10	修士(文学)	0.10	昭和31年度	同上
	史学専攻	2	6	－	12	修士(文学)	0.41	昭和42年度	同上
	教育学専攻	2	20	－	40	修士(教育学)	0.22	平成6年度	同上
	国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻	2	10	－	20	修士(国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	0.65	平成31年度	同上
	社会学研究科								
	社会学専攻	2	10	－	20	修士(社会学)	1.05	昭和34年度	同上
	社会心理学専攻	2	12	－	24	修士(社会心理学)	0.58	平成16年度	同上
	福祉社会ｼｽﾃﾑ専攻	2	－	－	－	修士（社会学）又は修士（社会福祉学）	－	平成30年度	同上
	法学研究科								
	私法学専攻	2	10	－	20	修士(法学)	0.30	昭和39年度	同上
	公法学専攻	2	10	－	20	修士(法学)	0.05	昭和51年度	同上

令和2年より学生募集停止

既設大学等の状況	経営学研究科									
	経営学・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ専攻	2	22	—	44	修士(経営学)又は修士（ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ）	0.54	平成31年度	同上	
	経営学専攻	2	—	—	—	修士(経営学)	-	昭和47年度	同上	平成31年より学生募集停止
	ﾋﾞｼﾞﾈｽ・会計ﾌｧｲﾅﾝｽ専攻	2	28	—	56	修士(経営学)	0.99	平成18年度	同上	
	理工学研究科									
	生体医工学専攻	2	18	—	36	修士(理工学)	0.99	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	
	応用化学専攻	2	12	—	24	修士(理工学)	2.00	平成26年度	同上	
	機能ｼｽﾃﾑ専攻	2	15	—	30	修士(理工学)	1.23	平成26年度	同上	
	電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士(理工学)	1.36	平成26年度	同上	
	都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	2	8	—	16	修士(工学)	1.24	平成26年度	同上	
	建築学専攻	2	14	—	28	修士(工学)	1.14	平成26年度	同上	
	経済学研究科									
	経済学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.70	昭和51年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	公民連携専攻	2	30	—	60	修士(経済学)	0.65	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号 東京都千代田区大手町2丁目2番1号	
	国際学研究科									
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学専攻	2	10	—	20	修士（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学）	0.50	令和2年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	国際地域学専攻	2	15	—	30	修士（国際地域学）	0.66	平成30年度	同上	
	国際観光学研究科									
	国際観光学専攻	2	15	—	30	修士（国際観光学）	0.96	平成30年度	同上	
	国際地域学研究科									
	国際地域学専攻	2	—	—	—	修士（国際地域学）	—	平成13年度	同上	平成30年より学生募集停止
	国際観光学専攻	2	—	—	—	修士（国際観光学）	—	平成17年度	同上	平成30年より学生募集停止
	生命科学研究科									
	生命科学専攻	2	20	—	40	修士(生命科学)	1.42	平成13年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	社会福祉学研究科									
	社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士（社会福祉学）又は修士（ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ）	0.42	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学研究科									
	生活支援学専攻	2	10	—	20	修士（社会福祉学）又は修士（保育学）	0.60	平成30年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
	健康ｽﾎﾟｰﾂ学専攻	2	10	—	20	修士（健康ｽﾎﾟｰﾂ学）	0.60	平成30年度	同上	
	人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	2	10	—	20	修士（人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学）	0.80	平成30年度	同上	
	福祉社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科									
	社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ)	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年より学生募集停止

既設大学等の状況	ﾋｭｰﾏﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士(健康ﾃﾞｻﾞｲﾝ学)	—	平成18年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	平成30年より学生募集停止
	学際・融合科学研究科									
	ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合専攻	2	12	—	24	修士(ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合)	0.37	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100	
	総合情報学研究科									
	総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	1.16	平成28年度	同上	
	食環境科学研究科									
	食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.60	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	情報連携学研究科									
	情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.55	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
	大学院 博士後期課程									
	文学研究科									
	哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	ｲﾝﾄﾞ哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.44	昭和29年度	同上	
	日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和29年度	同上	
	中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	平成11年度	同上	
	英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和39年度	同上	
	史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	平成11年度	同上	
	教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.33	平成11年度	同上	
	国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻	3	3	—	9	博士(国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	0.00	平成31年度	同上	
	社会学研究科									
	社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.00	昭和34年度	同上	
	社会心理学専攻	3	5	—	15	博士(社会心理学)	0.33	平成18年度	同上	
	法学研究科									
	私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.33	昭和41年度	同上	
	公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成12年度	同上	
	経営学研究科									
	経営学・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ専攻	3	4	—	12	博士(経営学)	0.16	平成31年度	同上	
	経営学専攻	3	—	—	—	博士(経営学)	—	平成11年度	同上	平成31年より学生募集停止
	ﾋﾞｼﾞﾈｽ・会計ﾌｧｲﾅﾝｽ専攻	3	3	—	9	博士(経営学)または博士(会計・ﾌｧｲﾅﾝｽ)	0.00	平成22年度	同上	
	理工学研究科									
	生体医工学専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.66	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	
	応用化学専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.22	平成26年度	同上	
	機能ｼｽﾃﾑ専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.11	平成26年度	同上	
	電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.00	平成26年度	同上	

既設大学等の状況	建築・都市ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	3	3	―	9	博士(工学)	0.22	平成26年度	同上	
	経済学研究科									
	経済学専攻	3	3	―	9	博士(経済学)	0.66	昭和53年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	国際学研究科									
	国際地域学専攻	3	5	―	15	博士(国際地域学)	0.53	平成30年度	同上	
	国際観光学研究科									
	国際観光学専攻	3	3	―	9	博士(国際観光学)	1.33	平成30年度	同上	
	国際地域学研究科									
	国際地域学専攻	3	―	―	―	博士(国際地域学)	―	平成15年度	同上	平成30年より学生募集停止
	国際観光学専攻	3	―	―	―	博士(国際観光学)	―	平成23年度	同上	平成30年より学生募集停止
	生命科学研究科									
	生命科学専攻	3	4	―	12	博士(生命科学)	0.58	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	社会福祉学研究科									
	社会福祉学専攻	3	5	―	15	博士（社会福祉学）又は博士（ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ）	0.60	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学研究科									
	ﾋｭｰﾏﾝﾗｲﾌ学専攻	3	5	―	15	博士（社会福祉学）又は博士（健康ｽﾎﾟｰﾂ学）	0.80	平成30年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
	人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	3	4	―	12	博士（人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学）	0.33	平成30年度	同上	
	福祉社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ研究科									
	社会福祉学専攻	3	―	―	―	博士(社会福祉学)又は博士(ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ)	―	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成30年より学生募集停止
	ﾋｭｰﾏﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	3	―	―	―	博士(社会福祉学)又は博士(健康ﾃﾞｻﾞｲﾝ学)	―	平成18年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	平成30年より学生募集停止
	学際・融合科学研究科									
	ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合専攻	3	4	―	12	博士(ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合)	0.00	平成19年度	埼玉県川越市鯨井2100	
	総合情報学研究科									
	総合情報学専攻	3	3	―	9	博士(情報学)	0.99	平成30年度	同上	
	食環境科学研究科									
	食環境科学専攻	3	2	―	6	博士(食環境科学)	0.33	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	情報連携学研究科									
	情報連携学専攻	3	4	―	12	博士(情報連携学)	0.08	平成31年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
	文学部　第１部						1.00			
	哲学科	4	100	―	400	学士(文学)	1.02	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	東洋思想文化学科	4	100	―	400	学士(文学)	0.97	平成25年度	同上	
	日本文学文化学科	4	133	―	532	学士(文学)	1.02	平成12年度	同上	
	英米文学科	4	133	―	532	学士(文学)	1.01	昭和24年度	同上	
	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	―	―	―	学士(文学)	―	平成12年度	同上	平成29年より学生募集停止

既設大学等の状況	史学科	4	133	―	532	学士(文学)	1.02	昭和24年度	同上	
	教育学科						0.98	昭和39年度	同上	
	教育学科人間発達専攻	4	100	―	400	学士(教育学)	0.99	平成20年度	同上	
	教育学科初等教育専攻	4	50	―	200	学士(教育学)	0.96	平成20年度	同上	
	国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	100	―	400	学士(文学)	1.03	平成29年度	同上	
	経済学部　第１部						1.01			
	経済学科	4	250	―	1000	学士(経済学)	1.00	昭和25年度	同上	
	国際経済学科	4	183	―	732	学士(経済学)	1.01	平成12年度	同上	
	総合政策学科	4	183	―	732	学士(経済学)	1.01	平成12年度	同上	
	経営学部　第１部						1.01			
	経営学科	4	316	―	1264	学士(経営学)	1.01	昭和41年度	同上	
	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ学科	4	150	―	600	学士(経営学)	1.00	昭和41年度	同上	
	会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学科	4	216	―	864	学士(経営学)	1.01	平成18年度	同上	
	法学部　第１部						1.01			
	法律学科	4	250	―	1000	学士(法学)	1.02	昭和31年度	同上	
	企業法学科	4	250	―	1000	学士(法学)	1.01	昭和40年度	同上	
	社会学部　第１部						1.01			
	社会学科	4	150	―	600	学士(社会学)	1.01	昭和34年度	同上	
	社会文化ｼｽﾃﾑ学科	4	―	―	―	学士(社会学)	―	平成12年度	同上	令和3年より学生募集停止
	国際社会学科	4	150	―	300	学士(社会学)	1.00	令和3年度	同上	
	ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	150	―	600	学士(社会学)	1.01	平成12年度	同上	
	社会心理学科	4	150	―	600	学士(社会学)	1.03	平成12年度	同上	
	社会福祉学科	4	150	―	600	学士(社会学)	1.01	平成4年度	同上	
	理工学部						1.00			
	機械工学科	4	180	―	720	学士(理工学)	1.01	昭和36年度	埼玉県川越市鯨井2100	
	生体医工学科	4	113	―	452	学士(理工学)	1.00	平成21年度	同上	
	電気電子情報工学科	4	113	―	452	学士(理工学)	1.00	昭和36年度	同上	
	応用化学科	4	146	―	584	学士(理工学)	1.00	昭和36年度	同上	
	都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	4	113	―	452	学士(工学)	1.00	昭和37年度	同上	
	建築学科	4	146	―	584	学士(工学)	1.03	昭和37年度	同上	
	国際地域学部									
	国際地域学科							平成９年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	国際地域学科 国際地域専攻	4	―	―	―	学士 (国際地域学)	―	平成22年度	同上	平成29年より学生募集停止
	国際地域学科 地域総合専攻	4	―	―	―	学士 (国際地域学)	―	平成22年度	同上	平成29年より学生募集停止

既設大学等の状況	国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	平成13年度	同上	平成29年より学生募集停止
	国際学部						0.99			
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学科	4	100	—	400	学士 (ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学)	0.99	平成29年度	同上	
	国際地域学科						1.00	平成29年度	同上	
	国際地域学科 国際地域専攻	4	210	—	840	学士 (国際地域学)	1.00	平成29年度	同上	
	国際地域学科 地域総合専攻	4	80	—	320	学士 (国際地域学)	1.00	平成29年度	同上	
	国際観光学部						1.00			
	国際観光学科	4	366	—	1464	学士 (国際観光学)	1.00	平成29年度	同上	
	生命科学部						0.99			
	生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.00	平成９年度	群馬県邑楽郡板倉町 泉野1丁目1番1号	
	応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	0.98	平成21年度	同上	
	ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学部						0.99			
	生活支援学科						0.98	平成17年度	東京都北区赤羽台1 丁目7番11号	
	生活支援学科 生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.00	平成21年度	同上	
	生活支援学科 子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.97	平成21年度	同上	
	健康ｽﾎﾟｰﾂ学科	4	180	—	720	学士 (健康ｽﾎﾟｰﾂ学)	1.00	平成17年度	同上	
	人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	4	160	—	640	学士 (人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学)	0.99	平成18年度	同上	
	総合情報学部						1.01			
	総合情報学科	4	260	—	1040	学士(情報学)	1.01	平成21年度	埼玉県川越市鯨井 2100	
	食環境科学部						0.98			
	食環境科学科						0.99	平成25年度	群馬県邑楽郡板倉町 泉野1丁目1番1号	
	食環境科学科 ﾌｰﾄﾞｻｲｴﾝｽ専攻	4	70	—	280	学士 (食環境科学)	0.97	平成25年度	同上	
	食環境科学科 ｽﾎﾟｰﾂ・食品機能専攻	4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.02	平成25年度	同上	
	健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	平成25年度	同上	
	情報連携学部						0.99			
	情報連携学科	4	300	—	1500	学士(情報連携学)	0.99	平成29年度	東京都北区赤羽台1 丁目7番11号	令和4年度入学定員減（100）
	文学部　第２部						0.98			
	東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士(文学)	0.98	平成25年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	日本文学文化学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.00	昭和27年度	同上	
	教育学科	4	40	—	160	学士(教育学)	0.97	昭和39年度	同上	
	経済学部　第２部						1.02			
	経済学科	4	150	—	600	学士(経済学)	1.02	昭和32年度	同上	
	経営学部　第２部						0.99			
	経営学科	4	110	—	440	学士(経営学)	0.99	昭和41年度	同上	

既設大学等の状況	法学部　第２部						1.01			
	法律学科	4	120	―	480	学士(法学)	1.01	昭和31年度	同上	
	社会学部　第２部						1.00			
	社会学科	4	130	―	520	学士(社会学)	1.01	昭和34年度	同上	
	社会福祉学科	4	―	―	―	学士(社会学)	―	平成13年度	同上	令和3年より学生募集停止
	通信教育部									
	文学部 日本文学文化学科	4	―	―	―	学士(文学)	―	昭和39年度	同上	平成30年より学生募集停止
	法学部 法律学科	4	―	―	―	学士(法学)	―	昭和41年度	同上	平成30年より学生募集停止
附属施設の概要	-									

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	1･2･3･4前		2		○								兼2
			生命と倫理	1･2･3･4後		2		○								兼1
			宗教学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（3科目）	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学問の基礎	人文科学	日本文学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			外国文学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			歴史学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			美術一般	1･2･3･4前		2		○								兼1
			音楽一般	1･2･3･4後		2		○								兼1
			文化人類学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼5
		社会科学	経済学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			経営学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			政治学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地理学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			社会学	1･2･3･4前		2		○				1				兼1
			心理学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			統計学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（8科目）	－	0	16	0	－			0	1	0	0	0	兼8
		自然科学	数学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			物理学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			現代化学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			生物学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3
	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地域文化研究Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			地域文化研究Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地域文化研究Ｄ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			地域文化研究Ｅ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（5科目）	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	兼5
		グローバル社会の実際	英語および英語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			中国語および中国語圏社会事情	1･2･3･4前･後		2		○								兼1
			フランス語およびフランス語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			韓国語および韓国語圏社会事情	1･2･3･4後		2		○								兼1
			留学のすすめ	1･2･3･4前･後		2		○								兼2
			異文化理解概論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			海外研修Ⅰ	1･2･3･4後		2				○						兼1
			海外研修Ⅱ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			海外実習Ⅰ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			海外実習Ⅱ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			短期海外研修Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅱ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅳ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅱ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅳ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			小計（19科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼7
		語学	英語ⅠＡ	1前	1				○			1				兼17
			英語ⅠＢ	1後	1				○			1				兼17
			英語ⅡＡ	1前	1				○			1				兼12
			英語ⅡＢ	1後	1				○			1				兼12
			英語ⅢＡ	2前	1				○			1				兼17

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
基盤教育科目	国際人の形成	語学	英語ⅢＢ	2後	1				○			1				兼17
			英語ⅣＡ	2前	1				○							兼13
			英語ⅣＢ	2後	1				○							兼13
			Intercultural Communication Skills ⅠA	1･2･3･4前		1			○							兼1
			Intercultural Communication Skills ⅠB	1･2･3･4前		1			○							兼1
			Intercultural Communication Skills ⅡA	1･2･3･4後		1			○			1				
			Intercultural Communication Skills ⅡB	1･2･3･4後		1			○			1				
			English Test PreparationⅠ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			English Test PreparationⅡ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			中国語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			中国語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			フランス語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			フランス語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			韓国語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			韓国語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			Business English Communication	1･2･3･4前		2			○							兼1
			アカデミックライティング	1･2･3･4前		2		○								兼1
			テクニカルライティング	1･2･3･4前		2		○								兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking	1･2･3･4前		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅱ Listening/Speaking	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing	1･2･3･4後		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅱ Reading/Writing	1･2･3･4前･後		2			○							兼3
			Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Pre-Study Abroad: Writing	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			小計（31科目）	－	8	30	0	－			0	1	0	0	0	兼35
		語学（留学生対象科目、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目）	日本語Ⅰ	1･2･3･4前	1				○							兼1
			日本語Ⅱ	1･2･3･4後	1				○							兼1
			日本事情Ⅰ	1･2･3･4前	2			○								兼1
			日本事情Ⅱ	1･2･3･4後	2			○								兼1
			Integrated Japanese Ⅰ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼2
			Integrated Japanese Ⅰ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅱ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅱ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼3
			Integrated Japanese Ⅲ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼2
			Integrated Japanese Ⅲ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Japanese Reading Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Reading Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Reading Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Listening Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Listening Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Listening Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Project Work Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Project Work Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			Project Work Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Culture and Society A	1･2･3･4後		2		○								兼1
			Japanese Culture and Society B	1･2･3･4前		2		○								兼1
			Introduction to Japanology A	1･2･3･4後		2		○								兼1
			Introduction to Japanology B	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（26科目）	－	6	32	0	－			0	0	0	0	0	兼10

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
基盤教育科目	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン入門	1前		2		○								兼1
			コミュニケーション＆マナー	1後		2		○								兼1
			キャリアデザイン実践	2後		2		○								兼1
			キャリアデベロップメント	3･4後		2		○								兼1
			インターンシップ入門	3･4前		2		○				1				
			アントレプレナーシップ	3･4後		2		○				1				
			口頭表現法	1･2･3･4前		2		○								兼1
			プレゼンテーション技法	1･2･3･4前		2		○								兼1
			文章読解	1･2･3･4後		2		○								兼1
			レポート・論文のまとめ方	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（10科目）	－	0	20	0	－			0	1	0	0	0	兼4
		市民形成	日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼1
			グローバル市民論	1･2･3･4前		2		○								兼1
			環境政策論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			情報化社会と人間	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ダイバーシティ論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			障害学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ジェンダー論	1･2･3･4前		2		○								兼1
			社会貢献活動入門	1･2･3･4後		2		○				1				
			地域マネジメント	1･2･3･4後		2		○				1				
			公務員論	1･2･3･4前･後		2		○								兼1
			食と健康	1･2･3･4後		2		○								兼1
			基礎会計学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（12科目）	－	0	24	0	－			0	1	0	0	0	兼10
		情報	情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	2				○							兼5
			情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後		2			○							兼4
			プログラミング基礎Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼1
			プログラミング基礎Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼1
			小計（4科目）	－	2	6	0	－			0	0	0	0	0	兼9
	健康・スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4後		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4後		1				○						兼3
			スポーツ健康科学講義Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			スポーツ健康科学講義Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼7
	総合・学際		全学総合Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｄ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｅ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｆ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｇ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｈ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｉ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｊ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｋ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｌ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｍ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ａ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			総合Ｄ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			総合Ｅ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ｆ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（19科目）	－	0	38	0	－			0	0	0	0	0	兼12

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目		必修科目	社会福祉学入門	1前	2			○				1					
			社会福祉学基礎演習Ⅰ	1前	2				○		10	10	1	1			
			社会福祉学基礎演習Ⅱ	1後	2				○		10	10	1	1			
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前	2			○			1						
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後	2			○				1					
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前	2			○			1						
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後	2			○								兼1	
			社会福祉学専門演習Ⅰ	3前	2				○		10	11	1				
			社会福祉学専門演習Ⅱ	3後	2				○		10	11	1				
			社会福祉学専門演習Ⅲ	4前	2				○		10	11	1				
			社会福祉学専門演習Ⅳ	4後	2				○		10	11	1				
			小計（11科目）	－	22	0	0	－			10	11	1	1	0	兼1	
		選択科目	社会福祉学総合演習Ⅰ	2前		2			○		10	9	1	1			
			社会福祉学総合演習Ⅱ	2後		2			○		10	9	1	1			
			ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前		2			○		10	8	1			兼6	
			ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2後		2			○		10	8	1			兼6	
			社会福祉調査の応用	1後		2		○			1						
			統計情報処理および実習	1後		2			○							兼1	
			アドミニストレーション論	1前		2		○								兼1	
			欧米の社会福祉史	1前		2		○			1						
			社会開発論	1後		2		○				1		1			
			医学概論	1前		2		○								兼1	
			現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	1前		2		○			1						
			現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	1後		2		○			1						
			高齢者福祉	1前		2		○				1					
			児童・家庭福祉	1後		2		○				1					
			社会福祉調査の基礎	1前		2		○			1						
			社会福祉発達史	1前		2		○			1						
			障害者福祉	1前		2		○								兼1	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1後		2		○				1					
			ケアワーク論	2前		2		○				1					
			精神医学と精神医療Ⅰ	2前		2		○			1						
			精神医学と精神医療Ⅱ	2後		2		○			1						
			精神保健福祉の原理Ⅰ	2前		2		○			1						
			精神保健福祉の原理Ⅱ	2後		2		○			1						
			保健医療と福祉	2前		2		○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前		2		○				1					
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	2後		2		○			1	1					
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）（精神）	2前		2		○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（精神）	2後		2		○			1						
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2前		1			○		6	6	1			兼5	共同
			ソーシャルワーク実習Ⅰ	2後		2				○	6	6	1			兼7	共同
			刑事司法と福祉	2･3前		2		○				1					
			権利擁護を支える法制度	2･3前		2		○								兼1	
			社会保障Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
			社会保障Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
			地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2･3前		2		○			1						
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2･3後		2		○			1						
			貧困に対する支援	2･3前		2		○					1				
			福祉サービスの組織と経営	2･3後		2		○				1					
			質的調査法	2･3･4前		2		○			1						
			社会統計解析法	2･3･4後		2		○								兼1	
			社会統計学	2･3･4前		2		○								兼1	
			ＳＤＧｓ入門	2･3･4前		2		○				1					
			ケアマネジメント論	2･3･4後		2		○				1					
			現代社会とメンタルヘルス	2･3･4前		2		○			2	1					オムニバス

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学科専門科目	選択科目	国際福祉開発交流	2･3･4後		2		○				1					
			災害と福祉	2･3･4後		2		○				1					
			ジェンダーと福祉	2･3･4前		2		○								兼1	
			スクールソーシャルワーク論	2･3･4前		2		○								兼1	
			ソーシャルアクション論	2･3･4後		2		○				1					
			人間の幸福とペット	2･3･4後		2		○				1					
			バリアフリー論	2･3･4後		2		○								兼1	
			福祉ＩＣＴ	2･3･4前		2		○			1						
			居住福祉論	2･3･4後		3		○			1						
			国際社会福祉論Ａ	2･3･4前		2		○				1					
			国際社会福祉論Ｂ	2･3･4後		2		○				1					
			社会調査および実習Ⅰ	2･3･4前		2			○			3	1			兼1	
			社会調査および実習Ⅱ	2･3･4後		2			○			3	1			兼1	
			社会福祉国際体験演習Ａ	2･3･4前		2			○			1					
			社会福祉国際体験演習Ｂ	2･3･4後		2			○			1					
			精神障害リハビリテーション論	3前		2		○								兼1	
			精神保健福祉制度論	3前		2		○								兼1	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	3後		2		○			1	1					
			ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	3前		2			○		10	8	1			兼6	
			ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	3後		2			○		10	8	1			兼6	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		1			○		6	6	1			兼5	共同
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		1			○		6	6	1			兼5	共同
			ソーシャルワーク実習Ⅱ	3後		4				○	6	6	1			兼7	共同
			ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神）	3前		2			○		1					兼1	共同
			ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）（精神）	3後		2			○			1				兼1	共同
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神）	3後		1			○		1					兼1	共同
			価値と倫理に基づく実践史	3･4後		2		○								兼1	
			現代的福祉課題Ａ	3･4前		2		○								兼1	
			現代的福祉課題Ｂ	3･4後		2		○								兼1	
			社会福祉の権利	3･4前		2		○				1					
			制度・政策・施設史	3･4後		2		○								兼1	
			医療ソーシャルワーク論	3･4前		2		○								兼1	
			医療福祉演習Ⅰ	3･4前		2			○		1						共同
			医療福祉演習Ⅱ	3･4後		2			○		1						共同
			実習指導の理論と方法	3･4前		2		○			2	2				兼2	共同
			地域医療福祉専門実習Ⅰ	4前		2				○	2	1					
			地域医療福祉専門実習Ⅱ	4後		2				○	2	1					
			ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	4前		2			○		10	8	1			兼6	
			ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神）	4後		2			○		1					兼1	共同
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神）	4前		1			○			1				兼1	共同
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	4後		1			○		1					兼1	共同
			ソーシャルワーク実習（精神）	4前		4				○	3	2				兼1	共同
			卒業論文	4後		4			○		10	10	1				
			介護過程Ⅰ	1後		1			○			1				兼2	共同
			介護総合演習Ⅰ	1後		1			○			1				兼2	共同
			介護福祉援助概論Ⅰ	1後		2		○			1						
			介護福祉実習Ⅰ	1後		2				○	2	2				兼2	共同
			生活支援技術Ⅰ	1後		1			○		1					兼1	共同
			認知症の理解Ⅰ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			認知症の理解Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			発達と老化の理解	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			こころとからだのしくみⅠ	1･2･3･4前		2		○								兼1	
			こころとからだのしくみⅡ	1･2･3･4前		2		○			1						
			こころとからだのしくみⅢ	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			介護コミュニケーション技術Ⅰ	2前		2		○				1					
			介護過程Ⅱ	2後		1			○		1					兼2	共同

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学科専門科目	選択科目	介護総合演習Ⅱ	2前		1			○		1					兼2	共同
			介護総合演習Ⅲ	2後		1			○		1					兼2	共同
			介護福祉援助概論Ⅱ	2後		2		○			1						
			介護福祉実習Ⅱ	2後		3				○	2	2				兼2	共同
			生活支援技術Ⅱ	2前		1			○		1						
			生活支援技術Ⅲ	2前		1			○							兼1	
			生活支援技術Ⅳ	2前		1			○		1						
			生活支援技術Ⅴ	2前		1			○		1					兼1	共同
			医療的ケアⅠ	3前		2		○			1					兼3	共同
			医療的ケアⅡ	3後		2		○			1					兼3	共同
			介護コミュニケーション技術Ⅱ	3前		2		○								兼1	
			介護過程Ⅲ	3前		1			○		1					兼2	共同
			介護総合演習Ⅳ	3後		1			○			1				兼2	共同
			介護福祉実習Ⅲ	3前		3				○	2	2				兼2	共同
			生活支援技術Ⅵ	3前		1			○		1						
			生活支援技術Ⅶ	3後		1			○			1					
			生活支援技術Ⅷ	3後		1			○							兼1	
			生活支援技術Ⅹ	3後		1			○							兼1	
			介護教育方法	3･4前		2		○			2	2					共同
			生活支援のための運動学とリハビリテーション	3･4前		2		○			1						
			介護過程の応用	4後		1			○			1				兼2	共同
			医療的ケアⅢ	4前		2		○			1					兼3	共同
			介護過程Ⅳ	4前		1			○			1				兼2	共同
			介護福祉実習Ⅳ	4前		2				○	2	2				兼2	共同
			生活支援技術Ⅸ	4前		1			○			1					
			小計（125科目）	－	0	234	0	－			10	11	1	1	0	兼33	
合計（289科目）				－	38	474	0	－			10	11	1	1	0	兼139	

学位又は称号	学士（社会福祉学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1）卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。 2）基盤教育科目で、哲学・思想科目2単位以上、国際人の形成の語学の外国語科目必修8単位、キャリア・市民形成の情報科目4単位以上を含み、18単位以上を修得すること。また、外国人留学生入試入学者は、上記の他に、国際人の形成の語学の留学生対象科目必修6単位を修得すること。 3）専門教育科目で、学科専門科目を70単位以上（うち必修科目22単位、選択必修科目4単位、選択科目44単位以上）修得すること。 （履修科目の登録の上限：半期24単位（年間48単位）） なお、基盤教育科目のキャリア・市民形成の情報科目の選択単位のうち、情報リテラシーⅡ、プログラミング基礎Ⅰから2単位を選択必修とし、学科専門科目の選択単位のうち、社会福祉学総合演習Ⅰ、社会福祉学総合演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）から4単位を選択必修とする。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	1･2･3･4前		2		○								兼2
			生命と倫理	1･2･3･4後		2		○								兼1
			宗教学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（3科目）	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学問の基礎	人文科学	日本文学	1･2･3･4前		2		○			1					
			外国文学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			歴史学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			美術一般	1･2･3･4前		2		○								兼1
			音楽一般	1･2･3･4後		2		○								兼1
			文化人類学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			1	0	0	0	0	兼4
		社会科学	経済学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			経営学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			政治学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地理学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			社会学	1･2･3･4前		2		○								兼2
			心理学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			統計学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（8科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼9
		自然科学	数学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			物理学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			現代化学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			生物学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3
	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地域文化研究Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			地域文化研究Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地域文化研究Ｄ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			地域文化研究Ｅ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（5科目）	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	兼5
		グローバル社会の実際	英語および英語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			中国語および中国語圏社会事情	1･2･3･4前･後		2		○								兼1
			フランス語およびフランス語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			韓国語および韓国語圏社会事情	1･2･3･4後		2		○								兼1
			留学のすすめ	1･2･3･4前･後		2		○								兼2
			異文化理解概論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			海外研修Ⅰ	1･2･3･4後		2				○						兼1
			海外研修Ⅱ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			海外実習Ⅰ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			海外実習Ⅱ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			短期海外研修Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅱ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅳ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅱ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅳ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			小計（19科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼7
		語学	英語ⅠＡ	1前	1				○							兼18
			英語ⅠＢ	1後	1				○							兼18
			英語ⅡＡ	1前	1				○							兼13
			英語ⅡＢ	1後	1				○							兼13
			英語ⅢＡ	2前	1				○							兼18

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	国際人の形成	語学	英語ⅢＢ	2後	1				○							兼18
			英語ⅣＡ	2前	1				○							兼13
			英語ⅣＢ	2後	1				○							兼13
			Intercultural Communication Skills ⅠA	1･2･3･4前		1			○							兼1
			Intercultural Communication Skills ⅠB	1･2･3･4前		1			○							兼1
			Intercultural Communication Skills ⅡA	1･2･3･4後		1			○							兼1
			Intercultural Communication Skills ⅡB	1･2･3･4後		1			○							兼1
			English Test PreparationⅠ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			English Test PreparationⅡ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			中国語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			中国語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			フランス語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			フランス語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			韓国語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			韓国語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			Business English Communication	1･2･3･4前		2			○							兼1
			アカデミックライティング	1･2･3･4前		2		○								兼1
			テクニカルライティング	1･2･3･4前		2		○								兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking	1･2･3･4前		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅱ Listening/Speaking	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing	1･2･3･4後		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅱ Reading/Writing	1･2･3･4前･後		2			○							兼3
			Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Pre-Study Abroad: Writing	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			小計（31科目）	－	8	30	0	－			0	0	0	0	0	兼36
		語学（留学生対象科目、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目）	日本語Ⅰ	1･2･3･4前	1				○							兼1
			日本語Ⅱ	1･2･3･4後	1				○							兼1
			日本事情Ⅰ	1･2･3･4前	2			○								兼1
			日本事情Ⅱ	1･2･3･4後	2			○								兼1
			Integrated Japanese Ⅰ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼2
			Integrated Japanese Ⅰ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅱ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅱ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼3
			Integrated Japanese Ⅲ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼2
			Integrated Japanese Ⅲ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Japanese Reading Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Reading Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Reading Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Listening Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Listening Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Listening Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Project Work Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Project Work Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			Project Work Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Culture and Society A	1･2･3･4後		2		○								兼1
			Japanese Culture and Society B	1･2･3･4前		2		○								兼1
			Introduction to Japanology A	1･2･3･4後		2		○								兼1
			Introduction to Japanology B	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（26科目）	－	6	32	0	－			0	0	0	0	0	兼10

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン入門	1前		2		○								兼1
			コミュニケーション＆マナー	1後		2		○								兼1
			キャリアデザイン実践	2後		2		○								兼1
			キャリアデベロップメント	3･4後		2		○								兼1
			インターンシップ入門	3･4前		2		○								兼1
			アントレプレナーシップ	3･4後		2		○								兼1
			口頭表現法	1･2･3･4前		2		○			1					
			プレゼンテーション技法	1･2･3･4前		2		○								兼1
			文章読解	1･2･3･4後		2		○			1					
			レポート・論文のまとめ方	1･2･3･4後		2		○			1					
			小計（10科目）	－	0	20	0	－			1	0	0	0	0	兼4
		市民形成	日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼1
			グローバル市民論	1･2･3･4前		2		○								兼1
			環境政策論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			情報化社会と人間	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ダイバーシティ論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			障害学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ジェンダー論	1･2･3･4前		2		○								兼1
			社会貢献活動入門	1･2･3･4後		2		○								兼1
			地域マネジメント	1･2･3･4後		2		○								兼1
			公務員論	1･2･3･4前･後		2		○								兼1
			食と健康	1･2･3･4後		2		○								兼1
			基礎会計学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（12科目）	－	0	24	0	－			0	0	0	0	0	兼11
		情報	情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	2				○							兼5
			情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後		2			○							兼4
			プログラミング基礎Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼1
			プログラミング基礎Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼1
			小計（4科目）	－	2	6	0	－			0	0	0	0	0	兼9
	健康・スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4後		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4後		1				○						兼3
			スポーツ健康科学講義Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			スポーツ健康科学講義Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼7
	総合・学際		全学総合Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｄ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｅ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｆ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｇ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｈ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｉ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｊ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｋ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｌ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｍ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ａ	1･2･3･4後		2		○			1					
			総合Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			総合Ｄ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			総合Ｅ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ｆ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（19科目）	－	0	38	0	－			1	0	0	0	0	兼11

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学概論	1前	2			○			7	3	1				共同
			子ども支援学演習Ⅰ	1後	1				○		7	3	1				
			教育基礎論	1前	2			○				1					
			教育制度論	1後	2			○				1					
			幼児教育論	1前	2			○				1					
			発達心理学	1後	2			○			1						
			子ども支援学演習ⅡＡ	2前	1				○		7	3	1				
			子ども支援学演習ⅡＢ	2後	1				○		7	3	1				
			多文化共生保育・教育	3後	1			○			1					兼1	共同
			子ども支援学演習ⅢＡ	3前	1				○		7	3	1				
			子ども支援学演習ⅢＢ	3前	1				○		7	3	1				
			子ども支援学演習ⅣＡ	4前	1				○		7	3	1				
			子ども支援学演習ⅣＢ	4後	1				○		7	3	1				
			小計（13科目）	－	18	0	0	－			7	3	1	0	0	兼1	
		選択科目	子どもソーシャルワーク	3後		2		○			1						
			ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	3後		2			○		1						
			卒業論文	4後		4			○		7	3	1				
			卒業制作	4後		2			○		7	3	1				
			保育原理	1前		2		○			1						
			児童・家庭福祉	1後		2		○			1						
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			保育者論	2後		2		○			1						
			社会的養護	1前		2		○			1						
			子ども家庭支援論	4後		2		○			1						
			子どもと健康	1前		1			○		1						
			子どもと人間関係	1後		1			○			1					
			子どもと環境	2後		1			○		1						
			子どもと言葉	1前		1			○							兼1	
			子どもと表現Ⅰ	1後		1			○			1				兼2	共同
			子どもと表現Ⅱ	1後		1			○							兼1	
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1後		2		○								兼1	
			医学概論	1前		2		○								兼1	
			社会福祉発達史	1前		2		○								兼1	
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			子どもの権利と教育	1･2･3･4前		2		○				1					
			子育て支援実践	1･2･3･4前		1			○				1			兼1	共同
			子どもと文学	1･2･3･4前		2		○			1						
			海外保育フィールドワーク	1･2･3･4前		2			○		7	3	1				
			教育と福祉	1･2･3･4後		2		○				1					
			生活と総合学習	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			多文化共生保育・教育実践	1･2･3･4後		1			○		1					兼1	共同
			国語表現法	1･2･3･4前		2		○			1						
			国際児童福祉	1･2･3･4前		2		○			1						
			ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前		2			○							兼2	
			子どもの保健	2前		2		○								兼1	
			子どもの健康と安全	3前		1			○		1						
			子どもの理解と援助	3前		1			○			1					
			子どもの食と栄養（実習含む）	1後		2			○							兼1	
			社会的養護内容	2前		1			○		1						
			乳児保育Ⅰ	2後		2		○								兼1	
			乳児保育Ⅱ	4前		1			○		1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学科専門科目	選択科目	保育実習ＩＡ（施設）	2後		2				○	6	3	1			兼5	共同
			保育実習指導ＩＡ（施設）	2後		1			○		2	1				兼3	共同
			教育心理学	2前		1		○			1						
			子ども家庭支援の心理学	3前		2		○			1						
			保育内容の指導法（言葉）	2前		1			○				1				
			保育内容の指導法（健康）	2後		1			○		1						
			保育内容の指導法（人間関係）	2後		1			○							兼1	
			保育内容の指導法（環境）	3前		1			○							兼1	
			保育内容の指導法（音楽表現）	3前		1			○			1					
			保育内容の指導法（造形表現）	2後		1			○							兼1	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前		2		○								兼1	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	2後		2		○								兼2	
			社会福祉調査の基礎	1前		2		○								兼1	
			ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2後		2			○							兼1	
			保健医療と福祉	2前		2		○								兼1	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2前		1			○		1					兼1	
			高齢者福祉	1前		2		○								兼1	
			障害者福祉	1前		2		○								兼1	
			権利擁護を支える法制度	2･3前		2		○								兼1	
			貧困に対する支援	2･3前		2		○								兼1	
			刑事司法と福祉	2･3前		2		○								兼1	
			地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
			福祉サービスの組織と経営	2･3後		2		○								兼1	
			社会保障Ⅰ	2･3前		2		○								兼1	
			社会保障Ⅱ	2･3後		2		○								兼1	
			特別支援教育・保育Ⅰ	1前		1			○		1						
			特別支援教育・保育Ⅱ	2前		1			○							兼1	
			保育実習ＩＢ（保育所）	3前		2				○	6	3	1			兼6	共同
			保育実習指導ＩＢ（保育所）	3前		1			○		3					兼2	共同
			保育・教育相談	3後		2		○								兼1	
			幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	3前		2		○								兼1	
			保育指導法	3前		2		○					1				
			保育カリキュラム論	2後		2		○					1				
			保育内容総論	1前		1			○		1						
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	3後		2		○								兼2	
			ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	3前		2			○		1						
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		1			○		1					兼1	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		1			○		1					兼1	共同
			ソーシャルワーク実習Ⅰ	2前		2				○	2					兼1	共同
			ソーシャルワーク実習Ⅱ	3前		4				○	2					兼1	共同
			子育て支援	4前		1			○							兼3	
			保育実習指導Ⅱ（保育所）	4前		1			○		3					兼1	共同
			保育実習指導Ⅲ（施設）	4前		1			○		2					兼1	共同
			保育実習Ⅱ（保育所）	4前		2				○	6	3	1			兼5	共同
			保育実習Ⅲ（施設）	4前		2				○	6	3	1			兼2	共同
			教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）	3後		5				○		1	1			兼1	共同
			保育・教職実践演習	4後		2			○			1	1				
			音楽表現専門演習	2･3･4後		2			○			1					
			発達心理学専門演習	2･3･4後		2			○		1						
			保育音楽表現技術Ⅰ	2･3･4前		2			○			1				兼2	共同
			保育音楽表現技術Ⅱ	2･3･4前		2			○			1					

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学科専門科目	選択科目	音楽あそびの実践	2･3･4後		2		○			1				
			体育あそびの実践	2･3･4後		2		○		1					
			造形あそびの実践	2･3･4前		2		○						兼1	
			ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	4前		2		○		1					
			小計（95科目）	－	0	167	0	－		7	3	1	0	0	兼40	
合計（261科目）				－	34	407	0	－		7	3	1	0	0	兼147	

学位又は称号	学位又は学科の分野	
学士（子ども支援学）	教育学・保育学関係、社会学・社会福祉学関係	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1）卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。 2）基盤教育科目で、哲学・思想科目2単位以上、国際人の形成の語学の外国語科目必修8単位、キャリア・市民形成のキャリア科目2単位以上、市民形成科目2単位以上、情報科目2単位以上の合計6単位以上を含み、18単位以上を修得すること。また、外国人留学生入試入学者は、上記の他に、国際人の形成の語学の留学生対象科目必修6単位を修得すること。 3）専門教育科目で、学科専門科目を69単位以上（うち必修科目18単位、選択必修科目4単位もしくは6単位、選択科目47単位以上）修得すること。 （履修科目の登録の上限：半期24単位（年間48単位）） なお、学科専門科目の選択単位のうち、子どもソーシャルワークとソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）から2単位、卒業論文、卒業制作から4単位もしくは2単位を選択必修とする。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	1･2･3･4前		2		○								兼2
			生命と倫理	1･2･3･4後		2		○								兼1
			宗教学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（3科目）	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	兼2
	学問の基礎	人文科学	日本文学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			外国文学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			歴史学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			美術一般	1･2･3･4前		2		○								兼1
			音楽一般	1･2･3･4後		2		○								兼1
			文化人類学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼5
		社会科学	経済学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			経営学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			法学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			政治学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地理学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			社会学	1･2･3･4前		2		○								兼2
			心理学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			統計学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（8科目）	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	兼9
		自然科学	数学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			物理学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			現代化学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			生物学	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3
	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地域文化研究Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			地域文化研究Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			地域文化研究Ｄ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			地域文化研究Ｅ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（5科目）	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	兼5
		グローバル社会の実際	英語および英語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			中国語および中国語圏社会事情	1･2･3･4前･後		2		○								兼1
			フランス語およびフランス語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	1･2･3･4前		2		○								兼1
			韓国語および韓国語圏社会事情	1･2･3･4後		2		○								兼1
			留学のすすめ	1･2･3･4前･後		2		○								兼2
			異文化理解概論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			海外研修Ⅰ	1･2･3･4後		2				○						兼1
			海外研修Ⅱ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			海外実習Ⅰ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			海外実習Ⅱ	1･2･3･4前		2				○						兼1
			短期海外研修Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅱ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外研修Ⅳ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅱ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			短期海外実習Ⅳ	1･2･3･4前		1				○						兼1
			小計（19科目）	－	0	30	0	－			0	0	0	0	0	兼7
		語学	英語ⅠＡ	1前	1				○							兼18
			英語ⅠＢ	1後	1				○							兼18
			英語ⅡＡ	1前	1				○							兼13
			英語ⅡＢ	1後	1				○							兼13
			英語ⅢＡ	2前	1				○							兼18

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
基盤教育科目	国際人の形成	語学	英語ⅢＢ	2後	1				○							兼18
			英語ⅣＡ	2前	1				○							兼13
			英語ⅣＢ	2後	1				○							兼13
			Intercultural Communication Skills ⅠA	1･2･3･4前		1			○							兼1
			Intercultural Communication Skills ⅠB	1･2･3･4前		1			○							兼1
			Intercultural Communication Skills ⅡA	1･2･3･4後		1			○							兼1
			Intercultural Communication Skills ⅡB	1･2･3･4後		1			○							兼1
			English Test PreparationⅠ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			English Test PreparationⅡ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			中国語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			中国語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			フランス語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			フランス語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			ドイツ語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			韓国語Ⅰ	1･2･3･4前		1			○							兼1
			韓国語Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			Business English Communication	1･2･3･4前		2			○							兼1
			アカデミックライティング	1･2･3･4前		2		○								兼1
			テクニカルライティング	1･2･3･4前		2		○								兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking	1･2･3･4前		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅱ Listening/Speaking	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing	1･2･3･4後		2			○							兼1
			IELTS for Study Abroad Ⅱ Reading/Writing	1･2･3･4前･後		2			○							兼3
			Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Pre-Study Abroad: Writing	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			小計（31科目）	－	8	30	0	－			0	0	0	0	0	兼36
		語学（留学生対象科目、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目）	日本語Ⅰ	1･2･3･4前	1				○							兼1
			日本語Ⅱ	1･2･3･4後	1				○							兼1
			日本事情Ⅰ	1･2･3･4前	2			○								兼1
			日本事情Ⅱ	1･2･3･4後	2			○								兼1
			Integrated Japanese Ⅰ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼2
			Integrated Japanese Ⅰ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅱ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Integrated Japanese Ⅱ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼3
			Integrated Japanese Ⅲ Theory	1･2･3･4前･後		2			○							兼2
			Integrated Japanese Ⅲ Practice	1･2･3･4前･後		2			○							兼1
			Japanese Reading Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Reading Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Reading Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Listening Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Listening Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Listening Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅱ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Japanese Writing Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Project Work Ⅰ	1･2･3･4前･後		1			○							兼1
			Project Work Ⅱ	1･2･3･4後		1			○							兼1
			Project Work Ⅲ	1･2･3･4前･後		1			○							兼2
			Japanese Culture and Society A	1･2･3･4後		2		○								兼1
			Japanese Culture and Society B	1･2･3･4前		2		○								兼1
			Introduction to Japanology A	1･2･3･4後		2		○								兼1
			Introduction to Japanology B	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（26科目）	－	6	32	0	－			0	0	0	0	0	兼10

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン入門	1前		2		○								兼1
			コミュニケーション＆マナー	1後		2		○								兼1
			キャリアデザイン実践	2後		2		○								兼1
			キャリアデベロップメント	3･4後		2		○								兼1
			インターンシップ入門	3･4前		2		○								兼1
			アントレプレナーシップ	3･4後		2		○								兼1
			口頭表現法	1･2･3･4前		2		○								兼1
			プレゼンテーション技法	1･2･3･4前		2		○								兼1
			文章読解	1･2･3･4後		2		○								兼1
			レポート・論文のまとめ方	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（10科目）	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	兼5
		市民形成	日本国憲法	1･2･3･4後		2		○								兼1
			グローバル市民論	1･2･3･4前		2		○								兼1
			環境政策論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			情報化社会と人間	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ダイバーシティ論	1･2･3･4後		2		○								兼1
			障害学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			ジェンダー論	1･2･3･4前		2		○								兼1
			社会貢献活動入門	1･2･3･4後		2		○								兼1
			地域マネジメント	1･2･3･4後		2		○								兼1
			公務員論	1･2･3･4前･後		2		○								兼1
			食と健康	1･2･3･4後		2		○								兼1
			基礎会計学	1･2･3･4前		2		○								兼1
			小計（12科目）	－	0	24	0	－			0	0	0	0	0	兼11
		情報	情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	2				○							兼5
			情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	2				○							兼4
			プログラミング基礎Ⅰ	1･2･3･4前		2			○							兼1
			プログラミング基礎Ⅱ	1･2･3･4後		2			○							兼1
			小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	兼9
	健康・スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅰ	1･2･3･4前		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4後		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅲ	1･2･3･4前		1				○						兼3
			スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4後		1				○						兼3
			スポーツ健康科学講義Ⅰ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			スポーツ健康科学講義Ⅱ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（6科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼7
	総合・学際		全学総合Ａ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｄ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｅ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｆ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｇ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｈ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｉ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｊ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			全学総合Ｋ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｌ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			全学総合Ｍ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ａ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ｂ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ｃ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			総合Ｄ	1･2･3･4前		2		○								兼1
			総合Ｅ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			総合Ｆ	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（19科目）	－	0	38	0	－			0	0	0	0	0	兼12

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学科専門科目	必修科目	人間環境デザイン学概論	1前	2			○			8	5					共同
			ユニバーサルデザイン概論	1前	2			○			1						
			人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	1前	3				○		2	1				兼6	共同
			人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1後	3				○		2	1				兼5	共同
			人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2前	3				○		2	2				兼5	共同
			人間環境デザイン総合演習	2後	3				○		2	1				兼5	共同
			卒業研究	4後	2				○		8	5					
			ＣＡＤ演習Ⅰ	1後	2				○		2					兼9	共同
			小計（8科目）	－	20	0	0	－			8	5	0	0	0	兼28	
		選択科目	空間デザイン演習ⅠＡ	3前		3			○		1	1				兼2	共同
			空間デザイン演習ⅠＢ	3後		3			○			2				兼2	共同
			空間デザイン演習ⅡＡ	4前		2			○		1	3					
			空間デザイン演習ⅡＢ	4後		2			○		1	3					
			生活環境デザイン演習ⅠＡ	3前		3			○		2					兼1	共同
			生活環境デザイン演習ⅠＢ	3後		3			○		3					兼2	共同
			生活環境デザイン演習ⅡＡ	4前		2			○		4						
			生活環境デザイン演習ⅡＢ	4後		2			○		4						
			プロダクトデザイン演習ⅠＡ	3前		3			○		1	1					共同
			プロダクトデザイン演習ⅠＢ	3後		3			○		1	1				兼2	共同
			プロダクトデザイン演習ⅡＡ	4前		2			○		3	2					
			プロダクトデザイン演習ⅡＢ	4後		2			○		3	2					
			製品と情報のＵＤ	1後		2		○			1						
			人間工学	2後		2		○			1						
			建築歴史意匠Ａ	1前		2		○				1					
			プロダクトデザイン基礎	1前		2		○			1						
			発達と障害	1後		2		○								兼1	
			生活支援デザイン概論	1前		2		○			1						
			材料・素材一般	1後		2		○				1				兼1	オムニバス
			建築生産	1後		2		○				1					
			色彩論	1後		2		○								兼1	
			マーケティング	2後		2		○								兼1	
			ＣＡＤ演習Ⅱ	2前		2			○		1	1				兼9	共同
			住居計画	2前		2		○			1						
			建築・都市法規	2前		2		○								兼1	
			建築歴史意匠Ｂ	2前		2		○								兼1	
			生活空間計画	2後		2		○				1					
			コンピュータ・グラフィックス	2前		2		○			1						
			産業とプロダクトデザイン	3後		2		○			1						
			福祉デザイン工学概論	2前		2		○			1						
			構造力学	2後		2		○				1					
			都市・まちのデザイン	1後		2		○				1					
			道具の歴史	1後		2		○			1						
			デザイン工学基礎	2前		2		○			1						
			デザイン工学応用	2後		2		○								兼1	
			ヒューマンインターフェース	2後		2		○								兼1	
			インテリアデザイン	2前		2		○			1					兼3	オムニバス
			環境計画	2後		2		○								兼1	
			デザイン思考法	2前		2		○				1					
			まちづくり	2後		2		○								兼1	
			認知科学	3･4後		2		○								兼1	
			ランドスケープデザイン	3･4後		2		○								兼1	
			デザイン特別講義	3･4前		2		○			1					兼5	オムニバス
			安全工学	3･4前		2		○								兼1	
			調査分析のデザイン	3･4前		2		○				1					

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学科専門科目	選択科目	建築とまちのUD	3･4後		2		○			1						
			情報メディアデザイン	3･4前		2		○			1					兼1	オムニバス
			インターンシップＡ	3･4後		2				○	8	5					
			インターンシップＢ	3･4前		2				○	8	5					
			インターンシップＣ	3･4後		2				○	8	5					
			インターンシップＤ	3･4前		2				○	8	5					
			建築空間構成論	3･4後		2		○			1						
			建築設計論	3･4前		2		○				1					
			設備計画	3･4後		2		○								兼1	
			材料力学	3･4前		2		○								兼1	
			構法計画	3･4前		2		○				1					
			構法計画演習	3･4前		1			○			1					
			都市計画論	3･4前		2		○				1					
			福祉デザイン工学各論	3･4後		2		○			1						
			リハビリテーション工学	3･4前		2		○								兼1	
			医療福祉建築計画	3･4後		2		○			1						
			支援技術とデザイン	3･4後		2		○			1						
			福祉住環境コーディネート論	3･4後		2		○			1						
			環境デザイン論	2前		2		○			1						
			情報デザインⅠ	2前		2		○				1					
			情報デザインⅡ	3･4後		2		○				1					
			プロダクトデザインⅠ	3･4前		2		○			1						
			プロダクトデザインⅡ	3･4後		2		○				1					
			グラフィックデザイン論	3･4前		2		○								兼1	
			メカトロニクス・デザイン	3･4後		2		○			1						
			表現手法	3･4前		2		○								兼1	
			International Design Practices	1･2･3･4後		2		○								兼1	
			環境設計演習	4前		2			○		1						
			職業指導Ⅰ	3･4前		2		○								兼1	
			職業指導Ⅱ	3･4後		2		○								兼1	
			小計（75科目）	－	0	155	0	－			8	5	0	0	0	兼44	
教職科目			工芸科指導法Ⅰ	3前			2	○								兼1	
			工芸科指導法Ⅱ	3後			2	○								兼1	
			工業科指導法Ⅰ	3前			2	○								兼1	
			工業科指導法Ⅱ	3後			2	○								兼1	
			教育基礎論	1前			2	○								兼1	
			教職概論	1前			2	○								兼1	
			教育制度論	1後			2	○								兼1	
			教育心理学	1前			2	○								兼1	
			特別支援教育基礎論	1後			2	○								兼1	
			教育課程総論	1後			2	○								兼1	
			道徳教育論	3前			2	○								兼1	
			特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1後			2	○								兼1	
			教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	2後			2	○								兼1	
			生徒指導論（進路指導論を含む）	2後			2	○								兼1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
教職科目	教育相談	2後			2	○								兼1	
	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4前			3			○						兼3	共同
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○							兼3	共同
	小計（17科目）	－	0	0	35	－			0	0	0	0	0	兼11	
合計（253科目）		－	38	393	35	－			8	5	0	0	0	兼186	

学位又は称号	学位又は学科の分野	家政関係、社会学・社会福祉学関係
学士（人間環境デザイン学）		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1）卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。 2）基盤教育科目で、哲学・思想科目2単位以上、国際人の形成の語学の外国語科目必修8単位、キャリア・市民形成のキャリア科目2単位以上、市民形成科目2単位以上、情報科目4単位以上の合計8単位以上を含み、18単位以上を修得すること。また、外国人留学生入試入学者は、上記の他に、国際人の形成の語学の留学生対象科目必修6単位を修得すること。 3）専門教育科目で、学科専門科目を73単位以上（うち必修科目20単位、コース別必修科目10単位、選択科目43単位以上）修得すること。 （履修科目の登録の上限：半期24単位（年間48単位）） なお、コース別必修科目は空間デザインコースは空間デザイン演習ＩＡ、空間デザイン演習ＩＢ、空間デザイン演習ⅡＡ、空間デザイン演習ⅡＢから、生活環境デザインコースは生活環境デザイン演習ＩＡ、生活環境デザイン演習ＩＢ、生活環境デザイン演習ⅡＡ、生活環境デザイン演習ⅡＢから、プロダクトデザインコースはプロダクトデザイン演習ＩＡ、プロダクトデザイン演習ＩＢ、プロダクトデザイン演習ⅡＡ、プロダクトデザイン演習ⅡＢから4科目10単位を選択必修とする。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	哲学・思想		哲学	普段当たり前と見過ごしていることを問い直す、これが哲学の出発点である。映像作品の一場面から「問い」を設定し、その「問い」に対する自分の考えをまとめあげることで、問いかけを深め、考え方の幅を広げる。また、哲学という営みの背後にある人間の文化を理解し、それを探求していく。これらを通して、柔軟な感性と思考力を開拓し、様々な学問的アプローチの可能性を見いだすための手がかりに繋げる。	
基盤教育	哲学・思想		生命と倫理	現代社会における生命をめぐる諸問題に目を向け、どこが問題なのか、当事者や医療従事者の立場、価値観等を整理し、様々な視点、論点の理解を目指す。倫理問題を考える上での基本的なルールについて触れた後、生命にまつわる具体的な事例を紹介していく。自分と身近な人々、社会と自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えるとともに、その過程において倫理とは何か、生命と倫理のあり方について検討する。	
基盤教育	哲学・思想		宗教学	キリスト教を一つの素材として取り上げ、宗教が人々の心にどのように向き合ってきたかを辿る。ひとつの宗教が生と死、善と悪、神の存在と不在についてどのような思想を展開したかを辿り、自分自身がどのように考えるかの視点を見つけ、自らの言葉で表現できるようになることを目指す。宗教という営みの背後にある人間の文化を理解し、現実社会における宗教のありよう、それを探求する様々な学問的アプローチの可能性を見いだす手がかりが得られるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	日本文学	宮沢賢治の代表作を読み解くことで、作者の考え方や人々の生活や生き方、時代や風土についても学び、「自分らしく生きる」ことや「本当の幸せとは何か」について考える。そして、大学生として相応しい思考力、豊かな感性を養い、人々の豊かな生活を支援できる人材となるための基盤を身につける。また、「読む・書く・話す」力、語彙力、豊かな表現力の習得も目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	外国文学	世界各地の小説や詩、演劇、評論等の文学作品について、文化や歴史といった側面から鑑賞・分析することを目的とする。様々な時代背景とテーマを持つ文学作品の中にあらわれている、人間や社会状況、地域性や価値観等を注意深く観察することで、国内外の社会における課題等への意識を高める。作品の内容や作家について理解を深めることで、自分自身の文化に対する考えについても、意見を整理して表現することができるよう意識を高める。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	歴史学	グローバル化が進んだ現代は言うまでもなく、古くは石器時代、縄文・弥生の時代から日本は海の向こうの外国と交流を持ち続けている。江戸時代の鎖国の時期であっても、外国との交流が途絶えたことはない。日本の近世・近代史を中心に学ぶ一方で、日本に少なからず影響を与えた外国の歴史も積極的に取り上げながら、日本が世界とどのように関係し、発展してきたかを学ぶ。あわせて、世界と日本の歴史的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	美術一般	ヨーロッパ近代美術の流れを辿り、新しい美の可能性を追求した人々の活動に触れる。美術は色や形という感覚的な素材によって成り立っており、素材の組み立てそのものには構造があり、論理がある。思想があり、物語がある。そこには作家の人生観や自然観や世界観までも表出されている。近代美術に様々な足跡を残した人々の作品をスライドで鑑賞し、色や形が語る言葉を読み解くことから始め、美術表現の可能性を無限大に感じとることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	音楽一般	ヨーロッパにおける音楽の豊かな流れの源には、様々な楽器を基にした各地の民族音楽があり、一方には、地域の違いを越えてキリスト教の信仰に仕えてきた教会音楽とがある。これらの伝統に培われて古典（クラシック）音楽が花開き、大衆（ポピュラー）音楽が歌い継がれ引き継がれてきた。ヨーロッパやアメリカの様々な音楽を聞き、それを生み出した人々と、それを取り巻く風景や街並み等をスライドやDVDで訪ね、音楽表現の可能性を無限大に感じるとともに、音楽という営みの背後にある人間文化の理解も目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	文化人類学	文化人類学は、様々な民族や文化圏の生活様式を対象に未開と文明を比較し、人類の文化の共通性、異質性、多様性を知る学問であり、私達が日常「当たり前」としているものに、新たな見方をもたらしてくれるものである。文化人類学の初学者のための学びと位置づけ、私達のものの見方を刷新した人類学者の経歴等からそれらを知ることを通して、その考えが生まれた背景を知り、その意義を考えることを目的とする。自らの見方を広げていけるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	社会科学	経済学	経済学は、日々の生活において様々な資源の制約における人間行動を分析する研究分野であり、個人の生活レベルから一国全体、更には国際経済に至るまで、様々なレベルで相互に影響を与えつつ営まれる。経済学の基本的な考え方、経済モデル、金融市場等、基礎的なマクロ経済理論を学ぶことによって、経済の仕組みや制度を理解し、現代の市場社会が抱える課題を考えるための手がかりや複雑な経済を自分で考える見取り図を得ることを目指す。その際、日本経済に大きな影響を与える国際経済についても触れることで、日本経済が世界経済とどのように関係しているかを学ぶ。あわせて、世界と日本の経済的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	経営学	経営学の基礎的な概念や理論を理解し、現実の経済や経営に対する関心と問題意識を育てることを目的とする。多くの経営理論は、経営という現象のある断面図を示したもので、見る位置により時代の背景や理論の前提がある。それらを客観的に評価し適切に位置づけることで、よりダイナミックな経営学の構図を掴むことができるようになる。これらを念頭においた上で学びを進め、経営学の基本的用語から企業のあり方、マネジメントやマーケティングの知識と考え方を身につけるとともに、経営学を通して現代社会が直面する様々な問題を理解する知性を培うことを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	法学	日常生活を送る上で最低限知っておくべき法学の基礎知識を習得することを目的とする。我々の生活の中で遭遇する多くの事柄は法律と密接な関係を有するものであり、法律の知識が役立つことが多いのも事実である。そこで、日常生活における様々な法律問題に焦点を当て法の仕組みを学んでいく。裁判制度や三権分立制、基本的人権、犯罪と刑罰に関する、基本的な知識を習得するとともに、民法や現代の様々な社会問題とそれに関する法、社会問題と法の関わり方についての総合的な理解を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	政治学	私達の生活・権利・生命を大きく左右し得る政治のあり方について学ぶことを目的とする。日本を軸に民主政治の基本的な仕組みを学びつつ、民主主義の課題や可能性について、様々な政策を取り上げながら理解していく。また、国際比較の観点から、国ごとに異なる国家統治の仕組みや制度についても触れ、世界からみる日本の政治や政策のあり方を理解する。これらの政治学的な視点を応用し、日本の少子高齢化問題や介護福祉問題等の目の前の問題から世界の平和を危うくする紛争・難民問題といった政治現象の背景についても視野を広げ考えることができるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	地理学	現代世界の地域的特徴を理解し、人々の生活との関係を明らかにしていくことを目的とする。日本の地理的特徴、都市構造と生活空間との関わり、地域的課題等について、具体的な事例を交えながら紹介していく。また、日本国内に留まらず海外にも目を向け、各国と日本の地理的構造の違いやそれによって生まれる影響についても学ぶ。国際的観点からみた日本の地域的特徴を理解していくことで日本への理解や関心を深めるとともに、世界各国への関心も高めることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	社会学	社会学的発想、現代社会で起きている事象、社会学における現代社会の捉え方の3点を軸にして、社会学に固有の発想と視点を学ぶ。社会学の視点を通すことで、眼前の様々な事象がどのように違って見え、何が浮かび上がってくるか、歴史的な文脈も踏まえつつ、幅広い具体例を取り上げ、現代社会の基礎的問題を理解し、問題について自ら考え対応していける力を養う。また、様々な文化や価値観を背景に持つ人々と相互に尊重し合い、繋がり合い、共生し得る社会を作り上げるための、柔軟・寛容かつ多元的な視野を養う。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	心理学	心理学の基礎的知識を学ぶとともに、臨床心理学的視点についても詳しく学んでいく。心理学の成り立ちや歴史、パーソナリティの理解、認知メカニズム・思考過程・記憶・感情等について学んだ上で、子供・高齢者・障害者といったあらゆる対象をめぐる社会問題や障害について心理学的に理解し、その対応策の知識を習得していく。それぞれの対象と自己の理解、心理的援助技法にも重点を置きながら学びを進め、人間関係とコミュニケーションの基礎的な知識の習得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	社会科学	統計学	統計学の基礎を学ぶことを目的とする。アンケート、体力測定、試験結果等、私達は日々いろいろなデータに囲まれて生活している。それらの集められたデータに意味を持たせることが統計学である。基礎統計量の計算、標本と母集団の関係、母平均と母比率の区間推定、検定の考え方等を学び、データをグラフにしたり、データの特徴的な値を求めたりすることで、データの性質や意味を知り、データを活用するための基礎的知識を身につける。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	数学	高校時代までの数学を簡単に復習した上で、大学での学びに必要な数学の基礎についての学びを展開していく。具体的には、数と式、方程式、二次関数、微分・積分の考え方、統計（基礎統計量、ヒストグラム、累積度数分布表、累積度数グラフ、代表値とバラツキの指標、箱ひげ図、散布図、相関係数、回帰直線等）について学ぶ。これらを理解することで、基礎的な数学の知識を習得し、デザインやものづくりに応用できる能力の修得を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	物理学	自然科学の中で最も基本的な力学を用いて物理的な手法を理解し、具体的に計算できるようになることを目的とする。物理量と単位の基本から、直線・放物・円運動、運動の法則と力の法則、力と運動（摩擦、抵抗）、仕事とエネルギー（仕事、エネルギー保存則）、単振動、質点系の重心、運動量と角運動量、質点の角運動量と回転運動の法則、剛体の力学等を取り上げる。現実の現象を数学を用いてモデル化する方法を会得し、活用できるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	現代化学	化学の進歩により高度な化学素材が開発され、それらが種々の製品に応用され我々の日常生活で利用されている。この結果、快適な生活空間、高度な健康管理、世界的な情報ネットワーク環境等を実現している。そこで、化学物質の構成や要素からそれら物質の応用技術までを学び、日常生活に広く利用されている材料から最先端材料までの理解を目指す。まず、原子の構造と周期律等の化学の基礎を理解した上で、衣・食・住の中に化学がどのように関わっているのかを知り、成長産業であり材料開発が重要な要素である電子材料等、日常生活と深く関わっている化学物質や製品の基礎的な知識を修得する。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	生物学	原始生命の誕生から長い進化の道のりを経て、現在の多様性にあふれた生物種へと進化しているの中で、ヒトは、様々な産業を興して地球上で最も高度に繁栄している生物種となっている。生物学の様々な分野（微生物学から分子遺伝学）についての基礎を広く学び、近年盛んに産業利用されているバイオテクノロジーの技術についても微生物から動物分野について幅広く学ぶことを通して、現代生物学の全容を理解し、今後の生物学のあり方について考察する力を身につけることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ａ	情報社会が成熟し、インターネット等を通じて容易に外国の情報が入手できる現代社会において、異文化への理解は以前よりも格段に進んでいる。一方で、日本人が日本の文化（自文化）を正しく理解し、外に向けて発信できているかといえば、甚だ心もとない。真のグローバル人材となるためには、まず日本の文化を正しく把握することが必要である。経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から日本を知り、日本および日本人の優れた点（ジャパナビリティ）についても学修する。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｂ	世界の人口の約60%、世界のGDPの約50%を占めるアジア地域は、現在、世界で最も勢いのある地域と言うことができるであろう。アジア地域の幾つかの国を取り上げ、その経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から文化や、その背景について学修する。その国が置かれた状況や、今後の見通しについても考えていく。その上で、世界の中での今後のアジアの位置付け、役割についても考えていく。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｃ	イスラム教は世界の三大宗教の一つであり、その信者（ムスリム）は18億人以上と言われている。にも関わらず日本人にはなじみの薄い宗教であり、イスラム社会、イスラム文化についての理解も十分ではない。また、同じイスラムといっても原理主義の国から、現実的な路線を歩む国と一様ではない。人口減少により労働力人口が不足し始めている日本に、今後、イスラム社会からの人口流入が増加していくことは間違いがない。幾つかの代表的な国を取り上げ、イスラム社会、イスラム文化を正しく理解することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｄ	キリスト教は世界の三大宗教の一つであり、その信仰者は約23億人と言われている。日本人にもキリスト教徒は少なくないが、日本人がキリスト教社会を正しく理解しているかと問われれば、十分ではない。また、同じキリスト教といってもカトリック、プロテスタント、ギリシャ正教、ロシア正教と多種多様であり、キリスト教は欧米だけの宗教ではない。グローバル化が進み、キリスト教社会と付き合う機会は更に増えていくであろう。幾つかの代表的な国を取り上げ、キリスト教社会、キリスト教文化を正しく理解することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｅ	2050年には、世界のほとんどの地域で人口の減少期を迎えるといわれている中で、アフリカだけは21世紀後半まで人口が増加すると予想されている。長期的に見て最も成長が期待される地域がアフリカであろう。そこに着目した中国は、技術供与、借款等を通じでアフリカへの接近を積極的に進めている。一方、一般的な日本人にとってアフリカは決して近い国ではない。幾つかの代表的な国を取り上げ、かつての宗主国との関係、民族構成とそれに伴う課題、産業化・近代化の動き等から、現代のアフリカの文化について学修する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	英語および英語圏社会事情	英語圏に関する理解を目的とし、各国の社会事情や多様な文化の側面を探求し、議論を行う。各国の類似点と相違点を詳細に調査・比較することで、それぞれの特性を理解し、グローバルな見解を深めていく。また、国際ニュースやトピックについても取り上げ、時事英語を通して英語や海外への興味・意識・理解に繋げていく。英語圏における社会的、言語的側面の詳細をより正確に理解するとともに、日本との関係の理解も目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	中国語および中国語圏社会事情	中国の人々の日常の暮らしのあり方と、そこに表れたライフスタイルや価値観・行動様式は、数千年にわたる連続的な文明の生成・変容と、多様性に富んだ風土・民族・文化の複合・交錯、更には激動の近現代史の流れにより、複雑に形作られてきた。まずは「中国」という地域世界の歴史的な成り立ちと、そこに内包された地理的・文化的・文明的な多様性と複合性、そして、その多様かつ複合的な地域世界を一つにまとめあげてきた「伝統」の諸側面について、基本的な知識を身につける。そして、中国の社会と文化、日本との関係についても理解を深め、歴史から現代を多面的に考えるための視点を養う。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	フランス語およびフランス語圏社会事情	フランス語圏に関する理解を目的とする。フランス文化の様々な魅力を探りつつ、フランス人の考え方や感じ方、社会事情にも触れていく。画像PDFを用いてフランス文化の様々な姿に触れつつ、相対的な目でフランス文化を捉えていく。他国の文化との比較を通じてひとつの国の文化を学ぶ意義を見つけられるようにする。更にグローバリゼーションに向かう現代社会の動向について考える姿勢とグローバルな視野の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	多様な文化が共存するヨーロッパの中でも中心的な文化圏のひとつが、ドイツ、オーストリア、スイスをはじめとするドイツ語文化圏である。そこで暮らしている人々の言語と社会、文化、風土等について学び、コミュニケーションの土台となる知識と、初歩のドイツ語会話力を身につけることを目的とする。基本的なドイツ語の理解と、ドイツ語圏の社会や文化についての知識を深め、日本との違いを考えられるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	韓国語および韓国語圏社会事情	韓国や北朝鮮の言葉である韓国語と、現代韓国における社会や文化の事情について幅広く学ぶことを目的とする。韓国文化と不可分の言語を知ることは、韓国の生活習慣や信仰、社会を知り、世界観を的確に理解する上で有用である。ハングル文字の基礎的な語学スキルを獲得した上で、韓国の社会事情や現代文化、歴史等についてを学ぶ。韓国人や韓国の小説、映画等に触れた際に、そこに映る韓国人の世界をより深いレベルで理解し、説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	留学のすすめ	グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。そこで、大学生がどのように国際的なキャリア形成を目指すべきかを学ぶことを目的とする。様々な業種、職種において傑出したプロフェッショナル、企業で先端的な人材発掘をしている専門家等を招聘し、国際水準のキャリア形成、実社会におけるキャリア開発について実例をもとに紹介する。国際的な企業・組織における人材の動向、キャリア形成に求められる知識・経験・語学力について世界的な傾向を概観するとともに、留学（特に大学院留学）がキャリア形成に果たす役割についても学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	異文化理解概論	グローバル社会における異文化理解や異文化間コミュニケーションを目的とする。多文化社会に関連するトピックを調べ、様々な文化的背景や理解を持つ学生と交流することにより、グローバル社会でのコミュニケーションに役立つ基本的な概念やフレームワークを理解する。ケーススタディやディスカッションを通じて実践的な知識、スキル、視点の習得を目指す。日本文化と他文化の行動や価値観との違いを理解し、有用な異文化間コミュニケーション技術の習得と異文化環境での能力向上に繋げる。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する海外研修の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。海外研修に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外研修Ⅱ	「海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。2回の海外研修を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する海外実習の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外実習Ⅱ	「海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。2回の海外実習を通じて、1回目と2回目の海外研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外研修の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅱ	「短期海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅲ	「短期海外研修Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。3回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅳ	「短期海外研修Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。4回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外実習の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅱ	「短期海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目の海外実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅲ	「短期海外実習Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。3回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅳ	「短期海外実習Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。4回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ＩＡ	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのライティングスキルを向上させる。「英語ＩＡ・ＩＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ＩＢ	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのパラグラフライティングやエッセイライティングのスキルを修得する。「英語ＩＡ・ＩＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅡＡ	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅡＢ	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅢＡ	「英語ＩＡ・ＩＢ」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、分析的な読解力を身に付けるためのリーディングスキルを向上させる。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表明するエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅢＢ	「英語ＩＡ・ＩＢ」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、予測力を活用したリーディングスキルを向上させる。更に、自分の考えを論理的構成でまとめるためのエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅣＡ	「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングやスピーキングのエクササイズを通して、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルを高めるだけでなく、リスニングの内容を論理的に分析・理解する能力を向上させる。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅣＢ	「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングエクササイズを通して、より高度なシスニングスキルの向上を目指すだけでなく、目的別ディスカッション・プレゼンテーションのスキルを高める。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ＩＡ	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills ＩＡ・ＩＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ＩＢ	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills ＩＡ・ＩＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ⅡＡ	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills ⅡＡ・ⅡＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ⅡB	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills ⅡA・ⅡB」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	English Test Preparation Ⅰ	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身につける。「English Test PreparationⅠ・Ⅱ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	English Test Preparation Ⅱ	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身につける。「English Test PreparationⅠ・Ⅱ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	中国語Ⅰ	日本人にとって中国語は、他の外国語にはない特殊性を持っている。歴史を踏まえて、まずは中国語を外国語として学ぶことを徹底し、中国文化を異文化として深く理解するための基礎を作る。中国語の発音表記のためのローマ字表記「ピンイン」と発音、意味の識別に重要な4つの声調の区別を身につけ、中国語の聴く力、話す力を身につけるための基礎を養う。その上で、最も基本的な構文と文法事項、そして「実際に使える」初歩的な表現・フレーズの習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」で学んだことを復習し、基礎を固める。その上で、少し複雑な表現を習得し、中国語を母語とする相手と一定のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。できるだけ正しい「通じる」発音ができるようになること、初歩的な構文をマスターし、中国語を母語とする相手と、最も初歩的な日常会話レベルのコミュニケーションが取れるようになること、会話力だけではなく、中国語の「注意書き」やツイート程度の短い平易な文章を、辞書を引きながら読み取る能力を身につけることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	フランス語Ⅰ	フランス人と簡単な会話ができ、同世代のフランスの学生達が興味を持っていることに共感できるような会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を目指す。毎回テーマを設定し応用文をフランス語で書くとともに、それを正しく発音できるようにする。更にロールプレイも実施する。基礎の文法や単語、自己紹介で用いる表現等を学び、フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」を基礎として、会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を深めることを目的とする。フランス語Ⅰの学習を復習しつつ、身近に使う基礎単語から日常会話で使う言い回しについて取り上げ、日常生活において必須とされる文法や単語を学んでいく。フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパで最も重要な言語のひとつである、ドイツ語の基礎を学ぶ。現在形の簡単なドイツ語文の読み書き、自分の希望や予定等を伝えるための簡単なドイツ語の発音、自分や第三者を説明・紹介するための会話やメール、交通機関や施設のドイツ語表示等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことで、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、簡単な内容の文が読みこなせるようになることを目標とする。物の考え方の根底にある言語を学ぶことによって、新たな世界の理解にも繋げる。	
基盤教育	国際人の形成	語学	ドイツ語Ⅱ	「ドイツ語Ⅰ」を基礎として、ドイツ語の学びを深める。自分の趣味や能力を表現するための簡単なドイツ語表現、自分の希望や予定等を伝えるための助動詞を用いたドイツ語表現、ドイツ語特有の枠構造で書かれた文章の正しい理解、ドイツ語を使った簡単な買い物や注文をするためのドイツ語表現等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことにより、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、辞書を使ってやさしい文が読みこなせるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	韓国語Ⅰ	韓国語の初学者を対象とし、基礎的な文法を学び、簡単な日常会話程度をできるようにする。最初の5回にわたってハングルの文字の成り立ちや発音、基礎的な発音変化を学ぶ。その後、文法の基礎を習得し、実際のコミュニケーション場面で、学生が必要とする語彙を増やしつつ、基本となる動詞の活用を学ぶ。あわせて、言語と深く関連する韓国の文化や社会事情を解説し、言葉だけでなく韓国に対する理解を深めることも目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」を基礎として、韓国語の基本的な文法を更に詳細に解説し、高度な応用韓国語を学ぶことで、単語力、会話力の確実な増強を図る。新聞や雑誌等の簡単な文章が理解できる程度の読解力、韓国語のドラマや映画等が字幕が無くともある程度理解できるリスニング力の習得を目指す。韓国人とコミュニケーションをとる上で、言語力の不足を補うための社会文化に関する全般的な知識も適宜説明していく。実際に韓国人との円滑なコミュニケーションが取れるよう実践力を身につけることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Business English Communication	コミュニケーションや文化を基礎としながら、ビジネスシーンにおける会話や対応、ビジネスライティング、プレゼンテーションスキル等の効果的なビジネスコミュニケーション能力を高めていく。交渉や社交術、会議体への参画や議事の進行等のビジネススキルを身につけさせることも目的としている。	
基盤教育	国際人の形成	語学	アカデミックライティング	人文社会科学系の学術的文章を書く技術を学ぶ。卒業論文、修士論文、博士論文等を代表とする大学・大学院で課される学術的な文章は、一定のアカデミックライティングのルールや形式に沿って書くことが求められる。研究論文とレポートとの違い、論理的な説明、根拠となる情報の開示、引用の倫理、文章の構成、学術的文章の作成等、基本的な書き方ならびに文献調査方法を指導する。また、書く訓練を通して、論理的な論文作成能力を養うことを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	テクニカルライティング	文章による情報伝達は非常に重要であり、そのために正確かつ効果的に伝達するための文書作成技法を学ぶ。分かりやすい文章で、読み手が必要としている情報を目的に応じて正しく簡潔に伝える文章表現、構成を身につける。具体的には、レポート、報告書、ビジネスレター、マニュアル、提案書等を題材に、図表の活用を踏まえながら文章の完成度を高めるための実用的な書き方を指導する。また、卒業後の就業や社会人として必要なライティングスキルも考慮して教授する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リスニング、スピーキング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSのリスニング・スピーキング演習、語彙構築、グループディスカッション等を行い、語彙の基礎や習得スキル、効果的なメモスキル、高度なトピックへのディスカッションスキルを向上させる。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅱ Listening/Speaking	「IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking」の学びを基礎として、IELTS、語彙の知識、リスニング・スピーキングスキルに対する更なるパフォーマンス向上を目指す。様々なサンプルを取り上げ、学びを深めていき、会話の開始や終了、話者の入れ替え、意見の表明、賛成、反対、推論による感情の識別等を考慮した、より良い会話を展開するためのスキルの修得を目指す。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、記事の読み書き、語彙構築、グループディスカッション等を行う。理解力とスピードを向上させるための読解戦略（プレビュー、予測、スキミング、スキャン等）を取り入れ、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力を養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅱ Reading/Writing	「IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing」の学びを基礎として、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させること、IELTS、アカデミックリーディングスキル、および語彙知識に対する習熟度とパフォーマンスを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、学術記事の読み書き、語彙構築、短作文等を行い、学びを深め、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力の更なる向上を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Pre-Study Abroad:Listening/Speaking	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるリスニング・スピーキング力を身につけることを目的とする。グループでのプレゼンテーションやパネルディスカッションの準備、提供、批評を行う。研究に関する質問の仕方や情報源を見つけ評価する方法、学術的内容の口頭要約、グループディスカッションやパネルディスカッションを企画・主導する力を身につける。これらを通して、高度なディスカッションスキルやアクティブなリスニングスキルを向上させ、自分の研究についてのディスカッションや発表を通し、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Pre-Study Abroad:Writing	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるライティング力を身につけることを目的とする。基礎的なライティングからアカデミックなライティングまで、また、エッセイ、レポート、レビュー、考察等、様々なジャンル・スタイルのライティングを練習し、プランニング、構成、ドラフト執筆、推敲、出版等ライティングプロセスを通して学んでいく。各アカデミックライティングスタイルを理解し、対応できる能力を身につけ、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本語Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、大学生活や社会生活において必要とされる論理的な日本語の運用能力を身につけることを目的とする。コミュニケーションスキル、コースワークに必要なスキル（読み物の理解、レポートの作成等）についてを学ぶ。中級レベルの文法、表現、語彙を理解し、ある程度の長さの日本語の文章を読み、考えを口頭で表現できるようになること、論理的で客観的な文章が書けるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本語Ⅱ	「日本語Ⅰ」を修得した学生または同程度の日本語レベルの外国人留学生のみを対象に、「読む・聞く・書く・話す」の4技能を総合的に学び、総合的な日本語運用能力を向上させることを目的とする。言語・文化・社会に関する、高度なトピックに関するリーディングやリスニング議論、発表、作文等を通して、学問上や職業上の目的で日本語を適切に運用することができる日本語力の習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本事情Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、日本を理解するために必要な、かつ、基礎的な知識を身につけることを目的とする。現在の日本の生活様式について、留学生の母国の生活様式と比較しながら、理解を深めていく。住宅、衣服、食事等、日本での生活や身近な話題をテーマに取り上げ、日常的なことから考察を深め比較しディスカッションしていく。また、プレゼンテーションの機会を多く設定することで理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本事情Ⅱ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、「日本事情Ⅰ」で学んだ日常的なテーマに続き、日本の行事、日本人の自然との関わり等について、現在のみならず過去にも目を向け、変化する日本、変化しない日本という視点から、理解を深めていく。結婚式、祭、災害等、留学生の母国にもある事柄をテーマに取り上げ、考察を深め比較しディスカッションやプレゼンテーションを行い、理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅰ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、語彙と文法の構造に関する知識を習得する。これから日本で学んでいく上での日本語コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な基本的な文法や語彙等を学習し、身近な出来事について表現し、簡単なメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅰ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、初級日本語を使ったコミュニケーション活動を身につける。リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習を中心としたアクティビティを通して、初級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解する。大学生活や日常生活を送る上での不便をより多く解消していけるようになり、意思疎通がよりスムーズに運べるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅱ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、語彙と文法の構造に関する中級前の知識を習得する。コミュニケーション能力を伸ばし、初中級レベルの日本語能力を身につけ、読み書きのタスクに焦点を当てることを目標とする。文法の練習、短い文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックについて短いエッセイを書けるようになることを目標となる。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅱ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて、初中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばすとともに、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックに関する関連テキストを作成できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅲ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象に、文法や文型に関する中級言語の知識を身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、読み書きのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。文法の練習、文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、中級レベルの日本語の語彙と文法構造を理解し、広い主題について明確で詳細なテキストを作成できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅲ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、専門分野での技術的な議論を含め、具体的なトピックと抽象的なトピックの両方に関する複雑なテキストを理解するとともに、様々な状況に対処し、トピックに関する見解を説明できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが殆どない学生を対象とし、多読や作文活動を通じて、日常生活や学業に必要な日本語の語彙や作文構造の基礎知識を身につける。身近なトピック（趣味、道順、日常生活等）についての簡単な会話に参加でき、自分自身やその他の単純で関連性のあるトピック（背景、好き、嫌い、方向等）について話したり書いたりできるようになることを目指す。日常のトピックに関する簡単なテキストと、実社会で使用される資料（メニュー、通知等）を読んで理解できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Reading Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。読書を通して日本語の文とテキストの構造を理解する。また、語彙と文法パターンの確認・練習をすることで、簡単な文章を構成し書くとともに、より複雑なテキストの理解に必要な語彙と文法パターンの習得に繋げていく。十分な語彙と基本的な構成構造を習得し、より実践に活きるリーディング力を養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象とし、様々なカテゴリーのテキストを読むスキルを向上させ、論理的な文章を書く能力を育成することを目標とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、論理的なテキストを読み、学術研究に必要な正式な語彙、文型、および文の構造を習得することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。日本語のみを使用して日常のコミュニケーションを行い、関心のあるトピックに関する情報を日本語で収集して伝達できるようになることを目標とする。基本的なリスニング能力を身につけ、自然に反応し、自分の興味について会話できるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Listening Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。関心のあるトピックをテーマに選び、それに関する情報を日本語でまとめ、的確に理解、伝達できるようになることを目標とする。リスニング力、読解力、表現力を養うとともに、習得したリスニング技術をもってより多くのトピックに触れることで、日本への理解を深めることにも期待する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象に、日本語のリスニングスキルを中級レベル以上まで向上させることを目的とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、様々なトピックのリスニング教材に慣れる過程で、大学生活に必要なリスニング能力を徐々に養い、学問に関連する情報の理解に対応し、様々な状況やコンテンツに応じて適切に捉え対応できる力を身につける。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の漢字のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目標とする。レッスンによって、日本語の書記体系を理解し、100字程度の漢字や短いテキストの読み、100字程度の短いメッセージの書きができるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Writing Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目標とする。レッスンによって、日常生活でよく使用する漢字や簡単なテキストを読み、日常のコミュニケーションで使用する程度のメッセージの書きができるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初期中級レベル相当の対象とし、漢字リテラシーを身につけることを目的とする。漢字や慣用句、または漢字の基本的な知識を学ぶ。漢字を正しく理解し、読み書きできるようになるとともに、漢字形成の歴史的過程やその部首等、漢字に関連する知識についても習得する。更に、漢字を使ったフレーズや文章を作成する等、漢字の使い方に慣れながら、漢字が文章や会話の語彙としてどのように使用されているかについての理解も目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。主な目的は、学習者が初級前半レベルの日本語を用い、大学生活に役立つ様々なプロジェクト・ワークを通して、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。授業はすべて日本語で行われ、学習者は、個人あるいはグループでプジェクト・ワークに取り組む。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work Ⅰ」を履修した学習者あるいはそれ相当の日本語学習を終了した初級後半レベルの学習者を対象とする。主な目的は、様々なプロジェクト・ワークに個人あるいはグループで取り組むことにより、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。週1回、全15回開講される。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work Ⅱ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。主に、個人あるいはグループで学生が情報収集、発信、調査、発表を行うことを通して情報活用や分析、プレゼンテーションのスキルを学ぶことを目的とする。インタビューや図書館等の施設での野外調査も実施する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Culture and Society Ａ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本文化と社会の多様性について体験的に学ぶ科目である。目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することによりそれらを学ぶことである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Culture and Society B	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society A」に続く科目であり、日本文化と社会の多様性について体験を通して学ぶ。コースの目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Introduction to Japanology A	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society B」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象とする。日本のことば、文化、社会、歴史等の幅広い知識を得ること、そして、得られた知識や情報について考え、発信する活動に取り組む。フィールドリサーチやプレゼンテーション活動も行い、Japanologyという分野そのものの成り立ちについても学んでいく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Introduction to Japanology B	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Introduction to Japanology A」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。目的は、日本の言語・文化・社会について学び、自らの持つ背景や文化等と併せて考察するというものである。テーマは、日本の社会問題から文芸、サブカルチャーまで幅広く扱い、ディスカッションやフィールドリサーチを交えながら授業を展開していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン入門	個人のキャリア形成に必要な要素を理解し、能力開発の必要性と社会的意義を知るとともに、自立性のあるキャリア形成を具体的に思考することを目的とする。キャリア開発に必要な基礎的学論、自身のキャリア変遷と個人的価値観、社会変化と環境変化で作られ変わる価値観、労働の価値観の獲得と変化、個人的・社会的興味の源泉、自己の興味の変遷、労働の興味、能力の向上と変化、他者との関わりを通した新しい興味・価値観を知るための講義を展開する。自身を語れるようになるとともに、様々なキャリアのあり方を模索し、今後の自身のキャリア開発の具体性が持てるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	コミュニケーション＆マナー	議論の分析を中心テーマとして、社会人基礎力やコミュニケーション能力の向上を目指す。口頭に限らず、文章により意見を述べる方法を含んだ議論の方法を考えていく。議論がどのように構成されているか（または構成されるべきか）を考え、分析・考察を進めていく。あわせて、社会で必要となるマナーについても学び、各自の言語活動を見つめ直していく。議論の構成・ルールについて理解し、議論の分析を日常の言語活動に応用できる力（課題発見力、計画力、想像力）、立場に応じて相手を納得させる力（発信力、情況把握力）、相手の意見を尊重し受け入れる姿勢（傾聴力、柔軟性）の獲得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン実践	医療技術の進化は長寿化をもたらし、人生100年時代という言葉も浸透しつつある。そのような時代を迎え、私達の働き方や生き方はどのように変わり、変えていく必要があるのか。このテーマについて、講義や参加者間での議論を通し、私達自身の問題として捉え、これからの生き方を考える。長寿化と教育・仕事・引退モデルの変化、機械化・AI後の働き方、キャリアを拓くために持つべき資産、働き方の選択肢の多様化、新しい時間の使い方、仕事以外の人生（ライフ）の変化といった現代社会の状況についても解説をしながら、キャリアデザインを実践していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデベロップメント	将来、有意義な人生や職業生活を築くため、「自分とは何か」「職業理解と働く意味」「社会で求められる力」等を深く考え、就職や自己成長の重要性を理解し、今後の学生生活を充実させること、社会や仕事で求められる力となるコミュニケーション力やチームで結果を出す力を高めることを目的とする。自己を理解し、自己成長の必要性を理解すること、社会環境への関心を高めつつ就労観や職業観を高めること、多様性を受け止め、コミュニケーション力を高めることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	インターンシップ入門	インターンシップ実施の準備講座となる。前半でまず、社会人に求められる力(社会人基礎力)の概要とこれを身につけるための一つ方法としてのインターンシップについて議論し、様々なインターンシップの形態やインターンシップ先の探し方を学ぶ。更に、先輩からの経験談も踏まえ、企画・提案への取り組み方を具体化していく。これらを経てPBLを体験し、課題に対しての現状分析、課題の整理、解決策の提案を行っていく。社会人に必要とされる力や円滑なグループワークを遂行していくための力を養い、インターンシップの実践に向けた行動に繋げていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	アントレプレナーシップ	人口の減少、労働生産性の低さ、情報化社会の立ち遅れ、研究力の低下、特許出願数の低下、外国への留学生の減少等、日本の閉塞感を表すキーワードは少なくないが、起業する人の少なさもその一つであろう。結果、ユニコーン企業も少なく、企業の時価評価額ランキングも、1990年代と比べ大きく低下している。起業が一般化している世界の中で、日本の若者は、なぜ起業しないのか。起業するために必要な発想や、情報技術の活用、求められるマインドセット等について、実際に起業した人の話も聞きながら、学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	口頭表現法	口頭による言語表現のうち、敬語を取り上げる。正しい敬語の使い方を身につけることは、日本語という言葉の特徴を知ることや、社会における様々な人間関係を円滑に進めることに繋がる。尊敬語・謙譲語・丁寧語等の敬語の基本を理解し、状況に応じて言語表現を使い分けることができるようになることを授業の目的とする。また、人間関係を円滑に保つための言葉の働きについての理解も目指す。これらを通して、基礎的な学力と豊かな教養の一助とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの方法を学ぶことにより、自分の意図を相手に正確に伝える能力を養うことを目的とする。各自設定したテーマに基づいてプレゼンテーションの実践を行う。発表の仕方とともに、発表を聴く姿勢にも視点を置きながら授業を展開していく。各自テーマに応じて必要な情報を収集・分析する「課題発見力」や「計画力」、文章・図表等を効果的に用いた発表資料を作成する「表現力」、聴き手の立場を考慮して自らの意図を正確に伝えることができる「発信力」、質疑や意見に対して適切に応答することができる「傾聴力」といった能力を向上させることにより、社会で必要とされる社会人基礎力の獲得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	文章読解	小説そのものが既に作家の想像力という〈幻想〉の産物であり、読者を〈異空間〉に誘う機能がある。そうした原理を最も端的に開示する幻想小説を読み解くことで、文学の本質である作家における〈書く〉という行為の意味、読者における〈読む〉という行為の意味までも明らかにすることを目的とする。明治期の作品から現代の同時代作品まで、作家を限定することなく、できるだけ多くの小説を読み解くことで、作品そのものの魅力を感得しつつ、〈書くこと〉〈読むこと〉の相互行為を分析し、自分なりの気づき、考え、意見を持つことを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	レポート・論文のまとめ方	基本的な文章作成方法に基づいた上で、データの解釈や文献の検索についてを学び、調査やレポートの構成、作成におけるルール、分析等、レポートや論文をまとめるために必要な一連の事柄について学ぶ。これらを通して、レポートや論文で使われる言葉や表現方法、レポートの構成の仕方、基となる資料の収集や分析・活用の仕方、結論や今後の課題のまとめ方を理解する。大学生にとって必須であるこれらの方法論を今後の学業に活かすとともに、論理的に組み立てる力を養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	日本国憲法	日本の法体系における最高法規に位置付けられる日本国憲法を対象とする憲法学の基礎を学んだ上で、社会における具体的な問題に即して、憲法的なものの見方・考え方とはどのようなものなのかを理解する。「統治機構」と「基本的人権」の２分野の主要な項目をテーマに講義を行い、憲法に関する基礎的な知識と現実の社会における事象・問題を憲法の観点から理解し、考えることのできる基礎的な能力の修得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	グローバル市民論	金融が世界を渡り、情報基盤が世界の端と端を繋ぎ、食料もエネルギーも世界を流通し、太古より変わることなく水と大気が地球を循環している現代社会においては、島国日本から外に出ず、外国人と話すことを避けたとしても「グローバル市民」の一員であることは決して避けられない。地球温暖化の問題、格差の問題、感染症への対応の問題等のグローバルな課題に対し、グローバル市民としてとるべき行動や態度等について、幾つかのトピックスを取り上げ、識者を招きながら学習する。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	環境政策論	公害問題から自然破壊、地球温暖化に至るまで様々な形態とスケールで発生する環境問題に対しては、法律による規制のほか、ボランタリーな市民参加を活かした制度、経済的インセンティブを活かした制度等、様々な法制度を複合的に用いることがより効果的である。環境法規の基本原則を学んだ後に、代表的な国際条約や環境法規および環境政策の手法について知識を習得し、グローバルな問題のローカルにおける解決策について考察する。世界レベルでの環境法規の基本原則や日本の環境に関する法体制の基本、法規制以外の制度が果たす役割について認識できるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	情報化社会と人間	情報技術の普及による社会の情報化は人の生活や個人のあり方、ものの見方まで変化させつつある。現代の社会活動と情報化について理解するとともに、現状の問題把握・将来起こりうる問題への指摘ができることを目的とする。社会の基幹システムにまで及ぶ情報化や、情報化による利便性の向上とそれに相対する負の側面についてを、様々な環境下での事例を踏まえて学び、現代社会の中どのように生きていくかを考えていく。情報技術と現代社会の密接な関連性に関する知識・理解を深め、情報化社会の発展と問題に関して主体的な観点から論じられるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	ダイバーシティ論	アイヌ民族を除けばほぼ単一民族国家で、一億総中流社会が長く続いた日本社会において、ダイバーシティ（多様性）を受入れることは必ずしも歓迎されず、むしろ非効率と考えられがちであった。しかしながら、近年、マイノリティや個々の特性を尊重する動きが世界的に広がっており、多様性を積極的に受け入れる社会の方が活力を生み、また投資の対象としても高く評価されるようになってきている。明るい未来社会を描くために、日本における多様性社会はどうあるべきか等について、幾つかの事例を取り上げ、議論を交えながら学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	障害学	障害学にとって重要なのは、社会が障害者に対して設けている障壁、そして障害の経験の肯定的側面に目を向け、障害者が持つ独自の価値・文化を探る視点を確立することである。個人の問題という視点から、環境、社会の排除、差別へと視点は転換し、更には、独自の文化集団、コミュニティとしての障害まで意識する必要がでてきている中、障害と社会を巡る歴史と現代の考え方や、障害者の生活に関わる制度の現状等を通して障害学を学ぶことで、障害の社会モデル、障害者への不当な差別的取り扱いと合理的配慮、バリアフリーとユニバーサルデザイン等の理解を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	ジェンダー論	ジェンダーやセクシュアリティといった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種等の身近な身体文化を題材に考え、身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶ。ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにすることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	社会貢献活動入門	社会貢献は、ボランティア団体やNPO/NGO等多様であり、形態も取組み内容も様々である。そして、企業による社会貢献、CSRも多種多様であり、それぞれの事業規模も多様である。また、東日本大震災以降の被災地支援活動を機に、社会貢献を取り巻く環境も大きく変化しつつある。国内外の最新事例を踏まえてNPO/NGOおよび企業の社会貢献のあり方について学ぶとともに、分野別の活動内容や各活動が始まった背景についても理解を深めていく。これらを通して、社会において個人が果たしうる役割と課題を考え、社会と自分との関係について考えを深めていき、社会貢献に関する知識をもって主体的に社会貢献に関わる行動に繋げることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	地域マネジメント	既に人口の減少期に入り、世界でも類を見ないほどの少子高齢化社会に突入した日本において、今後はGDPも減少し、その結果、税収も減少していくことが予想される。加えて、行政を支える労働力の確保も難しくなる。こういった中で、地域のマネジメントをこれまでのように行政に依存することは困難であり、地域住民が相互に地域マネジメントに関わっていくことが必要となる。ここでは、幾つかの事例を取り上げ地域マネジメントの現状と手法を学び、地域市民として地域のマネジメントに貢献していく知恵を学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	公務員論	公務員制度や行政の仕組みを知り、更に公務員に対する理解を深めることにより、公務員のあり方について考えられるようになることを目的とする。まず、公務員制度や行政の仕組みの基本を取り上げ、その上で少子高齢化等の課題への新たな対応について考えていく。また、職種や仕事内容が多種多様である公務員を理解することを目的に、様々な職種の公務員から実際の職務の話を聞く機会を設ける。これからの公務員のあるべき姿について、考察することができるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	食と健康	食と健康の関わりを栄養学や食文化等の知見を中心として学ぶことを目的とする。5大栄養素とその具体的性質を理解し、それぞれの栄養素の役割を生化学、生理学の観点から理解する。また、食品摂取時の人体組織の機能や、摂取内容に応じた人体への作用、あるいは、体質等に応じた影響を解剖生理学的観点から理解する。食と健康の基礎的事項を理解し、自身の健康のあり方を考え、時代や国、環境や文化の違いによっても様々な食と健康の捉え方を理解していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	基礎会計学	企業の経営活動をお金の観点から記録する方法（商業簿記）の基礎（簿記と会計、簿記の種類、機能と目的等）について解説し、なぜ簿記が企業経営において重要であるのかを説明した後、日本商工会議所簿記検定3級の出題範囲の前半部分に対応する学習内容を学んでいく。商業簿記を理解することによって、企業の経営状態をより明確に捉えることができるようになり、今後修得する会計領域の体系的な専門知識および学際的知識への素養を身につける。そして、社会の様々な組織において実践力を発揮し社会に貢献するための基礎とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	情報リテラシーⅠ	インターネット等の普及により様々な情報を得ることが容易になってきている一方で誤った情報も混在している。そのため、価値ある情報を収集し、社会的な問題を認識した上で、効果的に活用して発信することが求められている。このような社会情勢への対応を目的として、情報リテラシー概論の他、情報の検索方法の習得を目指す。その後、収集した情報をまとめるために、パソコン（ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト）の基本操作、文章作成上のルール(構造化文章の理解と仮作成)について学び、今後のレポート作成に役立つスキルを身につける。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	情報リテラシーⅡ	「情報リテラシーI」の学びを基礎として、正しい情報の収集および発信について習得することを目的とする。特に、自らの研究データを管理し、分かりやすく表現できるようになることを目標とする。そのために、表計算ソフトを用いて、数値データのグラフ化や、管理をするための基本操作を学び、データ表現に必要な基本統計を理解する。その後に、発表の仕方を学び、これまでに習得した操作法を活用して、正しい情報を発信する（プレゼンテーション）スキルも身につける。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングを用いて開発されたシステムやアプリ、プログラムによって制御された電子機器等が、身近な生活の中で実際にどのように機能しているのかを学び、プログラミングの役割や機能、実社会への影響を理解していく。WebサイトやAI（人工知能）、IoTデバイスでもよく使われるPython言語を用い、基礎固めを目的としたプログラミング演習を行いながら、その仕組みを理解していく。プログラミングの基礎知識を習得し、プログラミングを組み立てるための思考力も養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	プログラミング基礎Ⅱ	「プログラミング基礎Ⅰ」を基礎として学びを深める。Python言語の高度な文法の理解や一般的なPythonプログラムの作成ができるようになることを目的とする。また、基礎的なアルゴリズムを理解し、より実践的かつ効率の良いプログラミングの考え方を理解するとともに、簡単なディープラーニングを使いプログラムを理解した上で、同様の二項分類のディープラーニングを作成できるようになることも目標とする。	
基盤教育	健康スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅰ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初心者レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅱ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅲ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、中級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅳ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、上級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学講義Ⅰ	ライフキネティック（運動と脳トレを組み合わせたエクササイズ）について、トレーニングの概念や方法、得られる効果等を学び、日常生活にどのような好影響を与えるのかを理解することを目的とする。ライフキネティックトレーニングをする上で重要な身体活動の感覚と認知的精神的刺激を統合するためのトレーニング方法の知識を身につけることで、精神的、物理的な訓練の基本を理解し、ライフキネティックトレーニングのルールや健康上の利点について認識を持てるようにすることを目標とする。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学講義Ⅱ	運動と身体機能の関係を正しく理解し、更に、運動を実施する上で必要な科学的方法論を身につけることを目的とする。トレーニングの基本原則、スポーツ疲労やスポーツ障害の特徴、身体活動を通じた筋力・心臓等の機能向上についてを学び、目的に合わせた運動の仕方や健康に適した運動量の知識を獲得することで、生涯に渡って健康的な生活を送るための身体づくりについて考え、日常生活の中で役立てることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ａ	東洋大学の創立者である井上円了の生涯を対象とし、その思想と行動を明らかにする。井上円了は幕末・明治・大正の3つの時代を生きた人物であり、単に東洋大学の創立ばかりではなく、「明治青年の第２世代」の代表者と歴史家が評価するような、様々な業績を残した。その生涯の時期は、現代社会の基礎である近代日本の創設期にあたることから、現代日本の出発点を歴史的に具体的に学ぶことにも繋がる。時代とともに自分がどのように生きるべきか、その哲学を考察できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｂ	東洋大学の創立者である井上円了と東洋大学の歴史を明らかにする。井上円了の教育理念によって、明治20（1887）年、日本が大学制度を創出する時期に「哲学館」として創立され、それから東洋大学は現在まで130年以上の歴史を歩み、大規模な組織に発展してきた。創立者井上円了の教育理念や東洋大学の個性的な歴史を、日本の大学の歴史を背景としながら学んでいくことによって、時代の変遷と大学組織の発展が明らかになり、近代から現代までの日本社会のあり方を理解する一つの視点を学ぶことにも繋げる。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｃ	東洋大学の創立者である井上円了が明治中期に提唱した「妖怪学」を取り上げる。妖怪を取り巻く社会も学問のありようも様々に変化した現代社会に即した「新しい妖怪学」の実現は可能だろうか。宗教学・民俗学・文学史・芸能史・風俗史・神話学・心理学・精神医学等様々な学問分野の成果を導入し、日本やアジア、ヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチを展開する。不可思議なものに惹かれていく人間の心性に目を向けた上で、科学的な検証と明晰な論理によってその本質を見極め、実体のない思い込みや不合理な権威を打破していくための批判精神を養うことを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｄ	ICT（情報通信技術）の発展に伴い、膨大なデータが世の中に溢れるようになり、様々な分野でデータの利活用が急速に進められている。データサイエンスのスキルは、技術者だけでなく、すべてのビジネスパーソンにとって必要不可欠になってきている。そこで、データサイエンスとは何か、その本質は何か、どういうシーンでどういう活用をされているか、どういう手法（伝統的な統計手法、機械学習やディープラーニング等のAI）がどのように利用されているかについて理解を深め、職種別にデータサイエンスを使いこなす上で必要なスキルや発想を身につけることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｅ	インターネットの普及と高速化、膨大なデータの蓄積、コンピュータの高性能化と共に、人工知能（AI）の研究開発が進み、これを利活用できる領域が広がったことで、「第4次産業革命」と呼ばれる社会変革が起こり始めている。膨大なデータに対するAIのサービスとしての利活用が、人間の能力を最大限に引き出すと同時に、社会の持続性や環境問題等社会課題の解決、経済・産業の発展に寄与することが期待されている。そこで、AIとは何か、その手法や原理等の基礎知識を修得することを目的とする。またAIの応用例にも触れ、AIの利活用によってどのような社会が実現できるのか、その上でどういう課題があるのかを理解する。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｆ	2000年以上の歴史を持つ哲学とその思考法が、どのようにして現在の私達の生きる力となるのかを理解するため、古代から現代に至る西洋と東洋の思想を横断するかたちで講義を行う。現在の私達に必要な「自己を律し、より良く行為するための力」、そして、「今いる地点から自己の経験を一歩先に進めるための能力」を獲得するため、「世界と自己」「心と身体」「正義と自由」をテーマに哲学的トレーニングを行う。各テーマに関する西洋と東洋の異なる知見を手がかりに、各人が自分で思考を進め、行為するための力を身につけることによって、哲学的に思考することが生きることにどのような役割を果たすのか、また、異なる文化に属する思惟の特質についてを理解することを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｇ	環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。環境問題の現状について解説するとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を中心にしつつ、様々な学問を基に紹介する。地球温暖化に限らず、エネルギー問題、生物多様性、水質汚染、自然災害、農地の砂漠化、異常気象等々、SDGsで提起される様々な範囲の問題の解決へ向けて、国際協調や国際規約、地域の草の根運動、アート作品といった多様なレベルで行われている取組みを理解する。環境問題の現状と対策の実態を把握すると同時に、自分自身の生きる環境を哲学的に考えるというトレーニングをすることで、問題解決に資する発想を備えることを目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｈ	知識基盤社会における大学は、これまで以上に知のコミュニティとしての豊かさが求められるようになっている。また、学びのリソースは、教室や図書館だけでなく地域や世界にも広がってきた。学内外の様々な専攻分野教員から、毎回、話題提供を行い、次いで、様々な視点から、大学教育の社会的役割についてディスカッション行い、多様な学びのあり方とリソースを掘り起こすことによって、学生が自ら知のコミュニティを創造するための基礎的力量と学際的視点の修得を目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｉ	経済同友会会員企業が受け入れ先となって行うインターンシップの科目である。本インターンシップの趣旨は、「学生が企業という場で実社会に学び、社員や他校生も交えた多様な価値観に触れ、様々な気づきを得ることで事後の学修に注力し、キャリアビジョンを描きながら資質・能力を高めること」である（経済同友会資料より）。夏季休暇中の10日～4週間程度の企業におけるインターンシップ参加、事前研修、事後研修、成果発表会等を通し、社会人に求められる姿勢や行動を学び、視野を広げ、自分のキャリアビジョンを描けるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｊ	今、この時にあって、哲学教育を通じて自己の基軸を確立した社会的リーダーたりうる人財の育成が強く期待されていると思われる。そこで、企業の社長や自治体の首長といったリーダーに限らず、大きな組織を構成する一部門としての組織の責任者を含めた、ある人的な集合体の中心となって活躍できる人財、いわば真に社会・集団を牽引しうる東洋大学生の育成を目的として授業を行うものである。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｋ	リーダーに必要な論理的思考力の訓練を行い、そのスキルを身に付けた後に、リーダーシップ論を学んでリーダとはどうあるべきかを考察して問題意識を育み、更に現代日本におけるリーダー哲学、国際社会におけるリーダー哲学を学ぶことで、自己の基軸となる哲学を形成する。加えて、最後に自己の基軸を再確認するために、自ら形成したリーダーとしての哲学について最終レポートをまとめて、発表する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｌ	オリンピック・パラリンピック等スポーツの歴史を通して世界について学ぶことを目的とする。スポーツやアスリートだけでなく、アスリートに対するサポートの実情やその裏側に潜む社会的課題についても深く掘り下げ、スポーツの華々しい実績だけでなく、その裏側についても学んでいく。これらを通して、オリンピック・パラリンピックの基本理念や基礎知識、諸問題の理解を目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｍ	オリンピック・パラリンピックに関わるバラエティに富んだテーマを取り上げ、オリンピック・パラリンピックを多角的に考えていく。オリンピック・パラリンピックの理念やスポーツイベントに関する幅広い知識はもちろん、イベントを裏方で支えるスポーツボランティアの実際にも触れていく。単に「オリンピックを学ぶ」ことだけではなく、社会のあらゆる側面と結びついていることを理解するとともに、オリンピック・パラリンピックを題材として世界に広がる多様な価値観を学び、深く「哲学する」姿勢を養う。	
基盤教育	総合・学際	総合Ａ	宮沢賢治の生き方や思想を学び、詩を読むことで、豊かな教養を身につけることを目的とする。『法華経』に帰依し、民衆救済に一生を捧げた宮沢賢治の詩を通して、自然や生命への畏敬、共生、物への慈愛や人生における苦悩について考えることで、自らの人生を考えていく。また、作品を読解することで、学士力の「読む」力をアップさせ、人としての生き方や社会を考えることで「社会人基礎力」を養う。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｂ	舞台芸術とは何かを知るために、音楽、芸術、文学、ダンス、照明、舞台、デザイン、衣装を理解し、舞台芸術の可能性を知ることで、社会イノベーションに繋がる種を見つけることを目的とする。練習に役立つスキルの開発に焦点を当てながら、多くの文学を読んだり、パフォーマンスを観たりすることで、舞台芸術の基礎知識を養い、創造的な心と挑戦的な精神を育む。また、レポート作成や、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、論理的思考を身につけ、ライティング、コミュニケーション、分析、問題発見・解決、プレゼンテーションの能力獲得も目指す。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｃ	アートマネジメントとは、芸術・文化と社会を相応しいかたちで融合させ、文化資本を高めていくことである。マーケティングのアイデア、文化施設・舞台芸術団体の運営、コンテンツ産業やまちづくり等について、伝統文化から美術・音楽・舞踊・映画・ポップカルチャーまでアートの広範な領域を取り上げ、学んでいく。社会と芸術・文化の関係を経営学の視点から考えることで、芸術・文化と社会の適切な関係について理解し、アートマネジメントの基本的な考え方を説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｄ	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的にその基礎を学ぶ。絵本をテーマとして取り上げ、読む・聞く・描くことを実践する。通常の冊子体絵本だけでなく、音楽を伴った紙芝居形式や絵本に基づく映像作品も積極的に取り入れ、芸術表現としての幅を広げていく。関心のある作品を選び、絵本の読み聞かせや創作を実践し、互いに批評し合い、批判点を受け入れることで、表現に磨きをかけていく。これによって、芸術表現としての絵本を読む・聞く・描くことの可能性を拡大できるようになることを目標とする。芸術・文化に対する関心を深めることにも繋げていく。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｅ	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的とする。「総合Ｄ」で学んだ絵本を読む・聞く・描くことの基礎を踏まえて、更に高度な実践を試みる。絵本の世界においてどのような表現が可能か。伝えようとするイメージの中に自分を置き、感性を最大限に働かせ、架空の世界を現実化し立体化していく。そうして絵本を聞く側にも豊かなイメージの世界が広げることを目標とする。表現の基礎技術の上に、絵本の読み聞かせや創作が持つ自由さと魅力を追求できるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際		総合Ｆ	水力や蒸気機関による第1次産業革命、電力による第2次産業革命、電子工学や情報技術による第3次産業革命から、IoT及びビッグデータ、AIをコアとする現在進行中の第4次産業革命まで、技術の革新はやむことはない。そして、それらの応用は、最先端と呼ばれる場面に留まらず、建築やデザイン、介護や障がい支援、育児や保育、アスリート支援や健康増進、食事や滋養といった、ありとあらゆる場面に及び、それぞれの分野での可能性を大きく広げている。この授業では、IoTやAIといった情報技術に留まらず、学科に関連する領域における最先端のテクノロジーに触れることで、テクノロジーが私達の生活や環境をどのように変化させ、また関連する社会課題の解決にどのような影響を及ぼすのかについても学んでいく。これらを通して、社会が求める要素を的確に捉える視点と多角的な視野を養う。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉学入門	本科目は、主たる受講対象である新入生が、①現代社会において社会福祉が必要とされる場面や社会的背景、また、②本学科の学習体系の全体と、本学科において「系」と称する各学習領域における学習内容を理解することを目的として展開される。この目的のため、取得できる資格を含む本学科の学習体系の全体像及び、それぞれの学習領域における学習体系及び概要、各学習領域に関わる社会福祉実践及びその社会的な必要性について講義する。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉学基礎演習Ⅰ	本演習では、4年間の学習の基礎となるアカデミックスキルを身につけることを目的とする。このため、①大学の授業における知的生産の基本である「調べる」「発表する」技能を身につけること、②現代社会や社会福祉に関する資料を読み解くトレーニングを通じて問題意識を醸成すること、③社会というフィールドに出て活動するための基礎的な知識やマナーを身につけることを重視する。具体的には、本演習を通じて、①社会問題や社会福祉に関する文献・情報収集の方法や文献の読み方を習得し、実際に文献資料等を読む、②レポートの書き方や文献の引用方法を習得し、実際にレポート等を書く、③自分の意見をまとめ、効果的なプレゼンテーションができるように発表の機会を設ける。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉学基礎演習Ⅱ	本演習では、家族、高齢者、障害者等に関わる社会福祉を学ぶためのアカデミックスキルを身につけることを目的とする。このため、①大学の授業における知的生産の基本である「調べる」「まとめる」「発表する」技能を身につけること、②現代社会や社会福祉に関する資料を読み解くトレーニングを通じて問題意識を醸成すること、③社会というフィールドに出て活動するための基礎的な知識やマナーを身につけることを重視する。具体的には、①社会福祉が直面する課題に関係する具体的事例に即して問題を抽出し、自分なりに意見を持ち説明する力を習得する、②社会福祉に関する課題をレポートとしてまとめるのに必要な基礎的な知識やスキルを身につける、③将来のキャリア設計に向けた関心や価値観を培い、社会人基礎力を養う。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	本講義は、「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づいた社会福祉士の役割や意義について学ぶ。ソーシャルワークの形成過程を理解し、ソーシャルワークの理念について、理解を深める。講義にあたっては、「人間：環境：時間：空間の交互作用」というキーワードを基軸にし、ソーシャルワークの価値と倫理、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義等を教授する。本講義を受講することにより、受講者はソーシャルワークの基盤を理解し、社会福祉士という国家資格がどのような働きをするのかを学ぶことにより、国家資格取得の動機を強化していく。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	本講義は、ソーシャルワークの目的を理解し、ソーシャルワーカーがどのような領域でどのように相談援助を行っているかを学ぶための科目である。講義にあたっては、社会福祉の各専門職（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、保育士等）の意義と役割や、専門職の機能と範囲のほか、支援における概念・理念・倫理についてを教授する。本講義を受講することにより、受講者は包括的な支援の実際と多職種連携について学び、理解を深める。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉の原理と政策Ⅰ	社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解するとともに、歴史的社会的形成体としての社会福祉の全体像をその生成過程を丹念に検証しながら把握する。また、現代社会のさまざまな課題を題材にしつつ、社会問題と社会構造の関係の視点から現代社会における社会福祉問題を理解する。さらに、福祉政策の対象とする範囲を踏まえた機能と実施過程の学びを通じて、人々の生活上のニーズに即応した政策決定、実施方法等を理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉の原理と政策Ⅱ	本講義では、社会福祉の基礎となる思想・哲学、原理、制度の発展と展開、諸外国の社会福祉を理解し、社会福祉が直面する現代的課題や人びとのニーズ等について考える力を養うことを目指す。その上で、社会福祉と関連の社会保障制度等について基礎的な知識を習得するとともに、制度・政策について自分なりに考える力を涵養することを重視する。具体的には、①社会福祉等の社会保障の意義や概念、②福祉国家の登場と発展、③社会福祉の理念・思想・哲学とその制度・政策への反映、④社会福祉のニーズ、資源と制度体系、⑤社会福祉を構築する政策手法、⑥社会福祉の行政計画、提供体制、マンパワー等のデリバリー、⑦社会福祉の財政等のファイナンス、⑧社会福祉の国際的動向と国際比較、⑨社会福祉改革の動向と課題等について講義する。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉学専門演習Ⅰ	社会福祉、介護福祉、及び関連領域の課題を分析する力を養うとともに社会福祉全般に関する基礎理論を理解する。また、社会福祉領域に限らず、幅広い知識を身につけることを目的に、海外の学生との交流等も行う。卒業研究に関しては、テーマの絞り込み、研究方法の選定、実際の調査方法等を、講義と演習を通して学んでいく。具体的には、個別ワークとグループ討議を組み合わせて、他者の意見を聞きながら、自らの考えを統合していく手法で行う。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉学専門演習Ⅱ	地域福祉およびコミュニティ・ベースド・ソーシャルワークに関わる課題設定、理論、政策、実践方法についての理解を演習方式で深めることを目的とする。実践事例に焦点を当て、学生がグループ活動を通じて主体的に考え、知識を蓄え、まとめ、発表し、議論を通して多様な見解と適切な対応法を学び合う。演習の特徴として、社会福祉協議会、社会福祉法人・施設、NPO法人等の実践を学び、活動に参画することがある。社会福祉学専門演習Ⅱでは、学生が自身の選んだ活動先について、活動内容を理解し、他の地域で参考になる事例について調べて比較することに主眼をおく。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉学専門演習Ⅲ	本演習では、これまでの社会福祉とソーシャルワークの学びを基盤として、個人や家族、地域、そして常に変化する社会における新たな問題を社会福祉の課題としてとらえること、設問を立てること、将来の実践に向けた準備を行うことを目的とする。そのために、各学生の関心領域について、個別ケースの問題から地域社会、そして制度や政策の課題へと結びつけ働きかけていく視点を大切にし、一方でマクロの視点から、従来の制度や政策が地域社会や対象者のニーズを充足し、権利を守るものであるか、社会福祉の課題を学際的かつ複眼的に洞察することができるようになることを目指す。社会福祉専門職に求められる知識と技術を身につけることに加えて、主体的に考え、互恵的に学びあうことにより、将来の実践の基盤となる専門職の価値を築いていくことを最終的な目標とする。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	社会福祉学専門演習Ⅳ	本演習では、これまでに修得した社会福祉にかかわる理論、価値、技術を踏まえて、フィールド活動を中心に、多様な福祉実践に携わり、個人的な福祉課題を社会との関係から構造的に捉えることを目指す。また、自分自身の問題意識を言語化し、課題解決に向けてどのように取り組むべきか、実践を通じて考察する。具体的には、グループまたは個人で関心のあるテーマに基づき様々なフィールド活動に取り組み、最終的には、活動を通して学んだこと、考察したことを言語化しゼミ論・卒業論文としてまとめる。また活動先への感謝の気持ちを込めて活動報告会を開催し、学生の学びを還元する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉学総合演習Ⅰ	本演習では、少子高齢化、ジェンダー不平等、格差拡大、大規模自然災害、孤独死、2025年問題、ひきこもり、自殺、不登校、児童虐待等様々な社会課題に対し、社会福祉の視点から解決策を考えることがますます重要になっていること、また、行政による従来型の福祉事業だけでなく、企業・NPO・地域等の多様な主体が、それぞれが持つ資源やネットワークを活用し、協働しながら社会課題の解決に向けて様々な取り組みを行っていることを踏まえ、それらの取組を行う福祉社会分野のフィールド先と提携し、多様な展開を見せる現場について体験学習をする「社会貢献フィールドワーク」に取り組むことを目指し、様々な主体がどのように社会の課題を見つけ、解決方法を考え、実践しているのか、具体的な事例を通して学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉学総合演習Ⅱ	本演習では、「社会福祉学総合演習Ⅰ」での学びを踏まえて、福祉社会分野のフィールド先と提携し、多様な展開を見せる現場について学習する「社会貢献フィールドワーク」に取り組む。具体的には小グループに分かれ、様々な提携先の活動の意義やミッションについて学び、実際の現場に触れ、実践することを通して、多様な解決方法について学ぶ。またそれを他者に伝えるという作業を通し、課題解決に向けた、チーム力、企画力、コミュニケーション力等「社会人基礎力」を高めることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	本科目では、ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養するため、ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解することを促し、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。また、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解するために、ゲストスピーカー（外部講師）による講話、ロールプレイ演習や事例検討等を行い、学習を深めることを行う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	ソーシャルワーカーが身につけておくべき対人援助の技術について、面接場面での傾聴やアセスメント、分析、プランニング、モニタリングについて学習する。またボランティア活動（課外）や見学実習等で社会福祉現場に赴き、利用者の置かれている状況や施設・事業の課題について考察して理解を深めることで、社会福祉の現場に即した事例の生活史の書きとりや分析を基に、そこでの現状や課題について考え新たな視点を見いだしていくことを目的とする。そのことを通して、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を習得する。また実際的な場面で、社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養うことを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉調査の応用	本科目は、調査設計と実施方法を学ぶ科目であり、社会福祉調査の基礎で学んだ知識を応用するための科目である。社会福祉に関する調査の資料やデータを収集し、それらを分析できるような形に整理する具体的な方法について学ぶことで、社会福祉調査の目的とその目的を達成するための適切な選択方法、調査計画の立案と管理、調査対象の決定の仕方、さまざまな形のデータとその取り扱い、調査結果の取りまとめについての手法を習得し、社会福祉の現場において重要視される、地域を数値でよりわかりやすく提示する能力を身につけることを目指す。これらは実践における多様なデータと接するための準備にもなる。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	統計情報処理および実習	本科目では、調査・研究の有効な手段となる「データ解析能力」に求められる基本的知識・スキルの習得を目的とする。これを実現するため，SPSS や Excel を利用した各種要約統計量の算出だけでなく、それぞれの統計量の意義を理解できるように実習を行う。同時に、データ処理に関する効率的実務運用能力習得のため、比較的大きな標本サイズのデータに対するカテゴリ変数及びそれらの組み合わせ別統計量を効率的に算出できるように実習を行う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	アドミニストレーション論	本講義では、施設、居宅、地域等の場で多様な専門職や事業者等により提供される社会福祉について、良質で効率的・効果的なサービスを実現するのに必要なアドミニストレーションを理解する力を養うことを目指す。そのためには、専門職等の実践主体のみならず、マネジメントを担う施設、事業者等の経営主体、更には制度の企画立案に当たる行政等の政策主体も含めた多様な主体間の役割分担、調整、連携・協働等として実現するアドミニストレーションへの理解が必要になる。講義においては、①社会福祉理論を踏まえたアドミニストレーションの意義、②社会福祉のステークホルダーとセクター、③政策選択の枠組みと手法、④社会福祉を領導する理念や価値、⑤社会福祉の多様な当事者関係、⑥社会福祉の課題とアドミニストレーション等を扱う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	欧米の社会福祉史	社会福祉の歴史を学ぶ意義、役割について確認し、まず社会福祉の展開過程を規定し、方向づけてきた理念や思想について理解する。その上で、社会福祉の普遍性と特殊性を体系的に理解する。特に、産業革命を世界に先駆けて実現し、資本主義の発展段階を典型的な形で歩んできたイギリスに焦点を当て、「段階論」に準じて社会福祉史を学ぶ。具体的には、資本主義前史の古代奴隷制、中世農奴制（自給自足経済、身分制）の社会体制時に慈善・慈恵を、初期資本主義（原始的蓄積段階）に救貧法を、盛期資本主義（産業資本主義段階）に「最低の救貧法」や慈善組織化を、末期資本主義の前期（金融独占期）に社会改良活動や社会事業を、後期（国家独占期）に社会保障、社会福祉事業専門技術を、それぞれ関連させながら検討する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会開発論	本科目では、社会開発の理論と意義、そして社会開発の方法と実践での展開を学ぶことを目的とする。より具体的には、社会開発の概念、必要性、そして社会開発の必要性を生み出すミクロ・メゾ・マクロの各領域における社会的背景等を中心に講義する。その上で、社会開発のための方法について、主に社会資源の開発やソーシャルアクションの方法を講義する。そして国内外における社会開発の実践事例を通じ、社会開発実践の実際について講義する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	医学概論	社会福祉士としての業務の遂行に必要な人体の構造と機能及び疾病に関する基本的な知識を習得することを目的とする。人のライフステージにおける成長・発達、心身機能と身体構造の概要、疾病、障害及びリハビリテーションの概要、国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、健康の捉え方、公衆衛生の観点から人々の健康に影響をおよぼす要因や健康課題について理解すること、社会福祉士となった後の知識の更新の方法を身につけることを目標としている。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱを通じて、保健の概念、精神の健康、精神の病気、精神疾患に伴う障がいの概念を理解する。またライフステージや領域ごとに課題があり、メンタルヘルス上の問題にまつわる諸背景について学ぶ。その代表的なものを取り上げ、家庭、学校、職場、地域等で精神の健康を維持、向上させるためにどのような取り組みが行われているかを理解することを目的とする。また精神保健福祉士として、これらの問題にどのように関与するのかについても学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱを通じて、保健の概念、精神の健康、精神の病気、精神疾患に伴う障がいの概念を理解する。またライフステージや領域ごとに課題があり、メンタルヘルス上の問題にまつわる諸背景について学ぶ。その代表的なものを取り上げ、家庭、学校、職場、地域等で精神の健康を維持、向上させるためにどのような取り組みが行われているかを理解することを目的とする。また精神保健福祉士として、これらの問題にどのように関与するのかについても学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	高齢者福祉	少子高齢化の実態を理解するとともに、そこで起こっている高齢者関連のさまざまな諸相について学ぶ。高齢者の抱える生活問題に対応した老人福祉サービスや介護保険サービスについて理解し、高齢者及びその家族への相談援助のあり方についても理解する。老人福祉制度・介護保険制度の歴史と現在の概要だけでなく、高齢者虐待防止・高齢者医療・高齢者の住まい等の諸制度、高齢者の家族に対する支援の方法、関連職種の連携の方法等について講義を行い、高齢者支援において必要となる知識を習得させるものである。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	児童・家庭福祉	子どもと家庭の福祉は近年、法律や制度、実践において、子どもの権利の視点が明確に位置づけられるようになっている。このことを踏まえ、子どもであるという存在に価値が見いだされなかった時代から、子どもの権利という考え方と実践が国際社会で生み出されてきた歴史を学ぶ。また子どもと家庭への福祉の取り組みの歴史や法制度・施策の基本的な学びを中心としながら、現代の子どもと家庭をめぐる福祉問題の社会的背景について、格差・貧困、虐待、少子化、障がい・疾病等への具体的な理解を深める。また、子どもへの権利侵害を許さない子どもと家庭への福祉の取り組みについて、現在行われている医療、保健、教育、心理、司法等の分野や協同での支援も活用しながら、一人ひとりの子どもや家庭の困難を支援・救済をどのように進めるのか、国際的な支援からも学び、考え、必要な支援を作り出すことができる専門家の育成をめざす。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉調査の基礎	本科目では、福祉社会をデザインしていくためにはある程度においてその社会を理解しなければスタートできないということ、社会調査は社会を理解するための有効な方法となるということを踏まえ、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶことで、社会福祉の実践における調査の意義、社会調査、社会福祉に関する調査を概観しつつ、その理解を深めることを目的とする。実際に調査を実施するための方法について学ぶことで、社会調査の知識と技術を身につけることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉発達史	社会福祉は、時代社会の構造的変動の過程において、必然性をもって生起する各種の社会問題を対象として営まれる実践的・応用的性格をもつため、その歴史的検証を欠いて社会福祉を具体的に理解することはできず、また社会福祉の将来を展望することも困難である。本講義では、まず権利に焦点を当て、児童福祉政策、生存権、障害者福祉政策の歴史を学び、次にテーマごとに調査、地域、義務、福祉国家、ハンセン病患者への差別の歴史を取り上げ、さらに、日本の社会福祉の歴史を通史的に理解することを目指す。また、日本の社会福祉の歴史は、その過程において非連続的側面が大きいが、断続的変化の中に一貫性を保ちながら、今日に繋がる過程を幅広く捉えながら学ぶことも目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	障害者福祉	障害のある人の生活を支えるという視点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病について、また、心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、自身と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を教授する。また、国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）に至るまでの経過・背景をふまえて理解を深め、障害福祉の思想、障害福祉制度を含めて広範な理解を促す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	社会福祉や介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、社会福祉専門職としての技能と態度を養うことを目的とする。社会福祉の活動で使用される諸理論や技術の基本を幅広く学習するほか、社会福祉や介護福祉固有の価値観・倫理やその課題について学ぶ。人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ケアワーク論	ソーシャルワークを実践していく上で、ケアワーク（介護福祉）は非常に密接な関係があり、障害児者・高齢の利用者や介護家族への支援にはケアワークの知識は必要不可欠である。ここでは、介護を必要とする人への理解はもとより、社会福祉士としてケアワーク（介護福祉）の最低限知っておくべき知識を総合的に学ぶ。特に、社会福祉士に関する実習で、直接障害児者や高齢者の要介護者への支援や地域包括支援センター等で要介護者を抱える家族に対する支援を希望する場合は、本講義で要介護者に対する介護の方法、認知症ケア等具体的な方法論を学ぶことを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	精神医学と精神医療Ⅰ	精神医学と精神医療Ⅰ・Ⅱを通じて、統合失調症・物質関連障害・感情障害・摂食障害・各種不安障害・発達障害等、各精神疾患の要因に対する生物・心理・社会的なとらえ方を学び、そのうえで各疾患の病態、医学・心理・社会的なアプローチについて理解する。また精神科医療のはたしている役割と入院医療等に関する関連法規、精神保健福祉士の役割について理解する。これらを通じて精神障がいのある人のリカバリーに資する支援とは何かを学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	精神医学と精神医療Ⅱ	精神医学と精神医療Ⅰ・Ⅱを通じて、統合失調症・物質関連障害・感情障害・摂食障害・各種不安障害・発達障害等、各精神疾患の要因に対する生物・心理・社会的なとらえ方を学び、そのうえで各疾患の病態、医学・心理・社会的なアプローチについて理解する。また精神科医療のはたしている役割と入院医療等に関する関連法規、精神保健福祉士の役割について理解する。これらを通じて精神障がいのある人のリカバリーに資する支援とは何かを学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	精神保健福祉の原理Ⅰ	この講義では、まず、「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について説明する。また、精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。さらに、精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。そして、精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築くことを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	精神保健福祉の原理Ⅱ	この講義では、まず、精神保健福祉士が資格化に至った経緯を説明する。続いて、精神保健福祉の原理と理念及び関係性について解説を行い、さらには、精神保健福祉士の機能と役割について、精神保健福祉士法や業務特性、職域や業務指針等に基づいて丁寧に見ていく。また、精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的 アイデンティティの基礎を築く。さらに、現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。そして、精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保健医療と福祉	本科目では、保健医療の動向を学ぶことに加え、保健医療政策や制度、保健医療サービス、あるいは保健医療におけるソーシャルワークと多職種連携協働の他、医療福祉問題と社会的な対応及び個別的支援のあり方等保健医療と福祉全般についてを学習し、理解することを目的としている。また、それらの理解を通じて保健医療政策・制度全体への学びを深めると同時に、歴史的な医療福祉問題と社会的対応、及びソーシャルワーカーをはじめとした、様々な職種による支援のあり方を学習する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	ソーシャルワーク理論や支援過程やソーシャルワークの実践モデル・アプローチ、ソーシャルワークの過程と知識と技術（面接技術他）について理解をする科目である。さらに、地域におけるソーシャルワーク・ケアマネジメント、そして職種間連携の方法や、スーパービジョンの方法についても触れ、実践的なソーシャルワーク方法論について講義を行うとともに、いくつかの実践事例を講義で扱い、ソーシャルワーク実践についての理解を深める。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	本講義は、ソーシャルワークの理論と方法を学び、ソーシャルワークの概念の基盤を学び、ソーシャルワークの形成過程を理解し、ソーシャルワークの理念について、事例を通して学ぶことを目的とする。講義にあたっては、「人間：環境：時間：空間の交互作用」というキーワードを機軸にして教授する。社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、①より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する、④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）（精神）	この講義では、まず、精神保健福祉分野におけるソーシャルワークについて、その構成要素や展開過程を説明して、基本的視点を確認する。続いて、ソーシャルワークの過程を詳述して援助関係の形成や面接技術について説明する。さらには、精神保健福祉分野における家族支援の実際について見ていく。精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を説明する。また、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解するとともに、精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（精神）	この講義では、まず、チームアプローチについて説明し、続いて、組織運営管理であるソーシャルアドミニストレーションの展開について論じる。さらには、コミュニティワークやソーシャルアクションの意義や展開について解説し、関連分野における精神保健福祉士の実践展開について講じる。また、精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。さらに、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。そして、精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	本科目は、ソーシャルワーク実習を履修する前に必要なソーシャルワークについての知識、価値、倫理等の概要を学ぶことを目的としている。社会福祉士とはいかなる専門職であるかを理解するための基本的な知識を習得し、次年度の実習に向けて各自のモティベーションを確認することができるようにするものである。そのために、全体授業とクラス別授業を並行して実施しながら、ソーシャルワーク実践の理論と技術の深化を目指していく。具体的には、「ソーシャルワーク実習の手引き」（本学発行）に基づいて、現場実習の必要性、ソーシャルワークとケアマネジメント、ケアワークとの違いと実際、特定の分野の施設・機関を選定し、そこで実習をする意味、および実習を実施するにあたって学んでおくべき知識の整理を目指す。さらに、事前訪問や実習計画・実習記録の書き方等、実際の実習に必要な事項やスキルについても学ぶ。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習Ⅰ	地域共生社会の実現や地域包括ケア推進の潮流において、実習においては、地域における多様な福祉ニーズや多職種・他機関協働、社会資源の開発等の実態を学ぶことができることを最終的な目的とする。具体的には、臨床的な実践現場との実質的な出会いとなる。実習先の地域、援助機関、実習施設内外の専門職、利用者等の関係者との関りで実践を見学し、さらなるソーシャルワークについての学びへの動機づけとする。 ソーシャルワークのミクロ・メゾレベルにおける具体的かつ実践的な専門技術等を体感し、ソーシャルワークの価値・倫理と結びつけ、ソーシャルワークの基本的視座を習得する。児童・高齢者、障害、地域等、実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）の地域におけるソーシャルワーク機能と施設・事業者・機関・団体・地域社会（ボランティアや家族会を含む）等との関係を理解できるようにする。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	刑事司法と福祉	本科目では、刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解した上で、社会福祉士及び精神保健福祉士の社会福祉専門職としての役割や、関係機関等との連携に関する基本的な知識を習得し、刑事司法の領域における社会福祉実践について学生自身の視点を身につけることを目指していく。具体的な内容として、現代社会における刑事司法の動向と、これを取り巻く社会環境の実態を把握するとともに、少年司法、更生保護制度、医療観察制度についてその理念を捉え、制度や手続き、担い手の役割等を学ぶ。さらに、犯罪被害者への支援についても理解することにより、刑事司法のさまざまな領域における社会福祉実践について、権利擁護、多職種・多機関連携の視点も踏まえて学んでいく。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	権利擁護を支える法制度	障害者等の差別や虐待は、残念なことに後を絶つことがなく報告されている。また「障害」の概念や「障害者観」が以前とは変わりつつある今でも、関係者が知らない間に「差別」に結びついているケースも多く見られ、また社会の脆弱なシステムが「虐待」環境を生み出していることも多々あると考えられる。本科目では、なぜ今障害者等の人権や権利が叫ばれるのか、そもそも「障害」とは、「差別」「虐待」とは何なのか、といった障害者等における人権や権利擁護の問題と課題について、具体的な事例等について取り上げながら一緒に考え、知識や理解を深めることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会保障Ⅰ	本科目では、①社会保障の概念や対象、理念について制度の展開過程、体系と概要について理解する、②社会保障制度の役割、意義、課題や財政について理解する、③社会保険制度だけではなく民間保険制度も理解し、その関係について学ぶ、④わが国だけではなく主要な諸外国における社会保障制度について理解することを目的とする。特に、現代社会における人口動態・経済環境・労働環境の変化を理解し、社会保障の概念・役割・意義・理念・対象等を学ぶ、社会保険と社会扶助の関係、社会福祉と社会保障の関係を理解し、公的保険制度と民間保険制度の関係を学ぶことを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会保障Ⅱ	本科目では、①社会保障の概念や対象、理念について制度の展開過程、体系と概要について理解する、②社会保障制度の役割、意義、課題や財政について理解する、③社会保険制度だけではなく民間保険制度も理解し、その関係について学ぶ、④わが国だけではなく主要な諸外国における社会保障制度について理解することを目的とする。特に、社会保障Ⅰで学んだことを基本として、我が国の社会保障制度の体系、医療保険制度、介護保険制度、年金保険制度、労災保険制度の社会保険制度の具体的な内容等を理解し、社会保障Ⅰで学んだ生活保護制度や社会福祉制度、社会手当制度の具体的内容の理解を俯瞰する。そのうえで、諸外国における社会保障制度の現状と課題を理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	すべての住民にとって諸活動に参加する基礎単位といえる地域社会について、生活を営むなかで様々な問題が発生どのような問題があるかを把握し、その発生の構造を理解したうえで、基盤としてのコミュニティが顕在的・潜在的にもつ問題解決能力を喚起しながら地域共生社会づくりを進める視点を養うため、地域福祉のステークホルダーである様々な専門機関・団体や公的機関、NPOやボランティア団体、当事者組織、地縁組織、住民等が、地域問題の解決にどんな役割を果たしているのかを学ぶことで、将来、社会福祉援助技術専門職となる者が知悉しておくべき知識を身につけることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	地域福祉の推進方法に焦点を当て、主にコミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークについて概説する。地域福祉の推進団体である社会福祉協議会等では、伝統的にコミュニティワーカーを配置し住民主体による地域の課題解決を促してきたこと、近年ではそれに加えて地域生活課題の複雑化・複合化の傾向を受けてコミュニティソーシャルワーカーの配置も進んでいること、地域共生社会の実現に向けてより多様な主体による多様なアプローチの開発が求められていること等を理解し、説明ができる能力を身につけることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	貧困に対する支援	社会福祉は貧困問題の克服をその課題としてスタートし、発展してきた。公的扶助はまさにこの貧困問題に対応する制度であり、社会保険とともに私たちの生活が困難に陥らないよう、また陥った時に最低生活を保障するために社会に埋め込まれているシステムの一つである。本講義では、「貧困」や貧困状態に置かれた人々の抱える問題について理解を深めた上で、公的扶助の具体的な制度である生活保護制度の仕組み・動向を把握し、公的扶助制度の現状と直面している課題を学ぶ。また、「第2のセーフティネット」と呼ばれる低所得層・生活困窮者に対する支援制度（生活困窮者自立支援法、生活福祉資金貸付等）や支援課題についても学習する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	福祉サービスの組織と経営	本科目では、福祉サービスを提供する組織や団体を理解するとともに、施設・事業所の経営やサービス提供・開発における諸理論や、リスクマネジメントを含む福祉サービスの管理運営の方法を理解する。また、チームコミュニケーションと多職種協働、適切なサービス提供体制、働きやすい労働環境整備の実際について理解することで、社会福祉制度の転換期において、利用者に選ばれる高質なサービスを提供するために必要とされる福祉サービスの経営や運営管理の在り方について学習する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	質的調査法	本授業の目的は、質的調査法に関する理解を深めるとともに、実際のフィールドワークやインタビュー調査を実施するために必要不可欠となる実践的な知識を習得することにある。本授業では、質的調査に関する方法論について検討し、さまざまな質的データの収集や分析方法について解説していく。具体的には、参与観察法、フィールドワーク、インタビュー法、ライフストーリー法、会話分析、ドキュメント分析（内容分析）について方法論的な経緯や特徴を整理した上で説明していく。なお、本授業を履修することにより、質的調査の技法だけでなく、実査に入る前段階である「問いを立て、その問いに見合った技法を選択する局面がデータ処理の際にいかなる意味を持つのか」を理解できるようになることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会統計解析法	本科目では、統計的データの分析に必要な基礎的知識を前提とした上で、多変量解析法の考え方と用い方について学びを深める。社会学分野や社会福祉分野、心理学分野の標本調査から得られたデータの分析に応用することを特に重視する。SPSS等のソフトウェアの操作法についても解説し、実際に統計的データを分析しながら授業を行う。標本調査によって得られた統計的データに基本的な多変量解析法を用いた分析ができるようになることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会統計学	本科目では、統計的データの分析に必要な推測統計学の基礎的な知識と手法を学んでいく。社会学分野や社会福祉分野、心理学分野等の標本調査を前提とし、そこから得られたデータを仮説検証や理論構築等の分析に応用することを特に重視している。SPSS等のソフトウェアの操作法についても教授・解説し、実際に統計的データを分析しながら授業を行う。標本調査によって得られた統計的データの初歩的分析ができるようになることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ＳＤＧｓ入門	The objectives of this course are to help students study Sustanable Develoment Goals (SDGs) and global cultural issues. Students are expected to deepen their understanding of the concept of globalism and its consequences as well as to improve communicative skills in English in order to be actively involved in intercultural communication. この講義では、国連サミットで採択された国際目標である「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」をテーマとし、国際社会の抱える様々な課題について理解を深めることを目的とする。国際化とその影響について、ディスカッションやプレゼンテーション等の英語コミュニケーションスキルを使用して、実践的に学びながら、多文化共生社会において必要なコミュニケーションスキルの向上を目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ケアマネジメント論	ケアマネジメントは利用者と様々な社会資源を結び付ける事によって、利用者やその家族が地域社会の中で、より安寧な生活を継続していけるよう支援していく過程・システムである。本講義では、ケアマネジメントの歴史や理念を学び、「在宅ケア」を中心に具体的な事例を通し、ケアマネジメントの基礎的知識の習得を目指す。内容としては以下の５点を主眼とした講義である。１．ケアマネジメント登場の歴史と背景、日本の介護保険制度にケアマネジメントが取り入れられた背景　２．介護保険制度の概要　３．ケアマネジメントの機能と構成要素　４．ケアマネジメントの過程と展開方法　５．地域包括支援センターの役割　６．ケアマネジメントの現状と課題について	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	現代社会とメンタルヘルス	メンタルヘルスに関する課題については、必ずしも既存の福祉制度や医療制度の中で対応しきれない今日的な課題が多く存在する。本講義においては現代の社会の中で、既存の制度や枠組みでは十分対応されていない、支援の網の目からこぼれてしまう課題について理解し、それらへの支援のあり方について検討していくことを目的とする。具体的には薬物依存の問題、アウトリーチ支援の課題、スティグマや差別、身体疾患や外傷にともなうメンタルヘルス等に関して、精神保健福祉士の通常カリキュラムに加えてアドバンスな内容について講義を行う。 （オムニバス方式／全15回） （5 稲沢公一／5回） 現代社会において急増しているメンタルヘルス問題の一つがアディクション（嗜癖）である。アディクションとは、アルコールをはじめとする薬物、ギャンブル、ゲーム等への依存症、摂食障害や共依存等、幅広い分野において自らのコントロールを失ってしまう状態におちいることを指している。本科目では、アディクションとは何か、アディクションに陥ってしまう心理状態とはどのようなものか、アディクションに陥るとどのように認知のゆがみが発生するのか、アディクションからの回復に向けた道筋はどのようなものか、回復に必要なセルフヘルプ・グループとは何か、そこで行われているミーティングの意味とは何かといったことを講じる。 （13 吉田光爾／5回） メンタルヘルスに課題を抱える人々は、しばしば自ら助けを求めることができず、支援の網の目からこぼれがちになってしまうことが知られている。申請主義を前提とした我が国の社会福祉制度では、生活に困難を抱える人ほど、困窮のままに取り残されてしまうという問題がある。近年これらに対して、アウトリーチ支援の必要性が提唱されている。本授業の中盤ではこのアウトリーチ支援に着目し、各分野での取り組みについて紹介をしていく。 （20 的場智子／5回） 大きく以下１～５の課題をたて、それらについて論じていく １．社会的ひきこもりをめぐる課題と支援 ２．精神障害に対する偏見、差別について ３．我が国における自殺の現状と対策 ４．身体疾患や外傷に伴う精神的被害 ５．家族に関連する精神保健の課題	オムニバス方式
専門科目	学科専門科目	選択科目	国際福祉開発交流	The objectives of this course are to help students understand the roles and issues of social enterprises in Japan and in other countries. Students will be introduced to global examples of current issues so that they can conduct their own research and participate freely in class discussions. この講義では、社会問題の解決を目的として収益事業に取り組む日本国内の企業、および諸外国の社会的企業をテーマとし、それぞれの国における社会の抱える固有の課題、あるいは共通の課題への理解を深めるとともに、その解決策への理解を深めることを目的とする。現代の国際社会における企業とその取り組みや、それらが抱える課題について、学生自身によるリサーチや受講者間でのディスカッションを通して理解を深めることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	災害と福祉	近年、毎年のように地震や台風・豪雨災害が多大な被害を引き起こしていること、「国難」級の被害が想定されている南海トラフ地震や首都直下地震も高い確率で発生が見込まれており、いつ、どこで起きてもおかしくない災害にいかに備えるか、柔軟で実効性の高い救助と支援の態勢をどうつくりあげるかは、日本社会にとって喫緊の課題となっている。その体制づくりとして福祉分野における取り組みがますます重要になっていることから、この科目では「災害時要配慮者」の避難行動や避難生活の支援、被災者の生活再建を支援する災害ボランティア活動の拡大、被災者への生活福祉資金の貸付、一般避難所の避難者等に対して福祉的観点からの相談支援を行う災害派遣福祉チーム（DWAT）活動、さらには生活支援相談員による生活再建への寄り添い支援等、福祉の視点から生活再建のあり方について関心を高め、知識を深めることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ジェンダーと福祉	本講義の目的は、男性、女性等という切り口で社会福祉をとらえなおすことを通し、これまで見えなかった福祉のさまざまな生活課題を男性優位の社会システムとの関係から解き明かそうとするものである。子ども、母子・父子、障がいを持つ人々、貧困、性的搾取、福祉人材の養成等、いくつかのトピックをとりあげる。男性、女性等という切り口で現代の社会福祉の課題を読み解く。到達目標は、社会福祉の利用者がもつ様々な生活問題を男性、女性等といった切り口で読み解くことができること、また、現代社会の福祉的課題を男性女性等といった性差の視点から分析し、日常の生活や福祉実践にいかすことができることである。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	スクールソーシャルワーク論	福祉と教育の視点から子どもを支援するための考え方や方法を学ぶことが主たる目的である。また、今日におけるスクールソーシャルワークの必要性と意義を理解し、学校と社会の状況をふまえ、子どもや家庭を支援するための方法を学ぶことに焦点を当て学ぶ。到達目標は、（1）さまざまな状況におかれた子どもおよび過程の現状を理解することができる、（2）スクールソーシャルワークが求められる背景について、歴史的発展過程を踏まえて理解することができる、（3）学校におけるソーシャルワーク実践の意義について理解し、実践方法を検討することができる、である。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルアクション論	本講義は、社会資源の創出，社会参加の促進，社会環境の改善，政策形成等に対応するソーシャルアクションについて幅広く理解する。とりわけ、制度によって対応可能な場合に恣意的に把握される制度上のニーズではなく、制度の間にあったり、既存制度では対応ができないような生活上の困りごとを含む様々な福祉ニーズに対応する「サービス開発」に着目し、その理論のみならず実践的取組をとおして、今日的福祉課題とそれに対応するソーシャルワークの役割を幅広く理解する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	人間の幸福とペット	本科目の主たる目的は、ライフモデルの視点から、なぜ人はペットを飼うのか、人間の幸福にペットがどのような役割を果たしているのかを探索し、理解することである。また、ソーシャルワーク援助職が人とペットとの関係を学ぶ意義について、多頭飼育崩壊等も例に考察する。それ以外にも、人類の歴史上における人と動物の関係や、人がペットを飼育する理由について、また、飼い主にとってのペットの死の意味、その際の心身のストレス反応、家族や援助専門職者等の周囲の人々ができるサポート・支援、動物介在療法、人間に対する暴力と動物への暴力の関連についても学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	バリアフリー論	人間の多様性と「バリアフリー」について考えることが主たる目的である。障害者の問題から始まった「バリアフリー」という考え方は、障害者だけの問題にとどまらず、より広範囲な社会問題（障害者、LGBT等様々なマイノリティー）を提起している。それら問題を抽象的な理解ではなく、より具体的な問題としてとらえ、自分自身がどう向き合うのか考えていく。「バリアフリー」の歴史、現状等について理解し、これからの社会の在り方について、自分の意見を述べ、他者と議論することができることが目標である。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	福祉ＩＣＴ	近年、福祉実践現場では、様々な形でICTが活用されている。データ管理システムや、介護ロボット等、普及しつつあるものの、一方で、解決できていない課題も多い。本科目では、福祉実践においてICTを効果的に活用するために、実践現場側（ニーズ）と、開発側（シーズ）の連携が必要であること、現状の把握、ニーズとシーズの連携について学び、ゲストスピーカーの講話や演習を通して、福祉実践におけるICT活用についての理解を深めることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	居住福祉論	居住福祉と居住の権利の考え方を基礎に、とりわけ低所得層が直面する住宅困窮問題の実態と背景を理解し、解決のための住宅供給政策と居住支援のあり方について学ぶことで、人権の観点から日本における住宅困窮問題の現状について説明することができる能力のほか、住宅と労働、ソーシャルキャピタルの関係や、入居者、住宅供給者、政策策定者といった異なる立場の視点で住宅供給について検討し、低所得世帯の住宅保障の必要性について説明することができる能力を身につける。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	国際社会福祉論Ａ	本科目では、近年激増している在日外国人にまつわる諸問題に関する理解を深めることを目的とする。具体的には在日外国人の人口や来日理由を概観した上で、在日外国人に関わる諸問題（送り出し国における送り出し理由や受入国〔日本〕における受入れ理由）等、主に在日外国人を取り巻くマクロ～メゾ領域における諸問題や、その要因について教授し、受講生間においてそれら諸問題の縮減方法について検討する。関係機関・団体に訪問した学習も含む。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	国際社会福祉論Ｂ	本科目では、近年激増している在日外国人に関する理解を深めることを目的とする。具体的には在日外国人の人口や来日理由を概観した上で、関係するデータから在日外国人の生活のありようや生活のしづらさ（貧困、差別等）等、主に在日外国人を取り巻くミクロ領域における諸問題やその要因、及びこれらを縮減するためのソーシャルワークの方法を教授する。そして、事例を用い受講生間で在日外国人の生活のしづらさ縮減のためのソーシャルワークの方法を検討する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会調査および実習Ⅰ	本科目では、調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全プロセスについて、体験を通じて学習する。具体的には、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象の選定、サンプリング、調査の実施、インタビュー等のフィールドワーク、集計、分析、仮説検証、報告書の作成等に取り組む。グループ単位で調査班を設定し、「社会福祉」にかかわる身近な問題意識からテーマを決め、先行研究の整理、リサーチクエスチョンの探索と仮説設定、調査票作成に取り組む。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会調査および実習Ⅱ	本科目では、各学生の関心テーマに基づきグループを編成した上で、講義とディスカッション、調査プロジェクトへの取組み、発表を行うことにより、一連の社会調査のプロセスを通して批判的思考と科学的探究心を磨いていく。具体的には、各学生・グループの興味・関心のある社会福祉にかかわるテーマに基づいて問題を抽出・設定し、適切な調査方法を用いて、その問題の一端を明らかにする。社会調査および実習Ⅰの授業（春学期）で学んだ調査の基礎や実施方法を踏まえて、夏休み中に各学生・グループで収集した調査データを用い、報告書作成までの作業を行う。また、データを分析するための基本的な統計学的スキルと報告書作成方法の習得、プレゼンテーション能力の向上も目指していく。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉国際体験演習Ａ	本科目では、社会福祉に関わる国際的な諸問題を理解し、その縮減・支援方法を国内外のフィールドにおいて体系的に体得することを目的とする。このため、本科目では事前学習として訪問先フィールドの状況、特に社会福祉的な課題が生じるミクロ・メゾ・マクロに至る社会的な背景等を学習した上で、国内・海外の社会福祉実践フィールドにおいて、見学や講義を通じて、諸問題の実態と対応方法を体系的に学習する。そして履修生自身がこれらの問題の対処方法を立案する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉国際体験演習Ｂ	本科目では、社会福祉に関わる国際的な諸問題を理解し、その縮減・支援方法を国内外のフィールドにおいて体系的に体得することを目的とする。このため、本科目では事前学習として訪問先フィールドの状況、特に社会福祉的な課題が生じるミクロ・メゾ・マクロに至る社会的な背景等を学習した上で、国内・海外の社会福祉実践フィールドにおいて、見学や講義を通じて、諸問題の実態と対応方法を体系的に学習する。そして履修生自身がこれらの問題の対処方法を立案する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	精神障害リハビリテーション論	本科目では、精神障害とは何か、精神科リハビリテーションの歴史、概念、基本原則を理解することによって、精神科リハビリテーションの基礎的知識や精神保健福祉士の役割を学ぶことを目的とする。これらのリハビリテーション技術を学ぶことで、精神障がいのある方が地域での豊かな暮らしやリカバリーを実現するための能力を涵養する。具体的には、精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則を理解すること、精神障害リハビリテーションの構成及び展開を理解すること、精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関、精神障害リハビリテーションの動向と実際を理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	精神保健福祉制度論	本科目では、精神障がいのある人に関する制度・施策の全体像を概観し、続いて、精神障害者の医療に関する制度について、精神保健福祉法や医療観察法に基づいて説明する。さらには、精神障害者の生活支援（障害者総合支援法や居住支援の各種制度）や就労支援（障害者雇用促進法）、経済的支援（生活保護制度）に関する制度を説明していく。これらを通じて、精神障害のある人を支える手段としての制度的な技術の運用能力を涵養する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	現代のソーシャルワーク実践においては、ソーシャルワーカーは社会の中で複合化・複雑化した様々な福祉課題への対応が求められている。このような課題に対応するためにソーシャルワーカーは、様々なレベルにおいてクライエント、同僚のソーシャルワーカー、他機関のソーシャルワーカー、他分野の専門職、さらには専門職に限らない多様な主体との連携・協働を通じた包括的な実践を展開する必要があり、そのような包括的な実践に向けたスキルの習得が必要不可欠である。本科目では、このようなソーシャルワーカーに求められる多様な主体との連携・協働に向けた様々な技法やアプローチについて理解をすることを目指している。またディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに即して、個人の尊厳を重視し支援する能力や多様な人たちとコミュニケーションする能力を伸ばし、地域を基盤としたソーシャルワークを説明できることもその目的である。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	本演習では、ソーシャルワーク援助専門職としての社会福祉士に求められる専門的な相談援助の際に必要とされる価値・知識・技術を支援プロセスに沿って実践的に学ぶことである。本科目は社会福祉士取得のための資格必修科目であり、演習形式（個別作業・グループワーク・ロールプレイ等）で進められる。個別指導や集団指導を通して、ロールプレイ等を行い、具体的な事例を使用して支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解することが求められる。地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することも目的である。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	本演習では、これまで得たソーシャルワークの知識・技術の学びをさらに進め、ソーシャルワーク実習での個別的な体験を一般化し、より実践的な知識・技術へと高めるため、社会福祉に関わる理論・知識、価値・倫理、技術・技能を演習形式により応用展開できるようにすることを目的とする。「人間：環境：時間：空間の交互作用」というキーワードを基軸に、実践事例に焦点を当て、学生が主体的に考え、まとめ、発表し、議論を通して多様な見解と適切な対応法を学びあう。そのため、小グループに分け、グループ学習・活動を重視する。学生はこれまでのソーシャルワークの学びの集大成として学習成果をまとめ、講師は社会福祉専門職としての意識が高まるように指導する。このための題材として、ソーシャルワーク演習Ⅳでは、メゾ（制度や施設の運営や体制づくり、地域のネットワーキング等）やマクロ（政策・計画立案等）の各レベルの事例を中心に学習する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	ソーシャルワーク実習指導Ⅰに併せて、ソーシャルワーク実践の理論と技術の深化をめざす。具体的には、「ソーシャルワーク実習の手引き」に基づいて、現場実習の必要性、ソーシャルワークとケアマネジメントやケアワークとの違いと実際、特定の分野の施設・機関を選定し、そこで実習をする意味、およびそこで実習するにあたって学んでおかなければならない知識の整理をめざす。さらに、事前訪問や実習計画・実習記録の書き方等、実際の実習に必要な事項やスキル等についても学ぶ。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ及び実際の現場実習経験を受けて、事後指導として、さらにソーシャルワーク実践の理論と技術の深化をめざす。具体的には、「ソーシャルワーク実習の手引き」に基づいて、最初に現場実習の反省、ふり返り、特に実習中に受けたスーパーバイスやアドバイスの意味の確認や、実習中には解決できなかった疑問や問題の整理等を行う。次に、実習の成果について自己評価と実習先評価（他者評価）とについて考察し、実習報告書を作成する。さらに、今後の自己のためにも、後輩たちや実習先のためにも意義のある実習に関する実習報告会を行う。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習Ⅱ	2年次に実施するソーシャルワーク実習Ⅰを踏まえて、より深く施設や機関、地域におけるソーシャルワークを理解できるようにする。到達目標としては、①実習をおこなう施設・機関等の根拠法、機能、業務内容について説明できる、②実習をおこなう施設・機関等を利用する地域や利用者の実態、生活ニーズ等について説明することができる、③実習をおこなう施設・機関等においておこなわれている関連業務の内容や他職種の役割等について説明できるようにすることである。社会福祉士として即戦力になるような実習を目指すものである。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神）	精神保健福祉士の専門援助技術（ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等）と精神科リハビリテーションの方法について、実技、指導を中心とする演習形態により実施をする。現実の事例を中心に取り上げ、個別指導、集団指導を通して、さまざまな手法の理解を深めることを目的とする。主に面接実技と記録実技の指導を中心に行う。受講生が事例等の演習を通して、自分自身で学習し、判断し、主体的に行動する態度を身につけることを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）（精神）	精神保健福祉士の専門援助技術（ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等）と精神科リハビリテーションの方法について、実技、指導を中心とする演習形態により実施をする。現実の事例を中心に取り上げ、個別指導、集団指導を通して、さまざまな手法の理解を深めることを目的とする。集団場面での指導のための技術および事例検討を通じて障害への理解を深められるよう指導し、受講生が事例等の演習を通して、自分自身で学習し、判断し、主体的に行動する態度を身につけることを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神）	ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。現場実習の際に必要となる、体験の理論化、援助の概念、体系的なアプローチの仕方について、理解を深める。具体的には、精神保健福祉士の実習に入るための基礎的な準備性を高めることを目的に、精神保健福祉士の役割、精神科医療や障害福祉制度の確認、実習に行くにあたっての心構え、利用者とのコミュニケーションに関する留意点等について理解を深め、実習前の準備性を高めることを目的とする。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	価値と倫理に基づく実践史	歴史を振り返ると、「その者に価値があるか否か」「目的に対する手段として役に立っているかどうか」等の価値判断で、人びとを排除したり、人びとの生活を拘束したり、人びとの人権を侵害し、苦しめてきた史実に直面する。本講義では、社会福祉学を学ぶ者がそのような史実を正確に理解し、これまでどのような「価値」が「個人」と「社会」に影響を与え、それがどのように変化し、どのような実践が展開されてきたのかを分析することが出来る能力を備え、時代と共に変化する価値とそこで展開された人間生活の秩序に基づいた実践の歴史を理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	現代的福祉課題Ａ	これまで社会福祉制度・政策、及びソーシャルワーク実践は、主に高齢・障害・低所得等社会福祉諸法・諸制度で発生が想定されている社会問題や社会福祉問題に対応してきた。しかし社会変動の影響を受け、従来のアプローチでは解決に至らない諸問題や社会福祉的な支援が届いていないケースも散見される。本科目では、新たな社会福祉問題等を一つ取りあげ、その原因や社会的要因、それらを解消させるための支援方法について講義する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	現代的福祉課題Ｂ	これまで社会福祉制度・政策、及びソーシャルワーク実践は、主に高齢・障害・低所得等社会福祉諸法・諸制度で発生が想定されている社会問題や社会福祉問題に対応してきた。しかし社会変動の影響を受け、従来のアプローチでは解決に至らない諸問題や社会福祉的な支援が届いていないケースも散見される。本科目では、新たな社会福祉問題等を一つ取りあげ、その原因や社会的要因、それらを解消させるための支援方法について講義する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉の権利	本科目では、社会福祉制度のありようについて、人権や権利の関わりに焦点をあてながら検討を加えていく。「人権の保障ということが前提とされているかどうか」。この点が、19世紀的な慈善活動と福祉国家成立以降今日に至る社会福祉制度との大きな違いの一つであることについて異論はないであろう。ただ一言に人権といっても、その意味内容は時代によって変遷してきているところもあり、その捉え方には実は多様性がある。社会福祉の価値の基盤となっている人権や権利の考え方がどのように登場し、それが生存権としてどのように制度化されていったのか、そしてさらにその後の展開を通して、今日どのようなことが論点となってきているのかについてを理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	制度・政策・施設史	社会福祉学は、社会福祉の価値を踏まえ、その固有の視点である政策と実践、およびその相互連関システムとして成り立つものである。政策とは、法制度に留まらず、計画、参加システム、サービス供給体制等の政策を含むものであり、実践とは、問題の解決に向けた個人支援である。今日では問題が発生している地域社会への働きかけを行う地域支援が強調されているが、歴史的には、多くの支援が施設内で行われていた。本講義では、法制度や政策の歴史を踏まえながら、さまざまな形態の福祉施設の歴史を学び、日本の社会福祉の特質を理解することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	医療ソーシャルワーク論	近年わが国の医療福祉環境は、地域包括ケア体制の推進等によって、医療と福祉の垣根が取り除かれたといっても過言ではない。本講義では、現在議論されている地域医療構想を念頭に入れつつ医療環境の歴史的変化を踏まえ、現在の医療環境を理解すると共に、医療福祉の理念や医療ソーシャルワークの理解を図る。また、あらゆる疾患から派生する諸問題を通して、医療ソーシャルワーカーの業務の実際を検討すると共に医療・福祉の専門職との連携や協働のあり方について言及する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	医療福祉演習Ⅰ	本演習は、4年次の医療福祉専門実習Ａ・Ｂに向けた技術的基礎を形成するため、保健医療分野でのソーシャルワーカーの業務について、基礎知識を学ぶことを目的とする。患者の疾病、症状、治療法、処方薬、予後、障害の発生と生活への影響を一連のものとして理解するほか、専門職の業務、医療技術および技術システムや生活問題のアセスメント、基礎的医療事務の流れ、社会資源を理解し、統合的に応用することができる能力を身につけることが期待される。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	医療福祉演習Ⅱ	本演習は、4年次の医療福祉専門実習Ａ・Ｂに向けた技術的基礎を形成するため、保健医療分野でのソーシャルワーカーの業務について、面接を中心とした専門的援助技術を習得すること目的とする。病院相談室でのインテーク面接の技能や生活史・家族歴聴取のための面接技術、情報提供面接の技術、退院計画の策定、家族問題についてのアセスメントに関する技能、入院・外来・在宅毎の援助計画立案のほか、他職種との連携共同の技能を身につけることが期待される。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	実習指導の理論と方法	介護福祉士養成教育について理解を深め、介護実習指導に必要な知識・技術を習得し、効果的な実習指導方法を身につける。本授業は、厚生労働省が規定する介護福祉士養成における「実習指導者講習会」に準じた授業内容とし、受講学生が将来介護福祉士として一定期間の実務経験を積んだのち、実習指導者としての資格を得られる科目である。具体的には①介護の基本、②実習指導の理論と実際、③介護過程の理論と指導方法・スーパービジョンの意義と活用及び学生理解、④実習指導の方法と展開、⑤実習指導における課題への対応、⑥実習指導者に対する期待についての講義・演習を行い、理解することを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	地域医療福祉専門実習Ⅰ	本科目では「社会福祉現場実習」「精神保健福祉現場実習」を終え、それぞれの卒業後の進路や受講生の関心に合わせて、正規の実習ではいけなかった事業所、関心のある取り組みを行っている事業所、医療機関、施設等おいて、卒業後の進路（進学・就職）で活用できる知識・技術を修得することを目的とした実習・インターンシップを希望する学生に対し、実習計画策定や実施後の課題の整理等を中心にした事前・事後指導を行う。実習日数や期間について、実習先と実習課題の達成に向けて必要な内容でやりとりを行う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	地域医療福祉専門実習Ⅱ	本科目では「社会福祉現場実習」「精神保健福祉現場実習」を終え、それぞれの卒業後の進路や受講生の関心に合わせて、正規の実習ではいけなかった事業所、関心のある取り組みを行っている事業所、医療機関、施設等おいて、卒業後の進路（進学・就職）で活用できる知識・技術を修得することを目的とした実習・インターンシップを希望する学生に対し、実習計画策定や実施後の課題の整理等を中心にした事前・事後指導を行う。実習日数や期間について、実習先と実習課題の達成に向けて必要な内容でやりとりを行う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	本演習の目的は、これまで学んできたソーシャルワーク演習Ⅰから Ⅳまでの演習で習得した内容を基本にし、その具体的な応用として学生自身が取り組んできた社会福祉現場での実習等を事例に、実習での学びをソーシャルワークの立場からさらに深めていくことである。また、各受講者が3年次の社会福祉実習で学んできた「個別援助」「集団援助」「地域援助」「スーパービジョン」等の内容を、福祉事務所等の公的機関、知的障害施設や身体障害施設の障害者分野、高齢者施設等の高齢福祉分野、児童養護施設等の児童福祉分野、社会福祉協議会等の地域福祉分野での実習事例等を用いて、スーパービジョンを含めたソーシャルワークを具体的かつ総合的に理解することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神）	精神保健福祉士の専門援助技術（ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等）と精神科リハビリテーションの方法について、実技、指導を中心とする演習形態により教授する。現実の事例を中心に取り上げ、個別指導、集団指導を通して、さまざまな手法の理解を深めることで、受講生が事例等の演習を通して、自分自身で学習し、判断し、主体的に行動する態度を身につける。本演習ではこれまで学んだ援助技術をもとに、個別課題への取り組みを中心に、関連する法制度やサービスも含めて理解することを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神）	本科目は、精神保健福祉士として必要な知識、技術、関連知識に関する理解を深めることを目指すものである。具体的には、精神保健福祉士に求められる相談援助技術、リハビリテーション技術について、必要な資質、能力、技術を身につけることを目的とする。あわせて、精神保健福祉士にふさわしい職業倫理とプライバシーの保護に関する配慮を十分身につけることも目的とする。精神障害者の現状や精神保健福祉士の業務について、知る機会を作り、理解を深めることを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ（精神）及び実際の現場実習経験を受けて、事後指導として、さらに精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践の理論と技術の深化をめざす。具体的には、「実習の手引き」に基づいて、最初に現場実習の反省、ふり返り、特に実習中に受けたスーパーバイスやアドバイスの意味の確認や、実習中には解決できなかった疑問や問題の整理等を行う。次に、実習の成果について自己評価と実習先評価（他者評価）とについて考察し、実習報告書を作成する。さらに、今後の自己のためにも、後輩たちや実習先のためにも意義のある実習に関する報告会を行う。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習（精神）	精神科医療機関及び地域における精神保健福祉分野の施設及び機関において実習を行う。今日の精神保健医療福祉現場の現状と課題を学ぶと同時に、専門職による援助活動の技術を習得する。また各種の講義や演習で習得した価値観・知識・技術が実践の過程でどのように活用されているかを理解する。併せて、理論と実践の統合を基軸として、記録の方法等に関しても理解を深める。これらを通じて、座学を通じて学んだ精神保健福祉領域に関する知識をより体験的に理解し、精神保健福祉士としてクライエントの支援にかかわっていく能力・技術・資質を涵養することを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	卒業論文	卒業論文は、これまでの学びである、社会福祉学、ソーシャルワークに関する価値・知識・技術を振り返り、個人と個人を取り巻く環境に関わる現象や問題を批判的に考え、科学的・実証的に考える力（目的、仮説、方法、結果、考察）を養うことを目的とし、学生と指導教員との対話のなかで、作り上げていく。したがって学生の主体的な論文作成の姿勢と指導教員との綿密な関係をつくることが求められ、学生が提出した卒業論文計画書に従い、卒業論文作成の計画・執筆・指導を繰り返しながら、4年間の集大成としての社会福祉学の成果物を完成させることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護過程Ⅰ	介護過程とは利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという、介護の目的を達成するために行なう専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程である。介護過程の展開により「アセスメントの結果を受けて、どのような支援を行なうのか」「その結果、どのような変化があったのか、またはなかったのか」等根拠に基づいた介護を実践し評価することが、利用者のQOL（生活の質）を向上させることにつながる。そこでこの科目は、他の科目で学習した知識・技術を統合させ、介護計画を立てて適切な介護サービスを提供する能力を養うために、知識・技術を統合してケアに生かすことの意義の理解が重要となる。介護過程Ⅰの授業では、まずデイサービスやグループホームを利用している方を対象に「アセスメント」を行い、利用者を理解する。そして介護福祉実習Ⅱに向けて、介護過程の展開の基本を理解していく。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護総合演習Ⅰ	介護総合演習Ⅰでは、秋学期から開始する介護福祉実習Ⅰの教育効果を高めるための授業となるため、実習の事前教育が中心となる。このことから、本科目では実習の意義や方法を理解すること、実習施設の概要を理解することを目的に、必要な知識については講義で伝え、その知識を実践的に演習で深めていき、実習施設・事業所の基礎的な理解、個人調書等の提出物の作成、実習計画の作成、記録作成方法を修得する形式とする。入学後、初めての施設実習の準備となるため、基本的なコミュニケーション等についても、随時確認していく。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護福祉援助概論Ⅰ	介護福祉を実践するためには、基本となる理念や、「地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみ」を理解しておく必要がある。さらに、介護福祉の専門職としての能力と態度も求められることから、本科目では、護福祉士を取り巻く状況・役割と機能等を理解し、現実の場面でどのように支援を行うのかについて学ぶ。専門的な介護福祉とはどのようなものかを明らかにし、その理念と実践理論を学ぶことにより、理念を実践に結びつけていく方法を理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護福祉実習Ⅰ	介護福祉士になるために厚生労働省が規定した介護福祉士養成カリキュラムとしての実習450時間のスタートになる。本実習は「利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心として、これに併せて、利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践、他職種協同の実践、介護技術の確認等を行うこと」に重点を置き、2日間を小規模多機能型居宅介護もしくは認知症デイサービスで、8日間をグループホームもしくはデイサービスにて実習を行う。地域で生活する介護を必要とする人が、どのような人々なのか、また、これらの在宅サービスをどのように利用しているのか、高齢者を支えるのはどのような方々なのかを理解することが大切である。利用している施設の現場では、どのような介護が展開されているのかを見学や介護実践を通して学ぶ。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅰ	介護福祉士には、根拠に基づいた介護実践が求められている。また、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるような支援も求められている。このような支援を行うためには、生活支援技術の基礎となる解剖学・生理学・運動学を理解したうえで、生活支援技術を学修する必要がある。この授業では、生活支援技術の基礎となる解剖学・生理学・運動学を理解し、根拠に基づいた生活支援技術の修得を目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	認知症の理解Ⅰ	認知症のある人の介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し対象者の生活を支援するという観点、また、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識および認知症の生活を支えるという観点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。また、認知症のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	認知症の理解Ⅱ	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。また、認知症の原因疾患を理解したうえで、認知症の人々がどのような心理状態にあるか、BPSD（行動・心理症状）を理解する。福祉専門職として不可欠なコミュニケーション能力を身につけ、考える力、感じる力を養うために演習やグループワークを多く取り入れ、具体的な事例を通して学ぶ。さらに、認知症の人や家族に対する具体的な地域での取り組みまで、幅広く網羅しながら認知症の実践にも資する内容の学習を行うことを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	発達と老化の理解	高齢期は、他の時期とは異なり、長く、終わりの決まっていない特殊な時期である。その時期をどう過ごし終わりを迎えていくのかは、困難かつ避けようのない課題である。また、高齢期に自立した生活を望むことは自然な欲求ではあるが、現在増加している85歳以上の超高齢者には決して容易なことではない。本科目では、これらのことを踏まえ、介護福祉士として高齢者と関わるうえで求められる加齢が及ぼす様々な身体的・心理的・社会的影響について理解し、高齢者の心理的側面への対応や必要なサポートは何かということを考えられようになることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	こころとからだのしくみⅠ	本科目では、寝返り、座る、起き上がり、立つ、歩く等の移動行為に関連したこころとからだのしくみを学ぶことによって、介護を行うために根拠となる人体の構造や機能および介護サービス提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的としている。移動に関連したこころとからだのしくみについて基礎知識を修得することで、介護技術の根拠として結びつけ、なぜそのような介護を行なうのかを説明することができる能力を身につけることが期待される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	こころとからだのしくみⅡ	本科目では、身じたく・食事・排泄に関連したこころとからだのしくみを学ぶことによって、介護を行なうために根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的としている。さらに、加齢に伴い生じる心身の変化と介護福祉士がよく遭遇する病態に関する基本的知識を修得することで、機能低下や障害が及ぼす移動への影響、変化に気づき、医療職と連携することができる能力を身につけることが期待される。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	こころとからだのしくみⅢ	本科目では、入浴や清潔保持・睡眠・人生の最終段階になる人の介護に関連した、こころとからだのしくみを学ぶことによって介護を行うために根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解することを目的としている。また、将来の介護福祉士として、これらの知識を介護技術の根拠として結びつけ、必要な観察力や判断力を備え、医療職と連携することができる能力を身につけることが期待される。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護コミュニケーション技術Ⅰ	本科目では、聴覚に障害のある人との重要なコミュニケーション手段である手話と、視覚に障害のある人への重要なコミュニケーション手段である点字を中心に、技法だけでなく関連した機器の知識も修得することで、障害の特性に応じたコミュニケーション手段を身につけることを目的とする。対象者との支援関係の構築を実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護過程Ⅱ	本人の望む生活の実現に向けて、適切な情報収集および生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。 介護過程Ⅱは、介護福祉実習Ⅱ（特別養護老人ホームでの実習）のスケジュールにそって配置されている科目である。実習へ行く前に、情報収集の視点と計画立案と実践について学ぶ。実習後は、介護福祉実習Ⅱでの受け持ち事例を担当して、介護過程を展開する。介護福祉実習Ⅰでの学びを、さらに実践的に発展させることを意識して、授業を展開する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護総合演習Ⅱ	介護総合演習Ⅱは、介護福祉実習Ⅱ（特別養護老人ホームでの実習）の教育効果をあげるために、実習前に、実習とリンクさせた総合学習の科目である。これまで学んだ介護の知識、技術を実践として結びつけて統合、深化し、実習準備態度を養う。介護過程についての基礎知識と考え方、介護アセスメントの方法、ニーズの絞り込み、介護計画立案の視点、実習記録の書き方について学ぶ。介護実習Ⅱの目的、スケジュール、実習生としての基本的態度や倫理を理解し、専門職としての基本態度を養うことをねらいとする。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護総合演習Ⅲ	介護福祉実習Ⅲ(障害者支援施設・医療型障がい児入所施設及び療養介護事業所/実習種別Ⅱ）に臨むにあたり、必要な事項を学修することを目的とした科目である。具体的には、実習施設の基礎的な理解、実習計画の作成、記録作成方法、介護計画の作成と実施、計画の修正方法を学修し、また、介護福祉実習Ⅰ、介護福祉実習Ⅱの振り返りも適宜行うことで、これまでの介護福祉実習での学びを土台として、介護福祉実習Ⅲではさらに高度な知識と技術を修得できるように準備を行う。この授業では、介護福祉実践に必要な知識と技術を統合するとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことを目的とする。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護福祉援助概論Ⅱ	介護福祉士による支援を必要とする本人を中心とした、介護福祉の基本理念を学ぶことを目的とした科目である。さまざまな自立の概念を整理し、介護福祉士が実践する自立支援とはどのようなものであるかを習得するため、講義には事例を取り入れ、地域を基盤とした生活の継続性を支援ためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養えるように学習する。理論だけではなく、実践につながる知識と支援方法を身につけることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護福祉実習Ⅱ	介護福祉実習Ⅱは、特別養護老人ホームで行う３週間（計１８日間）の実習で、介護計画立案の基本実習である。学生は受け持ち利用者を決め、よりよい介護について考え、気づきをもとにした個別介護計画を立案し、実践を展開する。介護計画の素案を立案する上で、不可欠な多職種協働の実践について、より実践的に学べるよう介護職員以外の多職種からの助言や指導も受ける。実習後半では、受け持ち利用者の現状に即して再アセスメントをしながら、個別介護計画の修正を行い、個別介護計画を実践していく。地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。利用者本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅱ	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とした科目である。近年、様々な介護ロボットが開発されており、また、福祉用具や福祉機器についても日進月歩である。様々な機器を適切に活用することにより、尊厳の保持や自立支援、本人主体の生活が継続できる可能性が高まることから、これらの機器を有効に活用するためその意義や目的を理解し、対象者に応じた機器を適切に選択・活用する能力が求められる。福祉用具や福祉機器に関する知識は講義で行い、使用方法についてはグループに分かれて演習を行う。福祉機器を活用した生活支援技術の修得を目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅲ	レクリエーション活動の社会的意義を理解し、より効果的かつ充実したものにしていくためにはどのようにしたら良いのかについて、講義と演習を通して学習する。また、援助者としての役割を理解すると同時に、施設等での実践時の組織、役割、チームワークといった、援助する上で留意することについても学ぶ。さらに、レクリエーション活動計画の作成能力を習得すると同時に、援助者としてレクリエーション活動の目的・対象に合わせた指導展開例についても学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅳ	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とした科目である。尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立に向けた移動の介護の意義と目的、移動に関する人の自然な動き、安全で的確な移動介護技術、福祉用具や生活環境の整備、ＩＣＦの視点に基づくアセスメント、状況に応じた介護の組み立てについて理論と演習を中心として学習する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅴ	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とすることを目的とした科目である。人のからだのしくみや自然な動きをふまえ、尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立に向けた移動の介護の意義と目的、移動に関する人の自然な動き、安全で的確な移動介護技術、福祉用具や生活環境の整備、ＩＣＦの視点に基づくアセスメント、状況に応じた介護の組み立てについて理論と演習を中心として学習する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	医療的ケアⅠ	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切にするために必要な知識・技術を習得することを目的とした科目である。授業は講義12コマと口腔内の吸引演習1日の構成とし、呼吸のしくみと働き、清潔保持と感染予防、口腔内吸引の操作と留意事項について学び、シュミレーション人形を用いた演習で口腔内吸引手技を評価するし、ケアを安全・適切にするために必要な基礎的知識と実施手順の修得を目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	医療的ケアⅡ	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切にするために必要な知識・技術を習得することを目的とした科目である。授業は講義10コマと救急法演習２コマと鼻腔内吸引演習1日と気管カニューレ内部吸引演習１日の構成とし、呼吸のしくみと働き、滅菌操作、人工呼吸法の基礎知識、リスクマネジメントについて学び、シュミレーション人形を用いた演習で、鼻腔内吸引と気管カニューレ内吸引の評価する。さらに、救急法の心肺蘇生法とAED使用法について演習を行うことで、ケアを安全・適切にするために必要な基礎的知識と実施手順の修得を目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護コミュニケーション技術Ⅱ	介護福祉士の支援の対象者は、心身状態、人的環境、物的環境等が様々である。そのような中、介護福祉の支援を必要とする人とのかかわりの基本はコミュニケーションである。より良いかかわりを持つことで信頼関係、共感が育まれる。そこで、本科目では、対人援助職としてのコミュニケーションのあり方を理解し、具体的に利用者・家族とのコミュニケーション技法、更に、介護にかかわる多職種間のコミュニケーション技法について学び、習得することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護過程Ⅲ	本人の望む生活を実現するためには、生活課題の分析と、根拠に基づく介護福祉実践が必要である。そのためには、課題解決に向けた思考過程を習得することが求めれる。この授業は、介護福祉実習Ⅲの前後に行う。実習前には、アセスメントの方法、個別支援計画の作成方法を、事例を通して学ぶ。さらに、障害者支援施設での支援の実際について、映像教材等を用いて学習する。実習後には、実習報告書の作成方法、実習報告会に向けた準備等を行う。この授業では、個別支援計画全体を把握した上で、介護過程を展開する能力を修得することを目的とする。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護総合演習Ⅳ	在宅介護サービスの要でもある訪問介護の実践を想定した総合的な演習を行い、その実践方法について理解を深めることを主眼とする授業である。授業の目的・ねらいは、以下のとおりである。①訪問介護・居宅介護の介護福祉実践における介護技術の特性を学ぶ・②訪問介護・居宅介護の介護福祉実践における事業所・法人の特性を学ぶ・③介護実習（訪問介護）における事前・事後の準備・フィードバックを行い介護実践能力を高める。なお、介護福祉実習Ⅳ（訪問介護）の効果をより高めるために、実習前の準備教育・振り返り学習の機会を設けるとともに、実習の経験を通じて、介護福祉専門職としての価値・知識・技術を高めることをねらいとした演習を行う。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護福祉実習Ⅲ	本科目では、身体障がい者支援施設、医療型障がい児入所施設及び療養介護事業で3週間（計18日間）の実習を行う。障がい児・者の施設で行われている介護を理解し、ある程度実践できるようになることが目的である。特に、人権の問題、権利擁護、自立支援の観点から介護を捉えていくことが求められている。本人の望む生活の実現に向けて、他職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。個別ケアを行なうために個々の生活リズムや個性を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する。その上で、利用者の課題を明確にするための、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価や、それを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開する。他科目で学修した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得することを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅵ	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。介護福祉実践においては、福祉用具や福祉機器の理解と、それらを活用する方法が求められる。この授業では、対象者の心身の状態に応じた機器の選定から実際の使用方法までを学修する。日常生活場面における福祉用具や福祉機器の有効な活用方法を学ぶとともに、福祉用具や福祉機器を活用した生活支援技術の習得を目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅶ	災害列島であるこの日本では、昨今災害が増加し、被害が拡大しているの中、介護への期待も大きくなっている。いかなる状況においても、被災者の生活が継続できるように支援するのが介護福祉士の役割である。大きな大震災や土砂災害等で、避難所や在宅におられる被災者のために、介護福祉士は、あらゆる知識と技術を統合し、最良のケアを提供しいく、まさに“生活に寄り添う”ケアを、被災者の一番身近なところで行なっていく。また現実的に、災害発生時に機動的に福祉・介護人材の派遣を求めていく、福祉支援ネットワークの必要性が明確となってきていることもあり、介護福祉士がそのチームに加わることは必須とされている。これらの事実を踏まえ、本科目では演習を通しながら、災害時に求められる介護技術と被災者への支援について理解していく。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅷ	この授業では、生活行為のなかの家事（主に衣・食生活）に関する基本的な知識と技術を習得し、自らが自立した生活ができるようになるとともに、高齢者や障がい者の自立支援に向けた家庭生活能力と実践的な態度を身に付けることを目的とする。各領域別に講義を行い基本的な知識を学び、演習や実習を通して理論に基づいた技術を体得する。「衣生活」では被服材料や被服管理について学び、実験や制作を行う。「食生活」では栄養素や食品衛生を学び、献立作成や調理実習を行う。また「家庭経営」についても取り扱う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅹ	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とした科目である。中でも、生活を支える家政学の中で住生活に関する分野を取り上げ、住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための住生活に関する基礎的な知識を理解する。学生自身の生活に置き換えながら、介護福祉士として生活支援を必要とする人々の住生活上の特性を理解し、自立に向けた居住環境の整備について知識を深める。特に高齢者や障がいをもつ人々の在宅生活における生活支援を中心に、住生活の維持・管理、快適で安全な住環境整備に必要な知識・技術の習得を目指す。家族規模の変化による介護環境の変化や住まいの変化を考慮して、介護の現場で即戦力となる快適で安全な福祉住環境の方法について学習することを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護教育方法	介護福祉士養成教育について理解を深め、将来介護教員（介護福祉士養成校や初任者研修・実務者研修等の講師等）として、学生に教授することを前提に、授業の仕組みとはたらきについて理解し、授業をデザインする具体的方法を学ぶことで、教育実践の本質を考える能力を身につけることを目的とした授業である。講義のみならず演習形式を組み合わせ、実践的な内容を学習できる構成とする。また、本科目を履修することで『介護教員講習会』の専門分野の『介護教育方法（30時間）』の単位を修得することができる。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援のための運動学とリハビリテーション	この科目では、介護福祉士として生活支援に必要な運動生理を理解し、支援することができる力を育成する。さらに、リハビリテーションの理念とICF（国際生活機能分類）の考え方を理解したうえで、生活リハビリテーションの視点をもつことにより、リハビリテーション専門職と適切に連携した生活支援を行うことができることを目的とする。具体的には、解剖学、生理学、運動学の基礎から学ぶとともに、関節可動域や関節運動等ヒトの基本的な動きについて理解し、支援に活用できるようにする。また、心理的な知識・技術（人間関係論・コミュニケーション手法等）を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができるようにする。さらに、リハビリテーション専門職との連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働ができることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護過程の応用	介護過程において、特に訪問介護や居宅介護支援の実践現場で活用するための理論と実際を講義形式と演習形式の授業により習熟させることを目的とした科目である。講義と演習を組み合わせた構成とし、講義においてはその理論と現場実践の状況を述べ、演習においては事例を用いる等して介護過程を想定しながら訪問介護計画を模擬的に立案する手法を実際に経験させ、訪問介護計画の立案と実施等における介護過程の理論と実際を学ぶ。これまでの介護総合演習、介護福祉実習、介護過程で学んできたことを統合する位置づけの科目である。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	医療的ケアⅢ	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切にするために必要な知識・技術を習得する学習とする。講義12コマと胃ろう栄養演習１日と経鼻経管栄養演習１日の構成にて、消化吸収・摂食嚥下のしくみと働き、経管栄養の基礎知識、胃ろう栄養の手技、経鼻経管栄養の手技、消化器感染リスクマネジメントについて学ぶ。シュミレーション人形を用いた演習で、胃ろう栄養と経鼻経管栄養を評価することで、ケアを安全・適切にするために必要な基礎的知識と実施手順の修得を目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護過程Ⅳ	居宅サービスにおける「介護過程」の展開は十分に確立されているとは言えない現状にある。そのなかで、介護福祉実習Ⅳの経験を通じつつ、訪問介護における介護過程の展開の理論・知識・技術を習得することをこの授業の目的とする。これは、社会福祉学科のディプロマ・ポリシーにある「様々な生活問題への鋭敏な感受性と深い洞察力」「社会福祉の専門的知識と生活支援を捉える力」の涵養を図るものである。具体的には、訪問介護と居宅介護支援（ケアマネジメント）・訪問介護計画と居宅サービス計画について、そのアセスメント・計画作成・計画実施・モニタリングと評価といった一連の過程を理解できるよう、講義と演習により授業を実施する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	介護福祉実習Ⅳ	介護福祉士コースでの３年次までの学びを統合することを前提として、訪問介護事業所等の地域内での介護サービス事業所における実習を基本とした次のような諸点を学生が習得するための科目である。①訪問介護の事業者としての特性を理解する・②訪問介護のあり方やサービス提供の特徴について理解する・③居宅の要介護者等・障害者等の生活を理解する・④訪問介護の介護過程の展開について理解する・⑤居宅におけるケアマネジメントや多職種連携によるサービス提供のあり方について理解する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援技術Ⅸ	生活支援技術とは、いわゆる三大介護と言われる「食事・排泄・入浴」だけではない。介護が必要な状態になっても、その人の状況に合わせた介護を行ない、障害等があってもこれまでの生活が継続されるように、現在の状態を把握し、潜在能力を引き出し、自立を目指してできる可能性を伸ばしていく、個別性を重視した介護の展開を打ち出している。また、技術としての技法を学ぶだけではなく、生活全体を見ながら、今後どのような生活をしていきたいのか、そのためにはどのような支援が適切か、利用者の能力を活用しているか、どうしたら、潜在能力が導き出せるか、生き生きとした生活をしていくための支援とは何か等に着目して汎用性の高い介護技術を提案していく。本科目では、４年生最後の学年で、前述の内容を踏まえて生活支援をどのように位置づけ、技術を提供していくのかを理解することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	哲学・思想		哲学	普段当たり前と見過ごしていることを問い直す、これが哲学の出発点である。映像作品の一場面から「問い」を設定し、その「問い」に対する自分の考えをまとめあげることで、問いかけを深め、考え方の幅を広げる。また、哲学という営みの背後にある人間の文化を理解し、それを探求していく。これらを通して、柔軟な感性と思考力を開拓し、様々な学問的アプローチの可能性を見いだすための手がかりに繋げる。	
基盤教育	哲学・思想		生命と倫理	現代社会における生命をめぐる諸問題に目を向け、どこが問題なのか、当事者や医療従事者の立場、価値観等を整理し、様々な視点、論点の理解を目指す。倫理問題を考える上での基本的なルールについて触れた後、生命にまつわる具体的な事例を紹介していく。自分と身近な人々、社会と自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えるとともに、その過程において倫理とは何か、生命と倫理のあり方について検討する。	
基盤教育	哲学・思想		宗教学	キリスト教を一つの素材として取り上げ、宗教が人々の心にどのように向き合ってきたかを辿る。ひとつの宗教が生と死、善と悪、神の存在と不在についてどのような思想を展開したかを辿り、自分自身がどのように考えるかの視点を見つけ、自らの言葉で表現できるようになることを目指す。宗教という営みの背後にある人間の文化を理解し、現実社会における宗教のありよう、それを探求する様々な学問的アプローチの可能性を見いだす手がかりが得られるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	日本文学	宮沢賢治の代表作を読み解くことで、作者の考え方や人々の生活や生き方、時代や風土についても学び、「自分らしく生きる」ことや「本当の幸せとは何か」について考える。そして、大学生として相応しい思考力、豊かな感性を養い、人々の豊かな生活を支援できる人材となるための基盤を身につける。また、「読む・書く・話す」力、語彙力、豊かな表現力の習得も目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	外国文学	世界各地の小説や詩、演劇、評論等の文学作品について、文化や歴史といった側面から鑑賞・分析することを目的とする。様々な時代背景とテーマを持つ文学作品の中にあらわれている、人間や社会状況、地域性や価値観等を注意深く観察することで、国内外の社会における課題等への意識を高める。作品の内容や作家について理解を深めることで、自分自身の文化に対する考えについても、意見を整理して表現することができるよう意識を高める。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	歴史学	グローバル化が進んだ現代は言うまでもなく、古くは石器時代、縄文・弥生の時代から日本は海の向こうの外国と交流を持ち続けている。江戸時代の鎖国の時期であっても、外国との交流が途絶えたことはない。日本の近世・近代史を中心に学ぶ一方で、日本に少なからず影響を与えた外国の歴史も積極的に取り上げながら、日本が世界とどのように関係し、発展してきたかを学ぶ。あわせて、世界と日本の歴史的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	美術一般	ヨーロッパ近代美術の流れを辿り、新しい美の可能性を追求した人々の活動に触れる。美術は色や形という感覚的な素材によって成り立っており、素材の組み立てそのものには構造があり、論理がある。思想があり、物語がある。そこには作家の人生観や自然観や世界観までも表出されている。近代美術に様々な足跡を残した人々の作品をスライドで鑑賞し、色や形が語る言葉を読み解くことから始め、美術表現の可能性を無限大に感じとることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	音楽一般	ヨーロッパにおける音楽の豊かな流れの源には、様々な楽器を基にした各地の民族音楽があり、一方には、地域の違いを越えてキリスト教の信仰に仕えてきた教会音楽とがある。これらの伝統に培われて古典（クラシック）音楽が花開き、大衆（ポピュラー）音楽が歌い継がれ引き継がれてきた。ヨーロッパやアメリカの様々な音楽を聞き、それを生み出した人々と、それを取り巻く風景や街並み等をスライドやDVDで訪ね、音楽表現の可能性を無限大に感じるとともに、音楽という営みの背後にある人間文化の理解も目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	文化人類学	文化人類学は、様々な民族や文化圏の生活様式を対象に未開と文明を比較し、人類の文化の共通性、異質性、多様性を知る学問であり、私達が日常「当たり前」としているものに、新たな見方をもたらしてくれるものである。文化人類学の初学者のための学びと位置づけ、私達のものの見方を刷新した人類学者の経歴等からそれらを知ることを通して、その考えが生まれた背景を知り、その意義を考えることを目的とする。自らの見方を広げていけるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	社会科学	経済学	経済学は、日々の生活において様々な資源の制約における人間行動を分析する研究分野であり、個人の生活レベルから一国全体、更には国際経済に至るまで、様々なレベルで相互に影響を与えつつ営まれる。経済学の基本的な考え方、経済モデル、金融市場等、基礎的なマクロ経済理論を学ぶことによって、経済の仕組みや制度を理解し、現代の市場社会が抱える課題を考えるための手がかりや複雑な経済を自分で考える見取り図を得ることを目指す。その際、日本経済に大きな影響を与える国際経済についても触れることで、日本経済が世界経済とどのように関係しているかを学ぶ。あわせて、世界と日本の経済的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	経営学	経営学の基礎的な概念や理論を理解し、現実の経済や経営に対する関心と問題意識を育てることを目的とする。多くの経営理論は、経営という現象のある断面図を示したもので、見る位置により時代の背景や理論の前提がある。それらを客観的に評価し適切に位置づけることで、よりダイナミックな経営学の構図を掴むことができるようになる。これらを念頭においた上で学びを進め、経営学の基本的用語から企業のあり方、マネジメントやマーケティングの知識と考え方を身につけるとともに、経営学を通して現代社会が直面する様々な問題を理解する知性を培うことを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	法学	日常生活を送る上で最低限知っておくべき法学の基礎知識を習得することを目的とする。我々の生活の中で遭遇する多くの事柄は法律と密接な関係を有するものであり、法律の知識が役立つことが多いのも事実である。そこで、日常生活における様々な法律問題に焦点を当て法の仕組みを学んでいく。裁判制度や三権分立制、基本的人権、犯罪と刑罰に関する、基本的な知識を習得するとともに、民法や現代の様々な社会問題とそれに関する法、社会問題と法の関わり方についての総合的な理解を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	政治学	私達の生活・権利・生命を大きく左右し得る政治のあり方について学ぶことを目的とする。日本を軸に民主政治の基本的な仕組みを学びつつ、民主主義の課題や可能性について、様々な政策を取り上げながら理解していく。また、国際比較の観点から、国ごとに異なる国家統治の仕組みや制度についても触れ、世界からみる日本の政治や政策のあり方を理解する。これらの政治学的な視点を応用し、日本の少子高齢化問題や介護福祉問題等の目の前の問題から世界の平和を危うくする紛争・難民問題といった政治現象の背景についても視野を広げ考えることができるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	地理学	現代世界の地域的特徴を理解し、人々の生活との関係を明らかにしていくことを目的とする。日本の地理的特徴、都市構造と生活空間との関わり、地域的課題等について、具体的な事例を交えながら紹介していく。また、日本国内に留まらず海外にも目を向け、各国と日本の地理的構造の違いやそれによって生まれる影響についても学ぶ。国際的観点からみた日本の地域的特徴を理解していくことで日本への理解や関心を深めるとともに、世界各国への関心も高めることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	社会学	社会学的発想、現代社会で起きている事象、社会学における現代社会の捉え方の3点を軸にして、社会学に固有の発想と視点を学ぶ。社会学の視点を通すことで、眼前の様々な事象がどのように違って見え、何が浮かび上がってくるか、歴史的な文脈も踏まえつつ、幅広い具体例を取り上げ、現代社会の基礎的問題を理解し、問題について自ら考え対応していける力を養う。また、様々な文化や価値観を背景に持つ人々と相互に尊重し合い、繋がり合い、共生し得る社会を作り上げるための、柔軟・寛容かつ多元的な視野を養う。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	心理学	心理学の基礎的知識を学ぶとともに、臨床心理学的視点についても詳しく学んでいく。心理学の成り立ちや歴史、パーソナリティの理解、認知メカニズム・思考過程・記憶・感情等について学んだ上で、子供・高齢者・障害者といったあらゆる対象をめぐる社会問題や障害について心理学的に理解し、その対応策の知識を習得していく。それぞれの対象と自己の理解、心理的援助技法にも重点を置きながら学びを進め、人間関係とコミュニケーションの基礎的な知識の習得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	社会科学	統計学	統計学の基礎を学ぶことを目的とする。アンケート、体力測定、試験結果等、私達は日々いろいろなデータに囲まれて生活している。それらの集められたデータに意味を持たせることが統計学である。基礎統計量の計算、標本と母集団の関係、母平均と母比率の区間推定、検定の考え方等を学び、データをグラフにしたり、データの特徴的な値を求めたりすることで、データの性質や意味を知り、データを活用するための基礎的知識を身につける。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	数学	高校時代までの数学を簡単に復習した上で、大学での学びに必要な数学の基礎についての学びを展開していく。具体的には、数と式、方程式、二次関数、微分・積分の考え方、統計（基礎統計量、ヒストグラム、累積度数分布表、累積度数グラフ、代表値とバラツキの指標、箱ひげ図、散布図、相関係数、回帰直線等）について学ぶ。これらを理解することで、基礎的な数学の知識を習得し、デザインやものづくりに応用できる能力の修得を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	物理学	自然科学の中で最も基本的な力学を用いて物理的な手法を理解し、具体的に計算できるようになることを目的とする。物理量と単位の基本から、直線・放物・円運動、運動の法則と力の法則、力と運動（摩擦、抵抗）、仕事とエネルギー（仕事、エネルギー保存則）、単振動、質点系の重心、運動量と角運動量、質点の角運動量と回転運動の法則、剛体の力学等を取り上げる。現実の現象を数学を用いてモデル化する方法を会得し、活用できるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	現代化学	化学の進歩により高度な化学素材が開発され、それらが種々の製品に応用され我々の日常生活で利用されている。この結果、快適な生活空間、高度な健康管理、世界的な情報ネットワーク環境等を実現している。そこで、化学物質の構成や要素からそれら物質の応用技術までを学び、日常生活に広く利用されている材料から最先端材料までの理解を目指す。まず、原子の構造と周期律等の化学の基礎を理解した上で、衣・食・住の中に化学がどのように関わっているのかを知り、成長産業であり材料開発が重要な要素である電子材料等、日常生活と深く関わっている化学物質や製品の基礎的な知識を修得する。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	生物学	原始生命の誕生から長い進化の道のりを経て、現在の多様性にあふれた生物種へと進化しているの中で、ヒトは、様々な産業を興して地球上で最も高度に繁栄している生物種となっている。生物学の様々な分野（微生物学から分子遺伝学）についての基礎を広く学び、近年盛んに産業利用されているバイオテクノロジーの技術についても微生物から動物分野について幅広く学ぶことを通して、現代生物学の全容を理解し、今後の生物学のあり方について考察する力を身につけることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ａ	情報社会が成熟し、インターネット等を通じて容易に外国の情報が入手できる現代社会において、異文化への理解は以前よりも格段に進んでいる。一方で、日本人が日本の文化（自文化）を正しく理解し、外に向けて発信できているかといえば、甚だ心もとない。真のグローバル人材となるためには、まず日本の文化を正しく把握することが必要である。経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から日本を知り、日本および日本人の優れた点（ジャパナビリティ）についても学修する。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｂ	世界の人口の約60%、世界のGDPの約50%を占めるアジア地域は、現在、世界で最も勢いのある地域と言うことができるであろう。アジア地域の幾つかの国を取り上げ、その経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から文化や、その背景について学修する。その国が置かれた状況や、今後の見通しについても考えていく。その上で、世界の中での今後のアジアの位置付け、役割についても考えていく。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｃ	イスラム教は世界の三大宗教の一つであり、その信者（ムスリム）は18億人以上と言われている。にも関わらず日本人にはなじみの薄い宗教であり、イスラム社会、イスラム文化についての理解も十分ではない。また、同じイスラムといっても原理主義の国から、現実的な路線を歩む国と一様ではない。人口減少により労働力人口が不足し始めている日本に、今後、イスラム社会からの人口流入が増加していくことは間違いがない。幾つかの代表的な国を取り上げ、イスラム社会、イスラム文化を正しく理解することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｄ	キリスト教は世界の三大宗教の一つであり、その信仰者は約23億人と言われている。日本人にもキリスト教徒は少なくないが、日本人がキリスト教社会を正しく理解しているかと問われれば、十分ではない。また、同じキリスト教といってもカトリック、プロテスタント、ギリシャ正教、ロシア正教と多種多様であり、キリスト教は欧米だけの宗教ではない。グローバル化が進み、キリスト教社会と付き合う機会は更に増えていくであろう。幾つかの代表的な国を取り上げ、キリスト教社会、キリスト教文化を正しく理解することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｅ	2050年には、世界のほとんどの地域で人口の減少期を迎えるといわれている中で、アフリカだけは21世紀後半まで人口が増加すると予想されている。長期的に見て最も成長が期待される地域がアフリカであろう。そこに着目した中国は、技術供与、借款等を通じでアフリカへの接近を積極的に進めている。一方、一般的な日本人にとってアフリカは決して近い国ではない。幾つかの代表的な国を取り上げ、かつての宗主国との関係、民族構成とそれに伴う課題、産業化・近代化の動き等から、現代のアフリカの文化について学修する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	英語および英語圏社会事情	英語圏に関する理解を目的とし、各国の社会事情や多様な文化の側面を探求し、議論を行う。各国の類似点と相違点を詳細に調査・比較することで、それぞれの特性を理解し、グローバルな見解を深めていく。また、国際ニュースやトピックについても取り上げ、時事英語を通して英語や海外への興味・意識・理解に繋げていく。英語圏における社会的、言語的側面の詳細をより正確に理解するとともに、日本との関係の理解も目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	中国語および中国語圏社会事情	中国の人々の日常の暮らしのあり方と、そこに表れたライフスタイルや価値観・行動様式は、数千年にわたる連続的な文明の生成・変容と、多様性に富んだ風土・民族・文化の複合・交錯、更には激動の近現代史の流れにより、複雑に形作られてきた。まずは「中国」という地域世界の歴史的な成り立ちと、そこに内包された地理的・文化的・文明的な多様性と複合性、そして、その多様かつ複合的な地域世界を一つにまとめあげてきた「伝統」の諸側面について、基本的な知識を身につける。そして、中国の社会と文化、日本との関係についても理解を深め、歴史から現代を多面的に考えるための視点を養う。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	フランス語およびフランス語圏社会事情	フランス語圏に関する理解を目的とする。フランス文化の様々な魅力を探りつつ、フランス人の考え方や感じ方、社会事情にも触れていく。画像PDFを用いてフランス文化の様々な姿に触れつつ、相対的な目でフランス文化を捉えていく。他国の文化との比較を通じてひとつの国の文化を学ぶ意義を見つけられるようにする。更にグローバリゼーションに向かう現代社会の動向について考える姿勢とグローバルな視野の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	多様な文化が共存するヨーロッパの中でも中心的な文化圏のひとつが、ドイツ、オーストリア、スイスをはじめとするドイツ語文化圏である。そこで暮らしている人々の言語と社会、文化、風土等について学び、コミュニケーションの土台となる知識と、初歩のドイツ語会話力を身につけることを目的とする。基本的なドイツ語の理解と、ドイツ語圏の社会や文化についての知識を深め、日本との違いを考えられるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	韓国語および韓国語圏社会事情	韓国や北朝鮮の言葉である韓国語と、現代韓国における社会や文化の事情について幅広く学ぶことを目的とする。韓国文化と不可分の言語を知ることは、韓国の生活習慣や信仰、社会を知り、世界観を的確に理解する上で有用である。ハングル文字の基礎的な語学スキルを獲得した上で、韓国の社会事情や現代文化、歴史等についてを学ぶ。韓国人や韓国の小説、映画等に触れた際に、そこに映る韓国人の世界をより深いレベルで理解し、説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	留学のすすめ	グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。そこで、大学生がどのように国際的なキャリア形成を目指すべきかを学ぶことを目的とする。様々な業種、職種において傑出したプロフェッショナル、企業で先端的な人材発掘をしている専門家等を招聘し、国際水準のキャリア形成、実社会におけるキャリア開発について実例をもとに紹介する。国際的な企業・組織における人材の動向、キャリア形成に求められる知識・経験・語学力について世界的な傾向を概観するとともに、留学（特に大学院留学）がキャリア形成に果たす役割についても学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	異文化理解概論	グローバル社会における異文化理解や異文化間コミュニケーションを目的とする。多文化社会に関連するトピックを調べ、様々な文化的背景や理解を持つ学生と交流することにより、グローバル社会でのコミュニケーションに役立つ基本的な概念やフレームワークを理解する。ケーススタディやディスカッションを通じて実践的な知識、スキル、視点の習得を目指す。日本文化と他文化の行動や価値観との違いを理解し、有用な異文化間コミュニケーション技術の習得と異文化環境での能力向上に繋げる。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する海外研修の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。海外研修に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外研修Ⅱ	「海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。2回の海外研修を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する海外実習の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外実習Ⅱ	「海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。2回の海外実習を通じて、1回目と2回目の海外研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外研修の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅱ	「短期海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅲ	「短期海外研修Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。3回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅳ	「短期海外研修Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。4回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外実習の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅱ	「短期海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目の海外実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅲ	「短期海外実習Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。3回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅳ	「短期海外実習Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。4回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ＩＡ	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのライティングスキルを向上させる。「英語ＩＡ・ＩＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ＩＢ	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのパラグラフライティングやエッセイライティングのスキルを修得する。「英語ＩＡ・ＩＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅡＡ	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅡＢ	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅢＡ	「英語ＩＡ・ＩＢ」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、分析的な読解力を身に付けるためのリーディングスキルを向上させる。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表明するエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅢＢ	「英語ＩＡ・ＩＢ」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、予測力を活用したリーディングスキルを向上させる。更に、自分の考えを論理的構成でまとめるためのエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅣＡ	「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングやスピーキングのエクササイズを通して、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルを高めるだけでなく、リスニングの内容を論理的に分析・理解する能力を向上させる。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅣＢ	「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングエクササイズを通して、より高度なシスニングスキルの向上を目指すだけでなく、目的別ディスカッション・プレゼンテーションのスキルを高める。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ＩＡ	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills ＩＡ・ＩＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ＩＢ	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills ＩＡ・ＩＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ⅡA	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills ⅡA・ⅡB」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ⅡB	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills ⅡA・ⅡB」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	English Test Preparation Ⅰ	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身につける。「English Test PreparationⅠ・Ⅱ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	English Test Preparation Ⅱ	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身につける。「English Test PreparationⅠ・Ⅱ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	中国語Ⅰ	日本人にとって中国語は、他の外国語にはない特殊性を持っている。歴史を踏まえて、まずは中国語を外国語として学ぶことを徹底し、中国文化を異文化として深く理解するための基礎を作る。中国語の発音表記のためのローマ字表記「ピンイン」と発音、意味の識別に重要な4つの声調の区別を身につけ、中国語の聴く力、話す力を身につけるための基礎を養う。その上で、最も基本的な構文と文法事項、そして「実際に使える」初歩的な表現・フレーズの習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」で学んだことを復習し、基礎を固める。その上で、少し複雑な表現を習得し、中国語を母語とする相手と一定のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。できるだけ正しい「通じる」発音ができるようになること、初歩的な構文をマスターし、中国語を母語とする相手と、最も初歩的な日常会話レベルのコミュニケーションが取れるようになること、会話力だけではなく、中国語の「注意書き」やツイート程度の短い平易な文章を、辞書を引きながら読み取る能力を身につけることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	フランス語Ⅰ	フランス人と簡単な会話ができ、同世代のフランスの学生達が興味を持っていることに共感できるような会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を目指す。毎回テーマを設定し応用文をフランス語で書くとともに、それを正しく発音できるようにする。更にロールプレイも実施する。基礎の文法や単語、自己紹介で用いる表現等を学び、フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」を基礎として、会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を深めることを目的とする。フランス語Ⅰの学習を復習しつつ、身近に使う基礎単語から日常会話で使う言い回しについて取り上げ、日常生活において必須とされる文法や単語を学んでいく。フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパで最も重要な言語のひとつである、ドイツ語の基礎を学ぶ。現在形の簡単なドイツ語文の読み書き、自分の希望や予定等を伝えるための簡単なドイツ語の発音、自分や第三者を説明・紹介するための会話やメール、交通機関や施設のドイツ語表示等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことで、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、簡単な内容の文が読みこなせるようになることを目標とする。物の考え方の根底にある言語を学ぶことによって、新たな世界の理解にも繋げる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	ドイツ語Ⅱ	「ドイツ語Ⅰ」を基礎として、ドイツ語の学びを深める。自分の趣味や能力を表現するための簡単なドイツ語表現、自分の希望や予定等を伝えるための助動詞を用いたドイツ語表現、ドイツ語特有の枠構造で書かれた文章の正しい理解、ドイツ語を使った簡単な買い物や注文をするためのドイツ語表現等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことにより、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、辞書を使ってやさしい文が読みこなせるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	韓国語Ⅰ	韓国語の初学者を対象とし、基礎的な文法を学び、簡単な日常会話程度をできるようにする。最初の5回にわたってハングルの文字の成り立ちや発音、基礎的な発音変化を学ぶ。その後、文法の基礎を習得し、実際のコミュニケーション場面で、学生が必要とする語彙を増やしつつ、基本となる動詞の活用を学ぶ。あわせて、言語と深く関連する韓国の文化や社会事情を解説し、言葉だけでなく韓国に対する理解を深めることも目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」を基礎として、韓国語の基本的な文法を更に詳細に解説し、高度な応用韓国語を学ぶことで、単語力、会話力の確実な増強を図る。新聞や雑誌等の簡単な文章が理解できる程度の読解力、韓国語のドラマや映画等が字幕が無くともある程度理解できるリスニング力の習得を目指す。韓国人とコミュニケーションをとる上で、言語力の不足を補うための社会文化に関する全般的な知識も適宜説明していく。実際に韓国人との円滑なコミュニケーションが取れるよう実践力を身につけることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Business English Communication	コミュニケーションや文化を基礎としながら、ビジネスシーンにおける会話や対応、ビジネスライティング、プレゼンテーションスキル等の効果的なビジネスコミュニケーション能力を高めていく。交渉や社交術、会議体への参画や議事の進行等のビジネススキルを身につけさせることも目的としている。	
基盤教育	国際人の形成	語学	アカデミックライティング	人文社会科学系の学術的文章を書く技術を学ぶ。卒業論文、修士論文、博士論文等を代表とする大学・大学院で課される学術的な文章は、一定のアカデミックライティングのルールや形式に沿って書くことが求められる。研究論文とレポートとの違い、論理的な説明、根拠となる情報の開示、引用の倫理、文章の構成、学術的文章の作成等、基本的な書き方ならびに文献調査方法を指導する。また、書く訓練を通して、論理的な論文作成能力を養うことを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	テクニカルライティング	文章による情報伝達は非常に重要であり、そのために正確かつ効果的に伝達するための文書作成技法を学ぶ。分かりやすい文章で、読み手が必要としている情報を目的に応じて正しく簡潔に伝える文章表現、構成を身につける。具体的には、レポート、報告書、ビジネスレター、マニュアル、提案書等を題材に、図表の活用を踏まえながら文章の完成度を高めるための実用的な書き方を指導する。また、卒業後の就業や社会人として必要なライティングスキルも考慮して教授する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リスニング、スピーキング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSのリスニング・スピーキング演習、語彙構築、グループディスカッション等を行い、語彙の基礎や習得スキル、効果的なメモスキル、高度なトピックへのディスカッションスキルを向上させる。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅱ Listening/Speaking	「IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking」の学びを基礎として、IELTS、語彙の知識、リスニング・スピーキングスキルに対する更なるパフォーマンス向上を目指す。様々なサンプルを取り上げ、学びを深めていき、会話の開始や終了、話者の入れ替え、意見の表明、賛成、反対、推論による感情の識別等を考慮した、より良い会話を展開するためのスキルの修得を目指す。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、記事の読み書き、語彙構築、グループディスカッション等を行う。理解力とスピードを向上させるための読解戦略（プレビュー、予測、スキミング、スキャン等）を取り入れ、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅱ Reading/Writing	「IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing」の学びを基礎として、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させること、IELTS、アカデミックリーディングスキル、および語彙知識に対する習熟度とパフォーマンスを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、学術記事の読み書き、語彙構築、短作文等を行い、学びを深め、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力の更なる向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Pre-Study Abroad:Listening/Speaking	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるリスニング・スピーキング力を身につけることを目的とする。グループでのプレゼンテーションやパネルディスカッションの準備、提供、批評を行う。研究に関する質問の仕方や情報源を見つけ評価する方法、学術的内容の口頭要約、グループディスカッションやパネルディスカッションを企画・主導する力を身につける。これらを通して、高度なディスカッションスキルやアクティブなリスニングスキルを向上させ、自分の研究についてのディスカッションや発表を通し、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Pre-Study Abroad:Writing	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるライティング力を身につけることを目的とする。基礎的なライティングからアカデミックなライティングまで、また、エッセイ、レポート、レビュー、考察等、様々なジャンル・スタイルのライティングを練習し、プランニング、構成、ドラフト執筆、推敲、出版等ライティングプロセスを通して学んでいく。各アカデミックライティングスタイルを理解し、対応できる能力を身につけ、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本語Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、大学生活や社会生活において必要とされる論理的な日本語の運用能力を身につけることを目的とする。コミュニケーションスキル、コースワークに必要なスキル（読み物の理解、レポートの作成等）についてを学ぶ。中級レベルの文法、表現、語彙を理解し、ある程度の長さの日本語の文章を読み、考えを口頭で表現できるようになること、論理的で客観的な文章が書けるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本語Ⅱ	「日本語Ⅰ」を修得した学生または同程度の日本語レベルの外国人留学生のみを対象に、「読む・聞く・書く・話す」の4技能を総合的に学び、総合的な日本語運用能力を向上させることを目的とする。言語・文化・社会に関する、高度なトピックに関するリーディングやリスニング議論、発表、作文等を通して、学問上や職業上の目的で日本語を適切に運用することができる日本語力の習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本事情Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、日本を理解するために必要な、かつ、基礎的な知識を身につけることを目的とする。現在の日本の生活様式について、留学生の母国の生活様式と比較しながら、理解を深めていく。住宅、衣服、食事等、日本での生活や身近な話題をテーマに取り上げ、日常的なことから考察を深め比較しディスカッションしていく。また、プレゼンテーションの機会を多く設定することで理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本事情Ⅱ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、「日本事情Ⅰ」で学んだ日常的なテーマに続き、日本の行事、日本人の自然との関わり等について、現在のみならず過去にも目を向け、変化する日本、変化しない日本という視点から、理解を深めていく。結婚式、祭、災害等、留学生の母国にもある事柄をテーマに取り上げ、考察を深め比較しディスカッションやプレゼンテーションを行い、理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅰ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、語彙と文法の構造に関する知識を習得する。これから日本で学んでいく上での日本語コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な基本的な文法や語彙等を学習し、身近な出来事について表現し、簡単なメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅰ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、初級日本語を使ったコミュニケーション活動を身につける。リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習を中心としたアクティビティを通して、初級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解する。大学生活や日常生活を送る上での不便をより多く解消していけるようになり、意思疎通がよりスムーズに運べるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅱ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、語彙と文法の構造に関する中級前の知識を習得する。コミュニケーション能力を伸ばし、初中級レベルの日本語能力を身につけ、読み書きのタスクに焦点を当てることを目標とする。文法の練習、短い文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックについて短いエッセイを書けるようになることを目標となる。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅱ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて、初中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばすとともに、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックに関する関連テキストを作成できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅲ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象に、文法や文型に関する中級言語の知識を身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、読み書きのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。文法の練習、文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、中級レベルの日本語の語彙と文法構造を理解し、広い主題について明確で詳細なテキストを作成できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅲ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、専門分野での技術的な議論を含め、具体的なトピックと抽象的なトピックの両方に関する複雑なテキストを理解するとともに、様々な状況に対処し、トピックに関する見解を説明できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが殆どない学生を対象とし、多読や作文活動を通じて、日常生活や学業に必要な日本語の語彙や作文構造の基礎知識を身につける。身近なトピック（趣味、道順、日常生活等）についての簡単な会話に参加でき、自分自身やその他の単純で関連性のあるトピック（背景、好き、嫌い、方向等）について話したり書いたりできるようになることを目指す。日常のトピックに関する簡単なテキストと、実社会で使用される資料（メニュー、通知等）を読んで理解できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Reading Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。読書を通して日本語の文とテキストの構造を理解する。また、語彙と文法パターンの確認・練習をすることで、簡単な文章を構成し書くとともに、より複雑なテキストの理解に必要な語彙と文法パターンの習得に繋げていく。十分な語彙と基本的な構成構造を習得し、より実践に活きるリーディング力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象とし、様々なカテゴリーのテキストを読むスキルを向上させ、論理的な文章を書く能力を育成することを目標とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、論理的なテキストを読み、学術研究に必要な正式な語彙、文型、および文の構造を習得することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。日本語のみを使用して日常のコミュニケーションを行い、関心のあるトピックに関する情報を日本語で収集して伝達できるようになることを目標とする。基本的なリスニング能力を身につけ、自然に反応し、自分の興味について会話できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Listening Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。関心のあるトピックをテーマに選び、それに関する情報を日本語でまとめ、的確に理解、伝達できるようになることを目標とする。リスニング力、読解力、表現力を養うとともに、習得したリスニング技術をもってより多くのトピックに触れることで、日本への理解を深めることにも期待する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象に、日本語のリスニングスキルを中級レベル以上まで向上させることを目的とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、様々なトピックのリスニング教材に慣れる過程で、大学生活に必要なリスニング能力を徐々に養い、学問に関連する情報の理解に対応し、様々な状況やコンテンツに応じて適切に捉え対応できる力を身につける。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の漢字のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目標とする。レッスンによって、日本語の書記体系を理解し、100字程度の漢字や短いテキストの読み、100字程度の短いメッセージの書きができるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Writing Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目標とする。レッスンによって、日常生活でよく使用する漢字や簡単なテキストを読み、日常のコミュニケーションで使用する程度のメッセージの書きができるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初期中級レベル相当の対象とし、漢字リテラシーを身につけることを目的とする。漢字や慣用句、または漢字の基本的な知識を学ぶ。漢字を正しく理解し、読み書きできるようになるとともに、漢字形成の歴史的過程やその部首等、漢字に関連する知識についても習得する。更に、漢字を使ったフレーズや文章を作成する等、漢字の使い方に慣れながら、漢字が文章や会話の語彙としてどのように使用されているかについての理解も目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。主な目的は、学習者が初級前半レベルの日本語を用い、大学生活に役立つ様々なプロジェクト・ワークを通して、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。授業はすべて日本語で行われ、学習者は、個人あるいはグループでプジェクト・ワークに取り組む。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work Ⅰ」を履修した学習者あるいはそれ相当の日本語学習を終了した初級後半レベルの学習者を対象とする。主な目的は、様々なプロジェクト・ワークに個人あるいはグループで取り組むことにより、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。週1回、全15回開講される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work Ⅱ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。主に、個人あるいはグループで学生が情報収集、発信、調査、発表を行うことを通して情報活用や分析、プレゼンテーションのスキルを学ぶことを目的とする。インタビューや図書館等の施設での野外調査も実施する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Culture and Society Ａ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本文化と社会の多様性について体験的に学ぶ科目である。目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することによりそれらを学ぶことである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Culture and Society Ｂ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society Ａ」に続く科目であり、日本文化と社会の多様性について体験を通して学ぶ。コースの目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Introduction to Japanology Ａ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society Ｂ」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象とする。日本のことば、文化、社会、歴史等の幅広い知識を得ること、そして、得られた知識や情報について考え、発信する活動に取り組む。フィールドリサーチやプレゼンテーション活動も行い、Japanologyという分野そのものの成り立ちについても学んでいく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Introduction to Japanology Ｂ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Introduction to Japanology Ａ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。目的は、日本の言語・文化・社会について学び、自らの持つ背景や文化等と併せて考察するというものである。テーマは、日本の社会問題から文芸、サブカルチャーまで幅広く扱い、ディスカッションやフィールドリサーチを交えながら授業を展開していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン入門	個人のキャリア形成に必要な要素を理解し、能力開発の必要性と社会的意義を知るとともに、自立性のあるキャリア形成を具体的に思考することを目的とする。キャリア開発に必要な基礎的学論、自身のキャリア変遷と個人的価値観、社会変化と環境変化で作られ変わる価値観、労働の価値観の獲得と変化、個人的・社会的興味の源泉、自己の興味の変遷、労働の興味、能力の向上と変化、他者との関わりを通した新しい興味・価値観を知るための講義を展開する。自身を語れるようになるとともに、様々なキャリアのあり方を模索し、今後の自身のキャリア開発の具体性が持てるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	コミュニケーション＆マナー	議論の分析を中心テーマとして、社会人基礎力やコミュニケーション能力の向上を目指す。口頭に限らず、文章により意見を述べる方法を含んだ議論の方法を考えていく。議論がどのように構成されているか（または構成されるべきか）を考え、分析・考察を進めていく。あわせて、社会で必要となるマナーについても学び、各自の言語活動を見つめ直していく。議論の構成・ルールについて理解し、議論の分析を日常の言語活動に応用できる力（課題発見力、計画力、想像力）、立場に応じて相手を納得させる力（発信力、情況把握力）、相手の意見を尊重し受け入れる姿勢（傾聴力、柔軟性）の獲得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン実践	医療技術の進化は長寿化をもたらし、人生100年時代という言葉も浸透しつつある。そのような時代を迎え、私達の働き方や生き方はどのように変わり、変えていく必要があるのか。このテーマについて、講義や参加者間での議論を通し、私達自身の問題として捉え、これからの生き方を考える。長寿化と教育・仕事・引退モデルの変化、機械化・AI後の働き方、キャリアを拓くために持つべき資産、働き方の選択肢の多様化、新しい時間の使い方、仕事以外の人生（ライフ）の変化といった現代社会の状況についても解説をしながら、キャリアデザインを実践していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデベロップメント	将来、有意義な人生や職業生活を築くため、「自分とは何か」「職業理解と働く意味」「社会で求められる力」等を深く考え、就職や自己成長の重要性を理解し、今後の学生生活を充実させること、社会や仕事で求められる力となるコミュニケーション力やチームで結果を出す力を高めることを目的とする。自己を理解し、自己成長の必要性を理解すること、社会環境への関心を高めつつ就労観や職業観を高めること、多様性を受け止め、コミュニケーション力を高めることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	インターンシップ入門	インターンシップ実施の準備講座となる。前半でまず、社会人に求められる力(社会人基礎力)の概要とこれを身につけるための一つ方法としてのインターンシップについて議論し、様々なインターンシップの形態やインターンシップ先の探し方を学ぶ。更に、先輩からの経験談も踏まえ、企画・提案への取り組み方を具体化していく。これらを経てPBLを体験し、課題に対しての現状分析、課題の整理、解決策の提案を行っていく。社会人に必要とされる力や円滑なグループワークを遂行していくための力を養い、インターンシップの実践に向けた行動に繋げていく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	アントレプレナーシップ	人口の減少、労働生産性の低さ、情報化社会の立ち遅れ、研究力の低下、特許出願数の低下、外国への留学生の減少等、日本の閉塞感を表すキーワードは少なくないが、起業する人の少なさもその一つであろう。結果、ユニコーン企業も少なく、企業の時価評価額ランキングも、1990年代と比べ大きく低下している。起業が一般化している世界の中で、日本の若者は、なぜ起業しないのか。起業するために必要な発想や、情報技術の活用、求められるマインドセット等について、実際に起業した人の話も聞きながら、学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	口頭表現法	口頭による言語表現のうち、敬語を取り上げる。正しい敬語の使い方を身につけることは、日本語という言葉の特徴を知ることや、社会における様々な人間関係を円滑に進めることに繋がる。尊敬語・謙譲語・丁寧語等の敬語の基本を理解し、状況に応じて言語表現を使い分けることができるようになることを授業の目的とする。また、人間関係を円滑に保つための言葉の働きについての理解も目指す。これらを通して、基礎的な学力と豊かな教養の一助とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの方法を学ぶことにより、自分の意図を相手に正確に伝える能力を養うことを目的とする。各自設定したテーマに基づいてプレゼンテーションの実践を行う。発表の仕方とともに、発表を聴く姿勢にも視点を置きながら授業を展開していく。各自テーマに応じて必要な情報を収集・分析する「課題発見力」や「計画力」、文章・図表等を効果的に用いた発表資料を作成する「表現力」、聴き手の立場を考慮して自らの意図を正確に伝えることができる「発信力」、質疑や意見に対して適切に応答することができる「傾聴力」といった能力を向上させることにより、社会で必要とされる社会人基礎力の獲得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	文章読解	小説そのものが既に作家の想像力という〈幻想〉の産物であり、読者を〈異空間〉に誘う機能がある。そうした原理を最も端的に開示する幻想小説を読み解くことで、文学の本質である作家における〈書く〉という行為の意味、読者における〈読む〉という行為の意味までも明らかにすることを目的とする。明治期の作品から現代の同時代作品まで、作家を限定することなく、できるだけ多くの小説を読み解くことで、作品そのものの魅力を感得しつつ、〈書くこと〉〈読むこと〉の相互行為を分析し、自分なりの気づき、考え、意見を持つことを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	レポート・論文のまとめ方	基本的な文章作成方法に基づいた上で、データの解釈や文献の検索についてを学び、調査やレポートの構成、作成におけるルール、分析等、レポートや論文をまとめるために必要な一連の事柄について学ぶ。これらを通して、レポートや論文で使われる言葉や表現方法、レポートの構成の仕方、基となる資料の収集や分析・活用の仕方、結論や今後の課題のまとめ方を理解する。大学生にとって必須であるこれらの方法論を今後の学業に活かすとともに、論理的に組み立てる力を養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	日本国憲法	日本の法体系における最高法規に位置付けられる日本国憲法を対象とする憲法学の基礎を学んだ上で、社会における具体的な問題に即して、憲法的なものの見方・考え方とはどのようなものなのかを理解する。「統治機構」と「基本的人権」の２分野の主要な項目をテーマに講義を行い、憲法に関する基礎的な知識と現実の社会における事象・問題を憲法の観点から理解し、考えることのできる基礎的な能力の修得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	グローバル市民論	金融が世界を渡り、情報基盤が世界の端と端を繋ぎ、食料もエネルギーも世界を流通し、太古より変わることなく水と大気が地球を循環している現代社会においては、島国日本から外に出ず、外国人と話すことを避けたとしても「グローバル市民」の一員であることは決して避けられない。地球温暖化の問題、格差の問題、感染症への対応の問題等のグローバルな課題に対し、グローバル市民としてとるべき行動や態度等について、幾つかのトピックスを取り上げ、識者を招きながら学習する。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	環境政策論	公害問題から自然破壊、地球温暖化に至るまで様々な形態とスケールで発生する環境問題に対しては、法律による規制のほか、ボランタリーな市民参加を活かした制度、経済的インセンティブを活かした制度等、様々な法制度を複合的に用いることがより効果的である。環境法規の基本原則を学んだ後に、代表的な国際条約や環境法規および環境政策の手法について知識を習得し、グローバルな問題のローカルにおける解決策について考察する。世界レベルでの環境法規の基本原則や日本の環境に関する法体制の基本、法規制以外の制度が果たす役割について認識できるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	情報化社会と人間	情報技術の普及による社会の情報化は人の生活や個人のあり方、ものの見方まで変化させつつある。現代の社会活動と情報化について理解するとともに、現状の問題把握・将来起こりうる問題への指摘ができることを目的とする。社会の基幹システムにまで及ぶ情報化や、情報化による利便性の向上とそれに相対する負の側面についてを、様々な環境下での事例を踏まえて学び、現代社会の中どのように生きていくかを考えていく。情報技術と現代社会の密接な関連性に関する知識・理解を深め、情報化社会の発展と問題に関して主体的な観点から論じられるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	ダイバーシティ論	アイヌ民族を除けばほぼ単一民族国家で、一億総中流社会が長く続いた日本社会において、ダイバーシティ（多様性）を受入れることは必ずしも歓迎されず、むしろ非効率と考えられがちであった。しかしながら、近年、マイノリティや個々の特性を尊重する動きが世界的に広がっており、多様性を積極的に受け入れる社会の方が活力を生み、また投資の対象としても高く評価されるようになってきている。明るい未来社会を描くために、日本における多様性社会はどうあるべきか等について、幾つかの事例を取り上げ、議論を交えながら学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	障害学	障害学にとって重要なのは、社会が障害者に対して設けている障壁、そして障害の経験の肯定的側面に目を向け、障害者が持つ独自の価値・文化を探る視点を確立することである。個人の問題という視点から、環境、社会の排除、差別へと視点は転換し、更には、独自の文化集団、コミュニティとしての障害まで意識する必要がでてきている中、障害と社会を巡る歴史と現代の考え方や、障害者の生活に関わる制度の現状等を通して障害学を学ぶことで、障害の社会モデル、障害者への不当な差別的取り扱いと合理的配慮、バリアフリーとユニバーサルデザイン等の理解を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	ジェンダー論	ジェンダーやセクシュアリティといった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種等の身近な身体文化を題材に考え、身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶ。ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにすることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	社会貢献活動入門	社会貢献は、ボランティア団体やNPO/NGO等多様であり、形態も取組み内容も様々である。そして、企業による社会貢献、CSRも多種多様であり、それぞれの事業規模も多様である。また、東日本大震災以降の被災地支援活動を機に、社会貢献を取り巻く環境も大きく変化しつつある。国内外の最新事例を踏まえてNPO/NGOおよび企業の社会貢献のあり方について学ぶとともに、分野別の活動内容や各活動が始まった背景についても理解を深めていく。これらを通して、社会において個人が果たしうる役割と課題を考え、社会と自分との関係について考えを深めていき、社会貢献に関する知識をもって主体的に社会貢献に関わる行動に繋げることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	地域マネジメント	既に人口の減少期に入り、世界でも類を見ないほどの少子高齢化社会に突入した日本において、今後はGDPも減少し、その結果、税収も減少していくことが予想される。加えて、行政を支える労働力の確保も難しくなる。こういった中で、地域のマネジメントをこれまでのように行政に依存することは困難であり、地域住民が相互に地域マネジメントに関わっていくことが必要となる。ここでは、幾つかの事例を取り上げ地域マネジメントの現状と手法を学び、地域市民として地域のマネジメントに貢献していく知恵を学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	公務員論	公務員制度や行政の仕組みを知り、更に公務員に対する理解を深めることにより、公務員のあり方について考えられるようになることを目的とする。まず、公務員制度や行政の仕組みの基本を取り上げ、その上で少子高齢化等の課題への新たな対応について考えていく。また、職種や仕事内容が多種多様である公務員を理解することを目的に、様々な職種の公務員から実際の職務の話を聞く機会を設ける。これからの公務員のあるべき姿について、考察することができるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	食と健康	食と健康の関わりを栄養学や食文化等の知見を中心として学ぶことを目的とする。5大栄養素とその具体的性質を理解し、それぞれの栄養素の役割を生化学、生理学の観点から理解する。また、食品摂取時の人体組織の機能や、摂取内容に応じた人体への作用、あるいは、体質等に応じた影響を解剖生理学的観点から理解する。食と健康の基礎的事項を理解し、自身の健康のあり方を考え、時代や国、環境や文化の違いによっても様々な食と健康の捉え方を理解していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	基礎会計学	企業の経営活動をお金の観点から記録する方法（商業簿記）の基礎（簿記と会計、簿記の種類、機能と目的等）について解説し、なぜ簿記が企業経営において重要であるのかを説明した後、日本商工会議所簿記検定3級の出題範囲の前半部分に対応する学習内容を学んでいく。商業簿記を理解することによって、企業の経営状態をより明確に捉えることができるようになり、今後修得する会計領域の体系的な専門知識および学際的知識への素養を身につける。そして、社会の様々な組織において実践力を発揮し社会に貢献するための基礎とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	情報リテラシーⅠ	インターネット等の普及により様々な情報を得ることが容易になってきている一方で誤った情報も混在している。そのため、価値ある情報を収集し、社会的な問題を認識した上で、効果的に活用して発信することが求められている。このような社会情勢への対応を目的として、情報リテラシー概論の他、情報の検索方法の習得を目指す。その後、収集した情報をまとめるために、パソコン（ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト）の基本操作、文章作成上のルール(構造化文章の理解と仮作成)について学び、今後のレポート作成に役立つスキルを身につける。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	情報リテラシーⅡ	「情報リテラシーI」の学びを基礎として、正しい情報の収集および発信について習得することを目的とする。特に、自らの研究データを管理し、分かりやすく表現できるようになることを目標とする。そのために、表計算ソフトを用いて、数値データのグラフ化や、管理をするための基本操作を学び、データ表現に必要な基本統計を理解する。その後に、発表の仕方を学び、これまでに習得した操作法を活用して、正しい情報を発信する（プレゼンテーション）スキルも身につける。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングを用いて開発されたシステムやアプリ、プログラムによって制御された電子機器等が、身近な生活の中で実際にどのように機能しているのかを学び、プログラミングの役割や機能、実社会への影響を理解していく。WebサイトやAI（人工知能）、IoTデバイスでもよく使われるPython言語を用い、基礎固めを目的としたプログラミング演習を行いながら、その仕組みを理解していく。プログラミングの基礎知識を習得し、プログラミングを組み立てるための思考力も養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	プログラミング基礎Ⅱ	「プログラミング基礎Ⅰ」を基礎として学びを深める。Python言語の高度な文法の理解や一般的なPythonプログラムの作成ができるようになることを目的とする。また、基礎的なアルゴリズムを理解し、より実践的かつ効率の良いプログラミングの考え方を理解するとともに、簡単なディープラーニングを使いプログラムを理解した上で、同様の二項分類のディープラーニングを作成できるようになることも目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅰ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初心者レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅱ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅲ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、中級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅳ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、上級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学講義Ⅰ	ライフキネティック（運動と脳トレを組み合わせたエクササイズ）について、トレーニングの概念や方法、得られる効果等を学び、日常生活にどのような好影響を与えるのかを理解することを目的とする。ライフキネティックトレーニングをする上で重要な身体活動の感覚と認知的精神的刺激を統合するためのトレーニング方法の知識を身につけることで、精神的、物理的な訓練の基本を理解し、ライフキネティックトレーニングのルールや健康上の利点について認識を持てるようにすることを目標とする。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学講義Ⅱ	運動と身体機能の関係を正しく理解し、更に、運動を実施する上で必要な科学的方法論を身につけることを目的とする。トレーニングの基本原則、スポーツ疲労やスポーツ障害の特徴、身体活動を通じた筋力・心臓等の機能向上についてを学び、目的に合わせた運動の仕方や健康に適した運動量の知識を獲得することで、生涯に渡って健康的な生活を送るための身体づくりについて考え、日常生活の中で役立てることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ａ	東洋大学の創立者である井上円了の生涯を対象とし、その思想と行動を明らかにする。井上円了は幕末・明治・大正の3つの時代を生きた人物であり、単に東洋大学の創立ばかりではなく、「明治青年の第２世代」の代表者と歴史家が評価するような、様々な業績を残した。その生涯の時期は、現代社会の基礎である近代日本の創設期にあたることから、現代日本の出発点を歴史的に具体的に学ぶことにも繋がる。時代とともに自分がどのように生きるべきか、その哲学を考察できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｂ	東洋大学の創立者である井上円了と東洋大学の歴史を明らかにする。井上円了の教育理念によって、明治20（1887）年、日本が大学制度を創出する時期に「哲学館」として創立され、それから東洋大学は現在まで130年以上の歴史を歩み、大規模な組織に発展してきた。創立者井上円了の教育理念や東洋大学の個性的な歴史を、日本の大学の歴史を背景としながら学んでいくことによって、時代の変遷と大学組織の発展が明らかになり、近代から現代までの日本社会のあり方を理解する一つの視点を学ぶことにも繋げる。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｃ	東洋大学の創立者である井上円了が明治中期に提唱した「妖怪学」を取り上げる。妖怪を取り巻く社会も学問のありようも様々に変化した現代社会に即した「新しい妖怪学」の実現は可能だろうか。宗教学・民俗学・文学史・芸能史・風俗史・神話学・心理学・精神医学等様々な学問分野の成果を導入し、日本やアジア、ヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチを展開する。不可思議なものに惹かれていく人間の心性に目を向けた上で、科学的な検証と明晰な論理によってその本質を見極め、実体のない思い込みや不合理な権威を打破していくための批判精神を養うことを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｄ	ICT（情報通信技術）の発展に伴い、膨大なデータが世の中に溢れるようになり、様々な分野でデータの利活用が急速に進められている。データサイエンスのスキルは、技術者だけでなく、すべてのビジネスパーソンにとって必要不可欠になってきている。そこで、データサイエンスとは何か、その本質は何か、どういうシーンでどういう活用をされているか、どういう手法（伝統的な統計手法、機械学習やディープラーニング等のAI）がどのように利用されているかについて理解を深め、職種別にデータサイエンスを使いこなす上で必要なスキルや発想を身につけることを目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｅ	インターネットの普及と高速化、膨大なデータの蓄積、コンピュータの高性能化と共に、人工知能（AI）の研究開発が進み、これを利活用できる領域が広がったことで、「第4次産業革命」と呼ばれる社会変革が起こり始めている。膨大なデータに対するAIのサービスとしての利活用が、人間の能力を最大限に引き出すと同時に、社会の持続性や環境問題等社会課題の解決、経済・産業の発展に寄与することが期待されている。そこで、AIとは何か、その手法や原理等の基礎知識を修得することを目的とする。またAIの応用例にも触れ、AIの利活用によってどのような社会が実現できるのか、その上でどういう課題があるのかを理解する。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｆ	2000年以上の歴史を持つ哲学とその思考法が、どのようにして現在の私達の生きる力となるのかを理解するため、古代から現代に至る西洋と東洋の思想を横断するかたちで講義を行う。現在の私達に必要な「自己を律し、より良く行為するための力」、そして、「今いる地点から自己の経験を一歩先に進めるための能力」を獲得するため、「世界と自己」「心と身体」「正義と自由」をテーマに哲学的トレーニングを行う。各テーマに関する西洋と東洋の異なる知見を手がかりに、各人が自分で思考を進め、行為するための力を身につけることによって、哲学的に思考することが生きることにどのような役割を果たすのか、また、異なる文化に属する思惟の特質についてを理解することを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｇ	環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。環境問題の現状について解説するとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を中心にしつつ、様々な学問を基に紹介する。地球温暖化に限らず、エネルギー問題、生物多様性、水質汚染、自然災害、農地の砂漠化、異常気象等々、SDGsで提起される様々な範囲の問題の解決へ向けて、国際協調や国際規約、地域の草の根運動、アート作品といった多様なレベルで行われている取組みを理解する。環境問題の現状と対策の実態を把握すると同時に、自分自身の生きる環境を哲学的に考えるというトレーニングをすることで、問題解決に資する発想を備えることを目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｈ	知識基盤社会における大学は、これまで以上に知のコミュニティとしての豊かさが求められるようになっている。また、学びのリソースは、教室や図書館だけでなく地域や世界にも広がってきた。学内外の様々な専攻分野教員から、毎回、話題提供を行い、次いで、様々な視点から、大学教育の社会的役割についてディスカッション行い、多様な学びのあり方とリソースを掘り起こすことによって、学生が自ら知のコミュニティを創造するための基礎的力量と学際的視点の修得を目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｉ	経済同友会会員企業が受け入れ先となって行うインターンシップの科目である。本インターンシップの趣旨は、「学生が企業という場で実社会に学び、社員や他校生も交えた多様な価値観に触れ、様々な気づきを得ることで事後の学修に注力し、キャリアビジョンを描きながら資質・能力を高めること」である（経済同友会資料より）。夏季休暇中の10日～4週間程度の企業におけるインターンシップ参加、事前研修、事後研修、成果発表会等を通し、社会人に求められる姿勢や行動を学び、視野を広げ、自分のキャリアビジョンを描けるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｊ	今、この時にあって、哲学教育を通じて自己の基軸を確立した社会的リーダーたりうる人財の育成が強く期待されていると思われる。そこで、企業の社長や自治体の首長といったリーダーに限らず、大きな組織を構成する一部門としての組織の責任者を含めた、ある人的な集合体の中心となって活躍できる人財、いわば真に社会・集団を牽引しうる東洋大学生の育成を目的として授業を行うものである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｋ	リーダーに必要な論理的思考力の訓練を行い、そのスキルを身に付けた後に、リーダーシップ論を学んでリーダとはどうあるべきかを考察して問題意識を育み、更に現代日本におけるリーダー哲学、国際社会におけるリーダー哲学を学ぶことで、自己の基軸となる哲学を形成する。加えて、最後に自己の基軸を再確認するために、自ら形成したリーダーとしての哲学について最終レポートをまとめて、発表する。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｌ	オリンピック・パラリンピック等スポーツの歴史を通して世界について学ぶことを目的とする。スポーツやアスリートだけでなく、アスリートに対するサポートの実情やその裏側に潜む社会的課題についても深く掘り下げ、スポーツの華々しい実績だけでなく、その裏側についても学んでいく。これらを通して、オリンピック・パラリンピックの基本理念や基礎知識、諸問題の理解を目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｍ	オリンピック・パラリンピックに関わるバラエティに富んだテーマを取り上げ、オリンピック・パラリンピックを多角的に考えていく。オリンピック・パラリンピックの理念やスポーツイベントに関する幅広い知識はもちろん、イベントを裏方で支えるスポーツボランティアの実際にも触れていく。単に「オリンピックを学ぶ」ことだけではなく、社会のあらゆる側面と結びついていることを理解するとともに、オリンピック・パラリンピックを題材として世界に広がる多様な価値観を学び、深く「哲学する」姿勢を養う。	
基盤教育	総合・学際	総合Ａ	宮沢賢治の生き方や思想を学び、詩を読むことで、豊かな教養を身につけることを目的とする。『法華経』に帰依し、民衆救済に一生を捧げた宮沢賢治の詩を通して、自然や生命への畏敬、共生、物への慈愛や人生における苦悩について考えることで、自らの人生を考えていく。また、作品を読解することで、学士力の「読む」力をアップさせ、人としての生き方や社会を考えることで「社会人基礎力」を養う。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｂ	舞台芸術とは何かを知るために、音楽、芸術、文学、ダンス、照明、舞台、デザイン、衣装を理解し、舞台芸術の可能性を知ることで、社会イノベーションに繋がる種を見つけることを目的とする。練習に役立つスキルの開発に焦点を当てながら、多くの文学を読んだり、パフォーマンスを観たりすることで、舞台芸術の基礎知識を養い、創造的な心と挑戦的な精神を育む。また、レポート作成や、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、論理的思考を身につけ、ライティング、コミュニケーション、分析、問題発見・解決、プレゼンテーションの能力獲得も目指す。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｃ	アートマネジメントとは、芸術・文化と社会を相応しいかたちで融合させ、文化資本を高めていくことである。マーケティングのアイデア、文化施設・舞台芸術団体の運営、コンテンツ産業やまちづくり等について、伝統文化から美術・音楽・舞踊・映画・ポップカルチャーまでアートの広範な領域を取り上げ、学んでいく。社会と芸術・文化の関係を経営学の視点から考えることで、芸術・文化と社会の適切な関係について理解し、アートマネジメントの基本的な考え方を説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｄ	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的にその基礎を学ぶ。絵本をテーマとして取り上げ、読む・聞く・描くことを実践する。通常の冊子体絵本だけでなく、音楽を伴った紙芝居形式や絵本に基づく映像作品も積極的に取り入れ、芸術表現としての幅を広げていく。関心のある作品を選び、絵本の読み聞かせや創作を実践し、互いに批評し合い、批判点を受け入れることで、表現に磨きをかけていく。これによって、芸術表現としての絵本を読む・聞く・描くことの可能性を拡大できるようになることを目標とする。芸術・文化に対する関心を深めることにも繋げていく。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｅ	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的とする。「総合Ｄ」で学んだ絵本を読む・聞く・描くことの基礎を踏まえて、更に高度な実践を試みる。絵本の世界においてどのような表現が可能か。伝えようとするイメージの中に自分を置き、感性を最大限に働かせ、架空の世界を現実化し立体化していく。そうして絵本を聞く側にも豊かなイメージの世界が広げることを目標とする。表現の基礎技術の上に、絵本の読み聞かせや創作が持つ自由さと魅力を追求できるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際		総合Ｆ	水力や蒸気機関による第1次産業革命、電力による第2次産業革命、電子工学や情報技術による第3次産業革命から、IoT及びビッグデータ、AIをコアとする現在進行中の第4次産業革命まで、技術の革新はやむことはない。そして、それらの応用は、最先端と呼ばれる場面に留まらず、建築やデザイン、介護や障がい支援、育児や保育、アスリート支援や健康増進、食事や滋養といった、ありとあらゆる場面に及び、それぞれの分野での可能性を大きく広げている。この授業では、IoTやAIといった情報技術に留まらず、学科に関連する領域における最先端のテクノロジーに触れることで、テクノロジーが私達の生活や環境をどのように変化させ、また関連する社会課題の解決にどのような影響を及ぼすのかについても学んでいく。これらを通して、社会が求める要素を的確に捉える視点と多角的な視野を養う。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学概論	本講義では、子ども支援学を志す初学者に対して、4年間の子ども支援学の学びの土台を形成することを目的としている。「子ども支援」の対象分野は幅広く、また対象に対するアプローチの方法も保育学、教育学、社会福祉学、心理学をはじめ様々な方法論が存在している。本講義では、子ども支援学科の専任教員の専門分野に関する講義を元に、子ども支援学の概要を学んでいく。また、定期的に少人数でのグループ指導の時間を設、子ども支援学に関する課題について、自らテーマを立て探究していく。	共同
専門科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学演習Ｉ	本科目では、ディプロマポリシーにも示す保育・教育・福祉に関わる様々な実践現場で人権を尊重し、倫理に基づき人々の多様な育ちを支える意志や意欲、そして知識を習得することを目的とする。「子どもとはどんな存在なのか」「子ども支援学とは何か」を考えることにより、現代社会のなかで生まれ育つ子どもや家族がおかれた状況、そして子どもにかかわるさまざまな機関や人々について、演習方式で広く学ぶ。また、春季休暇期間中には保育・教育および児童福祉の実践現場に自ら出向き、学びを深める保育ボランティアを行い、子どもを支援する行動力の基礎を獲得することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	教育基礎論	本科目では、教育の歴史・思想等に関する基本的概念を確認し、教育が人類にとって必須の社会的機能として成立する経緯とその役割を理解することを目標とする。また、教育が個々の人間の成長・発達に寄与するとともに、社会の維持・発展にも寄与していることをふまえ、家庭の教育機能や公教育制度に着目し、それぞれがどのような課題をもつのかについて検討することで、現在の教育のあり方について問い直し、その理解を深めることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	教育制度論	本科目では、教育制度の歴史、役割、法制度の仕組み等を学び、教育制度の抱える問題点について検討していく。具体的には、義務教育制度の組織・運営・学校文化を知り、今日の教育が制度・組織・計画・法制のなかでどのように営まれているかについて考えていく。また、現在の教育における課題を法制度の面から検討し、教員になった際に子どもたちの「教育を受ける権利」をどのように保障していくか考えていくことで、その理解を深めることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	幼児教育論	幼児や保育・幼児教育施設を取り巻く社会環境を理解した上で、幼児教育の制度、政策の歴史的変遷について学習する。また、幼稚園、認定こども園の園および学級としての経営的事項を理解し、保育・幼児教育の質の向上に基盤となる方法論について探究する。その上で、幼児教育において重視されている「環境を通しての教育」「遊びを通しての総合的な指導」「一人一人の発達の特性に応じた指導」について理解し、幼児の主体性や遊びを大切にした保育のあり方について考える。さらに、このような保育を実践するための保育者の援助について、その考え方やあり方（環境構成、指導計画、幼児理解等）を理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	発達心理学	生涯発達の視点を基盤に、乳幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特質を踏まえた、教育活動を支える指導・支援の基礎となる考え方を学習する科目である。また、幼稚園教諭、保育士、保育教諭に求められる基本的な態度や指導・支援方法、配慮すべき事項について学習することで、発達支援や主体的・対話的で深い学びを得、望ましい乳幼児教育や保育を行うために必要な発達心理学的視点を獲得することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学演習ⅡＡ	子ども支援学概論・子ども支援学演習で学んだことを基にして、幼稚園・保育所・児童福祉施設における保育の実際やそれを取り巻く課題に関して、グループ毎に調べ、探求をしていくことを目的とする。具体的な目標としては、①保育所保育・幼稚園教育・児童福祉施設での支援の実際を知り、保育現場・保育者への理解を深め、関心を高める。②幼稚園・保育所・施設での実習に向けて、実習とは何かについて学生自身が考え、その意義を理解することである。また、外部講師（幼稚園・保育所・施設）を通してその実際に触れると共に、実習とは何かについての理解を深める。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学演習ⅡＢ	本科目では、子ども支援学科のディプロマ・ポリシーに掲げる子どもの成長・発達に関わる専門的知識を身に付け、根拠に基づいた保育・教育実践を展開するための基礎的知識及び基本的技能の体得を目指す。本講義は、これまでの学修で得た問題の背景を分析し、「子どもと健康」の授業で抽出した幼少期の健康問題の背景を分析し、それを改善するための具体的な手立て（実践仮説）を描き出すことをねらいとする。具体的には、各個人・グループが立案した研究テーマやその仮説を発表し、その妥当性について批判的に討議し合う。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	多文化共生保育・教育	多様な価値観、文化を理解しようとする姿勢を持ち、多様な人々と協働しようとするグローバル・マインドを持っていること、様々な実践の場で人権を尊重し、倫理に基づき、人々の多様な育ちを支えていこうとする意志と意欲を持っていることや、人々が共生しながら自らの幸福が追求できるよう根拠に基づいた適切な援助ができることをめざす。そのための知識や技術、心的態度を身につけることを目的としている。具体的な目標は以下の通りである。１．日本社会の多言語・多文化化の状況について歴史的な背景と共に、現状理解を深める。２．自分が育ってきた文化背景に気づき、言語化できる。３．海外の保育や子育てと日本のあり方を比較し、日本文化の特徴をつかみ、多文化共生保育・教育に活用できるようになる。４．多文化共生保育・教育実践の例や課題を知り、質の高い保育に向けて今後の保育実践のあり方について考えようとする。	共同
専門科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学演習ⅢＡ	保育や児童福祉を取り巻く社会状況やその課題を含めて保育をとらえ、自らテーマを立て探究する科目である。量的・質的研究に関する文献講読により研究方法を学ぶことで、保育をとらえる視点を増やす。具体的な目標は以下のとおりである。１．保育の諸問題について、文献、実践記録の講読やビデオ視聴、施設見学等を通じて、保育に関する理解、関心を深めながら、より良い保育のあり方を考える。２．文献索の方法、研究の進め方・方法等の学習を行い、研究方法を理解する。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学演習ⅢＢ	保育・教育・福祉に関連する今日的課題に対して、アクティブラーニングやICT教育を導入しつつ問題解決能力の育成を図ることを目指した科目である。その上で、１．保育、子ども家庭福祉の諸問題について、文献、実践記録の講読やビデオ視聴、施設見学等を通じて、理解、関心を深めながら、より良い保育・子ども家庭福祉のあり方を考える。こうしたなかで、各自の研究課題を明確にする。２．文献検索の方法、研究の進め方・方法等の学習を行い、研究方法を理解する。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学演習ⅣＡ	保育の諸問題について、文献、実践記録の講読やビデオ視聴、保育所見学等を通じて、保育に関する理解、関心を深めながら、より良い保育のあり方を考えることを目的とした科目である。各自の研究課題を明確にするために、文献検索の方法、研究の進め方・方法等の学習を行い、研究方法を理解することを目指す。具体的な目標は以下のとおりである。１．主体的に保育の問題や考え方の理解を深め、論文のテーマと目的を決定する。２．文献等のレポート発表を通じて、文献の内容を読み取り、考察できるようになる。３．研究資料収集の方法を習得し、収集した内容を発表することができる。１，２を踏まえて、研究方法と論文の構成を考えることができる。４．仲間の問題意識に興味を持ち、話し合いを重ね互いの考えを深めることができる。５.研究計画を立案し、ゼミ内で相互にそれを検討し、より具体性、実現性の高い計画を策定することができる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	必修科目	子ども支援学演習ⅣＢ	本科目では、各自の研究関心に基づき保育に関わる課題を取り上げ、その課題について分析、考察を行い、子ども・保護者への援助方法を学ぶこと、問題を発見し、その解決のための手法を習得することを目的とする。また、子どもの福祉や教育に関わる専門的知識を身につけていること、子どもの成長発達や保育・教育の問題に対処できる幅広い視野を持ち、それらを明らかにする科学的探究心や問題解決能力を身につけていること、子どもの福祉や教育に関わるさまざまな実践の場で、人権を尊重し、倫理に基づき、人々の多様な育ちを支えていこうとする意志と意欲を持っていること、多様な価値観や文化を理解しようとする姿勢を持ち、多様な人々と協働しようとするグローバルマインドを持つこと、子どもの育ちや子育ての状況を理解し、人々が自らの幸福を追求できるよう、根拠に基づいて適切な援助を行うことの５つの力の修得を、卒業論文・制作の実践とともに確認する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもソーシャルワーク	本科目は、子どもの福祉の保障のために求められるソーシャルワークを理解するとともに、子どもや保護者が抱える様々な福祉課題に対し、児童の権利保障を基盤とした支援の実践とはどのようなものかについて、「貧困」をキーワードとして学ぶ。個別援助に留まらない、様々な手法を用いてどのように子ども家庭の福祉課題を解決するかを理解することを目的とする。具体的には以下のことを目標とする。①児童・家庭に対しなぜソーシャルワークが重要なのかを定義と共に理解する。②福祉課題（養育困難、児童虐待及び家庭内暴力（Ｄ．Ｖ）、貧困等）についてどのようなソーシャルワーク実践が可能か説明できる。③児童・家庭福祉分野での連携や資源の調整の方法を提示できる。④子ども家庭分野におけるソーシャルワーク実践例を説明できる。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	本演習では、これまで得たソーシャルワークの知識・技術の学びをさらに進め、ソーシャルワーク実習での個別的な体験を一般化し、より実践的な知識・技術へと高めるため、社会福祉に関わる理論・知識、価値・倫理、技術・技能を演習形式により応用展開できるようにすることを目的とする。「人間：環境：時間：空間の交互作用」というキーワードを基軸に、実践事例に焦点を当て、学生が主体的に考え、まとめ、発表し、議論を通して多様な見解と適切な対応法を学びあう。そのため、小グループに分け、グループ学習・活動を重視する。学生はこれまでのソーシャルワークの学びの集大成として学習成果をまとめ、講師は社会福祉専門職としての意識が高まるように指導する。このための題材として、演習Ⅳでは、メゾ（制度や施設の運営や体制づくり、地域のネットワーキング等）やマクロ（政策・計画立案等）の各レベルの事例を中心に学習する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	卒業論文	卒業論文を完成させる過程を通して、課題を発見し自ら探求しようとする意欲やそれを可能とする能力を身につけ、研究的実践家、省察的実践家として成長し続ける基礎力を培うことを目的とする。自らが探求すべき研究課題を明確化し、関連する先行研究を把握することができること、研究課題に即した研究計画を策定することができ、適切な方法により研究を進めることができること、研究結果を整理し、客観的に結果を分析・考察し、方法の妥当性の検討、修正を行うことができること、研究の目的、方法、結果、考察が一貫していて、論文にふさわしい文章表現ができること、卒業論文の発表においては、他者にわかりやすく説明することができることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	卒業制作	卒業制作（作品および論文）を完成させる過程を通して、課題を発見し自ら探求しようとする意欲やそれを可能とする能力を身につけ、研究的実践家、省察的実践家として成長し続ける基礎力を培うことを目的とする。自らが探求すべき研究課題を明確化し、関連する先行研究を把握することができること、研究課題に即した研究計画を策定することができ、適切な方法により研究を進めることができること、研究結果を整理し、客観的に結果を分析・考察し、方法の妥当性の検討、修正を行うことができること、研究の目的、方法、結果、考察が一貫していて、論文にふさわしい文章表現ができること、卒業制作の発表においては、他者にわかりやすく説明することができることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育原理	保育の意義と目的、保育に関する基本的な法令及び制度、保育の思想と保育の歴史的変遷、保育の現状と課題について学び、保育の理解を深める。また保育の方法原理を理解し、根拠に基づく保育を行うための基礎を培うことを目的とした科目である。家庭・地域環境の変化に合わせた保育所・幼稚園の役割、保育の意義と目標、原理等について総合的に学習し、保育の基本を理解すると、多様な保育思想を学び、乳幼児期の保育と、その根底にある価値について深く考える姿勢をもつことを目指す。また、子どもの成長発達や保育・教育・福祉に関わる専門的な知識・技術を身につけ、根拠に基づいた適切な援助ができることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	児童・家庭福祉	児童福祉の歴史を踏まえ、児童福祉の基本理念及び実施体制の現状と課題を学ぶことを目的とした科目である。また、現代の子ども・家庭をめぐる問題の社会的背景について理解を深めることで、子どもの育ちや子育ての状況を理解することを目的とする。具体的には、以下の目標を達成する。①児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親 家庭、児童虐待及び家庭内暴力（Ｄ．Ｖ）の実態を含む。）について説明できる。②児童・家庭福祉制度の発展過程について提示できる。③児童の権利について説明できる。④相談援助活動で必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について説明できる。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉の原理と政策Ⅰ	社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解するとともに、歴史的社会的形成体としての社会福祉の全体像をその生成過程を丹念に検証しながら把握する。また、現代社会のさまざまな課題を題材にしつつ、社会問題と社会構造の関係の視点から現代社会における社会福祉問題を理解する。さらに、福祉政策の対象とする範囲を踏まえた機能と実施過程の学びを通じて、人々の生活上のニーズに即応した政策決定、実施方法等を理解する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育者論	幼稚園教諭、保育士、保育教諭の職務内容や求められる知識・技術・態度を学習することを目的とした科目である。福祉と教育を基盤とした保育者としての専門性や子ども観を理解すること、また、上記の学習を通して自らの保育者としての資質について考え、キャリアとしての保育職について考えることをで、中堅、リーダーへのキャリアアップの過程について知り、組織としての協同、保護者との協働、地域との連携のあり方についても理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会的養護	本授業は、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本、社会的養護の制度や実施体系、社会的養護の対象や形態および関係する専門職、そして社会的養護の現状と課題について理解することを目的とする。具体的には、社会的養護が必要となる養護問題の背景を理解する。社会的養護の体系や児童福祉施設等の役割について学ぶ。社会的養護における保育士の役割や援助の実際について学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子ども家庭支援論	少子化社会の進行の中で、子育て家庭に対する支援は現代日本における重要な社会的課題としてクローズアップされてきている。したがって、本科目では家庭の意義と機能の理解、少子化社会の進行の中での家族の変化、子育て支援の体制と各関係機関の連携について理解し、さらに具体的な援助方法について理解すること目的とする。その上で、子どもの人権擁護、子ども家庭支援に関する制度や実施体系、子ども家庭福祉に関連した支援のあり方について理解する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもと健康	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示されている領域「健康」のねらい及び内容について学ぶと共に、乳幼児の心身の健康にかかわる基本的発達特性を理解することを目的とした科目である。また、現代の生育環境の中で生起している幼少期の子どもの健康課題を把握し、子どもの発達を援助するための基礎的な知識として身体的・認知的・情緒／社会的発達特性について理解する。さらに、実際に運動遊びを行い、子どもの発達に深くかかわる遊びの効用について考察することで、理解を深めることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもと人間関係	幼児を取り巻く人間関係の様相を学ぶと共に、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に定められた領域「人間関係」のねらいや内容を学ぶことを目的とした科目である。さらに、乳幼児の遊びや生活にみられる「人間関係」の育ちについて理解し、その育ちにおける保育者の援助のあり方について考える。子どもの人との関わりにおける育ちの理解の柱となる保育記録について、ドキュメンテーションやｅポートフォリオについて理解し、その上でChild Care Webを用いて作成する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもと環境	「保育所保育指針」に示される領域「環境」の内容を理解することを目的とした科目である。領域「環境」の側面から、子どもの発達を理解し、発達と興味関心に合った、乳幼児期にふさわしい生活と遊びへの展開方法を学ぶ。総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。具体的な目標としては、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された幼児教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容及び全体構造を説明できる。領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる。領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等とのつながりを説明できることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもと言葉	乳幼児期は子どもの人格形成や生きる力の基礎を培う上で重要な時期である。本科目では、認識や思考の媒体、コミュニケーションツール、行動を調整する機能等として子どもの発達を支えるうえで重要な役割を果たしている「言葉」について、誕生の段階から話し言葉への発達について理解するとともに、さ保育所保育指針等に示されている領域「言葉」のねらいと内容について学習することを目的とする。具体的には、保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な素話、絵本、紙芝居、パネルシアター、素話等の保育文化財に関する知識や技術を習得すること、子どもが保育文化財に親しみ、さまざまな表現活動と結びつけて遊びを展開できるような、知識や技術を習得することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもと表現Ⅰ	子どもの発達や表現の特性、領域「表現」について学ぶとともに、遊びを豊かに展開するために必要となる音楽表現や身体表現に関する知識・技能を学ぶことを目的とした科目である。授業は音楽表現や身体表現に関する講義と、ピアノおよび弾き歌いの実技レッスンを平行して行う。具体的な目標としては、音楽理論の基礎を習得する。子どもの音楽表現を支え、促進するための基礎的技能を身に付ける。子どもと音楽の関わり、音楽表現について理解を深める。子ども支援学専攻のカリキュラム・ポリシーである幼稚園教諭免許・保育士資格取得の専門性を修得することを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもと表現Ⅱ	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成等の専門的事項について、造形表現の視点から知識・技能、表現力を身に付けることを目的とした科目である。具体的には、造形表現の視点から、領域「表現」の位置づけについて説明し、幼児の表現を受け止め共感することができる。身の周りのものを諸感覚で捉え、イメージを豊かにし、素材の特性を生かした表現ができる。協働して造形表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな造形表現につなげていくことを理解することができる。表現することの楽しさを実感するとともに、造形表現の視点から楽しさを生み出す要因について分析することができ、様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、幼児の表現活動に展開させることができることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉の原理と政策Ⅱ	本講義では、社会福祉の基礎となる思想・哲学、原理、制度の発展と展開、諸外国の社会福祉を理解し、社会福祉が直面する現代的課題や人びとのニーズ等について考える力を養うことを目指す。その上で、社会福祉と関連の社会保障制度等について基礎的な知識を習得するとともに、制度・政策について自分なりに考える力を涵養することを重視する。具体的には、①社会福祉等の社会保障の意義や概念、②福祉国家の登場と発展、③社会福祉の理念・思想・哲学とその制度・政策への反映、④社会福祉のニーズ、資源と制度体系、⑤社会福祉を構築する政策手法、⑥社会福祉の行政計画、提供体制、マンパワー等のデリバリー、⑦社会福祉の財政等のファイナンス、⑧社会福祉の国際的動向と国際比較、⑨社会福祉改革の動向と課題等について講義する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	本講義は、「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づいた社会福祉士の役割や意義について学ぶ。ソーシャルワークの形成過程を理解し、ソーシャルワークの理念について、理解を深める。講義にあたっては、「人間：環境：時間：空間の交互作用」というキーワードを基軸にし、ソーシャルワークの価値と倫理、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義等を教授する。本講義を受講することにより、受講者はソーシャルワークの基盤を理解し、社会福祉士という国家資格がどのような働きをするのかを学ぶことにより、国家資格取得の動機を強化していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	社会福祉や介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、社会福祉専門職としての技能と態度を養うことを目的とする。社会福祉の活動で使用される諸理論や技術の基本を幅広く学習するほか、社会福祉や介護福祉固有の価値観・倫理やその課題について学ぶ。人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて、ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	医学概論	社会福祉士としての業務の遂行に必要な人体の構造と機能及び疾病に関する基本的な知識を習得することを目的とする。人のライフステージにおける成長・発達、心身機能と身体構造の概要、疾病、障害及びリハビリテーションの概要、国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、健康の捉え方、公衆衛生の観点から人々の健康に影響をおよぼす要因や健康課題について理解すること、社会福祉士となった後の知識の更新の方法を身につけることを目標としている。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉発達史	社会福祉は、時代社会の構造的変動の過程において、必然性をもって生起する各種の社会問題を対象として営まれる実践的・応用的性格をもつため、その歴史的検証を欠いて社会福祉を具体的に理解することはできないし、また社会福祉の将来を展望することも困難である。本講義では、まず権利に焦点を当て、児童福祉政策、生存権、障害者福祉政策の歴史を学び、次にテーマごとに調査、地域、義務、福祉国家、ハンセン病患者への差別の歴史を取り上げ、さらに、日本の社会福祉の歴史を通史的に理解することを目指す。また、日本の社会福祉の歴史は、その過程において非連続的側面が大きいが、断続的変化の中に一貫性を保ちながら、今日に繋がる過程を幅広く捉えながら学ぶことも目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	本講義は、ソーシャルワークの目的を理解し、ソーシャルワーカーがどのような領域でどのように相談援助を行っているかを学ぶための科目である。講義にあたっては、社会福祉の各専門職（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、保育士等）の意義と役割や、専門職の機能と範囲のほか、支援における概念・理念・倫理についてを教授する。本講義を受講することにより、受講者は包括的な支援の実際と多職種連携について学び、理解を深める。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもの権利と教育	すべての子どもの福祉を保障するうえで、国連子どもの権利条約の趣旨に則ることを明文化した改正児童福祉法をふまえ、戦前から現代にいたるまでの子どもの権利の歴史、子どもの権利の具体的内容を理解することを目的とした科目である。また、国内外の子どもの権利に関わる現代的課題、子どもが適切に教育をうけ、生活が保障され、愛され、保護され、心身の健やかな成長と自立が図られるための方策について考察することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子育て支援実践	子育て支援の量的拡大とその多様化が社会的課題となっているが、本当に必要な支援とは何なのか、本当の意味での子ども理解・親理解とは何かを、実際に大学近隣地域の拠点型子育て支援施設に出かけて学ぶと共に、学んだことを、学内で行われる子育て支援活動に参加をし自分たちで実践してみることで、学生自らが考えることを目的とする。また、グローバルな視点を持つ学生の育成を視野に入れた実践プログラムを取り入れることにより、多文化共生保育に関して学生が学ぶことができるようにする。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもと文学	国語は幼稚園教諭資格取得のための教科に関する科目の1つであり、小学校の「国語」の指導要領を学ぶことで、幼小連携における「国語」の能力を身につけることを目的とした科目である。子ども支援学専攻のカリキュラム・ポリシーでもある基礎的な学力と豊かな教養を身につけるため、児童文学を読み作者の意図することを把握できる能力、その作品を基に幼児の思考力や判断力を発達させる読み方が工夫できる能力、作品を読むことで幼児が仲間や社会について関心を持つような工夫ができる能力、作品を通じて、幼児に生命の尊さや道徳性を考えさせることができる能力、日本古来の風習や伝統を学び保育・教育に生かすことができる能力を獲得することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	海外保育フィールドワーク	海外諸国での約１週間の実地研修および事前事後学習を通して、海外諸国の保育、児童福祉を理解することを目的とした科目である。事前学習では、海外諸国の歴史文化、海外諸国における保育、児童福祉の制度等を学ぶ。海外諸国での実地研修では、保育施設、児童福祉施設でのフィールドワーク（施設の見学、子どもや職員との交流等）をおこなう。事後学習では、現地でのフィールドワークを振り返り、日本の保育、児童福祉との比較しながら検討する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	教育と福祉	子どもの教育や福祉に関わるさまざまな実践の場で、人権を尊重し、倫理に基づき、人々の多様な育ちを支えていくために必要な専門的知識・幅広い視野・探求心・問題可決能力を習得することを目的とした科目である。子どもと子育て家庭が直面している今日的諸課題の中から子ども虐待と少年非行を取り上げ、現在、学校や地域でどのような支援が行われているか、今後どのような支援体制が求められているかを、教育・福祉の両面から考察する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活と総合学習	児童の自立を養うという視点から、自然体験や生活体験の教育的価値について具体的な授業実践を通して理解を深めることを目的とした科目である。また実際の実践記録（ビデオ記録を含む）や教師の手記をもとにして、教師と児童の関係、指導法、評価について検討し、小学校低学年における生活科ならびに3年生以上で実施されている総合学習の歴史的経緯と意義、目的、内容、方法等について、子どもの成長や発達の特性とのかかわりの中で考察するとともに、生活科や総合学習の授業づくりについて、教材研究、活動研究、子ども理解、教師の支援と評価等を教育実践事例や模擬授業等を通して理解し、必要な知識・技能を獲得できることを目標とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	多文化共生保育・教育実践	文化的に多様な背景を持つ子どもや家庭を念頭においた、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。国内及び近隣地域の様々な多文化共生保育実践について学び、自分の保育実践につなげる。具体的には、現在の日本の保育現場における子育て支援、特に海外につながる家族の支援について現状を知る。そのために、学外にある地域の保育現場、学内の子育て支援活動を見学したり、実践者の話を聞く。多文化環境の中で子どもの発達を理解するとはどういうことなのか、国籍や文化の違いを尊重しながら子育て、子育ての支援をするとはどういうことなのか、ということに関して自ら考えられるようになることをめざす。さらに、日本と海外の子育てや家族の在り方を比較し、日本の文化的実践に気づく機会を設ける。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	国語表現法	子どもたちが正しい日本語を使用できるよう自らの国語力を磨き、また、幼児の豊かな表現を正しく伸ばせるような語彙力や表現力を自ら身につけることを目標とした科目である。文章表現を中心に、自らの意図を読み手に対して正確に伝えられる能力を獲得し、日本語の表現能力を向上させるために、講義と練習問題とを繰り返すことで、国語表現力を向上させ「読む・書く・話す」力や「社会人基礎力」としての国語力修得を目指す。また、これらは子ども支援学専攻のディプロマ・ポリシーである「基礎的な学力と豊かな教養を身につける」ことにもつながる科目である。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	国際児童福祉	諸外国における児童福祉問題、国境を越えて起きている児童福祉問題、そして日本における多文化背景をもつ児童の福祉問題に対する理解を深めることを目的とした科目である。貧困、障害、児童虐待や暴力、教育、児童労働、災害、難民等国内外の児童福祉について学ぶ。また諸外国における児童福祉に関する歴史について、その背景にある国の制度や文化から理解を深める、国内外の児童福祉に関する課題を理解する中で、グルーバルな視点から日本の児童福祉問題について考えることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ	本科目では、ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養するため、ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解することを促し、ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。また、ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解するために、ゲストスピーカー（外部講師）による講話、ロールプレイ演習や事例検討等を行い、学習を深めることを行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもの保健	子どもの心身の発育・発達、健康の増進に向けた保健活動の意義や目的を理解するとともに、子どもの健康状態の把握やその対応、疾病への理解および他機関との連携等、子どもの保健に関する基礎的な知識を学習し、保育士としての対応方法について理解することを目的とした科目である。具体的な目標は、子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義を理解する。子どもの発育・発達の特徴を理解し、成長過程を正しく評価できるようになる。子どもの疾病や異常等心身の健康状態の把握方法を理解し、必要に応じて適切な対応ができるようになる。職員の健康管理とともに、望ましい子どもの保健活動を理解し、子どもの健康を保持増進できるようになることである。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもの健康と安全	子どもの健康及び安全にかかわる保健活動の年間計画を立案すること、子どもの疾病時の基本的対応，怪我に対する救急対応を体験的に学び、連携の重要性（保護者，地域：医療機関・保健所等）について考えること、関連するガイドラインや現状を踏まえ、衛生管理、事故防止、安全対策、危機管理、災害対策について理解することを目指す科目である。具体的な目標としては、健康教育活動に関わる年間指導計画の見通しを持つことができる。保育における事故防止と安全対策について説明できる。保育における避難訓練の意義と具体的方法について説明できる。保育における感染症対策について説明できる。保育時に生起する事故やケガに対する具体的な対応能力（BLS:Basic Life Support）を身に付けるである。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもの理解と援助	一人ひとりの発達や個性に応じた指導や子ども主体の保育の基盤となる子ども理解の理論や方法を理解すること、多様な子ども理解、保育記録の方法を理解した上で、子ども理解とカリキュラムマネジメント（環境構成、指導計画、省察・評価、保育実践・援助）の関係について理解することを目指した科目である。幼児の遊びや生活の事例、動画等を題材にしながら、集団保育における多様な子どもの姿を理解し、その上で子ども理解やそれを基盤にした援助のあり方について理解する。また、ICT端末や保育業務支援システムを活用した保育記録の方法について理解し習得する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子どもの食と栄養（実習含む）	家庭や児童福祉施設での子どもの食生活の状況と課題を理解した上で、栄養に関する基礎知識、子どもの発育発達と食との関連、食育の意義や目的、特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養等の学習や実習を通して、子どもの食生活支援方法のあり方について考えることを目的とした科目である。子どもたちの食生活は、生涯にわたり心身の健康に大きく影響することが明らかにされている。さまざまな食育活動を通じて食の面白さ、食べることに楽しさを伝え、子どもたちの食生活の興味、関心を広げていく必要があるため、栄養学、調理学、食品学等の基礎的な知識や、子どもの身体発育・発達と理解し、子どもに教えられる基礎を身に付けることを目指す。また、保護者に対しても食生活支援ができる知識を身に付けることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会的養護内容	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の実際、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、そして社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について具体的に理解することを目的とした科目である。演習科目のため、ディスカッション、VTRの視聴・分析、ロールプレー等を通して社会的養護におけるソーシャルワークとケアワークの援助技術を習得する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	乳児保育Ⅰ	3歳未満児の保育の意義・目的、歴史的変遷及び役割のほか、保育所等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題、発達を踏まえた保育の内容と運営体制、職員間の連携や協働、保護者や地域の関係機関との連携について学び、理解することを目的とした科目である。また、基本的生活の内容と方法として、日課と睡眠、食事、排泄と着脱の自立について理解することのほか、子どもの発達に沿った遊びの展開について理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	乳児保育Ⅱ	乳児保育の考え方、歴史と制度、子育ての実態と保育所の役割を学び、広い視野から乳児保育のあり方を捉えることを目的とした科目である。子ども理解、乳児の発達と保育、乳児保育の内容・方法をより深く理解し、乳児保育実践のあり方を考えることを目指す。具体的な目標としては、乳児保育の歴史、制度、社会的背景を理解し、広い視野から乳児保育のあり方を考察することができる。乳児と乳児保育のあり方についての理解を深め、乳児保育の理論と実践について自ら考察し、乳児保育実践のあり方を探求することができるである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育実習ＩＡ（施設）	児童福祉施設での現場実習を通して、子ども理解を深め、施設の機能・役割、保育士の職務内容を理解し、保育士として必要な知識、技術、関連知識に関する理解を深めることを目的とした科目である。具体的な目標としては、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶである。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育実習指導ＩＡ（施設）	保育実習指導ＩＡ（施設）は、子ども支援学専攻カリキュラムにおける最初の本格的な実習である保育実習ＩＡ（施設）の事前・事後指導を行う科目である。実習施設は「養護系」と「障害系」とに大別されるが、施設種別は多岐に渡り、同じ種別であっても施設ごとに様々な特徴があるため、自身の実習機関のみならず、他の学生の実習機関についても学び、幅広い知識と技術を身につけていく。目標は以下のとおりである。１）保育実習の意義・目的を理解する。２）実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。３）実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。４）実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	教育心理学	子どもたちの教育に関わる上で，彼らの心身の発達や学習過程を理解すること、また特別な支援ニーズを有する子どもたちについて理解を深め、その対応を考えることは極めて重要である。本科目では、子どもたちを援助する際に必須の心理学的知見を取り上げ、理解を図ることを目的とする。さらに授業全体を通して近年の教育現場の抱える問題とその具体的な事例に触れることで、本授業で取り上げた心理学的知見の活用の在り方及び方法について認識を深めることも目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学的基礎知識を習得し、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解を深めることを目的とした科目である。子育て家庭に生じるさまざまな問題状況にかかわる心理学的知見を学ぶ。また、子どもや保護者の精神的健康、社会的健康にかかわる課題について理解し、保育者として子どもとその家庭を包括的に支援する視点を習得する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育内容の指導法（言葉）	乳幼児は、身近な大人や友達とのかかわりの中で、様々な手段を使って自分の内面を表現する。それらすべての手段を「言葉」として捉え、保育者として必要な視点、保育内容、保育方法等を「言葉」に焦点を当てて学ぶことを目的とした科目である。具体的には、①幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域「言葉」のねらいや内容について理解する。②子どもに対する関わりや子どもの内面の捉えについて事例を通して考え、その方法について知る。③子どもの言葉の獲得や人とかかわりの発達について考え、理解する。④保育内容としての絵本・紙芝居等の保育文化財の特色について理解し、それらを活用した保育展開を具体的に知る。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育内容の指導法（健康）	運動・栄養・休養の観点から、保育を構想する実践力の獲得を目指す科目である。具体的には「運動遊びを巡る指導」「食を巡る指導」「生活リズム・基本的生活習慣を巡る指導」についてアクティブラーニングを取り入れながら，体験的に学ぶ。その上で、保育実践における「課題設定理由」「ねらい」「内容」「評価」といった一連のPDCAサイクルの重要性を考慮した運動遊びプログラム作成を実施することによって、高次の実践的指導能力の育成する。また、独楽・ベーゴマ・竹馬といった伝承遊びの基礎的技能の修得を通して、運動遊びを通した多面的発達について考察を深める。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育内容の指導法（人間関係）	幼稚園教育要領および保育所保育指針等における領域「人間関係」のねらいと内容を学ぶことを目的とした科目である。また、実践事例を通して、子どもの具体的な姿からいかに人とのかかわりの育ちを捉えるのか、その育ちを支える保育者の役割と具体的な援助のあり方とはどのようなものかについて探究する力を養う。特に以下のことを目標とする。「人間関係」という領域について，そのねらいと内容を説明できる。乳幼児における人とのかかわりについて，発達過程をふまえた援助内容を説明できる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育内容の指導法（環境）	子どもたちが自ら育つ環境をどう構成していったらよいのか、具体的な実践事例や、実際に保育現場に足を運ぶことで得た情報等から考えていくことを目的とした科目である。安心・安全かつ子どもの思いを十分に満たし、生活に取り入れていける力を養う環境づくりを学ぶ。子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境や幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示される領域「環境〕を理解し、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識と保育の教材作成や環境の構成、具体的な展開のための技術を実践的に習得する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育内容の指導法（音楽表現）	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「表現」のねらいと内容について理解を深めることを目的とした科目である。「子どもと表現Ⅰ」「保育音楽表現技術Ⅰ」で修得した知識・技術を基盤として、表現を柱とした保育・指導計画の立案および模擬保育を行う。さらにディスカッションを通して保育内容・方法を省察し、子どもの心身の総合的な発達に寄与する表現教育のあり方について考える。また、乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、保育内容の各領域を総合的に捉え、表現活動を中心に乳幼児の実態に即した保育内容の展開や指導法を実践的に学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育内容の指導法（造形表現）	造形的な表現に着目して保育内容の展開や指導法について学ぶことを目的とした科目である。様々な表現のツールを用いて乳幼児の表現の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、保育を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。具体的な目標としては、領域「表現」のねらい及び内容、全体構造について造形表現の視点から理解を深める。造形表現の視点から、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。造形表現の視点から幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点、評価や小学校の教科等とのつながりを理解している。情報機器及び教材の活用方法の重要性を理解し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育の向上に取り組むことができるである。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	ソーシャルワーク理論や支援過程やソーシャルワークの実践モデル・アプローチ、ソーシャルワークの過程と知識と技術（面接技術他）について理解をする科目である。さらに、地域におけるソーシャルワーク・ケアマネジメント、そして職種間連携の方法や、スーパービジョンの方法についても触れ、実践的なソーシャルワーク方法論について講義を行うとともに、いくつかの実践事例を講義で扱い、ソーシャルワーク実践についての理解を深める。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	本講義は、ソーシャルワークの理論と方法を学び、ソーシャルワークの概念の基盤を学び、ソーシャルワークの形成過程を理解し、ソーシャルワークの理念について、事例を通して学ぶことを目的とする。講義にあたっては、「人間：環境：時間：空間の交互佐用」というキーワードを機軸にして教授する。社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、①より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する、④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会福祉調査の基礎	本科目では、福祉社会をデザインしていくためにはある程度においてその社会を理解しなければスタートできないということ、社会調査は社会を理解するための有効な方法となるということを踏まえ、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶことで、社会福祉の実践における調査の意義、社会調査、社会福祉に関する調査を概観しつつ、その理解を深めることを目的とする。実際に調査を実施するための方法について学ぶことで、社会調査の知識と技術を身につけることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	本科目では、社会福祉の専門援助技術を、具体的な援助場面や事例を想定した実技指導を中心とした演習形態により、習得すること、社会福祉援助技術に関する講義と関連させながら実践的な直接援助技術と間接援助技術の基本を習得すること、具体的な援助事例を体系的に取りあげ、社会福祉援助技術をその援助過程を含めて具体的に理解すること、演習を通じて「人権尊重」「権利擁護」「自立支援」といった概念を理解するとともに、技術として実践する方法を習得すること、さらに、「在宅・地域での生活支援」に関する支援実践も理解することを目的として授業を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	保健医療と福祉	本科目では、保健医療の動向を学ぶことに加え、保健医療政策や制度、保健医療サービス、あるいは保健医療におけるソーシャルワークと多職種連携協働の他、医療福祉問題と社会的な対応及び個別的支援のあり方等保健医療と福祉全般についてを学習し、理解することを目的としている。また、それらの理解を通じて保健医療政策・制度全体への学びを深めると同時に、歴史的な医療福祉問題と社会的対応、及びソーシャルワーカーをはじめとした、様々な職種による支援のあり方を学習する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	社会福祉士国家試験受験資格取得のための実習関連科目である。「社会福祉援助技術現場実習の手引き」（本学発行）に基づいて、現場実習の必要性、ソーシャルワークとケアマネジメント、ケアワークとの違いと実際、特定の分野の施設・機関を選定し、そこで実習をする意味、および実習を実施するにあたって学んでおくべき知識の整理をめざす。さらに、事前訪問や実習計画・実習記録の書き方等、実際の実習に必要な事項やスキルについても学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	高齢者福祉	少子高齢化の実態を理解するとともに、そこで起こっている高齢者関連のさまざまな諸相について学ぶ。高齢者の抱える生活問題に対応した老人福祉サービスや介護保険サービスについて理解し、高齢者及びその家族への相談援助のあり方についても理解する。老人福祉制度・介護保険制度の歴史と現在の概要だけでなく、高齢者虐待防止・高齢者医療・高齢者の住まい等の諸制度、高齢者の家族に対する支援の方法、関連職種の連携の方法等について講義を行い、高齢者支援において必要となる知識を習得させるものである。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	障害者福祉	障害のある人の生活を支えるという視点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病について、また、心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、自身と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を教授する。また、国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）に至までの経過・背景をふまえて理解を深め、障害福祉の思想、障害福祉制度を含めて広範な理解を促す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	権利擁護を支える法制度	障害者等の差別や虐待は、残念なことに後を絶つことがなく報告されている。また「障害」の概念や「障害者観」が以前とは変わりつつある今でも、関係者が知らない間に「差別」に結びついているケースも多く見られ、また社会の脆弱なシステムが「虐待」環境を生み出していることも多々あると考えられる。本科目では、なぜ今障害者等の人権や権利が叫ばれるのか、そもそも「障害」とは、「差別」「虐待」とは何なのか、といった障害者等における人権や権利擁護の問題と課題について、具体的な事例等について取り上げながら一緒に考え、知識や理解を深めることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	貧困に対する支援	社会福祉は貧困問題の克服をその課題としてスタートし、発展してきた。公的扶助はまさにこの貧困問題に対応する制度であり、社会保険とともに私たちの生活が困難に陥らないよう、また陥った時に最低生活を保障するために社会に埋め込まれているシステムの一つである。本講義では、「貧困」や貧困状態に置かれた人々の抱える問題について理解を深めた上で、公的扶助の具体的な制度である生活保護制度の仕組み・動向を把握し、公的扶助制度の現状と直面している課題を学ぶ。また、「第2のセーフティネット」と呼ばれる低所得層・生活困窮者に対する支援制度（生活困窮者自立支援法、生活福祉資金貸付等）や支援課題についても学習する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	刑事司法と福祉	本科目では、刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解した上で、社会福祉士及び精神保健福祉士の社会福祉専門職としての役割や、関係機関等との連携に関する基本的な知識を習得し、刑事司法の領域における社会福祉実践について学生自身の視点を身につけることを目指していく。具体的な内容として、現代社会における刑事司法の動向と、これを取り巻く社会環境の実態を把握するとともに、少年司法、更生保護制度、医療観察制度についてその理念を捉え、制度や手続き、担い手の役割等を学ぶ。さらに、犯罪被害者への支援についても理解することにより、刑事司法のさまざまな領域における社会福祉実践について、権利擁護、多職種・多機関連携の視点も踏まえて学んでいく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	すべての住民にとって諸活動に参加する基礎単位といえる地域社会について、生活を営むなかで様々な問題が発生どのような問題があるかを把握し、その発生の構造を理解したうえで、基盤としてのコミュニティが顕在的・潜在的にもつ問題解決能力を喚起しながら地域共生社会づくりを進める視点を養うため、地域福祉のステークホルダーである様々な専門機関・団体や公的機関、NPOやボランティア団体、当事者組織、地縁組織、住民等が、地域問題の解決にどんな役割を果たしているのかを学ぶことで、将来、社会福祉援助技術専門職となる者が知悉しておくべき知識を身につけることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	地域福祉の推進方法に焦点を当て、主にコミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークについて概説する。地域福祉の推進団体である社会福祉協議会等では、伝統的にコミュニティワーカーを配置し住民主体による地域の課題解決を促してきたこと、近年ではそれに加えて地域生活課題の複雑化・複合化の傾向を受けてコミュニティソーシャルワーカーの配置も進んでいること、地域共生社会の実現に向けてより多様な主体による多様なアプローチの開発が求められていること等を理解し、説明ができる能力を身につけることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	福祉サービスの組織と経営	本科目では、福祉サービスを提供する組織や団体を理解するとともに、施設・事業所の経営やサービス提供・開発における諸理論や、リスクマネジメントを含む福祉サービスの管理運営の方法を理解する。また、チームコミュニケーションと多職種協働、適切なサービス提供体制、働きやすい労働環境整備の実際について理解することで、社会福祉制度の転換期において、利用者に選ばれる高質なサービスを提供するために必要とされる福祉サービスの経営や運営管理の在り方について学習する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会保障Ⅰ	本科目では、①社会保障の概念や対象、理念について制度の展開過程、体系と概要について理解する、②社会保障制度の役割、意義、課題や財政について理解する、③社会保険制度だけではなく民間保険制度も理解し、その関係について学ぶ、④わが国だけではなく主要な諸外国における社会保障制度について理解することを目的とする。特に、現代社会における人口動態・経済環境・労働環境の変化を理解し、社会保障の概念・役割・意義・理念・対象等を学ぶ、社会保険と社会扶助の関係、社会福祉と社会保障の関係を理解し、公的保険制度と民間保険制度の関係を学ぶことを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	社会保障Ⅱ	本科目では、①社会保障の概念や対象、理念について制度の展開過程、体系と概要について理解する、②社会保障制度の役割、意義、課題や財政について理解する、③社会保険制度だけではなく民間保険制度も理解し、その関係について学ぶ、④わが国だけではなく主要な諸外国における社会保障制度について理解することを目的とする。特に、社会保障Ⅰで学んだことを基本として、我が国の社会保障制度の体系、医療保険制度、介護保険制度、年金保険志度、労災保険制度の社会保険制度の具体的な内容等を理解し、社会保障Ⅰで学んだ生活保護制度や社会福祉制度、社会手当制度の具体的内容の理解を俯瞰する。そのうえで、諸外国における社会保障制度の現状と課題を理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	特別支援教育・保育Ⅰ	近年、保育園・幼稚園等においては特別な支援を必要とする子どもが数多く在籍し、そのニーズはますます多様化している。子どもの発達に関わる専門職には、特別支援教育および障害児保育についての基本的な知識を習得していること、多職種とも連携しつつ子どもや保護者に対し適切な支援を行うこと等が求められる。本科目では障害のある乳幼児のニーズに合わせた支援を行う能力の獲得を目的とし、必要な基礎知識や支援の方法について学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	特別支援教育・保育Ⅱ	保育の場において、特別な支援を必要とする幼児の発達に基づいた援助を実践する能力を獲得することを目的とした授業である。特別な支援を必要とする幼児自身がもっている強みを伸ばし育むために、保育の場ではどのような援助が必要なのか。その実践には、障害に関する基本的知識や特別な支援を必要とする幼児の発達、幼児をとりまく環境の実態把握が欠かせない。具体的には、①障害に関する基本的知識および特別な支援を必要とする幼児の発達について学ぶ。②保育における事例をもとに，特別な支援を必要とする幼児やその家族，他児への援助について学ぶ。③家庭や地域の専門機関，学校との連携について学ぶことで、これらの基本的知識を習得しながら、根拠に基づいた援助内容について考察する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育実習ＩＢ（保育所）	保育所での現場実習を通して、子ども理解を深め、保育所の機能・役割、保育士の職務内容を理解し、保育士として必要な知識、技術に関する理解を深めることを目的とした授業である、保育実習指導ＩＢ（保育所）による事前指導をもとに、三年次8～9月に、原則12日間90時間以上の現場（保育所）において実習を行う。具体的な目標は以下のとおりである。１．保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ３．既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。４．保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育実習指導ＩＢ（保育所）	本科目では、保育実習ＩＢ（保育所）のねらいを達成するために、事前指導として保育所保育士としての職務内容、責任と倫理、乳幼児期の子どもの発達の理解、保育の理論や知識と実践の関係について、等これまでの学習内容を振り返りながら、現場での実習につなぐことを目的とする。また、実習後に個々の経験を振り返り、自己課題を発見し今後の学修につなげる。なお本科目の具体的な目標は１．保育実習の意義・目的を理解する、２．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする、３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する、４．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する、５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学修に向けた課題や目標を明確にする、である。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育・教育相談	学校や園における教育相談の基盤となる子ども観や子どもの発達支援にかかわる考え方を理解し、幼児児童生徒の発達の状況に即し、個々の個性や特質、課題を適切に捉え、人格の成長を支援するために必要な基礎的知識を学ぶことを目的とした授業である。保育・教育現場で直面する幼児及び児童生徒の問題を契機とした教育相談活動及びすべての幼児児童生徒の発達を支援し、人格の成長を図るために、教師が行う個人および集団への支援・援助活動について、その理論と方法を修得する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本に基づいた、乳幼児理解、応答的・対話的かかわり、環境構成の実際をエピソードや映像を通して理解することを目的とした授業である。乳幼児期の様々な教育方法について学ぶこと、乳幼児の理解に基づいた指導・評価の基本と具体的方法を学ぶこと、乳幼児の理解と指導の振り返りにおける情報機器の活用方法を学ぶとともに、情報機器を活用した保育記録作成方法を実践する課題に取り組む。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育指導法	保育の基本である「環境を通しての保育」についての知識を深めること、保育をする際に重視する事項である「幼児期にふさわしい生活の展開」「遊びを通しての総合的な指導」「一人ひとりの発達に応じた保育」についての知識を深めること、領域の各ねらい及び内容並びに全体構造を理解することを目的とした授業である。それぞれの視点をどのように保育実践の中で生かしていくのかを考えるとともに、実際に指導案を立案し、模擬保育を行うことができるようになる。さらに、幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価について知る。そのうえで幼児教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育カリキュラム論	教育課程・指導計画の重要性について、社会的背景や社会に果たしている役割や機能も含めてその理解を深めるとともに、保育の記録・指導計画作成のための基礎を学ぶことを目的とした授業である。また、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の計画、学校保健計画、学校安全計画等を関連させて、一体的に教育活動が展開されるよう全体的な計画を作成することの意義を学ぶほか、保育の過程、カリキュラムマネジメントの意義や重要性、その評価について、実際に指導案を作成することで考える。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育内容総論	園生活全体を通して総合的に指導するという保育の考え方を理解し、幼稚園・保育所・こども園等における指導の考え方を理解することを目的とした授業である。遊びや生活を通して、乳幼児がどう育っていくのか、育ちのプロセスについて理解すること、その育ちを援助する保育者の役割と、指導計画の考え方を理解すること、子どもの興味や関心、発達に基づき、教材を工夫し環境を通した保育を行うために、子どもを理解するために必要な基本的な事項を理解することを目指す。また、保護者、小学校、地域との連携のあり方について考える。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	現代のソーシャルワーク実践においては、ソーシャルワーカーは社会の中で複合化・複雑化した様々な福祉課題への対応が求められている。このような課題に対応するためにソーシャルワーカーは、様々なレベルにおいてクライエント、同僚のソーシャルワーカー、他機関のソーシャルワーカー、他分野の専門職、さらには専門職に限らない多様な主体との連携・協働を通じた包括的な実践を展開する必要があり、そのような包括的な実践に向けたスキルの習得が必要不可欠である。本科目では、このようなソーシャルワーカーに求められる多様な主体との連携・協働に向けた様々な技法やアプローチについて理解をすることを目指している。またディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに即して、個人の尊厳を重視し支援する能力や多様な人たちとコミュニケーションする能力を伸ばし、地域を基盤としたソーシャルワークを説明できることもその目的である。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	本科目では、ソーシャルワーク実践技術を習得できることを目的とする。ソーシャルワーク演習ⅠおよびⅡで習得した内容を基礎として、ソーシャルワークの実際の援助事例を体系的にとりあげる等して、その援助過程を含め具体的に理解するとともに、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ、フィールドワーク等）を演習形式で実施する。具体的な方法論別・課題別の事例を活用した援助場面を想定して、直接援助技術、間接援助技術、あるいは記録方法や評価・効果測定についての指導を行っていく。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	本科目では、ソーシャルワーク実習指導Ⅰに併せて、ソーシャルワーク実践の理論と技術の深化をめざすことを目的とする。具体的には、「社会福祉援助技術現場実習の手引き」に基づいて、現場実習の必要性、ソーシャルワークとケアマネジメントやケアワークとの違いと実際、特定の分野の施設・機関を選定し、そこで実習をする意味、およびそこで実習するにあたって学んでおかなければならない知識の整理をめざす。さらに、事前訪問や実習計画・実習記録の書き方等、実際の実習に必要な事項やスキル等についても学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	本科目では、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、Ⅱ及び実際の現場実習経験を受けて、事後指導として、さらにソーシャルワーク実践の理論と技術の深化をめざすことを目的とする。具体的には、「ソーシャルワーク実習の手引き」に基づいて、最初に現場実習の反省、ふり返り、特に実習中に受けたスーパーバイスやアドバイスの意味の確認や、実習中には解決できなかった疑問や問題の整理等を行う。次に、実習の成果について自己評価と実習先評価（他者評価）とについて考察し、実習報告書を作成する。さらに、今後の自己のためにも、後輩たちや実習先のためにも意義のある実習に関する報告会を行う。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習Ⅰ	本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための実習関連科目である。今日の社会福祉現場の現状と課題を学ぶと同時に専門職による援助活動の技術を習得することを目的に、各福祉分野の施設及び機関において60時間の実習を行うことで、以下の目標を達成することを目指す。１．社会福祉実践の施設・機関の現状について理解を深める。２．専門職の援助技術を学び、習得する。３．施設・機関と地域社会とのかかわりについて理解する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク実習Ⅱ	本科目では、今日の社会福祉現場の現状と課題を学ぶと同時に、専門職による援助活動の技術を習得すること、また各種の講義や演習で習得した価値観・知識・技術が実践の過程でどのように活用されているかを理解すること、併せて、理論と実践の統合を基軸として、記録の方法等に関しても理解を深めることを目的に各福祉分野の施設及び機関において実習を行う。具体的な目標は以下のとおりである。１．社会福祉実践の施設・機関の現状について理解を深める。２．専門職の援助技術を学び、習得する。３．利用者の生活困難や障害について理解を深める。４．施設・機関と地域社会とのかかわりについて理解する。５．専門職を目指す自己について理解を深める。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	子育て支援	幼稚園、保育所の重要な役割として、保育者による保護者支援、子育て支援が求められている。本科目では、保育実践において直面する子どもの問題状況を保育者がどのように捉え、理解し、適切な対応を選択していけばよいのか、幼稚園や保育所で日々展開されている保育相談支援の活動をもとに、保育者に求められる相談支援とその実際について学ぶことを目的とする。主に子育てに悩む保護者の支援および障害がある子どもや保護者への支援について、他の専門職との連携のあり方を含め、その基本的態度や方法を学び、事例検討、グループワークを通して理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育実習指導Ⅱ（保育所）	本科目では、保育実習ＩA（施設）・保育実習ＩB（保育所）の学びを基礎に、保育実習Ⅱのねらいを達成するために、事前指導として保育所保育士としての子ども理解、保育所の機能・役割、保育士の職務内容、保育士として必要な知識、技術に関する理解を深め、実践的力量を高めることと、これまでの学習内容を振り返りながら、現場での実習につなぐことを目的とする。保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価に実際に取り組み、子どもの観察や関わりの視点を明確にした実習を通して、保育所の役割と機能、子どもの保育及び子育て支援、保育士の職務内容、職業倫理についての理解をより深め、自己の課題を明確化することを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育実習指導Ⅲ（施設）	本科目では、保育実習ＩA（施設）・保育実習ＩB（保育所）の学びを基礎に、保育実習Ⅲのねらいを達成するために、事前指導として児童福祉施設保育士としての子ども理解、施設の機能・役割、施設の職務内容、施設保育士として必要な知識、技術に関する理解を深め、実践的力量を高めることと、これまでの学習内容を振り返りながら、現場での実習につなぐことを目的とする。児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解すること、また、子ども家庭福祉・社会的養護・障害児支援に対する理解をもとに保護者支援・家庭支援のための知識・技術・判断力を家庭と地域の生活実態にふれて修得すること、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解すること、実習における自己の課題を理解することを目的とする。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育実習Ⅱ（保育所）	保育実習ＩA（施設）・保育実習ＩB（保育所）の学びを基礎に、子ども理解、保育所の機能・役割、保育士の職務内容、保育士として必要な知識、技術に関する理解を深め、実践的力量を高めることを目的とした科目である。保育実習指導Ⅱ（保育所）による事前指導を元に、四年次8～9月に、原則12日間90時間以上の実習を保育所において行う。保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価に実際に取り組み、子どもの観察や関わりの視点を明確にした実習を通して、保育所の役割と機能、子どもの保育及び子育て支援、保育士の職務内容、職業倫理についての理解をより深め、自己の課題を明確化する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育実習Ⅲ（施設）	保育実習ＩA（施設）・保育実習ＩB（保育所）の学びを基礎に、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解すること、また、子ども家庭福祉・社会的養護・障害児支援に対する理解をもとに保護者支援・家庭支援のための知識・技術・判断力を家庭と地域の生活実態にふれて修得すること、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解すること、実習における自己の課題を理解することを目的とした科目である。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）	教育実習Ⅲは、学内における事前・事後指導および、学外での教育実習（4週間）への参加をもって、履修と認められる科目である。事前指導においては、子ども理解を基本として、実習生として幼稚園の現場での保育の営みに参加をする際に、必要となる基礎的態度や技術を身につけることを目的とする。 学外での4週間にわたる教育実習においては、実際の幼稚園での保育のあり方（環境を通しての保育・幼児期にふさわしい生活の展開・遊びを通しての総合的な指導・一人ひとりに応じた保育）を、体験を通して学ぶことを目的とする。事後指導においては、実習後各々の体験について振り返りをし、全体での話し合いの中で、さらにその学びを深めていく。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育・教職実践演習	４年間の学びの軌跡を振り返り、保育士、幼稚園教諭に求められる資質・能力に対する自己の課題を明確にするとともに、実践的な基礎力を身につける。また、保育、幼児教育を取り巻く現代的課題を理解し、問題解決に向けた取り組みについて探究することを目的とした科目である。また、幼稚園教諭、保育士に求められる以下の資質・能力について、自己の課題を明確にするとともに実践的な基礎力をつける目指す。１.幼稚園教諭・保育士としての使命感、責任感、教育的愛情等、２.社会性や対人関係能力、３.乳幼児理解や学級経営等に関する能力、.保育内容に関する指導力、である。なお、保育・教育の現場について十分に把握できるよう、現職の幼稚園教諭・保育士またはその経験者を招き、指導を受ける機会を設ける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	音楽表現専門演習	諸外国の幼稚園教育要領や保育所保育指針に該当する規準の音楽表現領域について確認することで、諸外国における幼児教育のねらいと内容について調査し、その理解を深めることを目的とした科目である。また、諸外国の音楽領域の保育・教育実践に関する文献から、海外における音楽教育研究の動向を知ると共に、それぞれの文化が持つ特有の問題への理解を深めること、また、音楽教育の本質的問題についても理解を深めることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	発達心理学専門演習	英文で作成された諸外国の論文の精読を通して、海外における乳幼児期の子どもの心の発達を学ぶほか、認知発達や社会性の発達に関する理論、最新の研究動向の知見を得ることを目的とした科目である。また、本国および諸外国における、発達心理学領域における様々な研究手法を学ぶことも目指す。加えて、発達心理学領域にて利用される基礎的な統計の理解を深めること、統計読解能力および、自身で統計結果を示すことができる能力の獲得も目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育音楽表現技術Ⅰ	「子どもと表現Ⅰ」で修得した知識・技術に加えて、より実践力の向上を目指す。具体的には、子どもの音楽的な発達や表現の特性を踏まえた上で、ピアノ及び歌唱の実技の習得により、保育の現場で、音楽活動を充実させ、子どもとともに音楽を楽しむための応用力を身につけることを目的とする。また、音楽理論に関する基礎知識の定着を図る。具体的には、音楽理論の基礎を習得したうえで、子どもの音楽表現を支え、促進するための基礎的技能を身に付ける。さらに子どもと音楽の関わり、音楽表現について理解を深めるである。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	保育音楽表現技術Ⅱ	「子どもと表現Ⅰ」で修得した知識・技術に加えて、より実践力の向上を目指すことを目的とした科目である。具体的には、子どもの音楽的な発達や表現の特性を踏まえた上で、ギターや保育現場で活用できる楽器の実技の習得により、保育の現場で、音楽活動を充実させ、子どもとともに音楽を楽しむための応用力を身につけることを目的とする。具体的な目標は、音楽理論の基礎を習得する。子どもの音楽表現を支え、促進するための基礎的技能を身に付ける。子どもと音楽の関わり、音楽表現について理解を深めるである。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	音楽あそびの実践	乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、子どもの実態に即した保育内容の展開や指導法を実践的に学ぶ。また、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「表現」のねらいと内容を理解し、あそびや表現についての発展的理解を目指す。また、子どもの音楽的な発達や表現の特性を踏まえた上で、保育の現場での音楽活動を充実させ、子どもとともに音楽を楽しむための応用力を身に付けることを目的とする。具体的には、子どもを対象とした音楽劇の創作を通して総合的な表現活動の実践力を身に付けるとともに、表現する楽しさを味わうことを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	体育あそびの実践	本科目は、3つの柱（①プレーパーク見学、②保育所年中・年長児の運動保育実践の展開、③自然体験活動の展開）で構成する。「自分の責任で自由に遊ぶ」というスローガンのもとに展開されている①では、プレーパークを見学し、遊びのリスクとハザードについて考えていく。②では近隣園の園児を招き、受講生で運動遊びプログラムを展開し、実践に対する事後省察を行う。③では自然体験活動は、1泊2日の日程で幼児を対象にした自然遊び、野外調理等を行い、具体的な展開方法について学んでいく。これら3つの活動を通して，日常保育の枠を越えて，現代の子どもに不足している体験について洞察を深め、現代の暮らしの中の必要な保育視点を明らかにしていく。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	造形あそびの実践	本科目は、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について造形表現の視点から一層理解を深める。造形表現の視点から幼児の発達や学びの過程の理解を深め、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想し、造形あそびを通した総合的な指導の実践力を修得することを目的とした科目である。講義・演習と作品制作を通して、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を学ぶこと、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付けることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	本演習の目的は、これまで学んできたソーシャルワーク演習Ⅰから Ⅳまでの演習で習得した内容を基本にし、その具体的な応用として学生自身が取り組んできた社会福祉現場での実習等を事例に、実習での学びをソーシャルワークの立場から、さらに深めていくことである。また、各受講者が3年次のソーシャルワーク実習Ⅱで学んできた「個別援助」「集団援助」「地域援助」「スーパビジョン」等の内容を、福祉事務所等の公的機関、知的障害施設や身体障害施設の障害者分野、高齢者施設等の高齢福祉分野、児童養護施設等の児童福祉分野、社会福祉協議会等の地域福祉分野での実習事例等を用いて、スーパビジョンを含めたソーシャルワークを具体的かつ総合的に理解することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	哲学・思想		哲学	普段当たり前と見過ごしていることを問い直す、これが哲学の出発点である。映像作品の一場面から「問い」を設定し、その「問い」に対する自分の考えをまとめあげることで、問いかけを深め、考え方の幅を広げる。また、哲学という営みの背後にある人間の文化を理解し、それを探求していく。これらを通して、柔軟な感性と思考力を開拓し、様々な学問的アプローチの可能性を見いだすための手がかりに繋げる。	
基盤教育	哲学・思想		生命と倫理	現代社会における生命をめぐる諸問題に目を向け、どこが問題なのか、当事者や医療従事者の立場、価値観等を整理し、様々な視点、論点の理解を目指す。倫理問題を考える上での基本的なルールについて触れた後、生命にまつわる具体的な事例を紹介していく。自分と身近な人々、社会と自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えるとともに、その過程において倫理とは何か、生命と倫理のあり方について検討する。	
基盤教育	哲学・思想		宗教学	キリスト教を一つの素材として取り上げ、宗教が人々の心にどのように向き合ってきたかを辿る。ひとつの宗教が生と死、善と悪、神の存在と不在についてどのような思想を展開したかを辿り、自分自身がどのように考えるかの視点を見つけ、自らの言葉で表現できるようになることを目指す。宗教という営みの背後にある人間の文化を理解し、現実社会における宗教のありよう、それを探求する様々な学問的アプローチの可能性を見いだす手がかりが得られるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	日本文学	宮沢賢治の代表作を読み解くことで、作者の考え方や人々の生活や生き方、時代や風土についても学び、「自分らしく生きる」ことや「本当の幸せとは何か」について考える。そして、大学生として相応しい思考力、豊かな感性を養い、人々の豊かな生活を支援できる人材となるための基盤を身につける。また、「読む・書く・話す」力、語彙力、豊かな表現力の習得も目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	外国文学	世界各地の小説や詩、演劇、評論等の文学作品について、文化や歴史といった側面から鑑賞・分析することを目的とする。様々な時代背景とテーマを持つ文学作品の中にあらわれている、人間や社会状況、地域性や価値観等を注意深く観察することで、国内外の社会における課題等への意識を高める。作品の内容や作家について理解を深めることで、自分自身の文化に対する考えについても、意見を整理して表現することができるよう意識を高める。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	歴史学	グローバル化が進んだ現代は言うまでもなく、古くは石器時代、縄文・弥生の時代から日本は海の向こうの外国と交流を持ち続けている。江戸時代の鎖国の時期であっても、外国との交流が途絶えたことはない。日本の近世・近代史を中心に学ぶ一方で、日本に少なからず影響を与えた外国の歴史も積極的に取り上げながら、日本が世界とどのように関係し、発展してきたかを学ぶ。あわせて、世界と日本の歴史的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	美術一般	ヨーロッパ近代美術の流れを辿り、新しい美の可能性を追求した人々の活動に触れる。美術は色や形という感覚的な素材によって成り立っており、素材の組み立てそのものには構造があり、論理がある。思想があり、物語がある。そこには作家の人生観や自然観や世界観までも表出されている。近代美術に様々な足跡を残した人々の作品をスライドで鑑賞し、色や形が語る言葉を読み解くことから始め、美術表現の可能性を無限大に感じとることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	音楽一般	ヨーロッパにおける音楽の豊かな流れの源には、様々な楽器を基にした各地の民族音楽があり、一方には、地域の違いを越えてキリスト教の信仰に仕えてきた教会音楽とがある。これらの伝統に培われて古典（クラシック）音楽が花開き、大衆（ポピュラー）音楽が歌い継がれ引き継がれてきた。ヨーロッパやアメリカの様々な音楽を聞き、それを生み出した人々と、それを取り巻く風景や街並み等をスライドやDVDで訪ね、音楽表現の可能性を無限大に感じるとともに、音楽という営みの背後にある人間文化の理解も目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学	文化人類学	文化人類学は、様々な民族や文化圏の生活様式を対象に未開と文明を比較し、人類の文化の共通性、異質性、多様性を知る学問であり、私達が日常「当たり前」としているものに、新たな見方をもたらしてくれるものである。文化人類学の初学者のための学びと位置づけ、私達のものの見方を刷新した人類学者の経歴等からそれらを知ることを通して、その考えが生まれた背景を知り、その意義を考えることを目的とする。自らの見方を広げていけるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	社会科学	経済学	経済学は、日々の生活において様々な資源の制約における人間行動を分析する研究分野であり、個人の生活レベルから一国全体、更には国際経済に至るまで、様々なレベルで相互に影響を与えつつ営まれる。経済学の基本的な考え方、経済モデル、金融市場等、基礎的なマクロ経済理論を学ぶことによって、経済の仕組みや制度を理解し、現代の市場社会が抱える課題を考えるための手がかりや複雑な経済を自分で考える見取り図を得ることを目指す。その際、日本経済に大きな影響を与える国際経済についても触れることで、日本経済が世界経済とどのように関係しているかを学ぶ。あわせて、世界と日本の経済的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	経営学	経営学の基礎的な概念や理論を理解し、現実の経済や経営に対する関心と問題意識を育てることを目的とする。多くの経営理論は、経営という現象のある断面図を示したもので、見る位置により時代の背景や理論の前提がある。それらを客観的に評価し適切に位置づけることで、よりダイナミックな経営学の構図を掴むことができるようになる。これらを念頭においた上で学びを進め、経営学の基本的用語から企業のあり方、マネジメントやマーケティングの知識と考え方を身につけるとともに、経営学を通して現代社会が直面する様々な問題を理解する知性を培うことを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	法学	日常生活を送る上で最低限知っておくべき法学の基礎知識を習得することを目的とする。我々の生活の中で遭遇する多くの事柄は法律と密接な関係を有するものであり、法律の知識が役立つことが多いのも事実である。そこで、日常生活における様々な法律問題に焦点を当て法の仕組みを学んでいく。裁判制度や三権分立制、基本的人権、犯罪と刑罰に関する、基本的な知識を習得するとともに、民法や現代の様々な社会問題とそれに関する法、社会問題と法の関わり方についての総合的な理解を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	政治学	私達の生活・権利・生命を大きく左右し得る政治のあり方について学ぶことを目的とする。日本を軸に民主政治の基本的な仕組みを学びつつ、民主主義の課題や可能性について、様々な政策を取り上げながら理解していく。また、国際比較の観点から、国ごとに異なる国家統治の仕組みや制度についても触れ、世界からみる日本の政治や政策のあり方を理解する。これらの政治学的な視点を応用し、日本の少子高齢化問題や介護福祉問題等の目の前の問題から世界の平和を危うくする紛争・難民問題といった政治現象の背景についても視野を広げ考えることができるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	地理学	現代世界の地域的特徴を理解し、人々の生活との関係を明らかにしていくことを目的とする。日本の地理的特徴、都市構造と生活空間との関わり、地域的課題等について、具体的な事例を交えながら紹介していく。また、日本国内に留まらず海外にも目を向け、各国と日本の地理的構造の違いやそれによって生まれる影響についても学ぶ。国際的観点からみた日本の地域的特徴を理解していくことで日本への理解や関心を深めるとともに、世界各国への関心も高めることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	社会学	社会学的発想、現代社会で起きている事象、社会学における現代社会の捉え方の3点を軸にして、社会学に固有の発想と視点を学ぶ。社会学の視点を通すことで、眼前の様々な事象がどのように違って見え、何が浮かび上がってくるか、歴史的な文脈も踏まえつつ、幅広い具体例を取り上げ、現代社会の基礎的問題を理解し、問題について自ら考え対応していける力を養う。また、様々な文化や価値観を背景に持つ人々と相互に尊重し合い、繋がり合い、共生し得る社会を作り上げるための、柔軟・寛容かつ多元的な視野を養う。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	心理学	心理学の基礎的知識を学ぶとともに、臨床心理学的視点についても詳しく学んでいく。心理学の成り立ちや歴史、パーソナリティの理解、認知メカニズム・思考過程・記憶・感情等について学んだ上で、子供・高齢者・障害者といったあらゆる対象をめぐる社会問題や障害について心理学的に理解し、その対応策の知識を習得していく。それぞれの対象と自己の理解、心理的援助技法にも重点を置きながら学びを進め、人間関係とコミュニケーションの基礎的な知識の習得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	社会科学	統計学	統計学の基礎を学ぶことを目的とする。アンケート、体力測定、試験結果等、私達は日々いろいろなデータに囲まれて生活している。それらの集められたデータに意味を持たせることが統計学である。基礎統計量の計算、標本と母集団の関係、母平均と母比率の区間推定、検定の考え方等を学び、データをグラフにしたり、データの特徴的な値を求めたりすることで、データの性質や意味を知り、データを活用するための基礎的知識を身につける。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	数学	高校時代までの数学を簡単に復習した上で、大学での学びに必要な数学の基礎についての学びを展開していく。具体的には、数と式、方程式、二次関数、微分・積分の考え方、統計（基礎統計量、ヒストグラム、累積度数分布表、累積度数グラフ、代表値とバラツキの指標、箱ひげ図、散布図、相関係数、回帰直線等）について学ぶ。これらを理解することで、基礎的な数学の知識を習得し、デザインやものづくりに応用できる能力の修得を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	物理学	自然科学の中で最も基本的な力学を用いて物理的な手法を理解し、具体的に計算できるようになることを目的とする。物理量と単位の基本から、直線・放物・円運動、運動の法則と力の法則、力と運動（摩擦、抵抗）、仕事とエネルギー（仕事、エネルギー保存則）、単振動、質点系の重心、運動量と角運動量、質点の角運動量と回転運動の法則、剛体の力学等を取り上げる。現実の現象を数学を用いてモデル化する方法を会得し、活用できるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	現代化学	化学の進歩により高度な化学素材が開発され、それらが種々の製品に応用され我々の日常生活で利用されている。この結果、快適な生活空間、高度な健康管理、世界的な情報ネットワーク環境等を実現している。そこで、化学物質の構成や要素からそれら物質の応用技術までを学び、日常生活に広く利用されている材料から最先端材料までの理解を目指す。まず、原子の構造と周期律等の化学の基礎を理解した上で、衣・食・住の中に化学がどのように関わっているのかを知り、成長産業であり材料開発が重要な要素である電子材料等、日常生活と深く関わっている化学物質や製品の基礎的な知識を修得する。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	生物学	原始生命の誕生から長い進化の道のりを経て、現在の多様性にあふれた生物種へと進化しているの中で、ヒトは、様々な産業を興して地球上で最も高度に繁栄している生物種となっている。生物学の様々な分野（微生物学から分子遺伝学）についての基礎を広く学び、近年盛んに産業利用されているバイオテクノロジーの技術についても微生物から動物分野について幅広く学ぶことを通して、現代生物学の全容を理解し、今後の生物学のあり方について考察する力を身につけることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ａ	情報社会が成熟し、インターネット等を通じて容易に外国の情報が入手できる現代社会において、異文化への理解は以前よりも格段に進んでいる。一方で、日本人が日本の文化（自文化）を正しく理解し、外に向けて発信できているかといえば、甚だ心もとない。真のグローバル人材となるためには、まず日本の文化を正しく把握することが必要である。経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から日本を知り、日本および日本人の優れた点（ジャパナビリティ）についても学修する。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｂ	世界の人口の約60%、世界のGDPの約50%を占めるアジア地域は、現在、世界で最も勢いのある地域と言うことができるであろう。アジア地域の幾つかの国を取り上げ、その経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から文化や、その背景について学修する。その国が置かれた状況や、今後の見通しについても考えていく。その上で、世界の中での今後のアジアの位置付け、役割についても考えていく。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｃ	イスラム教は世界の三大宗教の一つであり、その信者（ムスリム）は18億人以上と言われている。にも関わらず日本人にはなじみの薄い宗教であり、イスラム社会、イスラム文化についての理解も十分ではない。また、同じイスラムといっても原理主義の国から、現実的な路線を歩む国と一様ではない。人口減少により労働力人口が不足し始めている日本に、今後、イスラム社会からの人口流入が増加していくことは間違いがない。幾つかの代表的な国を取り上げ、イスラム社会、イスラム文化を正しく理解することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｄ	キリスト教は世界の三大宗教の一つであり、その信仰者は約23億人と言われている。日本人にもキリスト教徒は少なくないが、日本人がキリスト教社会を正しく理解しているかと問われれば、十分ではない。また、同じキリスト教といってもカトリック、プロテスタント、ギリシャ正教、ロシア正教と多種多様であり、キリスト教は欧米だけの宗教ではない。グローバル化が進み、キリスト教社会と付き合う機会は更に増えていくであろう。幾つかの代表的な国を取り上げ、キリスト教社会、キリスト教文化を正しく理解することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究Ｅ	2050年には、世界のほとんどの地域で人口の減少期を迎えるといわれている中で、アフリカだけは21世紀後半まで人口が増加すると予想されている。長期的に見て最も成長が期待される地域がアフリカであろう。そこに着目した中国は、技術供与、借款等を通じでアフリカへの接近を積極的に進めている。一方、一般的な日本人にとってアフリカは決して近い国ではない。幾つかの代表的な国を取り上げ、かつての宗主国との関係、民族構成とそれに伴う課題、産業化・近代化の動き等から、現代のアフリカの文化について学修する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	英語および英語圏社会事情	英語圏に関する理解を目的とし、各国の社会事情や多様な文化の側面を探求し、議論を行う。各国の類似点と相違点を詳細に調査・比較することで、それぞれの特性を理解し、グローバルな見解を深めていく。また、国際ニュースやトピックについても取り上げ、時事英語を通して英語や海外への興味・意識・理解に繋げていく。英語圏における社会的、言語的側面の詳細をより正確に理解するとともに、日本との関係の理解も目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	中国語および中国語圏社会事情	中国の人々の日常の暮らしのあり方と、そこに表れたライフスタイルや価値観・行動様式は、数千年にわたる連続的な文明の生成・変容と、多様性に富んだ風土・民族・文化の複合・交錯、更には激動の近現代史の流れにより、複雑に形作られてきた。まずは「中国」という地域世界の歴史的な成り立ちと、そこに内包された地理的・文化的・文明的な多様性と複合性、そして、その多様かつ複合的な地域世界を一つにまとめあげてきた「伝統」の諸側面について、基本的な知識を身につける。そして、中国の社会と文化、日本との関係についても理解を深め、歴史から現代を多面的に考えるための視点を養う。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	フランス語およびフランス語圏社会事情	フランス語圏に関する理解を目的とする。フランス文化の様々な魅力を探りつつ、フランス人の考え方や感じ方、社会事情にも触れていく。画像PDFを用いてフランス文化の様々な姿に触れつつ、相対的な目でフランス文化を捉えていく。他国の文化との比較を通じてひとつの国の文化を学ぶ意義を見つけられるようにする。更にグローバリゼーションに向かう現代社会の動向について考える姿勢とグローバルな視野の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	多様な文化が共存するヨーロッパの中でも中心的な文化圏のひとつが、ドイツ、オーストリア、スイスをはじめとするドイツ語文化圏である。そこで暮らしている人々の言語と社会、文化、風土等について学び、コミュニケーションの土台となる知識と、初歩のドイツ語会話力を身につけることを目的とする。基本的なドイツ語の理解と、ドイツ語圏の社会や文化についての知識を深め、日本との違いを考えられるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	韓国語および韓国語圏社会事情	韓国や北朝鮮の言葉である韓国語と、現代韓国における社会や文化の事情について幅広く学ぶことを目的とする。韓国文化と不可分の言語を知ることは、韓国の生活習慣や信仰、社会を知り、世界観を的確に理解する上で有用である。ハングル文字の基礎的な語学スキルを獲得した上で、韓国の社会事情や現代文化、歴史等についてを学ぶ。韓国人や韓国の小説、映画等に触れた際に、そこに映る韓国人の世界をより深いレベルで理解し、説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	留学のすすめ	グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。そこで、大学生がどのように国際的なキャリア形成を目指すべきかを学ぶことを目的とする。様々な業種、職種において傑出したプロフェッショナル、企業で先端的な人材発掘をしている専門家等を招聘し、国際水準のキャリア形成、実社会におけるキャリア開発について実例をもとに紹介する。国際的な企業・組織における人材の動向、キャリア形成に求められる知識・経験・語学力について世界的な傾向を概観するとともに、留学（特に大学院留学）がキャリア形成に果たす役割についても学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	異文化理解概論	グローバル社会における異文化理解や異文化間コミュニケーションを目的とする。多文化社会に関連するトピックを調べ、様々な文化的背景や理解を持つ学生と交流することにより、グローバル社会でのコミュニケーションに役立つ基本的な概念やフレームワークを理解する。ケーススタディやディスカッションを通じて実践的な知識、スキル、視点の習得を目指す。日本文化と他文化の行動や価値観との違いを理解し、有用な異文化間コミュニケーション技術の習得と異文化環境での能力向上に繋げる。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する海外研修の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。海外研修に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外研修Ⅱ	「海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。2回の海外研修を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する海外実習の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外実習Ⅱ	「海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。2回の海外実習を通じて、1回目と2回目の海外研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外研修の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅱ	「短期海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅲ	「短期海外研修Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。3回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外研修Ⅳ	「短期海外研修Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。4回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外実習の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅱ	「短期海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目の海外実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅲ	「短期海外実習Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。3回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	短期海外実習Ⅳ	「短期海外実習Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。4回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ＩＡ	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのライティングスキルを向上させる。「英語ＩＡ・ＩＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ＩＢ	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのパラグラフライティングやエッセイライティングのスキルを修得する。「英語ＩＡ・ＩＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅡＡ	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅡＢ	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅢＡ	「英語ＩＡ・ＩＢ」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、分析的な読解力を身に付けるためのリーディングスキルを向上させる。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表明するエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅢＢ	「英語ＩＡ・ＩＢ」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、予測力を活用したリーディングスキルを向上させる。更に、自分の考えを論理的構成でまとめるためのエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅣＡ	「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングやスピーキングのエクササイズを通して、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルを高めるだけでなく、リスニングの内容を論理的に分析・理解する能力を向上させる。	
基盤教育	国際人の形成	語学	英語ⅣＢ	「英語ⅡＡ・ⅡＢ」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニュケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングエクササイズを通して、より高度なシスニングスキルの向上を目指すだけでなく、目的別ディスカッション・プレゼンテーションのスキルを高める。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ＩＡ	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills ＩＡ・ＩＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ＩＢ	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills ＩＡ・ＩＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ⅡＡ	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills ⅡＡ・ⅡＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Intercultural Communication Skills ⅡＢ	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills ⅡＡ・ⅡＢ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	English Test Preparation Ⅰ	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身につける。「English Test PreparationⅠ・Ⅱ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	English Test Preparation Ⅱ	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身につける。「English Test PreparationⅠ・Ⅱ」を配置し、１年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	中国語Ⅰ	日本人にとって中国語は、他の外国語にはない特殊性を持っている。歴史を踏まえて、まずは中国語を外国語として学ぶことを徹底し、中国文化を異文化として深く理解するための基礎を作る。中国語の発音表記のためのローマ字表記「ピンイン」と発音、意味の識別に重要な4つの声調の区別を身につけ、中国語の聴く力、話す力を身につけるための基礎を養う。その上で、最も基本的な構文と文法事項、そして「実際に使える」初歩的な表現・フレーズの習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」で学んだことを復習し、基礎を固める。その上で、少し複雑な表現を習得し、中国語を母語とする相手と一定のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。できるだけ正しい「通じる」発音ができるようになること、初歩的な構文をマスターし、中国語を母語とする相手と、最も初歩的な日常会話レベルのコミュニケーションが取れるようになること、会話力だけではなく、中国語の「注意書き」やツイート程度の短い平易な文章を、辞書を引きながら読み取る能力を身につけることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	フランス語Ⅰ	フランス人と簡単な会話ができ、同世代のフランスの学生達が興味を持っていることに共感できるような会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を目指す。毎回テーマを設定し応用文をフランス語で書くとともに、それを正しく発音できるようにする。更にロールプレイも実施する。基礎の文法や単語、自己紹介で用いる表現等を学び、フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」を基礎として、会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を深めることを目的とする。フランス語Ⅰの学習を復習しつつ、身近に使う基礎単語から日常会話で使う言い回しについて取り上げ、日常生活において必須とされる文法や単語を学んでいく。フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパで最も重要な言語のひとつである、ドイツ語の基礎を学ぶ。現在形の簡単なドイツ語文の読み書き、自分の希望や予定等を伝えるための簡単なドイツ語の発音、自分や第三者を説明・紹介するための会話やメール、交通機関や施設のドイツ語表示等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことで、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、簡単な内容の文が読みこなせるようになることを目標とする。物の考え方の根底にある言語を学ぶことによって、新たな世界の理解にも繋げる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	ドイツ語Ⅱ	「ドイツ語Ⅰ」を基礎として、ドイツ語の学びを深める。自分の趣味や能力を表現するための簡単なドイツ語表現、自分の希望や予定等を伝えるための助動詞を用いたドイツ語表現、ドイツ語特有の枠構造で書かれた文章の正しい理解、ドイツ語を使った簡単な買い物や注文をするためのドイツ語表現等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことにより、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、辞書を使ってやさしい文が読みこなせるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	韓国語Ⅰ	韓国語の初学者を対象とし、基礎的な文法を学び、簡単な日常会話程度をできるようにする。最初の5回にわたってハングルの文字の成り立ちや発音、基礎的な発音変化を学ぶ。その後、文法の基礎を習得し、実際のコミュニケーション場面で、学生が必要とする語彙を増やしつつ、基本となる動詞の活用を学ぶ。あわせて、言語と深く関連する韓国の文化や社会事情を解説し、言葉だけでなく韓国に対する理解を深めることも目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」を基礎として、韓国語の基本的な文法を更に詳細に解説し、高度な応用韓国語を学ぶことで、単語力、会話力の確実な増強を図る。新聞や雑誌等の簡単な文章が理解できる程度の読解力、韓国語のドラマや映画等が字幕が無くともある程度理解できるリスニング力の習得を目指す。韓国人とコミュニケーションをとる上で、言語力の不足を補うための社会文化に関する全般的な知識も適宜説明していく。実際に韓国人との円滑なコミュニケーションが取れるよう実践力を身につけることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Business English Communication	コミュニケーションや文化を基礎としながら、ビジネスシーンにおける会話や対応、ビジネスライティング、プレゼンテーションスキル等の効果的なビジネスコミュニケーション能力を高めていく。交渉や社交術、会議体への参画や議事の進行等のビジネススキルを身につけさせることも目的としている。	
基盤教育	国際人の形成	語学	アカデミックライティング	人文社会科学系の学術的文章を書く技術を学ぶ。卒業論文、修士論文、博士論文等を代表とする大学・大学院で課される学術的な文章は、一定のアカデミックライティングのルールや形式に沿って書くことが求められる。研究論文とレポートとの違い、論理的な説明、根拠となる情報の開示、引用の倫理、文章の構成、学術的文章の作成等、基本的な書き方ならびに文献調査方法を指導する。また、書く訓練を通して、論理的な論文作成能力を養うことを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	テクニカルライティング	文章による情報伝達は非常に重要であり、そのために正確かつ効果的に伝達するための文書作成技法を学ぶ。分かりやすい文章で、読み手が必要としている情報を目的に応じて正しく簡潔に伝える文章表現、構成を身につける。具体的には、レポート、報告書、ビジネスレター、マニュアル、提案書等を題材に、図表の活用を踏まえながら文章の完成度を高めるための実用的な書き方を指導する。また、卒業後の就業や社会人として必要なライティングスキルも考慮して教授する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リスニング、スピーキング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSのリスニング・スピーキング演習、語彙構築、グループディスカッション等を行い、語彙の基礎や習得スキル、効果的なメモスキル、高度なトピックへのディスカッションスキルを向上させる。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅱ Listening/Speaking	「IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking」の学びを基礎として、IELTS、語彙の知識、リスニング・スピーキングスキルに対する更なるパフォーマンス向上を目指す。様々なサンプルを取り上げ、学びを深めていき、会話の開始や終了、話者の入れ替え、意見の表明、賛成、反対、推論による感情の識別等を考慮した、より良い会話を展開するためのスキルの修得を目指す。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、記事の読み書き、語彙構築、グループディスカッション等を行う。理解力とスピードを向上させるための読解戦略（プレビュー、予測、スキミング、スキャン等）を取り入れ、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	IELTS for Study Abroad Ⅱ Reading/Writing	「IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing」の学びを基礎として、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させること、IELTS、アカデミックリーディングスキル、および語彙知識に対する習熟度とパフォーマンスを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、学術記事の読み書き、語彙構築、短作文等を行い、学びを深め、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力の更なる向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Pre-Study Abroad:Listening/Speaking	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるリスニング・スピーキング力を身につけることを目的とする。グループでのプレゼンテーションやパネルディスカッションの準備、提供、批評を行う。研究に関する質問の仕方や情報源を見つけ評価する方法、学術的内容の口頭要約、グループディスカッションやパネルディスカッションを企画・主導する力を身につける。これらを通して、高度なディスカッションスキルやアクティブなリスニングスキルを向上させ、自分の研究についてのディスカッションや発表を通し、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Pre-Study Abroad:Writing	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるライティング力を身につけることを目的とする。基礎的なライティングからアカデミックなライティングまで、また、エッセイ、レポート、レビュー、考察等、様々なジャンル・スタイルのライティングを練習し、プランニング、構成、ドラフト執筆、推敲、出版等ライティングプロセスを通して学んでいく。各アカデミックライティングスタイルを理解し、対応できる能力を身につけ、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本語Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、大学生活や社会生活において必要とされる論理的な日本語の運用能力を身につけることを目的とする。コミュニケーションスキル、コースワークに必要なスキル（読み物の理解、レポートの作成等）についてを学ぶ。中級レベルの文法、表現、語彙を理解し、ある程度の長さの日本語の文章を読み、考えを口頭で表現できるようになること、論理的で客観的な文章が書けるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本語Ⅱ	「日本語Ⅰ」を修得した学生または同程度の日本語レベルの外国人留学生のみを対象に、「読む・聞く・書く・話す」の4技能を総合的に学び、総合的な日本語運用能力を向上させることを目的とする。言語・文化・社会に関する、高度なトピックに関するリーディングやリスニング議論、発表、作文等を通して、学問上や職業上の目的で日本語を適切に運用することができる日本語力の習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本事情Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、日本を理解するために必要な、かつ、基礎的な知識を身につけることを目的とする。現在の日本の生活様式について、留学生の母国の生活様式と比較しながら、理解を深めていく。住宅、衣服、食事等、日本での生活や身近な話題をテーマに取り上げ、日常的なことから考察を深め比較しディスカッションしていく。また、プレゼンテーションの機会を多く設定することで理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	日本事情Ⅱ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、「日本事情Ⅰ」で学んだ日常的なテーマに続き、日本の行事、日本人の自然との関わり等について、現在のみならず過去にも目を向け、変化する日本、変化しない日本という視点から、理解を深めていく。結婚式、祭、災害等、留学生の母国にもある事柄をテーマに取り上げ、考察を深め比較しディスカッションやプレゼンテーションを行い、理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅰ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、語彙と文法の構造に関する知識を習得する。これから日本で学んでいく上での日本語コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な基本的な文法や語彙等を学習し、身近な出来事について表現し、簡単なメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅰ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、初級日本語を使ったコミュニケーション活動を身につける。リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習を中心としたアクティビティを通して、初級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解する。大学生活や日常生活を送る上での不便をより多く解消していけるようになり、意思疎通がよりスムーズに運べるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅱ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、語彙と文法の構造に関する中級前の知識を習得する。コミュニケーション能力を伸ばし、初中級レベルの日本語能力を身につけ、読み書きのタスクに焦点を当てることを目標とする。文法の練習、短い文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックについて短いエッセイを書けるようになることを目標となる。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅱ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて、初中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばすとともに、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックに関する関連テキストを作成できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅲ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象に、文法や文型に関する中級言語の知識を身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、読み書きのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。文法の練習、文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、中級レベルの日本語の語彙と文法構造を理解し、広い主題について明確で詳細なテキストを作成できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Integrated Japanese Ⅲ Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、専門分野での技術的な議論を含め、具体的なトピックと抽象的なトピックの両方に関する複雑なテキストを理解するとともに、様々な状況に対処し、トピックに関する見解を説明できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが殆どない学生を対象とし、多読や作文活動を通じて、日常生活や学業に必要な日本語の語彙や作文構造の基礎知識を身につける。身近なトピック（趣味、道順、日常生活等）についての簡単な会話に参加でき、自分自身やその他の単純で関連性のあるトピック（背景、好き、嫌い、方向等）について話したり書いたりできるようになることを目指す。日常のトピックに関する簡単なテキストと、実社会で使用される資料（メニュー、通知等）を読んで理解できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Reading Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。読書を通して日本語の文とテキストの構造を理解する。また、語彙と文法パターンの確認・練習をすることで、簡単な文章を構成し書くとともに、より複雑なテキストの理解に必要な語彙と文法パターンの習得に繋げていく。十分な語彙と基本的な構成構造を習得し、より実践に活きるリーディング力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象とし、様々なカテゴリーのテキストを読むスキルを向上させ、論理的な文章を書く能力を育成することを目標とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、論理的なテキストを読み、学術研究に必要な正式な語彙、文型、および文の構造を習得することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。日本語のみを使用して日常のコミュニケーションを行い、関心のあるトピックに関する情報を日本語で収集して伝達できるようになることを目標とする。基本的なリスニング能力を身につけ、自然に反応し、自分の興味について会話できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Listening Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。関心のあるトピックをテーマに選び、それに関する情報を日本語でまとめ、的確に理解、伝達できるようになることを目標とする。リスニング力、読解力、表現力を養うとともに、習得したリスニング技術をもってより多くのトピックに触れることで、日本への理解を深めることにも期待する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象に、日本語のリスニングスキルを中級レベル以上まで向上させることを目的とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、様々なトピックのリスニング教材に慣れる過程で、大学生活に必要なリスニング能力を徐々に養い、学問に関連する情報の理解に対応し、様々な状況やコンテンツに応じて適切に捉え対応できる力を身につける。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の漢字のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目標とする。レッスンによって、日本語の書記体系を理解し、100字程度の漢字や短いテキストの読み、100字程度の短いメッセージの書きができるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Writing Ⅰ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目標とする。レッスンによって、日常生活でよく使用する漢字や簡単なテキストを読み、日常のコミュニケーションで使用する程度のメッセージの書きができるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初期中級レベル相当の対象とし、漢字リテラシーを身につけることを目的とする。漢字や慣用句、または漢字の基本的な知識を学ぶ。漢字を正しく理解し、読み書きできるようになるとともに、漢字形成の歴史的過程やその部首等、漢字に関連する知識についても習得する。更に、漢字を使ったフレーズや文章を作成する等、漢字の使い方に慣れながら、漢字が文章や会話の語彙としてどのように使用されているかについての理解も目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅰ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。主な目的は、学習者が初級前半レベルの日本語を用い、大学生活に役立つ様々なプロジェクト・ワークを通して、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。授業はすべて日本語で行われ、学習者は、個人あるいはグループでプジェクト・ワークに取り組む。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅱ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work Ⅰ」を履修した学習者あるいはそれ相当の日本語学習を終了した初級後半レベルの学習者を対象とする。主な目的は、様々なプロジェクト・ワークに個人あるいはグループで取り組むことにより、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。週1回、全15回開講される。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Project Work Ⅲ	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work Ⅱ」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。主に、個人あるいはグループで学生が情報収集、発信、調査、発表を行うことを通して情報活用や分析、プレゼンテーションのスキルを学ぶことを目的とする。インタビューや図書館等の施設での野外調査も実施する。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Culture and Society A	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本文化と社会の多様性について体験的に学ぶ科目である。目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することによりそれらを学ぶことである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Culture and Society B	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society A」に続く科目であり、日本文化と社会の多様性について体験を通して学ぶ。コースの目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Introduction to Japanology A	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society B」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象とする。日本のことば、文化、社会、歴史等の幅広い知識を得ること、そして、得られた知識や情報について考え、発信する活動に取り組む。フィールドリサーチやプレゼンテーション活動も行い、Japanologyという分野そのものの成り立ちについても学んでいく。	
基盤教育	国際人の形成	語学	Introduction to Japanology B	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Introduction to Japanology A」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。目的は、日本の言語・文化・社会について学び、自らの持つ背景や文化等と併せて考察するというものである。テーマは、日本の社会問題から文芸、サブカルチャーまで幅広く扱い、ディスカッションやフィールドリサーチを交えながら授業を展開していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン入門	個人のキャリア形成に必要な要素を理解し、能力開発の必要性と社会的意義を知るとともに、自立性のあるキャリア形成を具体的に思考することを目的とする。キャリア開発に必要な基礎的学論、自身のキャリア変遷と個人的価値観、社会変化と環境変化で作られ変わる価値観、労働の価値観の獲得と変化、個人的・社会的興味の源泉、自己の興味の変遷、労働の興味、能力の向上と変化、他者との関わりを通した新しい興味・価値観を知るための講義を展開する。自身を語れるようになるとともに、様々なキャリアのあり方を模索し、今後の自身のキャリア開発の具体性が持てるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	コミュニケーション&マナー	議論の分析を中心テーマとして、社会人基礎力やコミュニケーション能力の向上を目指す。口頭に限らず、文章により意見を述べる方法を含んだ議論の方法を考えていく。議論がどのように構成されているか（または構成されるべきか）を考え、分析・考察を進めていく。あわせて、社会で必要となるマナーについても学び、各自の言語活動を見つめ直していく。議論の構成・ルールについて理解し、議論の分析を日常の言語活動に応用できる力（課題発見力、計画力、想像力）、立場に応じて相手を納得させる力（発信力、情況把握力）、相手の意見を尊重し受け入れる姿勢（傾聴力、柔軟性）の獲得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデザイン実践	医療技術の進化は長寿化をもたらし、人生100年時代という言葉も浸透しつつある。そのような時代を迎え、私達の働き方や生き方はどのように変わり、変えていく必要があるのか。このテーマについて、講義や参加者間での議論を通し、私達自身の問題として捉え、これからの生き方を考える。長寿化と教育・仕事・引退モデルの変化、機械化・AI後の働き方、キャリアを拓くために持つべき資産、働き方の選択肢の多様化、新しい時間の使い方、仕事以外の人生（ライフ）の変化といった現代社会の状況についても解説をしながら、キャリアデザインを実践していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	キャリアデベロップメント	将来、有意義な人生や職業生活を築くため、「自分とは何か」「職業理解と働く意味」「社会で求められる力」等を深く考え、就職や自己成長の重要性を理解し、今後の学生生活を充実させること、社会や仕事で求められる力となるコミュニケーション力やチームで結果を出す力を高めることを目的とする。自己を理解し、自己成長の必要性を理解すること、社会環境への関心を高めつつ就労観や職業観を高めること、多様性を受け止め、コミュニケーション力を高めることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	インターンシップ入門	インターンシップ実施の準備講座となる。前半でまず、社会人に求められる力(社会人基礎力)の概要とこれを身につけるための一つ方法としてのインターンシップについて議論し、様々なインターンシップの形態やインターンシップ先の探し方を学ぶ。更に、先輩からの経験談も踏まえ、企画・提案への取り組み方を具体化していく。これらを経てPBLを体験し、課題に対しての現状分析、課題の整理、解決策の提案を行っていく。社会人に必要とされる力や円滑なグループワークを遂行していくための力を養い、インターンシップの実践に向けた行動に繋げていく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	アントレプレナーシップ	人口の減少、労働生産性の低さ、情報化社会の立ち遅れ、研究力の低下、特許出願数の低下、外国への留学生の減少等、日本の閉塞感を表すキーワードは少なくないが、起業する人の少なさもその一つであろう。結果、ユニコーン企業も少なく、企業の時価評価額ランキングも、1990年代と比べ大きく低下している。起業が一般化している世界の中で、日本の若者は、なぜ起業しないのか。起業するために必要な発想や、情報技術の活用、求められるマインドセット等について、実際に起業した人の話も聞きながら、学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	口頭表現法	口頭による言語表現のうち、敬語を取り上げる。正しい敬語の使い方を身につけることは、日本語という言葉の特徴を知ることや、社会における様々な人間関係を円滑に進めることに繋がる。尊敬語・謙譲語・丁寧語等の敬語の基本を理解し、状況に応じて言語表現を使い分けることができるようになることを授業の目的とする。また、人間関係を円滑に保つための言葉の働きについての理解も目指す。これらを通して、基礎的な学力と豊かな教養の一助とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの方法を学ぶことにより、自分の意図を相手に正確に伝える能力を養うことを目的とする。各自設定したテーマに基づいてプレゼンテーションの実践を行う。発表の仕方とともに、発表を聴く姿勢にも視点を置きながら授業を展開していく。各自テーマに応じて必要な情報を収集・分析する「課題発見力」や「計画力」、文章・図表等を効果的に用いた発表資料を作成する「表現力」、聴き手の立場を考慮して自らの意図を正確に伝えることができる「発信力」、質疑や意見に対して適切に応答することができる「傾聴力」といった能力を向上させることにより、社会で必要とされる社会人基礎力の獲得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	文章読解	小説そのものが既に作家の想像力という〈幻想〉の産物であり、読者を〈異空間〉に誘う機能がある。そうした原理を最も端的に開示する幻想小説を読み解くことで、文学の本質である作家における〈書く〉という行為の意味、読者における〈読む〉という行為の意味までも明らかにすることを目的とする。明治期の作品から現代の同時代作品まで、作家を限定することなく、できるだけ多くの小説を読み解くことで、作品そのものの魅力を感得しつつ、〈書くこと〉〈読むこと〉の相互行為を分析し、自分なりの気づき、考え、意見を持つことを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	レポート・論文のまとめ方	基本的な文章作成方法に基づいた上で、データの解釈や文献の検索についてを学び、調査やレポートの構成、作成におけるルール、分析等、レポートや論文をまとめるために必要な一連の事柄について学ぶ。これらを通して、レポートや論文で使われる言葉や表現方法、レポートの構成の仕方、基となる資料の収集や分析・活用の仕方、結論や今後の課題のまとめ方を理解する。大学生にとって必須であるこれらの方法論を今後の学業に活かすとともに、論理的に組み立てる力を養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	日本国憲法	日本の法体系における最高法規に位置付けられる日本国憲法を対象とする憲法学の基礎を学んだ上で、社会における具体的な問題に即して、憲法的なものの見方・考え方とはどのようなものなのかを理解する。「統治機構」と「基本的人権」の２分野の主要な項目をテーマに講義を行い、憲法に関する基礎的な知識と現実の社会における事象・問題を憲法の観点から理解し、考えることのできる基礎的な能力の修得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	グローバル市民論	金融が世界を渡り、情報基盤が世界の端と端を繋ぎ、食料もエネルギーも世界を流通し、太古より変わることなく水と大気が地球を循環している現代社会においては、島国日本から外に出ず、外国人と話すことを避けたとしても「グローバル市民」の一員であることは決して避けられない。地球温暖化の問題、格差の問題、感染症への対応の問題等のグローバルな課題に対し、グローバル市民としてとるべき行動や態度等について、幾つかのトピックスを取り上げ、識者を招きながら学習する。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	環境政策論	公害問題から自然破壊、地球温暖化に至るまで様々な形態とスケールで発生する環境問題に対しては、法律による規制のほか、ボランタリーな市民参加を活かした制度、経済的インセンティブを活かした制度等、様々な法制度を複合的に用いることがより効果的である。環境法規の基本原則を学んだ後に、代表的な国際条約や環境法規および環境政策の手法について知識を習得し、グローバルな問題のローカルにおける解決策について考察する。世界レベルでの環境法規の基本原則や日本の環境に関する法体制の基本、法規制以外の制度が果たす役割について認識できるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	情報化社会と人間	情報技術の普及による社会の情報化は人の生活や個人のあり方、ものの見方まで変化させつつある。現代の社会活動と情報化について理解するとともに、現状の問題把握・将来起こりうる問題への指摘ができることを目的とする。社会の基幹システムにまで及ぶ情報化や、情報化による利便性の向上とそれに相対する負の側面についてを、様々な環境下での事例を踏まえて学び、現代社会の中どのように生きていくかを考えていく。情報技術と現代社会の密接な関連性に関する知識・理解を深め、情報化社会の発展と問題に関して主体的な観点から論じられるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	ダイバーシティ論	アイヌ民族を除けばほぼ単一民族国家で、一億総中流社会が長く続いた日本社会において、ダイバーシティ（多様性）を受入れることは必ずしも歓迎されず、むしろ非効率と考えられがちであった。しかしながら、近年、マイノリティや個々の特性を尊重する動きが世界的に広がっており、多様性を積極的に受け入れる社会の方が活力を生み、また投資の対象としても高く評価されるようになってきている。明るい未来社会を描くために、日本における多様性社会はどうあるべきか等について、幾つかの事例を取り上げ、議論を交えながら学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	障害学	障害学にとって重要なのは、社会が障害者に対して設けている障壁、そして障害の経験の肯定的側面に目を向け、障害者が持つ独自の価値・文化を探る視点を確立することである。個人の問題という視点から、環境、社会の排除、差別へと視点は転換し、更には、独自の文化集団、コミュニティとしての障害まで意識する必要がでてきている中、障害と社会を巡る歴史と現代の考え方や、障害者の生活に関わる制度の現状等を通して障害学を学ぶことで、障害の社会モデル、障害者への不当な差別的取り扱いと合理的配慮、バリアフリーとユニバーサルデザイン等の理解を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	ジェンダー論	ジェンダーやセクシュアリティといった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種等の身近な身体文化を題材に考え、身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶ。ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにすることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	社会貢献活動入門	社会貢献は、ボランティア団体やNPO/NGO等多様であり、形態も取組み内容も様々である。そして、企業による社会貢献、CSRも多種多様であり、それぞれの事業規模も多様である。また、東日本大震災以降の被災地支援活動を機に、社会貢献を取り巻く環境も大きく変化しつつある。国内外の最新事例を踏まえてNPO/NGOおよび企業の社会貢献のあり方について学ぶとともに、分野別の活動内容や各活動が始まった背景についても理解を深めていく。これらを通して、社会において個人が果たしうる役割と課題を考え、社会と自分との関係について考えを深めていき、社会貢献に関する知識をもって主体的に社会貢献に関わる行動に繋げることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	地域マネジメント	既に人口の減少期に入り、世界でも類を見ないほどの少子高齢化社会に突入した日本において、今後はGDPも減少し、その結果、税収も減少していくことが予想される。加えて、行政を支える労働力の確保も難しくなる。こういった中で、地域のマネジメントをこれまでのように行政に依存することは困難であり、地域住民が相互に地域マネジメントに関わっていくことが必要となる。ここでは、幾つかの事例を取り上げ地域マネジメントの現状と手法を学び、地域市民として地域のマネジメントに貢献していく知恵を学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	公務員論	公務員制度や行政の仕組みを知り、更に公務員に対する理解を深めることにより、公務員のあり方について考えられるようになることを目的とする。まず、公務員制度や行政の仕組みの基本を取り上げ、その上で少子高齢化等の課題への新たな対応について考えていく。また、職種や仕事内容が多種多様である公務員を理解することを目的に、様々な職種の公務員から実際の職務の話を聞く機会を設ける。これからの公務員のあるべき姿について、考察することができるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	食と健康	食と健康の関わりを栄養学や食文化等の知見を中心として学ぶことを目的とする。5大栄養素とその具体的性質を理解し、それぞれの栄養素の役割を生化学、生理学の観点から理解する。また、食品摂取時の人体組織の機能や、摂取内容に応じた人体への作用、あるいは、体質等に応じた影響を解剖生理学的観点から理解する。食と健康の基礎的事項を理解し、自身の健康のあり方を考え、時代や国、環境や文化の違いによっても様々な食と健康の捉え方を理解していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	基礎会計学	企業の経営活動をお金の観点から記録する方法（商業簿記）の基礎（簿記と会計、簿記の種類、機能と目的等）について解説し、なぜ簿記が企業経営において重要であるのかを説明した後、日本商工会議所簿記検定3級の出題範囲の前半部分に対応する学習内容を学んでいく。商業簿記を理解することによって、企業の経営状態をより明確に捉えることができるようになり、今後修得する会計領域の体系的な専門知識および学際的知識への素養を身につける。そして、社会の様々な組織において実践力を発揮し社会に貢献するための基礎とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	情報リテラシーⅠ	インターネット等の普及により様々な情報を得ることが容易になってきている一方で誤った情報も混在している。そのため、価値ある情報を収集し、社会的な問題を認識した上で、効果的に活用して発信することが求められている。このような社会情勢への対応を目的として、情報リテラシー概論の他、情報の検索方法の習得を目指す。その後、収集した情報をまとめるために、パソコン（ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト）の基本操作、文章作成上のルール(構造化文章の理解と仮作成)について学び、今後のレポート作成に役立つスキルを身につける。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	情報リテラシーⅡ	「情報リテラシーI」の学びを基礎として、正しい情報の収集および発信について習得することを目的とする。特に、自らの研究データを管理し、分かりやすく表現できるようになることを目標とする。そのために、表計算ソフトを用いて、数値データのグラフ化や、管理をするための基本操作を学び、データ表現に必要な基本統計を理解する。その後に、発表の仕方を学び、これまでに習得した操作法を活用して、正しい情報を発信する（プレゼンテーション）スキルも身につける。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングを用いて開発されたシステムやアプリ、プログラムによって制御された電子機器等が、身近な生活の中で実際にどのように機能しているのかを学び、プログラミングの役割や機能、実社会への影響を理解していく。WebサイトやAI（人工知能）、IoTデバイスでもよく使われるPython言語を用い、基礎固めを目的としたプログラミング演習を行いながら、その仕組みを理解していく。プログラミングの基礎知識を習得し、プログラミングを組み立てるための思考力も養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	プログラミング基礎Ⅱ	「プログラミング基礎Ⅰ」を基礎として学びを深める。Python言語の高度な文法の理解や一般的なPythonプログラムの作成ができるようになることを目的とする。また、基礎的なアルゴリズムを理解し、より実践的かつ効率の良いプログラミングの考え方を理解するとともに、簡単なディープラーニングを使いプログラムを理解した上で、同様の二項分類のディープラーニングを作成できるようになることも目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅰ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初心者レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅱ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅲ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、中級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅳ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、上級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学講義Ⅰ	ライフキネティック（運動と脳トレを組み合わせたエクササイズ）について、トレーニングの概念や方法、得られる効果等を学び、日常生活にどのような好影響を与えるのかを理解することを目的とする。ライフキネティックトレーニングをする上で重要な身体活動の感覚と認知的精神的刺激を統合するためのトレーニング方法の知識を身につけることで、精神的、物理的な訓練の基本を理解し、ライフキネティックトレーニングのルールや健康上の利点について認識を持てるようにすることを目標とする。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学講義Ⅱ	運動と身体機能の関係を正しく理解し、更に、運動を実施する上で必要な科学的方法論を身につけることを目的とする。トレーニングの基本原則、スポーツ疲労やスポーツ障害の特徴、身体活動を通じた筋力・心臓等の機能向上についてを学び、目的に合わせた運動の仕方や健康に適した運動量の知識を獲得することで、生涯に渡って健康的な生活を送るための身体づくりについて考え、日常生活の中で役立てることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ａ	東洋大学の創立者である井上円了の生涯を対象とし、その思想と行動を明らかにする。井上円了は幕末・明治・大正の3つの時代を生きた人物であり、単に東洋大学の創立ばかりではなく、「明治青年の第２世代」の代表者と歴史家が評価するような、様々な業績を残した。その生涯の時期は、現代社会の基礎である近代日本の創設期にあたることから、現代日本の出発点を歴史的に具体的に学ぶことにも繋がる。時代とともに自分がどのように生きるべきか、その哲学を考察できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｂ	東洋大学の創立者である井上円了と東洋大学の歴史を明らかにする。井上円了の教育理念によって、明治20（1887）年、日本が大学制度を創出する時期に「哲学館」として創立され、それから東洋大学は現在まで130年以上の歴史を歩み、大規模な組織に発展してきた。創立者井上円了の教育理念や東洋大学の個性的な歴史を、日本の大学の歴史を背景としながら学んでいくことによって、時代の変遷と大学組織の発展が明らかになり、近代から現代までの日本社会のあり方を理解する一つの視点を学ぶことにも繋げる。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｃ	東洋大学の創立者である井上円了が明治中期に提唱した「妖怪学」を取り上げる。妖怪を取り巻く社会も学問のありようも様々に変化した現代社会に即した「新しい妖怪学」の実現は可能だろうか。宗教学・民俗学・文学史・芸能史・風俗史・神話学・心理学・精神医学等様々な学問分野の成果を導入し、日本やアジア、ヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチを展開する。不可思議なものに惹かれていく人間の心性に目を向けた上で、科学的な検証と明晰な論理によってその本質を見極め、実体のない思い込みや不合理な権威を打破していくための批判精神を養うことを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｄ	ICT（情報通信技術）の発展に伴い、膨大なデータが世の中に溢れるようになり、様々な分野でデータの利活用が急速に進められている。データサイエンスのスキルは、技術者だけでなく、すべてのビジネスパーソンにとって必要不可欠になってきている。そこで、データサイエンスとは何か、その本質は何か、どういうシーンでどういう活用をされているか、どういう手法（伝統的な統計手法、機械学習やディープラーニング等のAI）がどのように利用されているかについて理解を深め、職種別にデータサイエンスを使いこなす上で必要なスキルや発想を身につけることを目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｅ	インターネットの普及と高速化、膨大なデータの蓄積、コンピュータの高性能化と共に、人工知能（AI）の研究開発が進み、これを利活用できる領域が広がったことで、「第4次産業革命」と呼ばれる社会変革が起こり始めている。膨大なデータに対するAIのサービスとしての利活用が、人間の能力を最大限に引き出すと同時に、社会の持続性や環境問題等社会課題の解決、経済・産業の発展に寄与することが期待されている。そこで、AIとは何か、その手法や原理等の基礎知識を修得することを目的とする。またAIの応用例にも触れ、AIの利活用によってどのような社会が実現できるのか、その上でどういう課題があるのかを理解する。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｆ	2000年以上の歴史を持つ哲学とその思考法が、どのようにして現在の私達の生きる力となるのかを理解するため、古代から現代に至る西洋と東洋の思想を横断するかたちで講義を行う。現在の私達に必要な「自己を律し、より良く行為するための力」、そして、「今いる地点から自己の経験を一歩先に進めるための能力」を獲得するため、「世界と自己」「心と身体」「正義と自由」をテーマに哲学的トレーニングを行う。各テーマに関する西洋と東洋の異なる知見を手がかりに、各人が自分で思考を進め、行為するための力を身につけることによって、哲学的に思考することが生きることにどのような役割を果たすのか、また、異なる文化に属する思惟の特質についてを理解することを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｇ	環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。環境問題の現状について解説するとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を中心にしつつ、様々な学問を基に紹介する。地球温暖化に限らず、エネルギー問題、生物多様性、水質汚染、自然災害、農地の砂漠化、異常気象等々、SDGsで提起される様々な範囲の問題の解決へ向けて、国際協調や国際規約、地域の草の根運動、アート作品といった多様なレベルで行われている取組みを理解する。環境問題の現状と対策の実態を把握すると同時に、自分自身の生きる環境を哲学的に考えるというトレーニングをすることで、問題解決に資する発想を備えることを目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｈ	知識基盤社会における大学は、これまで以上に知のコミュニティとしての豊かさが求められるようになっている。また、学びのリソースは、教室や図書館だけでなく地域や世界にも広がってきた。学内外の様々な専攻分野教員から、毎回、話題提供を行い、次いで、様々な視点から、大学教育の社会的役割についてディスカッション行い、多様な学びのあり方とリソースを掘り起こすことによって、学生が自ら知のコミュニティを創造するための基礎的力量と学際的視点の修得を目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｉ	経済同友会会員企業が受け入れ先となって行うインターンシップの科目である。本インターンシップの趣旨は、「学生が企業という場で実社会に学び、社員や他校生も交えた多様な価値観に触れ、様々な気づきを得ることで事後の学修に注力し、キャリアビジョンを描きながら資質・能力を高めること」である（経済同友会資料より）。夏季休暇中の10日～4週間程度の企業におけるインターンシップ参加、事前研修、事後研修、成果発表会等を通し、社会人に求められる姿勢や行動を学び、視野を広げ、自分のキャリアビジョンを描けるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｊ	今、この時にあって、哲学教育を通じて自己の基軸を確立した社会的リーダーたりうる人財の育成が強く期待されていると思われる。そこで、企業の社長や自治体の首長といったリーダーに限らず、大きな組織を構成する一部門としての組織の責任者を含めた、ある人的な集合体の中心となって活躍できる人財、いわば真に社会・集団を牽引しうる東洋大学生の育成を目的として授業を行うものである。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｋ	リーダーに必要な論理的思考力の訓練を行い、そのスキルを身に付けた後に、リーダーシップ論を学んでリーダとはどうあるべきかを考察して問題意識を育み、更に現代日本におけるリーダー哲学、国際社会におけるリーダー哲学を学ぶことで、自己の基軸となる哲学を形成する。加えて、最後に自己の基軸を再確認するために、自ら形成したリーダーとしての哲学について最終レポートをまとめて、発表する。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｌ	オリンピック・パラリンピック等スポーツの歴史を通して世界について学ぶことを目的とする。スポーツやアスリートだけでなく、アスリートに対するサポートの実情やその裏側に潜む社会的課題についても深く掘り下げ、スポーツの華々しい実績だけでなく、その裏側についても学んでいく。これらを通して、オリンピック・パラリンピックの基本理念や基礎知識、諸問題の理解を目指す。	
基盤教育	総合・学際	全学総合Ｍ	オリンピック・パラリンピックに関わるバラエティに富んだテーマを取り上げ、オリンピック・パラリンピックを多角的に考えていく。オリンピック・パラリンピックの理念やスポーツイベントに関する幅広い知識はもちろん、イベントを裏方で支えるスポーツボランティアの実際にも触れていく。単に「オリンピックを学ぶ」ことだけではなく、社会のあらゆる側面と結びついていることを理解するとともに、オリンピック・パラリンピックを題材として世界に広がる多様な価値観を学び、深く「哲学する」姿勢を養う。	
基盤教育	総合・学際	総合Ａ	宮沢賢治の生き方や思想を学び、詩を読むことで、豊かな教養を身につけることを目的とする。『法華経』に帰依し、民衆救済に一生を捧げた宮沢賢治の詩を通して、自然や生命への畏敬、共生、物への慈愛や人生における苦悩について考えることで、自らの人生を考えていく。また、作品を読解することで、学士力の「読む」力をアップさせ、人としての生き方や社会を考えることで「社会人基礎力」を養う。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｂ	舞台芸術とは何かを知るために、音楽、芸術、文学、ダンス、照明、舞台、デザイン、衣装を理解し、舞台芸術の可能性を知ることで、社会イノベーションに繋がる種を見つけることを目的とする。練習に役立つスキルの開発に焦点を当てながら、多くの文学を読んだり、パフォーマンスを観たりすることで、舞台芸術の基礎知識を養い、創造的な心と挑戦的な精神を育む。また、レポート作成や、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、論理的思考を身につけ、ライティング、コミュニケーション、分析、問題発見・解決、プレゼンテーションの能力獲得も目指す。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｃ	アートマネジメントとは、芸術・文化と社会を相応しいかたちで融合させ、文化資本を高めていくことである。マーケティングのアイデア、文化施設・舞台芸術団体の運営、コンテンツ産業やまちづくり等について、伝統文化から美術・音楽・舞踊・映画・ポップカルチャーまでアートの広範な領域を取り上げ、学んでいく。社会と芸術・文化の関係を経営学の視点から考えることで、芸術・文化と社会の適切な関係について理解し、アートマネジメントの基本的な考え方を説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｄ	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的にその基礎を学ぶ。絵本をテーマとして取り上げ、読む・聞く・描くことを実践する。通常の冊子体絵本だけでなく、音楽を伴った紙芝居形式や絵本に基づく映像作品も積極的に取り入れ、芸術表現としての幅を広げていく。関心のある作品を選び、絵本の読み聞かせや創作を実践し、互いに批評し合い、批判点を受け入れることで、表現に磨きをかけていく。これによって、芸術表現としての絵本を読む・聞く・描くことの可能性を拡大できるようになることを目標とする。芸術・文化に対する関心を深めることにも繋げていく。	
基盤教育	総合・学際	総合Ｅ	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的とする。「総合Ｄ」で学んだ絵本を読む・聞く・描くことの基礎を踏まえて、更に高度な実践を試みる。絵本の世界においてどのような表現が可能か。伝えようとするイメージの中に自分を置き、感性を最大限に働かせ、架空の世界を現実化し立体化していく。そうして絵本を聞く側にも豊かなイメージの世界が広げることを目標とする。表現の基礎技術の上に、絵本の読み聞かせや創作が持つ自由さと魅力を追求できるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際		総合Ｆ	水力や蒸気機関による第1次産業革命、電力による第2次産業革命、電子工学や情報技術による第3次産業革命から、IoT及びビッグデータ、AIをコアとする現在進行中の第4次産業革命まで、技術の革新はやむことはない。そして、それらの応用は、最先端と呼ばれる場面に留まらず、建築やデザイン、介護や障がい支援、育児や保育、アスリート支援や健康増進、食事や滋養といった、ありとあらゆる場面に及び、それぞれの分野での可能性を大きく広げている。この授業では、IoTやAIといった情報技術に留まらず、学科に関連する領域における最先端のテクノロジーに触れることで、テクノロジーが私達の生活や環境をどのように変化させ、また関連する社会課題の解決にどのような影響を及ぼすのかについても学んでいく。これらを通して、社会が求める要素を的確に捉える視点と多角的な視野を養う。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	人間環境デザイン学概論	本講義では人間環境デザイン学科の専門分野でどのような人間環境を構築し、デザインし、その質を維持し、発展させているか等について論じる。 具体的には、人と街、建築、都市の関係、少子高齢化と生活空間計画、障害や加齢に対応した居住環境や生活支援機器のデザイン、建築設計の手法、欧米、アジアにおける居住環境の特徴、日常生活用品のデザイン、情報デザインの近未来、地域やコミュニティ活動、教員のトピックス等、様々な角度から「人間環境のデザイン」とは何か、どのようなものづくり意識がデザイナーに求められているかについて広範に講義する。	共同
専門科目	学科専門科目	必修科目	ユニバーサルデザイン概論	高齢者や障害者等、様々な人々の固有のニーズを捉え、より多くの人々が暮らしやすい社会や環境を創り出していくことが強く求められている。本講義では、ユニバーサルデザイン（UD）の考え方が生まれた背景、ＵＤの概念とその展開を学びながら、世界および日本の動向を理解する。そして、ユーザーの多様かつ固有のニーズの内容と特徴を学び、それらを社会環境のデザインにどのように反映させていくか、人権、平等、公平等の観点から考えを深め、その手法を修得する。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	本科目では、人を理解し、ものを作り、空間を演出するための考え方、 基礎的な造形と表現、ものの動き方等の基礎を身につけることを目的に、人間環境デザインは何のための、誰のためのデザインかを徹底的かつ具体的に学習する。演習の内容は「設計・製図」「人体・動作」「平面・立体」の３分野で構成され、設計・製図では実空間の体験を通して感じた空間の三次元的な広がりや、素材感、開口の意味等を図面・模型等の作成を通して客観化し、実際に空間を構想する。人体・動作では人体計測、単位空間の実測、作図等の技術を習得する。また縮尺、生活姿勢、作業域、動作、基本寸法等を実習を通じて習得し、これらを反映した空間計画を行う。平面・立体表現では基礎的な平面表現と立体表現に取り組む。デザインワークに不可欠なスピーディーなスケッチ技術、アイデアを平面から立体に広げるための基礎課題を中心に、自分が考案したデザインを具体化する。	共同
専門科目	学科専門科目	必修科目	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	本科目では、人間環境デザイン基礎演習Ⅰ（デザイン基礎Ⅰ）を受けて、より実践的な図面や表現技法を訓練すると共に、もの・こと・人・空間の構成や仕組み、スケール感を修得し、デザインに必要となる工学的知識の初歩的な理解を目的としている。演習の内容は「設計製図」「設計と加工」「平面・立体」の３分野で構成され、設計製図では模型制作を通じた空間のスタディによる空間把握と単位空間の学習。建築製図法やパースの作図等の技術を訓練する。設計と加工では設計に関して機械製図法の基礎を指導し、基本モデルを用いて三面図の作図法と寸法記入を中心に三面図の内、どの面を正面図とするかの思考力を養う。また、加工では金属の手仕上げ加工を行う。平面・立体ではスケッチ技法、図面作成、表現技法、モックアップ作成（金属やスタイロフォーム、設計模型用ボード等異なる材料を利用）、プレゼンテーションテクニックの訓練を行う。	共同
専門科目	学科専門科目	必修科目	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	本科目では、人間環境デザイン基礎演習ⅠおよびⅡの経験を踏まえ、独立住宅の平面計画から空間計画を立て、住宅の設計・改修およびコーディネートに関する基礎的な視点や養い、その能力を習得することを目的とする。演習の内容は「独立住宅の設計」「内部空間と家具」「住宅改修」の３分野で構成されるし、独立住宅の設計では、鉄筋コンクリート壁構造の中規模戸建住宅の基本設計を行う。内部空間と家具では、住宅への設置を念頭に、家具・照明機器等をプロダクトとしてデザインする。住宅改修では、設計した住宅が、年月を経た後に、住み手の要求が変わったことを念頭に改修を計画する。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	必修科目	人間環境デザイン総合演習	本科目では、空間デザイン、生活環境デザイン、プロダクトデザイン3コースにわかれて演習課題を実施する。空間デザインの課題では、展示空間の設計演習を行い、基本的な建築空間構成と作品表現のまとめかたを学ぶ。 生活環境デザインの課題では歩行を人間工学的に学んだ後に、マイコンの機能をいかした歩行習慣や歩容を改善する機器のデザイン案を考える。プロダクトデザインの課題では、フリーハンドスケッチから、模型制作、コンピュータによる３D表現の基礎を学び、それらを通して自分のアイデアを表現する。	共同
専門科目	学科専門科目	必修科目	卒業研究	本科目では、卒業制作について個別に指導を行う。これまでに学んだプロダクトデザイン、空間デザイン、生活環境デザインの知識をベースとして制作テーマを設定し、デザイン提案を行う。卒業制作は4年間の総括として位置づけるものであり、社会環境の中からデザインによって新しい価値を創造できるテーマを設定し、実際に新しいデザインを提案し、作品として具体的なモデルまたは情報等を制作する。完成した作品は説明パネルとともに展示する。卒業制作の目的は、デザインを通して、社会のどのような場面で、どのような人に対してどのような新しい価値をもたらすことができるかを明らかにすることである。	
専門科目	学科専門科目	必修科目	ＣＡＤ演習Ｉ	本科目は、CAD（Computer Aided Design）を用いて製図ができること、図面を介して他者と意思疎通できる能力を身につけることを目的とする。 これは、外国語の学習がグローバル社会におけるコミュニケーションに不可欠であることと同様に、デザインの現場では図面を介して自分の考えを伝え、相手の考えを理解することが不可欠だからである。 本授業では、建築や製品設計において必要とされる、図面作成と読図のための製図法の基礎を学び、CADソフトウェア(windows版)の基本的な使い方を習得する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	空間デザイン演習ＩＡ	身近な敷地における空間構成を、周辺環境を評価することで内外空間の連続性を確認できる能力、公共空間を利用者の立場から考える能力を身につけることを目的とする。小規模共同住宅の設計を通して、建築設計及び、まちづくりの中での建築設計について実践的な設計手法並びに分析手法を理解するほか、小さなスケールから図書館・メディアセンター等の複合施設のスケールまでを検討し、空間の多様性を追求する。また、共同及び個別にプレゼンテーションを行う能力についても涵養する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	空間デザイン演習ＩＢ	身近な敷地における空間構成を、周辺環境を評価することで内外空間の連続性を確認できる能力、公共空間を利用者の立場から考える能力を身につけることを目的とする。小規模共同住宅の設計を通して、建築設計及び、まちづくりの中での建築設計について実践的な設計手法並びに分析手法を理解するほか、小さなスケールから図書館・メディアセンター等の複合施設のスケールまでを検討し、空間の多様性を追求する。また、共同及び個別にプレゼンテーションを行う能力についても涵養する。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	空間デザイン演習ⅡＡ	卒業年度前半の演習として、卒業制作の方向性やコンセプト等を少人数で議論しつつ、空間デザイン演習ⅡBでの制作活動の準備を行う。空間的なテーマにおいて個人が社会に関わる視点を、各自の問題として整理し、共同で互いの発想を共有することで、環境に対する物理的なアプローチの枠組みを各自が構築することを目的とする。また、建築空間構成、都市構成に関する演習を通じて、建築・都市にまつわる問題点の一端を理解し、問題を抽出し、自分の問題としての具体的提案を図面と模型によって制作する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	空間デザイン演習ⅡＢ	空間デザイン演習ⅡAの作業を糧に、各自が個別に研究活動を行い、自らの研究を完成させる。個別指導・質疑応答・講評等を通して各自の研究活動を支援するほか、それらの内容を学生間で共有することも重要であるという観点から、個別指導や質疑応答も履修者全員（概ね10人程度）で行い、問題点や可能性を共有しつつ、各自が自分の研究活動に取り組みながら、自らの研究を客観視できる環境を整えることを目的とした授業である。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活環境デザイン演習ＩＡ	本科目では、デザインの提案から設計、モデル制作、実際の制作、評価までの一連の工程を学ぶことを目的としている。人間工学、高齢者および障害者の特性を理解したうえで、動作を改善するための具体的なアイデアをグループでディスカッションしモデルを製作すること。制作したモデルをユーザーやモーションキャプチャー等の計測機器を用いて評価し、問題点や改良点を確認してすること。デザインや製作プロセスをユーザーのニーズを具体的な製品に反映し、最終的にユーザーに適合させる技術を学ぶことが期待される。	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活環境デザイン演習ＩＢ	本演習では、少子化・超高齢化が進行する我が国において求められる空間・環境の整備、あるいは地域ニーズに応じた施設の整備を重要な社会的要請として位置づけ、それらの社会的背景を考慮した、ひとり親家庭やこども、高齢者、障害者といった個別のニーズをもつ利用者を想定した施設、地域コミュニティの促進につながる施設の企画、設計の提案ができる能力の獲得を目標とする。空き家のコンバージョンによる母子シェアハウスの提案や、教育のインクルージョンを実現する学校の設計、自治体を対象とした調査・分析にもとづく企画提案等、具体的な課題を複数設定することで、調査分析をもとに企画、計画、設計する力や社会課題の現状を的確に把握し、デザインにより解決する手法、多様な利用者の状況を理解し、各々に相応しいデザインを提案する力を培う。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活環境デザイン演習ⅡＡ	卒業年度前半の演習として、ものづくりから評価手法、建築、街づくりまでの幅広い専門領域からテーマを決め、デザイン演習ⅡBの準備を行う。調査研究、あるいは実験を必要とするテーマについては、論文制作に必要な調査研究や実験研究の実施方法を身につけるとともに、エビデンスに基づいた執筆を行うための指導を行う。また、制作を行う場合には、制作物のバックグラウンドを調査し、「なぜ必要か？」を追求した後に設計、制作へと移行できるような指導を行う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活環境デザイン演習ⅡＢ	生活環境デザイン演習ⅡAの作業を糧に、各自が個別に研究活動を行い、自らの研究を完成させる。個別指導・質疑応答・講評等を通して各自の研究活動を支援するほか、それらの内容を学生間で共有することも重要であるという観点から、個別指導や質疑応答も履修者全員（概ね10人程度）で行い、問題点や可能性を共有しつつ、各自が自分の研究活動に取り組みながら、自らの研究を客観視できる環境を整えることを目的とした授業である。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	プロダクトデザイン演習ＩＡ	本科目では、現代社会においてプロダクトデザインが担うべき役割が多岐にわたること、また、プロダクトデザイナーは単に造形的な審美性のみを追求するのではなく、社会に対して的確な解決策を提示する能力も必要とされていることを踏まえ、プロダクトデザインのワークを画面UIデザインまで含め総合的に学ぶことやグループワークを体験することで、自身で課題の設定・解決までのアイデアを考えられる能力を身につけ、プロダクトデザイナーとして様々な産業に関わるために必要な総合的な思考手法と表現技術を身につけることを目的としている。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	プロダクトデザイン演習ＩＢ	本科目では、プロダクトデザインのプロセスについてグループワークを通した実践的演習で学ぶ。グループワークでは、提示されたテーマについて調査・検討を繰り返し、要件の発掘とコンセプトの設定、デザイン、モックアップ制作、プレゼンテーショ ンという流れを実践し、デザイナーとしての問題意識や課題解決への発想力を磨く。さまざまな制約の中でモノを創るプロダクトデザインの仕事の奥深さを知ると同時に、未来を創造するクリエイターとしての社会的責任感も体得する。演習の要所で補足的な講義を挟み理論的な側面にも目を向ける。また、この演習を通してモックアップの素材や加工技術の知識修得も目標にする。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	プロダクトデザイン演習ⅡＡ	卒業年度前半の演習として、プロダクトデザインを中心に、インターフェースデザイン、情報デザイン、グラフィックデザイン等を総合的に駆使して問題解決に取り組むプロセスを実践的に学ぶことを目的とする。不特定多数のユーザーを対象にした製品やサービス、社会システム等これまでの学習を総合して取り組むべき大きなテーマを設定し、人間環境デザインを学んできた者として、実際の現場に踏み込む際の問題発見の方法論や課題解決への発想力、展開力を磨くこと、モックアップやプロトタイプの制作や、プレゼンテーション技術等を身につける。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	プロダクトデザイン演習ⅡＢ	プロダクトデザイン演習ⅡAの作業を糧に、各自が個別に研究活動を行い、自らの研究を完成させる。個別指導・質疑応答・講評等を通して各自の研究活動を支援するほか、それらの内容を学生間で共有することも重要であるという観点から、個別指導や質疑応答も履修者全員（概ね10人程度）で行い、問題点や可能性を共有しつつ、各自が自分の研究活動に取り組みながら、自らの研究を客観視できる環境を整えることを目的とした授業である。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	製品と情報のＵＤ	本科目では、年齢、性別、認知特性、障害等の多様性を踏まえたユーザーニーズを理解すること、プロダクトデザイン・情報デザイン・コミュニケーションデザイン等の市場におけるユニバーサルデザインの具体的な製品事例について独自の視点で理解することを目的としている。ワークショップや課題に取り組むほか、生活とユニバーサルデザイン、コミュニケーションについての理解を深めるため、障害があり社会で活躍しているゲスト講師の講話等を実施する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	人間工学	ヒトが有する様々な生体の機能を工学的な手法を用いて理解することが人間工学の役割の一つである。本講義では人間工学を応用して実施されている様々な評価手法について体験し、学ぶことを目的とする。評価方法を理解した上で、人間工学を基礎として確立された技術が実社会においてどのように活用されているのかについて解説を行なう。また、人間工学的な評価手法の中で重要な役割を果たす統計解析についても課題を通して学んでいく。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	建築歴史意匠Ａ	本科目は、建築学という分野の広がりと、その中に於けるデザインの位置、更には、建築の歴史、現代建築の在り様等について、実例や断片的な各論、参考文献等を紹介を通して、考える講義科目である。デザインを考える側には、建築を見る側・使う側とは異なった視点と姿勢が必要であることから、文化財から現代建築に至るまでの「日本の建築」に関する基礎的な知識を獲得し、自ら設計するに際して、その背景を考える素地を獲得することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	プロダクトデザイン基礎	本科目では、プロダクトデザインを中心に、広くデザインというものがどのように生まれ、社会にどのように影響を及ぼしているのか、更にデザイナーはどのような姿勢でデザインをしなければならないのかといったことを学ぶことを目的とする。具体的な授業は、デザインは産業の活性化と強く結びついていることから、モダンデザインやそのきっかけとなった世界初のデザインの学校である「バウハウス」等を中心に、数多くのビジュアルを活用して展開する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	発達と障害	発達の過程における機能の獲得と起こりうる障害についての理解を深め、その状態と関連した支援活動全般について知識・技術を高めることを目的とする。様々な障害に関する状況の違いと人々の生活、社会的障壁をも含む環境の影響の大きさと重要性を知り、視野を広げることにより、ライフデザイン学部のディプロマポリシーに掲げられている人権を尊重する倫理観を身につけ、社会貢献を行う高い意欲を有する人材の育成につながることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活支援デザイン概論	我が国の福祉用具に関連した制度を基礎として修得したうえで、高齢者や障がい者の生活を支援する機器として様々な場面で活用されている福祉用具の種類や役割について学ぶことを目的とする。また、福祉用具を実際に使用するユーザーの生の声を聞いた上で、実用化されている最新の福祉用具と生活支援機器の開発やデザインの工夫等についても紹介しつつ、将来どのような機器の開発やデザインが必要か一緒に考えていくことを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	材料・素材一般	人の生活と環境に密接に結びついている建築および製品に関わる材料・素材の基礎的知識、実践的知識を獲得することを目的に、各種材料を使用部位別に取り上げつつ、材料の性能や表情について解説するほか、加工方法や検査方法についても学ぶ。また、建物や製品に用いられている様々な材料をただ「知る」だけでなく、それぞれの素材の役割を「考え」て、理解することを目指し、プロダクトデザインの領域で必須とされる材料／素材の特徴や加工方法を学びそれらの可能性を探る。 （オムニバス方式／全15回） （180 高橋真／7回） ・建築材料概論「構造」「環境」「形式」 ・材料と構造Ⅰ：土、石、コンクリートほか ・材料と構造Ⅱ：木、鋳鉄、鋼鉄、部材や部品への発展 ・材料と構造Ⅲ：鉄筋コンクリート、カーテンウォールほか ・環境と素材Ⅰ：強度、耐候性、防火、防水ほか ・環境と素材Ⅱ：外環境を身体環境へ和らげる ・素材と形式：場所・人・物・の形式	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	材料・素材一般	（168 近藤嘉男／8回） ・金属材料の基礎：種類と特徴 ・金属材料の加工技術Ⅰ：切削加工 ・金属材料の加工技術Ⅱ：塑性加工、溶接 ・プラスチック材料の基礎：種類と特徴 ・プラスチック材料の成型技術Ⅰ：各種成型方法 ・プラスチック材料の成型技術Ⅱ：射出成形、金型 ・各種材料の応用：新素材や加工法 ・工業製品への応用事例	オムニバス方式
専門科目	学科専門科目	選択科目	建築生産	本科目では、建築生産に関わる様々な主体（個人や組織）が存在することを学び、プロジェクトの企画、設計、施工、維持管理、更新、解体、廃棄といったプロセスで構成されている建築のライフサイクルにおいてそれぞれがどのような役割を担っているかを理解する。また、一連のライフサイクルにおける各種の建築活動全体が建築生産であることをづ前、各段階における具体的な設計・施工作業やそれに伴う検討事項を学び、プロジェクト全体の流れを理解することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	色彩論	本講は、製品や環境をわかりやすくするための、また好ましい印象とするための色づかいに必要な、色彩に関する基礎の理解を目指した講義である。色を扱うには、色に関わる様々な事項を理解することと、色や質感や形状等々への意識を高め感性を磨くことの両方が必要であることから、実践のための理論の把握をベースとして、理論と実践との橋渡しを行うということを目的とする。講義にあたっては、色彩の扱う対象はとても広く、そのアプローチも様々であることから、実際の製品や環境における事例を参照しつつ広範にわたる色彩の世界を学ぶ。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	マーケティング	本講義では、実際のケースを活用して個人作業やグループワークを実践することで、知識の獲得だけでなく、製品・サービスの魅力の発見からターゲットの設定、コンセプトの開発等のスキルを体得することを目的とする。具体的には、自らを商品と見立てそのマーケティング戦略を構築することで、自身の強みの発見や、対象相手の分析を踏まえた効果的なプレゼンテーションを行うことで、実践型のマーケティングへの理解を深めることを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ＣＡＤ演習Ⅱ	本演習では、CAD演習Ⅰで学んだ二次元の図面と三次元画像の相互関係の理解を深めるとともに、モデリングによる造形表現、テクスチャを用いた質感表現や光を用いた空間表現等の3DCG独自の作成技術を学び、コンピューターグラフィックスを用いた設計・デザインの表現手法の習得を目標とする。平面的な情報と立体的な情報を関連づけて理解し、操作、コミュニケーションを行う能力がデザインの基礎的スキルを獲得することを目指す。	共同
専門科目	学科専門科目	選択科目	住居計画	この講義では、建築計画分野の中でも特に住宅に焦点を当て、住宅の計画およびそこで展開される人々の生活の捉え方について解説する。家族構成・規模の多様化や格差社会の進行等、人間をとりまく社会環境は激変してるが、そのような状況下にあっても住宅とは、人間の生活の拠点としての役割を担っている。本講義では、そのような機能を持つ住宅の計画および設計手法について解説すると同時に、現在社会において、生じている住宅・住生活をとりまく諸問題の様相を解説し、今後の方向性について考える力の習得を目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	建築・都市法規	本科目では、建築に関する基本法となる建築基準法を中心に、都市計画法、消防法、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律(通称、バリアフリー法)等、関係法令の全体像と具体的な制限を学ぶ。具体的には、まちづくり関連法令の概要、都市計画法と都市計画制度、建築基準法の構成と総則規定、建築基準法第二章(単体規定)一般構造・構造強度・防火規定・避難規定・敷地と道路・用途地域制限・容積率・建蔽率・高さ制限・日影規制・防火地域、建築関連法規とまちづくり制度、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律の概説等を行い、都市計画や建築に関連する法令の仕組みや基礎的な知識の習得を目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	建築歴史意匠Ｂ	本講義は、建築をデザインすることはどのようなことなのかを問うことを目的に、形の知識を追求するのではなく、知識（文化）と社会（ヘゲモニー）が生み出す形を検討することを目的とする。一般的に西洋建築史と呼ばれる分野を対象としながら、現代社会の空間的な仕組みを大きく変えた産業革命をきっかけとする近代主義が始まった西洋において、空間表現がどのような意識と意図によって行われ、デザインされてきたのか、実例やこれまでなされた断片的な各論、参考資料等の紹介を通して考えるものであり、西洋における空間認識の歴史が今日私たちにどのように影響しているのか、あるいはしていないのかを検証するものである。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	生活空間計画	本講義は建築の設計に必要な建築計画学の基礎を学ぶことが目的である。建物は「住宅」と「施設」に大別されるが、本講義では「施設」に焦点をあて、利用者のための建築という視点から計画することの意味と、平面計画の要点について解説する。その上で、「施設」が建物とサービスのパッケージであることを理解し、「住宅」との違いを意識しながら建築の持つ社会的使命や意義を考察する。適宜、最新の事例を紹介し、建築計画学のあり方についても議論する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	コンピュータ・グラフィックス	本講義では、いまや様々なデザインを行う上でも必須の技術となったコンピュータ・グラフィックスについて、使われる概念やテクニックの基本を理解することを目的とする。また、コンピュータ・グラフィックスは単なる完成予想図の作成に利用されるだけでなく、製造現場における製造過程の改革にも直結するものであることから、コンピューターとコンピュータ・グラフィックスの基本を理解し、自身の必要とする分野への適切な適用方法を選択することで、デザインへの応用展開ができる能力を獲得することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	産業とプロダクトデザイン	本科目では、19世紀にイギリスで起こった産業革命から始まり、大量生産、大量消費に代表されるアメリカの産業社会、世界大戦後の世界の産業およびデザイン、そして21世紀の新しい時代に起こりつつある産業構造の変化を検証しながら、ビジネスの視点で産業とデザインの関係を考察する。様々な方向性をもったデザインの具体例の考察を通してデザイン全般の産業社会における役割を理解することで、デザインの基本的な考え方を学び「良いデザインとは何か」を判断する力や「これから求められるデザイン」を発想するための視点を身につけることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	福祉デザイン工学概論	本科目では、いずれ自身がなる高齢者、思いもしない事故や疾病によって誰しもがなり得る障碍者について、その自立生活を支援する機器や用具をデザインする前に、障碍の種類と特徴やその障碍に必要な福祉用具を理解することを目指す。具体的には、①肢体不自由　②視覚障碍　③聴覚障碍及び言語障碍　④発達障碍　⑤内部障碍　⑥精神障碍の６つの障碍を解説し、さらにそれぞれの特徴と必要な福祉用具及び生活支援機器を関連して学ぶことで知識の涵養を行う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	構造力学	本科目では、建物を造る際の最も基本的な知識といえる構造力学についての初歩的な内容を取り扱う。構造力学を学ぶ上で必要な計算の知識、力の考え方からを基礎にし、構造物の支え方、構造物の内部に生じる力の計算方法等、初歩的内容を理解することを目的し、具体期には、基礎的構造物について反力・応力を求め、モーメント図・剪断力図・軸方向力図が作図できることを目標とする。また、講義中には練習問題の解説を十分行うことで、初学者の理解を促す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	都市・まちのデザイン	本科目では、都市・まちの成り立ちへの理解を基礎として、多主体による様々な活動が展開されるまち・都市という「場所」のデザインについて考えること、その成り立ちを理解すること、デザインのプロセスを説明できる能力の獲得を目的とする。特に、人間の生活を中心に据えた都市・まちのデザインについて、その歴史的な展開をレビューするとともに、「ヒューマンスケール」や「参加型デザイン」といったキーワードを手掛かりに、具体的なアーバンデザインの取り組みを通して、都市やまちのデザインについての理解を深めていく。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	道具の歴史	本科目では、およそ300万年前に石器を使い始めた人類が、生きるために必要な道具を発明し、さらに改良を加えながら厳しい自然環境や食料の不足を乗り越えてきた過程を、遺跡等の物的証拠を参考に類推することによって道具の果たしてきた役割を考察すること、道具に関連する文献や文化的遺産を解読することによって、高度な文明や多様な文化を築き上げてきた先人たちの技術とデザインの歴史、道具の成り立ちを学ぶことを目的としている。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	デザイン工学基礎	本科目では、機械工学における基礎から電気工学やシステム工学まで、デザインや設計に有用な工学的なアプローチに関する関連知識を網羅的に学ぶことで、機械要素や材料，力学、加工法等について知識を習得すること、機械工学を中心とした工学に関する知識を習得し、機械要素の組み合わせで成り立つ多くの製品・デザインについてより理解を深めることを目的とする。受講生は、機械の要素について説明できる能力、機械の材料や加工法について説明・記述できる能力、機械の設計製図ができる能力の獲得を目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	デザイン工学応用	現代のデジタル技術の発展に伴い、デジタルメディアにおいてもデザインが必要とされている。デジタルメディアでのデザインツールはプログラムにより動作しており、また、成果物もプログラムにより動作するものもある。プログラミングについての知識を得ることは、デジタルデザインについてより理解を深めることにつながるものであることから、本科目ではデジタルメディアのデザインに求められる情報処理に関する知識の習得を目的とし、デザインに有用なコンピュータグラフィックスのプログラミングをベースに、基礎的な情報処理についての修得を目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ヒューマンインターフェース	本科目では、人間と環境の間に本質的に存在し、様々な要素が複雑に絡むその関係を制御する役割をもつ、インターフェイスについて学ぶものである。デザインとインターフェイスそれぞれに関わる周辺の諸相を多角的に論じ、これからのデザインのあり方を考えること、また、専門的なインタフェース設計を目指す者の為に学習経路の提示を行うことを目的とし、デザインにおけるヒューマンインタフェースの役割が一意の領域ではないことを様々な視点から眺めることによって理解し、デザインを見る目を養えるようになることを目標とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	インテリアデザイン	本科目では、内装等建築物のインフィルの構成方法、デザイン手法に関する基礎知識を身につけるとともに、将来、インテリアデザインの領域において様々な要求に対して対応ができるような実務的なデザインのプロセスや具体的な設計手法も学習する。具体的な内容は３領域によって構成されており、①建築の設計に関わるインテリアの計画、②家具や内装に関するインテリアのコーディネート手法、③空間や戸外環境におけるインテリアの計画手法によって構成される。 （オムニバス方式／全15回） （171 佐々木龍郎・1 水村容子／5回） 住宅を設計するということ1(戸建住宅)：戸建住宅の設計方法を様々な事例を紹介しながら総合的に解説する。 住宅を設計するということ2(共同住宅)：共同住宅の設計方法を様々な事例を紹介しながら総合的に解説する。 水廻りのポジショニング：住宅における、台所・浴室・洗面脱衣所・便所等水廻りの配置、計画を総合的に解説する。 マテリアルスケープ：住宅のインテリアにおける、床材・壁材・天井材その他の素材の使い方を解説する。 住宅のインテリア：第1回～第4回までの講義の復習も兼ねて、住宅のインテリア手法を総合的に解説する。 （153 角舘政英・1 水村容子／5回） 照明計画とは：照明計画の基本的な知識・手法を解説する。 室内照明計画の詳細：建築空間や住宅内のそれぞれの室用途に応じた計画手法を、具体的事例を紹介しながら解説する。 照明機器のデザイン：様々な照明機器の設置方法や灯りの照らし方等について、具体的事例を紹介しながら解説する。 屋外での照明計画の詳細：都市全体や屋外での照明方法について、具体的事例を紹介しながら解説する。 照明を通じた地域の活性化：地域のライトアップイベント等、照明を通じた地域活性化の在り方について解説する。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	インテリアデザイン	（172 佐藤圭・1 水村容子／5回） 新築マンションの商品企画とモデルルームのコーディネート：新築マンション等商品としての住宅の企画立案・インテリアコーディネート手法について解説する。 住宅の間取り：居住者のニーズに応じた住宅の間取り計画の考え方、計画手法について解説する。 中古マンションのリノベーション(1)：具体的な事例を紹介しながら、優れた中古マンションのリノベーション事例を紹介する。 中古マンションのリノベーション(2)：具体的な事例を紹介しながら、優れた中古マンションのリノベーション事例を紹介する。 海外事例紹介：海外におけるインテリア計画・インテリアコーディネートの考え方・計画手法を解説する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	環境計画	地球温暖化等の環境問題を背景として、建築の分野においてもエネルギー消費の削減が求められおり、快適性・安全性を損なうことなくエネルギー消費の削減を達成するためにはエネルギーや快適性に関する基本的なことがらを踏まえて設計をする事が不可欠となる。本科目では、建築・都市を取り巻く環境を科学的にとらえ、安全で快適な環境をより少ないエネルギーで実現する専門家を育成することを念頭に置き、これに資する基礎知識を体系立てて習得することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	デザイン思考法	デザイン思考とは、デザイナーが試行錯誤を繰り返しながら、これまでにない独創的なアイデアを生み出し具現化していく思考のプロセスを、イノベーション創出を目標とする商品企画・開発に応用するための方法論である。本科目では、イノベーション創出（これまでにない新しい価値を生み出し社会的に大きな変化をもたらすこと）の一つとして注目されている「デザイン思考」について、具体的な事例や実践方法を盛り込みながら紹介するとともに、デザインのための思考法を体系化しつつ、今後取り組むデザイン活動に応用できるような演習や課題を交えてイノベーションとデザイン思考について理解を深めることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	まちづくり	すべての人は地域社会で生活しており、専門家でなくともすべての人が「まちづくり」に何かしらの関わりを持っているが、自身が「まちづくり」の一端を担っているという認識が少ないのが現状である。本講義の受講生に対しては、本科目では、受講生が将来さまざまな立場で自らが「まちづくり」に参画し、その一端を積極的に担うことを期待し、「まちづくり」に関わる人や取り組みを具体的に紹介するとともに、「まちづくり」に必要な視点や住民参加の手法について体系的に論じるものである。受講者が、将来まちづくりの担い手の一人として、まちづくりに必要な視点や手法を理解し、自らの言葉で説明できる能力を獲得することを目標とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	認知科学	本科目では、知覚・記憶・学習・思考といった人間の認知能力を紹介し、情報処理システムとしての人間の特性を解説する。さらには、そのような人間の特性を把握したうえで、ロボットやコンピュータ・プログラムといった人工物等と人間との間に円滑な関係性を築くことを目指した様々な学問分野を紹介することで、人間を情報処理システムとして捕えるために不可欠な「認知科学」の基礎的事項を理解すること、人間の特性を常に意識しながらユーザにとって望ましいプロダクトやサービスを提供する設計者となれるような基礎的視点の獲得を目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	ランドスケープデザイン	本講義では都市の空地（くうち：オープンスペース）におけるランドスケープデザインを主な対象とし、 ランドスケープデザインの視点、ランドスケープデザインと社会背景、屋外空間のスケール、景観演出の技法、植栽設計、計画・設計のプロセスと敷地計画、造成設計、園路、施設設計、ランドスケープデザインとまちづくり等を通して、風景、屋外環境を理解し把握するための基礎知識、ランドスケープデザインの計画・設計のプロセスや技法に係る基礎知識の獲得を目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	デザイン特別講義	本科目は、デザイン会社や企業等の最先端で今まさに活躍している講師陣により、プロダクトデザインの歴史、グラフィック・公共空間・建築・展示空間・交通・サインのデザインについて、デザインの専門家の立場から論じるものである。インダストリアルデザインの製品事例の歴史を通して、製品の普遍的な価値を見出し評価ができるようになること、デザイン提案を行う際の論理的な思考プロセスを習得し、今後、自らがプロジェクトのハブとなり、提案者＝プレゼンテーターとして、社会の中で活躍できるようになることを目指す。また、働く場のユニバーサルデザインの重要性、公共空間には多様な利用者がいることを理解し、空間ならではの課題解決の手法について理解すること、都市のヒューマンスケールの設備や道具のユニバーサルデザインの重要性について理解し、今日的な課題とその概要を説明できることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （144 井上晃良・4 池田千登勢／3回） 産業革命によって興ったモノの大量生産で社会が大きく変わり、粗悪な製品と従来からの職人による工芸の狭間でインダストリアルデザインが生まれた。それは形あるものすべてに影響を与え続けてきた。インダストリアルデザインの誕生から現代のインタラクションデザインに至る大きな変革期に居る世界のデザインの大きなうねりの歴史を時系列に観ながら学ぶ。 （197 松本知彦・4 池田千登勢／3回） グラフィックデザインの現状を調査し、いくつかの事例にスポット当てながら、今求められるグラフィックデザインについて考察し、デザインの提案を行うまでの思考プロセスについて学ぶ。 （187 似内志朗・4 池田千登勢／3回） 働く場のユニバーサルデザインについて、評価手法と改善手法を学ぶことを通し、具体的事例から理解を深めるとともに、今日的課題の働き方改革、健康経営、ウェルビーイング、ダイバーシティとのユニバーサルデザインの関係性、都市・建築・社会への広がりについて、国内外の視点を交え概説する。 （155 加藤剛・4 池田千登勢／3回） 博物館や子ども施設等、公共空間づくりの事例を紹介しながら、それぞれの地域や施設の課題を理解し解決手法を探る。 （154 加藤完治・4 池田千登勢/3回） パブリックデザインの開発プロセス事例を基に、身近な公共空間におけるデザインのあり方について理解を深め、ユニバーサルデザインの今日的な課題を考察する。	オムニバス方式
専門科目	学科専門科目	選択科目	安全工学	本科目は、現代の様々な環境下での「安全」とは何か検討し、人間と環境の関わり方を問い直し、システム性災害の事例を中心に事故の様態や安全への取り組みを検討する等、複数の事例を通じて「安全」に関わる人間の知覚・認知の特性や、行動・学習に関する法則性を学ぶことで、自身の日常生活や制作現場での作業を、安全工学の観点から問い直すことを目的とする。また、危険を予測し環境整備の方策を検討する知見を養うことを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	調査分析のデザイン	本科目では、人間環境デザインの現場で重要となる、人々の価値観や心理・行動特性を客観的データから正確に把握すること、デザインのヒントになるデータを収集し、検討・分析するための基本的な知識や技術を習得することを目的とする。具体的には、行動観察調査、アンケート調査、取得データをexcelで図表化したり、powerpointでプレゼンテーションすること等、個人・グループを交えた実践的な取り組みを通じてこれらの能力の獲得を目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	建築とまちのＵＤ	本講座では、１年次に学んだユニバーサルデザイン概論で得た知識をもとに、主に建築とまちづくりの分野におけるユニバーサルデザイン（UD）についての考え方を発展させる。人権保障や平等な社会参加の観点から、日本および世界の建築とまちにおけるUDの現状と問題点、関連する法制度や行政施策、当事者やユーザー視点からの評価・検証内容等を理解し、現在のUD課題に対する具体的解決策について思考する。これらをもとに、日本における建築やまちの実践的なUD手法を修得する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	情報メディアデザイン	本科目では、私たちの生活・仕事・学びから、政治・経済・文化そして国や地球のあり方にさえ大きな影響を与えているコンピュータと情報ネットワークの上に展開される情報メディアについて、まだ緒についたばかりといえるそのデザインが解決しなければならない課題（情報の見た目の美しさや感性に訴えることを追求するだけではなく情報やそれが乗る機器の使いやすさやわかりやすさを追求すること、新しい情報メディアの使い方が実現する人々の経験をどう創造するか）を検討する。具体的には、前半の「サインデザイン」で、情報をわかりやすく伝達するためのサインの基本要素に関する知識を習得し、後半では情報機器／メディアのデザインを通して、デザインの本質について各学生が自律的に考えていける力を涵養することを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （196 堀口仁美／8回うち共同1回） ・情報を絵文字や図記号で表現するサインデザインと情報をめぐるデザインの現在と未来 ・サインとは（国内外の事例） ・仕事の現場（空港、駅、まちづくり等） ・サインのデザインで大切な事 ・ピクトグラムとは ・ピクトグラムをデザインしよう！ ・図記号と絵記号について （149 小川俊二／8回うち共同1回） ・情報を絵文字や図記号で表現するサインデザインと情報をめぐるデザインの現在と未来 ・人と道具・メディアの歴史 ・情報を扱う新しい道具 ・インタラクションデザインという視点 ・調査、アイデア／コンセプト立案（以降実践編） ・ワイヤーフレーム／操作フローのデザイン ・表現のデザイン1 ・表現のデザイン2 ・情報メディアデザインの未来、リフレクション	オムニバス方式
専門科目	学科専門科目	選択科目	インターンシップＡ	この科目は、講義や演習では得られないより実際的な専門知識や技術について経験し考えることを目的に、外部の機関で行うインターンシップを実施する。担当教員が適切であると判断した指定外部機関（企業・NPO・設計事務所等）にて一定期間研修を受け、プロジェクト等に参加すること、それぞれの外部機関が設定した課題に取り組むこと等により、デザインに関わる多様な専門知識や技術を身につけること、自分が希望する専門分野の実務の概要を把握することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	インターンシップＢ	この科目は、講義や演習では得られないより実際的な専門知識や技術について経験し考えることを目的に、外部の機関で行うインターンシップを実施する。担当教員が適切であると判断した指定外部機関（企業・NPO・設計事務所等）にて一定期間研修を受け、プロジェクト等に参加すること、それぞれの外部機関が設定した課題に取り組むこと等により、デザインに関わる多様な専門知識や技術を身につけること、自分が希望する専門分野の実務の概要を把握することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	インターンシップＣ	この科目は、講義や演習では得られないより実際的な専門知識や技術について経験し考えることを目的に、外部の機関で行うインターンシップを実施する。担当教員が適切であると判断した指定外部機関（企業・NPO・設計事務所等）にて一定期間研修を受け、プロジェクト等に参加すること、それぞれの外部機関が設定した課題に取り組むこと等により、デザインに関わる多様な専門知識や技術を身につけること、自分が希望する専門分野の実務の概要を把握することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	インターンシップＤ	この科目は、講義や演習では得られないより実際的な専門知識や技術について経験し考えることを目的に、外部の機関で行うインターンシップを実施する。担当教員が適切であると判断した指定外部機関（企業・NPO・設計事務所等）にて一定期間研修を受け、プロジェクト等に参加すること、それぞれの外部機関が設定した課題に取り組むこと等により、デザインに関わる多様な専門知識や技術を身につけること、自分が希望する専門分野の実務の概要を把握することを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	建築空間構成論	本科目では、建築における構造をさまざまな視点から分析・理解し、ひいては各自の建築表現に生かすための方法論構築のための一助を形成することを目的に、鉄筋コンクリート造と鉄骨造の成立と展開を歴史的に解説し、構造体が生み出せるデザインの特徴を論じること、歴史的建築を構造的な視点から解明し、構造をどのようにデザインしたのかを論じること、構造をデザインした著名な設計者を作家論として論じること、構造を中心にデザインを発想するための基礎的知識を論じることのほか、それらを踏まえた考察を行うことで、構造材をデザインする観点から造形作品の提案を行うことを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	建築設計論	本科目では、設計或いはより広く建築に関する言説を「意匠論」と位置付けた上で、その瑕疵と可能性について実例を踏まえつつ考えるものである。これは知識を与える事ではなく多くの問いを残すことを目的としているものであり、建築設計に関わる多様な価値観の内、主に技術的な分野とデザインとの関わりについての基礎を身に付けること、「意匠論」に対して一定の見識と距離を持ちつつ、これを積極的に且つ批判的に読む能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	設備計画	本科目では、技術の進歩とともに要求が大きく変化し、快適性が高く、かつ環境性の高い建築が求められている建築設備について、環境・設備計画を行う上で理解しておくべき事項を説明するとともに、最新の設計事例を紹介しながら室内外の環境づくりにおいて重要な役割を果たす環境・設備計画に必要な知識と考え方を学ぶことを目的とする。具体的には、室内環境を構築する上で重要となる事項の理解、空調・給排水衛生・電気設備の基本的なシステムの理解、建築設備における基礎的用語の理解、建築設備に関連する法令等で定められている事項の理解、基本的な環境手法、省エネルギー手法の理解を獲得することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	材料力学	本科目では、様々な法律や基規準によって制限されている建築物を構成する材料について、広い空間や高さのある建築物、居住性の良い建築物等をより安く顧客に提供するために力学的特性・環境性能・耐久性・価格・質感等が考慮され設計者や使用者によって選択されていること、建築物の骨組みを形成する構造材料は、コストを考慮しつつ建築物の用途や要求される性能に応じて使い分けられていること等、構造設計に限らず、意匠設計や工事管理等の建築関係の職を目指す学生が最低限知っておくべき、建築材料の特性と力学の基礎についての知識を獲得することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	構法計画	本科目では、建物の代表的な主体構造である木構造・鉄骨構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨鉄筋コンクリート構造等、また、それぞれの構造に対応した屋根・天井・壁・床等の各部構法等、建築設計に当たって必要不可欠な知識であるこれらの内容を教授し、かつ、受講者はこれらを単に羅列的に覚えるのではなく、構法自体のしくみという面、建物に要求されるはたらきを満足する手法という面の両方から体系的・原理的に整理して身につけることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	構法計画演習	本科目では、構法計画で学ぶ構法の内、特にディテールの理解を深めることを目的とする。建築の機能と性能を担保する各種納まりの基礎知識を習得し、部分的な作図や模型制作を行いながら理解を深める。具体的には、木造軸組構法における継手仕口の縮小模型の制作、ディテールの分析と作図、屋根葺きの原理の理解と作図等等、実践的な演習を通じて知識の習得を目指す。講義科目「構法計画」と合わせて、建物のしくみの基礎的知識の習得を目標とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	都市計画論	本科目では、都市計画の有する学際性を理解すること、また、日本における都市計画の歴史を概観し、その成果と課題を認識することによって現在の都市計画制度への視点を養っていくことを目的とする。その上で、現在の都市計画制度の考え方（理論）や仕組み（実践）について考え、さらに、現在における都市計画の到達点としての協働の都市計画（コラボレイティブ・プランニング）及びその実践としての日本のまちづくりについて考察を行うことを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	福祉デザイン工学各論	本科目では、主に次の3つのテーマで高齢者や障害者の生活支援について講義する。①福祉用具の安全について知る、②義肢装具について知る、③スヌーズレンについて知る。①の福祉用具の安全とは、電動化して便利になった様に見える福祉用具でもヒューマンエラー等による死亡事故も多数報告されていることから、今一度、福祉用具の安全の在り方について学びぶ。②の義肢装具では、四肢を切断した場合に処方される義肢・義足の種類や四肢麻痺を補うための装具の種類について講義を行う。③のスヌーズレンでは、スヌーズレンの原点の話、スヌーズレンルームの構成、スヌーズレンの実践事例について講義することで、生活支援機器の適切な使用法と安全について理解することを目的とする。また、国際化の一環として福祉用具に関する海外の文献の和訳を並行して行う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	リハビリテーション工学	本科目では、工学技術を駆使して、低下した機能を補助したり、あるいは喪失した機能を代替したりする機器やシステムを提供することにより障害のある人たちの日常生活動作を補助する技術体系であるリハビリテーション工学について、障害のある人のための機器や用具のデザインだけでなく、一般の機器や用具をデザインする際にも必須であるという観点から、いろいろな障害を克服するために、どのような工学技術が生み出され、それらが障害のある人たちの生活においてどのように役立っているのか、また問題点は何なのかといったことを具体的に学ぶことを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	医療福祉建築計画	本科目では、建築だけでなく、インテリア、照明、家具、アート、サイン、ランドスケープ等の視点から幅広く、かつ詳細に解説することで、複雑化・多様化する医療・福祉に対応する施設の計画について、機能を満たすだけでなく、人が生きる場としてのように計画すべきか、基礎的知識を習得したうえで、自ら考える力を養うことを目的とする。また、教科書や資料集成に記載されている知識だけでなく、現場での設計事例やPOE(Post Occupancy Evaluation)にもとづくフィードバック事例をもとに学術的枠組と実践的展開をつなぐ講義を行う。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	支援技術とデザイン	本科目では、障害者や高齢者の自立を促進し、生活の質を高めるために必要な福祉機器を中心とした支援技術について分野ごとに解説すること、また、重度身体障害者の生活支援や介護者の負担を軽減する福祉機器についても概説すること、開発され実用化されてきた車椅子、姿勢保持装置、段差解消機や階段昇降機等の住宅支援機器、コミュニケーション機器、リフト等の介助機器、生活支援ロボット関連、スポーツ支援機器等の生活支援機器のデザインの特徴と実際の生活場面での利用方法を具体的に学ぶことで、これらの特徴を説明できる能力、デザインできる能力の獲得を目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	福祉住環境コーディネート論	本科目では、高齢者・障害者・子ども等の心身機能の特徴、および現在の我が国の住環境整備に関わる福祉施策の概要を解説した後、福祉用具の利用、住宅改修等の観点から、福祉住環境コーディネートを実現するための知識・技術について解説するものである。障害を持つ人、高齢者、幼い子ども等、健康な成人と比較して身体機能が低下している人々が、安全に自立した住生活送るための手段である福祉住環境コーディネートについて、介護保険・障害者総合支援法、建築関連法規等諸施策に関する知識を習得すること、我が国の住宅の構造・平面計画や住宅内各部分のディテールの特徴を理解した上で、それぞれの身体機能低下や障害に応じた住環境整備の手法等を具体的に理解することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	環境デザイン論	本講義では、比較的新しいデザイン領域である環境デザインについて、建築学の領域で環境デザインという概念がいつごろから生まれてきたのかを概観し、1966年の「空間から環境へ」展の内容を紹介したうえで、環境デザインの理論と実践について論じる。地域、都市、土木、建築、ランドスケープ、インテリア、プロダクトデザイン、グラフィックデザインと幅広い環境デザインの座標はについて、これらを別々に捉えるのではなく、主に「こども」を軸として設定し、複数の領域を通貫するデザインのあり方を考え、また、海外の人間-環境系研究の動向についても解説することで、的確に概要を説明できる能力、基礎的知識の習得、視野を広げることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	情報デザインⅠ	本科目では、今や日常生活のあらゆる場面でコンピュータ技術を介した情報に触れる機会に遭遇することを踏まえ、コンピュータ技術を介した情報に限らず、広くヒトとモノ、ヒトとコトをつなぐ「情報」という要素をいかにデザインするかについて、あらためて日常生活に溢れる情報をデザインする側の視点でとらえなおし、わかりやすく情報を表現する基本、情報をデザインするプロセス（情報の整理の仕方、コンセプト立案、画面デザインの考え方）を体験的に学習することを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	情報デザインⅡ	本科目では、スマートフォンやIoTの普及により、様々な情報へのアクセスが容易となった環境について、「情報を人に分かりやすく伝えるためのデザイン」や「情報を活用する能力」はデザイナーだけに限らず、あらゆる産業で重要になっていつことを踏まえ、IoT・アプリをテーマに、情報の表現とユーザビリティの基本的な知識と技術を、プロトタイピングツール「Adobe XD」の使い方を身につけると同時に習得することを目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	プロダクトデザインⅠ	本科目では、ユニバーサルデザインの基本であるユーザー理解と共感のためのユーザーリサーチプロセスを具体的に学び、授業を通して実際に体験し、今後取り組むデザインプロジェクトで応用できるように、講義形式とワークショップ形式を混合して参加型の授業を構成することで、デザイン思考法の流れに沿い、ユーザー中心の商品開発のプロセスや手法を学び、実践する力を身につけることを目的とする。また、ユーザーの価値観を理解し共感することの重要性と、そのための具体的な手法、そこからアイディアを発想する方法を学ぶことで、デザインを通して問題を解決し、新たな価値を生むことができるデザインの考え方、哲学を身につけることも目指す。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	プロダクトデザインⅡ	本科目では、大量生産・大量消費の時代を経て、地球環境問題や資源問題、高齢化社会や格差社会の問題、価値感の多様化等多くの課題に直面する現代社会において、日常生活に密着しているプロダクトデザインの責任と役割がますます重要になっていることを踏まえ、製品ライフサイクル（生まれて、消費されるまで）を軸に社会環境における価値感のとらえ方を、メーカー、ユーザーの両側面から学び、プロダクトデザイナーとしての基本知識やノウハウを身につけることを目的とする。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	グラフィックデザイン論	身近にあるデザイン、例えば駅や空港等における公共のサインシステム、企業や商品のロゴやマーク、パッケージデザイン等に目を向け、制作意図を考察し、デザインへの理解を深めることで、コミュニケーションツールとしてのグラフィックデザインの役割を考えるとともに、社会におけるグラフィックデザインの必要性を考える授業である。コンセプトを視覚化することで、他者に情報を伝達するというグラフィックデザインの基本目的を、講義と演習を通して理解することを目指す。また、近年頻繁に発生する自然災害に、グラフィックデザインはどう対応できるかにも目を向ける。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	メカトロニクス・デザイン	電気電子工学、情報工学等を含めた幅広い知識と機械制御に関する理解が求められる今日の機械製品について、複数分野にまたがる要素を目的とする機能性能を実現するために構成するシステム工学的アプローチは、特に計画としてのデザインと極めて親和性が高いことを踏まえ、本科目ではセンサ、アクチュエータ等メカトロニクスシステムの要素や制御手法の基礎について学ぶことで、メカトロニクスに関する知識を習得することを目的としている。また、これらの構成要素をロボット等のシステムとしてどのようにまとめ上げていくか等の応用例についても解説する。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	表現手法	本科目では、授業の前半は基礎としてマーカーを用いて、手描きによるパースペクティブスケッチで比較的描きやすいテーマから複雑な形状の難易度の高いテーマを段階的に描いていくことで実践的なスケッチスキルの修得を目的とし、後半は決められたテーマを基に学生自身が、コンセプトから機能までを想定した具体的なデザインの検討を行う。デザインの検討では、前半の基礎授業で培ったスケッチスキルを発揮して魅力的なデザインの創出に取り組むことで、実践的なスケッチスキルとデザインを考えていく思考力の双方を修得を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学科専門科目	選択科目	International Design Practices	国際的なデザイン領域に関心を持ち、英語力を向上させたい学生、あるいは建築家・デザイナー・マネージャー・プロデューサー等を目指し、デザインの領域で留学を希望する学生に向け、講義に参加するとともに、グループディスカッション、プレゼンテーション、フィールドリサーチ等を行う科目である。履修者は講義とアクティブラーニングを通して英語で自分の意思を表現する方法を学び、また海外の大学に留学する際に求められる、自己アピールを行う方法を学ぶことを目的とする。すべての授業は基本的に英語で行うが、英語のスキル自体により評価することはない。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	環境設計演習	本演習では、今日における社会的な課題に着目し、その課題解決に寄与する環境設計を提案します。この環境設計課題を通じて、その場に登場する人物（ユーザー）をとりまく社会背景やニーズを読み解き、その場の地域特性や地域的な課題を的確に捉え、その場の登場人物の多様性を受容し、かつ新たな社会の創造に通ずる環境とは何かを追及し、最終的な成果物として図面や模型等を用いてかたちあるものを創り上げます。課題は建築設計やまちづくり等に係る３つ程度のテーマを設定し、調査分析・企画・計画・設計・プレゼンテーションのスキルを磨きます。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	職業指導Ⅰ	職業選択理論や適性・適応理論、職業的発達理論等各種理論を基礎として、職業理解と自分の個性の理解を深めることを目的とした科目である。職業指導・進路指導・キャリア教育の知識や技法を学ぶほか、自分の能力や適性に合った職業選択ができるよう各種の職業適性検査も実施する。これにより、キャリア教育で求められる基礎的汎用的能力である人間関係能力・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を高めるとともに、社会人としての人生選択を生涯にわたって主体的におこなえるよう能力・資質を高めることを目指す。また、これらは自身のキャリア形成に活かすことができるものでもあることから、自己の職業選択やキャリア形成につなげることも視野に入れる。	
専門科目	学科専門科目	選択科目	職業指導Ⅱ	青年の職業的自立と高等学校における職業指導について、職業教育や職業訓練の具体例や我が国の社会的・歴史的背景について学ぶことで、高等学校における進路指導やキャリア教育の意義・原理と背景や位置づけを理解することのほか、工業高校における職業指導の考え方と指導の在り方、意義と留意点について理解することのほか、工業高校における担当者の実務経験を生かした学校現場に即した指導を行うことで、さまざまな課題を持つ生徒に対する指導の考え方を理解し自分のキャリアを生かした職業指導を実施できる、教員として実践的な職業指導を指導できるようになることを目指す。	
教職科目			工芸科指導法Ⅰ	工芸とは機能や造形美等を追求しつつ素材の特性を活かしたモノを形作るという創造的活動を指すが、その創造的分野の教育に関して、実際に授業で生徒に課す課題制作を自ら体験することを通して、その創造教育の持つ意義や目的といった本質に対しての理解を深めるとともに、同時にその指導法についても生徒の立場に立って考察を繰り返し、実践的に身につけることで、より自発的な指導法を確立し将来に活かしていけるようになることを目指す。	
教職科目			工芸科指導法Ⅱ	工芸とは機能や造形美等を追求しつつ素材の特性を活かしたモノを形作るという創造的活動を指すが、その創造的分野の教育に関して、実際に授業で生徒に課す課題制作を自ら体験することを通して、その創造教育の持つ意義や目的といった本質に対しての理解を深めるとともに、同時にその指導法についても生徒の立場に立って考察を繰り返し、実践的に身につけることで、より自発的な指導法を確立し将来に活かしていけるようになることを目指す。	
教職科目			工業科指導法Ⅰ	高等学校の工業における教育目標、育成すべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、その背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。また、工業高校の教壇に立つための基本的事項（工業教育の意義・歴史・法令、教科工業の内容、教育課程・授業設計（ICTの利活用含む）・教育評価・教育実習、学習理論、進路指導・学校経営）について広い視野から理解すること、基本的な事項と実践の研究動向をふまえ、工業高校教師としての学び続ける自らの教師像を描くことを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	工業科指導法Ⅱ	高等学校の工業における教育目標、育成すべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、その背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。また、時代、社会の変化を考慮した適切な指導案を作成し、それを基に充実した授業を展開できること、他の人の模擬授業をみて、それを適切に評価し改善に寄与できること、適切な教材の作成ができること、効果的な教科指導のためにICTを活用することを目指す。	
教職科目	教育基礎論	教育とはどのような行為なのかを教育の歴史・思想等に関する基本的概念とともに確認し、教育が人類にとって必須の社会的機能として成立する経緯とその役割を理解することを目標とする。また、教育が個々の人間の成長・発達に寄与するとともに、社会の維持・発展にも寄与していることを踏まえ、家庭の教育機能や公教育制度に着目し、それぞれがどのような課題を持つのかを検討することで、現在の教育のあり方について問い直し、理解を深めていく。	
教職科目	教職概論	教育に携わる専門家として、子どもや大人を支援する指導力、実践力、問題解決能力を習得するために、子どもたちの成長・発達や教育を受ける権利保障という観点から、学校制度のあり方と教員という職業の特性を学ぶ。そして、現代社会において学校教育が果たしている役割とその課題について考える視点の獲得を目指す。また、他の職業との比較等を通じて、教師を目指すことの意味を確認し、具体的な職業選択へと繋げていく。	
教職科目	教育制度論	教育制度の歴史、役割、法制度の仕組み等を学び、教育制度の抱える問題点について検討していく。具体的には、義務教育制度の組織・運営・学校文化を知り、今日の教育が制度・組織・計画・法制の中でどのように営まれているかについて考えていく。また、現在の教育における課題を法制度の面から検討し、教員になった際に子ども達の「教育を受ける権利」をどのように保障していくか考え、教育制度の抱える問題点を自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。	
教職科目	教育心理学	教育職員として子ども達を援助する際に必須となる心理学的知見を理解するとともに、心理学的知見の活用のあり方や方法についての認識を深めることを目的とする。こころの発達、知識の獲得、指導と評価、子どもと集団、障害と支援等についての授業を行い、近年の教育現場が抱える問題とその具体的な事例にも触れていく。そして、学校現場での教育に必要な児童生徒の心身の発達や学習過程の理解や、特別な支援ニーズを持つ子ども達に関する理解を深め、その対応を考えていく。	
教職科目	特別支援教育基礎論	発達障害や軽度知的障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒についての理解を目的とする。学習上又は生活上の困難を理解し支援・教育を行うために、各障害およびそれらの障害を持つ子どもの特性、各障害に対する支援や教育方法等を学ぶ。幼児、児童および生徒が学習活動への実感・達成感を持ち、生きる力を身につけるための支援・教育のあり方を考え、個別の教育的ニーズに対し組織的に対応していくための知識や支援方法を理解する。	
教職科目	教育課程総論	教育課程に関わる法令の規定、学習指導要領改訂の変遷からみる教育課程編成の意義や方法について理解し、新学習指導要領で求められる、主体的・対話的で深い学び、カリキュラム・マネジメントについて具体的な教育課程編成を想定しながら考えていく。そして、現代の教育課程の考察を行う中で、自らも教育課程編成の主体となることを自覚し、これからの子ども達にとって必要な教育課程とはどのようなものであるかを他者と協調して議論し考えることで、自らの考えを明確化することを目標とする。	
教職科目	道徳教育論	新学習指導要領で教科化された特別の教科道徳を教員としてどのように教えていくか、指導方法や実際の授業の進め方、教材の作成や学習指導案の書き方等を学ぶ。授業を通し自分が身につけてきた道徳的価値観を振り返ることで、道徳教育の様々なテーマについて考え、道徳に関する自分なりの考えを持つ。そして、道徳授業の具体的な教授方法について関心を持ち、道徳授業の指導案や教材を作成し積極的に実践することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	各教科等で育成される見方考え方を総合的に活用し、広範な事象を多種多様な視点から俯瞰して捉え、実社会実生活の課題を探究する学びが実現できるよう、指導計画作成や具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識技能を習得することを目標とする。特別活動の教育課程上の位置づけや内容、指導方法、評価等の特質から、人間形成における特別活動の意義や役割について理解し、また、学年の違いによる活動の変化や他教科との関連、チーム学校としての家庭・地域との連携という観点から特別活動の特質について学ぶ。	
教職科目	教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	新学習指導要領に基づく授業改善や教育方法の歴史を振り返り、日本の近代以降の教育方法について学ぶ。生徒の実態に留意し、特別な配慮が必要な児童生徒への対応等を踏まえた様々な授業方法や、現代の子どもや若者の状況に即した教育方法や授業計画等について考える。また、ギガスクール構想やコロナ禍における授業のあり方に関する動向を理解し、タブレットや電子図書等のICT技術の活用、ICTを用いたオンライン授業の展開等について対応できる技術を身につける。	
教職科目	生徒指導論（進路指導論を含む）	教育に携わる専門家として子どもや大人を支援する指導力、実践力、問題解決能力を習得するために、生徒指導上直面する諸問題を取り上げ、それぞれの問題の検討を通じて、生徒指導の目的・内容・方法を理解し、教師の役割について考えることを目的とする。そして、指導力、実践力、問題解決能力を養成するために、子どもを取り巻く問題状況を理解し、自分自身の教育経験を捉え直す。そして、問題を分析し、論理的に自己の意見を取りまとめる力を養う。	
教職科目	教育相談	教師が学校現場で直面する児童生徒の問題を契機とした教育相談活動の実践例を通し、教育相談の理論と技法を学ぶとともに、すべての児童生徒の発達を支援し、彼らの人格の成長を図るために、教師が行う個人および集団への支援・援助活動の理論と方法を学習し理解を深める。特に、発達障害をはじめとした特別な支援ニーズを持つ児童生徒の理解とその支援のあり方について具体的に学び、児童生徒の自己理解の深化や人格の成長を図ることを目的とする。	
教職科目	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	教育実習（高等学校教諭用）の科目であり、事前指導、学校実習、事後指導で構成される。学習指導要領に基づいた指導計画やワークシートを活用した工夫ある授業づくりや、新学力観として習得型と活用型の学習活動等が求められる中、これらに関する理解の深化を目的とした模擬授業を計画し、実践する。事前指導では実習に向け準備すべき内容を学び、保健体育科・保健科の指導案作成や模擬授業等の準備を行う。実習を通して教職を理解し、自身の課題や教職への適性等の判断材料を得る。また、事後指導では実習の省察を行い実習を総括することにより、教師の専門的力量や教師になるための資質ついての理解を深める。	共同
教職科目	教職実践演習（中・高）	教職課程で学んできた教育の原理・原論、教育の法や制度、教育史、教育心理等や各教科の教科教育法や道徳、生活指導、生徒指導、進路指導や介護等体験、教育実習の事前事後の指導、教育実習等の総括を目的としており、書評、議論、グループ討議、事例研究等の演習形式の授業を行う。自身の教育実習体験を咀嚼・整理するとともに、実習で獲得した各々の実践知を互いに共有することにより、教育に対する深い洞察力を身につけることを目標とする。	共同

学校法人東洋大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
【東洋大学】				【東洋大学】				
文学部　第１部				文学部　第１部				
哲学科	100	—	400	哲学科	100	—	400	
東洋思想文化学科	100	—	400	東洋思想文化学科	100	—	400	
日本文学文化学科	133	—	532	日本文学文化学科	133	—	532	
英米文学科	133	—	532	英米文学科	133	—	532	
史学科	133	—	532	史学科	133	—	532	
教育学科				教育学科				
人間発達専攻	100	—	400	人間発達専攻	100	—	400	
初等教育専攻	50	—	200	初等教育専攻	50	—	200	
国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	100	—	400	国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	100	—	400	
経済学部　第１部				経済学部　第１部				
経済学科	250	—	1000	経済学科	250	—	1000	
国際経済学科	183	—	732	国際経済学科	183	—	732	
総合政策学科	183	—	732	総合政策学科	183	—	732	
経営学部　第１部				経営学部　第１部				
経営学科	316	—	1264	経営学科	316	—	1264	
ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ学科	150	—	600	ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ学科	150	—	600	
会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学科	216	—	864	会計ﾌｧｲﾅﾝｽ学科	216	—	864	
法学部　第１部				法学部　第１部				
法律学科	250	—	1000	法律学科	250	—	1000	
企業法学科	250	—	1000	企業法学科	250	—	1000	
社会学部　第１部				社会学部　第１部				
社会学科	150	—	600	社会学科	150	—	600	
国際社会学科	150	—	600	国際社会学科	150	—	600	
ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	150	—	600	ﾒﾃﾞｨｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	150	—	600	
社会心理学科	150	—	600	社会心理学科	150	—	600	
社会福祉学科	150	—	600		0	—	0	令和5年4月学生募集停止
理工学部				理工学部				
機械工学科	180	—	720	機械工学科	180	—	720	

学校法人東洋大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
生体医工学科	113	—	452	生体医工学科	113	—	452	
電気電子情報工学科	113	—	452	電気電子情報工学科	113	—	452	
応用化学科	146	—	584	応用化学科	146	—	584	
都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	113	—	452	都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	113	—	452	
建築学科	146	—	584	建築学科	146	—	584	
国際学部				国際学部				
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学科	100	—	400	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学科	100	—	400	
国際地域学科				国際地域学科				
国際地域専攻	210	—	840	国際地域専攻	210	—	840	
地域総合専攻	80	—	320	地域総合専攻	80	—	320	
国際観光学部				国際観光学部				
国際観光学科	366	—	1464	国際観光学科	366	—	1464	
生命科学部				生命科学部				
生命科学科	113	—	452	生命科学科	113	—	452	
応用生物科学科	113	—	452	応用生物科学科	113	—	452	
ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学部								
生活支援学科								
生活支援学専攻	116	—	464		0	—	0	令和5年4月学生募集停止
子ども支援学専攻	100	—	400		0	—	0	令和5年4月学生募集停止
健康ｽﾎﾟｰﾂ学科	180	—	720		0	—	0	令和5年4月学生募集停止
人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	160	—	640		0	—	0	令和5年4月学生募集停止
				福祉社会ﾃﾞｻﾞｲﾝ学部				学部の設置（届出）
				社会福祉学科	216	—	864	
				子ども支援学科	100	—	400	
				人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	160	—	640	
				健康ｽﾎﾟｰﾂ科学部				学部の設置（届出）
				健康ｽﾎﾟｰﾂ科学科	230	—	920	
				栄養科学科	100	—	400	
総合情報学部				総合情報学部				

学校法人東洋大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
総合情報学科	260	—	1040	総合情報学科	260	—	1040	
食環境科学部				食環境科学部				
食環境科学科				食環境科学科				
ﾌｰﾄﾞｻｲｴﾝｽ専攻	70	—	280	ﾌｰﾄﾞｻｲｴﾝｽ専攻	70	—	280	
ｽﾎﾟｰﾂ・食品機能専攻	50	—	200		0	—	0	令和5年4月学生募集停止
健康栄養学科	100	—	400	健康栄養学科	100	—	400	
情報連携学部				情報連携学部				
情報連携学科	300	—	1200	情報連携学科	300	—	1200	
文学部　第２部				文学部　第２部				
東洋思想文化学科	30	—	120	東洋思想文化学科	30	—	120	
日本文学文化学科	50	—	200	日本文学文化学科	50	—	200	
教育学科	40	—	160	教育学科	40	—	160	
経済学部　第２部				経済学部　第２部				
経済学科	150	—	600	経済学科	150	—	600	
経営学部　第２部				経営学部　第２部				
経営学科	110	—	440	経営学科	110	—	440	
法学部　第２部				法学部　第２部				
法律学科	120	—	480	法律学科	120	—	480	
社会学部　第２部				社会学部　第２部				
社会学科	130	—	520	社会学科	130	—	520	
学部　計	7,156	—	28,624	学部　計	7,206	—	28,824	

【東洋大学大学院】				【東洋大学大学院】			
〔修士・博士前期課程〕				〔修士・博士前期課程〕			
文学研究科				文学研究科			
哲学専攻	5	—	10	哲学専攻	5	—	10
ｲﾝﾄﾞ哲学仏教学専攻	4	—	8	ｲﾝﾄﾞ哲学仏教学専攻	4	—	8
日本文学文化専攻	10	—	20	日本文学文化専攻	10	—	20
中国哲学専攻	4	—	8	中国哲学専攻	4	—	8
英文学専攻	5	—	10	英文学専攻	5	—	10

学校法人東洋大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
史学専攻	6	—	12	史学専攻	6	—	12	
教育学専攻	20	—	40	教育学専攻	20	—	40	
国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻	10	—	20	国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻	10	—	20	
社会学研究科				社会学研究科				
社会学専攻	10	—	20	社会学専攻	10	—	20	
社会心理学専攻	12	—	24	社会心理学専攻	12	—	24	
法学研究科				法学研究科				
私法学専攻	10	—	20	私法学専攻	10	—	20	
公法学専攻	10	—	20	公法学専攻	10	—	20	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ専攻	22	—	44	経営学・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ専攻	22	—	44	
ﾋﾞｼﾞﾈｽ・会計ﾌｧｲﾅﾝｽ専攻	28	—	56	ﾋﾞｼﾞﾈｽ・会計ﾌｧｲﾅﾝｽ専攻	28	—	56	
理工学研究科				理工学研究科				
生体医工学専攻	18	—	36	生体医工学専攻	18	—	36	
応用化学専攻	12	—	24	応用化学専攻	12	—	24	
機能ｼｽﾃﾑ専攻	15	—	30	機能ｼｽﾃﾑ専攻	15	—	30	
電気電子情報専攻	11	—	22	電気電子情報専攻	11	—	22	
都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	8	—	16	都市環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	8	—	16	
建築学専攻	14	—	28	建築学専攻	14	—	28	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻	10	—	20	経済学専攻	10	—	20	
公民連携専攻	30	—	60	公民連携専攻	30	—	60	
国際学研究科				国際学研究科				
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学専攻	10	—	20	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ学専攻	10	—	20	
国際地域学専攻	15	—	30	国際地域学専攻	15	—	30	
国際観光学研究科				国際観光学研究科				
国際観光学専攻	15	—	30	国際観光学専攻	15	—	30	
生命科学研究科				生命科学研究科				
生命科学専攻	20	—	40	生命科学専攻	20	—	40	
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				

学校法人東洋大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
社会福祉学専攻	20	—	40	社会福祉学専攻	20	—	40	
ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学研究科				ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学研究科				
生活支援学専攻	10	—	20	生活支援学専攻	10	—	20	
健康ｽﾎﾟｰﾂ学専攻	10	—	20		0	—	0	令和5年4月学生募集停止
人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	10	—	20	人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	10	—	20	
				健康スポーツ科学研究科				研究科の設置（届出）
				健康スポーツ科学専攻	20	—	40	
				栄養科学専攻	10	—	20	
学際・融合科学研究科				学際・融合科学研究科				
ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合専攻	12	—	24	ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合専攻	12	—	24	
総合情報学研究科				総合情報学研究科				
総合情報学専攻	15	—	30	総合情報学専攻	15	—	30	
食環境科学研究科				食環境科学研究科				
食環境科学専攻	10	—	20	食環境科学専攻	10	—	20	
情報連携学研究科				情報連携学研究科				
情報連携学専攻	20	—	40	情報連携学専攻	20	—	40	
〔修士・博士前期課程〕 計	441	—	882	〔修士・博士前期課程〕 計	461	—	922	
〔博士後期課程〕				〔博士後期課程〕				
文学研究科				文学研究科				
哲学専攻	3	—	9	哲学専攻	3	—	9	
ｲﾝﾄﾞ哲学仏教学専攻	3	—	9	ｲﾝﾄﾞ哲学仏教学専攻	3	—	9	
日本文学文化専攻	3	—	9	日本文学文化専攻	3	—	9	
中国哲学専攻	3	—	9	中国哲学専攻	3	—	9	
英文学専攻	3	—	9	英文学専攻	3	—	9	
史学専攻	3	—	9	史学専攻	3	—	9	
教育学専攻	4	—	12	教育学専攻	4	—	12	
国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻	3	—	9	国際文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ専攻	3	—	9	
社会学研究科				社会学研究科				
社会学専攻	3	—	9	社会学専攻	3	—	9	
社会心理学専攻	5	—	15	社会心理学専攻	5	—	15	

学校法人東洋大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
法学研究科				法学研究科				
私法学専攻	5	—	15	私法学専攻	5	—	15	
公法学専攻	5	—	15	公法学専攻	5	—	15	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ専攻	4	—	12	経営学・ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ専攻	4	—	12	
ﾋﾞｼﾞﾈｽ・会計ﾌｧｲﾅﾝｽ専攻	3	—	9	ﾋﾞｼﾞﾈｽ・会計ﾌｧｲﾅﾝｽ専攻	3	—	9	
理工学研究科				理工学研究科				
生体医工学専攻	3	—	9	生体医工学専攻	3	—	9	
応用化学専攻	3	—	9	応用化学専攻	3	—	9	
機能ｼｽﾃﾑ専攻	3	—	9	機能ｼｽﾃﾑ専攻	3	—	9	
電気電子情報専攻	3	—	9	電気電子情報専攻	3	—	9	
建築・都市ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	3	—	9	建築・都市ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	3	—	9	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻	3	—	9	経済学専攻	3	—	9	
国際学研究科				国際学研究科				
国際地域学専攻	5	—	15	国際地域学専攻	5	—	15	
国際観光学研究科				国際観光学研究科				
国際観光学専攻	3	—	9	国際観光学専攻	3	—	9	
生命科学研究科				生命科学研究科				
生命科学専攻	4	—	12	生命科学専攻	4	—	12	
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				
社会福祉学専攻	5	—	15	社会福祉学専攻	5	—	15	
ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学研究科				ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ学研究科				
ﾋｭｰﾏﾝﾗｲﾌ学専攻	5	—	15	ﾋｭｰﾏﾝﾗｲﾌ学専攻	5	—	15	
人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	4	—	12	人間環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻	4	—	12	
				健康スポーツ科学研究科				研究科の設置（届出）
				健康スポーツ科学専攻	5	—	15	
				栄養科学専攻	3	—	9	
学際・融合科学研究科				学際・融合科学研究科				
ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合専攻	4	—	12	ﾊﾞｲｵ・ﾅﾉｻｲｴﾝｽ融合専攻	4	—	12	
総合情報学研究科				総合情報学研究科				
総合情報学専攻	3	—	9	総合情報学専攻	3	—	9	

学校法人東洋大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
食環境科学研究科				食環境科学研究科				
食環境科学専攻	2	—	6	食環境科学専攻	2	—	6	
情報連携学研究科				情報連携学研究科				
情報連携学専攻	4	—	12	情報連携学専攻	4	—	12	
〔博士後期課程〕 計	107	—	321	〔博士後期課程〕 計	115	—	345	
大学院　計	548	—	1,203	大学院　計	576	—	1,267	

東洋大学関連広域図



【所在地】

白山キャンパス	東京都文京区白山5-28-20
赤羽台キャンパス	東京都北区赤羽台1-7-11
朝霞キャンパス	埼玉県朝霞市岡48-1
川越キャンパス	埼玉県川越市鯨井2100
板倉キャンパス	群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1
総合スポーツセンター	東京都板橋区清水町92-1

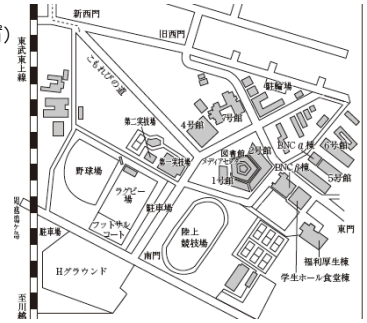
D 板倉団地

生命科学部・食環境科学部
生命科学・食環境科学研究科
位　置　群馬県邑楽郡板倉町
校地面積　112,125.00㎡
（内　運動場用地　39,336.00㎡）
（全部所有）



B 川越団地

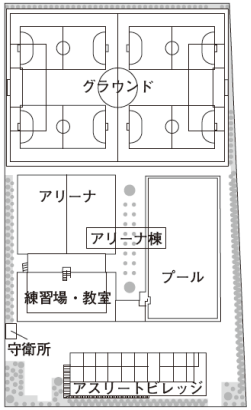
理工学部・総合情報学部
理工学・総合情報学研究科
位　置　埼玉県川越市鯨井
校地面積　271,181.87㎡
（内　運動場用地　102,751.32㎡）
（全部所有）



E 総合スポーツセンター

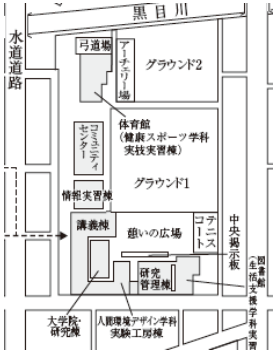
位　置　東京都板橋区清水町
校地面積　16,964.70㎡
（内　運動場用地　7,416.00㎡）
（全部所有）

文・経済・経営・法・社会
国際学部・国際観光学部



C 朝霞団地

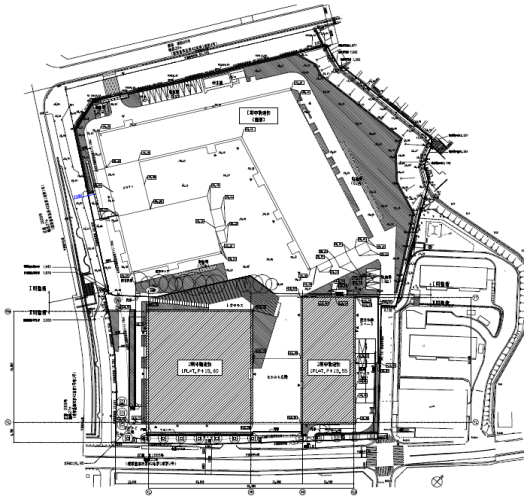
位　置　埼玉県朝霞市岡
校地面積　69,774.00㎡
（内　運動場用地　40,072.73㎡）
（全部所有）



F 赤羽台団地

赤羽台キャンパス
位置　東京都北区赤羽台
校地面積35883.71㎡
（全部所有）

情報連携学部
情報連携学研究科
ライフデザイン学部
ライフデザイン学研究科



A 白山団地

白山キャンパス
位置　東京都文京区白山
校地面積　35,897.67㎡
（所有校地）34,892.06㎡
（借用校地）1,005.61㎡

文・経済・経営・法・社会
国際学部・国際観光学部
文・社会・法・経営・経済・
国際・I国際観光・社会福祉学研究科
法科大学院



電車　13分
【東武日光線】
1.0km
徒歩10分　（至　日光）
板倉東洋大前駅
栗橋駅
【東武線日光線・伊勢崎線】

【JR東北本線】
電車
28分
大宮駅

【JR埼京線】
電車
18分

赤羽駅　1.0km
徒歩　10分

【JR埼京線】
電車
9分

1.0km
徒歩10分

【JR武蔵野線】
北朝霞駅

（至　森林公園）　1.0km
徒歩10分
鶴ヶ島駅
【東武東上線】
朝霞台駅
【東武東上線】
池袋駅

電車16分（急行）
電車　38分（急行）

電車
5分
【JR山手線】
【都営三田線】
巣鴨駅
白山駅　0.5km
徒歩　5分
（至　三田）

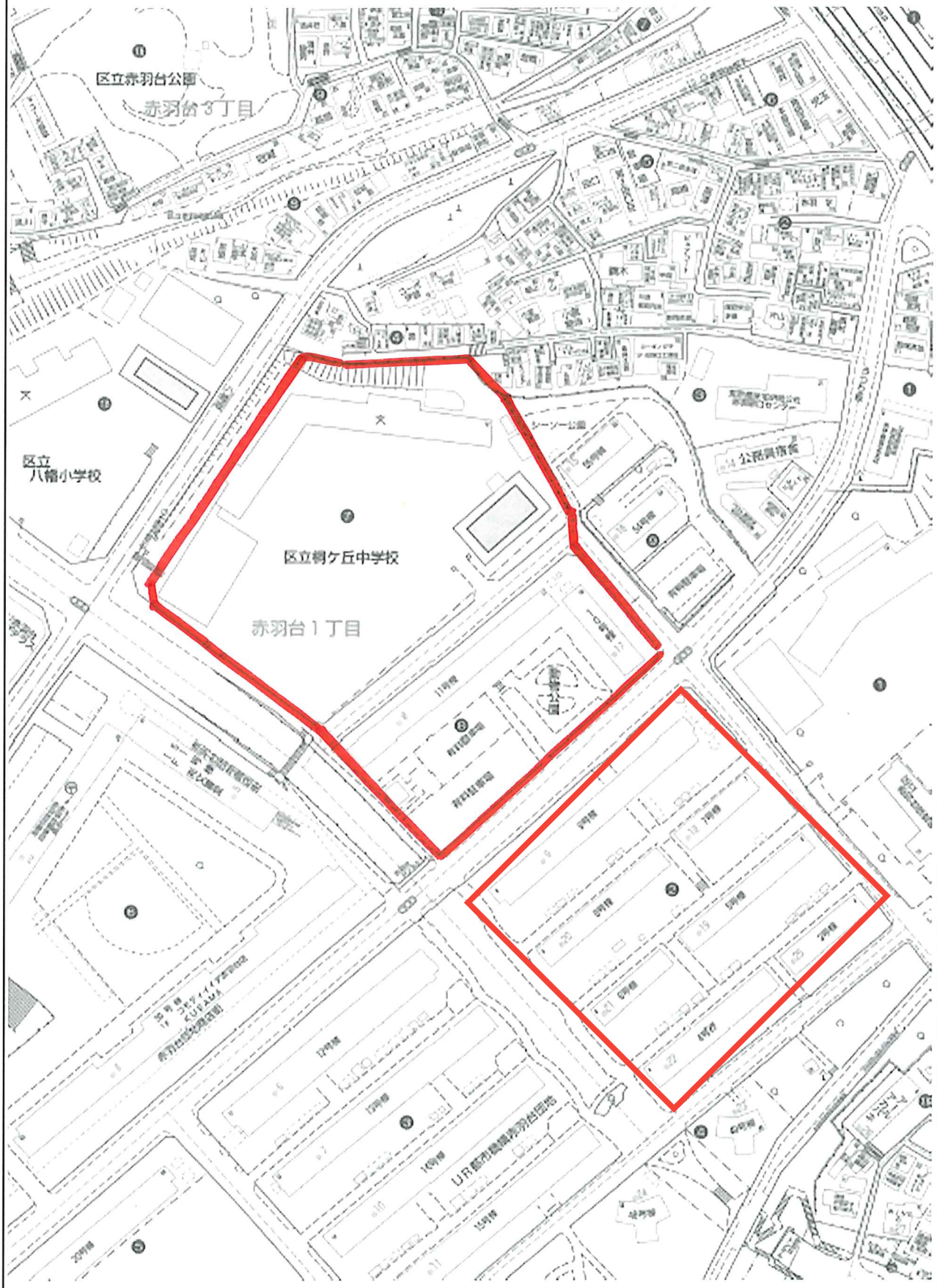
（至　高島平）
板橋本町駅
電車
12分
電車　4分
バス　6分
（東洋大前）

0.7km
徒歩7分

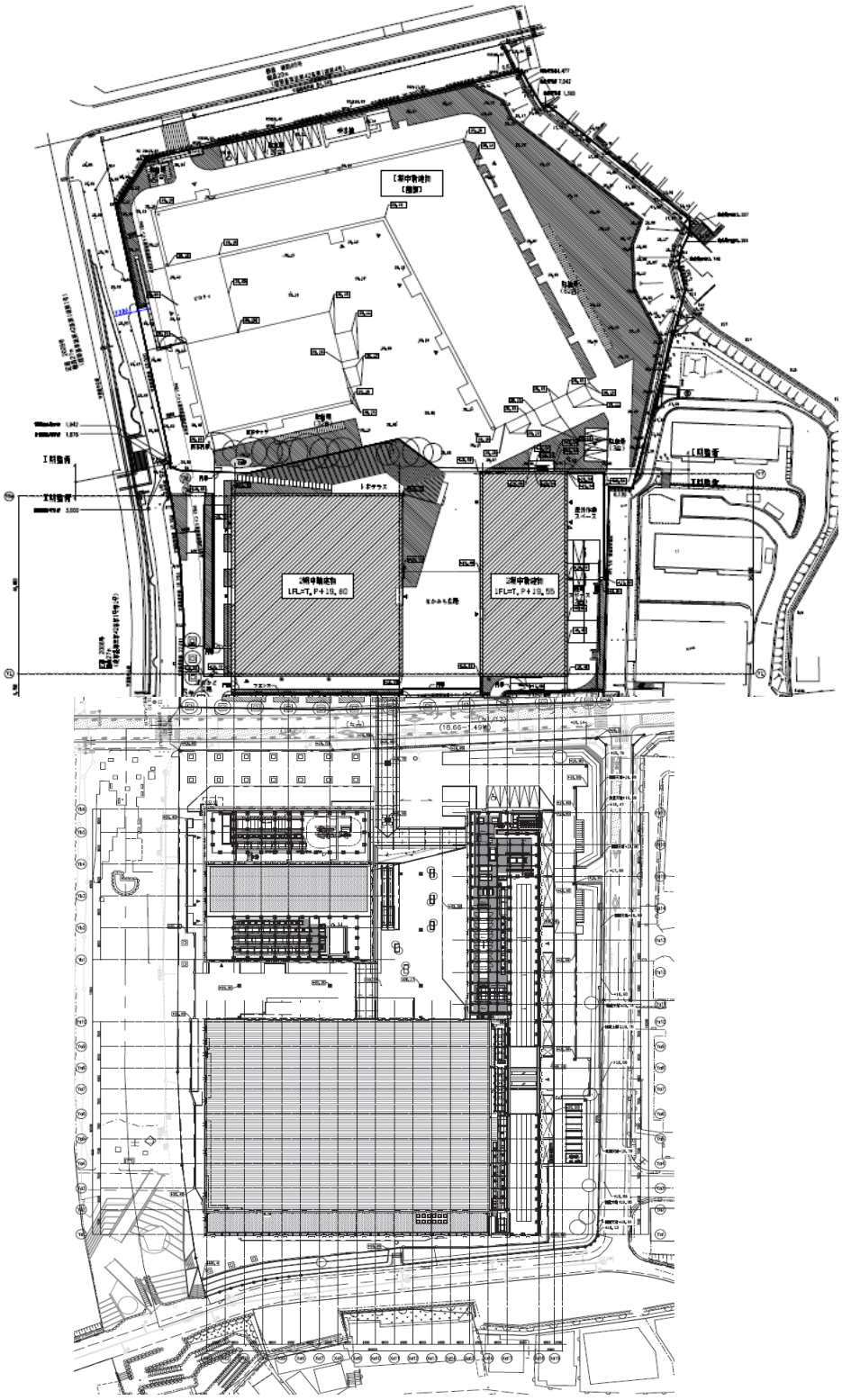
各校舎詳細については校舎配置図を参照

校地（赤羽台キャンパス）

所　在	東京都　北区



東洋大学　赤羽台キャンパス　校舎配置図



	校地面積	校舎面積
赤羽台キャンパス	35,883.71㎡	68,073.13㎡

○東洋大学学則（案）

昭和24年４月１日施行

改正

昭和25年４月１日
昭和26年４月１日
昭和27年４月１日
昭和29年４月１日
昭和31年４月１日
昭和32年４月１日
昭和34年４月１日
昭和36年４月１日
昭和37年４月１日
昭和39年４月１日
昭和40年４月１日
昭和41年４月１日
昭和43年４月１日
昭和46年４月１日
昭和47年４月１日
昭和51年４月１日
昭和53年４月１日
昭和54年４月１日
昭和55年４月１日
昭和56年４月１日
昭和57年４月１日
昭和58年４月１日
昭和59年４月１日
昭和60年４月１日
昭和61年４月１日
昭和62年４月１日
昭和63年４月１日
昭和63年９月26日
昭和63年11月４日
平成元年４月１日
平成元年６月22日
平成２年４月１日
平成３年４月１日
平成３年７月１日
平成３年10月１日
平成４年４月１日
平成５年４月１日
平成５年10月１日
平成５年11月１日
平成６年４月１日
平成６年９月５日
平成７年４月１日
平成８年４月１日
平成９年４月１日
平成10年４月１日
平成10年６月１日
平成10年９月１日

平成11年４月１日
平成12年４月１日
平成12年７月１日
平成13年４月１日
平成14年４月１日
平成14年７月15日
平成15年４月１日
平成16年４月１日
平成17年４月１日
平成18年４月１日
平成19年４月１日
平成20年４月１日
平成20年７月22日
平成21年４月１日
平成22年４月１日
平成23年４月１日
平成24年４月１日
平成25年４月１日
平成26年４月１日
平成26年７月１日
平成27年４月１日
平成28年４月１日
平成28年７月１日
平成29年４月１日
平成30年４月１日
平成31年４月１日
令和２年６月１日学則第72号
令和３年４月１日学則第23号
令和４年４月１日学則第31号
令和５年４月１日学則第Ｘ号

東洋大学学則

目次

第１章　総則（第１条―第３条の４）
第２章　本学の組織
　第１節　教育及び研究の組織（第４条―第８条）
　第２節　運営機関及び教職員（第９条―第18条）
第３章　修学等
　第１節　修業年限（第19条―第20条）
　第２節　学年、学期及び休業日（第21条―第23条）
第４章　入学、退学、休学、除籍等
　第１節　入学、留学等（第24条―第34条）
　第２節　休学、退学、転学及び除籍（第35条―第38条）
第５章　教育課程及び履修方法（第39条―第45条）
第６章　試験及び成績（第46条―第51条）
第７章　卒業及び学士の学位（第52条―第55条）
第８章　賞罰及び奨学（第56条―第57条の２）
第９章　委託学生、科目等履修生及び特別聴講生（第58条―第61条）
第10章　外国人留学生（第62条・第62条の２）
第11章　学費等
　第１節　検定料及び選考料（第63条・第64条）

第２節　学費、科目等履修料等（第65条―第69条）
第３節　手数料（第70条）
第４節　学費の返還制限（第71条）
第12章　正規外の講座（第72条―第74条）
第13章　厚生寮、学生寮及び厚生保健施設（第75条―第79条）
第14章　補則（第80条―第82条）
附則

第１章　総則

（趣旨）

第１条　この学則は、学校教育法（昭和22年法律第26号）及び私立学校法（昭和24年法律第270号）に基づき、学校法人東洋大学が設置する東洋大学（以下「本学」という。）における教育及び研究の組織並びに運営について必要な事項を定める。

（本学の目的）

第２条　本学は、創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、東西学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めると共に、人格の陶冶と情操の涵養とに務め、国家及び世界の文化向上に貢献しうる有為の人材を養成することを目的とする。

（自己点検・評価）

第３条　本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

２　前項の点検及び評価の実施細目については、別に定める。

（認証評価）

第３条の２　本学は、前条第１項の措置に加え、本学の教育研究等の総合的な状況について、学校教育法第109条第２項に基づき、政令で定められた期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受け、その結果を公表する。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第３条の３　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

２　本学は、前項に加え、大学の運営の高度化を図ることを目的として、教職員が大学の運営に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質を向上させるための研修を実施する。

３　前２項の実施に関する必要な事項については、別に定める。

（情報の公表）

第３条の４　本学は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の２に基づき、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって情報を公表する。

２　前項の公表方法については、別に定める。

第２章　本学の組織

第１節　教育及び研究の組織

（学部及び学科）

第４条　本学に、次の学部及び学科を置く。

（１）　文学部

ア　第１部

（ア）　哲学科
（イ）　東洋思想文化学科
（ウ）　日本文学文化学科
（エ）　英米文学科
（オ）　史学科
（カ）　教育学科
（キ）　国際文化コミュニケーション学科

イ　第２部

（ア）　東洋思想文化学科
（イ）　日本文学文化学科

（ウ）　教育学科
（２）　経済学部
ア　第１部
（ア）　経済学科
（イ）　国際経済学科
（ウ）　総合政策学科
イ　第２部
（ア）　経済学科
（３）　経営学部
ア　第１部
（ア）　経営学科
（イ）　マーケティング学科
（ウ）　会計ファイナンス学科
イ　第２部
（ア）　経営学科
（４）　法学部
ア　第１部
（ア）　法律学科
（イ）　企業法学科
イ　第２部
（ア）　法律学科
（５）　社会学部
ア　第１部
（ア）　社会学科
（イ）　国際社会学科
（ウ）　メディアコミュニケーション学科
（エ）　社会心理学科
イ　第２部
（ア）　社会学科
（６）　理工学部
ア　機械工学科
イ　生体医工学科
ウ　電気電子情報工学科
エ　応用化学科
オ　都市環境デザイン学科
カ　建築学科
（７）　国際学部
ア　グローバル・イノベーション学科
イ　国際地域学科
（８）　国際観光学部
ア　国際観光学科
（９）　生命科学部
ア　生命科学科
イ　応用生物科学科
(10)　総合情報学部
ア　総合情報学科
(11)　食環境科学部
ア　食環境科学科
イ　健康栄養学科
(12)　情報連携学部

ア　情報連携学科
(13)　福祉社会デザイン学部
ア　社会福祉学科
イ　子ども支援学科
ウ　人間環境デザイン学科
(14)　健康スポーツ科学部
ア　健康スポーツ科学科
イ　栄養科学科

2　前項の学科のもとに、教育研究上の必要に応じ専攻等を置くことができる。

3　各学部における学部規程は、別に定める。

（学部及び学科の教育研究上の目的）

第４条の２　各学部は、学部及び学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部規程に定める。

（卒業の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針）

第４条の３　各学部は、前条の目的を達成するために、学部及び学科又は専攻の卒業の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を学部規程に定める。

（学生定員）

第５条　本学の各学部及び学科又は専攻の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	専攻	入学定員		収容定員	
			第１部	第２部	第１部	第２部
文学部	哲学科		100	—	400	—
	東洋思想文化学科		100	30	400	120
	日本文学文化学科		133	50	532	200
	英米文学科		133	—	532	—
	史学科		133	—	532	—
	教育学科	人間発達専攻	100	—	400	—
		初等教育専攻	50	—	200	—
			—	40	—	160
	国際文化コミュニケーション学科		100	—	400	—
	（計）		849	120	3,396	480
経済学部	経済学科		250	150	1,000	600
	国際経済学科		183	—	732	—
	総合政策学科		183	—	732	—
	（計）		616	150	2,464	600
経営学部	経営学科		316	110	1,264	440
	マーケティング学科		150	—	600	—
	会計ファイナンス学科		216	—	864	—
	（計）		682	110	2,728	440
法学部	法律学科		250	120	1,000	480
	企業法学科		250	—	1,000	—
	（計）		500	120	2,000	480
社会学部	社会学科		150	130	600	520
	国際社会学科		150	—	600	—
	メディアコミュニケーション学科		150	—	600	—
	社会心理学科		150	—	600	—
	（計）		600	130	2,400	520

理工学部	機械工学科		180	—	720	—
	生体医工学科		113	—	452	—
	電気電子情報工学科		113	—	452	—
	応用化学科		146	—	584	—
	都市環境デザイン学科		113	—	452	—
	建築学科		146	—	584	—
	（計）		811	—	3,244	—
国際学部	グローバル・イノベーション学科		100	—	400	—
	国際地域学科	国際地域専攻	210	—	840	—
		地域総合専攻	80	—	320	—
	（計）		390	—	1,560	—
国際観光学部	国際観光学科		366	—	1,464	—
生命科学部	生命科学科		113	—	452	—
	応用生物科学科		113	—	452	—
	（計）		226	—	904	—
総合情報学部	総合情報学科		260	—	1,040	—
食環境科学部	食環境科学科	フードサイエンス専攻	70	—	280	—
	健康栄養学科		100	—	400	—
	（計）		170	—	680	—
情報連携学部	情報連携学科		300	—	1,200	—
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科		216	—	864	—
	子ども支援学科		100	—	400	—
	人間環境デザイン学科		160	—	640	—
	（計）		476	—	1,904	—
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科		230	—	920	—
	栄養科学科		100	—	400	—
	（計）		330	—	1,320	—
〔合計〕			6,576	630	26,304	2,520

２　文学部第１部及び第２部東洋思想文化学科の「インド思想コース」、「中国語・中国哲学文学コース」、「仏教思想コース」及び「東洋芸術文化コース」の定員は、別に定める文学部東洋思想文化学科のコースに関する規程による。

（通信教育課程）

第６条　文学部日本文学文化学科及び法学部法律学科に、通信教育課程を置く。

２　通信教育課程に関する学則は、別に定める。

（大学院）

第７条　本学に、大学院を置く。

２　大学院に関する学則は、別に定める。

（附属施設等）

第８条　本学に、附属施設として図書館、研究所、センターその他の教育及び研究に必要な施設を置くことができる。

２　附属施設に関する規程は、別に定める。

第２節　運営機関及び教職員

（学長）

第９条　本学に、学長を置く。

２　学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

（副学長）

第９条の２　本学に、副学長を置くことができる。

２　副学長は、学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

（学部長）

第10条　各学部に、学部長を置く。

２　学部長は、当該学部に関する校務をつかさどる。

（学部長会議）

第11条　各学部の連絡調整及びその他緊急を要する事項につき、学長の諮問に応えるために学部長会議を置く。

２　学部長会議に関する規程は、別に定める。

（教授会）

第12条　学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項及び当該学部の運営に関する事項を審議するために、各学部に教授会を置く。

２　教授会に関する規程は、別に定める。

第13条　削除

第14条　削除

（各種委員会）

第15条　学長が必要と認めるときは、課題ごとに委員会（以下「各種委員会」という。）を設置することができる。

２　各種委員会に関する規程は、別に定める。

第16条　削除

（教職員）

第17条　本学に、専任の教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、特殊資格職員、技術職員及び現業職員を置く。

２　前項のほか、必要に応じ、非常勤の教員及び職員を置くことができる。

（学外者研究員）

第18条　本学に、学外者研究員を置くことができる。

２　学外者研究員に関する規程は、別に定める。

第３章　修学等

第１節　修業年限

（修業年限）

第19条　学部の修業年限は、４年とする。

（修業年限の通算）

第19条の２　科目等履修生（大学入学資格を有しない者を除く。）として本学において一定の単位を修得した者が本学に入学する場合、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、本学が定める期間を修業年限に通算することができる。ただし、その期間は、本学の修業年限の２分の１を超えないものとする。

２　前項の修業年限の通算は、本学に入学した後に修得したものとみなすことのできる当該単位数、その修得に要した期間その他教授会が必要と認める事項を勘案して行う。

（在学年限）

第20条　卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して８年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

２　再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第２節　学年、学期及び休業日

（学年）
第21条　学年は４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。ただし、秋学期入学生については10月１日に始まり、翌年９月30日に終わる。
（学期）
第22条　学年を分けて、次の２期とする。ただし、学長は、教授会の意見を聴いて、春学期の終了日及び秋学期の開始日を変更することができる。
（１）　春学期　４月１日から９月30日まで
（２）　秋学期　10月１日から翌年３月31日まで
（休業日）
第23条　本学における授業を行わない日（以下「休業日」という。）を、次のとおり定める。ただし、学長は、教授会の意見を聴いて、休業日を変更し、又は臨時に休業日を設けることができる。
（１）　日曜日
（２）　国民の祝日に関する法律（昭和23年７月20日法律第178号）に規定する休日
（３）　創立記念日（９月16日）
（４）　学祖祭（６月６日）
（５）　春季休業　２月上旬から３月31日まで
（６）　夏季休業　８月上旬から９月30日まで
（７）　冬季休業　12月下旬から翌年１月上旬まで

第４章　入学、退学、休学、除籍等

第１節　入学、留学等

（入学の時期）
第24条　入学期は、学期の初日から30日以内とする。
（入学資格）
第25条　学部第１年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
（１）　高等学校を卒業した者
（２）　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
（３）　外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
（４）　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（５）　文部科学大臣が指定した者
（６）　大学入学資格検定（平成17年１月31日規程廃止）に合格した者
（７）　高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者
（８）　その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
（入学の志願及び選考）
第26条　入学志願者は､所定の書式による入学願書を提出し､別表第１に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。
（入学の手続）
第27条　入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。
（保証人）
第28条　保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。
２　保証人は、学生の在籍期間中の本学の諸規則の遵守について責任を負う。
３　学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。
（学生証）
第29条　入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

（編入学）
第30条　学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうえ、編入学を許可することができる。
（１）　短期大学を卒業した者
（２）　大学を卒業した者
（３）　高等専門学校を卒業した者
（４）　専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者
２　編入学に関する規程は、別に定める。
（転入学）
第31条　学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうえ、転入学を認めることができる。
２　転入学に関する規程は、別に定める。
（転部・転科）
第32条　学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうえ、これを許可することができる。
２　転部・転科に関する規程は、別に定める。
（留学）
第33条　学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。
２　前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。
（二重学籍の禁止）
第34条　学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第２節　休学、退学、転学及び除籍

（休学）
第35条　引続き３カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。
２　休学は、連続する２学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、２学期を超える期間の休学を許可することができる。
３　休学の期間は、通算して８学期を超えることはできない。
４　願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。
（退学）
第36条　学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。
２　願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。
（転学）
第37条　学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。
（除籍）
第38条　次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続を経て、除籍する。
（１）　授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
（２）　第20条に規定する在学年数を超えた者
（３）　第35条第３項に規定する休学期間を超えた者
（４）　新入生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の意思がないと認められる者
（５）　出入国管理及び難民認定法（昭和26年10月４日政令第319号）に定める「留学」又は他の中長期在留資格の取得が不許可又は不交付とされた者
２　学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。

３　第１項の規定（第２号及び第３号に掲げる者を除く。）により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第５章　教育課程及び履修方法

（教育課程）

第39条　本学は、本学の目的並びに学部及び学科又は専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成する。

２　教育課程の編成に当っては、学部及び学科又は専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。

３　教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次等に配当して編成する。

４　各学部及び学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法は、各学部において学部規程に定める。

５　外国人留学生（海外帰国子女を含む。）に対しては、前項に掲げる授業科目の一部に代えて、又はこれに加えて特別の授業科目を置くことができる。

（授業の方法）

第39条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

２　前項の授業は、文部科学大臣の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　前項の授業方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

（授業の期間）

第39条の３　授業の期間は、学期ごとに15週にわたる期間並びに15週に１週を加えた16週の前半及び後半の８週にわたる期間とする。

２　授業の期間の日程は、学長が教授会の意見を聴いて定める。

３　前項の規定にかかわらず、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができる場合には、教授会の審議を経て授業の期間の日程以外の期日に授業を実施することができる。

（成績評価基準等の明示等）

第39条の４　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

２　本学は､学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては､客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行う。

（単位の授与）

第40条　授業科目を履修する場合、その授業科目の授業に出席し、かつ、試験に合格した者には、その授業科目の単位を与える。

（単位の計算方法）

第41条　授業科目の単位数は、１単位につき45時間の学修を要することを標準とし、次の基準により単位数を計算する。

（１）　講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって１単位とする。

（２）　実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって１単位とする。

（３）　１の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合は、その組合せに応じ、前２号に規定する基準を考慮して１単位の授業時間を定める。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

３　１単位の計算基礎となる授業時間については、学長が教授会の意見を聴いて定める。

（履修手続）

第42条　授業科目の履修は、各学期の所定の期日内に届け出て許可を得なければならない。

２　他の学部及び学科又は専攻の授業科目の履修については、前項の規定を準用する。

３　各学部は、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１年間又は１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を学部規程に定める。

（他の大学の授業科目の履修）
第43条　教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。
２　前項の規定により履修した授業科目の単位については、学長は教授会の意見を聴いて、60単位を限度に卒業所要単位として認めることができる。
（大学以外の教育施設等における学修）
第43条の２　教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。
２　前項により認めることができる単位数は、前条により本学において修得したものと認める単位数と合わせて、60単位を超えないものとする。
（入学前の既修得単位等の認定）
第43条の３　教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。
３　前２項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第43条第２項及び第43条の２第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて、60単位を超えないものとする。
（留学の場合の準用）
第44条　第43条第２項の規定は、学生が外国の大学に留学する場合について準用する。
（教育職員その他の資格）
第45条　学部及び学科又は専攻等において取得できる教育職員その他の資格は、各学部において学部規程に定める。
２　前項の資格取得のための授業科目及び単位数は、各学部において学部規程に定める。

第６章　試験及び成績

（試験）
第46条　試験は、筆記又は口述による。ただし、必要と認めるときは、試験に代えて論文その他の方法によることができる。
２　試験の評価点は、100点満点とし、60点以上を合格とする。
（試験の期間）
第47条　試験は、学期末又は学年末に行う。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期に行うことができる。
（受験の条件）
第48条　試験は、履修した科目でなければ受けることはできない。
２　学費等を納入しない者は、試験を受けることはできない。
３　休学又は停学の期間中は、試験を受けることはできない。
（追試験）
第49条　疾病その他のやむを得ない事情により第47条に規定する試験を受けることができない者には、追試験を行うことができる。
２　追試験を受けようとする者は、その旨の願い出をしなければならない。
（成績の表示）
第50条　試験の成績は、S（100点から90点まで）、A（89点から80点まで）、B（79点から70点まで）、C（69点から60点まで）、D（59点から40点まで）及びE（39点以下）で表示し、S、A、B及びCを合格とし、D及びEを不合格とする。
（成績の通知）
第51条　試験の成績は、学生に通知する。

第７章　卒業及び学士の学位

（卒業に必要な単位）

第52条　各学部及び学科又は専攻の卒業に必要な単位は、各学部において学部規程に定める。

（卒業の要件）

第53条　卒業の要件は、次のとおりとする。

（１）　４年以上在学すること。

（２）　各学部が定める卒業に必要な要件を充足していること。

２　前項の規定にかかわらず、３年以上在学し卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、文部科学大臣の定めるところにより、卒業させることができる。

第54条　削除

（学士の学位）

第55条　卒業した者には、その履修した課程に従い、次の各号に掲げる学士の学位を授与し、卒業証書・学位記を交付する。

（１）　文学部第１部（教育学科を除く。）・第２部（教育学科を除く。）　学士（文学）

（２）　文学部第１部教育学科・第２部教育学科　学士（教育学）

（３）　経済学部第１部・第２部　学士（経済学）

（４）　経営学部第１部・第２部　学士（経営学）

（５）　法学部第１部・第２部　学士（法学）

（６）　社会学部第１部・第２部　学士（社会学）

（７）　理工学部

ア　機械工学科　学士（理工学）

イ　生体医工学科　学士（理工学）

ウ　電気電子情報工学科　学士（理工学）

エ　応用化学科　学士（理工学）

オ　都市環境デザイン学科　学士（工学）

カ　建築学科　学士（工学）

（８）　国際学部

ア　グローバル・イノベーション学科　学士（グローバル・イノベーション学）

イ　国際地域学科　学士（国際地域学）

（９）　国際観光学部　学士（国際観光学）

(10)　生命科学部　学士（生命科学）

(11)　総合情報学部　学士（情報学）

(12)　食環境科学部

ア　食環境科学科　学士（食環境科学）

イ　健康栄養学科　学士（健康栄養学）

(13)　情報連携学部　学士（情報連携学）

(14)　福祉社会デザイン学部

ア　社会福祉学科　学士（社会福祉学）

イ　子ども支援学科　学士（子ども支援学）

ウ　人間環境デザイン学科　学士（人間環境デザイン学）

(15)　健康スポーツ科学部

ア　健康スポーツ科学科　学士（健康スポーツ科学）

イ　栄養科学科　学士（栄養科学）

第８章　賞罰及び奨学

（表彰）

第56条　学長は、人物及び学業が優秀な者、顕著な善行のあった者及び課外活動の成果が顕著な者に対し、表彰することができる。

２　表彰の種類は、次のとおりとする。

（１）　特待生　一定期間の学費の免除又は減額

（２）　優等生　賞状及び賞品の授与

（３）　その他の表彰

（懲戒）
第57条　学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。
２　退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。
（１）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
（２）　学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
（３）　正当な理由なくして出席常でない者
（４）　本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者
（奨学）
第57条の２　本学に、奨学制度を置く。
２　奨学制度に関する規程は、別に定める。

第９章　委託学生、科目等履修生及び特別聴講生

（委託学生）
第58条　国、法人その他の団体から本学での学修を委託されたときは、その者（以下「委託学生」という。）の履修を許可することができる。
２　委託学生として学修することができる者は、大学入学資格を有する者でなければならない。
３　委託学生に関する規程は、別に定める。
（科目等履修生）
第59条　特定の授業科目を履修しようとする者が願い出たときは、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。
２　科目等履修生に関する規程は、別に定める。
（特別聴講生）
第60条　他の大学（外国の大学を含む。）及び短期大学（以下「大学等」という。）の学生が、本学における授業科目の履修を願い出たときは、当該大学等との協議に基づき、特別聴講生として許可することができる。
２　特別聴講生に関する規程は、別に定める。
（委託学生及び科目等履修生に対するこの学則の準用）
第61条　この学則は、別段の定めがある場合を除き、委託学生及び科目等履修生に準用する。この場合において、学則中「学生」とあるのは、それぞれ必要に応じ、「委託学生」又は「科目等履修生」と読み替える。

第10章　外国人留学生

（外国人留学生）
第62条　外国人留学生に関する規程は、別に定める。
（外国人留学生に対するこの学則の準用）
第62条の２　この学則は、別段の定めがある場合を除き、外国人留学生に準用する。この場合において、学則中「学生」とあるのは、必要に応じ、「外国人留学生」と読み替える。

第11章　学費等

第１節　検定料及び選考料

（入学検定料等）
第63条　入学を願い出る者は、別表第１に掲げる検定料を納入しなければならない。
２　転部・転科を願い出る者は、別表第２に掲げる検定料を納入しなければならない。
（選考料）
第64条　科目等履修生となることを志願する者は、別表第４に掲げる選考料を納入しなければならない。

第２節　学費、科目等履修料等

（授業料、入学金その他の学費）
第65条　学生の学費は、入学金、授業料、一般施設設備資金、実験実習費及び教育充実費とし、その額は別表第３のとおりとする。
（学費の減免）

第66条　学長は、学業及び人物が優秀な学生に対しては、教授会の意見を聴いて、学費の一部又は全部を免除することができる。

（退学の場合の学費）

第67条　退学し、又は退学を命ぜられた学生に対しては、その学期間の授業料、一般施設設備資金、実験実習費及び教育充実費を徴収する。停学を命ぜられた場合も、同様とする。

（休学の場合の学費）

第68条　休学する学生に対しては、その休学期間中の一般施設設備資金の半額を徴収し、授業料、実験実習費及び教育充実費は徴収しない。

（委託学生及び科目等履修生の学費）

第69条　委託学生の授業料その他の学費並びに科目等履修生の授業料その他の学費及び登録料は、別表第４のとおりとする。

第３節　手数料

（手数料）

第70条　手数料の種類及び額は、別に定める。

第４節　学費の返還制限

（学費の返還制限）

第71条　納入した学費は、原則として返還しない。

第12章　正規外の講座

（公開講座）

第72条　本学は､学術文化の普及を図るため､学外者を対象とする公開講座を開講することができる。

（課外講座）

第73条　本学は、必要に応じ、特殊な知識及び技能を修得させるため、正規の講座の他に課外講座を開講することができる。

（正規外講座に関する規程）

第74条　前２条で定める講座に関する規程は、別に定める。

第13章　厚生寮、学生寮及び厚生保健施設

（厚生寮）

第75条　本学に、セミナーハウス等の厚生寮を設置する。

（学生寮）

第76条　本学に、合宿所等の学生寮を設置する。

２　学生寮は、集団生活による社会的及び規律的生活の訓練をすることを目的とする。

（医務室等）

第77条　本学に医務室等を設け、教職員及び本学学生の保健衛生に関する処置を講ずる。

（体育館及び運動場）

第78条　本学に体育館及び運動場を設け、体育の向上に資する。

（学生スポーツ協議会）

第79条　本学に、学生スポーツ奨励の推進機関として学生スポーツ協議会を置く。

第14章　補則

第80条　削除

第81条　削除

（改正）

第82条　この学則の改正は、学長が各学部教授会の意見を聴いて理事会に提案し、理事会の議を経て理事長が行う。

附　則

１　この学則は、昭和61年４月１日から施行する。

２　経過措置

（１）　第48条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

入学定員

学部	学科	第１部	第２部
文学部	哲学科	50（人）	
	印度哲学科	50	40
	中国哲学文学科	40	
	国文学科	140	100
	英米文学科	120	
	史学科	60	
	教育学科	60	50
	計	520	190
経済学部	経済学科	500	200
経営学部	経営学科	250	200
	商学科	250	
	計	500	200
法学部	法律学科	250	200
	経営法学科	250	
	計	500	200
社会学部	社会学科	150	130
	応用社会学科	250	
	計	400	130

（２） 文学部第１部、経済学部第１部、経営学部第１部、法学部第１部、社会学部第１部の総学生定員については、第48条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和63年度までは次のとおりとする。

		総学生定員		
学部	学科	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
文学部	哲学科	170	180	190
第１部	印度哲学科	155	170	185
	中国哲学文学科	130	140	150
	国文学科	470	500	530
	英米文学科	420	440	460
	史学科	180	200	220
	教育学科	195	210	225
	計	1,720	1,840	1,960
経済学部	経済学科	1,360	1,520	1,680
第１部		(1,400)	(1,600)	(1,800)
経営学部	経営学科	680	760	840
第１部		(700)	(800)	(900)
	商学科	680	760	840
		(700)	(800)	(900)
	計	1,360	1,520	1,680
		(1,400)	(1,600)	(1,800)
法学部	法律学科	850	900	950
第１部	経営法学科	850	900	950
	計	1,700	1,800	1,900
社会学部	社会学科	450	500	550
第１部	応用社会学科	850	900	950
	計	1,300	1,400	1,500

（注）（ ）内は、期間を付した入学定員を含んだ総学生定員である。

（３） 昭和60年度以前の入学生の授業料その他の学費は、第50条別表(５)の規定にかかわらず、な

お従前の例による。

附　則（昭和62年４月１日）

1　この学則は、昭和62年４月１日から実施する。

2　経過措置

工学部の総学生定員については、第48条の規定にかかわらず、昭和62年度から昭和64年度までは次のとおりとする。

		総学生定員		
学部	学科	昭和62年度	昭和63年度	昭和64年度
工学部	機械工学科	510	540	570
	電気工学科	430	460	490
	応用化学科	430	460	490
	土木工学科	420	440	460
	建築学科	430	460	490
	情報工学科	360	400	440
	計	2,580	2,760	2,940

附　則（昭和63年４月１日）

この学則は、昭和63年４月１日から実施する。

附　則（昭和63年９月26日）

1　この学則は、昭和63年９月26日から実施する。

2　経過措置

昭和63年度以前の入学生の授業料その他の学費は、第50条別表(５)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（昭和63年11月４日）

この学則は、昭和63年11月４日から実施する。

附　則（平成元年４月１日）

この学則は、平成元年４月１日から実施する。

附　則（平成元年６月22日）

この学則は、平成元年６月22日から実施する。

附　則（平成２年４月１日）

1　この学則は、平成２年４月１日から施行し、平成２年度入学生から適用する。

2　平成元年度以前の入学生については、第50条別表(５)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

ただし、一般施設設備資金については、各年度の当該額に消費税法第29条に定める税率100分の３を乗じた額を加算する。

附　則（平成２年４月１日）

この学則は、平成２年４月１日から施行する。

附　則（平成３年４月１日）

1　この学則は、平成３年４月１日から施行する。

2　東洋大学の工学部電気工学科は、改正後の学則第３条の規定にかかわらず平成３年３月31日の当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第48条の規定にかかわらず、平成３年度から平成11年度までの入学定員は、次のとおりとする。

		入学定員	
学部	学科	第１部	第２部
文学部	哲学科	60	
	印度哲学科	60	40
	中国哲学文学科	50	
	国文学科	160	100
	英米文学科	130	
	史学科	70	

	教育学科	70	50
	計	600	190
経済学部	経済学科	500	200
経営学部	経営学科	280	200
	商学科	280	
	計	560	200
法学部	法律学科	250	200
	経営法学科	250	
	計	500	200
社会学部	社会学科	190	130
	応用社会学科	310	
	計	500	130
工学部	機械工学科	170	
	電気電子工学科	150	
	応用化学科	150	
	土木工学科	130	
	建築学科	150	
	情報工学科	130	
	計	880	
	合計	3,540	920

4　高等学校の教員免許状を授与されるに必要な資格を取得しようとする者のうち「地理歴史」及び「公民」については、平成２年度入学生から適用する。

5　第６条別表(１)・(２)に定める文学部第１部印度哲学科及び教育学科の基礎教育科目、専門教育科目並びに第12条別表(４)に定める文学部第１部の印度哲学科、史学科及び教育学科の卒業に必要な履修単位については、平成２年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については、なお従前の例による。

6　第12条別表(４)に定める文学部第２部の印度哲学科、国文学科及び教育学科並びに経済学部第２部経済学科の卒業に必要な履修単位については、昭和63年度入学生から適用し、昭和62年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成３年７月１日）

1　この学則は、平成３年７月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第50条別表(５)については平成３年10月１日から施行し、平成４年度入学生から適用する。

3　平成３年度以前の入学生については、第50条別表(５)の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、一般施設設備資金については、各年度の当該額に103分の100を乗じた額とする。

附　則（平成４年４月１日）

1　この学則は、平成４年４月１日から施行する。

2　第48条の規定にかかわらず、平成４年度から平成11年度までの入学定員は、次のとおりとする。

		入学定員	
学部	学科	第１部	第２部
文学部	哲学科	60	
	印度哲学科	60	40
	中国哲学文学科	50	
	国文学科	170	100
	英米文学科	140	
	史学科	70	
	教育学科	70	50
	計	620	190

経済学部	経済学科	550	200
経営学部	経営学科	280	200
	商学科	280	
	計	560	200
法学部	法律学科	300	200
	経営法学科	300	
	計	600	200
社会学部	社会学科	190	130
	応用社会学科	200	
	社会福祉学科	110	
	計	500	130
工学部	機械工学科	170	
	電気電子工学科	150	
	応用化学科	150	
	土木工学科	130	
	建築学科	150	
	情報工学科	130	
	計	880	
	合計	3,710	920

附　則（平成５年４月１日）

この学則は、平成５年４月１日から施行する。

附　則（平成５年10月１日）

この学則は、平成５年10月１日から施行する。

附　則（平成５年11月１日）

この学則は、平成５年11月１日から施行する。

附　則（平成６年４月１日）

この学則は、平成６年４月１日から施行し、平成６年度入学生から適用する。

附　則（平成６年９月５日）

1　この学則は、平成６年９月５日から施行する。

2　平成６年度以前の入学生の授業料、入学金その他の学費については、第50条別表(５)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成７年４月１日）

1　この学則は、平成７年４月１日から施行する。

2　工学部土木工学科は、改正後の学則第３条の規定にかかわらず平成７年３月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第48条の規定にかかわらず、工学部環境建設学科における平成７年度から平成11年度までの入学定員は、130名とする。

附　則（平成８年４月１日）

1　この学則は、平成８年４月１日から施行する。

2　第39条、第45条及び第52条については、平成８年度入学生から適用し、平成７年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成９年４月１日）

この学則は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成10年４月１日）

1　この学則は、平成10年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第52条別表(１)については、平成10年度入学生から適用する。

附　則（平成10年６月１日）

この学則は、平成10年６月１日から施行する。

附　則（平成10年９月１日）

1　この学則は、平成10年９月１日から施行する。
2　平成10年度以前の入学生の授業料その他の学費については、次項に定める場合を除き、第65条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
3　平成10年度以前の入学生が、平成15年度以降において修業年限を超えて在学する場合の授業料その他の学費については、第65条の規定にかかわらず、当該年度の４年次生の例による。
4　平成10年度科目等履修生の選考料及び登録料については、第64条及び第69条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成11年４月１日）

この学則は、平成11年４月１日から施行する。

附　則（平成12年４月１日）

1　この学則は、平成12年４月１日から施行する。
2　文学部第１部国文学科及び社会学部第１部応用社会学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず平成12年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
3　第５条の規定にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		入学定員		入学定員		入学定員		入学定員	
		第１部	第２部	第１部	第２部	第１部	第２部	第１部	第２部
文学部	哲学科	54		53		52		51	
	印度哲学科	54	40	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	44		43		42		41	
	国文学科		100		100		100		100
	日本文学文化学科	242		229		216		203	
	英米文学科	128		126		124		122	
	英語コミュニケーション学科	140		130		120		110	
	史学科	114		113		112		111	
	教育学科	64	50	63	50	62	50	61	50
	（計）	840	190	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	261	200	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165		165	
	（計）	591	200	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	275	200	270	200	265	200	260	200
	商学科	275		270		265		260	
	（計）	550	200	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	295	200	290	200	285	200	280	200
	経営法学科	295		290		285		280	
	（計）	590	200	580	200	570	200	560	200
社会学部	社会学科	126	130	122	130	118	130	114	130
	社会文化システム学科	110		110		110		110	
	メディアコミュニケーション学科	122		119		116		113	

	社会心理学科	118		116		114		112	
	社会福祉学科	114		113		112		111	
	（計）	590	130	580	130	570	130	560	130
工学部	機械工学科	168		166		164		162	
	電気電子工学科	148		146		144		142	
	応用化学科	148		146		144		142	
	環境建設学科	129		128		127		126	
	建築学科	148		146		144		142	
	情報工学科	129		128		127		126	
	（計）	870		860		850		840	
国際地域学部	国際地域学科	150		150		150		150	
		２年次25		２年次25		２年次25		２年次25	
		３年次25		３年次25		３年次25		３年次25	
生命科学部	生命科学科	100		100		100		100	
〔合計〕		4,281	920	4,202	920	4,123	920	4,044	920
		２年次25		２年次25		２年次25		２年次25	
		３年次25		３年次25		３年次25		３年次25	

附　則（平成12年４月１日）

１　この学則は、平成12年４月１日から施行する。

２　第39条、第45条及び第52条については、平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成12年４月１日）

１　この学則は、平成12年４月１日から施行する。

２　第43条第２項、第43条の２第２項、第43条の３第３項及び第53条第２項については、平成12年度入学生から適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成12年７月１日）

１　この学則は、平成12年７月１日から施行し、平成13年度入学志願者から適用する。

２　平成13年４月１日以前の入学者の検定料については、なお従前の例による。

附　則（平成13年４月１日）

１　この学則は、平成13年４月１日から施行する。

２　第５条の規定にかかわらず、平成13年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		入学定員		入学定員		入学定員	
		第１部	第２部	第１部	第２部	第１部	第２部
文学部	哲学科	53		52		51	
	印度哲学科	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	43		42		41	
	国文学科		100		100		100
	日本文学文化学科	229		216		203	
	英米文学科	126		124		122	
	英語コミュニ	130		120		110	

	ケーション学科						
	史学科	113		112		111	
	教育学科	63	50	62	50	61	50
	（計）	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165	
	（計）	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	270	200	265	200	260	200
	商学科	270		265		260	
	（計）	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	265	200	260	200	255	200
	経営法学科	265		260		255	
	（計）	530	200	520	200	510	200
社会学部	社会学科	122	130	118	130	114	130
	社会文化システム学科	110		110		110	
	メディアコミュニケーション学科	119		116		113	
	社会心理学科	116		114		112	
	社会福祉学科	113		112		111	
	（計）	580	130	570	130	560	130
工学部	機械工学科	166		164		162	
	電気電子工学科	146		144		142	
	応用化学科	146		144		142	
	環境建設学科	128		127		126	
	建築学科	146		144		142	
	情報工学科	128		127		126	
	（計）	860		850		840	
国際地域学部	国際地域学科	150		150		150	
		２年次25		２年次25		２年次25	
		３年次25		３年次25		３年次25	
	国際観光学科	230		220		210	
	（計）	380		370		360	
		２年次25		２年次25		２年次25	
		３年次25		３年次25		３年次25	
生命科学部	生命科学科	100		100		100	
〔合計〕		4,382	920	4,293	920	4,204	920
		２年次25		２年次25		２年次25	
		３年次25		３年次25		３年次25	

附　則（平成13年４月１日）

1　この学則は、平成13年４月１日から施行する。
2　文学部第２部国文学科、経営学部第１部商学科及び法学部第１部経営法学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成13年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
3　第５条の規定にかかわらず、経営学部第１部マーケティング学科及び法学部第１部企業法学科の平成13年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成13年度	平成14年度	平成15年度
		入学定員	入学定員	入学定員
		第１部	第１部	第１部
経営学部	マーケティング学科	270	265	260
法学部	企業法学科	265	260	255

附　則（平成13年４月１日）

1　この学則は、平成13年４月１日から施行する。
2　第５条の規定にかかわらず、平成13年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		入学定員		入学定員		入学定員	
		第１部	第２部	第１部	第２部	第１部	第２部
文学部	哲学科	53		52		51	
	印度哲学科	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	43		42		41	
	日本文学文化学科	229	100	216	100	203	100
	英米文学科	126		124		122	
	英語コミュニケーション学科	130		120		110	
	史学科	113		112		111	
	教育学科	63	50	62	50	61	50
	（計）	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165	
	（計）	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	270	200	265	200	260	200
	マーケティング学科	270		265		260	
	（計）	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	265	200	260	200	255	200
	企業法学科	265		260		255	
	（計）	530	200	520	200	510	200
社会学部	社会学科	122	130	118	130	114	130
	社会文化システム学科	110		110		110	
	メディアコミュニケーショ	119		116		113	

	ン学科						
	社会心理学科	116		114		112	
	社会福祉学科	113	75	112	75	111	75
			３年次10		３年次10		３年次10
	（計）	580	205	570	205	560	205
			３年次10		３年次10		３年次10
工学部	機械工学科	166		164		162	
	電気電子工学科	146		144		142	
	応用化学科	146		144		142	
	環境建設学科	128		127		126	
	建築学科	146		144		142	
	情報工学科	128		127		126	
	コンピュテーショナル情報工学科	100		100		100	
	（計）	960		950		940	
国際地域学部	国際地域学科	150		150		150	
		２年次25		２年次25		２年次25	
		３年次25		３年次25		３年次25	
	国際観光学科	230		220		210	
	（計）	380		370		360	
		２年次25		２年次25		２年次25	
		３年次25		３年次25		３年次25	
生命科学部	生命科学科	100		100		100	
	〔合計〕	4,482	995	4,393	995	4,304	995
		２年次25		２年次25		２年次25	
		３年次25	３年次10	３年次25	３年次10	３年次25	３年次10

附　則（平成13年４月１日）

１　この学則は、平成13年４月１日から施行する。

２　前項の規定にかかわらず、第25条第３号、第４号、第５号、第６号、第30条第１項第４号、第43条の２第１項及び第53条第２項については、平成13年１月６日から施行する。

３　第39条、第45条第１項別表（３）の１、別表（３）の２、第３項別表（３）の４③、第４項別表（３）の５及び第52条については、平成13年度入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成14年４月１日）

１　この学則は、平成14年４月１日から施行する。

２　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、別表（３）の２、第50条については、平成14年度入学生から適用し、それ以前については、なお従前の例による。

３　前項の規定にかかわらず、第39条第１項別表（２）の社会学部第１部社会福祉学科の教育課程表については、平成13年度入学生から適用する。

附　則（平成14年７月15日）

この学則は、平成14年７月15日から施行する。

附　則（平成15年４月１日）

１　この学則は、平成15年４月１日から施行する。

２　第39条第１項別表（２）および第52条別表（１）については、平成15年度入学生から適用し、平成14

年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成15年４月１日）

この学則は、平成15年４月１日から施行する。

附　則（平成16年４月１日）

1　この学則は、平成16年４月１日から施行する。

2　東洋大学文学部第１部印度哲学科及び第２部印度哲学科は、改正後の学則の規定にかかわらず、平成16年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成16年４月１日）

1　この学則は、平成16年４月１日から施行する。ただし、第25条の規定は、平成15年12月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第39条別表（２）、第45条別表（３）の２、（３）の３、（３）の４、（３）の５、第52条別表（１）については、平成16年度入学生から適用し、平成15年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成17年４月１日）

1　この学則は、平成17年４月１日から施行する。

2　工学部電気電子工学科及びコンピュテーショナル情報工学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成17年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　改正後の第５条の規定にかかわらず、国際地域学部国際地域学科の平成17年度から平成19年度までの入学定員及び編入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成17年度	平成18年度	平成19年度
		入学定員	入学定員	入学定員
国際地域学部	国際地域学科	180	180	180
		２年次　25	２年次　0	２年次　0
		３年次　25	３年次　25	３年次　0

4　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、第４項別表（３）の５及び第52条別表（１）については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成17年４月１日）

1　この学則は、平成17年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成18年４月１日）

この学則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則（平成18年４月１日）

1　この学則は、平成18年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）及び第45条第１項別表（３）の１、別表（３）の２については、平成18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、ライフデザイン学部健康スポーツ学科の平成17年度入学生が、中学校教諭１種免許状（保健体育）及び高等学校教諭１種免許状（保健体育）を取得するために、第39条第１項別表（２）及び第45条第１項別表（３）の２の科目を履修する場合においては、この限りではない。

附　則（平成18年４月１日）

1　この学則は、平成18年４月１日から施行する。

2　平成17年度以前の入学生の学費については、第65条別表（４）の３の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、当該者が平成21年度以降において修業年限を超えて在学する場合の学費については、当該年度に在学する４年次生の学費を適用する。

附　則（平成18年４月１日）

1　この学則は、平成18年４月１日から施行する。
2　前項の規定にかかわらず、平成17年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成18年４月１日）

この学則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則（平成18年４月１日）

この学則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則（平成19年４月１日）

この学則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成19年４月１日）

1　この学則は、平成19年４月１日から施行する。
2　第39条第１項別表（２）及び第45条別表（３）の１については、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については、なお従前の例による。
3　前項の規定にかかわらず、第39条第１項別表（２）のライフデザイン学部人間環境デザイン学科の教育課程表は、平成18年度入学生から適用する。

附　則（平成20年４月１日）

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。
2　第５条、第39条第１項別表（２）、第45条別表（３）の１・２、第52条別表（１）、第55条及び第65条別表（４）の３については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成20年４月１日）

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。
2　経済学部第１部社会経済システム学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成20年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成20年４月１日）

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。
2　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、別表（３）の２及び第52条別表（１）については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成20年４月１日）

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。
2　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の２、第３項別表（３）の４及び第52条別表（１）については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成20年７月22日）

この学則は、平成20年７月22日から施行する。

附　則（平成21年４月１日）

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。
2　平成20年度以前の入学生の授業料その他の学費については、第65条別表（４）の３の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、当該者が平成24年度以降において修業年限を超えて在学する場合の学費については、当該年度に在学する４年次生の学費を適用する。

附　則（平成21年４月１日）

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。
2　工学部機械工学科、電子情報工学科、応用化学科、環境建設学科、建築学科、情報工学科、コンピュテーショナル工学科及び機能ロボティクス学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成21年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
3　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、第３項別表（３）の４、第４項別表（３）の５、第５項別表（３）の６、第６項別表（３）の７、第52条別表（１）、第55条及び第65条別表（４）の３については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成21年４月１日）

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。
2　第45条第８項別表（３）の９については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生

については、なお従前の例による。

附　則（平成21年４月１日）

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）および第45条第４項別表（３）の５については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成21年４月１日）

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第39条第１項別表（２）、第45条第７項別表（３）の８及び第52条別表（１）については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　前項の規定にかかわらず、第39条第１項別表（２）の文学部第２部教育学科教育課程表については、平成20年度入学生から適用する。

附　則（平成22年４月１日）

1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、第５条、第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、第52条別表（１）及び第65条別表（４）の３については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成22年４月１日）

1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）および第45条第１項別表（３）の１については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成22年４月１日）

1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。

2　第45条第１項別表（３）の２については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成22年４月１日）

1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成22年４月１日）

この学則は、平成22年４月１日から施行する。

附　則（平成22年４月１日）

1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）および第45条第１項別表（３）の２については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成22年４月１日）

1　この学則は、平成22年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）については、平成21年度入学生から適用する。

附　則（平成23年４月１日）

1　この学則は、平成23年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成23年４月１日）

1　この学則は、平成23年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成23年４月１日）

この学則は、平成23年４月１日から施行する。

附　則（平成23年４月１日）

この学則は、平成23年４月１日から施行する。

附　則（平成23年４月１日）

1　この学則は、平成23年４月１日から施行する。

2　第45条第１項別表（３）の２および第45条第５項別表（３）の６については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成24年４月１日）

1　この学則は、平成24年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）のうち、生命科学部各学科の教育課程表については、平成21年度以降の入学生に適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。文学部第１部、経済学部第１部、経営学部第１部、法学部第１部、社会学部第１部、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻、国際地域学部国際観光学科、文学部第２部、経済学部第２部、経営学部第２部、法学部第２部、社会学部第２部は、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。

3　第45条第２項別表（３）の３、同第３項別表（３）の４、同第４項別表（３）の５および第52条別表（１）については、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成24年４月１日）

1　この学則は、平成24年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）、第45条同第４項別表（３）の５および同第６項別表（３）の７については、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成25年４月１日）

1　この学則は、平成25年４月１日から施行する。

2　文学部第１部インド哲学科、中国哲学文学科、文学部第２部インド哲学科及び生命科学部食環境科学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成25年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第４条、第５条、第45条、第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の１、同項別表（３）の２、同第８項別表（３）の９、同第９項別表（３）の10、同第10項別表（３）の11、第52条別表（１）については、平成25年度入学生から適用し、平成24年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成25年４月１日）

1　この学則は、平成25年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）、第45条第１項別表（３）の２、同第３項別表（３）の４、同第７項別表（３）の８、第52条別表（１）については、平成25年度入学生から適用し、平成24年度以前の入学生については、なお従前の例による。第82条については、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成26年４月１日）

1　この学則は、平成26年４月１日から施行する。

2　第39条第１項別表（２）、第52条別表（１）については、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（平成26年７月１日）

この学則は、平成26年７月１日から施行する。

附　則（平成27年４月１日）

1　この学則は、平成27年４月１日から施行する。

2　第５条に定める入学定員については、平成27年度入学生から適用する。

附　則（平成27年４月１日）

この学則は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（平成27年４月１日）

この学則は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（平成28年４月１日）

1　この学則は、平成28年４月１日から施行する。

2　前項の規定にかかわらず、平成27年度以前の入学生については、改正前の学則第39条、第45条各項、第52条及び第82条の規定を適用し、改正後の学則第42条第３項は適用しない。

附　則（平成28年７月１日）

1　この学則は、平成28年７月１日から施行する。

2　平成28年度以前の入学生の学費については、第65条別表第３の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、当該者が平成32年度以降において修業年限を超えて在学する場合の学費については、当該年度に在学する４年次生の学費を適用する。

3　第68条に定める休学の場合の学費については、平成29年度の在校生から適用する。

附　則（平成29年４月１日）

1　この学則は、平成29年４月１日から施行する。

2　文学部第１部英語コミュニケーション学科、国際地域学部国際地域学科及び国際地域学部国際観光学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、平成29年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第５条に定める入学定員については、平成29年度入学生から適用する。

附　則（平成29年４月１日）

この学則は、平成29年４月１日から施行する。

附　則（平成30年４月１日学則第123号）

この学則は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成30年４月１日学則第128号）

この学則は、平成31年４月１日から施行する。

附　則（令和２年６月１日学則第72号）

この学則は、2020年６月１日から施行する。

附　則（令和３年４月１日学則第23号）

1　この学則は、2021年４月１日から施行し、2021年度入学生から適用する。

2　社会学部第１部社会文化システム学科及び社会学部第２部社会福祉学科は、改正後の第４条の規定にかかわらず、2021年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　改正後の第４条、第５条及び第65条別表第３について、2020年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（令和４年４月１日学則第31号）

1　この学則は、2022年４月１日から施行する。

2　第５条に規定する入学定員については、2022年度入学生から適用する。

附　則（令和５年４月１日学則第Ｘ号）

1　この学則は、2023年４月１日から施行し、2023年度入学生から適用する。

2　社会学部第１部社会福祉学科、ライフデザイン学部生活支援学科、健康スポーツ学科、人間環境デザイン学科、食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻は、改正後の第４条の規定にかかわらず、2023年３月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　改正後の第４条、第５条、第55条及び第65条別表第３について、2022年度以前の入学生については、なお従前の例による。

別表第１（第63条第１項関係）

入学検定料（留学生を除く。）		35,000円
入学検定料 （同一日程複数出願可能入試）	１出願 ２出願以上	35,000円 上記の金額に１出願毎20,000円を加算
入学検定料（留学生）		10,000円
入学検定料（大学入学共通テスト利用）	２出願まで ３出願以上	20,000円 上記の金額に１出願毎10,000円を加算
入学検定料（２段階選考）	第１次選考	10,000円
	第２次選考	25,000円

入学検定料（外部試験利用入試）		20,000円

別表第２（第63条第２項関係）

転部・転科検定料	10,000円

別表第３（第65条関係）

（単位　円）

学部	学科・専攻	入学金	授業料	一般施設設備資金	実験実習費	教育充実費
文学部	第１部哲学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部東洋思想文化学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部日本文学文化学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部英米文学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部史学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部教育学科人間発達専攻	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部教育学科初等教育専攻	250,000	820,000	250,000	—	—
	第１部国際文化コミュニケーション学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第２部東洋思想文化学科	180,000	430,000	100,000	—	—
	第２部日本文学文化学科	180,000	430,000	100,000	—	—
	第２部教育学科	180,000	430,000	100,000	—	—
経済学部	第１部経済学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部国際経済学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部総合政策学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第２部経済学科	180,000	430,000	100,000	—	—
経営学部	第１部経営学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部マーケティング学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第１部会計ファイナンス学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第２部経営学科	180,000	430,000	100,000	—	—
法学部	第１部法律学	250,000	710,000	220,000	—	—

	科					
	第１部企業法学科	250,000	710,000	220,000	―	―
	第２部法律学科	180,000	430,000	100,000	―	―
社会学部	第１部社会学科	250,000	710,000	220,000	―	―
	第１部国際社会学科	250,000	710,000	220,000	―	15,000
	第１部メディアコミュニケーション学科	250,000	710,000	220,000	―	10,000
	第１部社会心理学科	250,000	710,000	220,000	―	15,000
	第２部社会学科	180,000	430,000	100,000	―	―
理工学部	機械工学科	250,000	990,000	260,000	85,000	―
	生体医工学科	250,000	990,000	260,000	85,000	―
	電気電子情報工学科	250,000	990,000	260,000	85,000	―
	応用化学科	250,000	990,000	260,000	85,000	―
	都市環境デザイン学科	250,000	990,000	260,000	85,000	―
	建築学科	250,000	990,000	260,000	85,000	―
国際学部	グローバル・イノベーション学科	250,000	780,000	220,000	―	―
	国際地域学科国際地域専攻	250,000	780,000	220,000	―	―
	国際地域学科地域総合専攻	180,000	430,000	100,000	―	―
国際観光学部	国際観光学科	250,000	780,000	220,000	―	―
生命科学部	生命科学科	250,000	990,000	260,000	80,000	―
	応用生物科学科	250,000	990,000	260,000	80,000	―
総合情報学部	総合情報学科	250,000	930,000	260,000	40,000	―
食環境科学部	食環境科学科	250,000	990,000	260,000	80,000	―
	健康栄養学科	250,000	990,000	260,000	80,000	―
情報連携学部	情報連携学科	250,000	990,000	260,000	―	―
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	250,000	830,000	240,000	40,000	―
	子ども支援学科	250,000	830,000	240,000	40,000	―
	人間環境デザイン学科	250,000	890,000	300,000	100,000	―
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	250,000	870,000	300,000	80,000	―
	栄養科学科	250,000	920,000	300,000	80,000	―

別表第４（第64条及び第69条関係）

（単位　円）

委託学生	授業料（科目等履修料） 週１時限開講の半期科目１科目につき	20,000
科目等履修生	選考料	20,000
	登録料	10,000
	授業料（科目等履修料） 週１時限開講の半期科目１科目につき	20,000

設置の趣旨等を記載した書類

目次

①	設置の趣旨及び必要性	･･･p. 2
②	学部・学科等の特色	･･･p. 7
③	学部・学科等の名称及び学位の名称	･･･p. 8
④	教育課程の編成の考え方及び特色	･･･p. 9
⑤	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	･･･p. 17
⑥	実習の具体的計画	･･･p. 21
⑦	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	･･･p. 36
⑧	取得可能な資格	･･･p. 39
⑨	入学者選抜の概要	･･･p. 40
⑩	教員組織の編成の考え方及び特色	･･･p. 42
⑪	施設、設備等の整備計画	･･･p. 46
⑫	管理運営	･･･p. 50
⑬	自己点検・評価	･･･p. 51
⑭	情報の公表	･･･p. 52
⑮	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	･･･p. 54
⑯	社会的、職業的自立に関する指導等及び体制	･･･p. 55

①　設置の趣旨及び必要性

ア 設置の趣旨及び必要性

福祉社会デザイン学部は、社会学部第 1 部社会福祉学科、ライフデザイン学部生活支援学科及び人間環境デザイン学科を基礎として設置するものである。社会福祉学科での教育研究は、「社会で生きる一人ひとりの権利を守る」という視点から常に時代の要請に応え、福祉的な社会の構築と発展に貢献し、牽引するリーダーの輩出を通じて、その目的を果たしてきた。ライフデザイン学部での教育研究は、従来の社会福祉の範疇にとどまらず、様々な人間の環境下において、生涯にわたっての健康の面を視野に入れ、誰しもが快適な生活を享受しうる高次元の福祉社会の実現を目指したものであり、福祉サービスや健康増進に関する人材や、都市・建築環境、製品のデザインを行う人材の輩出を通じて、その目的を果たしてきた。この間、制度・政策にとどまらず生活やビジネスの様々な局面において福祉的なものの考え方・人間やその生活を中心に据えた考え方が浸透し、強く求められるようになっており、それらにおいて高い水準を満たした福祉社会の実現は、日本国内だけでなく広く世界で求められるところである。

広義の福祉社会に関する教育・研究を 2 拠点で相互に展開してきたことは、それぞれの地の利を生かす上では有効であったが、世界に向け、アジアのハブとして福祉社会実現の教育研究を展開、発信していくためには、一つのキャンパスにおいて一体となって推進することが強く求められるところであった。そこで令和 3 年（2021 年）4 月にライフデザイン学部が朝霞キャンパスから赤羽台キャンパスに移転のうえで、令和 5 年（2023 年）4 月に学部を改組し、社会福祉学科、子ども支援学科、人間環境デザイン学科の 3 学科を有する福祉社会デザイン学部を開設することとなった。

福祉社会デザイン学部社会福祉学科は、社会学部第 1 部社会福祉学科とライフデザイン学部生活支援学科生活支援学専攻が合併した学科であり、赤羽台キャンパスのある北区と相互に連携し、地域における様々な生活問題に対して、援助実践のミクロレベルから制度政策のマクロレベルに至る重層的な領域において対応できる産官学連携の実現を目指していく。そして、多職種と連携し、地域住民の参加を得ながらコミュニティづくりのできる質の高い福祉系専門職や既存サービスでは対応できないニーズに対応するサービス・事業を開発できる人材、更に国内ばかりではなく、アジア諸国の福祉課題にも対峙できるグローバル人材を養成する。本学科は、わが国における社会福祉学研究・教育のトップランナーとしての伝統を堅持しつつ、アジアのハブ大学を目指す大学として、学生教育及び学術研究面から現代社会が抱える生活問題の解決に向けた理論・実践を主導し、国内外の研究機関と密接に連携し、世界的な教育・研究を目指す。

福祉社会デザイン学部子ども支援学科は、ライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻が独立した学科であり、福祉と教育を基盤においたこれまでの教育を更に強化・発展させ、総合大学に位置づく保育者養成学科として新たな歩みを始めるとともに、グローバル化の進展に対応した多文化理解教育の推進、情報化の進展に対応した保育における情報機器活用力の向上を推進し、高い先進性を備えた教育を展開する。今日、少子化、貧困・虐待等、子どもの育ちや子育てを巡る状況は厳しさを増している。こうした現代的課題に対応できる保育・幼児教育・子ども家庭福祉の専門家を養成する学科として、保育・幼児教育の分野でイノベーションを起こす人材の養成を行う。また福祉社会デザイン学部を構成する他の学科の相互連携により、子どもから高齢者まで、学問を全ての人の幸福に繋げ、福祉社会を創造する人材育成を体系的に具現化する。

福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科は、ライフデザイン学部人間環境デザイン学科を改組するも

のである。現在、我々が暮らす社会は、気候変動、先進国での高齢化と少子化、新興国における人口に急増、富の集中に伴う格差社会の進行、自然災害や戦渦に伴う大都市や地方都市におけるインフラの機能不全等、様々な環境的、社会経済的課題に直面している。本学科は、これら人間を取り巻く環境を「デザイン」という視点から捉え、「デザイン」を通じて様々な課題に直面する社会改善に貢献し得る人材の育成を目的とする。我々の生活は「デザイン」という行為を通じて生み出された、都市環境、住環境、更には情報環境や製品環境によって形作られている。第 2 次世界大戦後、日本に限らず世界各国において、こうした環境の創出にあたり、「ユーザビリティ」よりも「生産者の経済性」が顕在化してきた。しかしながら、近代社会に様々な課題が噴出している現時点においては、「ユーザビリティ」を最優先事項とし、持続可能な社会を構築する必要性が生じている。そうした社会構築にあたり、「人間環境デザイン学」の果たす役割は限りなく大きい。昨今の国内および国際情勢を考慮すると、人間社会が直面する様々な困難に対し「デザイン」を通じて解決を図る人材の必要性は高まっており、本学科では、そのような人材の育成を目指す。

上記、設置趣旨のもとに福祉社会デザイン学部を設置し、共存共栄の世界の実現、SDGs への貢献を目指していく。

イ 養成する人材像、教育上の目的

福祉社会デザイン学部では、設置の趣旨及び必要性を踏まえ、①現在の社会情勢を大局的に捉え、社会に真に必要な対応を考えられると同時にその実現に向けて行動できる人材、②人間の生活や営みを理解すると同時に多様な価値を受容し、社会の多様性の実現に貢献できる人材、③学びに立脚したプロフェッションを構築すると同時に、他分野とのコミュニケーション・協働に優れた能力が発揮できる人材、④イノベーティブな視点を持ち、新たな価値の創造に貢献できる人材、⑤グローバル化が進行する時代において、国際性への理解を持つ人材の育成を目的とする。各学科の養成する人材像、教育上の目的は以下のとおりである。

（1）社会福祉学科の養成する人材像、教育の目的

社会福祉学科の人材の養成に関する目的は、以下のとおりである。

(1)社会福祉学を基礎とし、誰でもその人らしく生活できる共生社会実現に貢献すると共に、国内外の様々な課題に対峙できるグローバルな人材を養成する。
(2)加速する少子高齢化、グローバル化など、社会経済の構造変化に対応する政策・制度、支援技術や福祉ビジネス等を研究し、国内外の幅広い分野において活躍し、それぞれの分野において指導的立場を担える人材を養成する。
(3)新たな事業やサービスを展開できる知性と行動力を担える人材の養成をする。

社会福祉学科の学生に修得させるべき能力は、以下のとおりである。

(1)個人の尊厳を重視し支援する能力
(2)生活問題を発見し、社会化・普遍化する能力
(3)社会資源を調整・開発する能力
(4)社会福祉の運営に貢献する能力
(5)権利を擁護する能力
(6)グローバル化を推進できる能力

社会福祉学科の卒業の認定及び学位授与に関する方針は、以下のとおりである。

社会福祉学科は、地域共生社会実現の観点から、様々な生活問題を解決しコミュニティづくりを主導する福祉系専門職や国内外の多種多様な課題に対峙できる人材を育成するという教育目標のもとに、以下の能力を習得し、かつ必要な在籍年数および履修単位数を満たした者に対し学位を授与する。

(1)知識・理解

相談やケアを必要とする人々の支援、コミュニティづくり、社会資源の調整・開発などの社会福祉学に関する体系的知識を修得している。

(2)思考・判断

様々な生活問題への鋭敏な感受性と深い洞察力を有し、課題解決に向けた支援の方策を検討することができる。

(3)関心・意欲

少子高齢化やグローバル化により複雑化する社会構造の中で、リーダーシップをとる自覚を持ち、課題の解決に積極的に取り組む意欲を有している。

(4)態度

ソーシャルワークの根源的思想に基づいて、人権と個人の尊厳を守る倫理観を有し、自らが立てた課題に向けて努力することができる。

(5)技能・表現

多様な社会問題の解決に資する論理的思考力と、グローバル社会で協働していくことのできるコミュニケーション能力を有している。

卒業後に想定される進路は、社会福祉協議会や社会福祉施設、医療機関や介護施設、福祉事務所などをはじめ、福祉関連産業、住宅メーカー、サービス業など高齢社会への対応を迫られている企業やＮＰＯ、ＮＧＯなど各種団体、国際団体、官公庁、大学院進学等が挙げられる。

（２）子ども支援学科の養成する人材像、教育の目的

子ども支援学科の人材の養成に関する目的は、以下のとおりである。

(1)専門的知識と技術を備えた専門職（保育士・幼稚園教諭・社会福祉士等）養成を柱としながら、より広い視野から国内外のさまざまな現場における施策、あらゆる環境のもとでの子ども支援や子ども福祉の行動計画の策定・実行・評価ができる人材を養成する。

(2)国連・持続可能な開発目標（SDGs）を見据え、地球規模の視野と豊かな国際感覚を持ち、多文化共生社会の実現に向け活躍できる子ども支援のプロフェッショナルを養成する。

(3)総合大学の強みを生かして多様な学問領域を横断的に学び、さらに地域に暮らす人々のQOL向上を視野におき、多くの機関と連携・協働しながら、社会のさまざまな領域で子どもや子育てを支援する人材を養成する。

(4)保育・幼児教育・子ども家庭福祉領域でICTを活用しながら、子育て課題に対応できる人材養成保育・幼児教育・子ども家庭福祉の実践の評価や家庭とのコミュニケーションの発展につながるICTの活用の推進を通じて、現場でリーダーシップを発揮できる人材を養成する。

子ども支援学科の学生に修得させるべき能力は、以下のとおりである。

(1)子どもの健やかな育ちを支え、保護者・地域と協働し、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士としての専門知識・技術を生かして社会に貢献する力
(2)多文化共生の意義を理解し、グローバルな視点を持ちながら地域社会で主体的に活動できるリーダーシップ性を発揮し、多様な背景を持つ子どもや家族への支援を推進する力
(3)保育・幼児教育・子ども家庭福祉などのさまざまな知見を活用・統合し、他者と協働して子ども・家族の課題解決に向けて取り組む力
(4)ICTを活用しながら保育・幼児教育・子ども家庭福祉に関する情報を共有・管理・分析し、質の向上や子育て支援に生かす力

子ども支援学科の卒業の認定及び学位授与に関する方針は、以下のとおりである。

子ども支援学科は、子どもと保護者を支援するための専門的知識や技術の習得を基本として、グローバルな視点を持ちながら地域社会の保育・幼児教育・子ども家庭福祉をリードしていく力の習得、合わせて多文化共生保育・教育に関わる理解と実践力、保育等の質向上に向けた情報機器活用能力の習得を教育目標として、以下の能力を習得し、かつ必要な在籍年数および履修単位数を満たした者に対し、学位を授与する。

(1)知識・理解
保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学に関する基礎的知識を体系的に習得していること。

(2)問題解決能力・協同性
保育・幼児教育・子ども家庭福祉の課題に対する科学的探究心を持ち、他者と協同しながら主体的に問題を解決する能力を身につけていること。

(3)子どもの人権、主体性
子どもの人権や主体性を尊重し、多様な育ちや幸福を支えていくための倫理観を基盤とした保育・教育を行う姿勢と技能を身につけていること。

(4)多文化共生理解
多様な価値観や文化への関わりを通して、ローカル及びグローバルな視点から保育・幼児教育・子ども家庭福祉における多文化共生の意義や方法を理解していること。

(5)ＩＣＴ活用能力
保育・幼児教育・子ども家庭福祉の質の向上に向け、ＩＣＴを活用して情報を共有、管理、分析する能力を身につけていること。

(6)幅広い教養
多角的な視野から幅広い教養を身につけ、さまざまな知見を活用・統合する能力を身につけていること。

卒業後に想定される進路は、資格を生かした幼稚園、保育所、認定子ども園、児童福祉施設、児童相談所、社会福祉協議会等の支援施設に進むほか、子ども関連産業や官公庁、大学院進等が挙げられる。

（３）人間環境デザイン学科の養成する人材像、教育の目的

人間環境デザイン学科の人材の養成に関する目的は、以下のとおりである。

(1)建築設計や商品開発・デザインに関する高い技能を有し、社会の要請に応じる都市・建築環境、製品の開発提案が行える人材、デザイン行為を通じて新たなイノベーションを創生し社会をリードする人材を養成する。特に、デザイン提案・商品開発の場面において、ユニバーサルデザインやユーザビリティの視点を備えていることで、独自性および質の高い提案ができる人材の養成に重点を置く。
(2)実務業務における広報、企画、営業などにおいて、デザインあるいはユーザビリティの知識を活かしながら、所属する組織・団体・企業などのイノベーション、顧客へのサービス向上に貢献できる人材を養成する。特に、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を発揮しながら、オリジナリティの高い業務展開・貢献が図れる人材の養成に重点を置く。
(3)デザインに関する技能・知識を活かしながら、多領域の人材との連携により、新たなビジネスを創成する起業家を養成する。特に、福祉、健康増進、情報などの領域の人材との連携により、例えば、福祉施設の ICT 化に伴うサービス向上、大規模集合住宅地におけるパーソナルモビリティのサービス事業など、新たなビジネスを展開できる人材の養成に重点を置く。

人間環境デザイン学科の学生に修得させるべき能力は、以下のとおりである。

(1)一人の人間から社会全体までの広い視野を持ち、デザインの第一線で活躍できる能力
(2)デザインという世界の広がりと可能性に対して深い理解と造詣を持ち、デザインと社会とを繋ぐ役割を担う能力
(3)高齢者や子ども、障害のある人など多様な状況の人々の特性や暮らしを理解すると同時に尊重し、さらに豊かな生活の実現にむけて、本学科で学んだ広い視野・技術を活用しながら、様々な領域で活躍できる能力
(4)デザインを通じて社会のイノベーションに貢献できる能力

人間環境デザイン学科の卒業の認定及び学位授与に関する方針は、以下のとおりである。

人間環境デザイン学科は、身の回りの製品のデザインから、私たちの暮らしの基盤となるまちづくりまでの幅広い分野を対象に、本学科で得た知識や能力を生かして、私たちを取り巻く環境をより良いものに変えていくという意欲を持った、以下の能力を習得し、かつ必要な在籍年数および履修単位数を満たした者に対し、学位を授与する。

(1)知識の修得
デザインや構想に関する広範かつ専門的な知識を修得した学生。
(2)デザインに関わる技術の修得
デザインや構想を表現する具体的な技術や方法を修得した学生。
(3)発想力の獲得
デザインや構想に関する着想を発見し、それを形にする能力を獲得した学生。
(4)コミュニケーション能力の修得
デザインや構想を検討する際に他者と議論を交わしたり、あるいは自分のデザイン（や構想）を伝えるためのコミュニケーション能力を修得した学生。
(5)表現力の獲得
デザインや構想を精度の高い作品として表現したり、プレゼンテーションする能力を獲得した学生。

(6)哲学の確立
社会情勢や地球環境を理解し、デザイナーとしての哲学をもって社会と関わる能力を獲得した学生。

卒業後に想定される進路は、ユニバーサルデザインの知識を生かした進路となり、具体的には、建設会社、設計事務所、都市計画事務所等、まちづくりに関する仕事や、ハウジングメーカー、家具メーカー、住宅設備メーカー、福祉機器メーカー等のデザイン部門のほか、広告・Webデザイン事務所、CG事務所、企業の商品企画部門、観光、サービス業、大学院進学等が挙げられる。

ウ 中心的な学問分野

社会福祉学科については、社会福祉、介護福祉、精神保健福祉、医療福祉等の臨床分野、それらの基盤となる理論・歴史により構築される社会福祉学分野の 2 つの学問分野が中心となる。

子ども支援学科については、保育学・幼児教育学・社会福祉学分野における子ども家庭福祉学分野の 3 つの学問分野が中心となる。

人間環境デザイン学科については、建築都市分野、工学分野、プロダクトデザイン分野、人間中心設計分野、表現分野の 5 つの学問分野が中心となる。

② 学部・学科等の特色

福祉社会デザイン学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」に示す「大学の機能別分化」のうち、「幅広い職業人養成」、「社会貢献機能（地域貢献、産官学連携、国際交流等)」、「世界的研究・教育拠点」の 3 項目を重点的に担っていく。

（1）幅広い職業人養成

福祉社会デザイン学部は、「福祉」をキーワードに、子ども、高齢者・障がい者等を含んだ地域福祉からまちづくり、健康まで幅広いアプローチから支援ができる職業人の育成を目指す。ローカルな視座と実践力を養うための各種実習科目やインターンシップ、専門職養成に係る資格関連科目をバランス良く配置し、総合的な福祉教育を積極的に推進する。更に平成 19（2007）年度に学術研究高度化推進事業（現・戦略的研究基盤形成支援事業）の選定を受けて同年 10 月に発足した「福祉社会開発研究センター」を本学部でも発展的に継承する等して、学部から大学院博士後期課程までの一体的な教育・研究を展開していくことで、実践教育のうえに現場レベルの改善・革新を牽引できる人材の輩出も目指していく。

（2）社会貢献機能（地域貢献、産官学連携、国際交流等）

福祉社会デザイン学部は、幅広いアプローチから地域や産業界と積極的に連携を図り、教育・研究を展開していく。

学部所在地の東京都北区は高齢化率が高く、外国人居住者も多いことから、福祉ニーズの高い地域である。東京都北区と本学は、平成 23 年（2011 年）6 月に「東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する包括協定書」を、平成 29 年（2017 年）4 月の赤羽台キャンパス開設を機として同年 3 月には「東京都北区と学校法人東洋大学との新たな連携施策に関する覚書」を、その後、平成 31 年（2019 年）2 月に改めて「東京都北区と学校法人東洋大学との包括協定推進に関する覚書」を締結し、教育・研究に関わる連携事

業や社会貢献・社会連携事業の推進に向け連携を深めている（資料１　東京都北区と学校法人東洋大学の協定書、覚書)。また独立行政法人都市再生機構（UR 都市機構）とは、平成 31 年（2019 年）2 月に「学校法人東洋大学と独立行政法人都市再生機構との連携協力に関する包括協定書」を締結し、地域の活性化、住民福祉の向上、人材育成及び学術発展の寄与を目指し連携協力を図っている（資料２　学校法人東洋大学と独立行政法人都市再生機構の協定書)。これらを更に推進し、子ども、高齢者・障がい者を含んだ地域福祉から製品・住まい・公共空間・まちづくりまで、「福祉」をキーワードに幅広い連携活動を通じて社会貢献に寄与していく。

（３）世界的研究・教育拠点

福祉社会デザイン学部では、グローバル人財の育成、研究教育成果の海外への発信にも取り組んでいく。

本学が採択された文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援 タイプ B（グローバル化牽引型）（構想名：TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して（平成 26（2014）年度～令和 5（2023）年度)」の事業を契機としたグローバル人財の育成に寄与するとともに、人材育成だけでなく、「福祉」や「デザイン」の領域における研究教育の成果を国内に留まらず世界に向け、とりわけアジアに向けて強く発信し、「アジアのハブ大学」としての存在感を高めていく。そのためには従来からある専門職等の職業人の育成に加え、起業家の育成、イノベーションを起こせる人材の養成が必要であり、産官学連携教育、インターンシップ、サービス・ラーニング、実習・演習、卒業論文･卒業制作等を通じて実践力を磨いていく。（資料３　学校法人東洋大学 中期計画　概要図・トピックス）

③　学部・学科等の名称及び学位の名称

人々の生活に貢献する福祉社会の実現に向け、誰しもが快適な生活を享受しうる高次元の福祉社会の実現を目指す教育研究の展開を目指し、学部名を「福祉社会デザイン学部」とし、「社会福祉学科」「子ども支援学科」「人間環境デザイン学科」の3学科体制とする。

社会福祉学科は、社会福祉学を基礎とし、社会福祉学に関する体系的知識を修得し、地域共生社会実現の観点から、様々な生活問題を解決しコミュニティづくりを主導する福祉系専門職や国内外の多種多様な課題に対峙できる人材等の養成を目指していることから、学科名称を「社会福祉学科」とし、学位に付記する専攻分野の名称を「学士（社会福祉学）」とする。

子ども支援学科は、保育・幼児教育・子ども家庭福祉の専門家を養成する学科として、保育・幼児教育の分野でイノベーションを起こす人材の養成を目指していることから、学科名称を「子ども支援学科」とし、学位に付記する専攻分野の名称を「学士（子ども支援学)」とする。

人間環境デザイン学科は、人間を取り巻く環境をデザインという視点で捉え、デザインを通じて様々な課題に直面する社会改善に貢献し得る人材の育成を目指していることから、学科名称を「人間環境デザイン学科」とし、学位に付記する専攻分野の名称を「学士（人間環境デザイン）」とする。

学部・学科の名称及び学位に付記する専攻分野の名称の英語表記は、以下のとおりとする。

学部学科の名称

福祉社会デザイン学部（Faculty of Design for Welfare Society）

社会福祉学科（Department of Social Welfare Studies）

子ども支援学科（Department of Child Studies）
人間環境デザイン学科（Department of Human Environment Design）

学位に付記する専攻分野の名称
学士（社会福祉学）（Bachelor of Social Welfare）
学士（子ども支援学）（Bachelor of Child Studies）
学士（人間環境デザイン学）（Bachelor of Human Environment Design）

④　教育課程の編成の考え方及び特色

ア 教育課程編成の基本方針

福祉社会デザイン学部の教育課程は、以下の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）によって編成される。

「教育目標」、「卒業認定及び学位授与に関する方針」を踏まえて、専門的な知識及び技術を修得するための教育を行い、正課内及び正課外授業において、学士及び社会人として修得すべき能力を培うことも目指し、教育課程表を編成する。

Ⅰ．教育課程編成の体系化

(1)基礎的な学力と豊かな教養の修得を目的とした基盤教育科目を配置する。

(2)創立者井上円了の精神を理解するため、基盤教育科目の「哲学・思想」区分の1科目を必修とする。

(3)各専門分野の知識を幅広く修得すると同時に高い専門性を獲得するため、各学科における特色を生かした専門コースを設定する。

(4)実社会での実践力を養うため、諸資格取得に対応した教育課程の編成及び実践的な科目を配置する。

(5)教育内容において、実社会における実践的対応力が求められる学科においては実習科目を、技術や表現手法の修得が必要な学科においては演習科目を適宜配置する。

(6)グローバル人材育成のため、基盤教育科目に「国際人の形成」分野を配置し、語学や海外研修、留学生対象の科目を配置する。

Ⅱ．教育方法、教育充実の取組

(1)学部・学科の専門領域の学修を教員と学生が一体となって行い、その成果を積極的に地域や社会に還元する。

(2)アクティブラーニング等参加・問題解決型授業を展開し、学生の自主性や創造性を培う教育を展開する。

(3)各学科の専門領域の学修と共に、他学科の教育内容への理解を持ち、広い視野と高い見識を有することのできる教育を目指す。

(4)実習・演習を踏まえた、資格養成などを視野に入れた実践的な教育を展開する。

(5)より質の高いキャリア構築を目指し、実務者の教育への参画やインターンシップの導入等、実社会と直結した教育手法を積極的に導入する。

学部のカリキュラムポリシーを基本とした各学科の教育課程の編成の考え方及び特色は以下のとおりである。

（１）社会福祉学科の教育課程編成の基本方針

社会福祉学科では、地域共生社会の実現に貢献するという教育目標およびディプロマ・ポリシーに求める学修成果の修得を実現するため、以下の方針でカリキュラム（教育課程）を編成する。

(1)社会福祉学、ソーシャルワーク、ケアワーク等の学問領域を主軸に置き、専門性を高めるよう**「福祉制度政策系」「福祉社会開発系」「福祉臨床系」**といった3つの系（コース）を編成し、基盤教育の履修により、地域共生社会の実現に関連する幅広い知識を修得することができるよう編成する。

(2)外国語コミュニケーション能力の習得を目指し、英語については英語習熟度別クラスを編成し英語コミュニケーション能力の養成を目指すだけでなく、アカデミックスキル育成のための英語選択科目を配置し、英語による専門教育を実施する。

(3)1年次よりゼミナール科目を配置し、学問分野における基礎的な学習方法を理解させるとともに、2年次には、3つの系を設定し、更には3年次以降では、各系をそれぞれの分野に分けて、理論的、実践的課題について発展的な学修ができるように科目を配置する。

(4)「洞察力」「実践力」といった現場実践能力を高度に修得するよう、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得や医療福祉へ対応する科目を、学生の興味関心に応じて複数資格の履修も可能となるように配置する。

(5)自らの問題意識で物事を解明する力を身につけるために、「卒業論文」の執筆を推奨する。

（２）子ども支援学科の教育課程編成の基本方針

(1)基礎的な学力と豊かな教養を身につけるための基盤教育科目を配置する。

(2)さまざまな子どもや保護者を支援する力を備えるための専門科目を配置する。保育士・幼稚園教諭の資格取得に必要な専門科目を配置する。保育士・幼稚園教諭の資格取得に必要な専門科目を必修・選択として設定し、学びの系統性に配慮しながら順次履修できるよう配置する。

(3)諸資格取得のための学外実習は、実習毎に事前・事後学習を徹底し、専門科目との関連に配慮して教育課程を編成する。

(4)子ども支援学科に関連する今日的課題を主体的に見出し、問題解決能力の育成を図るために1年次から4年次のゼミナール配置を行う。

(5)幼稚園教諭一種免許・保育士資格取得のみならず、社会福祉士受験資格取得が可能なカリキュラムを編成し、高度なソーシャルワーク技能を併せ持つ人材育成をはかる。

(6)グローバルに活躍できる人材を育成するために語学・文化教育にも力を入れ、海外研修に関する科目を設定する。

(7)多文化共生社会を実現する力を持った人材養成を目指し、1年次から継続的なカリキュラムを編成する。

(8)保育・幼児教育・子ども家庭福祉の分野におけるＩＣＴ活用能力の習得を目指し、実践的な学びを実現する科目配置を行う。

（３）人間環境デザイン学科の教育課程編成の基本方針

人間環境デザイン学科では4年間を通して以下の3点を重視したカリキュラム構成する。

1．デザイン演習を主軸とした基礎の徹底から専門への展開

2．モノとコトのデザインスキルの修得

3．理論（講義）と実践（演習）を関連付けた学修内容の深化

各学年での学修段階については以下のように設定する。

(1)1年次は、モノとコトのデザインをするために必要となる基礎知識・スキルを、講義・演習を通じて徹底して学ぶ。

(2)2年次は、講義を通じてより幅広いデザイン対象（プロダクト、生活支援機器から建築・都市まで）の基礎知識を深めると共に、1年次に学んだデザインの基礎スキルをもとにしたデザイン手法を修得する。

(3)3年次以降は、より専門的な知識と実践的な技術を学ぶ。学生の希望を尊重しつつ、設定された3つのコース、**空間デザインコース(※1)、生活環境デザインコース(※2)、プロダクトデザインコース(※3)**の各分野で、より高度なデザイン表現と、その背後にある理念や知識について学ぶ。

(4)3年生秋学期からプレゼミに所属し、4年生春学期から研究室に配属することで、さらに高度なレベルの学びを深める。

(※1)**空間デザインコース**：建築やまちという視点で人間環境を考えるコースである。建築意匠、建築計画、建築構法など建物のデザイン、さらには都市計画、まちづくり、バリアフリーなど、人々を取り巻くすべての生活空間にまで視野を広げて、豊かな暮らしの環境を考えていく。

(※2)**生活環境デザインコース**：さまざまな人の暮らしという視点で考えるコースである。住居学、福祉住環境計画、子ども環境、障害のある方のための道具のデザインなど、利用者の参加による使い手の顔が見える人間中心設計や、ユニバーサルデザインによる、生活者の視点に立ったデザインを学ぶ。

(※3)**プロダクトデザインコース**：製品や情報という視点で人間環境を考えるコースである。製品のデザイン、情報デザイン、メカトロニクスなど広い分野にわたって、「モノ」や「コト」のデザインから人々の暮らしを考えていく。

イ 教育課程および科目区分の編成

福祉社会デザイン学部の教育課程は「基盤教育科目」、「専門教育科目」の2層に区分される。

基盤教育科目は、「哲学・思想科目」「学問の基礎科目（人文科学、社会科学、自然科学）」「国際人の形成科目（世界の伝統と文化、グローバル社会の実際、語学）」「キャリア・市民形成科目（キャリア、市民形成、情報）」「健康・スポーツ科学科目」「総合・学際科目」の6区分で構成され、専門教育科目は、「学科専門科目」「教職科目」で構成される。各区分の理念と構成に関して以下に記す。

（１）基盤教育科目の教育課程及び科目区分の構成

一般教養教育として編成する基盤教育は、幅広く質の高い教養教育を目指して全学共通の枠組みで編成されており、学部構成等を考慮して必要な科目を配置することとされている。本学部では、3学科共通の理念で科目を構成し、各区分の必要単位数は学科ごとに設定する。

１）哲学・思想科目

哲学を礎とする本学の建学の精神や教育理念等に基づき、諸学の基礎である哲学や倫理等を学ぶものである。

２）学問の基礎科目

人文・社会・自然科学の様々な領域の学問の基礎を概説的に学ぶものである。

３）国際人の形成科目

スーパーグローバル大学に採択されたグローバル人材の育成を目指す本学の教育方針に沿って、語学力やコミュニケーション能力を養うものである。語学に加え、日本及び外国の諸地域の現状や歴史、文化、あるいは国際関係を学ぶとともに、短期海外研修等を通じ国際感覚を養う。

４）キャリア・市民形成科目

キャリア教育を重視する本学の教育方針に沿って、現代社会の一員として生きていく際に必要なマインドセットや情報、専門的・実践的な活動を行うための基礎的能力を養うものである。法律、環境、情報、生活、会計等に関する科目が含まれる。

５）健康・スポーツ科学科目

健康・スポーツ活動の基礎的な知識や能力を養うものである。

６）総合・学際科目

分野を超えた最新の技術動向や研究成果等多様かつ学際的なテーマを学び、対話を通してその知識や技能を応用して発展的・創造的に思考・発想する力を養成するものである。

福祉社会デザイン学部では、以上の各区分の中から以下の単位数を修得することとし、これらを含み基盤教育科目で合計18単位以上を修得することとしている。

＜社会福祉学科＞

・哲学・思想科目	2単位以上
・国際人の形成（語学科目）	8単位
・キャリア・市民形成（情報科目）	4単位以上

※外国人留学生入試入学者は、上記のほか「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修6単位

＜子ども支援学科＞

・哲学・思想科目	2単位以上
・国際人の形成（語学科目）	8単位
・キャリア・市民形成（キャリア科目）	2単位以上
・キャリア・市民形成（市民形成科目）	2単位以上
・キャリア・市民形成（情報科目）	2単位以上

※外国人留学生入試入学者は、上記のほか「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修6単位

＜人間環境デザイン学科＞

・哲学・思想科目	2単位以上
・国際人の形成（語学科目）	8単位
・キャリア・市民形成（キャリア科目）	2単位以上
・キャリア・市民形成（市民形成科目）	2単位以上
・キャリア・市民形成（情報科目）	4単位以上

※外国人留学生入試入学者は、上記のほか「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修6単位

（２）専門教育科目の教育課程及び科目区分の構成

専門教育は、「学科専門科目」の区分を基本とし、教育職員を養成する子ども支援学科及び人間環境デザイン学科はこの区分に加えて「教職科目」の区分を設ける。各学科で扱う専門領域を中心に科目を構成し、各学科で取得可能な資格に関連する科目も配置している。講義・演習・実習をバランス良く配置することで、理論から実践までを満遍なく学ぶことができる構成としている。

１）社会福祉学科の学科専門科目（資料4-1　カリキュラムマップ）

社会福祉学科の専門科目は、初年度に社会福祉分野が伝統的に重視してきた人間尊重や社会正義等の価値を学び、個人と個人を取り巻く環境に存在するあらゆる要素（対人関係、社会資源としての制度・政策、組織の構造と応答性、時間・空間の変化が個人に及ぼす影響）とその相互作用が生活問題や課題にどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。また様々な実証データを読み解き、その結果を社会福祉実践や制度・政策の変革や創出に応用する能力を養うために、社会福祉の原理と政策や社会福祉発達史、ソーシャルワーク基盤と専門職等の社会福祉学の基礎理論全般を学ぶ本学科の学生は、上記の社会福祉学の基礎理論を学んだ後に、アドミッションポリシーで掲げた目標を達成すべく、国際貢献や価値・倫理・人権・司法について、また福祉の対象やソーシャルワーク・ソーシャルケア、メディカルとメンタルヘルス、地域を基盤とした福祉等の「社会福祉学の展開方法」について学ぶ。

2年次以降では、資格取得を主軸とした科目を学ぶ**「福祉臨床系」**や、利用者の権利擁護、他国への教育システムの伝播・普及、政策・資源開発、国際協力によるサービス開発等の観点から社会福祉の価値・知識・技術を学ぶ**「福祉制度政策系」**、**「福祉社会開発系」**の3つの系を配置している。**「福祉臨床系」**は、社会福祉士や精神保健福祉士、介護福祉士等の専門職が対応する臨床的支援の実際と、その支援を支える哲学、思想、価値、倫理についての理解を深めるコースである。3資格に必要な専門科目が配置され、個人と社会及びその相互作用を理解するための理論だけではなく、理論を実践に応用するためのソーシャルワーク実習、介護福祉実習、地域医療福祉専門実習等の実習科目も配置している。**「福祉制度政策系」**は、内外の社会福祉の理論、政策、歴史を踏まえつつ、欧米の住宅、雇用、教育等とも関連する社会サービスの概念や広義の社会福祉に係る諸課題について、ジェンダー、アドミニストレーション、価値と倫理等の多様な視座から深めるコースであり、これらを学ぶ科目群を配置している。貧困、失業、自殺、いじめ等の人々の生活問題を引き起こすと考えられる社会の仕組み（組織構造、行政施策、文化等）に関心のある学生のために、社会保障制度や保健医療制度、施設史、公務員とは何かを学ぶ科目を配置している。**「福祉社会開発系」**では、制度化された福祉サービスを提供するだけでは解消できないニーズや新たな生活課題、SDGsを含む国際福祉等、国内外の多様な領域で新たなサービスを構想・開発することや、産官学の連携や関連分野を含む新たなビジネスモデルを構築することについて理解を深めるコースであり、これらを学ぶ科目群を配置している。新たなニーズに見合う社会資源の開発や、そのために専門職に求められる行動と戦略、また社会福祉施設や機関の運営の手法を学びたい学生のための福祉ICTやソーシャルアクション論、福祉組織のサービスと運営、地域福祉と包括的支援体制等の科目を配置している。このように**「福祉制度政策系」**や**「福祉社会開発系」**では、一般企業や行政機関への就職や、起業を志す学生のための専門科目を充実させている。

本学科では、社会福祉学の基礎から応用に至るまで、ミクロ・メゾ・マクロレベルの多層的な視点から、社会的事象や利用者の生活問題・課題を査定し、問題解決を側面的に支援する学術的・実践的な専門職者、自分で考え行動できる社会人の養成を目指す。また1年次から20名程度のゼミナールに所属することによ

り、グループ・ダイナミクスを援用しながら、本学科内で修得した価値・知識・技術を現実社会の事象に応用し、問題解決を図るための批判的思考の涵養や、他者と協働し時には交渉する能力の伸展を図る。

上記の教育課程編成のもと、必修科目を 11 科目 22 単位、選択必修科目を 4 科目中 2 科目 4 単位、選択科目を 125 科目中 44 単位、計 70 単位以上の学科専門科目を修得することとし、国内外を問わず生活上の困難を抱え現時点では自力で問題解決することが難しい人々の well-being の向上を目指し、個人を変容させるだけではなく、彼らを取り巻く環境上の障壁を取り除き、変化させるための価値・知識・技術を学術的にも実践的にも学び、社会福祉学の基礎から応用に至るまで、ミクロ・メゾ・マクロレベルの多層的な視点から、社会的事象や利用者の生活問題・課題を査定し、問題解決を側面的に支援する学術的・実践的な専門職者、自分で考え行動できる社会人の養成を目指していく。

２）子ども支援学科の学科専門科目（資料4-2　カリキュラムマップ）

子ども支援学科の専門科目は、主に幼稚園教諭一種免許状、保育士国家資格、そして社会福祉士国家試験受験資格の 3 つの資格取得に必要な科目群から構成される。また本学科独自の科目を必修科目及び選択必修科目として配置している。

必修科目は、13 科目 18 単位を修得することとしている。1 年次春学期に配置する「子ども支援学概論」で子ども支援学に関する導入教育を実施するとともに、4 年間の学びを軌道に乗せるための専任教員による小グループでの指導を実施する。1 年次秋学期から 2 年次秋学期に配置する「子ども支援学演習Ⅰ・ⅡＡ・ⅡＢ」により子ども支援学研究の基礎をアクティブラーニング形式（中グループ（20～25 名））で学ぶとともに、外部講師による講話を通してキャリア教育や保育現場等における参与観察等を行う。3 年次春学期から 4 年次秋学期に配置する「子ども支援学演習ⅢＡ・ⅢＢ・ⅣＡ・ⅣＢ」で子ども支援学の学びを深化させ、保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学の専門家である専門教員の元「卒業論文」もしくは「卒業制作」を行う。そのほか、子ども支援学の基礎となる「教育基礎論」、「教育制度論」、「発達心理学」、「幼児教育論」や、本学科の特色のひとつである多文化共生保育・教育の基礎を学ぶ「多文化共生保育・教育」を配置する。これらを本学科の必修科目とする。

選択必修科目は、前述の「卒業論文」「卒業制作」のほかに、「ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）」もしくは「子どもソーシャルワーク」のどちらかを修得することとしている。なお「ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）」は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であり、多くの学生は「子どもソーシャルワーク」を選択する。「子どもソーシャルワーク」は、子どものケアワークのみならず、子どもと保護者のソーシャルワークを学び、より実践的な子ども家庭支援ができる専門家を養成するために配置された科目であり、本学科の特色といえる。

選択科目は、95 科目配置し、47 単位以上を修得することとしている。中でも「子育て支援実践」、「多文化共生保育・教育実践」、「国際児童福祉」、「生活と総合学習」、「国語表現法」、「子どもと文学」、「子どもの権利と教育」、「海外保育フィールドワーク」、「教育と福祉」、「保育音楽表現技術Ⅱ」は本学科の特色といえる。「子育て支援実践」、「多文化共生保育・教育実践」は、学内の保育実習室を活用し地域の子どもと保護者向けに「子育てひろば」を運営する等の方法で、地域子育て支援の実践的な学習をする科目である。「子育て支援実践」は、一般家庭の子どもと保護者を、「多文化共生保育・教育実践」は、様々な文化背景を持つ子どもと保護者を対象としている。「国際児童福祉」は、諸外国あるいは国境を越えて起きている児童福祉問題、そして日本における多文化背景を持つ児童の福祉問題を学ぶ科目である。「海外保育フィールドワーク」は、主にスウェーデンを渡航先として、福祉国家として著名である北欧の保育、幼児教育、子育て支援について現地でのフィールドワークを通じて学ぶ科目である。

３）人間環境デザイン学科の学科専門科目（資料4-3　カリキュラムマップ）

人間環境デザイン学科の専門科目は、必修科目と選択科目で構成され、必修科目は本学科の基幹科目としてデザインの演習を中心に 8 科目 20 単位を修得することとしている。まず 1 年次の導入教育として、人間環境デザイン学やユニバーサルデザインの概論の授業で人間環境学の基礎を学ぶ。同時に 1 年次の基礎演習やＣＡＤ演習、2 年次の基礎演習・総合演習においてデザインの基礎を学び、実際に手を動かしながらデザインを行うことでデザインの基本的スキルを習得する。3 年次からは学生を 3 つのコースに分け、より高度な知識・技術の修得を目指した専門教育・職業人養成を行う。そのため各コースで演習科目を用意し、それぞれのコースに特化した演習を行う。引き続き 4 年次では同様にコース毎に演習科目を置くことによって、デザインの企画・構想から基本設計の流れを実践的に学ぶ。同時に高度なデザイン表現、それらの背後にある理念や知識について学ぶ。その後、卒業研究において、4 年間の集大成として論文執筆もしくは作品制作を行う。これらを本学科の必修科目とする。

選択科目は、75 科目配置し、43 単位以上修得することとしている。大きく分けると『学科の内容を総合的に学ぶ科目（以下「総合的科目」）』と『コースの専門知識を学ぶ科目（以下「専門的科目」)』に分かれており、1 年次から 4 年次に至るに従って内容は高度化していく。

まず『総合的科目』では、1 年次に「製品と情報のＵＤ」、「材料・素材一般」、「色彩論」、「都市・まちのデザイン」、「道具の歴史」、「建築生産」、「発達と障害」等、2 年次に「マーケティング」、「デザイン思考法」、「インテリアデザイン」、「生活空間計画」、「デザイン工学基礎」、「人間工学」、「構造力学」等、3 年次と 4 年次に「建築とまちの UD」、「認知科学」、「安全工学」、「調査分析のデザイン」、「デザイン特別講義」、「情報メディアデザイン」、「グラフィックデザイン論」等を学ぶ。

『専門的科目』では、1 年次に「建築歴史意匠Ａ」（空間デザイン分野科目）、「生活支援デザイン概論」（生活環境デザイン分野科目）、「プロダクトデザイン基礎」（プロダクトデザイン分野科目）等で各分野の基本事項を学ぶ。2 年次に「建築歴史意匠Ｂ」、「まちづくり」、「環境計画」、「環境デザイン論」、「建築・都市法規」（以上、空間デザイン分野科目）、「福祉デザイン工学概論」、「住居計画」（以上、生活環境デザイン分野科目）、「ヒューマンインターフェース」、「デザイン工学応用」、「コンピュータ・グラフィックス」、「情報デザインⅠ」（以上、プロダクトデザイン分野科目）でより具体的事項を扱い、学びを深めていく。3 年次と 4 年次に「建築空間構成論」、「建築設計論」、「都市計画論」、「構法計画」、「構法計画演習」、「設備計画」「材料力学」（以上、空間デザイン分野科目）、「福祉デザイン工学各論」、「医療福祉建築計画」、「福祉住環境コーディネート論」、「リハビリテーション工学」、「支援技術とデザイン」、「ランドスケープデザイン」（以上、生活環境デザイン分野科目）、「産業とプロダクトデザイン」、「プロダクトデザインⅠ・Ⅱ」、「情報デザインⅡ」、「メカトロニクス・デザイン」、「表現手法」（以上、プロダクトデザイン分野科目）で実際のデザイン・設計の実務家や関連業務を行う者として不可欠な知識を学ぶ。

４）教職科目

教育職員になるための知識・技術を養うことに特化した科目であり、教職課程を有する子ども支援学科及び人間環境デザイン学科で開講する。子ども支援学科では幼稚園教諭一種免許状、人間環境デザイン学科では高等学校教諭一種免許状（工芸）（工業）に必要な科目を教職課程認定基準に準じて配置する。

ウ 教育課程の特色

各学科における教育課程の特色は、以下のとおりである。

（1）社会福祉学科の教育課程の特色

社会福祉学科の教育課程の特色は、以下 6 点である。

1 点目は、初年次において社会福祉学の概論から現代の社会問題とその構造、社会福祉の歴史、理論、思想・哲学、社会福祉の国際比較、我が国の福祉関連施策等まで、社会福祉学の基本的知識の習得を徹底する点である。

2 点目は、2 年次から社会福祉学、ソーシャルワーク、ケアワーク等の学問領域を主軸に置き、専門性を高めるよう**「福祉制度政策系」「福祉社会開発系」「福祉臨床系」**の 3 つの系（コース）のいずれかに属して幅広い知識を体系的に修得する点である。

3 点目は、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の単独及び複数の国家資格取得を支える総合福祉カリキュラムを展開する点である。実践的実習プログラムとして「地域医療福祉専門実習Ⅰ・Ⅱ」を 4 年次に置いている点も特色といえる。

4 点目は、少子高齢化の急速な進行や、子どもの貧困や成人の引きこもり等多様な生活問題への対応や、国際的にも SDGs への対応等、個々人の生活課題に対応する学びを導けるよう多様な科目を配置し、資格養成にとどまらない幅広い教養と様々な生活問題を分析し課題解決に向けた支援や方策を検討する思考・判断力の涵養できるようなカリキュラムを展開する点である。

5 点目は、東京都北区を中心としたフィールドワークを実践する点である。地域における生活課題の理解と、そこに関わる各種の社会資源や基礎自治体の役割など、生活者に対応するミクロレベルから、制度政策のマクロレベルに至る各々の領域の視座と問題意識を育み、社会福祉学の学びに対する動機を高める。

6 点目は、グローバル人材育成のための専門教育を実施する点である。英語コミュニケーション能力養成のための英語習熟度別のクラス編成、アカデミックスキル育成のための英語選択科目配置、更にはグローバル化する現代社会の諸課題を体系的かつ多元的に理解するための韓国、フィリピン、タイ等の語学研修・海外フィールドワークや、多様な国際専門科目等を配置することで、異文化・多文化共生への理解及び異文化コミュニケーション能力の向上のみならず、各国の社会福祉実践とその課題を通してグローバルな市民意識への気づきと専門的な学習への意欲向上も期待される。

（2）子ども支援学科の教育課程の特色

子ども支援学科の教育課程の特色は、以下 3 点である。

1 点目は、**「保育学」、「幼児教育学」、「社会福祉学（子ども家庭福祉学）」**を中心に構成し、この 3 つの学問領域を相互に関連させ、相乗的に子ども支援学を学ぶ点である。幼稚園教諭一種免許状、保育士資格と社会福祉士国家試験受験資格の 3 資格を卒業時に併せて取得できる大学は全国的にも極めて少ない。その特質を生かして保育学、幼児教育学とともに社会福祉学を大きな柱とするカリキュラムを構築している。

2 点目は、グローバル化の進展に対応する多文化共生教育・保育及びインクルーシブ教育・保育の推進するため、語学教育の充実、多文化保育・教育実践に関する学習に力を入れ、海外研修に関する科目を取り入れた教育課程を編成している点である。

3 点目は、更なる情報化時代に対応する保育現場での ICT 活用力向上を推進するため、ICT 端末や保育業務支援システムを活用した保育記録の方法を理解するための科目を取り入れた教育課程を編成している点である。

（3）人間環境デザイン学科の教育課程の特色

人間環境デザイン学科の教育課程の特色は以下の 3 点である。

1点目は、デザイン演習を主軸として基礎の徹底から専門へ展開する点である。3年次で学生を**「空間デザインコース」「生活環境デザインコース」「プロダクトデザインコース」**の3コースに分けてより専門的な教育を行うが、それ以前の1・2年次は、3コースに共通して必要な事項だけでなく、3コースそれぞれの分野における基礎的事項を全員が学ぶカリキュラムとしている。また、講義科目は3年次以降でも3コースの授業を自由に履修できるようにしている。各分野の専門知識を深めると同時に、横断的な知識と能力を備えた人材育成を目指す。

2点目は、モノとコトのデザインスキルを修得する点である。デザイン・設計は、モノ（色や形・機能・空間構成・使い勝手等）と、コト（誰のため・何のため・モノによってどのように生活が変わるか等）の両面を考えて最終的な建築や道具や製品を作り上げていくものである。「モノのデザイン」と「コトのデザイン」の両面を理論教育と実践教育に組み入れた教育を行うことにより、学生自身の適性をより具体的に把握しキャリアデザインに結び付ける。

3点目は、理論（講義）と実践（演習）を関連付けた学修内容の深化を図る点である。その総括として4年次に卒業研究を位置づける。卒業研究では、学科の学びに関連する社会課題への貢献を研究目的として設定し、フィールド調査等を通じてその解明に努める。また、卒業制作ではこれまで学んだ「プロダクトデザイン」、「空間デザイン」、「生活環境デザイン」の知識をベースとして自身がデザインを提案し、制作した作品を通してデザインが社会環境にもたらす新しい価値や可能性についての深い考察に結び付ける。

⑤　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

ア 教育方法

集中的に学習しより高い学習効果をあげるために、1学年2学期とするセメスター制とし、学期ごとに学習成果を評価する。授業科目は、知識や学問分野の理念等の教授を目的とする「講義科目」、フィールド活動や調査の発表、討論の反復等を重んじ学生自身の参加を求めるために少人数で行う「演習科目」、各種資格やデザイン・設計等における技術の習得に繋げる「演習科目」、各種資格に係る実習や海外実習、インターンシップ、スポーツ実技等の「実習科目」で構成されており、分野ごとの教育効果を考慮して多様な教育方法で編成している。また各科目の配当学年は、基礎教育や専門教育として学年ごとに基礎から高度かつ専門的な内容へと段階を追って配当する。各学科の教育方法の特徴は以下のとおりである。

（1）社会福祉学科

社会福祉学科は、1年次必修科目で現代社会において社会福祉が必要とされる場面や社会的背景、本学科の「系」に該当する社会福祉学の各学習領域とその学習内容を理解するとともに、社会福祉の原理をめぐる思想･哲学と理論､歴史的社会的形成体としての社会福祉の全体像について理解を深めるための教育を行う。そしてソーシャルワークの目的や役割、専門職の機能と範囲、支援における概念・理念・倫理も教授していく。これらを通して2年次以降に発展的に学修を進めるための基礎固めと学修意欲の向上を図る。そのほか社会福祉学の基盤となる科目を配置し､2年次以降の学修に備える。2年次には**3つの系（福祉制度政策系、福祉社会開発系、福祉臨床系）**に分かれ、現代社会の諸問題を理解するための学問分野ごとの視点や分析方法を教授していく。なお、社会福祉国際体験プログラム等による異文化・多文化共生への理解や異文化コミュニケーション能力の向上、更には各国の社会福祉実践とその課題を通じたグローバルな市民意識への気づきや専門的な学修への意欲醸成も図っていく。また各学年に必修科目として配置されるゼミナールは、1年

次にフィールドワークの意義や実践的課題を見出す視座、アカデミックスキルの基礎の習得を、2 年次に論理的思考力、表現力、構成能力、発表能力等の獲得を図り、3・4 年次に各系における専門性や学際的課題の深化を図る。そして自主的に選んだテーマに沿って行った研究成果を卒業論文（4 年次選択科目）として作成し、4 年間の学修の集大成とする。なお、卒業論文の単位は、論文作成に必要な学修や、研究指導等を考慮して単位が設定され、成果物としての論文及び口頭試問の審査によって認定される。（詳細は、前述の「④教育課程の編成の考え方及び特色」を参照）

履修モデルは、資格取得パターンに対応したモデルであり、希望資格に合わせて科目や配当学年を組んでいるものである。各自が自身の志向や特性に応じて比重の置き方を変え履修科目を組み立てていくことで、卒業後のキャリアプランに応じた学びを目指す（資料 5-1　履修モデル）。

（2）子ども支援学科

子ども支援学科は、幼稚園教諭 1 種免許状、保育士資格、社会福祉士国家試験受験資格のための学内指導と現場配属実習を繰り返すことによって「往還型学習」を展開していく。併せてグローバル化の進展に対応する多文化共生教育・保育及びインクルーシブ教育・保育、情報化時代に対応する保育現場の ICT 活用力向上を目指した教育も展開していく。1 年次から子ども支援学や保育士・幼稚園教諭 1 種免許状取得のための基礎学習、グループでのアクティブラーニング等を取り入れた導入教育を行い、社会福祉士国家資格受験希望者も選抜していく（10 名を予定）。2 年次からは各資格のための学外実習を始動させ 3 年次には更に実習を重ねることで学びを深化させるとともに、卒業論文及び卒業制作に向けた準備やキャリア形成を進めていく。そして 4 年次には卒業論文もしくは卒業制作で 4 年間の学びの総括を行うとともに、保育士・幼稚園教諭の双方の学びの総括を行う。なお、卒業論文または卒業制作の単位は、論文作成または制作に必要な学修や、研究または論文・制作のための指導等を考慮して単位が設定され、成果物としての論文あるいは制作物の審査によって認定される。（詳細は、前述の「④教育課程の編成の考え方及び特色」を参照）

履修モデルは、資格取得パターンに対応したモデルであり、希望資格に合わせて科目や配当学年を組んでいるものである。各自が自身の志向や特性に応じて比重の置き方を変え履修科目を組み立てていくことで、卒業後のキャリアプランに応じた履修を目指す（資料 5-2　履修モデル）。

（3）人間環境デザイン学科

人間環境デザイン学科は、講義科目においてまず、空間・生活環境・プロダクトの 3 つの分野で扱うモノとコトの広がりを把握し、3 つの分野に共通して必要なユニバーサルデザインの基本的考え方を学び、社会で必要とされるデザインへの意識の醸成を図るため、これらに関する科目を必修科目とする。そして選択科目において、建築からまちづくりを扱う**「空間デザイン分野」**、人間中心の視点によるデザインを扱う**「生活環境デザイン分野」**、製品デザインを扱う**「プロダクトデザイン分野」**、3 つの分野にまたがる「共通分野」に関する教育を行う。なお「空間デザイン分野」の科目は、一級・二級建築士の受験資格と密接に関連していることから、そのための指導にも繋げていく。次に演習科目であるが、これらは本学科の基幹となる科目と位置づけ、殆どを必修科目としており、演習課題は全て、問題解決型のアクティブラーニングの手法を用いる。ある設計条件に対して多方面から検討を行い、ひとつの設計案をまとめていく作業を繰り返し、デザイン手法を体得していく。作業は主として実験工房・制作工房にて行い（1 年次は普通教室を使用）、学生一人ひとりに用意された作業机で行う。教員が机間巡視することによって学生への綿密な個人指導を行う。更に全体に対してレクチャーを行う実験空間や、専門的な作業を行うための専用機器を備えた木工・金工・塗装・計測等の各工房が備えられており、学年が上がるにつれ、専用機器を用いた作品制作が行われる。1 年次には

ものづくりの基本的スキルとして、設計製図、設計と加工、平面・立体表現の基本的技能を学ぶとともに、CAD ソフトを用いた設計製図法を学ぶ。2 年次には住宅の設計、改修設計、住宅で用いる製品のデザインを行い、その上で 3 年次の 3 つのコースの内容を見据えた専門的な課題にシフトしていくとともに、更に高度な設計製図法を学んでいく。その後 3・4 年次に、それぞれのコースに特化した演習を行い、4 年次では全員が卒業研究に取り組み、4 年間の集大成として卒業論文または卒業制作を完成させる。なお、卒業制作の単位は、制作や制作のための指導等を考慮して単位が設定され、成果物としての作品の審査によって認定される。（詳細は、前述の「④教育課程の編成の考え方及び特色」を参照）

履修モデルは、3 つのコースに対応したモデルであり、希望資格に合わせて科目や配当学年を組んでいるものである。各自が自身の志向や特性に応じて比重の置き方を変え履修科目を組み立てていくことで、卒業後のキャリアプランに応じた履修を目指す（資料 5-3　履修モデル）。

受講者数は、各教室の規模や学習効果、指導の円滑さを鑑みながら適正規模で設定し、聴講数が定員以上となった場合には履修希望学生の選抜や授業クラスを増加させる等、適正な授業定員の維持に努める。諸資格養成を柱とした学部につき時間割が過密なことから、空き時限に特定学科の履修者が集中することが予想されるため、それに対応できるよう開講する曜日時限にも十分に配慮し、学生の履修機会が確保されるようにする。また ICT システムによる資料の提示、課題や練習問題の出題、あるいは電子コミュニティ上での意見交換等、アクティブラーニングを推進するとともに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策の経験で培った非対面授業やハイブリット授業を弾力的に導入する等、教育の質の担保を前提に様々な教育機会を提供できるよう検討することにより、大学施設の有効活用や学生の教育機会の向上に繋げていく。

これらの方針を踏まえ、講義形式の授業は100名～200名程度、演習形式（語学・コミュニケーション系）の授業は30名程度、演習形式（情報処理系）の授業は60名程度、演習形式（学科専門領域）及び実習形式の授業は20～50名程度を受講者数の目安とする。なお、英語で実施する学科専門科目は、よりインタラクティブなアプローチが求められることから20～30人程度を適正規模とし、全学の基準や各資格養成の基準に従って受講人数等を管理していく。

イ 履修指導方法

まず、入学に際しては、全学的規模で学部ごとに実施される新入生教育の枠の中で、履修・登録方法や図書館の利用法等、学生生活の基本についてのガイダンスを行う。学科ガイダンスにおいては、教育課程の構成、科目選択、授業の履修方法について、履修モデルを示して説明する。資格取得のための学修に関する注意点等についても説明し、初年次から学生自身に学修計画を立てさせる。

また、1 単位あたりの学修時間の確保と4 年間を通じたバランスのとれた学修の観点から、各学期（セメスター）の履修の上限を「24 単位」と定めている。各学科いずれも学年担当もしくはゼミ担当教員を配置し、学生の履修指導に努めている。

年に2 回、各学期の初頭には、前年度の単位取得状況の芳しくない学生について、「単位僅少者面接」を行い、学修や生活に関して学生が抱える問題を早期に把握し、適切に指導を行う。また、各教員はオフィス・アワーを設定して指導にあたるとともに、ICTを利用して学生とのコミュニケーションを図る。学生にはリマインダ機能の設定を勧め、伝達事項の確実化を図る。

更に、定期的に（1 カ月に2 回程度～毎週）学科会議を開き、学科の運営や学生の指導に関する情報を共有し、統一した見解をもって指導に臨むことができるようにする。また、全学、学部の委員会と連携しながら大学の運営にあたる。

ウ 卒業要件

（1）社会福祉学科

社会福祉学科は、地域共生社会実現の観点から、様々な生活問題を解決しコミュニティづくりを主導する福祉系専門職や国内外の多種多様な課題に対峙できる人材を育成するという教育目標のもとに、ディプロマ・ポリシーに揚げた能力を習得し、かつ必要な在籍年数および履修単位数を満たした者に対し、「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

卒業要件を成す履修単位数は以下のとおりである。

1）卒業要件となる科目で124 単位以上を修得すること。

2）「基盤教育科目」について

・全体で18 単位以上修得すること。
・「哲学・思想科目」から2 単位以上修得すること。
・「国際人の形成（語学科目）」から8 単位修得すること。
・「キャリア・市民形成（情報科目）」から4単位修得すること。
・外国人留学生入試入学者は、上記のほかに「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修6単位を修得すること。

3）「専門教育科目」について

・全体で70単位以上修得すること。
・「学科専門科目」の「必修科目」を22単位修得すること。
・「学科専門科目」の「選択必修科目」を4単位修得すること。
・「学科専門科目」の「選択科目」を44単位以上修得すること。

（2）子ども支援学科

子ども支援学科では、子どもと保護者を支援するための専門的知識や技術の習得を基本として、グローバルな視点を持ちながら地域社会の保育・幼児教育・子ども家庭福祉をリードしていく力の習得、合わせて多文化共生保育・教育に関わる理解と実践力、保育等の質向上に向けた情報機器活用能力の習得を教育目標として、ディプロマ・ポリシーに揚げた能力を習得し、かつ必要な在籍年数および履修単位数を満たした者に対し、「学士（子ども支援学）」の学位を授与する。

卒業要件を成す具体的な履修単位数は、以下のとおりである。

1）卒業要件となる科目で124 単位以上を修得すること。

2）「基盤教育科目」について

・全体で18 単位以上修得すること。
・「哲学・思想科目」から2 単位以上修得すること。
・「国際人の形成（語学科目）」から8 単位修得すること。
・「キャリア・市民形成（キャリア科目）」から2単位以上、「キャリア・市民形成（市民形成科目）」から2単位以上、「キャリア・市民形成（情報科目）」から2単位以上修得すること。
・外国人留学生入試入学者は、上記のほかに「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修6単位を修得すること。

３）「専門教育科目」について

・ 全体で69単位以上修得すること。
・「学科専門科目」の「必修科目」を18単位修得すること。
・「学科専門科目」の「選択必修科目」を4単位修得すること。
・「学科専門科目」の「選択科目」を47単位以上修得すること。

（３）人間環境デザイン学科

人間環境デザイン学科では、身の回りの製品のデザインから、暮らしの基盤となるまちづくりまでの幅広い分野を対象に、本学科で得た知識や能力を生かして、私たちを取り巻く環境をより良いものに変えていくという意欲を持ち、ディプロマ・ポリシーに揚げた能力を習得し、かつ必要な在籍年数および履修単位数を満たした者に対し、「学士（人間環境デザイン学）」の学位を授与する。

卒業要件を成す具体的な履修単位数は、以下のとおりである

１）卒業要件となる科目で124 単位以上を修得すること。

２）「基盤教育科目」について

・全体で18 単位以上修得すること。
・「哲学・思想科目」から2 単位以上修得すること。
・「国際人の形成（語学科目）」から8 単位修得すること。
・「キャリア・市民形成（キャリア科目）」から2単位以上、「キャリア・市民形成（市民形成科目）」から2単位以上、「キャリア・市民形成（情報科目）」から4単位以上修得すること。
・外国人留学生入試入学者は、上記のほかに「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修6単位を修得すること。

３）「専門教育科目」について

・ 全体で73単位以上修得すること。
・「学科専門科目」の「必修科目」を20単位修得すること。
・「学科専門科目」の「選択必修科目」を10単位修得すること。
・「学科専門科目」の「選択科目」を43単位以上修得すること。

⑥ 実習の具体的計画

社会福祉学科では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士取得のための資格養成課程を、子ども支援学科では、保育士、幼稚園教諭一種免許状、社会福祉士取得のための資格養成課程を、人間環境デザイン学科では、高等学校教諭一種免許状（工業）、高等学校教諭一種免許状（工芸）取得のための資格養成課程を設置し、各資格の養成課程で「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習（精神）」、「介護福祉実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「保育実習ⅠA（施設）・ⅠB（保育所）・Ⅱ（保育所）・Ⅲ（施設）」、「教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）（幼稚園）」、「教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）（高等学校）」の学外実習を行う。加えて社会福祉学科では、資格養成科目以外の実習として「地域医療福祉専門実習Ⅰ・Ⅱ」の学外実習も行う。これらについて具体的計画を以下に記す。

（1）ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ（社会福祉士養成課程）

ア 実習の目的（ソーシャルワーク実習）

2年次配当の「ソーシャルワーク実習Ⅰ」では、実習先の地域、援助機関、実習施設・機関内外の専門職、利用者等の関係者との関りで実践を見学し、実習生がソーシャルワークに関する更なる学びへの動機づけを持つことを目的とする。また3年次配当の「ソーシャルワーク実習Ⅱ」では、実習生が相談援助の知識と技術について、具体的かつ実際的に理解して実践的な技術を体得することを目的とする。

イ 実習先の確保の状況（ソーシャルワーク実習）

実習先は、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、放課後等デイサービス、社会福祉協議会等となる。学部所在地の東京都や埼玉県を中心に134か所の施設等から実習受入れの承諾を得ており、社会福祉士養成定員160名の実習先は確保できている（資料6-1　社会福祉士 実習先一覧、社会福祉士 実習受入承諾書）。

ウ 実習先との契約内容（ソーシャルワーク実習）

実習を依頼する施設及び事業所について、教員による見学および実習指導者との事前打ち合わせを行い、実習の目的や学生への指導方法の確認等を行った後、安全かつ円滑な実習実施に向けて、実習先施設・機関と実習に関する基本的な事項（実習施設の諸規則の遵守、実習委託料、損害負担、秘密保持義務、安全管理体制の整備等）を掲載した契約書を事前に取り交わす。また個人情報保護について、実習中に知り得た利用者情報が法的な守秘義務にあたることを踏まえて、実習生に対する指導を徹底する。

エ 実習水準の確保の方策（ソーシャルワーク実習）

事前の実習指導科目において、実習生自ら実習先施設・機関のありようを調査することによって、実習施設・機関の理解を促すと同時に、実習の目的や学ぶべきことを教授し、実習生が実習の目的に沿った実習計画を作成できるように指導する。同時に、教員と実習先施設・機関の実習受入担当者間において実習の目的を共有することで、実習施設・機関に対して目的に沿った実習の実施を促す。また帰校日及び巡回指導等において、実習内容が目的達成に資するかを確認し、適宜必要な対応をとる。

オ 実習先との連絡体制（ソーシャルワーク実習）

法令に即し、教員による巡回指導を実習期間中に1回以上行う。巡回指導を行わなかった週は、帰校日を設けて教員による指導を行う。以上により、実習期間中1週間に1回以上の教員による指導の場を確保する。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策、保険等の加入状況）（ソーシャルワーク実習）

実習施設・機関の指示に応じて、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・その他の感染症に関する抗原・抗体検査及び必要に応じた予防接種を行うものとする。新型コロナウイルス感染症防止対策を以下のとおり徹底する。

1. 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインを作成し、実習手引きに掲載する。
2. 実習準備授業時に、感染予防教育を行い、個人防護具（ガウン・手袋・マスク・フェイ　スシールド等）の取り扱い方法を説明し、学生に必要物品を配布してそれを実習先に持参させる。
3. 学生に対し、体温管理表などによる健康チェックを実習開始 2 週間前から実習中、更に実習終了 2 週後まで義務づけるとともに、「3 密」の回避行動とアルバイト・サークル活動を自粛するよう注意喚起する。
4. 実習科目を修得する全学生対象の「学生教育研究災害傷害保険」に加え、大学が窓口となって新型コロナウイルス感染症をカバーする民間損害補償保険を契約し、実習を行う学生に任意加入を推奨する。

キ 事前・事後における指導計画（ソーシャルワーク実習）

事前指導では、実習オリエンテーション・実習の意義及び目的の説明・実習計画書の作成指導を行う。
事後指導では、実習体験の共有及び反省、経験した内容の深化のための指導を行う。
なお、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」に関しては、実習報告書の作成及び実習報告会及びその準備も行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画（ソーシャルワーク実習）

社会福祉士における巡回指導が可能な教員（助教（実習担当）を含む）を複数名配置し、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」に関わる実習先 1 か所につき、実習期間中に最低 1 回巡回する。その他、これらの教員が上記オで述べた基準によって帰校日指導を行う。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（ソーシャルワーク実習）

実習先施設・機関に実習を依頼する際、毎年社会福祉士実習指導者講習会を終了した教員を確認し、社会福祉士実習指導者 1 人あたり 5 名以内（一期間内）の実習生の受入れを依頼する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（ソーシャルワーク実習）

実習先施設・機関から提出された評価票及び、実習生から提出される実習日誌・実習記録の内容を基に、教員によって組織される実習員会において各実習生の成績が検討され、その結果をもとに科目担当者が成績評価を行う。

サ その他特記事項（ソーシャルワーク実習）

特になし

（2）ソーシャルワーク実習（精神）（精神保健福祉士養成課程）

ア 実習の目的（ソーシャルワーク実習（精神））

「ソーシャルワーク実習（精神)」を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき、精神保健福祉現場での試行と省察の反復を行い、実践的な技術等を体得する。具体的には①精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題を持つ人々のおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題について実習先において調査し具体的に把握するとともに、②実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

イ 実習先の確保の状況（ソーシャルワーク実習（精神））

「ソーシャルワーク実習（精神)」の実習先は、医療機関、就労継続支援事業所等となる。学部所在地の東京都や埼玉県を中心に23か所から承諾を得ており、精神保健福祉士養成定員40名の実習先は確保できている（資料6-2　精神保健福祉士 実習先一覧、精神保健福祉士 実習受入承諾書)。

ウ 実習先との契約内容（ソーシャルワーク実習（精神））

実習を依頼する施設及び事業所について、教員による見学および実習指導者との事前打ち合わせを行い、実習の目的や学生への指導方法の確認等を行った後、安全かつ円滑な実習実施に向けて、実習先施設・機関と実習に関する基本的な事項（実習施設の諸規則の遵守、実習委託料、損害負担、秘密保持義務、安全管理体制の整備等）を掲載した契約書を事前に取り交わす。

エ 実習水準の確保の方策（ソーシャルワーク実習（精神））

実習指導者との会合を年１回企画し意見交換をするとともに、実習巡回時に実習内容を確認調整しながら、実習の質が担保できるようモニタリングする。また実習に赴いた学生からのフィードバックも確認しながら必要な調整を行い、実習の水準を確保する。

オ 実習先との連絡体制（ソーシャルワーク実習（精神））

精神科医療機関、地域福祉事業所ともに実習中に１回教員による巡回を実施している。また帰校日を設定し実習生のスーパーヴァイスを行うことで、必要な連絡調整を行う。帰校日は実習中に１回、実施する。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策、保険等の加入状況）（ソーシャルワーク実習（精神））

実習施設・機関の指示に応じて、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・その他の感染症に関する抗原・抗体検査及び必要に応じた予防接種を行うものとする。新型コロナウイルス感染症防止対策を以下のとおり徹底する。

1.「実習指導Ⅱ」の実習準備授業時に、感染予防教育を実施する。
2. 健康管理表を実習開始２週間前～実習中～実習後２週間、学生各自が記入を行っている。実習前・実習中のアルバイト等に関して注意喚起する。
3. 全学生対象の「学生教育研究災害傷害保険」に加入する。新型コロナウイルス感染症をカバーする保険「Will」に大学が窓口になり契約し、実習を行う学生に任意加入を推奨する。

キ 事前・事後における指導計画（ソーシャルワーク実習（精神））

「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神)」にて精神保健医療福祉現場で実習を行うことの意義を確認する。「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神)」では精神科医療・地域の精神保健福祉事業者の具体的な実習地の特性と各自の関心に従った形で実習計画を作成する。「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神)」では実習の中で得られた経験や技術・葛藤等についての振り返りを行い、精神保健福祉士としての能力を涵養していく。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画（ソーシャルワーク実習（精神））

「ソーシャルワーク実習（精神)」の指導を行う専任教員５名（うち１名は助教（実習担当))を配置する。巡回指導については各専任教員が直接巡回を行う体制を組む。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（ソーシャルワーク実習（精神））

『精神保健福祉士実習指導者講習会』を受講した指導者が配置された実習施設に、実習生を派遣する。なお、実習指導者については実習施設に年度毎に確認を行う。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（ソーシャルワーク実習（精神））

実習生は「ソーシャルワーク実習（精神)」終了後に所定の報告書を提出する。報告書は、実習指導者の評価と合わせて、精神保健福祉士として必要な資質、基本的な知識・技能について理解・習得できていることを基準として教員が採点し、条件を満たした者に単位を付与する。

サ その他特記事項（ソーシャルワーク実習（精神））

特になし

（3）介護福祉実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（介護福祉士養成課程）

ア 実習の目的（介護福祉実習）

介護福祉実習では、介護や社会福祉分野の支援を必要とする人びとの個々の生活状況や個別性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関・インフォーマルサポート等との連携を通じて、介護福祉士の役割を理解し、知識・技術を習得することを目的とする。併せて、利用者のニーズをアセスメントし、それに応じた利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を通じて、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につけることを目的とし、1 年次から 4 年次までの各学年で実習を行う。

1 年次の「介護福祉実習Ⅰ」は、地域における様々な場において、利用者（主に高齢者）の生活を理解し、その本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力の習得を目的とする。

2 年次の「介護福祉実習Ⅱ」は、利用者本人（主に高齢者）の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程（高齢者分野）を実践する能力の習得を目的とする。

3 年次の「介護福祉実習Ⅲ」は、障害児・者の施設等で行われている介護を理解し、権利擁護、自立支援の観点から介護を捉えていく能力の習得と、それを活かした介護過程（障害者分野）を実践する能力の習得を目的とする。

4年次の「介護福祉実習Ⅳ」は、居宅生活をしている利用者（高齢者・障害者）の生活の特性を理解するとともに、その支援にあたる訪問介護（居宅介護等）のサービス提供の特性を理解し、居宅における介護やそれと協働するケアマネジメント、更に多職種連携によるサービス提供のあり方について理解することを目的とする。

イ 実習先の確保の状況（介護福祉実習）

「介護福祉実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の実習先は、小規模多機能型居宅介護事業所、認知症対応型共同生活介護事業所（認知症高齢者グループホーム)、通所介護（デイサービス)、特別養護老人ホーム、障害者支援施設、訪問介護事業所等となる。学部所在地の東京都や埼玉県を中心に51施設より承諾を得ており、介護福祉士養成定員40名の実習先は確保できている（資料6-3　介護福祉士 実習先一覧、介護福祉士 実習受入承諾書)。

ウ 実習先との契約内容（介護福祉実習）

実習を依頼する施設及び事業所について、教員による見学および実習指導者との事前打ち合わせを行い、実習の目的や学生への指導方法の確認等を行った後、安全かつ円滑な実習実施に向けて、実習先施設・機関と実習に関する基本的な事項（実習施設の諸規則の遵守、実習委託料、損害負担、秘密保持義務、安全管理体制の整備等）を掲載した契約書を事前に取り交わす。

エ 実習水準の確保の方策（介護福祉実習）

各実習の依頼・契約時など実習開始前には、教員による事前見学及び実習指導者との事前打ち合わせを行い、実習の目的や学生への指導方法の確認等を行っている。また、教員による巡回指導を実習中に週 1 回以上実施し、学生及び実習指導者との協議や相談指導を行う。

更に、各実習の終了後には、介護福祉士コースの教員による会議において、それぞれ実習巡回を担当した施設等の意見交換を行っている。その際に、実習を終えた学生からの意見も反映させ、適宜実習施設の見直し、実習指導者との連絡調整を行う。なお、年に 1 回、すべての実習施設（実習指導者）を対象に、学内打ち合わせ（集合方式）を行い、教員と実習施設の指導の水準・内容の擦り合わせを行う。

オ 実習先との連絡体制（介護福祉実習）

的確な実習指導を行うために、本学独自の手引きの作成し、実習開始前に実習施設に渡すことにより、実習期間中に体験及び学ぶべき項目を事前に実習指導者と確認できる体制やコミュニケーションツールを設ける。また年度初めには、実習指導者を本学に招き、実習事前打ち合わせ会を開催し、実習指導における留意点等について意見交換を行う。更に、実習期間中の連絡体制を作成し、実習先、担当教員、事務局で共有し、必要時に協議・相互の連絡を行う。すべての実習で、週 1 回以上の実習施設等への巡回指導を実施する。また実習施設・事業等（Ⅱ）に該当する実習である「介護福祉実習Ⅱ」、「介護福祉実習Ⅲ」では、実習期間中に 1 週間の帰校週を設け、その期間中に帰校日指導を行い、その状況を含めて実習指導者と連絡調整を図る。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策、保険等の加入状況）（介護福祉実習）

実習前に腸内細菌検査を行い、実習先施設・機関の指示に応じて、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・その他の感染症に関する抗原・抗体検査及び必要に応じた予防接種を行うものとする。新型コロナウイルス感染症防止対策を以下のとおり徹底する。

1. 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインを作成し、実習手引きに掲載する。
2. 実習準備授業時に、感染予防教育を行い、個人防護具（ガウン・手袋・マスク・フェイスシールド等）の取り扱い方法を説明し、学生に必要物品を配布してそれを実習先に持参させる。
3. 学生に対し、体温管理表などによる健康チェックを実習開始 2 週間前から実習中、更に実習終了 2 週後まで義務づけるとともに、「3 密」の回避行動とアルバイト・サークル活動を自粛するよう注意喚起する。
4. 実習科目を修得する全学生対象の「学生教育研究災害傷害保険」に加え、大学が窓口となって新型コロナウイルス感染症をカバーする民間損害補償保険を契約し、介護福祉実習を行う学生に任意加入を推奨する。

キ 事前・事後における指導計画（介護福祉実習）

それぞれの実習では、事前指導として「介護総合演習（Ⅰ～Ⅳ)」、事後指導として「介護過程（Ⅰ～Ⅳ)」を授業科目として位置付けている。事前指導では、本学で作成した介護実習の手引きを用いる等して、実習に向けた指導を授業内で計画的に実施する。また、事後指導では、実習の振り返りや実習報告書の作成、学生による実習報告会の実施までを授業内で計画的に指導する。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画（介護福祉実習）

介護福祉士における巡回指導が可能な教員が 6 名（うち 2 名は助教（実習担当)）おり、これらの教員が実習先 1 か所につき、実習期間中、週 1 回以上巡回する。加えて、上記オで述べた基準によって帰校日指導を行う。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（介護福祉実習）

実習施設・事業等（Ⅰ）に該当する、本学カリキュラム「介護福祉実習Ⅰ」、「介護福祉実習Ⅳ」の実習指導者は、介護福祉士の資格を有する者又は 3 年以上介護業務に従事した経験のある者とする。また、実習施設・事業等（Ⅱ）に該当する、本学カリキュラム実習「介護福祉実習Ⅱ」、「介護福祉実習Ⅲ」の実習指導者は、介護福祉士として 3 年以上実務に従事した経験があり、かつ厚生労働大臣が別に定める基準をみなすものとしてあらかじめ厚生労働大臣に届け出られたものを修了した者とする。

各実習施設等におけるこの実習指導者の配置については、実習施設等と教員が適宜連絡を取り合い、実習開始までに適切な配置が行われるよう協議する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（介護福祉実習）

実習施設の実習指導者による「実習評価表」による評価と、学内教員による評価（実習態度、巡回指導時の状況、日誌等の記録・提出物等から総合的に実施）をそれぞれ勘案するとともに、介護福祉士コースの教員によって組織される介護福祉士コース会議（担当教員による定期的な会議）において各実習生の成績を検討し、その結果をもとに科目担当者が本学規程で定められている基準に則り、各学生の成績評価及び単位認定を行う。

サ その他特記事項（介護福祉実習）

特になし

（4）地域医療福祉専門実習Ⅰ・Ⅱ（社会福祉学科専門科目）

ア 実習の目的（地域医療福祉専門実習）

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習（精神)」を終えた受講生が、卒業後の進路や受講生の関心に合わせて、ソーシャルワーク実習先以外の事業所、医療機関、施設等において実習を行い、卒業後の進路で活用できる知識・技術を修得することを目的とする。

イ 実習先の確保の状況（地域医療福祉専門実習）

地域医療福祉専門実習は卒業後、地域における保健・医療・福祉の領域で援助専門職として働く意思のある学生が実践的な問題意識を深め、より高度な専門性を身につけるための専門実習科目として位置付けてお

り、履修希望者自身が実習を希望する実習施設を自己開拓することを原則としている。

ウ 実習先との契約内容（地域医療福祉専門実習）

実習施設と安全かつ円滑な実習を実施するため、実習先施設・機関と実習に関する基本的な事項（実習施設の諸規則の遵守、実習委託料、損害負担、秘密保持義務、安全管理体制の整備等）を掲載した契約書を事前に取り交わす。

エ 実習水準の確保の方策（地域医療福祉専門実習）

実習指導者との会合を年 1 回企画し意見交換をするとともに、実習巡回時に実習内容を確認調整しながら、実習の質が担保できるようモニタリングしている。また実習に赴いた学生からのフィードバックも確認しながら必要な調整を行い、実習の水準を確保する。

オ 実習先との連絡体制（地域医療福祉専門実習）

実習中に教員による巡回を 1 回実施している。また帰校日（実習中に 1 回）を設定し、実習生のスーパーヴァイスを行うことで、必要な連絡調整を行っている。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策、保険等の加入状況）（地域医療福祉専門実習）

実習施設・機関の指示に応じて、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・その他の感染症に関する抗原・抗体検査及び必要に応じた予防接種を行うものとする。新型コロナウイルス感染症防止対策を以下のとおり徹底する。

1. 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインを作成し、実習手引きに掲載する。
2. 実習準備授業時に、感染予防教育を行い、個人防護具（ガウン・手袋・マスク・フェイスシールド等）の取り扱い方法を説明し、学生に必要物品を配布してそれを実習先に持参させる。
3. 学生に対し、体温管理表などによる健康チェックを実習開始 2 週間前から実習中、更に実習終了 2 週後まで義務づけるとともに、「3 密」の回避行動とアルバイト・サークル活動を自粛するよう注意喚起する。
4. 実習科目を修得する全学生対象の「学生教育研究災害傷害保険」に加え、大学が窓口となって新型コロナウイルス感染症をカバーする民間損害補償保険を契約し、実習を行う学生に任意加入を推奨する。

キ 事前・事後における指導計画（地域医療福祉専門実習）

事前指導では、実習オリエンテーション、実習の意義及び目的の説明、実習計画書の作成指導を行う。

事後指導では、実習体験の共有及び反省、経験した内容の深化のための指導を行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画（地域医療福祉専門実習）

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の実習時巡回指導が可能な教員が 4 名（うち 1 名は助教（実習））おり、これらの教員が「ソーシャルワーク実習Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」に関わる実習先 1 か所につき、実習期間中に最低 1 回巡回する。加えて、上記オで述べた基準によって帰校日指導を行う。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（地域医療福祉専門実習）

実習先施設・機関に実習を依頼する際、毎年社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の実習指導者講習会を終了した教員を確認し、社会福祉士実習指導者 1 人あたり 5 名以内（一期間内）の実習生の受入れを依

頼する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（地域医療福祉専門実習）

実習先施設・機関から提出された評価票及び実習生から提出される実習日誌・実習記録の内容をもとに、教員によって組織される実習委員会において各実習生の成績を検討し、その結果をもとに科目担当者が成績評価を行う。

サ その他特記事項（地域医療福祉専門実習）

特になし

（５）保育実習ＩＡ（施設）・ＩＢ（保育所）・Ⅱ（保育所）・Ⅲ（施設）（保育士養成課程）

ア 実習の目的（保育実習）

保育実習は、習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の理論や保育と実践の関係について習熟するためのものである。保育所やその他の福祉施設のもつ機能・役割・実態について現場経験を通して理解し、保育の内容を学習することが目的である。実践体験を通して、授業において身につけた具体的かつ総合的な知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養う。子どもに対する理解を通じて、保育の理論と実践の習熟を図る。

「保育実習ＩＡ（施設）」では、 通所・入所型児童福祉施設等での実習を通して、施設利用児・者への理解を深めるとともに、通所・入所型児童福祉施設等の目的・機能と保育士の業務等について具体的に学ぶ。「保育実習ＩＢ（保育所）」では、保育所の実習を通して、子どもの理解を深めるとともに、保育所の目的・機能と保育士の業務等について具体的に学ぶ。「保育実習Ⅱ」では、具体的な実践を通して、保育と保護者支援について総合的に学ぶ。保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。「保育実習Ⅲ」は、養護・支援全般に参加し、施設の機能や役割の理解を深める。入所児・利用者のニーズや個人差を理解し、その対応方法等を習得する。

科目の名称	単位	卒業要件	実習の時期	日数	時間数
保育実習ＩＡ（施設）	2	選択	2年次　春季休暇	12日間	90時間
保育実習ＩＢ（保育所）	2	選択	3年次　夏季休暇	12日間	90時間
保育実習Ⅱ（保育所）	2	選択	4年次　夏季休暇	12日間	90時間
保育実習Ⅲ（施設）	2	選択	4年次　夏季休暇	12日間	90時間

保育実習は卒業要件ではないが、子ども支援学科のディプロマ・ポリシーである子どもと保護者を支援するための専門的知識と技術を習得するとともに、実習で子どもと保護者の多様性を理解し、主体的に問題を解決する姿勢を習得する重要な機会の一つである。

イ 実習先の確保の状況（保育実習）

「保育実習ＩＡ（施設）・ＩＢ（保育所）・Ⅱ（保育所）・Ⅲ（施設）」の実習先は、児童福祉施設、保育所、幼保連携型認定こども園等となる。学部所在地の東京都や埼玉県を中心に169施設より承諾を得ており、保育士養成定員100名の実習先は確保できている（資料6-4　保育士 実習先一覧、保育士 実習受入承諾書）。

ウ 実習先との契約内容（保育実習）

実習に際しては、各実習施設との間で、前年度に内諾書を取り交わし、実施年度に承諾書を取り交わす。各実習生は実習施設に対して、個人情報保護と倫理の観点から守秘義務を守る旨を誓約する誓約書を提出する。

エ 実習水準の確保の方策（保育実習）

各実習の事前事後指導を行う「保育実習指導ＩＡ（施設）」、「保育実習指導ＩＢ（保育所）」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」各科目で科目の履修条件を設け、実習生の実習の水準を確保する。具体的には、「保育実習指導ＩＡ（施設）」、「保育実習指導ＩＢ（保育所）」は「保育原理」、「社会的養護」、「保育内容総論」を修得済みであること、「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」は、「保育実習ＩＡ（施設）」、「保育実習ＩＢ（保育所）」、「保育実習指導ＩＡ（施設）」、「保育実習指導ＩＢ（保育所）」を修得済みであることが履修条件である。これらの科目は複数の授業担当者で少人数指導を行い、ルーブリックを使用して客観的に評価する工夫を行う。

また（社）全国保育士養成協議会の「保育士養成倫理綱領」に則り、実習先の実習内容について検討を行い、実習指導体制や指導能力が充実している施設へ実習配置を行い、実習の水準を確保する。

オ 実習先との連絡体制（保育実習）

実習指導室には 3 名の常勤教員をおき、各資格に関する実習事務や実習先との連絡を行う。祝日等の緊急連絡は、各実習担当教員の連絡網を作成し、緊急時にも専任教員が対応する。

実習施設に対し実習手引きを送付し、大学における学生への指導内容を共有する。また年に一度、実習連絡会を開催し、施設・保育所・幼稚園等の施設長や職員等を大学へ招き、実習指導に関する報告や協議を行う。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策、保険等の加入状況）（保育実習）

実習指導では、保育士倫理綱領に基づき、子どもの最善の利益や守秘義務を守ることや SNS の使用等について指導を行う。感染予防対策として以下のような内容を行い、その内容を実習先に送付する。実習 2 週間前から実習終了後 2 週間の毎日の検温、体調、行動管理を行い、行動管理表に記載し、実習前に授業担当者へ提出する。胸部レントゲンを含む健康診断を実施する。

また、保育所における感染症予防、衛生管理、新型コロナウイルスに関する講義を事前授業で行う。保険として「学研災付帯賠償責任保険」に実習生全員が加入する。また「感染症保険 Will」の加入を推奨する。

キ 事前・事後における指導計画（保育実習）

事前指導及び事後指導は、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」の中の「教科目の教授内容」に基づいたシラバスに則って行う。事前指導は全体講義に加えてグループでの演習を行い個別的な指導を行っている。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画（保育実習）

保育実習は、いずれも授業期間ではない夏季休暇期間中、春季休暇期間中に行う。実習訪問にあたっては、子ども支援学科の専任教員全員が実習の事前面談と巡回指導、事後指導を担当する。実習生ごとに教員を配

置し、実習生への個別の事前面談と巡回指導にあたる。事後指導は少人数のグループで行い、振り返りの授業も別途行う。実習巡回指導に際しては、学生への指導の留意点を示した「保育所実習訪問マニュアル」や「保育士養成倫理綱領」をもとに適切な巡回指導を行うことができるように留意する。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（保育実習）

保育実習に係る実習施設には、指導者を配置しない。実習指導にあたっては、実習施設の施設長や実習指導者等と緊密に連絡をとり学生の指導を行う。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（保育実習）

(1)実習施設における実習評価

実習期間中の具体的な実習内容の評価については、『保育実習評価票』に定める、各項目の5段階による評価と総合的所見について、実習施設の長及び実習担当職員が評価を行う。

(2)本学における実習評価

本学においては、実習期間の実習内容（実習ノート・訪問指導）、事前・事後学習、出席日数等を総合的に鑑みて5段階による評価を行う。なお、事前学習の出席不足や実習参加が不適当と判断された学生については、実習の停止や再履修をさせる場合がある。

(3)自己評価

学生自身が実習中に何を考え実習にどのように取り組んだかを、『保育実習自己評価表』に定める項目の5段階により学生自身が評価する。実習への取り組み姿勢と実習施設の評価を対比して、次の実習や新たな学習の目標設定に役立てる。また、『実習総括レポート』を各自作成するとともに発表を行い、教員や他の学生から評価を受ける。

サ その他特記事項（保育実習）

特になし

（６）教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）（幼稚園教員養成課程）

ア 実習の目的（教育実習（幼稚園））

教育実習Ⅲは、大学で習得した教科の知識と実践的技能を基礎とし、教育現場での実際の活動を通じて、保育者の専門性の習得を目指すものである。

教育実習は、4週間の実習期間(見学実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分実習、全日実習)）の中で、下記(1)～(4)に記載した目標の達成を目指し、保育者の仕事の役割を理解し、保育者としての的確な判断力を養う。

(1)幼稚園についての総合的な理解を深める。
(2)大学で学んだ知識や技術を統合し、総合的に実践する力を養う。
(3)実習に課題を持って臨み、さらに実習を通して次の課題を得て、自らの学びを深めていく。
(4)自らの資質や能力を常に向上させていこうとする姿勢を培う。

教育実習Ⅲは卒業要件ではないが、保育士資格同様、子ども支援学科のディプロマ・ポリシーである子どもと保護者を支援するための専門的知識と技術を習得するとともに、実習で子どもと保護者の多様性を理解し、主体的に問題を解決する姿勢を習得する重要な機会の一つである。

イ 実習先の確保の状況（教育実習（幼稚園））

実習先は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園となり、主な実習園として、まず、本法人のもとに運営される附属幼稚園がある。その他、学部所在地の東京都エリアを中心とした幼稚園や実習実績のある東京都公立幼稚園（東京都教育委員会経由で実習先を確保）、私立幼稚園がある。入学定員 100 名の実習先は確保できている（資料 6-5　幼稚園教諭 実習先一覧、幼稚園教諭 実習受入承諾書）。

ウ 実習先との契約内容（教育実習（幼稚園））

実習に際しては、各実習施設との間で、前年度に内諾書を取り交わし、実施年度に承諾書を取り交わす。各実習生は、実習施設に対して、個人情報保護と倫理の観点から守秘義務を守る旨を誓約する誓約書を提出する。東京都公立幼稚園における実習においては、東京都教育委員会へ所定の手続きを行う。なお、実習時期は 3 年次秋学期を原則とし、4 週間（120 時間）の実習を行う。

エ 実習水準の確保の方策（教育実習（幼稚園））

幼稚園教諭1種免許状を取得するためには、所定の必修科目の単位（①領域及び保育内容の指導法に関する科目16単位以上、②教育の基礎的理解に関する科目等26単位以上、③大学が独自に設定する科目9単位以上、④免許法施行規則第66条の６に定める科目8単位以上、⑤教育実習Ⅲ5単位）を修得しなければならない。 教育実習Ⅲでは、「3年春学期終了までに卒業に必要な単位を100単位以上修得していること」という履修条件を設け、実習生の実習の水準を確保する。その上で、①大学で行う事前指導、②幼稚園で行われる4週間の実習、③実習終了後に大学で行う事後指導、の3段階で構成される教育実習Ⅲの内容をすべて修得してはじめて、本単位を修得することができる。

また、学部所在地の東京都やその近隣の県にある、各私立幼稚園連合会や幼稚園教諭養成施設との会合や大学で開催する実習連絡会にて、実習内容や大学での学びについて情報交換や検討をしたうえで、実習先と大学が連携して実習指導ができると判断された園に実習を配置し、実習指導の水準を確保する。

オ 実習先との連絡体制（教育実習（幼稚園））

実習指導室には 3 名の常勤教員をおき、各資格に関する実習事務や実習先との連絡を行う。祝日等の緊急連絡は、各実習担当教員の連絡網を作成し、緊急時にも専任教員が対応する。

実習施設に対し実習の手引きを送付し、大学における学生への指導内容を共有する。また年に一度、実習連絡会を開催し、施設・保育所・幼稚園等の施設長や職員等を大学へ招き、実習指導に関する報告や協議を行う。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策、保険等の加入状況）（教育実習（幼稚園））

教育実習Ⅲの事前指導の授業内で、感染症予防、衛生管理、新型コロナウイルスに関する以下の説明を行い、感染予防対策についての徹底を図る。

(1) 実習開始2週間前から実習終了後2週間まで、毎日の体温チェック表の記入を行い、実習期間中の自己の健康管理に注意すること。
(2) 指定された手順に沿って、事前に細菌検査を行い、実習初日に結果票を持参すること。
(3) 実習期間中に感染症の兆候が見られた場合には、早急に受診し、医師の指示に従い指定された期間欠席とし、体調の回復に努めること。
(4) 保険として保育実習同様に「学研災付帯賠償責任保険」に実習生全員が加入し、「感染症保険Will」の加入を推奨する。

キ　事前・事後における指導計画（教育実習（幼稚園））

教育実習Ⅲの履修要件を満たした該当学生に対して、3 年次秋学期に開講する「教育実習Ⅲ」授業内で計30時間の事前事後指導を行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画（教育実習（幼稚園））

実習訪問に当たっては、子ども支援学科の専任教員全員が実習の事前面談と巡回指導、事後指導を担当し、実習生ごとに教員を配置し、実習生への個別の事前面談と巡回指導にあたる。事後指導は少人数のグループで行い、振り返りの授業も別途行う。また、1か月間と長期間に渡って行われる実習であることから、教育実習Ⅲの担当教員が、実習の前半2週間が終わった時点で実習生全員に対して中間振り返りの授業も実施する。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（教育実習（幼稚園））

幼稚園教諭 1 種免許状に係る実習施設には、指導者を配置しない。実習指導にあたっては、実習施設や実習指導者等と緊密に連絡をとり学生の指導を行う。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（教育実習（幼稚園））

(1)実習施設における実習評価

実習期間中の具体的な実習内容の評価については、『教育実習評価票』に定める、各項目の5 段階による評価と総合的所見について、実習園の園長及び実習担当教諭が評価を行う。

(2)本学における実習評価

本学においては、実習期間の実習内容（実習ノート・訪問指導）、事前・事後学習、出席日数等を総合的に鑑みて 5 段階による評価を行う。なお、事前学習の出席不足や実習参加が不適当と判断された学生については、実習の停止や再履修をさせる場合がある。

(3)自己評価

学生自身が実習中に何を考え実習にどのように取り組んだか、実習園からの評価と自身の評価との対比を通した考察も入れた実習振り返りレポートを各自が作成し、その内容を教員や他の学生と共有することで、自身の課題を見出し、次の実習や新たな学習の目標設定に役立てる。

更に実習の総括として、その集大成である責任実習での実践内容や省察等の学びを記載した実習事例レポートを各自が作成するとともにその発表を行い、教員や他の学生から評価を受ける。

サ その他特記事項（教育実習（幼稚園））

特になし

（7）教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）（高等学校教員養成課程）

ア 実習の目的（教育実習（高等学校））

大学で学んだ教育理論や技術をもとに、教育実習校での実習を通じて教育の意味や学校教育の全領域について学習することを目的とする。学習指導要領に基づいた指導計画やワークシートを活用した授業づくりをするとともに、新学力観として求められる習得型と活用型の学習活動等に関する理解の深化を目的とした模擬授業を計画・実践することで、教職を理解し自身の課題や教職への適性等の判断材料を得るとともに、実習を省察し実習を総括することにより、教師の専門的力量や教師になるための資質の理解を深めていく。

イ 実習先の確保の状況（教育実習（高等学校））

本学部の拠点となる東京都北区エリアを中心とした学校や全学規模で毎年実習の実績がある東京都公立学校（東京都教育委員会経由で実習先を確保）等を予定している（資料 6-6　高等学校教諭 実習先一覧、高等学校教諭 実習受入承諾書)。

ウ 実習先との契約内容（教育実習（高等学校））

実習実施前年度となる 3 年次 4 月以降に教育実習校へ内諾依頼を行う。東京都公立学校における実習においては、東京都教育委員会へ所定の手続きを行う。各実習生は、個人情報保護と倫理の観点から守秘義務を守る旨を誓約する誓約書を提出する。実習時期は 4 年次 5 月～11 月を原則とし、2 週間の実習を行う。

エ 実習水準の確保の方策（教育実習（高等学校））

教科に関する知識と教職に対する意識を持った質の高い教員を養成するという観点から、まず、教職を志す学生に対し入学当初から教職課程の概要や履修指導を行い、教育職員という仕事の重要性を認識のうえで意識と責任感を持って教職課程に臨むよう、周知と指導を徹底する。また、教育実習を行う際は、授業科目の履修条件や実習の参加資格を設け、それを満たした学生のみ教育実習を認めることとする。教育実習期間中に実習に専念すること等を含んだ誓約書の提出を求め、これを提出した学生のみ教育実習への参加を認めることで、教育実習に対する学生の意識づけを徹底している。実習に必要な準備ができていることや実習を行うに適した水準に達していることを確認のうえ実習参加者を確定することで、実習生の水準を確保している。

教育実習の履修条件は、以下のとおりである。

以下の①②の条件をすべて満たさなければ、「教育実習（事前・事後指導を含む)」を履修することはできない。

①3 年次終了の時点（教育実習に参加する前年度）で卒業に必要な単位数を 100 単位以上修得していること。

②3 年次終了の時点（教育実習に参加する前年度）で、以下の条件を全て満たしていること。

1～3 年次に配当された「教育の基礎的理解に関する科目」及び「教科及び教科の指導法に関する科目等」の必修科目のうち実習参加前に修得すべき科目として履修要覧に指定されている科目をすべて修得していること。

教育実習の参加資格は、以下のとおりである。

以下の①～⑧の条件をすべて満たさなければ、教育実習に参加することはできない。
①教壇に立って授業を行うに必要な学力を有すること。
②教育実習指導教員の指導のもとに、教育実習生としてふさわしい行動のとれる人物であること。
③大学を含む関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。
④大学の行う定期健康診断を受診し、異常の指摘があれば対処されていること。
※大学で実施される健康診断を受診できない場合、医療機関で受診し、その結果を実習開始以前に大学に提出しなければならない。
⑤麻疹（はしか）、風疹に関する感染予防条件 1 または 2 を満たす。
1 麻疹（はしか）及び風疹の予防接種を 2 回以上実施していることが記録で確認される者
2 予防接種歴が 2 回以上確認できない感染症に対しては抗体検査の結果で十分な免疫があると認められた者。
※医学的理由等で予防接種が出来ない者はその理由を申し出ること。
⑥妊娠中もしくは出産して 1 年以内でないこと（母体保護のため）。
⑦教育実習料を納入していること。
⑧大学指定の誓約書に署名・捺印の上、提出した者。
※学業成績・学修態度等から総合的にみて、教育職員として適格性を欠くと本学において判定された場合、実習参加を認めないこともある。これらの判定のために、教育実習の実施に先立って、担当教員と面接等を行う場合もある。実習校の内諾を得ることができなかった者、教育実習に関する所定の手続きをしていない者及び教育実習費を納入していない者は、教育実習への参加を認めない。

加えて、実習の質を確保するために教育実習Ⅱの中で行う事前指導も徹底する。教育実習では、実習に向けた準備事項、指導案作成や模擬授業等を指導し、実習に向けた注意点や心得を理解のうえで実習に臨み、責任を持った実習を実施できるよう指導を徹底する。

オ 実習先との連携体制（教育実習（高等学校））

教員養成を担当する専任教員が中心となり実習先との連携を図る。そして、同教員のもとで学科全体の教育実習を管理し訪問指導教員を決定した後、本学科における教育実習生の指導や実習校との連絡調整にあたっていく。また、全学の委員会との連携を図りながら組織的に実習支援を行っていく。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）（教育実習（高等学校））

大学で統一した基準として以下の内容を周知・確認のうえで実習を実施させることが定められており、これに基づき感染予防に関する対策、保険加入等の安全確保について指導を徹底する。

①大学を含む関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。
②大学の行う定期健康診断を受診していること。
③教育実習料を納入していること。
④大学が指定する保険（公益財団法人日本国際教育支援協会「インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険」）に加入するための保険料を納入していること。
⑤麻疹（はしか）の抗体検査・予防接種を行い、免疫があると認められていること。
⑥妊娠中もしくは出産して 1 年以内でないこと（母体保護のため）。
⑦東京都公立学校で実習を希望する者は「東京都公立学校教育実習取扱要綱」の第 5 条及び第 12 条に定

められている実習資格要件を満たしていること。

また、実習中に知り得た情報に関する守秘義務やSNSの利用に係る注意点等を含んだ誓約書の提出を求め、これを提出した学生のみ教育実習への参加を認めることで、教育実習に対する学生への注意喚起を徹底する。

キ 事前・事後における指導計画（教育実習（高等学校））

事前指導は、3年次秋学期から4年次春学期に行い、オリエンテーション（大学教員による講義）、指導案の作成、模擬授業を行う。教育実習では、実習に向け準備すべき内容（教師としての自覚、教員としての服務規程、体罰・事故防止、守秘義務等）を学び、指導案作成や模擬授業等の準備を実施する。

事後指導は、4年次秋学期に行い、大学教員による講義、並びに教育実習報告会を行う。教育実習では、学生の実習体験発表、実習感想文の提出、アンケート調査等によって、教育実習の成果を振り返り、教員として必要な資質能力が培えたかどうかを確認し、総合的に評価を行う。そして、実習の省察し実習を総括することにより、教師の専門的力量や教師になるための資質ついての理解を深める。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回計画（教育実習（高等学校））

各実習校と協議のうえ、実習毎に大学教員による訪問指導を実施する。訪問指導を行った教員は、学生の指導を行うとともに、実習校からの要望等を大学に報告し、教職課程における指導にフィードバックする。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（教育実習（高等学校））

教育実習生に対する実習指導教員が配置され、実習生に対して授業や指導案の作成、生徒への生活指導、課外活動の指導等について指導と助言を与える。また、教育実習中には研究授業等を通し、実習校内の教員から幅広く指導を受ける態勢がとられる。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（教育実習（高等学校））

実習の事前準備、教育実習校からの評価、実習後の省察により評価を行う。事前指導では指導案への取り組み、事後指導では実習後の省察を評価する。教育実習校の評価（70%）、事前の指導における指導計画・模擬授業（10%）、事後指導における省察の内容（10%）、各種レポートの作成（10%）で配点し、授業担当者がそれぞれを本学の評価基準に照らして総合的に成績評価し、単位を認定する。

⑦ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

本学部の独自科目として、社会福祉学科の学科専門科目に配置する「社会福祉国際体験演習Ａ・Ｂ」、子ども支援学科の学科専門科目に配置する「海外保育フィールドワーク」、人間環境デザイン学科の学科専門科目に配置する「インターンシップＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ」及び同学科の課外活動である「海外研修」がある。学科専門科目はいずれも選択科目となり、単位修得を卒業要件とはしておらず、学生の志向に対応できるよう配置しているものである。それぞれについての具体的計画を以下に記す。

（１）社会福祉国際体験演習Ａ・Ｂ（社会福祉学科専門科目）

ア 実習先の確保の状況（社会福祉国際体験演習）

本科目の目的は、社会福祉に関わる国際的な諸問題を理解し、その支援方法を国内外のフィールドにおいて体系的に体得することである。このため、本科目では事前学習として訪問先のフィールドの状況、特に社会福祉的な課題が生じるミクロ・メゾ・マクロに至る社会的な背景等を学習した上で、国内・海外の社会福祉実践フィールドにおいて、見学や講義を通じて、諸問題の実態と対応方法を体系的に学習し、これらの問題の対処方法を立案できるようになることを目標とする。

主な訪問先は、タイ王国、フィリピン共和国（セブ市）、大韓民国（ソウル特別市）、大韓民国（アンドン市）となる。いずれも訪問実績がある機関となり、想定される履修者数分の訪問先は確保できている（資料7-1　社会福祉国際体験演習 訪問先一覧）

イ 実習先との連携体制（社会福祉国際体験演習）

上記訪問先は、すべて訪問実績があることから、訪問先との関係は構築できている。またこれまで安定してプログラムを実施できていることから、実績に基づく連携体制を敷いていく。具体的には教育プログラムの実施に際し、前年度プログラムの振り返り、次年度プログラムの内容確認、訪問受入の可否、スケジュール等の調整を行う。円滑な運営のために専門窓口を設ける等して事務体制も整える。なお、活動時は担当教員が適宜フォローを行っていく。

ウ 成績評価体制および単位認定方法（社会福祉国際体験演習）

学習状況及び報告書・レポートをもとに採点を行い、単位付与条件に基づき単位を付与する。フィールド活動への取組、発表、報告書の作成を元に採点を行い、活動先からの評価を加味して総合的に評価する。

エ　その他の特記事項（社会福祉国際体験演習）

特になし

（2）インターンシップA・B・C・D（人間環境デザイン学科専門科目）

ア　実習先の確保の状況（インターンシップ）

実習先は当学科の幅広い領域の専門分野に関わる企業・団体等が対象となるが、学生個人の興味と合致する団体について各ゼミの教員がインターンの内容を検討し、十分な学びとなるプログラムを選択する仕組みである。企業側からインターンシップに参加する学生募集の申し入れがあった場合は、専門分野ごとに教員が内容を検討し、学生の希望を踏まえて決定する。

イ　実習先との連携体制（インターンシップ）

あらかじめプログラムの内容・時間数等について実習先と教員とで擦り合わせることはあるが、実習中は学生を通じて随時報告を受け、必要に応じて連携する。

ウ　成績評価体制及び単位認定方法（インターンシップ）

学生は実習中、日報の記載及び成果物のまとめを行い、実習先企業等の担当者からの評価・コメントを受け報告書を作成、終了後にゼミの指導教員に提出する。各教員が内容について評価を実施し、実習期間、取り組み時間、成果物の質、実習先からのコメントを総合的に評価し、単位を認定する。

エ　その他特記事項（インターンシップ）

インターンシップの内容について、は専門分野の多様性を重視し柔軟な対応をしている。現行に引き続き、街づくりプロジェクトへの参加、建築設計事務所での実習、情報デザイン分野での実習、障害者と相互理解を深めるプログラム等、幅広いインターンシップを想定している。

（3）海外保育フィールドワーク（子ども支援学科専門科目）

ア　実習先の確保の状況（海外保育フィールドワーク）

本科目は、多文化共生保育・教育が広く実践されているスウェーデン（ストックホルム市とその近郊都市を予定）を研修先としたプログラムである。野外保育・教育の実際を知るために複数の施設を視察し、アクティビティとして子ども・子育て家庭との交流・子育て支援活動の機会を持つ。また、児童養護施設・里親家庭や要支援家庭等への支援の現状視察、子どもの遊び場・公園、図書館や博物館の子どもスペースの見学、専門家へのヒアリング、ICT を活用した教育的ドキュメンテーションの活用事例の学びを行う。

イ　実習先との連携体制（海外保育フィールドワーク）

視察先との調整は、ストックホルム在住で長年にわたり現地でのコーディネート経験のある日本人コーディネーターに依頼しており、実施においては現地コーディネーターを中心に、学生が安全に実習を行えるように引率教員が適宜対応を行う体制をとる。

ウ　成績評価体制及び単位認定方法（海外保育フィールドワーク）

事前・事後学習の状況、現地での活動への取り組みへの振り返りや発表などに基づき本学の成績基準に基づき、単位を認定する。

エ　その他特記事項（海外保育フィールドワーク）

特になし

（4）海外研修（人間環境デザイン学科課外活動）

ア　実習先の確保の状況（海外研修）

本科目は、課外活動として行うものである。他国の建築やまちづくり、人々の暮らしに触れ、交流を行うことで、各国の歴史や実態について理解を深めることを目的としており、訪問先は中国、イタリアを計画している（資料 7-2　海外研修 訪問先一覧）。

イ　実習先との連携体制（海外研修）

訪問先ごとに人間環境デザイン学科専任教員から責任者を立て、訪問先との連携を図っていく。

ウ　成績評価体制及び単位認定方法（海外研修）

上記のとおり課外活動のため、成績評価・単位認定は行わない。

エ　その他特記事項（海外研修）

特になし

⑧　取得可能な資格

福祉社会デザイン学部で取得可能な資格を学科ごとに記す。

（1）社会福祉学科で取得可能な資格

資格名	資格の種類	資格取得の条件
社会福祉士	国家資格 受験資格取得	法令で定められた 社会福祉士指定科目を修得
精神保健福祉士	国家資格 受験資格取得	法令で定められた 精神保健福祉士指定科目を修得
介護福祉士	国家資格 受験資格取得	法令で定められた 介護福祉士指定科目を修得
社会調査士	民間資格 資格取得	法令で定められた 社会調査士科目を修得
社会福祉主事（任用資格）	国家資格 資格取得	法令で定められた 社会福祉主事指定科目を修得

（2）子ども支援学科で取得可能な資格

資格名	資格の種類	資格取得の条件
保育士	国家資格 資格取得	法令で定められた 保育士指定科目を修得
幼稚園教諭 1 種免許状	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、 教職関連科目を修得
社会福祉士	国家資格 受験資格取得	法令で定められた 社会福祉士指定科目を修得
社会福祉主事（任用資格）	国家資格 資格取得	法令で定められた 社会福祉主事指定科目を修得

（3）人間環境デザイン学科で取得可能な資格

資格名	資格の種類	資格取得の条件
高等学校教諭 1 種免許状（工業）	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、 教職関連科目を修得
高等学校教諭 1 種免許状（工芸）	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、 教職関連科目を修得
建築士（一級）	国家資格 受験資格取得	法令で定められた 建築士指定科目を修得
建築士（二級）	国家資格 受験資格取得	法令で定められた 建築士指定科目を修得
建築士（木造）	国家資格 受験資格取得	法令で定められた 建築士指定科目を修得
社会福祉主事（任用資格）	国家資格 資格取得	法令で定められた 社会福祉主事指定科目を修得

⑨　入学者選抜の概要

本学に入学することのできる者は、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による十二年の学校教育を修了した者、又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする（学校教育法第56条）。また入学者の選抜では、公正かつ妥当な方法により、適当な体制を整えて行うものとする（大学設置基準第2条の2）。

福祉社会デザイン学部では、前述の学部の人材の養成に関する目的や教育目標に基づき、以下を求める人材像及び本学部の学生受け入れの基本方針とする。

(1)今後の社会創造にあたり、福祉、次世代育成、デザインの領域からの貢献を目指す学生。
(2)自分自身の独自性と、高い専門性の確立を目指す学生。
(3)自分自身の学びと専門性を高めるため、弛まない努力が約束できる学生。

また、各学科では学部の受け入れ方針に基づき、以下のアドミッションポリシーを掲げる。

社会福祉学科のアドミッションポリシー

社会福祉学を基礎とし、誰でもその人らしく生活できる共生社会実現に貢献すると共に、国内外の様々な課題に対峙できるグローバルな人材の育成を目標に揚げる。学生は4 年間の学修で社会福祉学に関する体系的知識を修得し、多様な社会問題の解決に資する論理的思考力と、グローバル社会で協働していくことのできるコミュニケーション能力を身に付ける。したがって、この目標を達成するのにふさわしい次のような人物を選抜し受け入れる。

(1)現代社会が直面する課題の解決に自ら取り組もうとする主体性と学習意欲をもつ学生。
(2)人間と社会について深い洞察力を持ち、思考力と表現力に富む学生。
(3)人間の成長・発達に深い関心を持ち、すべての人々を包摂する実践を通して地域共生社会の実現に貢献する意欲のある学生。

子ども支援学科のアドミッションポリシー

子ども支援学科では、専門的知識と技術を備えた専門職（保育士・幼稚園教諭・社会福祉士等）養成を柱としながら、より広い視野から国内外のさまざまな現場における施策、あらゆる環境のもとでの子ども支援や子ども福祉の行動計画の策定・実行・評価ができる人材の養成を目標とする。学生は4 年間の学修で保育士・幼稚園教諭・社会福祉士としての専門知識・技術を習得し、社会に貢献する力やグローバルな視点を持ちながら地域社会で主体的に活動できるリーダーシップを身に付ける。したがって、この目標を達成するのにふさわしい次のような人物を選抜し受け入れる。

(1)子どもの成長発達や保育・幼児教育・子ども家庭福祉の問題に深い関心を持ち、それを学ぼうとする知的好奇心と強い意志があること。
(2)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有していること。
(3)対人援助専門職者は援助の過程で他者との連携が求められる。よって、積極的に他者とかかわり、対話を成立させ、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有していること。

人間環境デザイン学科のアドミッションポリシー

建築設計や商品開発・デザインに関する高い技能を有し、社会の要請に応じる都市・建築環境、製品の開発提案が行える人材、デザイン行為を通じて新たなイノベーションを創生し社会をリードする人材の育成を目標とする。学生は4 年の学修でデザインや構想に関する広範かつ専門的な知識やデザインや構想を表現する具体的な技術や方法を修得し、それを形にする能力を身に付ける。したがって、この目標を達成するのにふさわしい次のような人物を選抜し受け入れる。

人間環境デザイン学科は、人間を取り巻く環境を「デザイン」という視点から学びを深める学科である。デザインに関わる分野は幅広く多様な人材が参加している世界であり、知識と意志があれば、誰でもデザインの世界の中で活動できる可能性がある。
特に、これからの社会ではモノを生み出す行為と共に、コトを創り出す能力も求められ、モノ・コトのデザインは人の暮らしを取り巻く環境のすべてに影響を及ぼす行為だと柔軟に理解した上で、
(1)自分の可能性を信じ、探求する意欲を持つ学生
(2)自分のデザイン能力を磨こうとする意欲のある学生
(3)問題の本質を探り、柔軟な解決方法を発想しようとする熱意をもった学生を受け入れる。

上記のような適性や能力を持つ入学者を獲得するべく、本学部では以下のとおり複数の選抜方法を設ける。

(1)一般入学試験
(2)大学入学共通テストを利用した入学試験
(3)自己推薦入学試験
(4)学校推薦入学試験　(社会福祉学科、人間環境デザイン学科のみ)
(5)指定校推薦入学試験
(6)附属及び協定高等学校推薦入学試験
(7)運動部優秀選手推薦入学試験（社会福祉学科のみ)
(8)外国人留学生入学試験　(社会福祉学科、人間環境デザイン学科のみ)
(9)海外帰国生入学試験
(10)国際バカロレアAO入学試験

社会福祉学科の募集人員は、(1)90名、(2)50名、(3)15名、(4)15名、(5)25名、(6)10名、(7)若干名、(8)11名、(9)(10)若干名とし、筆記試験を主とする(1)(2)の入学試験で65%程度、推薦入試や外国人留学生入試等の(3)～(10)の入学試験で35%程度の入学者を受け入れる予定である。

子ども支援学科では、(1)60名、(2)15名、(3)15名、(5)10名、(6)(9)(10)若干名とし、筆記試験を主とする(1)(2)の入学試験で75%程度、推薦入試や外国人留学生入試等の(3)～(10)の入学試験25%程度の入学者を受け入れる予定である。

人間環境デザイン学科では、(1)95名、(2)15名、(3)15名、(4)3名、(5)24名、(6)若干名、(8)8名、(9)(10)若干名とし、筆記試験を主とする(1)(2)の入学試験で70%程度、推薦入試や外国人留学生入試等の(3)～(10)の入学試験で30%程度の入学者を受け入れる予定である。

筆記試験である本学独自の入学試験（一般入学試験）と大学入学共通テストでは、受験科目や配点について複数の方式を用意し、多様な受験の機会を提供する。各学科の特性に即した英語重視型や国語重視型の配

当方式や、小論文・グループディスカッション、実技での評価方式を導入する。なお、外国語科目に関しては、GTEC（4技能版）、TEAP（4技能）、IELTS（4技能）、実用英語技能検定（英検）といった外部試験も利用することで、英語の4技能に秀でた人材の確保を目指す。得点換算の方式については、文部科学省の指針に従い、本学全学で基準を定め、他の受験生との公平性が確保された入学試験を実施する。

また(3)～(7)推薦入試を活用して、学部学科の教育目標に合致する経験や実績、可能性を持ち、大学入学後の学習においてリーダーシップを発揮し、主体的かつ積極的に参加できる資質や意欲をもった学生を獲得する。この目的のもとに、推薦入試においても各学科に即した出願資格を設け、領域に関するテーマでのグループディスカッションや、平面構成（イメージスケッチ）及びその解説文（意見記述）を取り入れる等、工夫を凝らしていく。

加えて、(8)外国人留学生入学試験では、社会福祉学科、人間環境デザイン学科において、若干名の外国人留学生を受け入れる。その際、本学独自の入学試験だけでなく、日本留学生試験利用入試や日本語学校指定校入試も実施する。更に、(9)海外帰国生入学試験も実施して、国外の高等学校等で学んだ者も若干名受け入れる。留学生の日本語能力等の資格要件は、外国人留学生入試に関しては日本留学試験を受験しその日本語得点が300点（記述を含む）以上であるものとし、国際バカロレアAO入試に関しては国際バカロレア資格の取得において日本語B（HL）を履修した者とする。経費支弁能力は、入国在留管理局に「在留資格認定証明書」の交付申請を行う際と在留資格の更新を行う際の確認に基づくこととする。また在籍管理についても、PUGS（東洋大学在留資格申請システム）を利用し、在留期限の近い学生には配信メールを送信するとともに、在留期間更新許可申請書等を大学登録の住所へ発送する。更新手続き後、学生は大学窓口に更新状況を申請することとする。また、各学期において履修登録がなされていない学生や修得単位の少ない学生に対しては通常の成績通知より前の段階で成績表を送付し、単位修得状況の確認を行う等の方法で管理を行っていく。

なお、今のところ社会人入学試験の実施による受け入れは予定していない。学科によっては、専任教員や校地・校舎、教育を行うに支障のない範囲で科目等履修生、聴講生も若干名受け入れる可能性があるが、受講の可否は、履修を希望する科目の状況、志願書類及び面接等をもとに判断する。

⑩　教員組織の編成の考え方及び特色

教員組織の編成においては、各学科の「教育研究上の目的を達成するため、教育研究組織の規模並びに授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員を置く。」に準じて教員を配置している（大学設置基準第7条第1項）。学生規模や学問分野に対応する教員組織の編成と特色を以下に述べる。

（１）社会福祉学科の教員組織の編成の考え方及び特色

入学定員216名を有する社会福祉学科は、社会学部第1部社会福祉学科（入学定員150名）及びライフデザイン学部生活支援学科生活支援学専攻（入学定員116名）が合併した学科であり、本学科の教員組織は、基礎となる社会学部第1部社会福祉学科及びライフデザイン学部生活支援学科生活支援学専攻から異動する専任教員を中心に構成するが、今回の改組によって両学科専攻で共通する学問分野や類似した専門分野を整理し教育課程等を編成しているため、それに対応するかたちで専任教員の構成も見直している。具体的には、社会学部第1部社会福祉学科から異動する専任教員12名、ライフデザイン学部生活支援学科生活支援学専攻から異動する専任教員14名の合計26名で始動させた後、完成年度にそれを23名、令和10（2028）年度で最終

的に20名にする計画である。多岐にわたる資格養成業務の一部を専任教員以外の人材が担える体制とすることで、教員体制を変更した後の資格養成体制を担保する。助教（実習担当）や事務職員を補充する等して適材適所に必要な数の人員を配置すると同時に、専任教員が担う業務の範囲や役割のブラッシュアップを図り、教育研究を推進できる体制も確立していく。なおこの専任教員数は、大学設置基準第13条の別表1に定める専任教員数12名を充足するとともに、同別表第2の専任教員数についても大学全体で充足している。

「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第7条第2項）学科主任を置くとともに、学部内及び学科内に必要に応じ各種委員会等を整備し、全学及び学部と連携を図りながら教育研究を運営する。

本学科では前述の3つの系（コース）を教育研究の中心とし、「④教育課程の編成の考え方及び特色」に対応した領域を専門教育科目に設定していることから、以下の教員構成とする。これに加えて、資格養成要員として助教（実習担当）を8名配置する計画である。

＜社会福祉学科の教員構成（完成年度末日時点）＞

○各分野の教員構成

①福祉制度政策領域 6名：教授3名（60代3名）、准教授2名（60代1名、50代1名）、講師1名（50代1名）

②福祉社会開発領域 6名：教授1名（50代1名）、准教授4名（50代4名）、助教1名（50代1名）

③福祉臨床領域 11名：教授6名（60代4名、50代2名）、准教授5名（60代2名、50代3名）

○学科教員全体の身分構成

教授10名（43.48%）、准教授11名（47.82%）、講師1名（4.35%）、助教1名（4.35%）

○学科教員全体の取得学位構成

博士16名（69.56%）、修士6名（26.09%）、学士1名（4.35%）

○学科教員全体の年齢構成

60代10名（43.48%）、50代13名（56.52%）

○学科教員全体の性別構成

男性13名（56.52%）、女性10名（43.48%）

各分野の教員構成をみると、本学科の主軸となるソーシャルワーク領域に比重を置きつつ他領域を専門とする教員が配置されており、その体制を前提に各分野内の職位や年齢構成をバランス良く配置している。学科教員全体の身分構成をみると、教授・准教授が約91%となっている。学科の基幹科目となる各分野の代表的な科目は、教授または准教授が担当し、教育の質を担保している。学科教員全体の取得学位構成をみると、博士取得者が約69%となるが、今後博士取得者数の増加が見込まれる。学科教員全体の年齢構成でみると、50代から60代を中心に構成されているが、完成年度をもって定年退職を迎える60代の教員が3名おり、年齢構成の変化が見込まる。なお上記に加え資格養成要員として配置する助教（実習担当）は、30代から40代が中心となる。学科教員全体の性別構成をみると、男性教員と女性教員が概ね半々で構成され、バランスの取れた配置となっている。

（２）子ども支援学科の教員組織の編成の考え方及び特色

入学定員100名を有する子ども支援学科の教員組織は、基礎となるライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻（入学定員100名）から異動する専任教員11名で構成される。なおこの専任教員数は、大学設置基準第13条の別表1に定める専任教員数8名を充足するとともに、同別表第2の専任教員数についても大学

全体で充足している。

「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第7条第2項）学科主任を置くとともに、学部内及び学科内に必要に応じ各種委員会等を整備し、全学及び学部と連携を図りながら教育研究を運営する。

本学科では前述の3つの柱（保育学、幼児教育学、社会福祉学（子ども家庭福祉学））を教育研究の中心とし、「④教育課程の編成の考え方及び特色」に対応した領域を専門教育科目に設定していることから、以下の教員構成とする。これに加えて、資格養成等の要員として助教及び助教（実習担当）を合計4名配置する計画である。

＜子ども支援学科の教員構成（完成年度末日時点）＞

○各分野の教員構成

①保育学領域 5名：教授4名（60代2名、50代1名、40代1名）、准教授1名（50代）

②幼児教育学領域 3名：准教授2名（50代2名）、講師1名（50代）

③社会福祉学（子ども家庭福祉学）領域 2名：教授2名（50代2名）

④児童文学 1名：教授1名（60代）

○学科教員全体の身分構成

教授7名（63.64％）、准教授3名（27.27％）、講師1名（9.09％）

○学科教員全体の取得学位構成

博士6名（54.55％）、修士5名（45.45％）

○学科教員全体の年齢構成

60代3名（27.27％）、50代7名（63.64％）、40代1名（9.09％）

○学科教員全体の性別構成

男性3名（27.27%）、女性8名（72.73%）

学科教員全体の身分構成をみると、教授・准教授が約91%となっている。学科の基幹科目は、教授または准教授が担当し、教育の質を担保している。学科教員全体の取得学位構成をみると、博士取得者が約54%となるが、これは保育・幼児教育現場での実践教育に一定の比重を置く本学科の特性によるものである。学科教員全体の年齢構成でみると50代を中心にバランス良く配置されている。なお上記に加え配置する助教及び助教（実習担当）は、30代が中心となる。学科教員全体の性別構成をみると女性教員が約72%となるが、基礎とするライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻学生の女性比率が約94%（令和3（2021）年度時点の在校生平均）と男性よりも圧倒的に高い傾向があり、本領域に携わる職業人の性別構成からみても女性教員に比重を置いた教員配置は適当である。

（３）人間環境デザイン学科の教員組織の編成の考え方及び特色

入学定員160名を有する人間環境デザイン学科の教員組織は、基礎となるライフデザイン学部人間環境デザイン学科（入学定員160名）から異動する専任教員14名で構成される。退職教員等の影響により、完成年度時点では専任教員13名を計画しているが、学科の運営状況や今後の展望によっては専任教員を補充する可能性がある。なおこの専任教員数は、大学設置基準第13条の別表1に定める専任教員数10名を充足するとともに、同別表第2の専任教員数についても大学全体で充足している。

「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第7条第2項）学科主任を置くとともに、学部内及び学科内に必要に応じ各種委員会等を整備し、全学及び学部と連携を図りながら教育研究を運営する。

本学科では前述の3つのコースを教育研究の中心とし、「④教育課程の編成の考え方及び特色」に対応した領域を専門教育科目に設定していることから、以下の教員構成とする。これに加えて、技術指導等の要員として助教及び実習指導助手を合計4名配置する計画である。

＜人間環境デザイン学科の教員構成（完成年度末日時点）＞

○各分野の教員構成

①空間デザイン領域 4名：教授1名（50代）、准教授3名（50代2名、40代1名）

②生活環境デザイン学領域 4名：教授4名（60代1名、50代3名）

③プロダクトデザイン領域 5名：教授3名（60代2名、50代1名）、准教授2名（60代1名、50代1名）

○学科教員全体の身分構成

教授8名（61.54%）、准教授5名（38.46%）

○学科教員全体の取得学位構成

博士10名（76.92%）、学士3名（15.38%）

○学科教員全体の年齢構成

60代1名（7.69%）、50代8名（61.54%）、40代4名（30.77%）

○学科教員全体の性別構

男性9名（69.23%）、女性4名（30.77%）

学科教員全体の身分構成をみると、教授・准教授で100%となる。学科の基幹科目は、教授または准教授が担当し、教育の質を担保している。学科教員全体の取得学位構成をみると、博士取得者が約77%となり、その他は学士取得者となるが、これは実務経験をもってデザインや制作等を行う本学科の特性によるものである。学科教員全体の年齢構成でみると、40代から50代を中心にバランス良く配置されている。なお上記に加え配置する助教及び実習指導助手は、20代から40代となる。学科教員全体の性別構成をみると、男性教員が約69%となるが、基礎とするライフデザイン学部人間環境デザイン学科学生の男性比率が約59%（令和3（2021）年度時点の在校生平均）と女性よりも若干高く、本領域に携わる職業人の性別構成からみても妥当である。

社会福祉学科においては、本学の定年年齢（資料8　教職員定年規程）である65歳を超えて雇用する教員がいるが、これは教育評価が高く、心身ともに健康で、かつ本学が必要とする場合に限定し、最長70歳まで引き続き専任教員として雇用することができる年俸制雇用契約制度（資料9　年俸契約雇用制度に関する要綱）を適用するものである。いずれも学科構想を実現に導くための中心的な役割を担い、国内外において評価の高い研究者である。そして、学生の教育研究指導のみならず、後進の育成にも不可欠な人材である。退職後には速やかに後任となる教員の補充を行い、教員組織は常にバランスを保っていく。

⑪ 施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

福祉社会デザイン学部が設置される赤羽台キャンパスは、JR赤羽駅から徒歩8分、東京メトロ南北線赤羽岩淵駅から徒歩12分程度の場所にあり、都心方面を望む東京都北区赤羽台の高台にある校地面積35884.71㎡の都市型キャンパスである。

赤羽台キャンパスを開学した平成29年（2017年）以降の校地や施設は、学部学科の改組・移転にあわせ以下のとおり変遷している。

平成29年1月　INIAD HUB-1　竣工
平成29年4月　赤羽台キャンパス開学
　　情報連携学部（INIAD）及び情報連携学研究科　開設
令和03年1月　WELLB HUB-2　竣工
令和03年4月　ライフデザイン学部及びライフデザイン学研究科　移転
令和04年1月　AI-House HUB-4　竣工
令和04年4月　国際交流宿舎　開設
令和05年1月　HELSPO HUB-3　竣工
令和05年4月　福祉社会デザイン学部、健康スポーツ科学部、健康スポーツ科学研究科　開設
　　社会学部1部社会福祉学科及び社会福祉学研究科　移転
令和06年4月　食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻　移転

（１）校地の整備概要

前述のとおり、赤羽台キャンパスの校地や施設は、学部学科の改組・移転に併せて計画され、平成29年（2017年）4月に開設した情報連携学部の拠点である「INIAD HUB-1（校地面積13186.46㎡、校舎面積18486.74㎡／地上5階建て）」と、令和3年（2021年）4月に埼玉県朝霞市より移転したライフデザイン学部の拠点である「WELLB HUB-2（校地面積6860㎡、校舎面積21980.12㎡／地下1 階・地上 9 階建て）」に加え、令和5年（2023年）4月にライフデザイン学部等を基礎とした学部の新設にあたり、新たに体育館棟・食堂棟・図書館棟を有する「HELSPO HUB-3（校地面積15837.71㎡、校舎面積31678.94㎡／地下1 階・地上 6階建て）」を建設することとなった。大学設置基準第37条の2に定める校舎面積の基準を十分に満たしており、改組前後における収容定員の増加に対応できる計画となっている。

令和5年（2023年）4月以降は、情報連携学部は従前どおりINIAD HUB-1を、福祉社会デザイン学部は主にWELLB HUB-2を、健康スポーツ科学部は主にHELSPO HUB-3を拠点として、教育研究を始動させる。

イ 校舎等施設の整備計画

前述のとおり、赤羽台キャンパスは、令和5年（2023年）4月にライフデザイン学部等を基礎とした学部の新設により学生数や教育研究内容に対応する環境を整備する。

（１）教室及び教員研究室の整備計画

改組前後の主な概要（予定）は、以下のとおりである。

	WELLB HUB-2 （既設）	HELSPO HUB-3 （新設）	備考
一般教室	20名×8室、30名×1室、45名×6室、 66名×2室、81～84名×7室、102名×2室、 132名×2室、168名×1室、177名×1室、 180名×2室※1、200～204名×2室※1、 210名×1室、252～255名×2室、303名×1室	40名×5室※2、 80名×2室※2、 120名×3室※2	※1 1室増設 ※2 全室増設
PC教室	48名×1室、80名×1室、100名×1室	×	
各種実験実習演習室	○	○※	※増設
スポーツ施設	×	○※	※増設

現在の教室稼働率や新たに増加が見込まれる利用数、WELLB HUB-2及びHELSPO HUB-3で新たに設ける教室を加味して教室稼働率を算出すると、小教室（99名以下）45%、中教室（100～199名）49%、大教室（200名以上）60%、PC教室56%、キャンパス全体で47%となることから、十分な教室数を確保しているといえる（資料10　赤羽台キャンパス教室稼動率、授業時間割表案）。なお、一般教室やPC教室は、2学部の教育課程や時間割を考慮しながら、両学部で共同利用することでWELLB HUB-2とHELSPO HUB-3を有効に活用していく。

既存のWELLB HUB-2に福祉社会デザイン学部の教育内容に即した資格養成等に必要な各種実習室を設けているが、これらも教育効果を考慮した適正なコース数での利用・運営が可能であることを確認している。加えて、健康スポーツ科学部の設置にあたり令和5年(2023年)1月に竣工予定の新棟（体育館棟）に設けられるアリーナ、多目的室等を共同で利用することにより、スポーツ実技の環境も確保している。施設・設備の詳細は、次の（２）WELLB HUB-2の施設設備で説明する。

教員の研究室は、学部ごとに活動拠点の建物に設けることとし、福祉社会デザイン学部教員の研究室はすべてをWELLB HUB-2内に設置する。個室を設けることで情報管理等の機密性を確保するとともに、プライバシーが確保された環境で学生が自由に学修等の相談に訪れることができる。

（２）WELLB HUB-2の施設設備

福祉社会デザイン学部が主に使用するWELLB HUB-2は、一般教室以外に学部・学科の特色でもある専門職に向けた諸資格の取得のための実習設備が完備され、より実践的な知識や技術を学ぶことができる。例えば、介護技術の授業のための介護実習室、入浴実習室、調理実習室等や保育士、幼稚園教諭の授業のための保育実習室、音楽実習室、ピアノ練習室、デザインや制作等の授業や演習で使用する実験工房、制作工房等がある。学生の休息、その他の利用空間として、1階には300席の学生食堂、3階には66席の学生ホールがあり、屋外にはキャンパス内のなかみち広場に面して屋外に設置された階段状のトポテラスや屋外ベンチが設置されている。また、WELLB HUB-2と区道を経てた敷地には、地上6階建ての図書館、一般教室、研究室等が入る図書館棟や、地下1階、地上4階建ての体育館アリーナや268席の学生食堂、健康スポーツ科学部の各種実験室等を兼ね備えたHELSPO HUB-3が令和5年(2023年)1月に竣工予定であり、WELLB HUB-2とHELSPO HUB-3は双方の建物3階部分を区道上空に歩行者用ブリッジを通すことで、学生・教職員の安全かつ円滑な動線を確保している。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

（１）赤羽台キャンパス図書館の整備計画

赤羽台図書館は、前述のとおり令和5年（2023年）のHELSPO HUB-3の設置を機にWELLB HUB-2の3階から移転し、図書館棟として規模や機能を拡充させる。

図書館棟の1～3階には計447席の閲覧席を設ける。これは本学の各附属図書館の収容定員に対する閲覧席数の割合や稼働実績を踏まえると、適切な席数であると考えられる（白山図書館：7.9%、川越図書館：11.8%、朝霞図書館：15.8%、板倉図書館：15.3%（令和2（2020）年3月末の実績）、赤羽台：9.6%（予定））。また、閲覧席のほか、グループ学習室（3室）やセミナー室（1室）、個室学習室（8室）、PCコーナー、アクティブラーニングエリア等の多機能学習機能を備え、教育研究を促進できる機能を整備している。更に、幼児教育研究、保育実習の準備、そして地域貢献という複数の目的を兼ね備えた幼児向け図書コーナー（こども図書館）を館内に設置する。

福祉社会デザイン学部及び健康スポーツ科学部の学生が学ぶ赤羽台キャンパスの図書館は、学部学科の種類や規模を踏まえて、人々のより良い生活環境の実現を支援するという考えで図書等を整備している。福祉社会デザイン学部においては、社会福祉学科で主に公的扶助・生活保護・救貧制度分野2,500冊、神経科学・精神医学分野2,000冊、福祉政策・行財政・法令分野1,000冊、社会保障分野900冊、失業・失業対策・身障者・中高年雇用・老人・老人問題分野300冊等、子ども支援学科で主に幼児教育・保育・就学前教育・幼稚園・保育園分野3,300冊、障害児教育［特別支援教育］分野1,900冊、児童福祉分野1,500冊、教育心理学・教育的環境学分野1,400冊、社会教育分野800冊、家・家族問題分野300冊等、人間環境デザイン学科で主に建築学分野6,300冊、建設工学・土木工学分野3,000冊、技術・工学分野1,900冊、グラフィックデザイン・図案・デザイン・装飾美術分野1,200冊等の図書の整備を計画している。特に学部学科の特性を踏まえ『月刊ケアマネジメント』『障害者問題研究』『訪問看護と介護』『貧困研究』『保育の友』『乳幼児教育学研究』『子どもと発育発達』『新建築』『日経デザイン』『医療福祉建築』『福祉のまちづくり研究』『Wired』『Detail』等を所蔵し、教育研究において有効な学術雑誌等を揃えていく。赤羽台図書館全体で235,400冊の蔵書に加え、大学全体で共同利用できる電子資料も充実していることから、本学部の教育研究を行うに十分な図書等を整備する計画となっている。なお、同じく赤羽台キャンパスに設置されている情報連携学部では、学部独自のコンセプトに従い教育研究施設としてメディアセンターをINIAD HUB-1に設置しており、電子資料による学習支援を行っている。

蔵書構築や電子媒体情報の環境整備等は本学図書館の全学方針のもとに行っているため、詳細は、次の（２）本学図書館の整備計画で説明する。

（２）本学図書館の整備計画

附属図書館は、白山、川越、朝霞（～令和2（2020）年度、令和6（2024）年度～）、板倉（～令和5（2023）年度）、赤羽台（令和3（2021）年度～）の各キャンパス図書館と板倉キャンパスに設置する保存書庫とで構成されており、各館は「附属図書館の理念」に基づき運営している。総合大学としてのメリットを活かして教育研究活動を支援するため、学生・教職員はすべての図書館が利用可能となっている。また、全館の間で相互に資料の予約・取り寄せサービスを行っており、土日祝日を除く平常開館日の2日以内に各キャンパスへ配送される仕組みを整えている。

館内には前述したとおり学生数に見合った閲覧席を設け、グループ学習室等の学生が自由に討論できるスペースも設けている。従来全館においてPCコーナーを整備してきたが、令和2（2020）年度以降はノートPC

等のモバイルデバイスを持参する学生が急増したことから、館内のほぼ全域においてWi-Fi接続環境を整備し、静寂な環境とPC等の機器を利用できる環境とを区分する計画も進めている。

資料収集にあたっては、体系的な蔵書構築を図るため「東洋大学附属図書館収書及び選書方針」に基づき収書を行っている。専門性の高い資料は各学部及び研究科に選書を依頼するとともに、事務部を中心として教養を深化させる資料の選書を行い、教職員が協同して特色ある蔵書構築のための体制を整備している。なお、学生からのリクエストによる資料購入も行う。

データベース・電子ジャーナル等の電子資料については、新規導入はまずトライアルによって有用性を確認し、その後契約を検討する。既存電子資料の利用統計も確認し、実績に即した契約を維持する。この流れを年間のルーチンとすることと並行して、紙媒体資料のデータベース・電子ジャーナルへの置き換えも進めている。また、電子ブックについても予算の割り当てを確保し、利用・保存の両面において場所的制約の少ない電子媒体による学術情報の充実に努めている。なお、平成27（2015）年度からは学外からのアクセス環境を整備したことで、電子資料利用の利便性が飛躍的に向上した。また、令和2（2020）年度からは電子資料や所蔵資料の一括検索を行える「ディスカバリーサービス」を導入したことにより、媒体を問わず効率的に検索することが可能となり、電子資料の利用促進にも繋がっている。

全キャンパスの図書館の蔵書数は、合計で157万冊を超えている。また、オンラインデータベースは98種類、電子ジャーナルは23,808種類、電子ブックは38,295タイトルまで増加しており、非常に有効な教育・研究リソースとなっている（令和3年（2021年）3月末日現在）。

これらの資料については、「東洋大学蔵書検索システムTRiTON-OPAC」に図書館利用者向けの情報が集約されている。蔵書検索では、基本機能としてNII CiNii Books（国立情報学研究所（NII）学術情報ナビゲータ）との同時検索やファセットブラウジング、ブックシェルフ等を備えて利便性の向上を図っており、学内の資料取寄せや貸出中資料の予約等のサービスもここで行える。OPACで検索可能な電子ブックは本文閲覧までワンストップで提供しているほか、データベース検索基盤や電子ブックの各パッケージへのリンクもOPAC上にまとめている。また、令和2（2020）年度には日本語・英語・中国語・韓国語の4 ヶ国語対応、受取館の選択機能追加、メールサービスの拡充等を実現し、利用環境をさらに充実させた。

学外との連携については、NII目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）に参加しており、全国の大学図書館の所蔵検索及び貸借・文献複写等の相互協力を展開している。これらはOPAC を通じて学外からでも申し込むことができる。また、他大学図書館とのネットワークについては「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」「佛教図書館協会」「大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）」「オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）」をはじめ、各地域の協議会等にも加盟し、協定加盟館との相互利用や情報交換、スケールメリットを生かした電子リソース契約交渉の連携等、積極的な協力に努めている。

本学図書館では、閲覧業務（利用者対応及び館内管理業務）を外部委託し、司書の資格を有したスタッフが常駐してレファレンスその他利用者サービスを行っている。近年では本学全体の国際化に合わせて英語対応可能なスタッフも増員した。これらの人員配置により、専任職員は予算管理や図書館システム運用に加え、施設設備およびネットワーク環境の維持、配架計画立案、貴重書・特殊資料のデジタルアーカイブ化等の管理業務を専門的に分担している。また、利用ガイダンスや所蔵資料展示、各種講演等のイベントを企画・実施することで図書館の多様な側面を広報することにも注力しており、学生の積極的な図書館利用を促している。

⑫　管理運営

東洋大学学則第12条の規程により、「学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項及び当該学部の運営に関する事項を審議するために、各学部に教授会を置く。」と定め、各学部に教授会を設置している。教授会は、当該学部の専任の教授、准教授、講師を構成員とし、原則月1回の定例教授会のほか、必要に応じ臨時教授会を開催する。学部長は、教授会を招集しその議長となる。教授会を開催するには構成員の3分の2以上の出席が必要であり、また決議は、教員人事を除き出席構成員の過半数の同意によって成立する。なお、教授会の議題は、以下のとおりである。

（１）学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項（教授会規程 第9条第1項）
・学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
・学位の授与に関する事項
・学則の改正に関する事項
・学部長会議規程の制定改廃に関する事項
・教授会規程の制定改廃に関する事項
・学長が意見を求めるとした、諸規程の制定改廃に関する事項
・附属高校との連携に関する事項
・全学にかかわる教育研究に関する事項
・全学にかかわる教員人事に関する事項
・学生の異動および処分に関する事項
・その他、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が求める事項

（２）当該学部の運営に関する事項（教授会規程 第9条第2項）
・学部長の推薦に関する事項
・中期目標・中期計画の推進に関する事項
・教育研究上の目的に関する事項
・学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの各方針に関する事項
・カリキュラム編成に関する事項
・教員人事に関する事項（資格審査基準内規、昇格及び採用に係わる教育研究業績の審査、退職、処分、役職者の選出、名誉教授の推薦）
・学生生活に関する事項
・ハラスメント防止に関する事項
・研究力向上に関する事項
・研究規範遵守に関する事項
・教育力向上に関する事項
・哲学教育の推進に関する事項
・キャリア教育の推進に関する事項
・国際化の推進に関する事項
・ＦＤ推進に関する事項
・自己点検・評価に関する事項

・産官学連携の推進に関する事項
・社会貢献推進に関する事項
・その他、学部長が必要と認める事項

⑬ 自己点検・評価

本学では、学校教育法第109条に対応して、東洋大学学則第3条に「本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。」と定めている。

本学内の全学的内部質保証推進組織は、学長を本部長とした「大学評価統括本部」が担っており、学長のほか、教学担当常務理事（副本部長）、総務担当常務理事、財務担当常務理事、全学自己点検・評価活動推進委員会委員長、事務局長、教務部長、研究推進部長、教務部事務部長、学長室長、大学評価支援室長で構成され、教学と法人が一体となり、全学的観点で内部質保証を推進する体制を構築している。（資料11　内部質保証体系図）

大学の自己点検・評価活動は、大学評価統括本部によるスケジュールや重点項目等の提示を基に、学部・研究科、その他の諸委員会、大学運営・財務等の法人事務局といった各主体が自己点検・評価活動を行い、「①全学自己点検・評価活動推進委員会」、「②全学委員会部会」、「③大学運営・財政部会」の下で集約された各主体の活動内容が大学評価統括本部に提出され、改善に向けた提言等がなされる仕組みになっている。

①全学自己点検・評価活動推進委員会
活動内容：学部・研究科の自己点検・評価活動
委員構成：内部質保証担当の副学長（委員長）、各学部・研究科の自己点検・評価活動推進委員会の委員長、教務部長、学生部長

②全学委員会部会
活動内容：教育研究等を推進・支援する全学的な諸委員会の自己点検・評価活動
部会構成：大学評価統括本部長（部会長）、全学自己点検・評価活動推進委員会、学生生活委員会、就職・キャリア支援委員会、高等教育推進委員会、図書館運営委員会、学術研究推進委員会、社会貢献センター運営委員会、国際教育センター運営委員会、ラーニングサポートセンター運営委員会、教職センター、井上円了哲学センター、産官学連携推進本部センター、情報委員会、その他大学評価統括本部が指定した委員会等組織等の長、事務局長、学長室長

③大学運営・財政部会
活動内容：大学運営及び財務に関する自己点検・評価活動
部会構成：事務局長（部会長）、学長室、内部監査室、経営企画本部事務室、秘書室、総務部、人事部、経理部、管財部の事務部（室）長

上記①は、原則として毎年実施し、自己点検・評価結果に基づく改善・向上に努めている。また、教員個人レベルの自己点検・評価活動は、授業に関する学生からの評価として全教員が授業評価アンケートを毎年実施するほか、教員自身及び教員組織の自己点検・評価を目的とした教員活動評価を毎年実施し、授業と教

員組織の検証に役立てている。更に、シラバスの第三者点検を毎年全科目分実施し、授業や教員個人の自己点検・評価活動を積極的に取り組んでいる。健康スポーツ科学部では、ユニット単位で教育研究の到達目標や評価項目を設定し、PDCAサイクルを繰り返し行い評価することで、効果的な自己点検評価や学生の学習成果評価、キャリアデザイン評価を行い、学部運営の向上に繋げていく。

上記②③は、部会において連絡調整を図り、共通フォーマットを用いて自己点検・評価を行うとともに、自己点検・評価の妥当性を高めるため、自己点検・評価報告書の記述内容を構成員間で相互チェックするピアレビューを実施し、客観性の担保に努めている。

上記の学内点検に加え、本学の内部質保証推進体制に係る客観性及び妥当性を高めるため、外部評価を行うよう努めている。「大学評価統括本部」は、年1回以上の外部評価を受審することとし、令和2年（2020年）には「全学自己点検・評価活動推進委員会」の外部評価を受審し、その結果を本学ホームページに公表している。また、各学部・研究科の自己点検・評価活動に関しては、中期計画の実施期間等を勘案し外部有識者から意見を聴くこととしている。その他、令和元年（2019年）には本学の国際化戦略への助言と認証を受けるための国際大学協会（IAU）によるISA2.0を受審し、財務に関する評価のための株式会社日本格付研究所（JCR）による財務状況の信用格付を受ける等している。

このように、組織的かつ定期的な自己点検・評価活動に取り組んでおり、中期計画の実行とカリキュラム改訂に係るカリキュラム編成作業等を順次行うことで改善・向上を実現することとし、3 ポリシーを起点としたPDCA サイクルの実現に繋げている。客観性、妥当性を高めるための外部評価の導入についても、それぞれの委員会組織等の役割に応じて第三者の意見をダイレクトに反映されるよう、柔軟に外部評価を実施できるように進めている。

大学基準協会による認証評価では、平成 19（2007）年度の第 1 期、平成 26（2014）年度の第 2 期に続き、令和 3（2021）年度の第 3 期においても「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けている。自己点検・評価体制の改善・強化に努めた結果、第 1 期から第 3 期にかけて評価結果は向上している。

⑭ 情報の公表

本学では、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172条の2に対応して、東洋大学学則第3条の4に「本学は、学校教育法施行規則第172条の2に基づき、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によっての情報を公表する。」と定め、教育研究活動等の状況についての情報の公表に取り組んでいる。

学校教育法施行規則第172条の2に定める教育研究活動等の状況に関する情報については、大学ホームページの「東洋大学TOP＞東洋大学について＞情報公開＞教育情報公開」のページを中心に、すべて公表している。公表している情報は以下のとおりである。

ア　大学の教育研究上の目的に関すること

・各学部学科、各研究科専攻の教育目的・教育目標

（https://www.toyo.ac.jp/about/data/education/purpose_object/ TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開>東洋大学の教育目的・教育目標）

イ　教育研究上の基本組織に関すること

・組織図

（https://www.toyo.ac.jp/foundation/organization/chart/ TOP>学校法人東洋大学>組織>組織図）

ウ　教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・役職一覧
(https://www.toyo.ac.jp/about/president_vicepresidents/ TOP>東洋大学について>学長・副学長)
・教員数
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)
・教員組織・各教員が有する学位及び業績（東洋大学研究者情報データベース含む）
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

エ　入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・各学部学科、各研究科専攻の入学者に関する受入方針
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/69151.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開>3つの方針)
・入学者数
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)
・定員数
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)
・在学生数
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)
・卒業者数・修了者数
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)
・就職者数・進学者数、就職データ・就職状況・主な就職先
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)
(http://www.toyo.ac.jp/site/career/data.html TOP>教育>ｷｬﾘｱ教育・就職支援>就職・ｷｬﾘｱ支援について>就職データ・就職状況・主な就職先)

オ　授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・年間授業計画・シラバス・授業概要
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

カ　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

・履修モデル・主要科目の特長・授業評価基準・卒業（修了）認定基準等（履修要覧抜粋）
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

キ　校地・校舎等の施設及び設備その他学生の教育研究環境に関すること

・各キャンパスの校地・校舎等学生の教育研究環境
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

ク　授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

・授業料・入学料その他大学等が徴収する費用
(http://www.toyo.ac.jp/site/jyugyou/campuslife-g02-index.html TOP>学生生活>授業・納付金（学費等）>納付金（学費等))

ケ　大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

・学生生活支援
(http://www.toyo.ac.jp/life/4/4/ TOP>教育>学生生活)
・キャリア教育・就職支援
(http://www.toyo.ac.jp/life/5/5/ TOP>教育>キャリア教育・就職支援)
・留学生支援
(https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/international/supportgroup/ TOP>国際交流>在学中・入学予定の留学生の方へ>国際交流・留学生支援団体)
(https://www.toyo.ac.jp/academics/career/support/forforeignstudents/ TOP>教育>ｷｬﾘｱ教育・就職支援>就職・ｷｬﾘｱ支援について>外国人留学生向け支援体制)
(http://www.toyo.ac.jp/site/award/award-ssa-index.html TOP>教育>学生生活>奨学金・表彰制度>外国人留学生対象奨学金)
・障がい学生支援
(https://www.toyo.ac.jp/academics/student-support/handicap/ TOP>教育>学生生活>障がい学生支援)

コ　その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

・学則、学部規程
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)
・設置届出書及び履行状況報告書
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/fulfillment.html TOP>東洋大学について>情報公開>学部・学科等設置届出書及び履行状況報告書)
・自己点検・評価

(http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html TOP>教育>東洋大学の教育改革>内部質保証>自己点検・評価)

・認証評価
(https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/accreditation/ TOP>教育>東洋大学の教育改革>認証評価)

・外部評価
(http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/out.html TOP>教育>東洋大学の教育改革>内部質保証>外部評価)

・格付
(http://www.toyo.ac.jp/site/data/rate.html TOP>東洋大学について>情報公開>格付)

また本学では、ステークホルダーによって情報提供の方法や媒体を工夫している。特に、父母等に対しては、上記の公表のみではなく、年 3 回発行される上記の「東洋大学報」を毎号発送し、全国にある父母会（東洋大学甫水会）の支部総会において、学長、学部長、学科長等が教育活動を中心に大学の活動を報告する等、積極的に情報の提供を行っている

⑮ 教育内容の組織的改善を図るための研修等

本学では、大学設置基準第25条の3に対応して、東洋大学学則第3条の3に「本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。」と定め、加えて、「大学の運営の高度化を図ることを目的として、教職員が大学の運営に必要な知識及び義堂を身に付け、能力及び資質を向上させるための研修を実施する。」ことを目的とした、「東洋大学高等教育推進センター」を設置し、以下の事業を行っている。（資料12　高等教育推進センター組織図）

(1) 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
(2) FD及びSDの研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
(3) 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
(4) 新たな教育携帯及び教育プログラム等の研究、開発
(5) 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
(6) その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

「東洋大学高等教育推進センター」では、上記の事業を推進するための「高等教育推進委員会」及び各部会での活動に加えて、学生FDチームによるFD活動や、各学部・研究科でのFD活動がある。学生FDチームによるFD活動は、学生の大学生活の中心である授業を、教員、職員、学生の三位一体で改善、向上させようとする取り組みであり、教職員合同会議の実施や学生を対象としたセミナー・ワークショップの開催、関東圏で学生FD活動に取り組む大学と連携して、情報・意見交換やノウハウの共有、研修等を行っている。各学部・研究科でのFD活動では、学部・研究科内にFD委員会を設け、自己点検・評価委員会と連携しながらFD活動を進めており、毎年発行する「東洋大学高等教育推進センター FD/SD活動報告書」で活動状況の共有化を図っている。

福祉社会デザイン学部では、授業評価アンケートの実施にあたり、全学共通の評価項目に加えて、学部独自の評価項目を設け、学生の意識を汲み取るよう工夫を行う。またアンケート結果は個々の教員に提示し、各教員が授業についての問題点、改善方法等についての報告を行う。更に各学科の学科長は、アンケート結果を確認し、問題分析と総括報告を行う。更にアンケート結果を学科教育にフィードバックするとともに、必要に応じて学部の教授会、FD委員会で教育内容の改善を図る。

本学では授業や学生対応の改善を目的としたFD委員会主催の講演会を毎年開催しており（テーマ事例：ICT活用ワークショップ、googleアプリを利用したリモート授業を充実させるための仕組み、TOYO-Netをベースにした学生相互交流の試み等）、学部教員に対し年2回の研修会を開催し、問題共有の機会を設けている。本学部においてもこれらの活動を踏襲し、課題の共有や改善に努める。

このように大学設置基準第25条の3に則して、「当該大学の授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究」を実施している。

⑯ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

大学設置基準第42条の2「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」を獲得するため、以下の取り組みを行う。

ア 教育課程内の取組について

福祉社会デザイン学部の教育課程には、基盤教育、専門教育のそれぞれにおいて、社会的及び職業的自立を促進するための科目が配置されている。

基盤教育には、キャリア・市民形成の区分が設けられ、「キャリアデザイン入門」、「キャリアデザイン実践」、「キャリアデベロップメント」、「インターンシップ入門」、「アントレプレナーシップ」等自律的なキャリア形成の姿勢を促す科目や、「社会貢献活動入門」、「公務員論」、「地域マネジメント」、「環境政策論」等会社、官公庁、市民活動の仕組みについて教授する科目、「グローバル市民論」、「ダイバーシティ論」、「ジェンダー論」等グローバル社会の一員として必要な倫理や問題意識について講義する科目、「情報化社会と人間」、「情報リテラシー」、「プログラミング基礎」といったSociety5.0の時代に求められる知識や技能を身につける科目等、多様な科目が配置されており、これは卒業要件の単位として認められる。

専門教育においては、社会福祉学科で「ＳＤＧｓ入門」、「福祉ＩＣＴ」、「ジェンダーと福祉」等の現代社会に不可欠な知識と専門領域との関連性を学ぶ科目を、子ども支援学科で「多文化共生保育・教育実践」、「海外保育フィールドワーク」等のダイバーシティ＆インクルージョンの実現を目指した科目を、人間環境デザイン学科で「インターンシップＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ」等の実践教育科目を配置する等、多様な学びや活動経験をキャリアデザインへと結びつけられるようにしている。

イ 教育課程外の取組について

本学では「就職・キャリア支援部」を設置し、全キャンパスに「就職・キャリア支援室」を設けている。入学から卒業（就職）まで長期的なビジョンに立った就職対策プログラムを提供し、学生が自身の適性を見極めながら段階を追ったキャリアを形成していくための取り組みを行っている。

新入生キャリアガイダンスにはじまり、1・2年次には自己の強み・弱みの認識、インターンシップによる就業体験等を通じ、自己理解や自己の可能性、キャリア形成に対する意識の醸成や基礎力の養成を図るための各種プログラムやガイダンス・講座（適性診断 MATCH plus、キャリアガイダンス、インターンシップガイダンス、公務員ガイダンス等）を、3年次には明確な目的意識に基づく進路選択を目指した講演・講義や学生参加型の各種催し（就活準備ガイダンス、筆記試験対策ガイダンス、地方就職ガイダンス、就職活動支援セミナー、業界理解・職種研究セミナー、ビジネスマナー講座、SPIテスト、OBOG訪問、内定者報告会、

模擬面接等）を、4年次にはこれまでのキャリア形成の取り組みを就職に結びつけるための支援（学内企業説明会、マッチング会社説明会、就職相談、就活バックアップセミナー、志望動機対策講座、模擬面接等）を実施し、進路の把握に基づくきめ細かな支援を行う。

更に自身の能力や適性を見極め、職業選択の参考とさせるためのPROGテストも行っている。PROGテストは、入学時に受験しそのフィードバックを通して学生に社会人基礎力形成の重点課題を認識させるとともに、3年次に再度受験し在学中の伸びを検証できるようにしている。

また「国際教育センター」を設置し、キャリア教育や就職支援、国際化に対応した社会人基礎力を養うための取り組みも行っている。国内外グローバル企業におけるインターンシップ・ボランティアプログラムの実施や外国人留学生に対する教育支援を展開するほか、留学・国際交流支援等も行う。

ウ 適切な体制の整備について

全学組織として「就職・キャリア支援委員会」が設置され、各学部から選出された教員が委員として参加し、学生の就職、キャリア支援の全学としての方針の決定を行う。委員会における検討事項は、以下のとおりである。

(1) 就職支援の全学的な対策に関する事項
(2) 求人開拓の促進に関する事項
(3) 学生の進路状況に対する調査に関する事項
(4) 就職支援に必要な統計データ分析に関する事項

「就職・キャリア支援委員会」のもとに「就職・キャリア支援部」が設置され、学部生、大学院生、留学生への就職支援、適正診の受検、企業主催の国内インターンシップ等を運営している。

福祉社会デザイン学部内においても各学科から選出された委員により「キャリア形成支援委員会」を組織し、全学の「就職・キャリア支援委員会」との連携を図りながら学生のキャリア形成に寄与する。各種講座等への周知・参加推奨を図るとともに、各学科主催の業界研究会を実施している。

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

資料１　東京都北区と学校法人東洋大学の協定書、覚書
資料２　学校法人東洋大学と独立行政法人都市再生機構の協定書
資料３　学校法人東洋大学 中期計画　概要図・トピックス
資料４　カリキュラムマップ
　　1. 社会福祉学科
　　2. 子ども支援学科
　　3. 人間環境デザイン学科
資料５　履修モデル
　　1. 社会福祉学科
　　2. 子ども支援学科
　　3. 人間環境デザイン学科
資料６　実習先一覧、実習受入承諾書
　　1. 社会福祉士
　　2. 精神保健福祉士
　　3. 介護福祉士
　　4. 保育士
　　5. 幼稚園教諭
　　6. 高等学校教諭
資料７　訪問先一覧
　　1. 社会福祉国際体験演習
　　2. 海外研修
資料８　教職員定年規程
資料９　年俸契約雇用制度に関する要綱
資料10　赤羽台キャンパス教室稼働率、授業時間割案
資料11　内部質保証体系図
資料12　高等教育推進センター組織図

<資料1>

東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する包括協定書

東京都北区（以下「甲」という。）と学校法人東洋大学（以下「乙」という。）とは、相互の連携と協力に関する基本事項について、次の通り協定を締結する。

（目的）

第１条　この協定は、甲と乙が包括的な協力のもと、相互の資源を活用することにより、地域社会の発展や住民福祉の向上、人材育成や学術の発展に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第２条　甲と乙との相互協力の内容は、次に掲げるとおりとする。

（１）甲と乙の知的、人的及び物的資源の活用に関する事項。

（２）甲と乙が共同して行う事業の推進に関する事項。

（３）地域社会の課題を解決するための取り組みに関する事項。

（４）その他、連携協力を推進するために必要と認める事項。

２　前項各号に掲げる事項に関する具体的な事業内容は、両者が協議のうえ決定する。

（連携の推進）

第３条　甲と乙は、円滑な連携を推進するため、適宜連絡調整を行うものとする。

（守秘義務）

第４条　甲と乙は、本協定に基づく連携に当たり、知り得た秘密事項については、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、その一切について守秘義務があることを確認する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第５条　この協定の期間は、協定成立の日から平成27年3月31日までとする。

２　前項に規定する期間満了の日の３か月前までに、甲乙いずれか一方からこの協定を終了させる旨の意思の表示がない場合は、翌年度の3月31日までの１年間、この協定は更新されたものとみなし、以後も同様の取り扱いとする。

（その他）

第６条　この協定書に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲と乙が協議して定めるものとする。

甲と乙は、協定締結を証するため、本協定２通を作成し、双方記名押印の上、各１通を保有する。

平成２３年６月２９日

甲　所在地　東京都北区王子本町一丁目１５番２２号

東京都北区

代表者　区長　　花　川　　與　惣　太

乙　所在地　東京都文京区白山五丁目２８番２０号

学校法人東洋大学

代表者　理事長　　長　島　　忠　美

東京都北区と学校法人東洋大学との新たな連携施策に関する覚書

東京都北区（以下「甲」という。）と学校法人東洋大学（以下「乙」という。）とは、新たな連携施策に関する基本事項について、次の通り覚書を締結する。

（目的）

第１条　この覚書は、「東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する包括協定書」に基づき、新たな連携施策を実施することにより、地域社会の発展や住民福祉の向上、人材育成や学術の発展に寄与することを目的とする。

（新たな連携施策事項）

第２条　甲と乙との新たな連携施策の内容は、次に掲げるとおりとする。

（１）ワンストップ窓口を通じた地域産業連携事業の拡大に関する事項

（２）社会貢献、社会連携事業の推進に関する事項

（３）教育分野における連携事業の推進（プログラミング教育等）に関する事項

２　前項各号に掲げる事項に関する具体的な事業内容は、両者が協議のうえ決定する。

（連携の推進）

第３条　甲と乙は、円滑な連携を推進するため、適宜連絡調整を行うものとする。

（守秘義務）

第４条　甲と乙は、本覚書に基づく連携に当たり、知り得た秘密事項については、本覚書の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、その一切について守秘義務があることを確認する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第５条　この覚書の期間は、覚書成立の日から平成32年３月31日までとする。

２　前項に規定する期間満了の日の３か月前までに、甲乙いずれか一方からこの覚書を終了させる旨の意思の表示がない場合は、翌年度の３月31日までの１年間、この覚書は更新されたものとみなし、以後も同様の取り扱いとする。

（その他）

第６条　この覚書に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲と乙が協議して定めるものとする。

甲と乙は、覚書締結を証するため、本覚書２通を作成し、双方記名押印の上、各１通を保有する。

平成２９年３月１９日

甲　　所在地　東京都北区王子本町一丁目１５番２２号

東京都北区

代表者　区長　　花　川　　與　惣　太

乙　　所在地　東京都文京区白山五丁目２８番２０号

学校法人東洋大学

代表者　理事長　　福　川　　伸　次

東京都北区と学校法人東洋大学との包括協定推進に関する覚書

東京都北区（以下「甲」という。）と学校法人東洋大学（以下「乙」という。）とは、平成33年（2021年）年4月1日の東洋大学ライフデザイン学部の赤羽台キャンパスへの移転並びに平成35年（2023年）4月1日の東洋大学福祉社会デザイン学部及び健康スポーツ科学部の赤羽台キャンパスでの開設を踏まえ、平成29年（2017年）3月19日に締結した「東京都北区と学校法人東洋大学との新たな連携施策に関する覚書」を解消し、新たに次のとおり覚書を締結する。

（目的）

第１条　この覚書は、「東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する包括協定書」に基づき、円滑な連携を推進することにより、地域社会の発展や住民福祉の向上、人材育成や学術の発展に寄与することを目的とする。

（所掌事項）

第２条　甲と乙との包括協定推進に関する内容は、次に掲げるとおりとする。

（１）教育・研究に関わる連携事業に関する事項

（２）社会貢献、社会連携事業に関する事項

（３）ワンストップ窓口を通じた地域産業連携事業等の拡大に関する事項

２　前項各号に掲げる事項に関する具体的な事業内容は、両者が協議のうえ決定する。

（連携の推進）

第３条　甲と乙は、別紙に定める「東京都北区と学校法人東洋大学とで組織する地域連携のための体制（プラットフォーム）」を組織し、協議のうえ連携を推進する。

（守秘義務）

第４条　甲と乙は、本覚書に基づく連携に当たり、知り得た秘密事項については、本覚書の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、その一切について守秘義務があることを確認する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。

（有効期間）

第５条　この覚書の期間は、覚書成立の日から平成34年(2022年)3月31日までとする。

２　前項に規定する期間満了の日の３か月前までに、甲乙いずれか一方からこの覚書を終了させる旨の意思の表示がない場合は、翌年度の3月31日までの1年間、この覚書は更新されたものとみなし、以後も同様の取り扱いとする。

（その他）
第６条　この覚書に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲と乙が協議して定めるものとする。

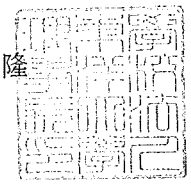
甲と乙は、覚書締結を証するため、本覚書２通を作成し、双方記名押印の上、各１通を保有する。

平成３１年（２０１９年）２月１４日

甲　所在地　東京都北区王子本町一丁目１５番２２号
東京都北区
代表者　区長　花川　興惣太



乙　所在地　東京都文京区白山五丁目２８番２０号
学校法人東洋大学
代表者　理事長　安齋　隆



別紙

東京都北区と学校法人東洋大学とで組織する地域連携のための体制（プラットフォーム）

区分	所掌事務
幹事会	包括協定推進に関する連携事業の計画及び報告・検証に関すること
事務局	1　幹事会の運営に関すること 2　体制全体の運営・調整に関すること
ベース協議会	1　教育・研究に関わる連携事業の推進に関すること 2　社会貢献、社会連携事業の推進に関すること
プロジェクト部会	時限的な連携事業に関すること
テーマ別部会	1　ワンストップ窓口を通じた地域産業連携事業等の拡大に関すること 2　その他の連携協力に関すること

<資料2>

学校法人東洋大学と独立行政法人都市再生機構との連携協力に関する包括協定書

学校法人東洋大学（以下「甲」という。）と独立行政法人都市再生機構（以下「乙」という。）とは、相互の連携協力に関する基本事項について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　この協定は、甲と乙が包括的な連携協力のもと、2021年４月１日の東洋大学ライフデザイン学部の赤羽台キャンパスへの移転、2023年４月１日の東洋大学福祉社会デザイン学部及び健康スポーツ科学部の赤羽台キャンパスでの開設、並びに乙が目指す多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちの実現を踏まえ、相互の資源を活用することにより、乙が所有する団地（以下「団地」という。）を含む地域の活性化、住民福祉の向上、人材育成及び学術の発展に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第２条　甲と乙の連携協力に関する内容は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　子育て支援に関する事項
(2)　若年世代の団地内居住の促進に関する事項
(3)　高齢者支援に関する事項
(4)　コミュニティの活性化支援に関する事項
(5)　新たなライフスタイルの提案に関する事項
(6)　団地住民の健康増進に関する事項
(7)　団地の活性化に関する事項
(8)　その他甲及び乙が必要と認める事項

（地域連携プラットフォームの設置）

第３条　甲と乙は、円滑な連携協力を推進するための協議体として、地域連携プラットフォームを設置し、前条各号に掲げる事項に関する具体的な事業内容（以下「事業」という。）、事業を実施する団地、事業実施に当たっての条件及び費用負担等について協議し、取り決めるものとする。また、甲及び乙は、各事業に関する状況報告及び意見交換を定期的に行うものとする。

２　事業を実施する団地については、甲が所有するキャンパスの周辺に存する団地のうち、甲乙協議の上、選定するものとする。

（守秘義務）

第４条　甲と乙は、この協定に基づく連携に当たり、知り得た秘密事項については、この協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、その一切について守秘義務があることを確認する。ただし、法令等に基づく開示若しくは提供による場合又は事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第５条　この協定の期間は、この協定成立の日から 2024 年 3 月 31 日までとする。

２　前項に規定する期間満了の日の３か月前までに、甲乙いずれか一方からこの協定を終了させる旨の意思の表示がない場合は、翌年の 3 月 31 日までの１年間、この協定は同一条件で更新されたものとみなし、以後も同様の取り扱いとする。

（その他）

第６条　この協定に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、その都度、甲乙協議して定めるものとする。

甲及び乙は、この協定の締結を証するため、本書２通を作成し、双方記名押印の上、各自１通を保有する。

2019 年 2 月 26 日

甲　東京都文京区白山五丁目２８番２０号

学校法人東洋大学

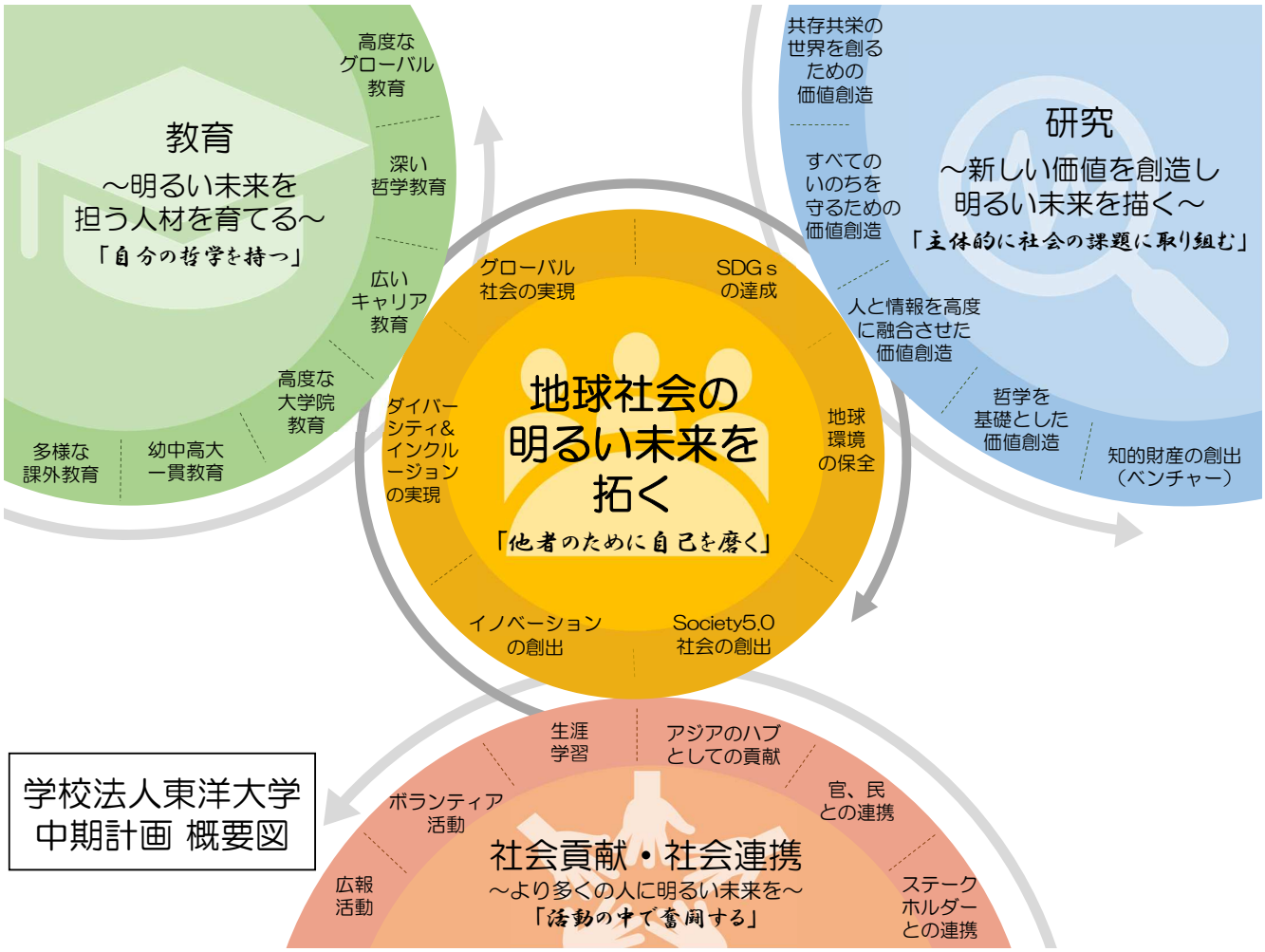
理事長　安齋　隆

乙　東京都新宿区西新宿六丁目５番１号

独立行政法人都市再生機構東日本賃貸住宅本部

本部長　吉田　滋

<資料3>



学校法人東洋大学
中期計画 概要図

学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」トピックス

【④】諸学の基礎「哲学」の実践

- 「22世紀の世界哲学」の構築（重点研究推進プログラム）
- 井上円了研究の世界的研究拠点ネットワークの組織化
- 中学校から大学まで一貫した哲学教育の推進による「生きる力」と「自分の哲学」を持った人材の養成

【⑤】アスリート支援・スポーツ振興

- アスリートをスポーツ科学と栄養科学の両面から支える新学部「健康スポーツ科学部」の設置
- 新学部のポリシーとUNIVASの精神による、アスリートや監督コーチへの技術支援、学習支援、デュアルキャリア支援の推進
- バイオミメティクス（生体模倣）を取り入れた国産カヌーの開発によるオリンピアンの支援
- アスリートサポートから高齢者ヘルスサポート技術への展開（重点研究推進プログラム）

【①】最前線の社会課題への取り組み

<グローバル社会を生きる>

- スーパーグローバル大学としてのTOYO GLOBAL DIAMONDS構想の推進
- 中学校から大学まで一貫したグローバル教育の推進によるグローバル人材の育成
- キャンパス内にとどまらない、全世代型グローバル教育の提供
- 英語トラック整備による、海外からのグローバル人材の積極的な獲得

<ダイバーシティ社会を生きる>

- ダイバーシティ・インクルージョンの推進による活力ある、多様性に富んだ、差別のない社会の実現への貢献
- 多様性と調和に価値を置く多文化共生とダイバーシティマネジメント研究の推進

<人生100年時代を生きる>

- 「つながりがある社会」を支える価値とその支援システムを研究（重点研究推進プログラム）
- 人生100年時代に対応した多様な生涯学習機会の提供

<ウイルスと生きる>

- バイオミメティクスによるウイルス感染症簡易検出システムの開発

【②】SDGsへの挑戦 ―共存共栄な世界の創出―

- 生活環境の改善による開発途上国の人間の安全保障の実現（重点研究推進プログラム）
- 持続可能なインフラメニューと実現戦略の提案によるグローバルな協調の再構築（重点研究推進プログラム）
- アジアにおける福祉社会デザイン、健康社会デザインの展開
- ボランティア活動等を通じたSDGs時代を生きる若者の啓蒙

【③】Society5.0への対応 ―近未来の情報社会を生きる―

- 「文・芸・理の融合」を目指す情報連携学部（INIAD）による新学問領域の創造
- INIAD cHUBのOpen IoT教育プログラムによる社会人のリカレント教育
- 都市のIoT化のためのプラットホーム構築の検討プロジェクト推進
- 独創的なアイデアやシーズをビジネスに繋ぐオープンイノベーションのマインドを養成するキャリア支援
- 中学校から大学まで一貫した、情報教育の推進による情報社会市民の養成

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科　カリキュラムマップ

<資料4-1>

＜本学科の独自性を表す科目＞
■福祉制度政策系科目　■福祉社会開発系科目　■福祉臨床系科目

（　）基盤教育科目

社会福祉学の専門性を深める

福祉制度政策系

社会保障Ⅰ・Ⅱ、
保健医療と福祉、
制度・政策・施設史、
（社会学）
（公務員論）
（社会貢献活動入門）

福祉社会開発系

福祉サービスの組織と経営、
ソーシャルアクション論、
福祉ICT

地域福祉と包括的支援体制

福祉臨床系

フィールドで学ぶ

地域医療福祉専門実習Ⅰ・Ⅱ、介護福祉実習Ⅰ～Ⅳ
ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ（社福）、
ソーシャルワーク実習（精神）、
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ～Ⅲ（社福）（精神）

支援の展開過程を学ぶ

医療福祉演習Ⅰ・Ⅱ、介護総合演習Ⅰ～Ⅳ、介護過程Ⅰ～Ⅳ、
ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ（社福）
ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲ（精神）

社会福祉学の展開方法を学ぶ

国際貢献を学ぶ

国際社会福祉論A・B、社会福祉国際体験演習A・B、
国際福祉開発交流、社会開発論、SDGｓ入門

価値・倫理・人権・司法を学ぶ

価値と倫理に基づく実践史、
社会福祉の権利、権利擁護を支える法制度、
刑事司法と福祉、（哲学）（法学）

福祉の対象を学ぶ

障害者福祉、高齢者福祉、児童・家庭福祉、
貧困に対する支援、ジェンダーと福祉

ソーシャルワーク、ソーシャルケアを学ぶ

医療ソーシャルワーク論、ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ～Ⅳ
介護コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ、医療的ケアⅠ～Ⅲ、
生活支援技術Ⅰ～X、人間の幸福とペット

メディカルとメンタルヘルスを学ぶ

精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ、精神障害リハビリテーション論、
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ、精神医学と精神医療Ⅰ・Ⅱ、
精神保健福祉制度論、現代社会とメンタルヘルス、
こころとからだのしくみⅠ～Ⅲ、発達と老化の理解、
認知症の理解Ⅰ・Ⅱ、（心理学）

地域を基盤とした福祉を学ぶ

バリアフリー論、居住福祉論、災害と福祉、スクールソーシャルワーク論、
ケアマネジメント論、ケアワーク論、現代的福祉課題A・B、社会統計学

社会福祉学の基礎理論を学ぶ

社会福祉学入門、社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ、アドミニストレーション論、
社会福祉発達史、社会福祉調査の基礎

ゼミナール

＜4年次＞
専門演習Ⅱ
分野の選択

＜3年次＞
専門演習Ⅰ
分野の選択

＜2年次＞
総合演習
系の選択

＜1年次＞
基礎演習

<資料4-2>

福祉社会デザイン学部　子ども支援学科　カリキュラムマップ

ＤＰ１：知識・理解　保育学、幼児教育学、子ども家庭福祉学に関する基礎的知識を体系的に習得していること。

ＤＰ２：問題解決能力・協同性　保育・幼児教育・子ども家庭福祉の課題に対する科学的探究心を持ち、他者と協同しながら主体的に問題を解決する能力を身につけていること。

ＤＰ３：子どもの人権、主体性　子どもの人権や主体性を尊重し、多様な育ちや幸福を支えていくための倫理観を基盤とした保育・教育を行う姿勢と技能を身につけていること。

ＤＰ４：多文化共生理解　多様な価値観や文化への関わりを通して、ローカル及びグローバルな視点から保育・幼児教育・子ども家庭福祉における多文化共生の意義や方法を理解していること。

ＤＰ５：ＩＣＴ活用能力　保育・幼児教育・子ども家庭福祉の質の向上に向け、ＩＣＴを活用して情報を共有、管理、分析する能力を身につけていること。

ＤＰ６：幅広い教養　多角的な視野から幅広い教養を身につけ、さまざまな知見を活用・統合する能力を身につけていること。

学年/DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
4年	子ども家庭支援論	子ども支援学演習ⅣＡ				
	乳児保育Ⅱ	子ども支援学演習ⅣＢ				
		子育て支援		子育て支援		
		保育実習指導Ⅱ（保育所）				
		保育実習指導Ⅲ（施設）				
		保育実習Ⅱ（保育所）				
		保育実習Ⅲ（施設）				
		保育・教職実践演習				
		ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）				
	卒業論文					
		卒業制作				
3年		子ども支援学演習ⅢＡ	多文化共生保育・教育			
	子どもソーシャルワーク	子ども支援学演習ⅢＢ	子どもソーシャルワーク			子どもソーシャルワーク
	子どもの健康と安全	保育内容の指導法（環境）				子どもの健康と安全
	子どもの理解と援助	保育内容の指導法（音楽表現）				子どもの理解と援助
	子ども家庭支援の心理学	保育実習ⅠＢ（保育所）				
		保育実習指導ⅠＢ（保育所）				
		保育・教育相談				
		幼児教育方法			幼児教育方法	
		保育指導法				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）				
		ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）				
		ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）				
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ				
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				
		ソーシャルワーク実習Ⅱ				
		教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）				
2年	子ども支援学演習ⅡＡ			貧困に対する支援		子どもの保健
	子ども支援学演習ⅡＢ			地域福祉と包括的支援体制Ⅰ		
	保育者論	ソーシャルワーク演習Ⅰ		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ		
	子どもと環境		社会的養護内容			
	子どもの保健	保育実習ⅠＡ（施設）				
	乳児保育Ⅰ	保育実習指導ⅠＡ（施設）				
	教育心理学	保育内容の指導法（言葉）	権利擁護を支える法制度			
	音楽表現専門演習	保育内容の指導法（健康）	特別支援教育・保育Ⅱ			
		保育内容の指導法（人間関係）				
		保育内容の指導法（造形表現）				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）				
		ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）				
		福祉レクリエーション				
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ				
		ソーシャルワーク実習Ⅰ				
		発達心理学専門演習				
		保育音楽表現技術Ⅰ				
		保育音楽表現技術Ⅱ				
		音楽あそびの実践				
		体育あそびの実践				
		造形あそびの実践				
1年	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ				情報リテラシーⅠ	
	子ども支援学概論		子ども支援学概論		情報リテラシーⅡ	
	子ども支援学演習Ⅰ			国際文化事情Ａ		
	保育原理		保育原理	国際文化事情Ｂ		
	児童・家庭福祉		社会福祉の原理と政策Ⅰ			
	社会的養護					
	教育と福祉		教育と福祉			
	教育基礎論		国語表現法	高齢者福祉		
	教育制度論		教育基礎論	障害者福祉		
	子どもと健康		教育制度論			
	子どもと人間関係				社会福祉調査の基礎	
	子どもと言葉					
	子どもと表現Ⅰ					
	子どもと表現Ⅱ					国語表現法
	社会福祉の原理と政策Ⅱ		社会福祉の原理と政策Ⅱ			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ					
	医学概論					医学概論
	社会福祉発達史		海外保育フィールドワーク	海外保育フィールドワーク		社会福祉発達史
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	子育て支援実践		子育て支援実践		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ
	子どもの権利と教育	生活と総合学習	子どもの権利と教育			
	子どもと文学		多文化共生保育・教育実践			子どもと文学
	子どもの食と栄養（実習含む）					子どもの食と栄養（実習含む）
	幼児教育論		国際児童福祉			国際児童福祉
	発達心理学		特別支援教育・保育Ⅰ			
	保育内容総論			保育内容総論		

福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科　カリキュラムマップ

ＤＰ１：知識の修得：デザインや構想に関する広範かつ専門的な知識を修得した学生。

ＤＰ２：デザインに関わる技術の修得：デザインや構想を表現する具体的な技術や方法を修得した学生。

ＤＰ３：発想力の獲得：デザインや構想に関する着想を発見し、それを形にする能力を獲得した学生。

ＤＰ４：コミュニケーション能力の修得：デザインや構想を検討する際に他者と議論を交わしたり、あるいは自分のデザイン（や構想）を伝えるためのコミュニケーション能力を修得した学生。

ＤＰ５：表現力の獲得：デザインや構想を精度の高い作品として表現したり、プレゼンテーションする能力を獲得した学生。

ＤＰ６：哲学の確立：社会情勢や地球環境を理解し、デザイナーとしての哲学をもって社会と関わる能力を獲得した学生。

学年/DP	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
4年					卒業研究	
				空間デザイン演習ⅡＡ		
				空間デザイン演習ⅡＢ		
				生活環境デザイン演習ⅡＡ		
				生活環境デザイン演習ⅡＢ		
				プロダクトデザイン演習ⅡＡ		
				プロダクトデザイン演習ⅡＢ		
				環境設計演習		
3年	産業とプロダクトデザイン	調査分析のデザイン	空間デザイン演習ＩＡ			
	認知科学	情報メディアデザイン	空間デザイン演習ＩＢ			
	ランドスケープデザイン	インターンシップA	生活環境デザイン演習ＩＡ			
	デザイン特別講義	インターンシップB	生活環境デザイン演習ＩＢ			
	建築とまちのUD	インターンシップC	プロダクトデザイン演習ＩＡ			
	安全工学	インターンシップD	プロダクトデザイン演習ＩＢ			
		建築空間構成論	福祉住環境コーディネート論			
	材料力学		プロダクトデザインⅠ			
	構法計画	構法計画演習A				
	都市計画論	情報デザインⅡ				
	福祉デザイン工学各論	グラフィックデザイン論				
	リハビリテーション工学	表現手法				
	医療福祉建築計画					
	支援技術とデザイン					
	プロダクトデザインⅡ					
	メカトロニクス・デザイン					
2年	マーケティング	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	住居計画			
	建築歴史意匠B	人間環境デザイン総合演習	デザイン思考法			
	生活空間計画	CAD演習Ⅱ	環境デザイン論			
	福祉デザイン工学概論	コンピュータ・グラフィックス		コンピュータ・グラフィックス		
	構造力学					
	デザイン工学基礎	インテリアデザイン				
	デザイン工学応用					
	環境計画					
	まちづくり					
	情報デザインⅠ					
1年	人間環境デザイン学概論	情報リテラシーⅠ		国際文化事情A		
	ユニバーサルデザイン概論	情報リテラシーⅡ		国際文化事情B		
	製品と情報のUD	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ				
	プロダクトデザイン基礎	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ				
	生活支援デザイン概論	CAD演習Ⅰ				
	材料・素材一般					
	建築生産					
	色彩論					
	都市・まちのデザイン					
	道具の歴史					

<資料5-1>

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科履修モデル（資格なし）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎		社会学 心理学	2 2							4
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2							4
	健康・スポーツ科学										0
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		社会福祉学入門 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2			社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ	2 2	社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ	2 2	22
	選択必修科目				社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ	2 2					4
	学科選択科目		社会福祉調査の応用 統計情報処理および実習 アドミニストレーション論 欧米の社会福祉史 社会開発論 高齢者福祉 児童・家庭福祉 社会福祉発達史	2 2 2 2 2 2 2 2	ケアワーク論 保健医療と福祉 ソーシャルワーク実習Ⅰ 貧困に対する支援 福祉サービスの組織と経営 質的調査法 社会統計解析法 社会統計学 貧困に対する支援 福祉サービスの組織と経営 質的調査法 社会統計学 ＳＤＧｓ入門	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ケアマネジメント論 現代社会とメンタルヘルス 国際福祉開発交流 災害と福祉 ジェンダーと福祉 スクールソーシャルワーク論 ソーシャルアクション論 人間の幸福とペット バリアフリー論 福祉ＩＣＴ 居住福祉論 国際社会福祉論Ａ 国際社会福祉論Ｂ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	卒業論文 現代的福祉課題Ａ 現代的福祉課題Ｂ 社会福祉の権利 制度・政策・施設史	4 2 2 2 2	80
	介護福祉士コース科目										0
年間単位数			44		34		30		16		
合計単位数			124								

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科履修モデル（社会福祉士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎		社会学	2							4
			心理学	2							
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA	1	英語ⅢA	1					8
			英語ⅠB	1	英語ⅢB	1					
			英語ⅡA	1	英語ⅣA	1					
			英語ⅡB	1	英語ⅣB	1					
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ	2							4
			情報リテラシーⅡ	2							
	健康・スポーツ科学										0
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		社会福祉学入門	2			社会福祉学専門演習Ⅰ	2	社会福祉学専門演習Ⅲ	2	22
			社会福祉学基礎演習Ⅰ	2			社会福祉学専門演習Ⅱ	2	社会福祉学専門演習Ⅳ	2	
			社会福祉学基礎演習Ⅱ	2							
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2							
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2							
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	2							
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2							
	選択必修科目				ソーシャルワーク演習Ⅰ	2					4
					ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2					
	学科選択科目		医学概論	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2	83
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	2	卒業論文	4	
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	2	地域医療福祉専門実習Ⅰ	2	
			社会福祉調査の基礎	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	地域医療福祉専門実習Ⅱ	2	
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	福祉サービスの組織と経営	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	社会福祉の権利	2	
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	社会保障Ⅰ	2	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	制度・政策・施設史	2	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	社会保障Ⅱ	2	現代的福祉課題A	2			
			高齢者福祉	2	貧困に対する支援	2	現代的福祉課題B	2			
			障害者福祉	2	保健医療と福祉	2	医療福祉演習Ⅰ	2			
			児童・家庭福祉	2	権利擁護を支える法制度	2	医療福祉演習Ⅱ	2			
					刑事司法と福祉	2					
					ソーシャルワーク演習Ⅰ	2					
					ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2					
					ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1					
					ソーシャルワーク実習Ⅰ	2					
	介護福祉士コース科目										0
年間単位数			48		37		24		18		
合計単位数			127								

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科履修モデル（社会福祉士・介護福祉士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎						社会学	2			4
							心理学	2			
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA	1	英語ⅢA	1					8
			英語ⅠB	1	英語ⅢB	1					
			英語ⅡA	1	英語ⅣA	1					
			英語ⅡB	1	英語ⅣB	1					
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ	2							4
			情報リテラシーⅡ	2							
	健康・スポーツ科学										0
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		社会福祉学入門	2			社会福祉学専門演習Ⅰ	2	社会福祉学専門演習Ⅲ	2	22
			社会福祉学基礎演習Ⅰ	2			社会福祉学専門演習Ⅱ	2	社会福祉学専門演習Ⅳ	2	
			社会福祉学基礎演習Ⅱ	2							
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2							
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2							
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	2							
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2							
	選択必修科目				ソーシャルワーク演習Ⅰ	2					4
					ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2					
	学科選択科目		医学概論	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	ケアワーク論	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2	73
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	2	卒業論文	4	
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	貧困に対する支援	2	現代的福祉課題Ｂ	2	
			社会福祉調査の基礎	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	2			
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	福祉サービスの組織と経営	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	2			
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	保健医療と福祉	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1			
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	権利擁護を支える法制度	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1			
			高齢者福祉	2	刑事司法と福祉	2	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4			
			障害者福祉	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	現代的福祉課題Ａ	2			
			児童・家庭福祉	2	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2	社会保障Ⅰ	2			
					ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	社会保障Ⅱ	2			
					ソーシャルワーク実習Ⅰ	2					
	介護福祉士コース科目		介護過程Ⅰ	1	介護コミュニケーション技術Ⅰ	2	医療的ケアⅠ	2	介護過程の応用	1	61
			介護総合演習Ⅰ	1	介護過程Ⅱ	1	医療的ケアⅡ	2	医療的ケアⅢ	2	
			介護福祉援助概論Ⅰ	2	介護総合演習Ⅱ	1	介護コミュニケーション技術Ⅱ	2	介護過程Ⅳ	1	
			介護福祉実習Ⅰ	2	介護総合演習Ⅲ	1	介護過程Ⅲ	1	介護福祉実習Ⅳ	2	
			生活支援技術Ⅰ	1	介護福祉援助概論Ⅱ	2	介護総合演習Ⅳ	1	生活支援技術Ⅸ	1	
			認知症の理解Ⅰ	2	介護福祉実習Ⅱ	3	介護福祉実習Ⅲ	3	介護教育方法	2	
			こころとからだのしくみⅠ	2	生活支援技術Ⅱ	1	生活支援技術Ⅵ	1	生活支援のための運動学とリハビリテーション	2	
					生活支援技術Ⅲ	1	生活支援技術Ⅶ	1			
					生活支援技術Ⅳ	1	生活支援技術Ⅷ	1			
					生活支援技術Ⅴ	1	生活支援技術Ⅹ	1			
					認知症の理解Ⅱ	2	発達と老化の理解	2			
					こころとからだのしくみⅡ	2	実習指導の理論と方法	2			
					こころとからだのしくみⅢ	2					
年間単位数			55		51		49		23		
合計単位数			178								

※介護福祉士コース：履修科目の登録の上限：半期28単位（年間56単位）

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科履修モデル（社会福祉士・精神保健福祉士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎						社会学 心理学	2 2			4
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2							4
	健康・スポーツ科学										0
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		社会福祉学入門 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2			社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ	2 2	社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ	2 2	22
	選択必修科目				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2 2					4
	学科選択科目		医学概論 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ 社会福祉調査の基礎 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 高齢者福祉 障害者福祉 児童・家庭福祉 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 福祉サービスの組織と経営 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ 保健医療と福祉 権利擁護を支える法制度 刑事司法と福祉 ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 精神医学と精神医療Ⅰ 精神医学と精神医療Ⅱ 精神保健福祉の原理（Ⅰ） 精神保健福祉の原理（Ⅱ） ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）（精神） ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（精神）	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ 貧困に対する支援 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉制度論 ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神） 現代的福祉課題A 現代社会とメンタルヘルス	2 2 2 1 1 4 2 2 2 2 2 1 2 2	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文 ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神） ソーシャルワーク実習（精神） 現代的福祉課題B	2 4 2 1 1 4 2	106
	介護福祉士コース科目										0
年間単位数			48		47		35		20		
合計単位数			150								

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科履修モデル（社会福祉士・社会調査士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎		社会学 心理学	2 2							4
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2							4
	健康・スポーツ科学										0
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		社会福祉学入門 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2			社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ	2 2	社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ	2 2	22
	選択必修科目				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2 2					4
	学科選択科目		医学概論 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ 社会福祉調査の基礎 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 高齢者福祉 障害者福祉 児童・家庭福祉	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 福祉サービスの組織と経営 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ 貧困に対する支援 保健医療と福祉 権利擁護を支える法制度 刑事司法と福祉 ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 社会福祉調査の応用 統計情報処理および実習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ 現代的福祉課題A 現代的福祉課題B 医療福祉演習Ⅰ 医療福祉演習Ⅱ 質的調査法 社会統計解析法 社会統計学	2 2 2 1 1 4 2 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文 地域医療福祉専門実習Ⅰ 地域医療福祉専門実習Ⅱ 社会福祉の権利 制度・政策・施設史 社会福祉調査の基礎 社会調査および実習Ⅰ 社会調査および実習Ⅱ	2 4 2 2 2 2 2 2 2	99
	介護福祉士コース科目										0
年間単位数			48		41		30		24		
合計単位数			143								

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科履修モデル（介護福祉士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎		社会学	2	心理学	2					4
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2							4
	健康・スポーツ科学										0
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		社会福祉学入門 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2			社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ	2 2	社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ	2 2	22
	選択必修科目				社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ	2 2					4
	学科選択科目		アドミニストレーション論 欧米の社会福祉史 社会開発論 医学概論 高齢者福祉 社会福祉調査の基礎 社会福祉発達史 障害者福祉 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） 権利擁護を支える法制度 福祉サービスの組織と経営 ケアワーク論 保健医療と福祉 質的調査法 社会統計解析法 社会統計学 ＳＤＧｓ入門 ケアマネジメント論 現代社会とメンタルヘルス 国際福祉開発交流 災害と福祉	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ 社会福祉の権利 制度・政策・施設史 医療ソーシャルワーク論 現代的福祉課題Ａ	2 2 2 2 2 2	医療福祉演習Ⅰ 医療福祉演習Ⅱ ソーシャルアクション論 人間の幸福とペット バリアフリー論 福祉ＩＣＴ 現代的福祉課題Ｂ	2 2 2 2 2 2 2	70
	介護福祉士コース科目		介護過程Ⅰ 介護総合演習Ⅰ 介護福祉援助概論Ⅰ 介護福祉実習Ⅰ 生活支援技術Ⅰ 認知症の理解Ⅰ こころとからだのしくみⅠ	1 1 2 2 1 2 2	介護コミュニケーション技術Ⅰ 介護過程Ⅱ 介護総合演習Ⅱ 介護総合演習Ⅲ 介護福祉援助概論Ⅱ 介護福祉実習Ⅱ 生活支援技術Ⅱ 生活支援技術Ⅲ 生活支援技術Ⅳ 生活支援技術Ⅴ 認知症の理解Ⅱ こころとからだのしくみⅡ こころとからだのしくみⅢ	2 1 1 1 2 3 1 1 1 1 2 2 2	医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ 介護コミュニケーション技術Ⅱ 介護過程Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護福祉実習Ⅲ 生活支援技術Ⅵ 生活支援技術Ⅶ 生活支援技術Ⅷ 生活支援技術Ⅹ 発達と老化の理解 実習指導の理論と方法	2 2 2 1 1 3 1 1 1 1 2 2	介護過程の応用 医療的ケアⅢ 介護過程Ⅳ 介護福祉実習Ⅳ 生活支援技術Ⅸ 介護教育方法 生活支援のための運動学とリハビリテーション	1 2 1 2 1 2 2	61
年間単位数			55		56		35		29		
合計単位数			175								

※介護福祉士コース：履修科目の登録の上限：半期28単位（年間56単位）

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科履修モデル（社会福祉士・精神保健福祉士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎						社会学 心理学	2 2			4
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2							4
	健康・スポーツ科学										0
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		社会福祉学入門 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2			社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ	2 2	社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ	2 2	22
	選択必修科目				社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ	2 2					4
	学科選択科目		医学概論 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ 社会福祉調査の基礎 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 高齢者福祉 障害者福祉 児童・家庭福祉 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 福祉サービスの組織と経営 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ 保健医療と福祉 権利擁護を支える法制度 刑事司法と福祉 ＳＤＧｓ入門 ケアマネジメント論 精神医学と精神医療Ⅰ 精神医学と精神医療Ⅱ 精神保健福祉の原理（Ⅰ） 精神保健福祉の原理（Ⅱ） ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）（精神） ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（精神）	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門） 社会福祉の権利 制度・政策・施設史 医療ソーシャルワーク論 貧困に対する支援 精神障害リハビリテーション論 精神保健福祉制度論 ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神） 現代社会とメンタルヘルス	2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2	卒業論文 人間の幸福とペット バリアフリー論 福祉ＩＣＴ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神） ソーシャルワーク実習（精神）	4 2 2 2 2 1 1 4	99
	介護福祉士コース科目										0
年間単位数			48		44		29		22		
合計単位数			143								

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科履修モデル（社会調査士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎		社会学	2							4
			心理学	2							
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA	1	英語ⅢA	1					8
			英語ⅠB	1	英語ⅢB	1					
			英語ⅡA	1	英語ⅣA	1					
			英語ⅡB	1	英語ⅣB	1					
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ	2							4
			情報リテラシーⅡ	2							
	健康・スポーツ科学										0
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		社会福祉学入門	2			社会福祉学専門演習Ⅰ	2	社会福祉学専門演習Ⅲ	2	22
			社会福祉学基礎演習Ⅰ	2			社会福祉学専門演習Ⅱ	2	社会福祉学専門演習Ⅳ	2	
			社会福祉学基礎演習Ⅱ	2							
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2							
			ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2							
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	2							
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	2							
	選択必修科目				社会福祉学総合演習Ⅰ	2					4
					社会福祉学総合演習Ⅱ	2					
	学科選択科目		社会福祉調査の基礎	2	ケアワーク論	2	ケアマネジメント論	2	卒業論文	4	88
			社会福祉調査の応用	2	保健医療と福祉	2	現代社会とメンタルヘルス	2	現代的福祉課題A	2	
			統計情報処理および実習	2	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	国際福祉開発交流	2	現代的福祉課題B	2	
			アドミニストレーション論	2	貧困に対する支援	2	災害と福祉	2	社会福祉の権利	2	
			欧米の社会福祉史	2	福祉サービスの組織と経営	2	ジェンダーと福祉	2	制度・政策・施設史	2	
			社会開発論	2	質的調査法	2	スクールソーシャルワーク論	2			
			高齢者福祉	2	社会統計解析法	2	ソーシャルアクション論	2			
			児童・家庭福祉	2	社会統計学	2	人間の幸福とペット	2			
			社会福祉発達史	2	貧困に対する支援	2	バリアフリー論	2			
					福祉サービスの組織と経営	2	福祉ＩＣＴ	2			
					質的調査法	2	居住福祉論	2			
					社会統計解析法	2	国際社会福祉論A	2			
					社会統計学	2	国際社会福祉論B	2			
					ＳＤＧｓ入門	2					
					社会調査および実習Ⅰ	2					
					社会調査および実習Ⅱ	2					
	介護福祉士コース科目										0
年間単位数			46		40		30		16		
合計単位数			132								

福祉社会デザイン学部　子ども支援学科履修モデル（資格なし）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーⅠ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 教育基礎論 教育制度論 幼児教育論 発達心理学	2 1 2 2 2 2	子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB	1 1	多文化共生保育・教育 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB	1 1 1	子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB	2 2	20
	選択必修科目						子どもソーシャルワーク	2	卒業論文	4	6
	学科選択科目		保育原理 児童・家庭福祉 社会福祉の原理と政策Ⅰ 子どもの権利と教育 子育て支援実践 子どもと文学 教育と福祉 生活と総合学習 多文化共生保育・教育実践	2 2 2 2 1 2 2 2 2	海外保育フィールドワーク 国語表現法 国際児童福祉 権利擁護を支える法制度 貧困に対する支援 刑事司法と福祉 音楽表現専門演習 発達心理学専門演習 保育音楽表現技術Ⅰ 保育音楽表現技術Ⅱ 子どもと言葉 子どもと表現Ⅰ 子どもと表現Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1	子どもの健康と安全 子どもの理解と援助 子ども家庭支援の心理学 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 福祉サービスの組織と経営 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ 保育指導法 音楽あそびの実践 教育心理学 保育者論 子どもと環境	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	子ども家庭支援論 乳児保育Ⅱ 子育て支援 幼児教育方法（情報機器の活用を含む） 体育あそびの実践 造形あそびの実践 保育・教育相談	2 1 1 2 2 2 2	76
年間単位数			38		34		31		20		
合計単位数			123								

福祉社会デザイン学部　子ども支援学科履修モデル（幼稚園教諭・保育士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA	1	英語ⅢA	1					8
			英語ⅠB	1	英語ⅢB	1					
			英語ⅡA	1	英語ⅣA	1					
			英語ⅡB	1	英語ⅣB	1					
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門	2	日本国憲法	2					6
			情報リテラシーⅠ	2							
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		子ども支援学概論	2	子ども支援学演習ⅡA	1	多文化共生保育・教育	1	子ども支援学演習ⅣA	2	20
			子ども支援学演習Ⅰ	1	子ども支援学演習ⅡB	1	子ども支援学演習ⅢA	1	子ども支援学演習ⅣB	2	
			教育基礎論	2			子ども支援学演習ⅢB	1			
			教育制度論	2							
			幼児教育論	2							
			発達心理学	2							
	選択必修科目						子どもソーシャルワーク	2	卒業論文	4	6
	学科選択科目		子どもと健康	1	保育者論	2	子どもの理解と援助	1	保育・教職実践演習	2	85
			子どもと人間関係	1	子どもと環境	1	保育内容の指導法（環境）	1	子ども家庭支援論	2	
			子どもと言葉	1	教育心理学	1	保育内容の指導法（音楽表現）	1	乳児保育Ⅱ	1	
			子どもと表現Ⅰ	1	保育内容の指導法（言葉）	1	保育・教育相談	2	子育て支援	1	
			子どもと表現Ⅱ	1	保育内容の指導法（健康）	1	幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	2	保育実習指導Ⅱ（保育所）	1	
			特別支援教育・保育Ⅰ	1	保育内容の指導法（人間関係）	1	保育指導法	2	保育実習Ⅱ（保育所）	2	
			保育内容総論	1	保育内容の指導法（造形表現）	1	教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）	5			
			保育原理	2	特別支援教育・保育Ⅱ	1	子どもの健康と安全	1			
			児童・家庭福祉	2	保育カリキュラム論	2	子ども家庭支援の心理学	2			
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	音楽あそびの実践	2	保育実習ⅠB（保育所）	2			
			社会的養護	2	体育あそびの実践	2	保育実習指導ⅠB（保育所）	1			
			子どもの権利と教育	2	造形あそびの実践	2	音楽表現専門演習	2			
			子育て支援実践	1	子どもの保健	2	発達心理学専門演習	2			
			多文化共生保育・教育実践	1	社会的養護内容	2	保育音楽表現技術Ⅰ	2			
			国際児童福祉	2	乳児保育Ⅰ	2					
			子どもの食と栄養（実習含む）	2	保育実習ⅠA（施設）	2					
					保育実習指導ⅠA（施設）	2					
年間単位数			44		38		33		17		
合計単位数			132								

福祉社会デザイン学部　子ども支援学科履修モデル（幼稚園教諭履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA	1	英語ⅢA	1					8
			英語ⅠB	1	英語ⅢB	1					
			英語ⅡA	1	英語ⅣA	1					
			英語ⅡB	1	英語ⅣB	1					
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門	2	日本国憲法	2					6
			情報リテラシーⅠ	2							
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		子ども支援学概論	2	子ども支援学演習ⅡA	1	多文化共生保育・教育	1	子ども支援学演習ⅣA	2	20
			子ども支援学演習Ⅰ	1	子ども支援学演習ⅡB	1	子ども支援学演習ⅢA	1	子ども支援学演習ⅣB	2	
			教育基礎論	2			子ども支援学演習ⅢB	1			
			教育制度論	2							
			幼児教育論	2							
			発達心理学	2							
	選択必修科目						子どもソーシャルワーク	2	卒業論文	4	6
	学科選択科目		子どもと健康	1	保育者論	2	子どもの理解と援助	1	保育・教職実践演習	2	79
			子どもと人間関係	1	子どもと環境	1	保育内容の指導法（環境）	1	子ども家庭支援論	2	
			子どもと言葉	1	教育心理学	1	保育内容の指導法（音楽表現）	1	乳児保育Ⅱ	1	
			子どもと表現Ⅰ	1	保育内容の指導法（言葉）	1	保育・教育相談	2	子育て支援	1	
			子どもと表現Ⅱ	1	保育内容の指導法（健康）	1	幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	2			
			特別支援教育・保育Ⅰ	1	保育内容の指導法（人間関係）	1	保育指導法	2			
			保育内容総論	1	保育内容の指導法（造形表現）	1	教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）	5			
			保育原理	2	特別支援教育・保育Ⅱ	1	子どもの健康と安全	1			
			児童・家庭福祉	2	保育カリキュラム論	2	子ども家庭支援の心理学	2			
			社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	音楽あそびの実践	2	音楽表現専門演習	2			
			社会的養護	2	体育あそびの実践	2	発達心理学専門演習	2			
			子どもの権利と教育	2	造形あそびの実践	2	保育音楽表現技術Ⅰ	2			
			子育て支援実践	1	子どもの保健	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2			
			多文化共生保育・教育実践	1	社会的養護内容	2	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2			
			国際児童福祉	2	乳児保育Ⅰ	2					
			子どもの食と栄養（実習含む）	2							
年間単位数			44		34		34		14		
合計単位数			126								

福祉社会デザイン学部　子ども支援学科履修モデル（保育士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ＩA 英語ＩB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーＩ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ｉ	1	スポーツ健康科学講義Ｉ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ｉ 教育基礎論 教育制度論 幼児教育論 発達心理学	2 1 2 2 2 2	子ども支援学演習ⅡＡ 子ども支援学演習ⅡＢ	1 1	多文化共生保育・教育 子ども支援学演習ⅢＡ 子ども支援学演習ⅢＢ	1 1 1	子ども支援学演習ⅣＡ 子ども支援学演習ⅣＢ	2 2	20
	選択必修科目						子どもソーシャルワーク	2	卒業論文	4	6
	学科選択科目		子どもと健康 子どもと人間関係 子どもと言葉 子どもと表現Ｉ 子どもと表現Ⅱ 特別支援教育・保育Ｉ 保育内容総論 保育原理 児童・家庭福祉 社会福祉の原理と政策Ｉ 社会的養護 子どもの権利と教育 子育て支援実践 多文化共生保育・教育実践 国際児童福祉 子どもの食と栄養（実習含む）	1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 1 1 2 2	保育者論 子どもと環境 教育心理学 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（健康） 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（造形表現） 特別支援教育・保育Ⅱ 保育カリキュラム論 音楽あそびの実践 体育あそびの実践 造形あそびの実践 子どもの保健 社会的養護内容 乳児保育Ｉ 保育実習ＩA（施設） 保育実習指導ＩA（施設）	2 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	子どもの理解と援助 保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（音楽表現） 保育・教育相談 幼児教育方法（情報機器の活用を含む） 保育指導法 子どもの健康と安全 子ども家庭支援の心理学 保育実習ＩB（保育所） 保育実習指導ＩB（保育所） 音楽表現専門演習 発達心理学専門演習 保育音楽表現技術Ｉ	1 1 1 2 2 2 1 2 2 1 2 2 2	保育・教職実践演習 子ども家庭支援論 乳児保育Ⅱ 子育て支援 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所）	2 2 1 1 1 2	80
年間単位数			44		38		28		17		
合計単位数			127								

福祉社会デザイン学部　子ども支援学科履修モデル（社会福祉士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーⅠ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 教育基礎論 教育制度論 幼児教育論 発達心理学	2 1 2 2 2 2	子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB	1 1	多文化共生保育・教育 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB	1 1 1	子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB	2 2	20
	選択必修科目						ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	2	卒業論文	4	6
	学科選択科目		児童・家庭福祉 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉の原理と政策Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 医学概論 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 高齢者福祉 障害者福祉	2 2 2 2 2 2 2 2 2	保育者論 子どもと環境 教育心理学 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（健康） 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（造形表現） 特別支援教育・保育Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） 社会福祉調査の基礎 ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 保健医療と福祉 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 権利擁護を支える法制度 貧困に対する支援 刑事司法と福祉	2 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2	子どもの理解と援助 保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（音楽表現） 保育・教育相談 幼児教育方法（情報機器の活用を含む） 保育指導法 子どもの健康と安全 子ども家庭支援の心理学 ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 福祉サービスの組織と経営 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ	1 1 1 2 2 2 1 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2	子ども家庭支援論 乳児保育Ⅱ 子育て支援 ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2 1 1 2	80
年間単位数			39		39		35		14		
合計単位数			127								

福祉社会デザイン学部　子ども支援学科履修モデル（幼稚園教諭・保育士・社会福祉士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーⅠ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 教育基礎論 教育制度論 幼児教育論 発達心理学	2 1 2 2 2 2	子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB	1 1	多文化共生保育・教育 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB	1 1 1	子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB	2 2	20
	選択必修科目						ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	2	卒業論文	4	6
	学科選択科目		子どもと健康 子どもと人間関係 子どもと言葉 子どもと表現Ⅰ 子どもと表現Ⅱ 特別支援教育・保育Ⅰ 保育内容総論 国際児童福祉 子どもの食と栄養（実習含む） 社会福祉の原理と政策Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 医学概論 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会福祉調査の基礎 高齢者福祉 障害者福祉	1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	保育者論 子どもと環境 教育心理学 保育内容の指導法（言葉） 保育内容の指導法（健康） 保育内容の指導法（人間関係） 保育内容の指導法（造形表現） 保育実習ⅠA（施設） 保育実習指導ⅠA（施設） 保育原理 児童・家庭福祉 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会的養護 子どもの権利と教育 子育て支援実践 多文化共生保育・教育実践 ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 保健医療と福祉 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 1	子どもの理解と援助 保育内容の指導法（環境） 保育内容の指導法（音楽表現） 教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む） 子どもの健康と安全 子ども家庭支援の心理学 保育実習ⅠB（保育所） 保育実習指導ⅠB（保育所） 音楽あそびの実践 体育あそびの実践 造形あそびの実践 保育カリキュラム論 子どもの保健 特別支援教育・保育Ⅱ 社会的養護内容 乳児保育Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 権利擁護を支える法制度 貧困に対する支援	1 1 1 5 1 2 2 1 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2	保育・教職実践演習 子ども家庭支援論 乳児保育Ⅱ 子育て支援 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育・教育相談 幼児教育方法（情報機器の活用を含む） 保育指導法 音楽表現専門演習 発達心理学専門演習 保育音楽表現技術Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 刑事司法と福祉 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 福祉サービスの組織と経営 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ	2 2 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	136
年間単位数			48		46		46		43		
合計単位数			183								

福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科履修モデル（空間デザインコース）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーⅠ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		人間環境デザイン学概論 ユニバーサルデザイン概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ ＣＡＤ演習Ⅰ	2 2 3 3 2	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 人間環境デザイン総合演習	3 3			卒業研究	2	20
	コース別必修科目						空間デザイン演習ⅠＡ 空間デザイン演習ⅠＢ	3 3	空間デザイン演習ⅡＡ 空間デザイン演習ⅡＢ	2 2	10
	学科選択科目		製品と情報のＵＤ 建築歴史意匠Ａ プロダクトデザイン基礎 発達と障害 生活支援デザイン概論 材料・素材一般 建築生産 色彩論 都市・まちのデザイン 道具の歴史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	人間工学 マーケティング ＣＡＤ演習Ⅱ 住居計画 建築・都市法規 建築歴史意匠Ｂ 生活空間計画 構造力学 デザイン工学基礎 デザイン工学応用 ヒューマンインターフェース	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	環境計画 デザイン思考法 まちづくり International Design Practices 建築とまちのUD ランドスケープデザイン 建築空間構成論 建築設計論 都市計画論 設備計画 材料力学 インターンシップＡ インターンシップＢ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	デザイン特別講義 安全工学 環境設計演習 構法計画 構法計画演習	2 2 2 2 1	77
年間単位数			42		37		34		15		
合計単位数			128								

福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科履修モデル（生活環境デザインコース）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーⅠ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		人間環境デザイン学概論 ユニバーサルデザイン概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ ＣＡＤ演習Ⅰ	2 2 3 3 2	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 人間環境デザイン総合演習	3 3			卒業研究	2	20
	コース別必修科目						生活環境デザイン演習ⅠA 生活環境デザイン演習ⅠB	3 3	生活環境デザイン演習ⅡA 生活環境デザイン演習ⅡB	2 2	10
	学科選択科目		製品と情報のＵＤ 建築歴史意匠Ａ プロダクトデザイン基礎 発達と障害 生活支援デザイン概論 材料・素材一般 建築生産 色彩論 都市・まちのデザイン 道具の歴史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	人間工学 マーケティング ＣＡＤ演習Ⅱ 住居計画 コンピュータ・グラフィックス 福祉デザイン工学概論 構造力学 デザイン工学基礎 ヒューマンインターフェース インテリアデザイン 環境計画 情報デザインⅠ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	環境デザイン論 International Design Practices デザイン特別講義 安全工学 調査分析のデザイン 情報メディアデザイン 設備計画 福祉デザイン工学各論 リハビリテーション工学 情報デザインⅡ インターンシップＡ インターンシップＢ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	医療福祉建築計画 認知科学 支援技術とデザイン 福祉住環境コーディネート論 ランドスケープデザイン	2 2 2 2 2	78
年間単位数			42		39		32		16		
合計単位数			129								

福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科履修モデル（プロダクトデザインコース）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ＩA 英語ＩB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーＩ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ｉ	1	スポーツ健康科学講義Ｉ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		人間環境デザイン学概論 ユニバーサルデザイン概論 人間環境デザイン基礎演習Ｉ 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ ＣＡＤ演習Ｉ	2 2 3 3 2	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 人間環境デザイン総合演習	3 3			卒業研究	2	20
	コース別必修科目						プロダクトデザイン演習ＩA プロダクトデザイン演習ＩB	3 3	プロダクトデザイン演習ⅡA プロダクトデザイン演習ⅡB	2 2	10
	学科選択科目		製品と情報のＵＤ 建築歴史意匠Ａ プロダクトデザイン基礎 発達と障害 生活支援デザイン概論 材料・素材一般 建築生産 色彩論 都市・まちのデザイン 道具の歴史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	人間工学 マーケティング コンピュータ・グラフィックス デザイン工学基礎 デザイン工学応用 ヒューマンインターフェース インテリアデザイン デザイン思考法 まちづくり 環境デザイン論 情報デザインＩ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	産業とプロダクトデザイン 調査分析のデザイン 建築とまちのUD 情報メディアデザイン 情報デザインⅡ プロダクトデザインＩ プロダクトデザインⅡ 表現手法 International Design Practices 福祉デザイン工学各論 インターンシップＡ インターンシップＢ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	グラフィックデザイン論 メカトロニクス・デザイン 支援技術とデザイン 環境設計演習 デザイン特別講義 リハビリテーション工学	2 2 2 2 2 2	78
年間単位数			42		37		32		18		
合計単位数			129								

福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科履修モデル（高等学校教諭（工芸）免許履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2							2
	学問の基礎				美術	2					2
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーⅠ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		人間環境デザイン学概論 ユニバーサルデザイン概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ ＣＡＤ演習Ⅰ	2 2 3 3 2	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 人間環境デザイン総合演習	3 3			卒業研究	2	20
	コース別必修科目						プロダクトデザイン演習ⅠA プロダクトデザイン演習ⅠB	3 3	プロダクトデザイン演習ⅡA プロダクトデザイン演習ⅡB	2 2	10
	学科選択科目		製品と情報のＵＤ 建築歴史意匠Ａ プロダクトデザイン基礎 発達と障害 生活支援デザイン概論 材料・素材一般 建築生産 色彩論 都市・まちのデザイン 道具の歴史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	人間工学 マーケティング コンピュータ・グラフィックス デザイン工学基礎 デザイン工学応用 ヒューマンインターフェース インテリアデザイン デザイン思考法 まちづくり 環境デザイン論 情報デザインⅠ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	産業とプロダクトデザイン 調査分析のデザイン 建築とまちのUD 情報メディアデザイン 情報デザインⅡ プロダクトデザインⅠ プロダクトデザインⅡ 表現手法 International Design Practices 福祉デザイン工学各論 インターンシップＡ インターンシップＢ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	グラフィックデザイン論 メカトロニクス・デザイン 支援技術とデザイン 環境設計演習 デザイン特別講義 リハビリテーション工学	2 2 2 2 2 2	78
年間単位数			42		37		32		18		
合計単位数			129								
教職科目			教育基礎論 教職概論 教育制度論 教育心理学 特別支援教育基礎論 教育課程総論	2 2 2 2 2 2	教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む） 生徒指導論（進路指導論を含む） 教育相談	2 2 2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む） 教職実践演習（中・高）	3 2	25
年間単位数			12		6		2		5		
合計単位数			154								

福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科履修モデル（高等学校教諭（工業）免許履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーⅠ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		人間環境デザイン学概論 ユニバーサルデザイン概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ ＣＡＤ演習Ⅰ	2 2 3 3 2	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 人間環境デザイン総合演習	3 3			卒業研究	2	20
	コース別必修科目						生活環境デザイン演習ⅠA 生活環境デザイン演習ⅠB	3 3	生活環境デザイン演習ⅡA 生活環境デザイン演習ⅡB	2 2	10
	学科選択科目		製品と情報のＵＤ 建築歴史意匠Ａ プロダクトデザイン基礎 発達と障害 生活支援デザイン概論 材料・素材一般 建築生産 色彩論 都市・まちのデザイン 道具の歴史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	人間工学 マーケティング ＣＡＤ演習Ⅱ 住居計画 コンピュータ・グラフィックス 福祉デザイン工学概論 構造力学 デザイン工学基礎 ヒューマンインターフェース インテリアデザイン 環境計画 情報デザインⅠ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	環境デザイン論 International Design Practices デザイン特別講義 安全工学 調査分析のデザイン 情報メディアデザイン 設備計画 福祉デザイン工学各論 リハビリテーション工学 情報デザインⅡ インターンシップＡ インターンシップＢ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	医療福祉建築計画 認知科学 支援技術とデザイン 福祉住環境コーディネート論 ランドスケープデザイン	2 2 2 2 2	78
年間単位数			42		39		32		16		
合計単位数			129								
教職科目			教育基礎論 教職概論 教育制度論 教育心理学 特別支援教育基礎論 教育課程総論	2 2 2 2 2 2	教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む） 生徒指導論（進路指導論を含む） 教育相談	2 2 2	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む） 教職実践演習（中・高）	3 2	25
年間単位数			12		6		2		5		
合計単位数			154								

福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科履修モデル（建築士履修者）

			1年次		2年次		3年次		4年次		区分別単位数計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
基盤教育科目	哲学・思想		哲学	2	日本文学	2					4
	学問の基礎										0
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB	1 1 1 1	英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1 1 1 1					8
		選択科目									0
	キャリア・市民形成		キャリアデザイン入門 情報リテラシーⅠ	2 2	日本国憲法	2					6
	健康・スポーツ科学				スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学講義Ⅰ	2			3
	総合・学際										0
学科専門科目	学科必修科目		人間環境デザイン学概論 ユニバーサルデザイン概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ ＣＡＤ演習Ⅰ	2 2 3 3 2	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 人間環境デザイン総合演習	3 3			卒業研究	2	20
	コース別必修科目						空間デザイン演習ⅠＡ 空間デザイン演習ⅠＢ	3 3	空間デザイン演習ⅡＡ 空間デザイン演習ⅡＢ	2 2	10
	学科選択科目		製品と情報のＵＤ 建築歴史意匠Ａ プロダクトデザイン基礎 発達と障害 生活支援デザイン概論 材料・素材一般 建築生産 色彩論 都市・まちのデザイン 道具の歴史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	人間工学 マーケティング ＣＡＤ演習Ⅱ 住居計画 建築・都市法規 建築歴史意匠Ｂ 生活空間計画 構造力学 デザイン工学基礎 デザイン工学応用 ヒューマンインターフェース	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	環境計画 デザイン思考法 まちづくり International Design Practices 建築とまちのUD ランドスケープデザイン 建築空間構成論 建築設計論 都市計画論 設備計画 材料力学 インターンシップＡ インターンシップＢ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	デザイン特別講義 安全工学 環境設計演習 構法計画 構法計画演習	2 2 2 1 2 2	79
年間単位数			42		37		34		17		
合計単位数			130								

社会福祉士 実習先一覧

No	実習施設名	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅰ受入人数	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅱ受入人数	所在地
6-1-001	青嵐荘療護園	2	2	茨城県古河市上大野735-1
6-1-002	上の原学園	2	2	茨城県桜川市上野原159-1
6-1-003	皇海荘	2	2	栃木県日光市足尾町2084
6-1-004	のぞみの園	2	2	群馬県高崎市寺尾町2120-2
6-1-005	今羽の森	1	1	埼玉県さいたま市北区今羽町650-1
6-1-006	日進職業センター	-	1	埼玉県さいたま市北区日進町3-151
6-1-007	さいたま市内の各福祉作業所	-	1	埼玉県さいたま市内
6-1-008	特別養護老人ホーム　けやきホームズ	1	1	埼玉県さいたま市南区鹿手袋7-13-4
6-1-009	大崎むつみの里　第１事業所	2	2	埼玉県さいたま市緑区大崎37-1
6-1-010	介護老人保健施設きんもくせい	1	1	埼玉県さいたま市緑区馬場1-7-1
6-1-011	大崎むつみの里　第２事業所	2	2	埼玉県さいたま市緑区大崎37-1
6-1-012	独立型社会福祉士事務所ほっとポット	-	2	埼玉県さいたま市岩槻区太田1-2-14
6-1-013	親愛南の里	2	1	埼玉県川越市下赤坂1847
6-1-014	川越市社会福祉協議会	-	1	埼玉県川越市小仙波町2-50-2
6-1-015	川越市みよしの支援センター	2	1	埼玉県川越市宮下町1-19-13
6-1-016	川口市社会福祉事務所	1	1	埼玉県川口市青木2-1-1
6-1-017	すだち亀ヶ谷作業所	2	2	埼玉県所沢市亀ヶ谷270-1
6-1-018	指定障害福祉サービス事業所　かがやき	1	1	埼玉県所沢市北原町935-1
6-1-019	所沢市社会福祉協議会	1	1	埼玉県所沢市泉町1861-1
6-1-020	光の子どもの家	-	1	埼玉県加須市砂原277
6-1-021	皆光園	1	1	埼玉県深谷市人見1998
6-1-022	春日園	5	2	埼玉県深谷市本田3126
6-1-023	アカデミーサロン朝霞	2	2	埼玉県朝霞市東弁財3-14-7
6-1-024	朝霞市社会福祉協議会	3	3	埼玉県朝霞市浜崎51-1
6-1-025	志木市社会福祉協議会	1	-	埼玉県志木市上宗岡1-5-1
6-1-026	すわ緑風園	2	1	埼玉県和光市南2-3-2
6-1-027	和光市社会福祉協議会	-	1	埼玉県和光市南1-23-1
6-1-028	りんごの家	2	2	埼玉県桶川市倉田513
6-1-029	久喜市あゆみの郷	2	2	埼玉県久喜市東大輪2273-1
6-1-030	障害者支援施設　久喜けいわ	2	2	埼玉県久喜市六万部1435
6-1-031	関沢みずほ苑	2	1	埼玉県富士見市関沢3-23-41
6-1-032	ふじの木作業所	2	2	埼玉県富士見市東大久保3655
6-1-033	入間東部みよしの里	2	2	埼玉県入間郡三芳町上富322-2
6-1-034	柏市社会福祉協議会	-	1	千葉県柏市柏5-11-8 介護予防ｾﾝﾀｰいきいきﾌﾟﾗｻﾞ内
6-1-035	ぶるーむの風相談室	-	1	千葉県柏市中原1817-1 ぶるｰむの風
6-1-036	相談支援センターまほろば	1	3	千葉県流山市野々下1-319
6-1-037	浦安市基幹相談支援センター	1	1	千葉県浦安市入船5-45-1浦安市まちづくり活動ﾌﾟﾗｻﾞ1F
6-1-038	うらやす和楽苑	2	2	千葉県浦安市当代島2-14-2
6-1-039	浦安市社会福祉協議会	-	1	千葉県浦安市東野1-7-1 総合福祉ｾﾝﾀｰ内
6-1-040	浦安市特別養護老人ホーム	1	1	千葉県浦安市高洲9-3-1
6-1-041	栗源協働支援センター	2	2	千葉県香取市沢2459-1
6-1-042	パンプキンハウス	1	1	千葉県大網白里市細草3221-4
6-1-043	レインボーハウス明石	1	1	東京都中央区明石町1-6
6-1-044	マイホーム新川	1	1	東京都中央区新川2-27-3
6-1-045	特別養護老人ホーム　サン・サン赤坂	-	1	東京都港区赤坂6-6-14
6-1-046	社会福祉事業団　更生施設　けやき荘	-	1	東京都新宿区西落合1-18-18
6-1-047	新宿区立かしわヴィレッジ	1	1	東京都新宿区北新宿3-27-6
6-1-048	文京区社会福祉協議会	-	1	東京都文京区本郷4-15-14
6-1-049	文京くすのき高齢者在宅サービスセンター	2	2	東京都文京区大塚4-18-1
6-1-050	文京昭和高齢者在宅サービスセンター	1	1	東京都文京区本駒込2-28-31
6-1-051	リアン文京	2	2	東京都文京区小日向2-16-15
6-1-052	文京湯島高齢者在宅サービスセンター	1	1	東京都文京区湯島2-28-14
6-1-053	たいとう地域包括支援センター	1	1	東京都台東区台東1-25-5
6-1-054	更生施設　しのばず荘	-	2	東京都台東区上野公園17-9
6-1-055	同愛記念ホーム	1	1	東京都墨田区横網2-1-11
6-1-056	八広はなみずき　高齢者支援総合センター	1	1	東京都墨田区八広5-18-23
6-1-057	自立支援センター　墨田寮	1	1	東京都墨田区江東橋4-2-3
6-1-058	更生施設　塩崎荘	1	1	東京都江東区塩浜2-5-16

社会福祉士 実習先一覧

No	実習施設名	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅰ 受入人数	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅱ 受入人数	所在地
6-1-059	ケアホーム西大井こうほうえん	1	1	東京都品川区西大井2-5-21
6-1-060	品川区立心身障害者福祉会館	1	1	東京都品川区旗の台5-2-2
6-1-061	第二しいのき学園	4	2	東京都品川区東品川3-1-8
6-1-062	浜川荘	－	1	東京都品川区勝島1-9-11
6-1-063	さわやかワークセンター	1	1	東京都大田区西蒲田3-19-1
6-1-064	大田区立コスモス苑	－	1	東京都大田区久が原2-3-22
6-1-065	東京育成園	1	1	東京都世田谷区上馬4-12-3
6-1-066	特別養護老人ホーム　博水の郷	2	1	東京都世田谷区鎌田3-16-6
6-1-067	中野区鷺宮地域包括支援センター	1	1	東京都中野区若宮3-58-10
6-1-068	中野区社会福祉協議会	－	1	東京都中野区中野5-68-7 ｽﾏｲﾙなかの4階
6-1-069	中野区障害者福祉会館	1	1	東京都中野区沼袋2-40-18
6-1-070	中野区立かみさぎこぶし園	1	1	東京都中野区上鷺宮1-21-30
6-1-071	第三南陽園	1	1	東京都杉並区高井戸西1-12-1
6-1-072	第二南陽園	1	1	東京都杉並区高井戸西1-12-1
6-1-073	東京家庭学校	1	1	東京都杉並区高井戸東2-3-4
6-1-074	南陽園	1	1	東京都杉並区高井戸西1-12-1
6-1-075	池袋ほんちょうの郷	2	1	東京都豊島区池袋本町1-29-12
6-1-076	ゆたか苑	2	2	東京都豊島区長崎3-26-4
6-1-077	赤羽北さくら荘	2	2	東京都北区赤羽北3-6-10
6-1-078	赤羽西福祉工房	4	2	東京都北区赤羽西5-7-1
6-1-079	赤羽西福祉作業所	2	2	東京都北区赤羽西5-7-5
6-1-080	ウエルガーデン西が丘園	1	1	東京都北区西が丘3-16-27
6-1-081	浮間高齢者あんしんセンター	2	2	東京都北区浮間2-10-2 浮間区民ｾﾝﾀｰ1階
6-1-082	上中里つつじ荘	1	1	東京都北区上中里2-45-2
6-1-083	北区社会福祉協議会	10	1	東京都北区岸町1-6-17
6-1-084	北区立　あすなろ福祉園	1	1	東京都北区王子6-4-6
6-1-085	北区立若葉福祉園	1	1	東京都北区赤羽西6-9-2
6-1-086	清水坂あじさい荘	2	－	東京都北区中十条4-16-32
6-1-087	星美ホーム	1	1	東京都北区赤羽台4-2-14
6-1-088	滝野川西高齢者在宅サービスセンター	1	－	東京都北区滝野川6-21-25
6-1-089	うきま幸朋苑	1	1	東京都北区浮間5-13-1
6-1-090	フロムヴイ	1	1	東京都北区上十条2-1-12
6-1-091	ワークハウスペガサス	1	1	東京都北区神谷2-17-2
6-1-092	東十条・神谷地域包括支援センター	－	2	東京都北区東十条3-2-3-101 東十条ｸﾞﾘｰﾝﾊｲﾂ
6-1-093	北区桐ヶ丘やまぶき荘地域包括支援センター	1	1	東京都北区桐ｹ丘1-16-26
6-1-094	スクラムあらかわ	－	2	東京都荒川区町屋6-28-13
6-1-095	東日暮里地域包括支援センター	－	1	東京都荒川区東日暮里3-8-16
6-1-096	小豆沢福祉園	3	－	東京都板橋区東坂下1-4-9
6-1-097	いずみの苑	1	1	東京都板橋区東坂下2-2-22
6-1-098	板橋区社会福祉協議会	－	1	東京都板橋区板橋2-65-6 板橋区情報処理ｾﾝﾀｰ1F
6-1-099	児童養護施設　まつば園	－	1	東京都板橋区永川町27-2
6-1-100	徳丸地域包括支援センター	－	1	東京都板橋区徳丸3-32-28
6-1-101	更生施設　ふじみ	－	1	東京都板橋区富士見町33-11
6-1-102	石神井学園	1	1	東京都練馬区石神井台3-35-23
6-1-103	練馬区社会福祉協議会	－	1	東京都練馬区豊玉北5-14-6新練馬ﾋﾞﾙ5階
6-1-104	綾瀬あかしあ園	1	1	東京都足立区綾瀬7-2-5
6-1-105	足立あかしあ園	1	1	東京都足立区青井4-30-5
6-1-106	足立区綾瀬福祉園	1	1	東京都足立区東綾瀬1-26-2
6-1-107	足立区大谷田就労支援センター	2	2	東京都足立区大谷田1-44-3
6-1-108	葛飾区社会福祉協議会	1	1	東京都葛飾区堀切3-34-1 地域福祉・障害者ｾﾝﾀｰ(ｳｪﾙﾋﾟｱかつしか)
6-1-109	地域包括支援センター青戸	1	1	東京都葛飾区青戸3-13-19
6-1-110	希望の家	1	1	東京都葛飾区青戸4-14-15
6-1-111	江戸川区立えがおの家	1	1	東京都江戸川区東葛西5-10-5
6-1-112	江戸川区立みんなの家	1	1	東京都江戸川区本一色3-38-3
6-1-113	就労移行支援事業所natura	1	1	東京都江戸川区中葛西2-8-3、1F
6-1-114	なぎさ和楽苑	1	1	東京都江戸川区西葛西8-1-1
6-1-115	立川市社会福祉協議会	1	1	東京都立川市富士見町2-36-47
6-1-116	赤十字子供の家	－	1	東京都武蔵野市境南町1-26-27

社会福祉士 実習先一覧

No	実習施設名	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅰ 受入人数	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅱ 受入人数	所在地
6-1-117	千川作業所	2	2	東京都武蔵野市八幡町4-28-13
6-1-118	調布学園	－	1	東京都調布市富士見町3-18-1
6-1-119	調布市社会福祉事業団	24	－	東京都調布市西町290-47
6-1-120	さやま園	4	1	東京都東村山市富士見町2-7-13
6-1-121	救世軍自省館	－	1	東京都清瀬市竹丘1-17-60
6-1-122	子供の家	－	1	東京都清瀬市松山3-12-17
6-1-123	特別養護老人ホーム　清雅苑	1	1	東京都清瀬市中里5-91-2
6-1-124	さいわい福祉センター	1	－	東京都東久留米市幸町3-9-28
6-1-125	軽費老人ホーム偕楽荘	2	2	東京都多摩市山王下1-18-2
6-1-126	西東京市社会福祉協議会	－	1	東京都西東京市田無町5-5-12 田無総合福祉ｾﾝﾀｰ
6-1-127	地域活動ホームサポートセンター連	2	2	神奈川県横浜市旭区柏町59-2
6-1-128	鴨居地域ケアプラザ	6	2	神奈川県横浜市緑区鴨居5-29-8
6-1-129	よこはまリバーサイド泉	1	1	神奈川県横浜市泉区下飯田町355
6-1-130	わーくす大師	1	1	神奈川県川崎市川崎区東門前1-11-6
6-1-131	ひつじ雲	20	－	神奈川県川崎市幸区幸町4-18-8
6-1-132	川崎市社会福祉協議会	－	1	神奈川県川崎市中原区上小田中６－２２－５　川崎市総合福祉センター内
6-1-133	神奈川県中央児童相談所	1	1	神奈川県藤沢市亀井野3119
6-1-134	白十字会林間学校	2	2	神奈川県茅ヶ崎市富士見町4-54

合計	210	165

精神保健福祉士 実習先一覧

No	実習施設名	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習（精神）受入人数	所在地
6-2-001	つくばライフサポートセンター　学園	1	茨城県つくば市学園南1-3-10ｸﾞﾗﾝｱｺｰﾙ1F
6-2-002	つくばライフサポートセンター　みどりの	3	茨城県つくば市みどりの1-32-9
6-2-003	にちにち	4	埼玉県川口市東川口4-24-5ﾒｿﾞﾈｯﾄｼﾏ1F
6-2-004	埼玉県済生会鴻巣病院	1	埼玉県鴻巣市八幡田849
6-2-005	南埼玉病院	1	埼玉県越谷市増森252
6-2-006	志木事業所	2	埼玉県志木市本町5-23-11-5F
6-2-007	傍楽舎	2	埼玉県志木市本町5-25-20-4F
6-2-008	サービスエース	4	埼玉県富士見市鶴馬1-24-4ﾒｿﾞﾝｴﾄﾜｰﾙ101
6-2-009	埼玉県立精神医療センター	1	埼玉県北足立郡伊奈町伊奈町小室818-2
6-2-010	埼玉県立精神保健福祉センター	2	埼玉県北足立郡伊奈町伊奈町小室818-2
6-2-011	サンワークＬ　ぱれっと	3	千葉県市川市柏井町2-1452-5
6-2-012	サンワークＬ　ふわふわ	3	千葉県市川市北方1-9-9
6-2-013	ほっとハートらいふ	1	千葉県市川市新田3-14-22
6-2-014	南八幡ワークス	1	千葉県市川市南八幡5-20-3
6-2-015	浦安市ソーシャルサポートセンター	1	千葉県浦安市東野1-9-3東野ﾊﾟﾃｨｵ通所棟4階
6-2-016	地域生活支援センターこかげ	1	東京都豊島区東池袋4-5-1ｴｱﾗｲｽﾞﾀﾜｰ103
6-2-017	日本大学医学部附属板橋病院	2	東京都板橋区大谷口上町30-1
6-2-018	社会就労センター　プロデュース道	1	東京都板橋区大山金井町39-1-101
6-2-019	長谷川病院	1	東京都三鷹市大沢2-20-36
6-2-020	西府いこいプラザ	1	東京都府中市西府町3-29-17
6-2-021	ピアス	2	東京都国立市富士見台1-17-4
6-2-022	桜ヶ丘記念病院	1	東京都多摩市連光寺1-1-1
6-2-023	横浜丘の上病院	1	神奈川県横浜市戸塚区平戸1-20-28

合計	40

介護福祉士 実習先一覧

No	実習施設名	介護福祉実習Ⅰ受入人数	介護福祉実習Ⅱ受入人数	介護福祉実習Ⅲ受入人数	介護福祉実習Ⅳ受入人数	所在地
6-3-001	きずなの里	2	－	－	2	埼玉県さいたま市西区宝来上仲田501-1
6-3-002	今羽の森	2	2	2	2	埼玉県さいたま市北区今羽町650-1
6-3-003	ハートポートセンターともいき	2	2	2	2	埼玉県川越市笠幡1646-17
6-3-004	介護老人福祉施設　春輝苑	2	2	2	2	埼玉県川口市青木3-20-15
6-3-005	ケアセンターかがやき	2	2	2	2	埼玉県川口市西青木5-1-40
6-3-006	ケアセンターとこしん	－	－	－	2	埼玉県所沢市宮本町2-23-34
6-3-007	自立支援局　第二自立訓練部	2	2	2	2	埼玉県所沢市並木4-1
6-3-008	介護ステーションぱる戸田	－	－	－	2	埼玉県戸田市喜沢南2-5-23
6-3-009	アカデミーサロン朝霞	3	3	3	3	埼玉県朝霞市東弁財3-14-7 WJ･A-12 1F
6-3-010	デイサービスセンターひいらぎの里	2	－	－	－	埼玉県朝霞市岡3-17-60
6-3-011	和光苑	1	1	1	1	埼玉県和光市新倉8-23-1
6-3-012	和光福祉会ホームヘルパーステーション	－	－	－	2	埼玉県和光市丸山台2-6-20
6-3-013	吾亦紅	1	1	1	1	埼玉県蓮田市大字閏戸1885-
6-3-014	医療生協さいたまふじみ野ケアセンター	－	－	－	1	埼玉県ふじみ野市上福岡3-3-7
6-3-015	かしの木ケアセンター	－	－	3	－	埼玉県入間郡三芳町北永井381-3
6-3-016	みずほ苑	2	2	1	1	埼玉県入間郡三芳町竹間沢735-1
6-3-017	うらやす和楽苑	2	2	2	2	千葉県浦安市当代島2-14-2
6-3-018	新川訪問介護ステーション	1	－	－	－	東京都中央区新川2-27-3
6-3-019	新橋さくらの園	1	1	1	1	東京都港区新橋6-19-2
6-3-020	花実　静華庵	3	3	3	3	東京都新宿区上落合2-26-3-3階
6-3-021	より処ぬくみくるみ	1	1	1	1	東京都新宿区高田馬場1-20-16
6-3-022	神楽坂　静華庵	2	2	－	－	東京都新宿区市谷山伏町2-2
6-3-023	リアン文京	－	－	2	－	東京都文京区小日向2-16-15
6-3-024	特別養護老人ホーム台東	－	2	－	－	東京都台東区台東1-25-5
6-3-025	東京清風園	2	2	2	2	東京都墨田区立花1-25-12
6-3-026	アミークス東糀谷	3	3	3	3	東京都大田区東糀谷6-4-17
6-3-027	江古田の森	2	2	2	2	東京都中野区江古田3-14-19
6-3-028	マイルドハート高円寺	1	1	1	1	東京都杉並区高円寺北1-28-1
6-3-029	特別養護老人ホーム飛鳥晴山苑	2	2	2	2	東京都北区西ヶ原4-51-1
6-3-030	ウエルガーデン西が丘園	1	1	1	1	東京都北区西が丘3-16-27
6-3-031	うきま幸朋苑	3	2	－	－	東京都北区浮間5-13-1
6-3-032	上中里つつじ荘	3	3	3	3	東京都北区上中里2-45-2
6-3-033	グループホーム　ここら	2	－	－	－	東京都北区志茂3-45-17
6-3-034	東京ふれあい・ほほえみヘルパーステーション	－	－	－	3	東京都北区堀船3-30-16在宅ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ3F
6-3-035	ほのぼのステーション赤羽	2	2	2	2	東京都北区赤羽西1-18-87ﾈｯｸｽﾜｶﾏﾂ201
6-3-036	みずべの苑	4	2	2	2	東京都北区志茂3-6-13
6-3-037	月の光	－	－	－	2	東京都北区岩淵町32-11 正光寺内
6-3-038	清水坂あじさい荘	2	2	2	2	東京都北区中十条4-16-32
6-3-039	ケアタウン成増	2	2	2	2	東京都板橋区成増4-14-18
6-3-040	グループホーム　まささんの家	2	－	－	－	東京都練馬区大泉学園町2-20-22
6-3-041	大泉学園デイサービスセンター	2	－	－	－	東京都練馬区大泉学園町2-20-21
6-3-042	ウエルガーデン伊興園	1	1	1	1	東京都足立区伊興3-7-4
6-3-043	かえで	2	2	2	2	東京都足立区皿沼2-8-8
6-3-044	ファミリーケア柳原	1	1	1	1	東京都足立区柳原1-25-15 藤岡ﾋﾞﾙ2階
6-3-045	なぎさ和楽苑	1	1	1	1	東京都江戸川区西葛西8-1-1
6-3-046	みずき	2	2	2	2	東京都府中市朝日町3-17-5
6-3-047	つきみの園	－	2	2	－	東京都小金井市中町2-15-25
6-3-048	多摩療護園	－	－	2	－	東京都日野市程久保872-の1
6-3-049	秋津療育園	－	1	1	1	東京都東村山市青葉町3-31-1
6-3-050	よこはまリバーサイド泉	1	1	1	1	神奈川県横浜市泉区下飯田町355
6-3-051	都筑ヘルパーステーション	－	－	－	1	神奈川県横浜市都筑区牛久保西1-20-21

合計	72	63	63	69

保育士 実習先一覧（保育所）

No	実習施設名	保育実習ⅠB 受入人数	保育実習Ⅱ 受入人数	所在地
6-4-1-001	ふたばランド保育園	2	2	茨城県牛久市中央5-5-2
6-4-1-002	牛久みらい保育園	1	1	茨城県牛久市東猟穴町1260-11
6-4-1-003	まつやま保育園	3	3	茨城県守谷市本町4210
6-4-1-004	まつやま百合ケ丘保育園	1	1	茨城県守谷市百合ケ丘2-2712-1
6-4-1-005	風と緑の認定こども園	2	2	栃木県宇都宮市下栗町631-2
6-4-1-006	幼保連携型認定こども園 はちの木こども園	2	2	群馬県高崎市上佐野町609
6-4-1-007	幼保連携型認定こども園　鼻高こども園	3	3	群馬県高崎市鼻高町48-5
6-4-1-008	とりやまこども園	1	1	群馬県太田市鳥山中町1075-4-1-5
6-4-1-009	大宮つぼみ保育園	1	1	埼玉県さいたま市北区土呂町2-9-19
6-4-1-010	本郷保育園	2	2	埼玉県さいたま市北区本郷町1328-1
6-4-1-011	大宮すこやか保育園	3	3	埼玉県さいたま市大宮区吉敷町5-4-1-197-2
6-4-1-012	与野ひなどり保育園	1	－	埼玉県さいたま市中央区本町西2-1-11
6-4-1-013	与野本町駅前保育所	1	1	埼玉県さいたま市中央区鈴谷9-5-18
6-4-1-014	茶々すずや保育園	2	2	埼玉県さいたま市中央区鈴谷5-6-11
6-4-1-015	菁莪保育園	1	1	埼玉県さいたま市桜区西堀1-11-1
6-4-1-016	浦和ひなどり保育園	2	2	埼玉県さいたま市桜区西堀2-6-26
6-4-1-017	上木崎保育所（ひだまり保育園）	1	1	埼玉県さいたま市浦和区上木崎2-6-7
6-4-1-018	遍照浦和美園保育園	3	3	埼玉県さいたま市緑区美園3-10-16
6-4-1-019	増美保育園田町	1	1	埼玉県川越市田町17-53
6-4-1-020	レイモンド川越保育園	1	1	埼玉県川越市新宿町1-17-1
6-4-1-021	高階すまいる保育園	3	3	埼玉県川越市諏訪町20-10
6-4-1-022	きむら認定こども園	2	2	埼玉県羽生市大字上手子林76-3
6-4-1-023	登戸保育所	1	1	埼玉県鴻巣市登戸612
6-4-1-024	さつき保育園	1	－	埼玉県上尾市大字菅谷43-1
6-4-1-025	登戸保育所	2	2	埼玉県越谷市登戸町42-10
6-4-1-026	戸田市立保育園	2	2	埼玉県戸田市内
6-4-1-027	朝霞しらこばと保育園	2	2	埼玉県朝霞市田島2-5-4-1-11
6-4-1-028	あさかたんぽぽ保育園	1	1	埼玉県朝霞市栄町5-1-30
6-4-1-029	あさしがおかアンジュこども園	2	2	埼玉県朝霞市朝志ヶ丘3-7-47
6-4-1-030	泉水保育園	1	1	埼玉県朝霞市泉水2-12-11
6-4-1-031	第二あさかたんぽぽこども園	1	1	埼玉県朝霞市大字溝沼1336-4
6-4-1-032	浜崎保育園	1	1	埼玉県朝霞市大字浜崎662-1
6-4-1-033	本町保育園	1	1	埼玉県朝霞市本町1-20-4
6-4-1-034	和光市にいくら保育園	2	2	埼玉県和光市新倉1-36-2
6-4-1-035	和光市ほんちょう保育園	1	1	埼玉県和光市本町31-18
6-4-1-036	はるみ保育園	1	1	埼玉県久喜市上早見180-1
6-4-1-037	けやき子ども園	1	1	埼玉県富士見市大字水子4888
6-4-1-038	第一保育所	1	1	埼玉県富士見市鶴馬1-7-39
6-4-1-039	第四保育所	1	1	埼玉県富士見市西みずほ台1-7
6-4-1-040	ふじみ野保育園	1	2	埼玉県富士見市ふじみ野東3-7-1
6-4-1-041	レイモンド新三郷保育園	1	1	埼玉県三郷市半田299-1
6-4-1-042	富士見保育所	1	1	埼玉県鶴ヶ島市富士見5-4-1-26-1
6-4-1-043	たんぽぽ保育園	3	3	埼玉県ふじみ野市駒林79-2
6-4-1-044	鶴ケ岡すまいる保育園	3	3	埼玉県ふじみ野市鶴ケ岡3-19-80
6-4-1-045	西保育所	1	1	埼玉県白岡市西6-10-3
6-4-1-046	認定こども園　こどものもり	2	2	埼玉県北葛飾郡松伏町田中1-7-31
6-4-1-047	レイモンド汐見丘保育園	1	1	千葉県千葉市中央区汐見丘町25-4-1-1
6-4-1-048	茶々まくはり保育園	3	5	千葉県千葉市美浜区打瀬2-18-2
6-4-1-049	市川保育園	2	2	千葉県市川市市川2-25-4-1-12
6-4-1-050	音のゆりかご保育園	1	1	千葉県松戸市東松戸1-2-34
6-4-1-051	子すずめ保育園	1	1	千葉県松戸市日暮1-8-4
6-4-1-052	慈紘保育園	2	2	千葉県我孫子市湖北台3-13-13
6-4-1-053	印西ひかりこども園	3	3	千葉県印西市木下805-4-1-6
6-4-1-054	まちの保育園　六本木	1	1	東京都港区六本木1-9-10 ｱｰｸﾋﾙｽﾞ仙石山森ﾀﾜｰ1階
6-4-1-055	茶々ひがしとやま子ども園	1	1	東京都新宿区戸山2-35-4-1-101
6-4-1-056	興望館保育園	1	1	東京都墨田区京島1-11-6
6-4-1-057	亀戸こころ保育園	1	1	東京都江東区亀戸9-35-4-1-1-140 亀戸ﾚｼﾞﾃﾞﾝｽE棟(ﾘﾊﾞｰﾌｫｰﾄ)1F
6-4-1-058	白河かもめ保育園	1	1	東京都江東区白河1-5-1-101

保育士 実習先一覧（保育所）

No	実習施設名	保育実習ⅠB 受入人数	保育実習Ⅱ 受入人数	所在地
6-4-1-059	大崎ひまわり保育園	1	1	東京都品川区大崎3-1-9
6-4-1-060	成育しせい保育園	2	2	東京都世田谷区大蔵2-10-18
6-4-1-061	日本大学認定こども園	－	2	東京都世田谷区野沢1-32-6
6-4-1-062	鳩の森保育園	1	1	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-1-28-8
6-4-1-063	陽だまりの丘保育園	1	1	東京都中野区東中野5-17-3
6-4-1-064	阿佐谷保育園	1	1	東京都杉並区阿佐谷北3-36-20
6-4-1-065	せんかわみんなの家	1	1	東京都豊島区要町3-55-4-1-8
6-4-1-066	クラブ保育園	1	1	東京都北区豊島3-5-4-1-15
6-4-1-067	としまみつばち保育園	2	2	東京都北区豊島7-8-7
6-4-1-068	豊川保育園	1	1	東京都北区王子6-4-10
6-4-1-069	王子本町保育園	2	2	東京都北区王子本町3-3-3-101
6-4-1-070	日暮里保育園	2	2	東京都荒川区西日暮里2-2-7
6-4-1-071	大泉にじのいろ保育園	1	1	東京都練馬区大泉町6-30-3
6-4-1-072	向山保育園	2	2	東京都練馬区向山1-5-7
6-4-1-073	練馬二葉保育園	1	1	東京都練馬区豊玉南3-31-15
6-4-1-074	扇こころ保育園	2	－	東京都足立区扇1-22-28
6-4-1-075	新田保育園	3	3	東京都足立区新田2-1-10
6-4-1-076	船堀中央保育園	1	1	東京都江戸川区船堀2-23-10
6-4-1-077	小岩みどり保育園	2	2	東京都江戸川区北小岩5-27-16
6-4-1-078	敬愛保育園	1	－	東京都八王子市散田町5-35-5
6-4-1-079	至誠保育園	1	1	東京都立川市錦町6-26-13
6-4-1-080	小百合保育園	1	1	東京都立川市錦町6-6-3-101
6-4-1-081	西久保保育園	1	1	東京都武蔵野市西久保2-18-6
6-4-1-082	花さき保育園	1	1	東京都東村山市青葉町5-4-1-1-1
6-4-1-083	えがおの森保育園	2	2	東京都国分寺市西恋ヶ窪5-4-1-17の18
6-4-1-084	国分寺市立恋ヶ窪保育園	1	1	東京都国分寺市東恋ヶ窪2-6-13
6-4-1-085	国立あおいとり保育園	4	4	東京都国立市泉5-2-の1
6-4-1-086	東久留米市立　上の原さくら保育園	4	4	東京都東久留米市上の原1-2-44
6-4-1-087	バオバブ保育園	1	1	東京都多摩市一ノ宮1-20-3
6-4-1-088	田無北原保育園	1	1	東京都西東京市北原町2-1-14
6-4-1-089	くらき永田保育園	1	1	神奈川県横浜市南区永田東2-5-8
6-4-1-090	鳩の森愛の詩　瀬谷保育園	1	1	神奈川県横浜市瀬谷区二ツ橋町83-3
6-4-1-091	美しが丘保育園	1	1	神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-2-1
6-4-1-092	レイモンド川崎保育園	1	1	神奈川県川崎市川崎区東田町8
6-4-1-093	レイモンド元住吉保育園	1	1	神奈川県川崎市中原区木月住吉町2-24
6-4-1-094	酒田みずのべ保育園	1	1	神奈川県足柄上郡開成町吉田島4198

合計	142	142

保育士 実習先一覧（施設）

No	実習施設名	保育実習ⅠA 受入人数	保育実習Ⅲ 受入人数	所在地
6-4-2-001	日照養徳園	1	1	茨城県日立市川尻町4-20-12
6-4-2-002	取手市立障害者福祉センターふじしろ	1	1	茨城県取手市藤代730-1
6-4-2-003	第二皇海荘	2	－	栃木県日光市足尾町2071-1
6-4-2-004	すみれ乳児院	1	1	栃木県小山市三峯2-1-21
6-4-2-005	のぞみの園	2	2	群馬県高崎市寺尾町2120-2
6-4-2-006	森の子園	1	1	群馬県伊勢崎市堀口町666-1
6-4-2-007	さいたま市南部児童相談所	2	－	埼玉県さいたま市浦和区上木崎4-4-10
6-4-2-008	さいたま市はるの園	2	1	埼玉県さいたま市見沼区春野2-3-5
6-4-2-009	春野児童センター	1	1	埼玉県さいたま市見沼区春野1-7-1
6-4-2-010	カルテット	1	1	埼玉県さいたま市桜区下大久保1542-4
6-4-2-011	療育センターさくら草たんぽぽ園	1	1	埼玉県さいたま市桜区田島2-16-2
6-4-2-012	浦和別所児童センター	1	1	埼玉県さいたま市南区別所2-15-6
6-4-2-013	埼玉育児院	1	1	埼玉県川越市笠幡4904
6-4-2-014	おお里	2	2	埼玉県熊谷市中恩田289
6-4-2-015	泰山木のある家	－	2	埼玉県熊谷市妻沼770-1
6-4-2-016	江南愛の家	2	2	埼玉県熊谷市野原245
6-4-2-017	児童養護施設　江南	2	2	埼玉県熊谷市千代339-10
6-4-2-018	川口市立芝児童センター	2	2	埼玉県川口市芝樋ノ爪1-12-8
6-4-2-019	子供の町	2	2	埼玉県春日部市西金野井337
6-4-2-020	乳児院　つぼみ	3	3	埼玉県羽生市大字下新郷662-1
6-4-2-021	ふれんど	－	2	埼玉県羽生市大字下新郷666
6-4-2-022	はなこみち	2	2	埼玉県深谷市西大沼44-1
6-4-2-023	埼玉県中央児童相談所　一時保護所	－	2	埼玉県上尾市上尾村1242-1
6-4-2-024	あすなろ学園	1	1	埼玉県戸田市美女木4-27-13
6-4-2-025	むつみ荘	－	1	埼玉県戸田市新曽1191-8
6-4-2-026	りんごの家	2	2	埼玉県桶川市倉田513
6-4-2-027	児童養護施設　あいの実	－	1	埼玉県日高市高麗川1-5-28
6-4-2-028	光の家療育センター	2	2	埼玉県入間郡毛呂山町大字毛呂本郷38
6-4-2-029	児童養護施設ほうゆう・キッズホーム	－	1	千葉県千葉市花見川区犢橋町675
6-4-2-030	国府台母子ホーム	1	1	千葉県市川市国府台2-9-13
6-4-2-031	児童養護施設　恩寵園	1	1	千葉県船橋市薬円台4-6-2
6-4-2-032	わかたけきっず	2	2	千葉県柏市高柳878-1
6-4-2-033	赤城児童センター	1	1	千葉県流山市流山8-1071
6-4-2-034	東京都八街学園	2	2	千葉県八街市八街に151
6-4-2-035	いんば学舎　松虫	1	1	千葉県印西市松虫516
6-4-2-036	一宮学園	3	3	千葉県長生郡一宮町一宮389
6-4-2-037	レインボーハウス明石	1	1	東京都中央区明石町1-6
6-4-2-038	東京都児童相談センター	3	3	東京都新宿区北新宿4-6-1
6-4-2-039	二葉乳児院	3	3	東京都新宿区南元町4
6-4-2-040	教育センター	1	1	東京都文京区湯島4-7-10
6-4-2-041	さくら荘	1	1	東京都台東区橋場1-35-7
6-4-2-042	すみだ晴山苑	1	1	東京都墨田区八広5-18-30
6-4-2-043	東京都立東部療育センター	3	－	東京都江東区新砂3-3-25
6-4-2-044	第二しいのき学園	2	2	東京都品川区東品川3-1-8
6-4-2-045	大田区立ひまわり苑	1	－	東京都大田区大森南2-15-18
6-4-2-046	救世軍機恵子寮	1	1	東京都大田区上池台4-12-10
6-4-2-047	東京育成園	1	1	東京都世田谷区上馬4-12-3
6-4-2-048	広尾フレンズ	1	1	東京都渋谷区広尾4-2-12
6-4-2-049	東京家庭学校	1	1	東京都杉並区高井戸東2-3-4
6-4-2-050	小百合の寮	－	1	東京都杉並区井草4-19-28
6-4-2-051	北区立児童発達支援センター	1	1	東京都北区王子6-7-3
6-4-2-052	星美ホーム	1	1	東京都北区赤羽台4-2-14
6-4-2-053	板橋区立加賀福祉園	2	2	東京都板橋区加賀1-7-2
6-4-2-054	マハヤナ学園撫子園	1	1	東京都板橋区前野町5-7-10
6-4-2-055	クリスマス・ヴィレッジ	1	1	東京都足立区西新井本町4-13-16
6-4-2-056	希望の家	1	1	東京都葛飾区青戸4-14-15
6-4-2-057	ふたばホーム	1	1	東京都葛飾区白鳥3-29-16
6-4-2-058	江戸川区立　希望の家	2	2	東京都江戸川区江戸川5-32-6

保育士 実習先一覧（施設）

No	実習施設名	保育実習ⅠA 受入人数	保育実習Ⅲ 受入人数	所在地
6-4-2-059	江戸川つむぎの家	1	1	東京都江戸川区江戸川2-38-20
6-4-2-060	エスオーエスこどもの村	2	2	東京都八王子市裏高尾町991
6-4-2-061	すぎな愛育園　きらきら	2	2	東京都八王子市片倉町1630-4
6-4-2-062	砂町友愛園　養護部	2	2	東京都青梅市沢井1-506
6-4-2-063	今井城学園	1	1	東京都青梅市今井2-1207-8
6-4-2-064	東京サレジオ学園	2	2	東京都小平市上水南町4-7-1
6-4-2-065	東京都東村山福祉園	1	1	東京都東村山市萩山町1-35-1
6-4-2-066	羽村市　西児童館	1	1	東京都羽村市小作台5-28-3
6-4-2-067	聖ヨゼフホーム	－	1	東京都西東京市保谷町4-12-7
6-4-2-068	横浜市みどりハイム	3	3	神奈川県横浜市緑区東本郷4-7-8
6-4-2-069	至誠館さくら乳児院	1	1	神奈川県川崎市多摩区菅稲田堤1-10-5
6-4-2-070	児童養護施設　白山愛児園	2	2	神奈川県川崎市麻生区白山1-1
6-4-2-071	児童養護施設　川崎愛児園	2	2	神奈川県川崎市宮前区馬絹1-24-5
6-4-2-072	神奈川県大和綾瀬地域児童相談所	1	1	神奈川県藤沢市亀井野3119
6-4-2-073	厚木児童相談所	1	－	神奈川県厚木市水引2-3-1
6-4-2-074	児童養護施設　箱根恵明学園	1	1	神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下413

合計	101	102

幼稚園教諭 実習先一覧（私立）

No	実習園名	学級数	所在地
6-5-1-001	京北幼稚園	3	東京都文京区本駒込２丁目１３−５
6-5-1-002	葛飾二葉幼稚園	12	東京都葛飾区金町２−１９−６
6-5-1-003	明福寺ルンビニー幼稚園	7	東京都江戸川区江戸川３−８

幼稚園教諭　実習先一覧（公立）

No	設置者	園名	学級数					住所
			計	3歳児	4歳児	5歳児	4・5歳児	N学級	
6-5-2-001	千代田区	麹町	4	2	1	1	−	−	麹町2-8
6-5-2-002	千代田区	九段	4	2	1	1	−	−	三番町16
6-5-2-003	千代田区	番町	4	2	1	1	−	−	六番町8
6-5-2-004	千代田区	お茶の水	3	1	1	1	−	−	富士見1-1-6
6-5-2-005	千代田区	千代田	3	1	1	1	−	−	神田司町2-16
6-5-2-006	千代田区	昌平	3	1	1	1	−	−	外神田3-4-7
6-5-2-007	千代田区	いずみこども園	3	1	1	1	−	−	神田和泉町1
6-5-2-008	千代田区	ふじみこども園	6	2	2	2	−	−	富士見1-10-3
6-5-2-009	中央区	昭和	−	−	−	−	−	−	八重洲2-2-2
6-5-2-010	中央区	泰明	1	−	1	−	−	−	銀座5-1-13
6-5-2-011	中央区	中央	4	2	1	1	−	−	湊1-4-1
6-5-2-012	中央区	明石	6	2	2	2	−	−	明石町1-15
6-5-2-013	中央区	京橋朝海	3	1	1	1	−	−	築地2-13-1
6-5-2-014	中央区	明正	4	2	1	1	−	−	新川2-13-4
6-5-2-015	中央区	常盤	−	−	−	−	−	−	日本橋本石町4-4-26
6-5-2-016	中央区	有馬	6	2	2	2	−	−	日本橋蛎殻町2-10-23
6-5-2-017	中央区	久松	7	3	2	2	−	−	日本橋久松町7-2
6-5-2-018	中央区	月島	6	2	2	2	−	−	月島1-9-7
6-5-2-019	中央区	月島第一	6	2	2	2	−	−	月島4-15-1
6-5-2-020	中央区	月島第二	6	2	2	2	−	−	勝どき1-12-2
6-5-2-021	中央区	晴海	7	3	2	2	−	−	晴海1-4-1
6-5-2-022	中央区	豊海	9	3	3	3	−	−	豊海町3-1
6-5-2-023	中央区	日本橋	5	2	1	2	−	−	日本橋人形町1-1-17
6-5-2-024	港区	赤羽	2	−	1	1	−	−	三田1-4-52
6-5-2-025	港区	芝浦	5	1	2	2	−	−	芝浦4-8-18
6-5-2-026	港区	三光	3	1	1	1	−	−	白金3-13-8
6-5-2-027	港区	港南	7	2	2	3	−	−	港南4-3-27
6-5-2-028	港区	麻布	6	2	2	2	−	−	麻布台1-5-15
6-5-2-029	港区	南山	3	1	1	1	−	−	元麻布3-8-15
6-5-2-030	港区	本村	2	−	1	1	−	−	南麻布3-9-33
6-5-2-031	港区	中之町	6	2	2	2	−	−	赤坂9-7-8
6-5-2-032	港区	青南	6	2	2	2	−	−	南青山4-18-17
6-5-2-033	港区	白金台	6	2	2	2	−	−	白金台3-7-1
6-5-2-034	港区	高輪	3	1	1	1	−	−	高輪2-12-31
6-5-2-035	港区	にじのはし	3	1	1	1	−	−	台場1-1-5
6-5-2-036	新宿区	津久戸	3	1	1	1	−	−	津久戸町2-2
6-5-2-037	新宿区	江戸川	−	−	−	−	−	−	水道町1-28
6-5-2-038	新宿区	市谷	3	1	1	1	−	−	市谷山伏町1-3
6-5-2-039	新宿区	早稲田	3	1	1	1	−	−	早稲田南町25
6-5-2-040	新宿区	鶴巻	3	1	1	1	−	−	早稲田鶴巻町140
6-5-2-041	新宿区	牛込仲之	3	1	1	1	−	−	市谷仲之町4-33
6-5-2-042	新宿区	富久	−	−	−	−	−	−	富久町7-24
6-5-2-043	新宿区	余丁町	3	1	1	1	−	−	若松町13-1
6-5-2-044	新宿区	四谷第六	3	1	1	1	−	−	大京町30
6-5-2-045	新宿区	花園	3	1	1	1	−	−	新宿1-22-1
6-5-2-046	新宿区	大久保	3	1	1	1	−	−	大久保1-1-21
6-5-2-047	新宿区	戸山	−	−	−	−	−	−	百人町2-1-38
6-5-2-048	新宿区	戸塚第一	−	−	−	−	−	−	西早稲田3-10-12
6-5-2-049	新宿区	戸塚第二	3	1	1	1	−	−	高田馬場1-25-21
6-5-2-050	新宿区	戸塚第三	−	−	−	−	−	−	高田馬場3-18-21
6-5-2-051	新宿区	落合第二	−	−	−	−	−	−	上落合2-10-23
6-5-2-052	新宿区	落合第三	3	1	1	1	−	−	西落合1-12-20
6-5-2-053	新宿区	落合第四	3	1	1	1	−	−	下落合2-9-34
6-5-2-054	新宿区	落合第六	−	−	−	−	−	−	西落合4-11-21
6-5-2-055	新宿区	淀橋第四	3	1	1	1	−	−	北新宿3-17-1
6-5-2-056	新宿区	西戸山	3	1	1	1	−	−	百人町4-7-1
6-5-2-057	文京区	第一	5	1	2	2	−	−	西片2-17-6
6-5-2-058	文京区	柳町	4	−	2	2	−	−	小石川1-23-6
6-5-2-059	文京区	明化	5	1	2	2	−	−	千石1-13-9
6-5-2-060	文京区	青柳	2	−	1	1	−	−	大塚5-40-18
6-5-2-061	文京区	根津	3	1	1	1	−	−	根津1-14-2
6-5-2-062	文京区	小日向台町	5	1	2	2	−	−	小日向2-2-2
6-5-2-063	文京区	本駒込	3	1	1	1	−	−	本駒込4-35-15
6-5-2-064	文京区	千駄木	6	2	2	2	−	−	千駄木5-43-3
6-5-2-065	文京区	後楽	2	−	1	1	−	−	後楽1-7-7
6-5-2-066	文京区	湯島	3	1	1	1	−	−	本郷3-10-18
6-5-2-067	台東区	根岸	3	1	1	1	−	−	根岸3-9-7
6-5-2-068	台東区	竹町	3	1	1	1	−	−	台東4-21-9
6-5-2-069	台東区	大正	3	1	1	1	−	−	入谷2-23-8

幼稚園教諭　実習先一覧（公立）

No	設置者	園名	学級数						住所
			計	3歳児	4歳児	5歳児	4・5歳児	N学級	
6-5-2-070	台東区	清島	3	1	1	1	−	−	東上野6-16-8
6-5-2-071	台東区	富士	3	1	1	1	−	−	浅草4-48-18
6-5-2-072	台東区	千束	3	1	1	1	−	−	浅草4-24-15
6-5-2-073	台東区	金竜	3	1	1	1	−	−	千束1-9-21
6-5-2-074	台東区	田原	3	1	1	1	−	−	雷門1-5-17
6-5-2-075	台東区	台桜	3	1	1	1	−	−	谷中2-9-4
6-5-2-076	台東区	育英	3	1	1	1	−	−	浅草橋5-1-35
6-5-2-077	墨田区	緑	2	−	1	1	−	−	緑2-11-5
6-5-2-078	墨田区	柳島	2	−	1	1	−	−	横川5-2-30
6-5-2-079	墨田区	第三寺島	2	−	1	1	−	−	東向島6-8-1
6-5-2-080	墨田区	八広	2	−	1	1	−	−	八広5-12-15
6-5-2-081	墨田区	菊川	2	−	1	1	−	−	立川4-12-15
6-5-2-082	墨田区	曳舟	2	−	1	1	−	−	京島1-28-2
6-5-2-083	墨田区	立花	2	−	1	1	−	−	立花1-25-9
6-5-2-084	江東区	ちどり	2	−	1	1	−	−	古石場1-11-11
6-5-2-085	江東区	平久	2	−	1	1	−	−	木場1-2-2
6-5-2-086	江東区	川南	2	−	1	1	−	−	千石2-9-12
6-5-2-087	江東区	元加賀	2	−	1	1	−	−	白河4-9-17
6-5-2-088	江東区	豊洲	7	3	2	2	−	−	豊洲4-4-4
6-5-2-089	江東区	辰巳	2	−	1	1	−	−	辰巳1-11-1
6-5-2-090	江東区	第一亀戸	2	−	1	1	−	−	亀戸2-5-7
6-5-2-091	江東区	第二亀戸	2	−	1	1	−	−	亀戸6-36-1
6-5-2-092	江東区	第三大島	2	−	1	1	−	−	大島7-39-2-101
6-5-2-093	江東区	第五砂町	2	−	1	1	−	−	東砂7-5-27
6-5-2-094	江東区	東砂	2	−	1	1	−	−	東砂4-20-1
6-5-2-095	江東区	小名木川	1	−	−	1	−	−	北砂5-22-10
6-5-2-096	江東区	南陽	7	3	2	2	−	−	東陽2-1-14
6-5-2-097	江東区	大島	2	−	1	1	−	−	大島5-38-1
6-5-2-098	江東区	なでしこ	2	−	1	1	−	−	北砂5-20-7-102
6-5-2-099	江東区	枝川	2	−	1	1	−	−	枝川3-4-1-101
6-5-2-100	江東区	ひばり	3	−	1	2	−	−	東雲2-4-1-103
6-5-2-101	江東区	もみじ	1	−	−	1	−	−	大島8-21-9-101
6-5-2-102	江東区	つばめ	2	−	1	1	−	−	扇橋3-20-13-101
6-5-2-103	江東区	みどり	2	−	1	1	−	−	南砂2-3-3-101
6-5-2-104	品川区	城南	2	−	1	1	−	−	南品川2-8-21
6-5-2-105	品川区	平塚	2	−	1	1	−	−	荏原4-5-22
6-5-2-106	品川区	浜川	2	−	1	1	−	−	南大井4-3-14
6-5-2-107	品川区	御殿山	2	−	1	1	−	−	北品川5-3-1
6-5-2-108	品川区	伊藤	2	−	1	1	−	−	西大井5-22-8
6-5-2-109	品川区	第一日野	2	−	1	1	−	−	西五反田6-5-6
6-5-2-110	品川区	台場	2	−	1	1	−	−	東品川1-8-30
6-5-2-111	品川区	二葉	4	−	2	2	−	−	二葉1-3-40
6-5-2-112	品川区	八潮わかば	2	−	1	1	−	−	八潮5-6-32
6-5-2-113	目黒区	みどりがおかこども園	3	1	1	1	−	−	緑が丘2-7-20
6-5-2-114	目黒区	げっこうはらこども園	3	1	1	1	−	−	目黒本町4-15-3
6-5-2-115	目黒区	ひがしやま	2	−	1	1	−	−	東山3-24-2
6-5-2-116	世田谷区	三島	3	−	1	2	−	−	深沢5-11-5
6-5-2-117	世田谷区	給田	3	−	1	2	−	−	給田4-7-11
6-5-2-118	世田谷区	中町	2	−	1	1	−	−	中町4-38-21
6-5-2-119	世田谷区	認定こども園世田谷区立多聞	4	−	2	2	−	−	三宿2-25-9
6-5-2-120	世田谷区	松丘	4	−	2	2	−	−	弦巻5-21-10
6-5-2-121	世田谷区	砧	4	−	2	2	−	−	喜多見6-9-11
6-5-2-122	世田谷区	八幡山	3	−	1	2	−	−	八幡山1-27-25
6-5-2-123	世田谷区	桜丘	4	−	2	2	−	−	桜丘5-2-19
6-5-2-124	渋谷区	広尾	2	−	1	1	−	−	東3-3-3
6-5-2-125	渋谷区	本町	2	−	1	1	−	−	本町5-19-4
6-5-2-126	渋谷区	臨川	2	−	1	1	−	−	広尾1-9-17
6-5-2-127	渋谷区	千駄谷	2	−	1	1	−	−	千駄ヶ谷2-4-1
6-5-2-128	渋谷区	山谷	2	−	1	1	−	−	代々木3-32-13
6-5-2-129	中野区	かみさぎ	3	1	1	1	−	−	上鷺宮4-8-12
6-5-2-130	中野区	ひがしなかの	3	1	1	1	−	−	東中野5-8-21
6-5-2-131	杉並区	下高井戸子供園	3	1	1	1	−	−	下高井戸4-38-15
6-5-2-132	杉並区	高円寺北子供園	2	−	1	1	−	−	高円寺北2-14-13
6-5-2-133	杉並区	成田西子供園	3	1	1	1	−	−	成田西2-24-21
6-5-2-134	杉並区	高井戸西子供園	3	1	1	1	−	−	高井戸西3-15-4
6-5-2-135	杉並区	堀ノ内子供園	3	1	1	1	−	−	堀ノ内1-9-26
6-5-2-136	杉並区	西荻北子供園	3	1	1	1	−	−	西荻北1-19-22
6-5-2-137	豊島区	西巣鴨	2	−	1	1	−	−	西巣鴨2-14-11
6-5-2-138	豊島区	南長崎	2	−	1	1	−	−	南長崎4-12-7

幼稚園教諭　実習先一覧（公立）

No	設置者	園名	学級数						住所
			計	3歳児	4歳児	5歳児	4・5歳児	N学級	
6-5-2-139	豊島区	池袋	2	−	1	1	−	−	池袋3-30-22
6-5-2-140	北区	たきさん	2	−	1	1	−	−	滝野川1-12-27
6-5-2-141	北区	うめのき	2	−	1	1	−	−	西が丘2-21-15
6-5-2-142	北区	じゅうじょうなかはら	2	−	1	1	−	−	十条仲原1-21-8
6-5-2-143	北区	ふくろ	1	−	−	1	−	−	赤羽北2-15-1-114
6-5-2-144	荒川区	南千住第二	3	1	1	1	−	−	南千住8-2-1
6-5-2-145	荒川区	町屋	3	1	1	1	−	−	町屋8-19-12
6-5-2-146	荒川区	尾久	3	1	1	1	−	−	東尾久1-36-3
6-5-2-147	荒川区	日暮里	3	1	1	1	−	−	東日暮里6-49-21
6-5-2-148	荒川区	東日暮里	3	1	1	1	−	−	東日暮里3-10-17
6-5-2-149	荒川区	尾久第二	3	1	1	1	−	−	西尾久8-26-9
6-5-2-150	荒川区	南千住第三	3	1	1	1	−	−	南千住1-13-17
6-5-2-151	荒川区	花の木	3	1	1	1	−	−	荒川5-41-4
6-5-2-152	荒川区	汐入こども園	5	1	2	2	−	−	南千住8-9-3
6-5-2-153	板橋区	高島	4	−	2	2	−	−	高島平2-18-1
6-5-2-154	練馬区	北大泉	4	−	2	2	−	−	大泉町2-46-6
6-5-2-155	練馬区	光が丘むらさき	6	−	2	2	−	2	光が丘3-3-5-101
6-5-2-156	練馬区	光が丘さくら	4	−	2	2	−	−	光が丘2-4-8-101
6-5-2-157	葛飾区	北住吉	2	−	1	1	−	−	柴又2-1-10
6-5-2-158	葛飾区	水元	2	−	1	1	−	−	水元1-16-22
6-5-2-159	江戸川区	船堀	4	−	2	2	−	−	船堀6-11-39
6-5-2-160	府中市	みどり	2	−	1	1	−	−	緑町1-8
6-5-2-161	日野市	第二	2	−	1	1	−	−	平山4-5-4
6-5-2-162	日野市	第四	2	−	1	1	−	−	石田431-6
6-5-2-163	日野市	第七	2	−	1	1	−	−	旭が丘2-42
合計			489	109	185	193	−	2	

※都内公立園数は、令和4年（2022年）4月現在の数となる。

高等学校教諭　実習先一覧（公立）

No.	所在地区市町村	学校名	全日制 学科 大	全日制 学科 小学科名	全日制 学級数 計	1学年	2学年	3学年	定時制等 学科 大	定時制等 学科 小学科名	定時制等 学級数 計	1学年	2学年	3学年	4学年	住所
6-6-1-001	千代田区	一橋	－	－	－	－	－	－	普	普通科１部（単位制）	12	3	3	3	3	東神田1-12-13
			－	－	－	－	－	－	普	普通科２部（単位制）	12	3	3	3	3	
			－	－	－	－	－	－	普	普通科３部（単位制）	8	2	2	2	2	
			－	－	－	－	－	－	通	通信制本科	14	4	5	5	－	
			－	－	－	－	－	－	通	通信制併修	－	－	－	－	－	
6-6-1-002	千代田区	日比谷	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	永田町2-16-1
6-6-1-003	港区	三田	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	三田1-4-46
6-6-1-004	品川区	大崎	普	普通科	21	7	7	7	普	普通科	4	1	1	1	1	豊町2-1-7
6-6-1-005	品川区	八潮	普	普通科	19	6	6	7	－	－	－	－	－	－	－	東品川3-27-22
6-6-1-006	品川区	小山台	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	4	1	1	1	1	小山3-3-32
6-6-1-007	大田区	雪谷	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	久が原1-14-1
6-6-1-008	大田区	大森	普	普通科	16	5	5	6	普	普通科	4	1	1	1	1	西蒲田2-2-1
6-6-1-009	大田区	田園調布	普	普通科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	田園調布南27-1
6-6-1-010	大田区	蒲田	普	普通科	13	4	4	5	－	－	－	－	－	－	－	蒲田本町1-1-30
6-6-1-011	大田区	つばさ総合	総	総合学科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	本羽田3-11-5
6-6-1-012	港区	六本木	－	－	－	－	－	－	総	総合学科１部	8	2	2	2	2	六本木6-16-36
			－	－	－	－	－	－	総	総合学科２部	8	2	2	2	2	
			－	－	－	－	－	－	総	総合学科３部	8	2	2	2	2	
6-6-1-013	大田区	六郷工科	工	オートモビル工学科（単位制）	3	1	1	1	普	普通科（単位制）	4	1	1	1	1	東六郷2-18-2
			工	デザイン工学科（単位制）	3	1	1	1	工	生産工学科（単位制）	4	1	1	1	1	
			工	システム工学科（単位制）	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			工	プロダクト工学科（単位制）	5	1	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
			工	デュアルシステム科（単位制）	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-014	大田区	美原	普	普通科（単位制）	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	大森東1-33-1
6-6-1-015	港区	芝商業	商	ビジネス科	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	海岸1-8-25
6-6-1-016	大田区	大田桜台	商	ビジネスコミュニケーション科	16	5	5	6	－	－	－	－	－	－	－	中馬込3-11-10
6-6-1-017	新宿区	戸山	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	戸山3-19-1
6-6-1-018	目黒区	駒場	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	大橋2-18-1
			他	保健体育科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-019	目黒区	目黒	普	普通科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	祐天寺2-7-15
6-6-1-020	新宿区	新宿	普	普通科（単位制）	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	内藤町11-4
6-6-1-021	渋谷区	青山	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	神宮前2-1-8
6-6-1-022	渋谷区	広尾	普	普通科	16	5	5	6	－	－	－	－	－	－	－	東4-14-14
6-6-1-023	世田谷区	松原	普	普通科	15	5	5	5	普	普通科	4	1	1	1	1	桜上水4-3-5
6-6-1-024	世田谷区	桜町	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	4	1	1	1	1	用賀2-4-1
6-6-1-025	世田谷区	千歳丘	普	普通科	20	6	7	7	－	－	－	－	－	－	－	船橋3-18-1
6-6-1-026	世田谷区	深沢	普	普通科	15	5	5	5	－	－	－	－	－	－	－	深沢7-3-14
6-6-1-027	世田谷区	世田谷泉	－	－	－	－	－	－	総	総合学科１部	8	2	2	2	2	北烏山9-22-1
			－	－	－	－	－	－	総	総合学科２部	8	2	2	2	2	
			－	－	－	－	－	－	総	総合学科３部	8	2	2	2	2	
6-6-1-028	世田谷区	世田谷総合	総	総合学科	16	5	5	6	－	－	－	－	－	－	－	岡本2-9-1
6-6-1-029	新宿区	新宿山吹	－	－	－	－	－	－	普	普通科１部（単位制）	4	1	1	1	1	山吹町81
			－	－	－	－	－	－	普	普通科２部（単位制）	4	1	1	1	1	
			－	－	－	－	－	－	普	普通科３部（単位制）	4	1	1	1	1	
			－	－	－	－	－	－	普	普通科４部（単位制）	4	1	1	1	1	
			－	－	－	－	－	－	情	情報科２部（単位制）	4	1	1	1	1	
			－	－	－	－	－	－	情	情報科４部（単位制）	4	1	1	1	1	
			－	－	－	－	－	－	通	通信制本科	8	2	2	2	2	
			－	－	－	－	－	－	通	通信制併修	－	－	－	－	－	
6-6-1-030	世田谷区	芦花	普	普通科（単位制）	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	粕谷3-8-1
6-6-1-031	渋谷区	第一商業	商	ビジネス科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	鉢山町8-1
6-6-1-032	世田谷区	総合工科	工	機械・自動車科	5	1	2	2	工	総合技術科	4	1	1	1	1	成城9-25-1
			工	電気・情報デザイン科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
			工	建築・都市工学科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-033	世田谷区	園芸	農	園芸科	6	2	2	2	農	園芸科	4	1	1	1	1	深沢5-38-1
			農	食品科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			農	動物科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	

高等学校教諭　実習先一覧（公立）

No.	所在地区市町村	学校名	全日制						定時制等							住所
			学科		学級数				学科		学級数					
			大	小学科名	計	1学年	2学年	3学年	大	小学科名	計	1学年	2学年	3学年	4学年	
6-6-1-034	目黒区	国際	他	国際学科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	駒場2-19-59
6-6-1-035	新宿区	総合芸術	他	美術科（単位制）	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	富久町22-1
			他	音楽科（単位制）	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			他	舞台表現科（単位制）	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-036	中野区	鷺宮	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	若宮3-46-8
6-6-1-037	中野区	富士	普	普通科	13	3	5	5	－	－	－	－	－	－	－	弥生町5-21-1
6-6-1-038	中野区	武蔵丘	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	上鷺宮2-14-1
6-6-1-039	杉並区	荻窪	－	－	－	－	－	－	普	普通科1部（単位制）	12	3	3	3	3	荻窪5-7-20
			－	－	－	－	－	－	普	普通科2部（単位制）	12	3	3	3	3	
			－	－	－	－	－	－	普	普通科3部（単位制）	8	2	2	2	2	
6-6-1-040	杉並区	西	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	宮前4-21-32
6-6-1-041	杉並区	豊多摩	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	成田西2-6-18
6-6-1-042	杉並区	杉並	普	普通科	23	7	8	8	－	－	－	－	－	－	－	成田西4-15-15
6-6-1-043	練馬区	石神井	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	関町北4-32-48
6-6-1-044	練馬区	井草	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	上石神井2-2-43
6-6-1-045	練馬区	大泉	普	普通科	15	5	5	5	－	－	－	－	－	－	－	東大泉5-3-1
6-6-1-046	練馬区	練馬	普	普通科	20	6	7	7	－	－	－	－	－	－	－	春日町4-28-25
6-6-1-047	練馬区	光丘	普	普通科	19	6	6	7	－	－	－	－	－	－	－	旭町2-1-35
6-6-1-048	練馬区	田柄	普	外国文化コース	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	光が丘2-3-1
			普	普通科	9	3	3	3	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-049	杉並区	杉並総合	総	総合学科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	下高井戸5-17-1
6-6-1-050	中野区	稔ヶ丘	－	－	－	－	－	－	総	総合学科1部	12	3	3	3	3	上鷺宮5-11-1
			－	－	－	－	－	－	総	総合学科2部	12	3	3	3	3	
			－	－	－	－	－	－	総	総合学科3部	7	2	2	2	1	
6-6-1-051	練馬区	大泉桜	普	普通科（単位制）	16	5	5	6	－	－	－	－	－	－	－	大泉町3-5-7
6-6-1-052	練馬区	第四商業	商	ビジネス科	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	貫井3-45-19
6-6-1-053	中野区	中野工業	工	キャリア技術科	13	4	4	5	工	総合技術科	4	1	1	1	1	野方3-5-5
6-6-1-054	杉並区	杉並工業	工	機械科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	上井草4-13-31
			工	電子科	5	1	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
			工	理工環境科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-055	練馬区	練馬工業	工	キャリア技術科	15	5	5	5	－	－	－	－	－	－	－	早宮2-9-18
6-6-1-056	杉並区	農芸	農	園芸科学科	3	1	1	1	農	農芸科	4	1	1	1	1	今川3-25-1
			農	緑地環境科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			農	食品科学科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-057	文京区	竹早	普	普通科	19	6	6	7	－	－	－	－	－	－	－	小石川4-2-1
6-6-1-058	文京区	向丘	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	向丘1-11-18
6-6-1-059	豊島区	豊島	普	普通科	21	7	7	7	普	普通科	4	1	1	1	1	千早4-9-21
6-6-1-060	豊島区	文京	普	普通科	27	9	9	9	－	－	－	－	－	－	－	西巣鴨1-1-5
6-6-1-061	板橋区	北園	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	板橋4-14-1
6-6-1-062	板橋区	板橋	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	大谷口1-54-1
6-6-1-063	板橋区	大山	普	普通科	16	5	5	6	普	普通科	4	1	1	1	1	小茂根5-18-1
6-6-1-064	板橋区	高島	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	高島平3-7-1
6-6-1-065	北区	桐ヶ丘	－	－	－	－	－	－	総	総合学科1部	8	2	2	2	2	赤羽北3-5-22
			－	－	－	－	－	－	総	総合学科2部	8	2	2	2	2	
			－	－	－	－	－	－	総	総合学科3部	8	2	2	2	2	
6-6-1-066	北区	王子総合	総	総合学科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	滝野川3－54－7
6-6-1-067	北区	飛鳥	普	普通科（単位制）	17	5	6	6	普	普通科（単位制）	7	2	2	2	1	王子6-8-8
6-6-1-068	板橋区	板橋有徳	普	普通科（単位制）	16	5	5	6	普	普通科（単位制）	4	1	1	1	1	徳丸2-17-1
6-6-1-069	豊島区	千早	商	ビジネスコミュニケーション科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	千早3-46-21
6-6-1-070	文京区	工芸	工	マシンクラフト科	3	1	1	1	工	マシンクラフト科	4	1	1	1	1	本郷1-3-9
			工	インテリア科	3	1	1	1	工	インテリア科	4	1	1	1	1	
			工	デザイン科	3	1	1	1	工	グラフィックアーツ科	4	1	1	1	1	
			工	グラフィックアーツ科	3	1	1	1	工	アートクラフト科	4	1	1	1	1	
			工	アートクラフト科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-071	板橋区	北豊島工業	工	総合技術科	13	4	4	5	工	機械科	4	1	1	1	1	富士見町28-1
6-6-1-072	北区	赤羽北桜	家	調理科	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	西が丘3-14-20
			家	保育・栄養科	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

高等学校教諭　実習先一覧（公立）

No.	所在地区市町村	学校名	全日制						定時制等							住所
			学科		学級数				学科		学級数					
			大	小学科名	計	1学年	2学年	3学年	大	小学科名	計	1学年	2学年	3学年	4学年	
			福	介護・福祉科	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	
6-6-1-073	台東区	白鷗	普	普通科	18	6	6	6	−	−	−	−	−	−	−	元浅草1-6-22
6-6-1-074	台東区	忍岡	普	普通科（単位制）	12	4	4	4	−	−	−	−	−	−	−	浅草橋5-1-24
			家	生活科学科（単位制）	6	2	2	2	−	−	−	−	−	−	−	
6-6-1-075	台東区	上野	普	普通科	24	8	8	8	−	−	−	−	−	−	−	上野公園10-14
6-6-1-076	荒川区	竹台	普	普通科	16	5	5	6	−	−	−	−	−	−	−	東日暮里5-14-1
6-6-1-077	足立区	足立	普	普通科	21	7	7	7	普	普通科	7	1	2	2	2	中央本町1-3-9
			−	−	−	−	−	−	商	商業科	4	1	1	1	1	
6-6-1-078	足立区	江北	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	1	−	−	−	1	西綾瀬4-14-30
6-6-1-079	足立区	淵江	普	普通科	17	5	6	6	−	−	−	−	−	−	−	東保木間2-10-1
6-6-1-080	足立区	足立西	普	普通科	15	5	5	5	−	−	−	−	−	−	−	江北5-7-1
6-6-1-081	足立区	足立東	普	普通科	13	4	4	5	−	−	−	−	−	−	−	大谷田2-3-5
6-6-1-082	足立区	青井	普	普通科	17	5	6	6	−	−	−	−	−	−	−	青井1-7-35
6-6-1-083	足立区	足立新田	普	普通科	20	6	7	7	−	−	−	−	−	−	−	新田2-10-16
6-6-1-084	中央区	晴海総合	総	総合学科	21	7	7	7	−	−	−	−	−	−	−	晴海1-2-1
6-6-1-085	台東区	浅草	−	−	−	−	−	−	普	普通科１部（単位制）	12	3	3	3	3	今戸1-8-13
			−	−	−	−	−	−	普	普通科２部（単位制）	12	3	3	3	3	
			−	−	−	−	−	−	普	普通科３部（単位制）	8	2	2	2	2	
6-6-1-086	足立区	荒川商業	商	総合ビジネス科	6	−	−	6	商	商業科	1	−	−	−	1	小台2-1-31
6-6-1-087	台東区	蔵前工業	工	機械科	6	2	2	2	工	建築工学科	4	1	1	1	1	蔵前1-3-57
			工	電気科	3	1	1	1	−	−	−	−	−	−	−	
			工	建築科	3	1	1	1	−	−	−	−	−	−	−	
			工	設備工業科	3	1	1	1	−	−	−	−	−	−	−	
6-6-1-088	荒川区	荒川工業	工	電気科	5	1	2	2	工	電気科	4	1	1	1	1	南千住6-42-1
			工	電子科	3	1	1	1	工	電子科	(併)	(併)	(併)	(併)	(併)	
			工	情報技術科	6	2	2	2	−	−	−	−	−	−	−	
6-6-1-089	足立区	足立工業	工	総合技術科	14	4	5	5	−	−	−	−	−	−	−	西新井4-30-1
6-6-1-090	墨田区	両国	普	普通科	15	5	5	5	−	−	−	−	−	−	−	江東橋1-7-14
6-6-1-091	墨田区	墨田川	普	普通科（単位制）	23	7	8	8	−	−	−	−	−	−	−	東向島3-34-14
6-6-1-092	墨田区	本所	普	普通科	18	6	6	6	−	−	−	−	−	−	−	向島3-37-25
6-6-1-093	葛飾区	葛飾野	普	普通科	23	7	8	8	−	−	−	−	−	−	−	亀有1-7-1
6-6-1-094	葛飾区	南葛飾	普	普通科	18	6	6	6	普	普通科	8	2	2	2	2	立石6-4-1
6-6-1-095	墨田区	日本橋	普	普通科	18	6	6	6	−	−	−	−	−	−	−	八広1-28-21
6-6-1-096	江東区	深川	普	外国語コース	6	2	2	2	−	−	−	−	−	−	−	東陽5-32-19
			普	普通科	18	6	6	6	−	−	−	−	−	−	−	
6-6-1-097	江東区	東	普	普通科	18	6	6	6	−	−	−	−	−	−	−	東砂7-19-24
6-6-1-098	江東区	城東	普	普通科	24	8	8	8	−	−	−	−	−	−	−	大島3-22-1
6-6-1-099	江戸川区	小松川	普	普通科	24	8	8	8	−	−	−	−	−	−	−	平井1-27-10
6-6-1-100	江戸川区	江戸川	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	7	2	2	2	1	松島2-38-1
6-6-1-101	江戸川区	小岩	普	普通科	27	9	9	9	−	−	−	−	−	−	−	本一色3-10-1
6-6-1-102	江戸川区	葛西南	普	普通科	19	6	6	7	普	普通科	4	1	1	1	1	南葛西1-11-1
6-6-1-103	江戸川区	篠崎	普	普通科	21	7	7	7	−	−	−	−	−	−	−	東篠崎1-10-1
6-6-1-104	江戸川区	紅葉川	普	普通科	18	6	6	6	−	−	−	−	−	−	−	臨海町2-1-1
6-6-1-105	江東区	大江戸	−	−	−	−	−	−	総	総合学科１部	8	2	2	2	2	千石3-2-11
			−	−	−	−	−	−	総	総合学科２部	8	2	2	2	2	
			−	−	−	−	−	−	総	総合学科３部	8	2	2	2	2	
6-6-1-106	葛飾区	葛飾総合	総	総合学科	17	5	6	6	−	−	−	−	−	−	−	南水元4-21-1
6-6-1-107	葛飾区	葛飾商業	商	ビジネス科	18	6	6	6	普	普通科	4	1	1	1	1	新宿3-14-1
			−	−	−	−	−	−	商	商業科	4	1	1	1	1	
6-6-1-108	江東区	江東商業	商	ビジネス科	15	5	5	5	−	−	−	−	−	−	−	亀戸4-50-1
6-6-1-109	江東区	第三商業	商	ビジネス科	17	5	6	6	商	商業科	4	1	1	1	1	越中島3-3-1
6-6-1-110	葛飾区	本所工業	−	−	−	−	−	−	工	総合技術科	4	1	1	1	1	南水元4-21-1
6-6-1-111	江東区	墨田工業	工	機械科	3	1	1	1	工	総合技術科	4	1	1	1	1	森下5-1-7
			工	自動車科	3	1	1	1	−	−	−	−	−	−	−	
			工	電気科	6	2	2	2	−	−	−	−	−	−	−	
			工	建築科	3	1	1	1	−	−	−	−	−	−	−	
6-6-1-112	江戸川区	葛西工業	工	機械科	3	1	1	1	−	−	−	−	−	−	−	一之江7-68-1

高等学校教諭　実習先一覧（公立）

No.	所在地区市町村	学校名	全日制 学科 大	全日制 学科 小学科名	全日制 学級数 計	1学年	2学年	3学年	定時制等 学科 大	定時制等 学科 小学科名	定時制等 学級数 計	1学年	2学年	3学年	4学年	住所
			工	電子科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			工	建築科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
			工	デュアルシステム科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-113	江東区	科学技術	工	科学技術科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	大島1-2-31
6-6-1-114	葛飾区	農産	農	園芸デザイン科	6	2	2	2	農	農産科	4	1	1	1	1	西亀有1-28-1
			農	食品科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-115	墨田区	橘	他	産業科	18	6	6	6	他	産業科	5	1	1	2	1	立花4-29-7
6-6-1-116	八王子市	富士森	普	普通科	23	7	8	8	－	－	－	－	－	－	－	長房町420-2
6-6-1-117	八王子市	片倉	普	造形美術コース	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	片倉町1643
			普	普通科	16	5	5	6	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-118	八王子市	八王子東	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	高倉町68-1
6-6-1-119	八王子市	八王子北	普	普通科	15	5	5	5	－	－	－	－	－	－	－	楢原町601
6-6-1-120	八王子市	松が谷	普	外国語コース	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	松が谷1772
			普	普通科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-121	日野市	日野	普	普通科	23	7	8	8	－	－	－	－	－	－	－	石田1-190-1
6-6-1-122	日野市	日野台	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	大坂上4-16-1
6-6-1-123	日野市	南平	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	南平8-2-3
6-6-1-124	町田市	町田	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	8	2	2	2	2	中町4-25-3
6-6-1-125	町田市	野津田	普	普通科	9	3	3	3	－	－	－	－	－	－	－	野津田町2001
			福	福祉科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			他	体育科	4	1	1	2	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-126	町田市	成瀬	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	成瀬7-4-1
6-6-1-127	町田市	小川	普	普通科	22	7	7	8	－	－	－	－	－	－	－	小川2-1002-1
6-6-1-128	町田市	山崎	普	普通科	16	5	5	6	－	－	－	－	－	－	－	山崎町1453-1
6-6-1-129	町田市	町田総合	総	総合学科	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	木曽西3-5-1
6-6-1-130	八王子市	翔陽	普	普通科（単位制）	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	館町1097-136
6-6-1-131	八王子市	八王子拓真	－	－	－	－	－	－	普	普通科１部（単位制）	16	4	4	4	4	台町3-25-1
			－	－	－	－	－	－	普	普通科２部（単位制）	16	4	4	4	4	
			－	－	－	－	－	－	普	普通科３部（単位制）	8	2	2	2	2	
6-6-1-132	町田市	町田工業	工	総合情報科	15	5	5	5	－	－	－	－	－	－	－	忠生1-20-2
6-6-1-133	八王子市	八王子桑志	他	産業科（デザイン分野）	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	千人町4-8-1
			他	産業科（クラフト分野）	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			他	産業科（システム情報分野）	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			他	産業科（ビジネス情報分野）	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-134	立川市	立川	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	8	2	2	2	2	錦町2-13-5
6-6-1-135	立川市	砂川	－	－	－	－	－	－	普	普通科１部（単位制）	8	2	2	2	2	泉町935-4
			－	－	－	－	－	－	普	普通科２部（単位制）	8	2	2	2	2	
			－	－	－	－	－	－	普	普通科３部（単位制）	4	1	1	1	1	
			－	－	－	－	－	－	通	通信制本科	15	4	5	3	3	
			－	－	－	－	－	－	通	通信制併修	－	－	－	－	－	
6-6-1-136	昭島市	昭和	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	東町2-3-21
6-6-1-137	昭島市	拝島	普	普通科	19	6	6	7	－	－	－	－	－	－	－	拝島町4-13-1
6-6-1-138	東大和市	東大和	普	普通科	22	7	7	8	－	－	－	－	－	－	－	中央3-945
6-6-1-139	武蔵村山市	武蔵村山	普	普通科	19	6	6	7	－	－	－	－	－	－	－	中原1-7-1
6-6-1-140	東大和市	東大和南	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	桜が丘3-44-8
6-6-1-141	青梅市	多摩	普	普通科	15	5	5	5	－	－	－	－	－	－	－	裏宿町580
6-6-1-142	福生市	福生	普	普通科	20	6	7	7	普	普通科	4	1	1	1	1	北田園2-11-3
6-6-1-143	あきる野市	秋留台	普	普通科	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	平沢153-4
6-6-1-144	羽村市	羽村	普	普通科	22	7	7	8	－	－	－	－	－	－	－	羽4152-1
6-6-1-145	あきる野市	五日市	普	ことばと情報コース	10	4	4	2	普	普通科	4	1	1	1	1	五日市894
			商	商業科	2	－	－	2	商	商業科	(併)	－	－	－	(併)	
6-6-1-146	青梅市	青梅総合	総	総合学科	18	6	6	6	総	総合学科	11	3	3	2	3	勝沼1-60-1
6-6-1-147	武蔵村山市	上水	普	普通科（単位制）	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	大南4-62-1
6-6-1-148	福生市	多摩工業	工	機械科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	熊川215
			工	電気科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			工	環境化学科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			工	デュアルシステム科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	

高等学校教諭　実習先一覧（公立）

No.	所在地区市町村	学校名	全日制 学科		全日制 学級数				定時制等 学科		定時制等 学級数					住所
			大	小学科名	計	1学年	2学年	3学年	大	小学科名	計	1学年	2学年	3学年	4学年	
6-6-1-149	瑞穂町	瑞穂農芸	農	園芸科学科	3	1	1	1	普	普通科	4	1	1	1	1	石畑2027
			農	畜産科学科	3	1	1	1	農	農業科	(併)	(併)	(併)	(併)	(併)	
			農	食品科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			家	生活デザイン科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-150	武蔵野市	武蔵	普	普通科	13	3	5	5	－	－	－	－	－	－	－	境4-13-28
6-6-1-151	武蔵野市	武蔵野北	普	普通科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	八幡町2-3-10
6-6-1-152	小金井市	小金井北	普	普通科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	緑町4-1-1
6-6-1-153	西東京市	保谷	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	住吉町5-8-23
6-6-1-154	東久留米市	久留米西	普	普通科	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	野火止2-1-44
6-6-1-155	西東京市	田無	普	普通科	23	7	8	8	－	－	－	－	－	－	－	向台町5-4-34
6-6-1-156	小平市	小平	普	外国語コース	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	仲町112
			普	普通科	15	5	5	5	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-157	小平市	小平西	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	小川町1-502-95
6-6-1-158	東村山市	東村山	普	普通科	15	5	5	5	－	－	－	－	－	－	－	恩多町4-26-1
6-6-1-159	国分寺市	国分寺	普	普通科（単位制）	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	新町3-2-5
6-6-1-160	清瀬市	清瀬	普	普通科	20	6	7	7	－	－	－	－	－	－	－	松山3-1-56
6-6-1-161	小平市	小平南	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	上水本町6-21-1
6-6-1-162	東村山市	東村山西	普	普通科	17	5	6	6	－	－	－	－	－	－	－	富士見町5-4-41
6-6-1-163	東久留米市	東久留米総合	総	総合学科	16	5	5	6	総	総合学科	8	2	2	2	2	幸町5-8-46
6-6-1-164	小金井市	小金井工業	－	－	－	－	－	－	工	機械科	4	1	1	1	1	本町6-8-9
			－	－	－	－	－	－	工	電気科	4	1	1	1	1	
			－	－	－	－	－	－	工	電子科	(併)	(併)	(併)	(併)	(併)	
6-6-1-165	西東京市	田無工業	工	機械科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	向台町1-9-1
			工	建築科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
			工	都市工学科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-166	小金井市	多摩科学技術	工	科学技術科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	本町6-8-9
6-6-1-167	調布市	神代	普	普通科	21	7	7	7	普	普通科	4	1	1	1	1	若葉町1-46-1
6-6-1-168	調布市	調布北	普	普通科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	深大寺北町5-39-1
6-6-1-169	調布市	調布南	普	普通科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	多摩川6-2-1
6-6-1-170	狛江市	狛江	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	元和泉3-9-1
6-6-1-171	府中市	府中	普	普通科	21	7	7	7	－	－	－	－	－	－	－	栄町3-3-1
6-6-1-172	府中市	府中東	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	押立町4-21
6-6-1-173	府中市	府中西	普	普通科	23	7	8	8	－	－	－	－	－	－	－	日新町4-6-7
6-6-1-174	国立市	国立	普	普通科	24	8	8	8	－	－	－	－	－	－	－	東4-25-1
6-6-1-175	多摩市	永山	普	普通科	22	7	7	8	－	－	－	－	－	－	－	永山5-22
6-6-1-176	稲城市	若葉総合	総	総合学科	18	6	6	6	－	－	－	－	－	－	－	坂浜1434-3
6-6-1-177	国立市	第五商業	商	ビジネス科	18	6	6	6	商	商業科	4	1	1	1	1	中3-4-1
6-6-1-178	府中市	府中工業	工	機械科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	若松町2-19-1
			工	電気科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	
			工	情報技術科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			工	工業技術科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-179	府中市	農業	農	都市園芸科	3	1	1	1	普	普通科	4	1	1	1	1	寿町1-10-2
			農	緑地計画科	3	1	1	1	農	食品化学科	4	1	1	1	1	
			農	食品科学科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			家	服飾科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			家	食物科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-180	大島町	大島	普	普通科	6	2	2	2	普	普通科	4	1	1	1	1	元町字八重の水127
			農	農林科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			家	家政科	(併)	(併)	(併)	(併)	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-181	新島村	新島	普	普通科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	本村4-10-1
6-6-1-182	神津島村	神津	普	普通科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	神津島村1620
6-6-1-183	大島町	大島海洋国際	他	海洋国際科	6	2	2	2	－	－	－	－	－	－	－	差木地字下原996-1
6-6-1-184	三宅村	三宅	普	普通科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	坪田4586
			農	農業科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	
			家	家政科	(併)	(併)	(併)	(併)	－	－	－	－	－	－	－	
6-6-1-185	八丈町	八丈	普	普通科	6	2	2	2	普	普通科	4	1	1	1	1	大賀郷3020
			農	園芸科	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	

高等学校教諭　実習先一覧（公立）

No.	所在地区市町村	学校名	全日制						定時制等							住所
			学科		学級数				学科		学級数					
			大	小学科名	計	1学年	2学年	3学年	大	小学科名	計	1学年	2学年	3学年	4学年	
6-6-1-186	小笠原村	小笠原	家 普	家政科 普通科	(併) 3	(併) 1	(併) 1	(併) 1	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	 父島字清瀬
合計					3 154	1 020	1 051	1 083			538	134	135	135	134	

※合計は、通信制を除く。

※都内公立学校数は、令和4年（2022年）4月現在の数となる。

<資料7-1>

社会福祉国際体験演習　訪問先一覧

	タイ王国	フィリピン共和国 （セブ市）	大韓民国 （ソウル特別市）	大韓民国 （アンドン市）
学習のテーマ	貧困の発生要因とその解消のための社会福祉的支援。	異文化・多文化共生への理解および異文化コミュニケーション能力の向上。	韓国の福祉現場での研修を通して、日本と韓国の福祉に対する理解を深める。	韓国カトリックサンジ大学で社会福祉を専攻する学生との共同学習。
訪問予定先	クロントイ・スラム（スラム街）及び当地NGO団体、バーロンサムイ（孤児院）、タマサート大学等	サンカルロス大学・タリサイ市	社会福祉館、特別養護老人ホーム、保育所、障害者スポーツセンター	カトリックサンジ大学
学習の内容・方法	貧困地域の視察及び現地NGOによる講義、現地大学生との貧困に関するディスカッション（現地関係者による事前学習を含む）等。	語学研修・フィールドワーク・ボランティアなどの活動を通し、専門分野について国際的視野を養うこと。	ソウルの福祉施設の見学、現場職員・利用者・東国大学校の学生との交流を通し、韓国の社会や福祉現場に対する理解を深め、日本の社会福祉現場における専門職としての視野を培う。	社会福祉分野の専門的スキルや専門分野の理解を深めるため、韓国カトリックサンジ大学の学生と状況別シミュレーション学習を主軸とした協働学習プログラムを実施する。
実習先との連携体制	訪問経験があり、現地関係者と十分な関係を築いている。新型コロナウイルス感染症の収束後の実施について、特段の問題はない。	訪問経験があり、十分な関係を築いている。またタリサイ市でのフィールドスタディーについては、特定非営利活動法人ハロハロおよびタリサイ市の現地協働団体との連携でプログラムを運営しており、実施計画や運営について実績がある。	訪問実績があり、また、まちあるきやフィールドワークによる地域学習等を通したプログラムも実施しており、高い教育効果が報告書などで確認されている。	韓日教育部国立国際教育院が主管する「韓日共同高等教育留学生交流事業」であり、2021年度の初回研修は、諸事情でオンライン開催となったが、目的を明確とした研修内容が実施されている。
その他特記事項	タマサート大学とは、本学社会学部との間で2021年度に協定を締結。			カトリックサンジ大学は、本学ライフデザイン学部との間で2020年度に協定を締結。

<資料7-2>

海外研修　訪問先一覧

	中国 （上海）	イタリア （ローマ市）	中国 （北京市・上海市）
学習のテーマ	建築・まちづくりを中心とした研修を行う。	建築やまちづくり分野におけるデザインワークショップを実施する。	中国の文化や今日の都市環境、人々の暮らしに触れ、交流を行う。 中国における建築設計及び都市計画設計の現状、中国の都市開発の実態について理解を深める。
訪問予定先	現地のデザイン関連企業等	ローマ大学土木建築環境工学科等	優秀歴史建築群、現代建築等設計事務所
学習の内容・方法	4日間程度の現地研修を行う。企業等を見学し、レクチャー等を受けるとともに、交流活動を行う。	ヨーロッパにおける先端のデザインについて学ぶほか、海外における地域性について理解すること、国際的な交流経験を持つ。	中国の優秀歴史建築群、現代建築等を訪問するほか、現地で活動する設計事務所を訪問する。
実習先との連携体制	実施する年の研修内容に応じて現地のデザイン関連企業等を教員が選定し、見学・レクチャー等の依頼を行う。 研修に向けて語学の学習を含め、事前指導を行い、準備のうえで臨む。	ローマ大学土木建築環境工学科とは部局間協定を締結。本学科教員及び学生との交流実績があり、それを踏襲した連携を行う。	実施する年の研修内容に応じて現地のデザイン関連企業等を教員が選定し、見学・レクチャー等の依頼を行う。

学校法人東洋大学教職員定年規則

昭和34年４月１日施行

改正

昭和39年９月１日
昭和40年９月１日
昭和47年４月１日
平成８年４月１日
平成14年４月１日
平成23年４月１日
平成26年８月１日

学校法人東洋大学教職員定年規則

第１条　学校法人東洋大学の設置する学校の専任の教員及び専任の事務職員の定年は、大学及び附属高等学校等に在職する教員については満65歳とし、事務職員については満60歳とする。

第２条　前条に該当する教職員は、定年に達した日の属する年度末に退職するものとする。

第３条　この規則の改正は、理事会の議を経て理事長が行う。

附　則

１　この規程は、平成８年４月１日から施行する。

２　第１条の規定にかかわらず、平成７年度以前に専任教員として採用された者については、なお従前の例による。

附　則（平成14年規程第18号）

この規程は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（平成23年規程第42号）

この規程は、平成23年４月１日から施行する。

附　則（平成26年規則第127号）

この規則は、平成26年８月１日から施行する。

年俸契約雇用制度に関する要綱

（目的）

1　この制度は、本学が特に必要と認めた場合に、年俸契約雇用制により専任教員を任用することを目的とする。

（適用対象）

2　年俸契約制は、次の場合に適用する。

（１）原則として大学院の科目担当者（修士課程研究指導担当以上）を任用する場合

（２）全国的に評価の高い学者などを任用する場合

（３）その他、本学が特に必要と認めた場合

（契約期間）

3　契約期間は１年とし、原則として契約更改の限度は４回とする。

（雇用年齢）

4　雇用年齢は、原則として７０才までとする。ただし、この制度により他機関から任用する場合、雇用開始年齢は６５歳未満とすることができる。

（年俸額）

5　年俸額は、在職時（前職時）の給与支給額を勘案し定める。

（退職金）

6　退職金は支給しない。

（契約）

7　契約については別に定める。

附　則

この要綱は、平成８年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成１６年４月１日から施行する。

赤羽台キャンパス（WELLB HUB-2、HELSPO HUB-3）教室稼働率

春学期

教室名称（仮）	定員	月1	月2	月3	月4	月5	火1	火2	火3	火4	火5	水1	水2	水3	水4	水5	木1	木2	木3	木4	木5	金1	金2	金3	金4	金5	土1	土2	土3	土4	土5	カウント	30稼動室
20306（AL教室）	30	○	○	○	○				○	○		○				○			○		○				○							11	37%
40人教室401	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%
40人教室402	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%
40人教室403	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%
40人教室404	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%
40人教室405	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%
20201	45		○	○	○	○		○	○	○	○	○			○			○	○	○				○	○							15	50%
20202	45		○	○	○	○			○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○			○							16	53%
20203	45		○	○	○				○			○		○		○		○	○	○	○				○							12	40%
20204	45	○	○	○	○				○	○	○	○	○			○		○	○	○	○				○							15	50%
20205	45	○	○	○	○				○			○	○			○		○	○	○	○	○			○							14	47%
20206	45	○	○	○	○	○			○			○	○			○		○	○						○		○	○	○	○	○	17	57%
20304	66	○	○	○	○	○		○	○			○		○	○	○		○	○		○	○				○						16	53%
20305	66	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○			○							17	57%
80人教室301	80	○							○			○	○	○		○			○	○	○	○						○	○			12	40%
80人教室302	80	○				○	○	○	○	○		○		○		○			○	○	○							○	○			14	47%
20301	81	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○	○	○	○	○						19	63%
20302	81	○	○	○				○	○	○	○	○	○						○			○		○	○							13	43%
20303	81	○	○	○	○				○	○	○			○	○			○						○	○	○						13	43%
20310	81	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○					○		○	○	○		○	○							16	53%
20412	81	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○		○	○	○	○	○						19	63%
20403	84	○	○	○	○		○	○		○		○		○	○	○		○	○		○	○		○	○	○						18	60%
20404	84	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○						○	○		○	○							17	57%
20311	102	○	○	○	○	○		○		○	○	○			○				○	○	○	○		○	○	○						17	57%
20413	102	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○				○		○	○			○		○						16	53%
120人教室	120	○		○						○	○						○		○	○	○				○			○	○			11	37%
120人教室401	120	○					○	○	○						○				○	○	○	○		○	○	○		○	○			14	47%
120人教室402	120		○	○			○			○	○	○	○						○	○	○				○	○		○	○			14	47%
20401	132	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○	○		○	○	○		○		○	○	○						19	63%
20402	132	○	○	○	○					○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○						17	57%
20208	168	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○				○	○				○	○		20	67%
20405	177	○	○	○	○		○	○	○		○			○	○	○		○	○		○		○	○	○	○						18	60%
20312	180									○						○		○							○							4	13%
20501	180	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○	○	○	○	○	○				○						18	60%
20313	200		○								○							○		○												4	13%
20207	204	○	○	○	○		○	○	○		○	○				○	○	○	○	○				○	○			○				17	57%
20406	210	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○		○	○	○	○		○	○	○		○						20	67%
20507	252	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○							20	67%
20407	255	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○			○	○	○	○	○		○	○	○	○						21	70%
20502	303	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○		○									17	57%
20307（PC教室）	48	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○					○							16	53%
20309（PC教室）	80	○		○	○							○	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○							16	53%
20308（PC教室）	100	○		○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			○	○	○	○							18	60%

秋学期

教室名称（仮）	定員	月1	月2	月3	月4	月5	火1	火2	火3	火4	火5	水1	水2	水3	水4	水5	木1	木2	木3	木4	木5	金1	金2	金3	金4	金5	土1	土2	土3	土4	土5	カウント	30稼動室	カウント	60稼動室
20306（AL教室）	30	○	○	○	○					○	○	○		○	○	○		○	○					○		○	○					15	50%	26	43%
40人教室401	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%	16	27%
40人教室402	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%	16	27%
40人教室403	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%	16	27%
40人教室404	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%	16	27%
40人教室405	40									○	○	○	○							○	○							○	○			8	27%	16	27%
20201	45		○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	○					○					○						13	43%	28	47%
20202	45	○	○	○					○	○	○	○			○			○	○		○					○						12	40%	28	47%
20203	45		○	○					○	○		○						○	○		○					○						9	30%	21	35%
20204	45		○	○			○	○	○	○	○	○	○			○		○	○		○					○						14	47%	29	48%
20205	45	○		○		○	○		○	○	○	○	○			○		○	○		○	○				○						15	50%	29	48%
20206	45			○	○	○				○		○	○			○		○	○		○					○	○	○	○	○	○	16	53%	33	55%
20304	66	○	○	○	○	○						○		○	○	○		○	○	○	○		○			○						15	50%	31	52%
20305	66	○	○	○	○	○						○		○	○	○		○			○					○						12	40%	29	48%
80人教室301	80			○		○			○		○		○			○			○	○	○	○					○	○	○			13	43%	25	42%
80人教室302	80					○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○							○	○			15	50%	29	48%
20301	81	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○	○	○				○	○						18	60%	37	62%
20302	81	○		○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○			○								17	57%	30	50%
20303	81	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○	○	○						20	67%	33	55%
20310	81		○	○	○			○	○	○	○	○				○	○	○		○		○		○	○							15	50%	31	52%
20412	81		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○	○	○	○	○						19	63%	38	63%
20403	84		○	○	○		○	○	○				○	○	○				○	○	○			○	○	○						16	53%	34	57%
20404	84			○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○				○	○	○											14	47%	31	52%
20311	102	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○			○		○	○		○			○	○	○	○			19	63%	36	60%
20413	102		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○						○	○			○	○	○						14	47%	30	50%
120人教室	120									○	○						○	○	○	○	○							○	○	○		10	33%	21	35%
120人教室401	120							○		○									○	○	○							○	○			7	23%	21	35%
120人教室402	120					○	○	○	○			○	○				○	○	○	○	○					○		○	○			14	47%	28	47%
20401	132	○	○	○	○		○		○	○	○	○		○	○	○			○		○			○	○	○						17	57%	36	60%
20402	132		○	○	○		○	○	○	○			○	○	○			○	○							○						14	47%	31	52%
20208	168		○			○	○	○	○	○			○		○	○	○		○	○			○	○	○				○			18	60%	38	63%
20405	177	○		○	○	○	○	○		○							○	○	○	○	○		○	○	○							15	50%	33	55%
20312	180		○				○	○								○			○			○	○			○						8	27%	12	20%
20501	180	○	○	○	○			○			○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○						17	57%	35	58%
20313	200		○		○			○										○	○					○								6	20%	10	17%
20207	204	○	○	○	○	○		○			○				○	○		○	○	○		○	○	○	○							16	53%	33	55%
20406	210		○	○	○			○	○	○	○	○	○		○			○		○	○	○		○	○							17	57%	37	62%
20507	252		○	○	○		○	○	○				○				○		○	○	○	○	○	○								13	43%	33	55%
20407	255	○	○		○	○		○	○		○	○		○			○		○		○		○	○								14	47%	35	58%
20502	303			○	○	○	○	○					○				○	○	○	○	○		○			○	○					15	50%	32	53%
20307（PC教室）	48	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○				○	○		○	○				○	○	○					18	60%	34	57%
20309（PC教室）	80		○	○	○					○		○	○	○	○		○	○		○		○	○	○	○							15	50%	31	52%
20308（PC教室）	100	○	○	○	○				○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							17	57%	35	58%

教室規模	春学期	秋学期	年間
小教室（99名以下）	46%	45%	45%
中教室（100～199名）	51%	46%	49%
大教室（200名以上）	66%	54%	60%
PC教室	56%	56%	56%
全体	49%	46%	47%

［備考］

- WELLB HUB-2 及び HELSPO HUB-3 全体で教室稼働率を試算しており、本建物（教室）を使用する「健康スポーツ科学部」及び「福祉社会デザイン学部」全体の開講科目で試算している。
- 基盤教育科目の留学支援科目（日本語科目）は、留学生数によって開講を赤羽台・白山のいずれかで開講する。そのため本試算には含めていないが、全科目を赤羽台で開講することになった場合も、支障が生じることはない。
- 集中講義科目は、科目によって一部教室を利用する可能性があるが、本試算には含めていない。単発利用が基本となることからも、支障が生じることはない。

春	月	1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕				4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目							英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA 哲学	必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1 1 1 1 1 1 1～4	山本伍紀 梅宮悠 EGITIM,Soyhan OOBOGNE,Marilyn THOMSON,Blair LAVELLE,Dawn 竹村瑞穂	20311 20203 20310 20204 20412 20403 20313（200名教室）	英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅣA 英語ⅣA 英語ⅣA	必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 2 2	OOBOGNE,Marilyn 山本綾 山本伍紀 梅宮悠 FERN,Glenn LAVELLE,Dawn	20201 20304 20204 20202 20203 20206	フランス語およびフランス語圏社会事情 情報リテラシーⅠ 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅣA 英語ⅣA 英語ⅣA スポーツ健康科学実技Ⅰ	選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1～4 1～4 2 2 2 2 2 2 2 1～4	菊地章太 呉海鍾ほか 山本伍紀 MARIKKAR,Fathima 梅宮悠 OOBOGNE,Marilyn LAVELLE,Dawn FERN,Glenn 新谷昴	20401 （600ﾋﾟｸｾﾙ版室、800ﾋﾟｸｾﾙ版室、1000ﾋﾟｸｾﾙ版室） 20303 20206 20304 20403 20205 20310 体育館	美術一般 全学総合D	選択 選択	1～4 1～4	菊地章太 大塚佳臣	20502 20311
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	社会福祉学入門 ケアワーク論 福祉ICT ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） こころとからだのしくみⅠ	必修 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1 2 2～4 3 3 3 3 3 3 3 3 4 4 4 4 4 4 1～4	荻野剛史 八木裕子 古川和稔 稲沢公一 渡辺道代 荻野剛史 高山直樹 金子光一 渡辺裕美 高野龍昭 川原恵子 加山弾 吉浦輪 山本美香 志村健一 八木裕子 早坂聡久 戸井宏紀 佐藤亜樹 山口由美	20407 20501 20405 20301 20204 20205 20206 20207 20208 20304 20305 20306（AL教室） 20307（PC教室） 20308（PC教室） 20309（PC教室） 20403 20404 20406 20412 20402	ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅰ スクールソーシャルワーク論 医療ソーシャルワーク論 介護コミュニケーション技術Ⅱ	選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択 選択 選択	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2～4 3～4 3	吉田光爾 古川和稔 稲沢公一 渡辺道代 荻野剛史 高山直樹 金子光一 渡辺裕美 高野龍昭 高石啓人 廣瀬圭子 宮内寿彦	20201 20202 20205 20206 20208 20302 20304 20306（AL教室） 20307（PC教室） 20405 20402 20305	社会福祉学総合演習Ⅰ こころとからだのしくみⅡ 介護過程Ⅲ	選択必修 選択 選択	2 1～4 3	稲沢公一ほか 渡辺裕美 古川和稔	20306（AL教室） 20302 20309（PC教室）	社会福祉調査の基礎 刑事司法と福祉 生活支援技術Ⅳ 生活支援技術Ⅸ	選択 選択 選択 選択	1 2～3 2 4	志村健一 戸井宏紀 渡辺裕美 八木裕子	20402 20306（AL教室） 介護実習室（入浴・更衣室等含） 多目的室（家政・図画工作）	生活支援技術Ⅴ	選択	2	渡辺裕美ほか	介護実習室（入浴・更衣室等含）
	子ども支援学科	海外保育フィールドワーク 子どもの健康と安全 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅱ 保育内容総論	選択 選択 選択 選択 選択 選択	1～4 3 2 1 2 1	鈴木崇之ほか 嶋崎博嗣 鈴木崇之ほか 南野奈津子 篠沢薫 内田千春	保育実習室（準備室含） 20303、体育館 20311 20401 20302 20413	子どもの健康と安全 社会的養護内容 特別支援教育・保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅱ 保育内容総論	選択 選択 選択 選択 選択	3 2 1 2 1	嶋崎博嗣 鈴木崇之 南野奈津子 篠沢薫 内田千春	20301、体育館 20404 20303 20401 20413	保育原理 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育音楽表現技術Ⅰ	選択 選択 選択 選択	1 3 4 2～4	高山静子 南野奈津子ほか 鈴木崇之ほか 山原麻紀子ほか	20207、保育実習室（準備室含） 20403 20311、20401、20402 音楽実習室（準備室含）、小音楽実習室1（準備室含）、小音楽実習室2（準備室含）	国語表現法 社会的養護内容 保育実習指導ⅠB（保育所） 保育音楽表現技術Ⅰ	選択 選択 選択 選択	1～4 2 3 2～4	髙橋直美 鈴木崇之 内田千春ほか 山原麻紀子ほか	20407 20311 20201、20202、20203、20204、20208、保育実習室（準備室含） 音楽実習室（準備室含）、小音楽実習室1（準備室含）、小音楽実習室2（準備室含）	子ども支援学演習ⅡA 子どもの権利と教育 子ども家庭支援の心理学	必修 選択 選択	2 1～4 3	鈴木崇之ほか 内田塔子 中道直子	20201、20202、20208、20304 20401 20407
	人間環境デザイン学科	建築歴史意匠A 環境設計演習	選択 選択	1 4	名取発 菅原麻衣子	20502 20310	ユニバーサルデザイン概論 福祉デザイン工学概論 プロダクトデザインⅠ	必修 選択 選択	1 2 3～4	菅原麻衣子 嶺也守寛 池田千登勢	20502 20405 20501	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 住居計画 デザイン工学基礎 調査分析のデザイン 環境デザイン論	必修 選択 選択 選択 選択	1 2 2 3～4 2	池田千登勢ほか 水村容子 高橋良至 冨安亮輔 仲綾子	20305、20404、20406、20412、20413、20501、20507 20405 20208 20205、20308（PC教室） 20303	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ プロダクトデザイン演習ⅡA 空間デザイン演習ⅡA 生活環境デザイン演習ⅡA プロダクトデザイン演習ⅡA	必修 必修 必修 必修 必修	1 4 4 4 4	池田千登勢ほか 池田千登勢ほか 名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか	20305、20404、20406、20412、20413、20501、20507 制作工房 制作工房 制作工房 制作工房	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ プロダクトデザイン演習ⅡA 空間デザイン演習ⅡA 生活環境デザイン演習ⅡA プロダクトデザイン演習ⅡA	必修 必修 必修 必修 必修	1 4 4 4 4	池田千登勢ほか 池田千登勢ほか 名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか	20305、20404、20406、20412、20413、20501、20507 制作工房 制作工房 制作工房 制作工房
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	エアロビクス指導法 センシング技術	選択 選択	2～4 2	鈴木智子 大澤清	多目的室2 120人教室401	障がい者スポーツ論 スポーツ史 労働衛生Ⅰ	選択 選択 選択	2～4 2～4 3～4	金子元彦 熊澤拓也 信太直己	20507 20207 20407	ベーシック・トレーニング 精神保健学 生活習慣と健康 スポーツのコーチング演習Ⅱ	必修 選択 選択 選択	1 1～4 1～4 3	平田昂大 上田将史 神野宏司 水島淳	多目的室1 20502 120人教室 体育館、20407	ベーシック・トレーニング 国際交流論 スポーツ政策論	必修 選択 選択	1 2～4 2～4	平田昂大 木内明 山下玲	多目的室1 20405 20502	養護概説 ベーシック・トレーニング アスレティックトレーニング指導法	選択 必修 選択	1 1 2～4	内山有子 二橋元紀 笹木正悟	20304 多目的室2 多目的室1
	栄養科学科	食品学実験Ⅱ 解剖生理学実験	選択必修 選択必修	2 3	佐藤綾美ほか 加藤和則ほか	食品栄養学実験室 食品機能学実験室 公衆衛生学実習室 細胞生物学実験室	基礎化学Ⅰ 食品学実験Ⅱ 解剖生理学実験	必修 選択必修 選択必修	1 2 3	石田達也 佐藤綾美ほか 加藤和則ほか	120人教室402 食品栄養学実験室 食品機能学実験室 公衆衛生学実習室 細胞生物学実験室	基礎栄養学 食品学実験Ⅱ 解剖生理学実験	必修 選択必修 選択必修	1 2 3	太田昌子 佐藤綾美ほか 加藤和則ほか	120人教室402 食品栄養学実験室 食品機能学実験室 公衆衛生学実習室 細胞生物学実験室	食品学実験Ⅱ 解剖生理学実験	選択必修 選択必修	2 3	佐藤綾美ほか 加藤和則ほか	食品栄養学実験室 食品機能学実験室 公衆衛生学実習室 細胞生物学実験室	有機化学Ⅱ	選択必修	3	石田達也	80人教室302
教職科目		教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む） 教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	選択 選択	4 4	平野智之ほか 平野智之ほか	30301、30302、30303 30301、30302、30303											保健体育科教育法Ⅰ	選択	2	平野智之ほか	20301、20207					

春	火	1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕					4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕					6限 〔18：00～19：30〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		英語ⅢA	必修	2	HUSSEY,Gary	20412	法学	選択	1～4	西元加那	20311	社会学	選択	1～4	安藤潤一郎	20507	哲学	選択	1～4	菊地章太	20207	全学総合C	選択	1～4	菊地章太	20312（180名教室）					
		英語ⅢA	必修	2	猪口綾奈	20404	英語ⅠA	必修	1	山本綾	20307（PC教室）	Business English CommunicAtion	選択	1～4	バターソンロバート	20401	フランス語Ⅰ	選択	1～4	ラサモエラミレイユ	20305										
		英語ⅢA	必修	2	山本綾	20403	英語ⅠA	必修	1	田中みんね	20405	Intercultural Communication Skills ⅠA	選択	1～4	山本綾	20208															
		英語ⅢA	必修	2	富塚博之	20307（PC教室）	英語ⅠA	必修	1	富塚博之	20404	英語ⅢA	必修	2	田中みんね	20206															
		英語ⅣA	必修	2	田中みんね	20301	英語ⅠA	必修	1	本多吉彦	20412	英語ⅢA	必修	2	富塚博之	20204															
		英語ⅣA	必修	2	THOMSON,Blair	20413	英語ⅡA	必修	1	猪口綾奈	20310	英語ⅢA	必修	2	猪口綾奈	20203															
		英語ⅣA	必修	2	本多吉彦	20310	英語ⅡA	必修	1	EGITIM,Soyhan	20413	英語ⅣA	必修	2	THOMSON,Blair	20201															
		英語ⅣA	必修	2	EGITIM,Soyhan	20501	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20301	英語ⅣA	必修	2	本多吉彦	20205															
							英語ⅡA	必修	1	HUSSEY,Gary	20403																					
							韓国語Ⅰ	選択	1～4	木内明	20304																					
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	ジェンダーと福祉	選択	2～4	野城尚代	20208	介護総合演習Ⅱ	選択	2	渡辺裕美	20201	社会福祉学基礎演習Ⅰ	必修	1	稲沢公一ほか	20304、20305、20306（AL教室）、20310	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	必修	1	高山直樹	20502	社会調査および実習Ⅰ	選択	2～4	佐藤亜樹ほか	20501					
																	国際社会福祉論A	選択	2～4	荻野剛史	20306（AL教室）	精神障害リハビリテーション論	選択	3	城田晴夫	20402					
																	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神）	選択	4	的場智子ほか	20403					介護実習室（入浴・更衣室等含）					
																	介護コミュニケーション技術Ⅰ	選択	2	八木裕子	20501	医療的ケアⅠ	選択	3	渡辺裕美ほか						
	子ども支援学科	社会的養護	選択	1	鈴木崇之	20401	乳児保育Ⅱ	選択	4	高山静子	20208	乳児保育Ⅱ	選択	4	高山静子	20405	国際児童福祉	選択	1～4	南野奈津子	20412	教育基礎論	必修	1	内田塔子	20502					
		保育指導法	選択	3	伊藤美佳	20405	教育心理学	選択	2	中道直子	20401	教育心理学	選択	2	中道直子	20207	保育内容の指導法（言葉）	選択	2	伊藤美佳	20402	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択	2	佐藤昭洋	20305					
							ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	選択	3	鈴木崇之	20302	保育内容の指導法（言葉）	選択	2	伊藤美佳	20406	子育て支援	選択	4	上田美香ほか	20303	保育実習指導Ⅱ（保育所）	選択	4	内田千春ほか	20404、20405、20406、20412、保育実習室（準備室含）					
	人間環境デザイン学科	人間環境デザイン学概論	必修	1	水村容子ほか	20507	デザイン思考法	選択	2	柏樹良	20507	空間デザイン演習ⅠA	必修	3	仲綾子ほか	実験工房、20302	空間デザイン演習ⅠA	必修	3	仲綾子ほか	実験工房、20302	空間デザイン演習ⅠA	必修	3	仲綾子ほか	実験工房、20302					
		建築歴史意匠B	選択	2	櫻井義夫	20407	情報メディアデザイン	選択	3～4	池田千登勢ほか	20406	生活環境デザイン演習ⅠA	必修	3	嶺也守寛ほか	20301、20307（PC教室）	生活環境デザイン演習ⅠA	必修	3	嶺也守寛ほか	20301、20307（PC教室）	生活環境デザイン演習ⅠA	必修	3	嶺也守寛ほか	20301、20307（PC教室）					
												プロダクトデザイン演習ⅠA	必修	3	大沼敦ほか	20308（PC教室）、20407	プロダクトデザイン演習ⅠA	必修	3	大沼敦ほか	20308（PC教室）、20407	プロダクトデザイン演習ⅠA	必修	3	大沼敦ほか	20308（PC教室）、20407					
																						コンピュータ・グラフィックス	選択	2	柏樹良	20207					
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	生理学	選択	1～4	古川覚	20502	解剖学	選択	1～4	加藤和則	20502	公衆衛生学	選択	1～4	神野宏司	20502	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	今有礼	20201	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	今有礼	20201	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	今有礼	20201
		バイオメカニクス	選択	2	工藤重忠	20207	健康社会学	選択	2～4	齊藤恭平	20207	フィールドワーク実習	選択	2	熊澤拓也	20412	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	鈴木智子	20202	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	鈴木智子	20202	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	鈴木智子	20202
		トレーニングプログラミング論	選択	2～4	岩本紗由美	20406	トップスポーツ論	選択	2～4	谷塚哲	20501	アスレティックコンディショニング演習	選択	2～4	岩本紗由美	実習室1（講義室・演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	平野智之	20408（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	平野智之	20408（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	平野智之	20408（大学院演習室）
												健康スポーツインターンシップA	選択	2～4	谷塚哲ほか	80人教室302	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	神野宏司	20204	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	神野宏司	20204	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	神野宏司	20204、40人教室401
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	内山有子	20409（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	内山有子	20409（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	内山有子	20409（大学院演習室）
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	谷塚哲	20410（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	谷塚哲	20410（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	谷塚哲	20410（大学院演習室）
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	齊藤恭平	40人教室402	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	齊藤恭平	40人教室402	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	齊藤恭平	40人教室402
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	竹村瑞穂	40人教室403	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	竹村瑞穂	40人教室403	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	竹村瑞穂	40人教室403
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	熊澤拓也	40人教室404	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	熊澤拓也	40人教室404	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	熊澤拓也	40人教室404
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	岩本紗由美	40人教室405	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	岩本紗由美	40人教室405	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	岩本紗由美	40人教室405
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	古川覚	120人教室	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	古川覚	120人教室	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	古川覚	120人教室
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	金子元彦	20411（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	金子元彦	20411（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	金子元彦	20411（大学院演習室）
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	細谷洋子	20413	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	細谷洋子	20413	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	細谷洋子	20413
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	木内明	20503（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	木内明	20503（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	木内明	20503（大学院演習室）
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	二橋元紀	20504（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	二橋元紀	20504（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	二橋元紀	20504（大学院演習室）
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	江田香織	40人教室401	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	江田香織	40人教室401	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	江田香織	40人教室401
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	水島淳	20310	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	水島淳	20310	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	水島淳	20310
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	大澤清	20311	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	大澤清	20311	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	大澤清	20311
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	山下玲	20505（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	山下玲	20505（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	山下玲	20505（大学院演習室）
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	山本綾	20506（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	山本綾	20506（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	山本綾	20506（大学院演習室）
																	解剖学実習	選択	2	加藤和則	解剖学実習室	医学概論	選択	1～4	宮越雄一	20312					
	栄養科学科	食品学	選択必修	1	河野翔	120人教室402	運動生理学	必修	2	大上安奈	120人教室401	免疫生化学	必修	2	加藤和則	120人教室401	食品衛生学	選択必修	2	水落慎吾	120人教室402	大量調理とHACCP(理論)	選択必修	2	水落慎吾	120人教室402					
		無機化学	選択必修	2	石田達也	120人教室401	ライフステージ栄養学実習	必修	3	太田昌子ほか	調理実習室	ライフステージ栄養学実習	必修	3	太田昌子ほか	調理実習室	ライフステージ栄養学実習	選択必修	3	太田昌子ほか	調理実習室	栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学）	選択必修	3	吉崎貴大ほか	栄養疫学実習室					
		ライフステージ栄養学実習	選択必修	3	太田昌子ほか	調理実習室						健康づくり運動の実際（ウォーキング）	選択	1	大上安奈	多目的室2	健康づくり運動の実際（ウォーキング）	選択	1	大上安奈	多目的室2										
																	栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学）	選択必修	3	吉崎貴大ほか	栄養疫学実習室										
教職科目		教育課程総論（養護教諭）	選択	2	内山有子	80人教室302	養護実習（事前・事後指導を含む）	選択	4	内山有子	80人教室302	教育心理学	選択	1	都丸けい子	20501	保健科教育論Ⅰ	選択	2	七木田文彦	80人教室302	教育基礎論	選択	1	山口晶子	20208					
												保健科指導法Ⅰ	選択	3	七木田文彦	80人教室301						看護学Ⅱ	選択	2	石野晶子	20303					

春	水	1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕					4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目							中国語Ⅰ	選択	1～4	安藤潤一郎	20302	外国語文学	選択	1～4	工藤紅	20403	政治学	選択	1～4	上田知亮	20403	現代化学	選択	1～4	石田達也	20407
							英語ⅢA	必修	2	ジェフブルース	20307(PC教室)	Intercultural Communication Skills ⅡA	選択	1～4	阿久津純恵	20304	地域文化研究	選択	1～4	シゲンギン	20305	環境政策論	選択	1～4	濱泰一	20403
							英語ⅢA	必修	2	尾関麻美	20404	プレゼンテーション技法	選択	1～4	深谷秀樹	20405	中国語および中国語圏社会事情	選択	1～4	安藤潤一郎	20208	ダイバーシティ論	選択	1～4	田所聖志	20404
							英語ⅢA	必修	2	竹内幸子	20412	全学総合A	選択	1～4	長谷川琢哉	20208	English Test Preparation Ⅰ	選択	1～4	山本綾	20405	地域マネジメント	選択	1～4	林大介	20405
							英語ⅣA	必修	2	木下ひろみ	20301	英語ⅠA	必修	1	尾関麻美	20413	アントレプレナーシップ	選択	3～4	林大介	20406	スポーツ健康科学実技Ⅲ	選択	1～4	関根明治	多目的室2
							英語ⅣA	必修	2	EGITIM,Soyhan	20406	英語ⅠA	必修	1	竹内幸子	20404	英語ⅠA	必修	1	竹内幸子	20404					
							英語ⅣA	必修	2	THOMSON,Blair	20310	英語ⅠA	必修	1	木下ひろみ	20412	英語ⅠA	必修	1	木下ひろみ	20402					
												英語ⅡA	必修	1	EGITIM,Soyhan	20402	英語ⅠA	必修	1	工藤貴恵	20202					
												英語ⅡA	必修	1	阿久津純恵	20303	英語ⅡA	必修	1	EGITIM,Soyhan	20401					
												英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20301	英語ⅡA	必修	1	佐藤美保	20301					
												プログラミング基礎Ⅰ	選択必修	1～4	荒川俊也	20309(PC教室)	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
												インターンシップ入門	選択	3～4	林大介	20501										
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	稲沢公一	20201						現代社会とメンタルヘルス	選択	2～4	稲沢公一ほか	20203	社会保障Ⅰ	選択	2～3	伊奈川秀和	20311	社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	加山弾	20202
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	阿久津純恵	20202						現代的福祉課題A	選択	3～4	野城尚代	20401	精神保健福祉制度論	選択	3	國重智宏	20303	社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	吉浦輪	20203
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	渡辺道代	20203																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	山本美香	20204
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	荻野剛史	20204																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	志村健一	20205
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	高山直樹	20205																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	八木裕子	20206
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	金子光一	20206																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	早坂聡久	20304
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	渡辺裕美	20207																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	戸井宏紀	20305
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	的場智子	20208																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	佐藤亜樹	20306(AL教室)
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	高野龍昭	20301																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	吉田光爾	20307(PC教室)
		社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	川原恵子	20302																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	古川和稔	20308(PC教室)
		社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	稲沢公一	20304																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	小野道子	20309(PC教室)
		社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	阿久津純恵	20305																社会福祉学専門演習Ⅰ	必修	3	林大介	20312(180名教室)
																						社会福祉発達史	選択	1	金子光一	20207
																						社会福祉国際体験演習A	選択	2～4	荻野剛史	20401
	子ども支援学科	子ども支援学演習ⅢA	必修	3	中道直子	20306(AL教室)	子どもと言葉	選択	1	藤田佳子	保育実習室(準備室含)	幼児教育論	必修	1	高橋健介	20407										
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	内田千春	20307(PC教室)						造形あそびの実践	選択	2～4	浅羽聡美	多目的室(家政・図画工作)										
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	高橋直美	20308(PC教室)																				
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	内田塔子	20309(PC教室)																				
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	高橋健介	20310																				
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	伊藤美佳	20311																				
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	嶋崎博嗣	20401																				
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	鈴木崇之	20402																				
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	高山静子	20403																				
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	南野奈津子	20404																				
		子ども支援学演習ⅢA	必修	3	山原麻紀子	20412																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	中道直子	20306(AL教室)																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	内田千春	20307(PC教室)																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	高橋直美	20308(PC教室)																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	内田塔子	20309(PC教室)																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	高橋健介	20310																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	伊藤美佳	20311																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	嶋崎博嗣	20401																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	鈴木崇之	20402																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	高山静子	20403																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	南野奈津子	20404																				
		子ども支援学演習ⅣA	必修	4	山原麻紀子	20412																				
		子どもと言葉	選択	1	藤田佳子	保育実習室(準備室含)																				
	人間環境デザイン学科	建築設計論	選択	3～4	名取発	20406	建築・都市法規	選択	2	丹羽菜生	20407	安全工学	選択	3～4	鈴木清重	20305	グラフィックデザイン論	選択	3～4	河上妙子	20201、20308(PC教室)	認知科学	選択	3～4	小松孝徳	20502
												グラフィックデザイン論	選択	3～4	河上妙子	20308(PC教室)、20507										
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	健康・スポーツの人文・社会科学	必修	1	齊藤恭平ほか	20507	スポーツと応急処置	選択	1～4	金子聡	多目的室2	健康スポーツアクティビティⅠA	必修	1	谷釜尋徳	体育館	健康スポーツアクティビティⅢA	必修	1	関根明治	多目的室2	健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	渡邉貞稔	体育館
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修	2	奥村拓朗	20303	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修	1	奥村拓朗	20204	健康スポーツアクティビティⅠA	必修	1	林田敏裕	体育館	健康スポーツアクティビティⅢA	必修	1	番場裕之	武道場1	健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	松下巽	屋外施設
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修	2	安達玄	80人教室301	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修	1	安達玄	20205	健康スポーツアクティビティⅠA	必修	1	非常勤講師	体育館	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	渡邉貞稔	体育館	健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	萩尾純子	体育館
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修	2	新谷昴	20413	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修	1	新谷昴	20206	健康スポーツアクティビティⅠA	必修	1	児島雄三郎	体育館	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	松下巽	屋外施設	健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	草刈恭巳	体育館
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修	2	古川覚	40人教室401	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修	1	古川覚	40人教室401	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	西谷善子	多目的室1	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	萩尾純子	体育館	健康スポーツアクティビティⅢA	必修	1	松本大樹	多目的室1
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修	2	神野宏司	40人教室402	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修	1	神野宏司	40人教室402	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	早川大輔	屋外施設	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	草刈恭巳	体育館	健康スポーツアクティビティⅢA	必修	1	中田光紀	武道場2
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修	2	木内明	40人教室403	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修	1	木内明	40人教室403	スポーツと応急処置	選択	1～4	金子聡	多目的室2										
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修	2	熊澤拓也	40人教室404	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修	1	熊澤拓也	40人教室404																
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修	2	谷塚哲	40人教室405	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修	1	谷塚哲	40人教室405																
							健康スポーツアクティビティⅠC	必修	2	谷釜尋徳	体育館																
							健康スポーツアクティビティⅠC	必修	2	林田敏裕	体育館																
							健康スポーツアクティビティⅠC	必修	2	非常勤講師	体育館																
							健康スポーツアクティビティⅠC	必修	2	児島雄三郎	体育館																
							健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	西谷善子	多目的室1																
							健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	早川大輔	屋外施設																
							測定評価	選択	2～4	荒川崇	20507																
	栄養科学科	栄養教育論	選択必修	2	秦俊貴	120人教室402	公衆栄養学	選択必修	2	横山友里	120人教室402	マスコミ概論	選択	3	川島安博	80人教室302	プログラミング言語Ⅰ	選択	2	岩澤卓弥	20309(PC教室)	情報処理数学Ⅰ	選択	1	岩澤卓弥	80人教室302
		ソムリエ概論	選択	3	青山容子	80人教室302	データサイエンスⅠ	選択	3	吉﨑貴大	80人教室301	持続可能社会と食環境づくり	選択	4	佐藤成美	80人教室301	スポーツ栄養マネジメント(運営理論)	選択必修	3	海崎彩	120人教室401	マーケティング学	選択	2	伊藤暢宏	80人教室301
							機械学習Ⅰ	選択	4	荒川俊也	20309(PC教室)															
教職科目																						工業科指導法Ⅰ	選択	3	大辻永	20402

春 木		1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕					4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		情報リテラシーⅠ	必修	1～4	呉海鍾ほか	20307（PC教室）、20308（PC教室）、20309（PC教室）	留学のすすめ	選択	1～4	水松巳奈	20413	日本文学	選択	1～4	高橋直美	20207	異文化理解概論	選択	1～4	水松巳奈	20413	心理学	選択	1～4	安齊順子	20507
							情報リテラシーⅠ	必修	1～4	呉海鍾ほか	20307（PC教室）、20308（PC教室）、20309（PC教室）	統計学	選択	1～4	五月女仁子	20201	口頭表現法	選択	1～4	高橋直美	20207	全学総合F	選択	1～4	稲垣諭	20311
							総合C	選択	1～4	菊地章太	20301	テクニカルライティング	選択	1～4	小早川裕子	20309（PC教室）	基礎会計学	選択	1～4	橋本英重	20507	総合D	選択	1～4	菊地章太	20413
												スポーツ健康科学実技Ⅲ	選択	1～4	田中宏和	体育館	総合F（先端テクノロジー）	選択	1～4	鶴巻崇	20311	スポーツ健康科学実技Ⅲ	選択	1～4	小嶋信之	多目的室2
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	障害者福祉	選択	1	是枝喜代治	20407	アドミニストレーション論	選択	1	伊奈川秀和	20310	医学概論	選択	1	内藤典子	20502	欧米の社会福祉史	選択	1	金子光一	20501	社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	山本美香	20304
		保健医療と福祉	選択	2	吉浦輪	20406	社会統計学	選択	2～4	服部慶亘	20401	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	選択	2	志村健一ほか	----------	権利擁護を支える法制度	選択	2～3	是枝喜代治	20402	社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	志村健一	20305
		貿的調査法	選択	2～4	志村健一	20501	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	選択	3	志村健一ほか	----------	生活支援技術Ⅵ	選択	3	古川和稔	介護実習室（入浴・更衣室等含）	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	選択	2～3	山本美香	20406	社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	八木裕子	20306（AL教室）
		医療的ケアⅢ	選択	4	渡辺裕美ほか	介護実習室（入浴・更衣室等含）	生活支援技術Ⅲ	選択	2	菅原成臣	20402、体育館						貧困に対する支援	選択	2～3	川原恵子	20208	社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	早坂聡久	20307（PC教室）
																	SDGs入門	選択	2～4	阿久津純恵	20201	社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	戸井宏紀	20308（PC教室）
																	社会福祉の権利	選択	3～4	戸井宏紀	20412	社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	佐藤亜樹	20309（PC教室）
																	医療福祉演習Ⅰ	選択	3～4	吉浦輪	20310	社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	吉田光爾	20310
																	生活支援技術Ⅱ	選択	2	古川和稔	介護実習室（入浴・更衣室等含）	社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	古川和稔	20403
																						社会福祉学専門演習Ⅲ	必修	4	小野道子	20404
																						ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	選択	2	高野龍昭	20501
	子ども支援学科	子どもの保健	選択	2	内山有子	20208	子どもと健康	選択	1	嶋崎博嗣	20403	子どもと健康	選択	1	嶋崎博嗣	20403	保育内容の指導法（音楽表現）	選択	3	山原麻紀子	音楽実習室（準備室含）					
							子どもと文学	選択	1～4	高橋直美	20502	保育内容の指導法（音楽表現）	選択	3	山原麻紀子	音楽実習室（準備室含）										
	人間環境デザイン学科						インテリアデザイン	選択	2	佐々木龍郎	20312	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	必修	2	水村容子ほか	20202、20203、20204、20205、20407	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	必修	2	水村容子ほか	20202、20203、20204、20205、20407	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	必修	2	水村容子ほか	20202、20203、20204、20205、20407
							材料力学	選択	3～4	鈴木英之	20507															
												プロダクトデザイン基礎	選択	1	大沼敦	20406										
												都市計画論	選択	3～4	齋藤博	20311										
												情報デザインⅠ	選択	2	松本和也	20308（PC教室）、20501										
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	健康スポーツキャリアデザインA	必修	1	木内明ほか	20502	国際健康スポーツ交流A	必修	1	木内明ほか	20407、20303、20304、20308	スポーツマネジメント	選択	1～4	谷塚哲	20507	健康・スポーツの自然科学	必修	1	今有礼ほか	20502	運動生理学Ⅰ	選択	1～4	今有礼	20502
		スポーツ栄養学Ⅰ	選択	2～4	高田和子ほか	20507	アスリートの健康（予防とマネジメント）	選択	2～4	二橋元紀ほか	20406	免疫と薬理	選択	1～4	加藤和則	20402	トレーニング概論	必修	2	安達玄	20313	労働安全衛生法Ⅰ	選択	3～4	田中建一	20405
		スポーツマーケティング	選択	2～4	谷塚哲	20207	力学演習	選択	2	工藤重忠	20405	健康スポーツボランティア活動A	選択	1～4	齊藤恭平	120人教室						バイオメカニクス実習	選択	2	工藤重忠	実習室5（バイメカ）
		スポーツダイナミクス解析	選択	3	工藤重忠	120人教室	健康政策と行政	選択	2～4	齊藤恭平	20313	健康スポーツボランティア活動B	選択	1～4	山下玲	120人教室401										
												子ども健康スポーツ指導法	選択	2～4	鈴木智子	多目的室2										
												スポーツ医学Ⅱ（整形外科）	選択	2～4	米澤郁穂	20405										
	栄養科学科	調理学実習	選択必修	1	阿部真紀	調理実習室	調理学実習	選択必修	1	阿部真紀	調理実習室	調理学実習	選択必修	1	阿部真紀	調理実習室	調理学実習	選択必修	1	阿部真紀	調理実習室					
		細胞生物学実験	必修	2	矢野友啓ほか	細胞生物学実験室	細胞生物学実験	必修	2	矢野友啓ほか	細胞生物学実験室	栄養マネジメント（運営理論）	選択必修	2	芹澤奈保	120人教室402	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	石田達也	120人教室	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	石田達也	120人教室
		栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学）	選択必修	3	吉崎貴大ほか	栄養疫学実習室	栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学）	選択必修	3	吉崎貴大ほか	栄養疫学実習室	食理学Ⅰ	選択必修	3	矢野友啓	80人教室301	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	宮越雄一	120人教室401	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	宮越雄一	120人教室401
												健康づくりと運動プログラム	選択必修	3	大上安奈	80人教室302	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	太田昌子	120人教室402	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	太田昌子	120人教室402
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	大上安奈	80人教室301	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	大上安奈	80人教室301
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	髙田和子	80人教室302	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	髙田和子	80人教室302
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	矢野友啓	40人教室401	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	矢野友啓	40人教室401
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	加藤和則	40人教室402	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	加藤和則	40人教室402
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	佐藤綾美	40人教室403	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	佐藤綾美	40人教室403
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	吉崎貴大	40人教室404	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	吉崎貴大	40人教室404
																	健康スポーツ科学演習Ⅰ	必修	3	小西可奈	40人教室405	健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修	4	小西可奈	40人教室405
教職科目							職業指導Ⅰ	選択	3～4	千葉吉裕	20501	保健体育科指導法Ⅰ	選択	3	内山有子	20401	保健体育科指導法Ⅰ	選択	3	内山有子	20401					

春	金	1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕					4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		英語および英語圏社会事情 日本語Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅰ	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	山本綾 高橋織恵 奥村拓朗	20205 20412 体育館	数学 日本事情Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅰ	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	平沢隆之 高橋織恵 細谷洋子	20406 20412 80人教室301	物理学 ドイツ語Ⅰ 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA スポーツ健康科学実技Ⅰ	選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1～4 1～4 1 1 1 1 1 1 1 1～4	平沢隆之 小山田豊 イアンハート 林順子 阿久津純恵 山本綾 EGITIM,Soyhan MAGNUSSON,David THOMSON,Blair HEIN,Patrick 安達玄	20207 20311 20201 20303 20310 20208 20403 20404 20412 20413 体育館	地域文化研究A ドイツ語およびドイツ語圏社会事情 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅣA 英語ⅣA 英語ⅣA 英語ⅣA	選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 1～4 2 2 2 2 2 2 2 2	宮原温子 小山田豊 淺間正通 林順子 イアンハート 阿久津純恵 EGITIM,Soyhan MAGNUSSON,David HEIN,Patrick THOMSON,Blair	20405 20311 20208 20303 20301 20310 20401 20403 20404 20412	地域文化研究C キャリアデザイン入門 全学総合L 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA	選択 選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 1 1～4 1 1 1 1 1 1	細田和江 小島貴子 谷釜尋徳 林順子 EGITIM,Soyhan 淺間正通 MAGNUSSON,David THOMSON,Blair HEIN,Patrick	20413 20501 20311 20303 20402 20301 20403 20401 20412
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）（精神） 介護教育方法	選択 選択 選択	1 2 3～4	吉田光爾 稲沢公一 渡辺裕美ほか	20507 20501 20202	社会福祉の原理と政策Ⅰ 精神医学と精神医療Ⅰ	必修 選択	1 2	金子光一 吉田光爾	20502 20402	精神保健福祉の原理Ⅰ 介護過程Ⅳ	選択 選択	2 4	稲沢公一 高野龍昭	20406 20402	社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	渡辺道代 荻野剛史 髙山直樹 金子光一 渡辺裕美 的場智子 髙野龍昭 川原恵子 加山弾 吉浦輪 林大介	20201 20202 20203 20204 20205 20206 20207 20305 20306（AL教室） 20307（PC教室） 20312（180名教室）	高齢者福祉 生活支援のための運動学とリハビリテーション	選択 選択	1 3～4	高野龍昭 古川和稔	20407 20406
	子ども支援学科	子ども支援学概論 幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	必修 選択	1 3	鈴木崇之ほか 相馬靖明	―――――― 20406	子どもの理解と援助	選択	3	高橋健介	20301	子どもの理解と援助 保育内容の指導法（環境）	選択 選択	3 3	高橋健介 木村歩美	20301 20302	保育内容の指導法（環境）	選択	3	木村歩美	20302	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	選択	4	鈴木崇之	20304
	人間環境デザイン学科	CAD演習Ⅱ	選択	2	松本和也ほか	20308（PC教室）、20309（PC教室）	CAD演習Ⅱ デザイン特別講義 構法計画	選択 選択 選択	2 3～4 3～4	松本和也ほか 池田千登勢ほか 名取発	20308（PC教室）、20309（PC教室） 20407 20507	CAD演習Ⅱ 構法計画演習	選択 選択	2 3～4	松本和也ほか 名取発	20308（PC教室）、20309（PC教室） 20507	生活支援デザイン概論 CAD演習Ⅱ	選択 選択	1 2	勝平純司 松本和也ほか	20507 20308（PC教室）、20309（PC教室）					
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	アダプテッドスポーツ実習 健康スポーツ特別演習A 健康づくり運動指導法実習	選択 選択 選択	1～4 2～4 2～4	金子元彦 木内明 鈴木智子	体育館 80人教室301 プール（ルネサンス 赤羽）、武道場1	健康スポーツ情報 生理・生化学実習	選択 選択	1 2	大澤清 古川覚	20405 実習室3（生理生化学）	スポーツのコーチング理論Ⅰ 学校環境衛生実習 レクリエーション論	選択 選択 選択	2 2～4 1～4	江田香織 神野宏司 細谷洋子	20407 実習室6（保健科学） 20401	健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢA 運動生理学実習 身体文化論 シミュレーション演習	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1 1 2 2～4 3	本田雅一 藤本武司 奥村拓朗 藤村武 日髙哲郎 竹ヶ原佳苗 鈴木智子 細谷洋子 今有礼 岩瀬裕子 大澤清	体育館 体育館 体育館 体育館 多目的室1 多目的室2 武道場1 武道場2 実習室2（運動生理） 20407 120人教室	健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠC スポーツのコーチング演習Ⅱ	必修 必修 必修 必修 選択	2 2 2 2 3	本田雅一 藤本武司 奥村拓朗 藤村武 新谷昂	体育館 体育館 体育館 体育館 体育館、20405
	栄養科学科	細胞生物学実験 スポーツ栄養学実習	必修 必修	2 3	矢野友啓ほか 髙田和子ほか	細胞生物学実験室 スポーツ栄養学実習室 栄養教育学実習室	細胞生物学実験 スポーツ栄養学実習	必修 必修	2 3	矢野友啓ほか 髙田和子ほか	細胞生物学実験室 スポーツ栄養学実習室 栄養教育学実習室	スポーツ栄養学実習 栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学） 実践食文化（3大宗教と食文化） 健康づくり運動の実際（水泳・水中運動）	必修 選択必修 選択 選択	3 3 1 2	髙田和子ほか 吉﨑貴大ほか 峰松明也子 鈴木智子	スポーツ栄養学実習室 栄養教育学実習室 栄養疫学実習室 120人教室401 プール（ルネサンス 赤羽）	スポーツ栄養学実習 栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学） 健康づくり運動の実際（水泳・水中運動） スポーツ心理学 健康スポーツキャリアデザインA	必修 選択必修 選択 選択 必修	3 3 2 2 1	髙田和子ほか 吉﨑貴大ほか 鈴木智子 江田香織 小島貴子	スポーツ栄養学実習室 栄養教育学実習室 栄養疫学実習室 プール（ルネサンス 赤羽） 120人教室402 120人教室401	栄養生化学 臨床栄養学	選択必修 選択必修	2 3	佐藤綾美 濱谷亮子	120人教室401 120人教室402
教職科目		看護学Ⅰ	選択	1	櫻井しのぶほか	120人教室401	スポーツ実習・指導法（ダンス） スポーツ実習・指導法（水泳）	選択 選択	2 2	松本大樹 和田壮生ほか	多目的室1、多目的室2 プール（ルネサンス 赤羽）	道徳教育論 スポーツ実習・指導法（水泳）	選択 選択	3 2	金澤信之 和田壮生ほか	20405 プール（ルネサンス 赤羽）	スポーツ実習・指導法（水泳）	選択	2	和田壮生ほか	プール（ルネサンス 赤羽）					

春	土	１限　〔9：00～10：30〕					２限　〔10：40～12：10〕					３限　〔13：00～14：30〕					４限　〔14：40～16：10〕					５限　〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	Pre-Study Abroad Listening/Speaking	選択	1～4	モーレルクリスチャンロバート	20206
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科																									
	子ども支援学科																									
	人間環境デザイン学科						リハビリテーション工学	選択	3～4	河合俊宏	20207	表現手法	選択	3～4	櫻井誠也	20208	表現手法	選択	3～4	櫻井誠也	20208					
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科																									
	栄養科学科						健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 髙田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405	健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 髙田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405										
教職科目																	工芸科指導法Ⅰ	選択	3	川人武	多目的室(家政・図画工作)	工芸科指導法Ⅰ	選択	3	川人武	多目的室(家政・図画工作)

秋 月		1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕					4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		全学総合Ⅰ	選択	1～4	榊原圭子	20311	英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡB	必修 必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 1 1 1	山本伍紀 梅宮悠 EGITIM,Soyhan OOBOGNE,Marilyn THOMSON,Blair LAVELLE,Dawn	20204 20310 20304 20303 20301 20403	情報リテラシーⅡ 総合A 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB	選択/選択必修 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 1～4 2 2 2 2 2 2	安原七重ほか 高橋直美 OOBOGNE,Marilyn 山本綾 山本伍紀 梅宮悠 FERN,Glenn LAVELLE,Dawn	20501 20303 20304 20204 20306（AL教室） 20403 20202	宗教学 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB スポーツ健康科学実技Ⅱ	選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1～4 2 2 2 2 2 2 1～4	菊地章太 山本伍紀 MARIKKAR,Fathima 梅宮悠 OOBOGNE,Marilyn LAVELLE,Dawn FERN,Glenn 新谷昂	20407 20303 20206 20304 20403 20501 20405 体育館	全学総合E	選択	1～4	後藤隆彰	20311
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） 生活支援技術Ⅰ こころとからだのしくみⅢ	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	3 3 3 3 3 3 3 3 1 1～4	川原恵子 加山弾 吉浦輪 山本美香 志村健一 八木裕子 早坂聡久 戸井宏紀 古川和稔ほか 山口由美	20205 20302 20303 20304 20305 20306（AL教室） 20307（PC教室） 20308（PC教室） 介護実習室(入浴・更衣室等含) 20401	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 生活支援技術Ⅰ 生活支援技術Ⅹ	選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択 選択	2 2 2 2 2 2 2 2 1 3	佐藤亜樹 吉田光爾 古川和稔 稲沢公一 渡辺道代 荻野剛史 高山直樹 金子光一 古川和稔ほか 大塚順子	20305 20306（AL教室） 20307（PC教室） 20308（PC教室） 20309（PC教室） 20201 20202 20203 介護実習室(入浴・更衣室等含) 20413	社会福祉学総合演習Ⅱ 社会開発論 介護総合演習Ⅰ 発達と老化の理解	選択必修 選択 選択 選択	2 1 1 1～4	稲沢公一ほか 岡安朋子ほか 八木裕子 島内晶	20201 20203 介護実習室(入浴・更衣室等含) 20206	介護過程Ⅰ	選択	1	八木裕子	20310	認知症の理解Ⅰ	選択	1～4	渡邉浩文	20304
	子ども支援学科	教育制度論 子どもソーシャルワーク 保育内容の指導法（人間関係） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	必修 選択必修 選択 選択	1 3 2 2	内田塔子 南野奈津子 篠沢薫 佐藤昭洋	20301 20407 20501 20202	教育と福祉 保育内容の指導法（人間関係） ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 保育音楽表現技術Ⅱ	選択 選択 選択 選択	1～4 2 3 2～4	内田塔子 篠沢薫 南野奈津子ほか 山原麻紀子	20311 20501 20412 音楽実習室(準備室含)、小音楽実習室1(準備室含)、小音楽実習室2(準備室含) 音楽実習室(準備室含)、小音楽実習室1(準備室含)、小音楽実習室2(準備室含)	子ども支援学演習ⅡB 児童・家庭福祉 教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む） 保育音楽表現技術Ⅱ	必修 選択 選択 選択	2 1 3 2～4	鈴木崇之ほか 南野奈津子 高橋健介ほか 山原麻紀子	20205、20301。 20302、20310 20405 20311、20401、20402、実習室室(準備室含) 音楽実習室(準備室含)、小音楽実習室1(準備室含)、小音楽実習室2(準備室含)	子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子どもと表現Ⅰ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	4 4 4 4 4 4 4 4 4 1	中道直子 内田千春 高橋直美 内田塔子 高橋健介 伊藤美佳 嶋崎博嗣 鈴木崇之 高山静子 南野奈津子 山原麻紀子 山原麻紀子ほか	20301 20302 20306（AL教室） 20307（PC教室） 20308（PC教室） 20309（PC教室） 20311 20401 20402 20406 20507 音楽実習室(準備室含)、小音楽実習室1(準備室含)、小音楽実習室2(準備室含)	子どもと表現Ⅰ 保育実習指導ⅠA（施設） 体育あそびの実践	選択 選択 選択	1 2 2～4	山原麻紀子ほか 鈴木崇之ほか 嶋崎博嗣	音楽実習室(準備室含)、小音楽実習室1(準備室含)、小音楽実習室2(準備室含)、20205、20206。、20207、20208、20301、20302 体育館
	人間環境デザイン学科	医療福祉建築計画	選択	3～4	仲綾子	20405	製品と情報のUD 生活空間計画 建築とまちのUD 福祉デザイン工学各論 メカトロニクス・デザイン	選択 選択 選択 選択 選択	1 2 3～4 3～4 3～4	池田千登勢 冨安亮輔 菅原麻衣子 犠也守寛 高橋良至	20507 20407 20401 20208 20402	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ 福祉住環境コーディネート論 プロダクトデザインⅡ	必修 選択 選択	1 3～4 3～4	大沼敦ほか 水村容子 柏樹良	20305、20404。 20412、20413、 20502 20507 20402	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ 空間デザイン演習ⅡB 生活環境デザイン演習ⅡB プロダクトデザイン演習ⅡB	必修 必修 必修 必修	1 4 4 4	大沼敦ほか 名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか	20305、20404。 20412、20413、 20502 制作工房 制作工房 制作工房	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ 空間デザイン演習ⅡB 生活環境デザイン演習ⅡB プロダクトデザイン演習ⅡB	必修 必修 必修 必修	1 4 4 4	大沼敦ほか 名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか	20305、20404。 20412、20413、 20502 制作工房 制作工房 制作工房
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	高齢者健康スポーツ指導法 スポーツ社会学	選択 選択	2～4 2～4	神野宏司 熊澤拓也	多目的室1、実習室4（保健科学） 20207	スポーツとメディア スポーツのコーチング理論Ⅱ スポーツ施設マネジメント 労働衛生Ⅱ	選択 選択 選択 選択	2～4 2 2～4 3～4	谷塚哲 水島淳 山下玲 信太直己	20406 20312（180名教室） 20313（200名教室） 20207	ベーシック・トレーニング 生涯スポーツ論 外国語文献講読	必修 選択 選択 選択	1 1～4 1～4	平田昂大 細谷洋子 木内明	多目的室1 20207 80人教室301	ベーシック・トレーニング 健康教育学 国際開発論 アスレティックコンディショニング演習	必修 選択 選択 選択	1 2～4 2～4 2～4	平田昂大 神野宏司 木内明 二橋元紀	多目的室1 20207 20313 実習室1（講義室・演習室）	ベーシック・トレーニング 危機管理と救急法 外国語文献講読 スポーツの法と倫理 アスレティックトレーニング指導法	必修 選択 選択 選択 選択	1 1～4 1～4 2～4 2～4	安達玄 内山有子 水島淳 竹村瑞穂 二橋元紀	多目的室1 20407 80人教室302 20405 多目的室2
	栄養科学科	基礎栄養学実験 栄養生化学実習 スポーツ栄養マネジメント（実践）	必修 必修 選択必修	1 2 3	太田昌子ほか 佐藤綾美ほか 小西可奈ほか	食品栄養学実験室 栄養生理学実習 スポーツ栄養学実習室	基礎栄養学実験 栄養生化学実習 スポーツ栄養マネジメント（実践）	必修 必修 選択必修	1 2 3	太田昌子ほか 佐藤綾美ほか 小西可奈ほか	食品栄養学実験室 栄養生理学実習 スポーツ栄養学実習室	基礎栄養学実験 栄養生化学実習 スポーツ栄養マネジメント（実践） 健康づくり運動の実際（レジスタンストレーニング）	必修 必修 選択必修 選択	1 2 3 2	太田昌子ほか 佐藤綾美ほか 小西可奈ほか 大上安奈	食品栄養学実験室 栄養生理学実習 スポーツ栄養学実習室 実習室7（トレーニング室）	基礎栄養学実験 栄養生化学実習 スポーツ栄養マネジメント（実践）	必修 必修 選択必修	1 2 3	太田昌子ほか 佐藤綾美ほか 小西可奈ほか	食品栄養学実験室 栄養生理学実習 スポーツ栄養学実習室	有機化学Ⅰ 応急手当法 健康づくり運動の実際（レジスタンストレーニング）	選択必修 選択必修 選択	2 3 2	石田達也 宮越雄一 大上安奈	120人教室402 80人教室301 実習室7（トレーニング室）
教職科目		スポーツ実習・指導法（柔道） スポーツ実習・指導法（バドミントン）	選択 選択	2 2	久保潤二郎 金子元彦	武道場1 体育館	スポーツ実習・指導法（柔道）	選択	2	久保潤二郎	武道場1															

秋　火		1限　〔9：00～10：30〕					2限　〔10：40～12：10〕					3限　〔13：00～14：30〕					4限　〔14：40～16：10〕					5限　〔16：20～17：50〕					6限　〔18：00～19：30〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 2 2 2 2	HUSSEY,Gary 猪口綾奈 山本綾 冨塚博之 田中みんね THOMSON,Blair 本多吉彦 EGITIM,Soyhan	20412 20404 20403 20307（PC教室） 20405 20413 20401 20301	経営学 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡB	選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 1 1 1 1 1 1 1 1	橋本英重 山本綾 田中みんね 冨塚博之 本多吉彦 猪口綾奈 EGITIM,Soyhan THOMSON,Blair HUSSEY,Gary	20310 20307（PC教室） 20413 20404 20412 20311 20204 20301 20403	生命と倫理 全学総合H Intercultural Communication Skills ⅠB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB	選択 選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 1～4 1～4 2 2 2 2 2 2	竹村瑞穂 小林正夫 山本綾 田中みんね 冨塚博之 猪口綾奈 THOMSON,Blair 本多吉彦 EGITIM,Soyhan	20507 20311 20206 20203 20204 20205 20307（PC教室） 20201 20202	音楽一般 フランス語Ⅱ 情報リテラシーⅡ 情報リテラシーⅡ	選択 選択 選択・選択必修 選択・選択必修	1～4 1～4 1～4 1～4	菊地章太 ラサモエラミレイユ 安原七重ほか 安原七重ほか	20405 20306（AL教室） 2021年度：2020年度：2020年度：								
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	介護過程の応用	選択	4	八木裕子	20208	介護過程Ⅱ	選択	2	渡辺裕美	20201	社会福祉学基礎演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神）	必修 選択	1 4	稲沢公一ほか 吉田光爾ほか	20401、20402、20403、20405 20308（PC教室）	福祉サービスの組織と経営 ケアマネジメント論 ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）（精神）	選択 選択 選択	2～3 2～4 3	早坂聡久 高野龍昭 的場智子他	20402 20203 20412	社会調査および実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神） 医療的ケアⅡ	選択 選択 選択	2～4 4 3	佐藤亜樹ほか 吉田光爾 渡辺裕美ほか	20412 20306（AL教室） 小講単留学：入田・宮次留学等：								
	子ども支援学科	子ども支援学演習Ⅰ	必修	1	鈴木崇之ほか	20201、20204、20402、20205	ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） 保育・教育相談 保育カリキュラム論	選択必修 選択 選択	3 3 2	鈴木崇之 都丸けい子 伊藤美佳	20302 20501 20207	保育・教職実践演習	選択	4	高橋健介ほか	20407、20412、20413	子どもと環境	選択	2	髙山静子	20401	発達心理学 子ども家庭支援論 子どもと環境	必修 選択 選択	1 4 2	中道直子 鈴木崇之 髙山静子	20501 20401 20404					
	人間環境デザイン学科	環境計画	選択	2	野中俊宏	20507	人間工学 発達と障害 建築生産 マーケティング	選択 選択 選択 選択	2 1 1 2	勝平純司 伊藤亮子 名取発 八木祥和	20303 20507 20313 20406	空間デザイン演習ⅠB 生活環境デザイン演習ⅠB プロダクトデザイン演習ⅠB	必修 必修 必修	3 3 3	名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか	実験工房、20302 実験工房、20301 実験工房、20303	空間デザイン演習ⅠB 生活環境デザイン演習ⅠB プロダクトデザイン演習ⅠB 産業とプロダクトデザイン International Design Practices	必修 必修 必修 選択 選択	3 3 3 3 1～4	名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか 大沼敦 樋口貴彦	実験工房、20302 実験工房、20301 実験工房、20303 20406 20205	空間デザイン演習ⅠB 生活環境デザイン演習ⅠB プロダクトデザイン演習ⅠB International Design Practices	必修 必修 必修 選択	3 3 3 1～4	名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか 樋口貴彦	実験工房、20302 実験工房、20301 実験工房、20303 20205								
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	運動学（運動方法学を含む） アスレティックトレーニング指導法	選択 選択	1 2～4	金子元彦 岩本紗由美	20502 実習室7（トレーニング室）	コーチング概論 健康スポーツ文化論 フィールドワーク実習 スポーツ生理学 人体組織学	選択 選択 選択 選択 選択	1 1～4 2 2 2～4	水島淳 木内明ほか 齊藤恭平 今有礼 宮越雄一	20405 20208 80人教室302 20407 20502	解剖学実習 運動疫学 アスレティックトレーニング論 健康スポーツインターンシップB	選択 選択 選択 選択	2 2～4 2～4 2～4	加藤和則 神野宏司 二橋元紀 谷塚哲ほか	解剖学実習室 20406 実習室1（講義室・演習室） 20310	健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ	必修 必修	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	今有礼 鈴木智子 平野智之 神野宏司 内山有子 谷塚哲 齊藤恭平 竹村瑞穂 熊澤拓也 岩本紗由美 古川覚 金子元彦 細谷洋子 木内明 二橋元紀 江田香織 水島淳 大澤清 山下玲 山本綾	20201 20202 20408（大学院演習室） 20204 20409（大学院演習室） 20410（大学院演習室） 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405 120人教室 20411（大学院演習室） 20413 20503（大学院演習室） 20504（大学院演習室） 40人教室401 20310 20311 20505（大学院演習室） 20506（大学院演習室）	健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ	必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	今有礼 鈴木智子 平野智之 神野宏司 内山有子 谷塚哲 齊藤恭平 竹村瑞穂 熊澤拓也 岩本紗由美 古川覚 金子元彦 細谷洋子 木内明 二橋元紀 江田香織 水島淳 大澤清 山下玲 山本綾	20201 20202 20408（大学院演習室） 20204、40人教室401 20409（大学院演習室） 20410（大学院演習室） 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405 120人教室 20411（大学院演習室） 20413 20503（大学院演習室） 20504（大学院演習室） 40人教室401 20310 20311 20505（大学院演習室） 20506（大学院演習室）	卒業研究・論文Ⅱ 卒業研究・論文Ⅱ	必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	今有礼 鈴木智子 平野智之 神野宏司 内山有子 谷塚哲 齊藤恭平 竹村瑞穂 熊澤拓也 岩本紗由美 古川覚 金子元彦 細谷洋子 木内明 二橋元紀 江田香織 水島淳 大澤清 山下玲 山本綾	20201 20202 20408（大学院演習室） 20204、40人教室401 20409（大学院演習室） 20410（大学院演習室） 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405 120人教室 20411（大学院演習室） 20413 20503（大学院演習室） 20504（大学院演習室） 40人教室401 20310 20311 20505（大学院演習室） 20506（大学院演習室）
	栄養科学科	スポーツ栄養学 栄養疫学実習Ⅱ（実験疫学） 意思決定理論	選択必修 選択必修 選択	1 3 2	安田純 吉崎貴大ほか 亀井誠生	120人教室402 栄養疫学実習室 80人教室302	食品微生物学 栄養疫学実習Ⅱ（実験疫学） 食品パッケージ論	選択必修 選択必修 選択	1 3 2	水落慎吾 吉崎貴大ほか 松岡滋	120人教室402 栄養疫学実習室 120人教室401	予防医学概論 栄養疫学実習Ⅱ（実験疫学） 健康づくり運動の実際（エアロビクス）	選択必修 選択必修 選択	2 3 1	宮越雄一 吉崎貴大ほか 大上安奈	120人教室402 栄養疫学実習室 多目的室2	栄養と心理 栄養疫学実習Ⅱ（実験疫学） 健康づくり運動の実際（エアロビクス）	選択必修 選択必修 選択	2 3 1	芦澤奈保 吉崎貴大ほか 大上安奈	120人教室401 栄養疫学実習室 多目的室2	メディカルライティング ライフステージ栄養学 医療保険	必修 選択必修 選択	3 2 4	小早川裕子 塚本彩 伊奈川秀和	80人教室301 120人教室402 30302								
教職科目		保健体育科教育法Ⅱ	選択	2	平野智之	体育館、2021（160名教室）	特別支援教育基礎論 保健体育科教育法Ⅱ	選択 選択	1 2	是枝喜代治 平野智之	20402 体育館、2021（160名教室）	教育相談 教職実践演習（養護教諭） 保健科指導法Ⅱ	選択 選択 選択	2 4 3	都丸けい子 内山有子 七木田文彦	20208 80人教室301 80人教室302	教育制度論 保健科教育論Ⅱ	選択 選択	1 2	山口晶子 七木田文彦	20208 80人教室302	教育課程総論 生徒指導論（進路指導論を含む）	選択 選択	1 2	山口晶子 内田塔子	20407 20406								

秋 水		1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕					4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目							英語ⅢB	必修	2	ジェフブルース	20307（PC教室）	歴史学	選択	1～4	岩下哲典	20302	地理学	選択	1～4	三浦尚子	20301	生物学	選択	1～4	金子律子	20304
							英語ⅢB	必修	2	尾関麻美	20412	経済学	選択	1～4	山本崇広	20501	地域文化研究D	選択	1～4	松野智章	20302	情報化社会と人間	選択	1～4	山際基	20301
							英語ⅢB	必修	2	竹内幸子	20404	地域文化研究B	選択	1～4	江藤双恵	20305	中国語および中国語圏社会事情	選択	1～4	安藤潤一郎	20201	障害学	選択	1～4	曽根直樹	20302
							英語ⅣB	必修	2	木下ひろみ	20303	韓国語および韓国語圏社会事情	選択	1～4	リリョンギョン	20401	English Test Preparation Ⅱ	選択	1～4	山本綾	20304	スポーツ健康科学実技Ⅳ	選択	1～4	関根明治	多目的室2
							英語ⅣB	必修	2	EGITIM,Soyhan	20406	Intercultural Communication Skills ⅡB	選択	1～4	阿久津純恵	20304	韓国語Ⅱ	選択	1～4	リリョンギョン	20306（AL教室）					
							英語ⅣB	必修	2	THOMSON,Blair	20402	中国語Ⅱ	選択	1～4	安藤潤一郎	20201	レポート・論文のまとめ方	選択	1～4	高橋直美	20406					
												コミュニケーション＆マナー	選択	1	深谷秀樹	20311	グローバル市民論	選択	1～4	村上一基	20404					
												全学総合B	選択	1～4	長谷川琢哉	20208	英語ⅠB	必修	1	竹内幸子	20412					
												英語ⅠB	必修	1	尾関麻美	20413	英語ⅠB	必修	1	木下ひろみ	20402					
												英語ⅠB	必修	1	竹内幸子	20412	英語ⅠB	必修	1	工藤貴恵	20202					
												英語ⅠB	必修	1	木下ひろみ	20404	英語ⅡB	必修	1	EGITIM,Soyhan	20401					
												英語ⅡB	必修	1	EGITIM,Soyhan	20402	英語ⅡB	必修	1	佐藤美保	20403					
												英語ⅡB	必修	1	阿久津純恵	20303	英語ⅡB	必修	1	THOMSON,Blair	20303					
												英語ⅡB	必修	1	THOMSON,Blair	20306（AL教室）										
												プログラミング基礎Ⅱ	選択	1～4	荒川俊也	20309（PC教室）										
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	稲沢公一	20304						価値と倫理に基づく実践史	選択	3～4	益田幸辰	20403	社会保障Ⅱ	選択	2～3	伊奈川秀和	20311	社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	加山弾	20201
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	阿久津純恵	20305											災害と福祉	選択	2～4	八木裕子	20208	社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	吉浦輪	20204
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	渡辺道代	20306（AL教室）											社会福祉国際体験演習B	選択	2～4	荻野剛史	20305	社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	山本美香	20205
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	荻野剛史	20307（PC教室）																社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	志村健一	20206
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	高山直樹	20308（PC教室）																社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	八木裕子	20207
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	金子光一	20309（PC教室）																社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	早坂聡久	20305
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	渡辺裕美	20310																社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	戸井宏紀	20306（AL教室）
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	的場智子	20311																社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	佐藤亜樹	20307（PC教室）
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	高野龍昭	20401																社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	吉田光爾	20308（PC教室）
		社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	川原恵子	20402																社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	古川和稔	20309（PC教室）
																						社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	小野道子	20310
																						社会福祉学専門演習Ⅱ	必修	3	林大介	20312（180名教室）
																						国際福祉開発交流	選択	2～4	阿久津純恵	20208
																						国際社会福祉論B	選択	2～4	荻野剛史	20401
																						現代的福祉課題B	選択	3～4	渡邊浩美	20403
	子ども支援学科	子ども支援学演習ⅢB	必修	3	中道直子	20201	子どもと表現Ⅱ	選択	1	浅羽聡美	多目的室（家政・図画工作）	保育内容の指導法（造形表現）	選択	2	浅羽聡美	多目的室（家政・図画工作）	保育内容の指導法（造形表現）	選択	2	浅羽聡美	多目的室（家政・図画工作）	音楽表現専門演習	選択	2～4	山原麻紀子	音楽実習室（準備室含）
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	内田千春	20202											発達心理学専門演習	選択	2～4	中道直子	心理相談実習室					
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	高橋直美	20203																				
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	内田塔子	20204																				
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	高橋健介	20205																				
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	伊藤美佳	20206																				
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	嶋崎博嗣	20207																				
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	鈴木崇之	20208																				
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	高山静子	20301																				
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	南野奈津子	20302																				
		子ども支援学演習ⅢB	必修	3	山原麻紀子	20303																				
		子どもと表現Ⅱ	選択	1	浅羽聡美	多目的室（家政・図画工作）																				
	人間環境デザイン学科	まちづくり	選択	2	浅海義治	20407						材料・素材一般	選択	1	名取発ほか	20502	ランドスケープデザイン	選択	3～4	宮川忠之	20501					
		建築空間構成論	選択	3～4	仲綾子	20406						ヒューマンインターフェース	選択	2	北真吾	20407										
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	奥村拓朗	20403	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	奥村拓朗	20204	健康スポーツアクティビティⅠB	必修	1	谷釜尋徳	体育館	健康スポーツアクティビティⅢB	必修	1	関根明治	多目的室2	健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	渡邉貞稔	体育館
		健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	安達玄	20404	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	安達玄	20205	健康スポーツアクティビティⅠB	必修	1	林田敏裕	体育館	健康スポーツアクティビティⅢB	必修	1	番場裕之	武道場1	健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	松下巽	屋外施設
		健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	新谷昂	20412	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	新谷昂	20206	健康スポーツアクティビティⅠB	必修	1	非常勤講師	体育館	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	渡邉貞稔	体育館	健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	荻尾純子	体育館
		健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	古川覚	40人教室401	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	古川覚	40人教室401	健康スポーツアクティビティⅠB	必修	1	児島雄三郎	体育館	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	松下巽	屋外施設	健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	草刈恭巳	体育館
		健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	神野宏司	40人教室402	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	神野宏司	40人教室402	健康スポーツアクティビティⅠB	必修	2	西谷善子	多目的室2	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	萩尾純子	体育館	健康スポーツアクティビティⅢB	必修	1	松本大樹	多目的室1
		健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	木内明	40人教室403	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	木内明	40人教室403	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	早川大輔	屋外施設	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	草刈恭巳	体育館	健康スポーツアクティビティⅢB	必修	1	中田光紀	武道場2
		健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	熊澤拓也	40人教室404	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	熊澤拓也	40人教室404						学校保健（小児保健を含む）	選択	2～4	内山有子	20207	スポーツ心理学	選択	2	江田香織	20502
		健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	谷塚哲	40人教室405	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	谷塚哲	40人教室405															
							健康スポーツアクティビティⅠD	必修	2	谷釜尋徳	体育館															
							健康スポーツアクティビティⅠD	必修	2	林田敏裕	体育館															
							健康スポーツアクティビティⅠD	必修	2	非常勤講師	体育館															
							健康スポーツアクティビティⅠD	必修	2	児島雄三郎	体育館															
							健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	西谷善子	多目的室2															
							健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	早川大輔	屋外施設															
	栄養科学科	基礎化学Ⅱ	選択必修	1	石田達也	120人教室402	大量調理とHACCP(実践)	選択必修	2	土岐田佳子	給食管理室	大量調理とHACCP(実践)	選択必修	2	土岐田佳子	給食管理室	大量調理とHACCP(実践)	選択必修	2	土岐田佳子	給食管理室	情報処理数学Ⅱ	選択	1	岩澤卓弥	80人教室302
		大量調理とHACCP(実践)	選択必修	2	土岐田佳子	給食管理室	データサイエンスⅡ	選択	3	吉﨑貴大	80人教室301						プログラミング言語Ⅱ	選択	2	岩澤卓弥	20309（PC教室）					
		起業基礎（ビジネスマナー含む）	選択	3	矢野友啓	30302	機械学習Ⅱ	選択	4	荒川俊也	20309（PC教室）																
教職科目		教職実践演習（中・高）	選択	4	平野智之ほか	20507	スポーツ実習・指導法（器械運動）	選択	3	仲宗根森敦	体育館、多目的室1											工業科指導法Ⅱ	選択	3	大辻永	20501
		スポーツ実習・指導法（器械運動）	選択	3	仲宗根森敦	体育館、多目的室1																スポーツ実習・指導法（バレーボール）	選択	2	古田久	体育館
																						看護学Ⅲ	選択	2	石野晶子	80人教室301

秋　木

		1限〔9：00～10：30〕					2限〔10：40～12：10〕					3限〔13：00～14：30〕					4限〔14：40～16：10〕					5限〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		情報リテラシーⅡ	選択/選択必修	1～4	安原七重ほか	20307（PC教室）、20308（PC教室）、20309（PC教室）	総合B	選択	1～4	菊地章太	20501	アカデミックライティング 食と健康 スポーツ健康科学実技Ⅳ	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	小早川裕子 小西可奈 田中宏和	20306（AL教室） 20312（180名教室） 体育館	文章読解 スポーツ健康科学講義Ⅱ	選択 選択	1～4 1～4	高橋直美 細谷洋子	20406 20312（180名教室）	全学総合G 総合E スポーツ健康科学実技Ⅳ	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	小林正夫 菊地章太 小嶋信之	20311 20413 体育館
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会統計解析法 ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門） 介護福祉援助概論Ⅱ	必修 選択 選択 選択	1 2～4 3 2	八木裕子 服部慶亘 志村健一ほか 渡辺裕美	20502 20501 20507 20310	社会福祉調査の応用 統計情報処理および実習 ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルアクション論 認知症の理解Ⅱ	選択 選択 選択 選択 選択	1 1 2 2～4 1～4	志村健一 服部慶亘 志村健一ほか 早坂聡久 新田恵美	20311 20310 20202、20203、20204、20205、20206、20304、20305、20308（AL教室） 20412 20302	人間の幸福とペット ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 介護総合演習Ⅲ	選択 選択 選択	2～4 3 2	佐藤亜樹 志村健一ほか 古川和稔ほか	20501 20202、20203、20204、20205、20206、20207、20208、20304 20309（PC教室）	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 医療福祉演習Ⅱ 介護福祉援助概論Ⅰ	選択 選択 選択	2～3 3～4 1	加山弾 吉浦輪 古川和稔	20304 20310 20311	社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	古川和稔 加山弾 吉浦輪 山本美香 志村健一 八木裕子 早坂聡久 戸井宏紀 佐藤亜樹 吉田光爾 小野道子	20201 20202 20203 20204 20205 20206 20208 20303 20304 20305 20401
	子ども支援学科	多文化共生保育・教育 子どもの食と栄養（実習含む）	必修 選択	3 1	内田千春ほか 太田百合子	20402、保育実習室（準備室含） 20303、調理実習室、多目的室（家政・図画工作）	多文化共生保育・教育 子どもの食と栄養（実習含む） 乳児保育Ⅰ	必修 選択 選択	3 1 2	内田千春ほか 太田百合子 瀬川未佳	20402、保育実習室（準備室含） 20303、調理実習室、多目的室（家政・図画工作） 20406、保育実習室（準備室含）	生活と総合学習 子どもの食と栄養（実習含む） 音楽あそびの実践	選択 選択 選択	1～4 1 2～4	木村学 太田百合子 山原麻紀子	20303 20401、調理実習室、多目的室（家政・図画工作） 音楽実習室（準備室含）	子どもと人間関係 子どもの食と栄養（実習含む） 保育内容の指導法（健康）	選択 選択 選択	1 1 2	高橋健介 太田百合子 嶋崎博嗣	20405 20401、調理実習室、多目的室（家政・図画工作） 体育館	子どもと人間関係 保育内容の指導法（健康）	選択 選択	1 2	高橋健介 嶋崎博嗣	20405 体育館、体育館
	人間環境デザイン学科						設備計画 情報デザインⅡ	選択 選択	3～4 3～4	吉田崇 松本和也	20207 20308（PC教室）	人間環境デザイン総合演習 都市・まちのデザイン	必修 選択	2 1	仲綾子ほか 齋藤博	20301、20302、20307（PC教室）、20308（PC教室）、20403、20404、20502 20507	人間環境デザイン総合演習	必修	2	仲綾子ほか	20301、20302、20307（PC教室）、20308（PC教室）、20403、20404、20502	人間環境デザイン総合演習	必修	2	仲綾子ほか	20301、20302、20307（PC教室）、20308（PC教室）、20403、20404、20502
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	健康スポーツキャリアデザインB ヘルスプロモーション論 健康栄養学	必修 選択 選択	1 2～4 2～4	岩本紗由美ほか 齋藤恭平 太田昌子ほか	20407 120人教室 20405	スポーツ哲学 スポーツのコーチング理論Ⅱ スポーツ人類学 機能解剖学	必修 選択 選択 選択	1 2 2～4 2～4	竹村瑞穂 新谷昴 木内明 宮越雄一	20502 20208 20405 20313（200名教室）	スポーツと応急処置 スポーツビジネス 健康スポーツボランティア活動A 健康スポーツボランティア活動B 日本文化とスポーツ スポーツ医学Ⅰ（内科） スポーツとコンディショニング	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4 1～4 2～4 2～4 3～4	二橋元紀 谷塚哲 齊藤恭平 山下玲 中嶋哲也 上村公介 岩本紗由美	多目的室2 20313（200名教室） 80人教室302 120人教室 120人教室401 20407 20405	力学基礎 スポーツと応急処置 地域スポーツクラブ論 労働基準法	選択 選択 選択 選択	1 1～4 2～4 3～4	工藤重忠 安達玄 山下玲 田中建一	20207 多目的室1 20208 20507	スポーツ組織論 労働安全衛生法Ⅱ バイオメカニクス実習	選択 選択 選択	2～4 3～4 2	谷塚哲 田中建一 工藤重忠	20406 20407 実習室5（バイメカ）
	栄養科学科	健康スポーツキャリアデザインB 栄養マネジメント（実践） 機器分析	必修 選択必修 選択必修	1 2 3	小島貴子 芹澤奈保ほか 石田達也	120人教室402 調理実習室 給食管理室 80人教室302	疫学 栄養マネジメント（実践） 行動経済学	必修 選択必修 選択	1 2 3	塚本彩 芹澤奈保ほか 久米功一	120人教室402 調理実習室 給食管理室 80人教室302	細胞生物学 栄養マネジメント（実践） 食理学Ⅱ	必修 選択必修 選択必修	1 2 3	加藤和則 芹澤奈保ほか 矢野友啓	120人教室402 調理実習室 給食管理室 80人教室301	栄養マネジメント（実践） 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ	選択必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	芹澤奈保ほか 石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 髙田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉﨑貴大 小西可奈	調理実習室 給食管理室 120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405	健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 髙田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉﨑貴大 小西可奈	120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405
教職科目		スポーツ実習・指導法（バドミントン）	選択	2	金子元彦	体育館	養護実習基礎演習 スポーツ実習・指導法（剣道） スポーツ実習・指導法（バスケットボール）	選択 選択 選択	3 2 2	内山有子 田中宏和 谷釜尋徳	120人教室 武道場1 体育館	スポーツ実習・指導法（陸上）	選択	3	塩田徹	ターダン走路、グラウンド3										

秋	金	1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕					4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		英語および英語圏社会事情 日本語Ⅱ 社会貢献活動入門 スポーツ健康科学実技Ⅱ	選択 選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4 1～4	山本綾 髙橋繊恵 林大介 奥村拓朗	20205 20412 20207 体育館	日本事情Ⅱ 日本国憲法 ジェンダー論	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	髙橋繊恵 寺洋平 竹村瑞穂	20412 20407 20304	ドイツ語Ⅱ 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡB スポーツ健康科学実技Ⅱ	選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1～4 1 1 1 1 1 1 1 1 1～4	小山田豊 イアンハート 林順子 阿久津純恵 山本綾 EGITIM,Soyhan MAGNUSSON,David THOMSON,Blair HEIN,Patrick 安達玄	20306（AL教室） 20501 20303 20310 20208 20403 20405 20412 20413 体育館	キャリアデベロップメント 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB	選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	3～4 2 2 2 2 2 2 2 2	松井広美 淺間正通 林順子 イアンハート 阿久津純恵 EGITIM,Soyhan MAGNUSSON,David HEIN,Patrick THOMSON,Blair	20406 20208 20303 20301 20310 20401 20403 20405 20412	文化人類学 キャリアデザイン実践 全学総合M 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡB	選択 選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 2 1～4 1 1 1 1 1 1	岩瀬裕子 小島貴子 谷釜尋徳 林順子 EGITIM,Soyhan 淺間正通 MAGNUSSON,David THOMSON,Blair HEIN,Patrick	20406 20402 20311 20303 20413 20301 20403 20401 20412
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神） 制度・政策・施設史	選択 選択 選択	1 3 3～4	渡辺道代 稲沢公一ほか 橋本理子	20507 20310 20501	社会福祉の原理と政策Ⅱ 精神医学と精神医療Ⅱ 生活支援技術Ⅷ	必修 選択 選択	1 2 3	伊奈川秀和 吉田光爾 土屋みさと	20507 20311 調理実習室、多目的室（家政・図書工作）、介護実習室（入浴・更衣室等含）	児童・家庭福祉 精神保健福祉の原理Ⅱ 介護総合演習Ⅳ	選択 選択 選択	1 2 3	小野道子 稲沢公一 髙野龍昭ほか	20313 20207 20302	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（精神） バリアフリー論 生活支援技術Ⅷ	選択 選択 選択 選択	1 2 2～4 3	吉田光爾 稲沢公一 小林恵一 八木裕子	20207 20502 20501 介護実習室（入浴・更衣室等含）	社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） 居住福祉論 生活支援技術Ⅷ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択 選択	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 2 2～4 3	稲沢公一 阿久津純恵 渡辺道代 荻野剛史 高山直樹 金子光一 渡辺裕美 的場智子 高野龍昭 川原恵子 林大介 志村健一ほか 山本美香 八木裕子	20201 20202 20203 20204 20205 20206 20304 20305 20306（AL教室） 20307（PC教室） 20312 20502 20501 介護実習室（入浴・更衣室等含）
	子ども支援学科						保育者論	選択	2	内田千春	20208															
	人間環境デザイン学科	CAD演習Ⅰ	必修	1	高橋良至ほか	20308（PC教室）、20309（PC教室）	CAD演習Ⅰ 構造力学 支援技術とデザイン	必修 選択 選択	1 2 3～4	高橋良至ほか 名取発 嶺也守寛	20308（PC教室）、20309（PC教室） 20207 20501	CAD演習Ⅰ 道具の歴史 デザイン工学応用	必修 選択 選択	1 1 2	高橋良至ほか 勝平純司 高橋利男	20308（PC教室）、20309（PC教室） 20407 20307（PC教室）	CAD演習Ⅰ	必修	1	高橋良至ほか	20308（PC教室）、20309（PC教室）					
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	スポーツ栄養学Ⅱ 健康スポーツ特別演習B	選択 選択	2～4 2～4	小西可奈 木内明	20406 80人教室301	健康スポーツ統計 生化学	選択 選択	1 2～4	大澤清 古川覚	20405 20502	レクリエーション実習 スポーツのコーチング演習Ⅰ 運動生理学Ⅱ	選択 選択 選択	1～4 2 2～4	細谷洋子 江田香織 今有礼	多目的室1 20406 20507	健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅢB 健康スポーツアクティビティⅢB 健康スポーツアクティビティⅢB 健康スポーツアクティビティⅢB 生理・生化学実習 プログラミング演習（データ処理含む）	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1 1 2 2	本田雅一 藤本武司 奥村拓朗 藤村武 日髙哲郎 竹ヶ原佳苗 鈴木智子 細谷洋子 古川覚 大澤清	体育館 体育館 体育館 体育館 多目的室1 多目的室2 武道場1 武道場2 実習室3（生理生化学） 20307（PC教室）	健康スポーツアクティビティⅠD 健康スポーツアクティビティⅠD 健康スポーツアクティビティⅠD 健康スポーツアクティビティⅠD エアロビクス指導法 レクリエーション実習 運動生理学実習	必修 必修 必修 必修 選択 選択 選択	2 2 2 2 2～4 1～4 2	本田雅一 藤本武司 奥村拓朗 藤村武 鈴木智子 細谷洋子 今有礼	体育館 体育館 体育館 体育館 多目的室2 多目的室1 実習室2（運動生理）
	栄養科学科	運動生理学実験 食品学実験Ⅰ 臨床栄養学実習	必修 選択必修 選択必修	2 1 3	大上安奈 矢野友啓ほか 芹澤奈保ほか	実習室2（運動生理） 食品栄養学実験室 食品機能学実験室 調理実習室	運動生理学実験 食品学実験Ⅰ 臨床栄養学実習	必修 選択必修 選択必修	2 1 3	大上安奈 矢野友啓ほか 芹澤奈保ほか	実習室2（運動生理） 食品栄養学実験室 食品機能学実験室 調理実習室	運動生理学実験 食品学実験Ⅰ 臨床栄養学実習	必修 選択必修 選択必修	2 1 3	小西可奈 矢野友啓ほか 芹澤奈保ほか	実習室2（運動生理） 食品栄養学実験室 食品機能学実験室 調理実習室	運動生理学実験 食品学実験Ⅰ 臨床栄養学実習	必修 選択必修 選択必修	2 1 3	小西可奈 矢野友啓ほか 芹澤奈保ほか	実習室2（運動生理） 食品栄養学実験室 食品機能学実験室 調理実習室	動物学	選択必修	2	佐藤綾美	120人教室402
教職科目		保健体育科指導法Ⅱ スポーツ実習・指導法（サッカー）	選択 選択	3 2	平野智之 西園聡史	体育館、20312（180名教室） グラウンド①	保健体育科指導法Ⅱ	選択	3	平野智之	体育館、20312（180名教室）	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	選択	1	林大介	20401	教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	選択	2	金澤信之	20413					

秋	土	1限 〔9：00～10：30〕					2限 〔10：40～12：10〕					3限 〔13：00～14：30〕					4限 〔14：40～16：10〕					5限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	Pre-Study Abroad Writing	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206
		公務員論	選択	1～4	平林浩一	20401	公務員論	選択	1～4	平林浩一	20401															
		全学総合J	選択	1～4	川口英夫	20311	全学総合K	選択	1～4	加賀見一彰	20311															
		職業指導Ⅱ	選択	3～4	高岩千尋	20306（AL教室）																				
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科																									
	子ども支援学科																									
	人間環境デザイン学科											色彩論	選択	1	名取和幸	20407	色彩論	選択	1	名取和幸	20407					
												表現手法	選択	3～4	櫻井誠也	20208										
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科																									
	栄養科学科	体力測定評価法	選択必修	2	大上安奈	80人教室301	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	石田達也	120人教室401	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	石田達也	120人教室401	栄養疫学	必修	2	吉﨑貴大	120人教室					
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	宮越雄一	120人教室402	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	宮越雄一	120人教室402										
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	太田昌子	120人教室	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	太田昌子	120人教室										
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	大上安奈	80人教室301	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	大上安奈	80人教室301										
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	髙田和子	80人教室302	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	髙田和子	80人教室302										
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	矢野友啓	40人教室401	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	矢野友啓	40人教室401										
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	加藤和則	40人教室402	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	加藤和則	40人教室402										
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	佐藤綾美	40人教室403	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	佐藤綾美	40人教室403										
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	吉﨑貴大	40人教室404	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	吉﨑貴大	40人教室404										
							健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修	1	小西可奈	40人教室405	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修	2	小西可奈	40人教室405										
教職科目																	工芸科指導法Ⅱ	選択	3	川人武	多目的室（家政・図画工作）	工芸科指導法Ⅱ	選択	3	川人武	多目的室（家政・図画工作）

集中講義

春学期開講科目

学科	科目名	選択必修	学年	担当教員
基盤	海外研修Ⅱ	選択	1～4	水松巳奈
	海外実習Ⅱ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外研修Ⅰ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外研修Ⅱ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外研修Ⅲ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外研修Ⅳ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外実習Ⅰ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外実習Ⅱ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外実習Ⅲ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外実習Ⅳ	選択	1～4	水松巳奈
福祉社会デザイン学部	ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神）	選択	3	稲沢公一他
社会福祉学科	実習指導の理論と方法	選択	3～4	渡辺裕美ほか
	地域医療福祉専門実習Ⅰ	選択	4	渡辺裕美ほか
	ソーシャルワーク実習（精神）	選択	4	稲沢公一ほか
	介護福祉実習Ⅲ	選択	3	渡辺裕美ほか
	介護福祉実習Ⅳ	選択	4	渡辺裕美ほか
福祉社会デザイン学部	子育て支援実践	選択	1～4	伊藤美佳ほか
子ども支援学科	保育実習ⅠB（保育所）	選択	3	内田千春ほか
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	選択	2	鈴木崇之ほか
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	選択	3	鈴木崇之ほか
	保育実習Ⅱ（保育所）	選択	4	内田千春ほか
	保育実習Ⅲ（施設）	選択	4	鈴木崇之ほか
福祉社会デザイン学部	インターンシップB	選択	3～4	池田千登勢ほか
人間環境デザイン学科	インターンシップD	選択	3～4	池田千登勢ほか
健康スポーツ科学部	教職インターンシップA	選択	3	平野智之ほか
健康スポーツ科学科	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	嶋村武司
	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	碓井健一
	健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	嶋村武司
	健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	碓井健一
	スポーツ実習・指導法（テニス）	選択	2	後藤光将
	国際健康スポーツ交流B	選択	1～4	木内明ほか
	国際健康スポーツ交流D	選択	1～4	木内明ほか
健康スポーツ科学部	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	矢野友啓
栄養科学科	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	加藤和則
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	佐藤綾美
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	宮越雄一
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	太田昌子
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	石田達也
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	吉﨑貴大
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	小西可奈
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	大上安奈
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	髙田和子

秋学期開講科目

学科	科目名	選択必修	学年	担当教員
基盤	海外研修Ⅰ	選択	1～4	水松巳奈
	海外実習Ⅰ	選択	1～4	水松巳奈
福祉社会デザイン学部	ソーシャルワーク実習Ⅱ	選択	3	志村健一ほか
社会福祉学科	地域医療福祉専門実習Ⅱ	選択	4	渡辺裕美ほか
	卒業論文	選択	4	稲沢公一ほか
	介護福祉実習Ⅰ	選択	1	渡辺裕美ほか
	介護福祉実習Ⅱ	選択	2	渡辺裕美ほか
福祉社会デザイン学部	卒業論文	選択必修	4	中道直子
子ども支援学科	卒業論文	選択必修	4	内田千春
	卒業論文	選択必修	4	高橋直美
	卒業論文	選択必修	4	内田塔子
	卒業論文	選択必修	4	高橋健介
	卒業論文	選択必修	4	伊藤美佳
	卒業論文	選択必修	4	嶋崎博嗣
	卒業論文	選択必修	4	鈴木崇之
	卒業論文	選択必修	4	高山静子
	卒業論文	選択必修	4	南野奈津子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業制作	選択必修	4	中道直子
	卒業制作	選択必修	4	内田千春
	卒業制作	選択必修	4	高橋直美
	卒業制作	選択必修	4	内田塔子
	卒業制作	選択必修	4	高橋健介
	卒業制作	選択必修	4	伊藤美佳
	卒業制作	選択必修	4	嶋崎博嗣
	卒業制作	選択必修	4	鈴木崇之
	卒業制作	選択必修	4	高山静子
	卒業制作	選択必修	4	南野奈津子
	卒業制作	選択必修	4	山原麻紀子
福祉社会デザイン学部	卒業研究	必修	4	大沼敦
人間環境デザイン学科	卒業研究	必修	4	池田千登勢
	卒業研究	必修	4	水村容子
	卒業研究	必修	4	高橋良至
	卒業研究	必修	4	名取発
	卒業研究	必修	4	柏樹良
	卒業研究	必修	4	菅原麻衣子
	卒業研究	必修	4	嶺也守寛
	卒業研究	必修	4	仲綾子
	卒業研究	必修	4	冨安亮輔
	卒業研究	必修	4	齋藤博
	卒業研究	必修	4	勝平純司
	卒業研究	必修	4	松本和也
健康スポーツ科学部	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	嶋村武司
健康スポーツ科学科	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	碓井健一
	健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	嶋村武司
	健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	碓井健一
	国際健康スポーツ交流C	選択	1～4	木内明ほか
	健康産業施設等現場実習	選択	4	齊藤恭平
	看護学実習	選択	3	原田静香ほか
健康スポーツ科学部	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	矢野友啓
栄養科学科	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	加藤和則
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	佐藤綾美
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	宮越雄一
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	太田昌子
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	石田達也
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	吉﨑貴大
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	小西可奈
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	大上安奈
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	髙田和子
	校外実習	選択必修	3	太田昌子
	校外実習	選択必修	3	大上安奈
	校外実習	選択必修	3	吉﨑貴大
	校外実習	選択必修	3	小西可奈
	校外実習	選択必修	3	髙田和子
	国際栄養科学交流	選択	3	髙田和子

学生ひとりひとりの成長を約束する内部質保証体系図

Internal quality assurance system diagram

●理事会／常務理事会
●法人教学連絡会

学長が理事会・常務理事会の構成員として連携
(法人教学連絡会)法人役員と教学執行部との連絡・調整

大学評価統括本部

【学長(本部長)、教学担当常務理事(副本部長)、副学長・常務理事・事務局長らで構成】 ※全学的内部質保証推進組織

外部評価の実施
内部質保証体制

~Vision~
▶建学の理念 ▶TOYO GRAND DESIGN 2020−2024 (法人中期計画)
▶TOYO GLOBAL DIAMOND構想

提言 報告

全学自己点検・評価活動推進委員会

●委員長：内部質保証担当副学長
●委員：各学部・研究科の自己点検・評価活動推進委員会委員長

外部評価の実施
自己点検・評価体制

全学委員会部会

●部会長：学長 ●部会員：全学の各委員会の委員長

学生生活委員会	▶学生の福利厚生、育英奨学、課外活動に関する立案・実施・検証 ▶学生相談、健康管理、ピアサポートなど、ウェルネスに関する立案・実施・検証
就職・キャリア支援委員会	▶就職・キャリア支援の全学的な方針、進路状況の把握と調査、検証 ▶就職・キャリア支援に関する統計データの分析、求人開拓の促進
図書館運営委員会	▶図書館資料、データベース等の管理の基本方針、計画・実施 ▶施設及び設備の計画、運営、予算の基本方針、国内外の図書館との相互連携
社会貢献センター運営委員会	▶生涯学習／社会貢献プログラムの基本方針、公開講座の開催、広報活動、情報収集 ▶ボランティア活動その他社会貢献に係る支援
ラーニングサポートセンター運営委員会	▶基礎学力向上に係る支援 ▶レポート・論文作成の基礎的スキルの修得支援
国際教育センター運営委員会	▶留学生に対する教育支援 ▶外国語力強化プログラムの実施 ▶協定校の開拓、各種留学プログラムの推進
情報委員会	▶学修環境／事務におけるICT環境の充実、セキュリティ対策 ▶情報化戦略、情報環境の災害時対策
学術研究推進委員会	▶研究力強化、研究高度化、研究活動の国際化のための中長期計画の策定 ▶重点研究プロジェクト、大型補助金等へ申請する研究プロジェクトの推進 ▶学外研究費の導入 ▶国内外研究機関等との連携強化
産官学連携推進本部	▶産官学連携に関する基本方針の策定・推進 ▶発明等知的財産の発掘、利用及び管理、広報活動 ▶学外人材の受入れと活用 ▶教員及び学生の産官学連携支援

外部評価の実施
「ISAS2.0」の受審

事務局：学生部／就職・キャリア支援部／図書館事務部／エクステンション部／教務部／国際連携本部／国際部／情報システム部／研究推進部

学生支援／就職・キャリア支援／社会貢献／研究等に係る内部質保証

大学運営・財務部会

●部会長：事務局長 ●部会員：事務局部長

経営企画本部事務室	▶キャンパス計画、学部・研究科設置・改組 ▶TOYO GRAND DESIGN 2020−2024(法人中期計画)の具体化
経理部	▶予算方針、編成、執行管理 ▶財政計画、資産運用 ▶会計監査
総務部／秘書室	▶学校法人の総務、組織管理 ▶理事会、法人の下で行う諸会議の運営
管財部	▶施設・設備充実に関する計画 ▶防火・防災に関する計画 ▶物品調達、管理、保守
人事部	▶法人職員の人事計画 ▶教職員の福利厚生、諸手続き ▶SD計画・実施・検証
内部監査室	▶内部監査計画の立案・実施 ▶監事監査／会計監査との連携 ▶公益通報の受付・受理 ▶法人全般のコンプライアンスの適正化

外部評価の実施
財務の格付審査の受審

大学運営・財務に係る内部質保証

直接的または間接的な支援

学生



【学修】
▶履修計画の立案
▶授業の履修
▶成績、単位取得状況の確認
▶リメディアル教育の受講
【課外活動】
▶ボランティア活動、就職活動、サークル活動等
【質保証への関与】
▶授業評価アンケート
▶新入生／在学生／卒業時アンケート
▶学生FDチームによる活動
▶優秀教育活動賞アンケート

学修者本位の授業実施

授業評価アンケートによる教員へのフィードバック



【全学】

教学執行部（学長・副学長）

学長室会議（拡大学長室会議）

◆東洋大学スタンダード2021
(学士課程教育全体の教育目標)
◆カリキュラム改訂方針(4年サイクル)
◆3つのポリシーの改訂に係る基本方針・手引き
◆学修成果測定指標に係る基本方針
◆中長期計画Vision
◆教学基本方針 ◆教学予算編成方針
◆教育課程実施及び授業運営に係る全学方針
◆予算編成ヒアリング
◆中長期計画進捗ヒアリング
◆人事計画ヒアリング

各学部・研究科 自己点検・評価活動推進委員会

●自己点検・評価活動に係る方針の策定
●外部評価の計画・立案

全学カリキュラム委員会
▶基盤教育の編成
▶カリキュラムマップの作成支援
▶科目ナンバリング／CAP運用の適正化
▶シラバス点検／シラバスガイドラインの策定

高等教育推進センター
▶FD/SD企画・実施
▶授業評価アンケートの実施
▶成績データの検証
▶学修成果測定結果の集約・検証

IR室
▶新入生／在学生／卒業時アンケートの実施・分析

入学試験委員会
▶全学的な入試方式・定員管理に係る基本方針
▶入試実施に関する連絡調整

推進・支援
連携

学部長会議／研究科長会議

教授会／研究科委員会

【学部・研究科】

人材養成の目的・教育目標

P	D	C	A
DP/CPの策定	カリキュラムの編成・実施	アセスメントプランの策定と実施・評価(DPに基づく学修成果の測定)	FD/SD計画・実施
教員・教員組織の編制方針	組織編制・教員採用	教員活動評価	組織再編等・教員人事計画の再策定
APの策定	入試実施	入試方式の検証／定員管理	入試方式の再策定

中長期的サイクル 中長期計画の立案・実施・検証

【授業・教員】

P	◆学修到達目標の設定 ◆授業計画・成績評価方法の策定
D	◆授業実施・成績評価
C	◆授業評価アンケート結果の検証 ◆成績評価の客観性・妥当性の検証 ◆シラバス第三者点検
A	◆授業改善に係るFD実施

教員

【学部】
▶教員による履修指導、オフィスアワー
▶クラス担任制度などによる学修・生活指導
▶就職／進路指導
▶FD活動
▶学部・学科運営に係る諸業務
【研究科】
▶大学院生の研究指導
▶論文審査
▶研究者／高度職業人のキャリア支援
▶FD活動
▶研究科・専攻運営に係る諸業務
【研究活動】
▶論文執筆・研究発表など研究成果の社会還元

教育に係る内部質保証（3つのポリシーを起点とするPDCAサイクル）

組織図 東洋大学 高等教育推進センター（第Ⅲ期｜2021-2022年度）

センターの目的 *第2条
本学の高等教育活動の継続的な改善、改革を組織的に推進、支援すること

センターの事業 *第3条
①教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
②FD及びSDの研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
③国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
④新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発
⑤各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
⑥その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

センター長 *第4条
高等教育推進センター長（副学長）

副センター長 *第5条
本学の専任教員のうちから、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命した者。

高等教育推進委員会 *第7条

構成員 *第7条
センター長、副センター長
各学部、研究科から推薦された専任教員
教務部長、高等教育推進支援室長、教務部事務部長
センター員、学長が推薦する本学専任教職員

審議事項 *第8条
センターの事業に関する重要事項
学長から諮問された事項
その他センターに関する重要事項

担当事務局 *第12条
高等教育推進支援室

学生FDチーム *第10条
①主体的な学修のための企画
②学生視点による授業の質の向上
③修学上の制度改善

教育方法改善部会 *第9条
FD・SD研修部会 *第9条
高等教育研究部会 *第9条
教育開発・改革部会 *第9条

部会長 *第9条
部会長は、高等教育推進委員会の委員のうちから推進委員会の議を経てセンター長が指名する。

部会構成員 *第9条
部会の構成員は、高等教育推進委員会の委員のうちから部会長の意見を聴いてセンター長が指名する。

教育方法改善部会
①授業評価アンケートの開発、分析及び活用
②学生の学習成果の把握と検証
③その他

FD・SD研修部会
①全学的なFD・SDプログラムの企画、実施
②各学部・研究科のFD・SD活動の支援

高等教育研究部会
①国内外の高等教育の動向調査、発信
②学会、他大学との連携、情報交換

教育開発・改革部会
①教育支援システム活用事例の収集及び課題整理
②学習効果を高めるコミュニケーション機械の創設

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1)　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・・・p. 2
　①　学生の確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 2
　　ア　定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 2
　　イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・・・・p. 3
　　ウ　学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 5
　②　学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 5
(2)　人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 6
　①　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・・p. 6
　②　上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもので
　　あることの客観的な根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 7

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

ア-1　入学定員設定の考え方

・福祉社会デザイン学部　社会福祉学科：入学定員 216 名

改組前の基礎学科（専攻）である社会学部第 1 部社会福祉学科（入学定員 150 名）、ライフデザイン学部生活支援学科生活支援学専攻（入学定員 116 名）の入学定員をベースに、当該学科が展開する福祉制度政策系、福祉社会開発系、福祉臨床系、さらには国家資格の社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士を養成するに十分な教育体制を敷くことを考慮し、基礎学科（専攻）の入学定員の合計（266 名）より 50 名少ない 216 名と設定した。

・福祉社会デザイン学部　子ども支援学科：入学定員 100 名

・福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科：入学定員 160 名

改組前の基礎学科（専攻）であるライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻の入学定員（100 名）、ライフデザイン学部人間環境デザイン学科の入学定員（160 名）をベースに、資格養成体制、実習指導体制等を敷くことを考慮し、それぞれ改組前の基礎学科（専攻）と同数の入学定員とした。

基礎学科（専攻）の近年の一般入試志願状況としては、＜表 1＞の通り入学定員倍率の過去 4 年平均がどの学科も 10 倍超と一定の定員倍率を保っていることから、無理のない定員規模であると考える。

表 1：改組前基礎学科（専攻）の志願状況（2018 年度～2021 年度一般入試）

学部・学科・専攻	**入学定員**	**定員倍率（4年平均）**	2021年度		2020年度		2019年度		2018年度	
			志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率
社会学部第１部 社会福祉学科	**150**	**13.28**	1,994	13.29	1,631	10.87	2,054	13.69	2,288	15.25
ライフデザイン学部 生活支援学科生活支援学専攻	**116**	**10.63**	1,060	9.14	912	7.86	1,632	14.07	1,326	11.43
ライフデザイン学部 生活支援学科子ども支援学専攻	**100**	**10.18**	966	9.66	941	9.41	1,176	11.76	990	9.90
ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科	**160**	**11.63**	1,734	10.84	1,797	11.23	2,186	13.66	1,725	10.78

※志願者数は一般入試の合計。推薦・その他の入試は含まない。

ア-2　定員を充足する見込み

新学部である福祉社会デザイン学部の設置構想にあたり、各学科が目指す教育研究上の目的、養成する人材像に対する大学進学ニーズを把握する目的で、全国の高等学校、中等教育学校（以下、便宜的に「高校」と表現する）のうち、設置初年度に大学進学年度となる高校生、中等教育学校生（以下、便宜的に「高校生」「生徒」と表現する）に対し、進学意向調査を実施した**＜資料 1＞**。首都圏を中心とした

高校 2 年生の回答者 16,736 人のうち、福祉社会デザイン学部（もう一つの新学部である健康スポーツ科学部を含む）を「受験したいと思う」と答えた人数（受験意向者数）は 2,456 人（14.7%）で、さらにその受験意向者 2,456 人のうちで各学科に「入学したい」と答えた人数（入学意向者数）は、以下の結果であった。

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科に入学したい：385 人（15.7%）
福祉社会デザイン学部　子ども支援学科に入学したい：343 人（14.0%）
福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科に入学したい：514 人（20.9%）

リクルート進学総研「18 歳人口予測、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」**＜資料 2＞**によると、2023 年度の 18 歳人口（現在の高校 2 年生）は 109.7 万人と推計されている。そのうちの約 1.5%と限定的な人数である 16,736 人から得た調査回答のみで、各学科の入学定員をそれぞれ超える人数から「受験意向あり」かつ「入学意向あり」という回答結果を得られたことから、福祉社会デザイン学部社会福祉学科、子ども支援学科、人間環境デザイン学科は、それぞれ定員を充足する見込みが十分に立っていると考える。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

上記「ア　定員充足の見込み」に示した調査**＜資料 1＞**の概要は、以下の通りである。

調査対象　：高校 2 年生
調査エリア：福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
調査方法　：高校留置き調査
調査依頼数：29,774 人（132 校）
有効回収数：16,736 人（99 校）　有効回収率 56.2%
調査時期　：2021 年 11 月 1 日（月）～2021 年 12 月 10 日（金）
調査項目　：【属性】性別、高校種別、高校所在地、所属クラス【Q1】卒業後希望進路【Q2】興味のある学問系統【Q3】各学科の特色に対する魅力度【Q4】新学部への受験意向【Q5】各学科への入学意向

本調査は、新学部である福祉社会デザイン学部に対する大学進学ニーズを確認するための調査として設計した。本学の主な学生募集エリアである首都圏に所在する高校のうち、本学への志願実績、入学実績が一定以上ある高校を中心に選定し、高校に協力を得て調査を実施した。回答者性別は「男性」49.5%「女性」49.5%、高校種別は「公立」53.5%「私立」46.5%、高校所在地は「東京都」39.9%「埼玉県」33.3%「千葉県」16.3%「神奈川県」7.1%と続く。所属クラスは「文系クラス」64.8%「理系クラス」17.9%「コース選択はない」11.6%と続く。高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」の割合が 81.4%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が 27.5%、「専門学校・専修学校に進学」が 8.4%と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、本学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。

【Q4】で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答

し、かつ【Q5】で各学科に「入学したい」と回答した人数（＝「入学意向者数」）が、社会福祉学科：385人、子ども支援学科：343 人、人間環境デザイン学科：514 人と、全学科とも入学定員を上回ったことは、前項「ア　定員充足の見込み」で示したが、さらに卒業後進路区分と興味のある学問系統を加味した回答は、以下の通りであった。

・福祉社会デザイン学部　社会福祉学科＜資料 1、P7～8＞

【Q4】で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ【Q5】で「福祉社会デザイン学部社会福祉学科に入学したい」と回答した 385 人のうち、【Q1】卒業後希望進路で四年制大学進学を希望し、さらに【Q2】興味のある学問系統で、社会福祉学科と関連する「社会学・社会福祉学」「生活科学（栄養学除く）」のいずれか一つ以上に「興味がある」と回答した人数（＝【Q1】【Q2】【Q4】【Q5】のクロス集計）は、217 人であり、入学定員の 216 名を上回る回答を得た。

・福祉社会デザイン学部　子ども支援学科＜資料 1、P10～11＞

【Q4】で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ【Q5】で「福祉社会デザイン学部子ども支援学科に入学したい」と回答した 343 人のうち、【Q1】卒業後希望進路で四年制大学進学を希望し、さらに【Q2】興味のある学問系統で、子ども支援学科と関連する「教員養成・教育学・保育学」「生活科学（栄養学除く）」「社会学・社会福祉学」のいずれか一つ以上に「興味がある」と回答した人数（＝【Q1】【Q2】【Q4】【Q5】のクロス集計）は、266 人であり、入学定員の 100 名を上回る回答を得た。

・福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科＜資料 1、P13～14＞

【Q4】で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ【Q5】で「福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科に入学したい」と回答した 514 人のうち、【Q1】卒業後希望進路で四年制大学進学を希望し、さらに【Q2】興味のある学問系統で、人間環境デザイン学科と関連する「生活科学（栄養学除く）」「社会学・社会福祉学」「工学」のいずれか一つ以上に「興味がある」と回答した人数（＝【Q1】【Q2】【Q4】【Q5】のクロス集計）は、237 人であり、入学定員の 160 名を上回る回答を得た。

前出のリクルート進学総研「18 歳人口予測、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」＜資料 2＞によれば、18 歳人口における大学進学率は微増を続け、2020 年度は 51.1％とされており、2020 年度の大学進学者数は約 60 万人（18 歳人口 116.7 万人×大学進学率 51.1％）と推計される。本学の調査における回答者数 16,736 人は、大学進学者数の 3％未満であるが、入学定員を上回る入学意向数を確認することができた。18 歳人口は今後減少基調となり、リクルート進学総研の調査で示される 2032 年（新学科設置の 10 年後）の 18 歳人口は約 102.4 万人である。大学進学率が 50％程度で推移すると仮定すると、2032 年時点における大学入学者数は 50 万人強と現在より減少する見込みではあるが、減少幅が限定的であること、また本学の志願者層において多数を占める南関東地域の 2032 年の 18 歳人口減少率（2020 年度対比）が 94.5％と、全国平均（87.7％）と比べて緩やかであることから、設置年度のみならず長期的に学生確保が可能であると考える。

ウ　学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、改組前の学科の学費をベースに、新学科設置にあたっての諸条件を踏まえて＜表 2＞の通り設定した。

表 2：学生納付金一覧

大学	学部	学科	入学定員	入学金	授業料	施設金	実験実習料	その他	入学時納入金合計	4年間納入金合計	
東洋大学（新学部）	**福祉社会デザイン学部**	**社会福祉学科**	**216**	**250,000**	**830,000**	**240,000**	**40,000**	**0**	**1,360,000**	**4,690,000**	
東洋大学（改組前）	社会学部	社会福祉学科	150	250,000	710,000	220,000	0	25,000	1,205,000	4,070,000	
東洋大学（改組前）	ライフデザイン学部	生活支援学科/生活支援学専攻	116	250,000	830,000	200,000	0	0	1,280,000	4,370,000	
【参考】早稲田大学	人間科学部	健康福祉科学科	200	200,000	1,371,000	0	27,000	0	1,598,000	*5,792,000*	※
【参考】大正大学	社会共生学部	社会福祉学科	65	200,000	1,000,000	250,000	0	0	1,450,000	5,200,000	
【参考】立教大学	コミュニティ福祉学部	福祉学科	154	200,000	1,128,000	0	3,000	0	1,331,000	*4,724,000*	※
東洋大学（新学部）	**福祉社会デザイン学部**	**子ども支援学科**	**100**	**250,000**	**830,000**	**240,000**	**40,000**	**0**	**1,360,000**	**4,690,000**	
東洋大学（改組前）	ライフデザイン学部	生活支援学科/子ども支援学専攻	100	250,000	830,000	200,000	0	0	1,280,000	4,370,000	
【参考】関東学院大学	教育学部	こども発達学科	140	290,000	890,000	250,000	69,000	22,660	1,521,660	5,196,660	
【参考】立正大学	社会福祉学部	子ども教育福祉学科	100	288,000	738,000	218,000	0	75,000	1,319,000	*4,412,000*	※
【参考】國學院大学	人間開発学部	子ども支援学科	100	240,000	800,000	250,000	0	10,000	1,300,000	4,480,000	
東洋大学（新学部）	**福祉社会デザイン学部**	**人間環境デザイン学科**	**160**	**250,000**	**890,000**	**300,000**	**100,000**	**0**	**1,540,000**	**5,410,000**	
東洋大学（改組前）	ライフデザイン学部	人間環境デザイン学科	160	250,000	880,000	260,000	70,000	0	1,460,000	5,090,000	
【参考】法政大学	デザイン工学部	都市環境デザイン工学科	80	240,000	1,172,000	312,000	87,000	0	1,811,000	6,524,000	
【参考】芝浦工業大学	デザイン工学部	デザイン工学科	160	280,000	1,199,000	283,000	0	0	1,762,000	6,408,000	
【参考】日本女子大学	家政学部	住居学科/建築デザイン専攻	55	200,000	900,000	320,000	3,000	1,200	1,424,200	*5,096,800*	※

※：4 年間納入金合計が不明のため、入学金 1 年分、入学金以外 4 年分の合計とした。

本学は 2021 年 4 月に赤羽台キャンパス（東京都北区）に新校舎を建設し、同年 4 月からライフデザイン学部が朝霞キャンパス（埼玉県朝霞市）から赤羽台キャンパスに移転した。ライフデザイン学部等を改組して設置する福祉社会デザイン学部は、2021 年完成の新校舎と 2023 年 4 月に完成予定の新校舎を主に利用して教育研究を展開する。老朽化の進んでいた朝霞キャンパスに対して各種施設設備を大幅に拡充した新校舎であること、また近年建物や設備の償却年数が減少傾向にあることを踏まえ、基礎となる学部学科の学費から見直しを行った。そのほか、他大学の同系統学部学科のうち、立地や学生規模等において条件の近い学部学科を参考にしたうえで新学部の学費を設定した。

②　学生確保に向けた具体的な取組状況

大学全体の学生募集活動について、2020 年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面大規模イベントを原則取り止め、「オープンキャンパス web style」と題して web コンテンツを公開した（当該コンテンツの視聴数：2020 年度約 12 万回）。また、2021 年度は小規模対面広報活動として、大学キャンパスツアーを各キャンパスで実施した（2021 年 7 月～8 月約 2 千人参加）。そのほか、オンライン個別相談を常時受け付けるなど、感染症に留意しながら受験生への情報提供を続けた。なお、2019 年度までは対面による学生募集活動を大規模に実施しており、オープンキャンパス（年間 4 日間開催、約 5 万人参加／2019 年実績）に加え、約 100 講座を高校生に公開する「学び LIVE」（年間 2 日間開催、約 4 千人参加／2019 年実績）、全国で実施する「東洋大学受験バックアップ講座」（年間約 130 回開催、約 3 千

人参加／2019 年実績)、「One Day Campus（全国版オープンキャンパス)」（年間約 10 回開催、約 3 百人参加／2019 年実績）を主催している。

本学主催以外の対面学生募集活動では、高校内での大学説明会、各種会場での進学相談会等に参加している。年間で延べ 1,300 回以上（2019 年実績）参加し、受験生を中心としたステークホルダーとの直接対話機会を設けている。なお、2020 年度以降は、オンライン開催の説明会、相談会（年間合計約 130 回）に参加した。

ウェブによる学生募集活動は、学部学科ごとの体験授業動画やゼミ・研究室体験動画を通じたリアルな学問理解、大学理解の促進に注力している。体験授業動画は、本学専任教員の 8 割に及ぶ人数の模擬授業動画を撮影・公開（641 動画公開／2021 年 4 月現在）しており、学問系統にとどまらず「入学後はこの先生にこの内容を学べる」といった、具体的な学びのイメージを喚起するための材料として、入学後ミスマッチの予防を含めた詳細な情報提供を行っている（年間視聴数：約 50 万回／2020 年実績)。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

①-1　養成する人材像

・福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

社会福祉学を基礎とし、誰もがその人らしく生活できる共生社会実現に貢献すると共に、国内外の様々な課題に対峙できるグローバルな人材を育成する。そして、加速する少子高齢化、グローバル化など、社会経済の構造変化に対応する政策・制度、支援技術や福祉ビジネス等を研究し、国内外の幅広い分野において活躍し、それぞれの分野において指導的立場を担える人材、および新たな事業やサービスを展開できる知性と行動力を担える人材の養成を目指している。

・福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

専門的知識と技術を備えた専門職（保育士・幼稚園教諭・社会福祉士等）養成を柱としながら、より広い視野から国内外のさまざまな現場における施策、あらゆる環境のもとでの子ども支援や子ども福祉の行動計画の策定・実行・評価ができる人材、多文化共生社会の実現に向け、国内外で活躍できる子ども支援のプロフェッショナル人材、多くの機関と連携・協働しながら、社会のさまざまな領域で子どもや子育てを支援する人材、ICT の活用の推進を通じて、現場でリーダーシップを発揮できる人材を養成する。

・福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

建築設計や商品開発・デザインに関する高い技能を有し、社会の要請に応じる都市・建築環境、製品の開発提案が行える人材、デザイン行為を通じて新たなイノベーションを創生し社会をリードする人材を育成する。特に、デザイン提案・商品開発の場面において、ユニバーサルデザインやユーザビリティの視点を備えていることで、独自性および質の高い提案ができる人材、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を発揮しながら、オリジナリティの高い業務展開・貢献が図れる人材、デザイ

ンに関する技能・知識を活かしながら、多領域の人材との連携により、新たなビジネスを創成する起業家の育成に重点を置く。

①-2　その他の教育研究上の目的

・福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

学生に修得させるべき能力等の教育目標として、①個人の尊厳を重視し支援する能力の獲得、②生活問題を発見し、社会化・普遍化する能力の獲得、③社会資源を調整・開発する能力の獲得、④社会福祉の運営に貢献する能力の獲得、⑤権利を擁護する能力の獲得、⑥グローバル化を推進できる能力の獲得を掲げる。福祉社会デザイン学部の他の２学科の教育とも相俟って、自らの専門領域にとどまらず現代社会の諸事象を深く理解し、信念と社会の一員としての自覚をもって行動できる人材を養成する。

・福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

学生に修得させるべき能力等の教育目標として、①子どもと保護者を支援するための専門知識・技術の獲得、②グローバルな視点を持ちながら地域社会で主体的に活動できるリーダーシップの獲得、③多分野の知識を統合し、他者と協働して子ども・家族の課題を解決する力の獲得、④ICT を保育・幼児教育・子ども家庭福祉の質の向上や子育て支援に生かす力の獲得を掲げる。子ども支援学科で養成する人材は、その専門性から、子どものみならず、子育てをしている保護者を支援する力量も必要とされている。そのためには、さらに、社会的に広い知識と、人間への尊敬を基本とする深い思慮が必要であり、それらの育成も目的とする。

・福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

学生に修得させるべき能力等の教育目標として、①一人の人間から社会全体までの広い視野を持ち、デザインの第一線で活躍できる能力の獲得、②デザインの可能性に対して深い理解と造詣を持ち、デザインと社会を繋ぐ役割を担う能力の獲得、③多様な人々の特性を理解・尊重し、さらに豊かな生活の実現にむけて行動できる能力の獲得、④デザインを通じて社会のイノベーションに貢献できる能力の獲得を掲げる。人間環境デザインに関わるあらゆる可能性を探求し、ユニバーサルデザインの考え方を背景として、地域・関連分野の諸施設・他大学等との共同研究を積極的に進めると共に、建築・まちづくり・生活支援機器・住宅改善・プロダクト・インタラクション等に関する教育研究を通して社会に貢献する。また、インターンシップを活用した、より実践的、実務的な教育を進める。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

②-1　社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

福祉社会デザイン学部の設置構想にあたり、学科で養成する人材に対する社会的ニーズを把握する目的で、全国の企業・団体等（以下、便宜的に「企業」「社」と表現する）を対象に人材採用意向調査を実施した**＜資料 3＞**。概要は以下の通り。

調査対象　：企業の採用担当者
調査エリア：関東を中心とした全国各地
調査方法　：web 調査（郵送依頼、web 回答）
調査依頼数：3,000 社
有効回収数：515 社　（回収率 17.2%）
調査時期　：2021 年 10 月 29 日（金）～2021 年 11 月 26 日（金）
調査項目　：【Q1】人事採用関与度【Q2】本社所在地【Q3】業種【Q4】従業員数【Q5】採用数【Q6】採用予定数【Q7】採用したい学問分野【Q8】各学科の魅力【Q9】各学科の社会的必要性【Q10】各学科卒業生の採用意向【Q11】各学科卒業生の採用想定人数
※Q12～15 は、大学院新研究科設置に関する採用意向設問

回答企業の本社所在地は、東京都 45.4%、埼玉県 12.2%、神奈川県 11.5%、茨城県 5.4%、長野県 4.9%、千葉県 4.3%、群馬県 4.1%と続く。回答企業の業種は、医療・福祉 31.7%、卸売・小売業 10.9%、サービス業 10.3%、建設業 10.1%、製造業 8.2%、食品関連業 7.0%、スポーツ関連企業 3.9%、学校・教育機関 3.1%と続く。

回答企業の採用したい学問分野（【Q7】）を複数回答で聴取したところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が 39.0%と最も多かったが、一方で福祉社会デザイン学部の学びと関連する分野としては、「社会学・社会福祉学」が 29.5%、「生活科学（栄養学除く）」が 8.9%、「教員養成・教育学・保育学」が 17.3%、「工学」が 18.3%と、一定の採用意向が認められた。学科ごとの人材需要に対する回答は、以下の通りであった。

・福祉社会デザイン学部　社会福祉学科**＜資料 3、P8～9＞**
学科の社会的必要性（【Q9】）については、96.7%（498 社）が社会福祉学科を「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学科であると評価されていることがうかがえる。また、採用意向（【Q10】）、採用想定人数（【Q11】）については、社会福祉学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業が 71.7%（369 社）あり、毎年度の採用想定人数の合計は 800 名で、入学定員数 216 名を大きく上回っている。また、採用したい学問分野（【Q7】）で、学科の学びに関連のある「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を「採用したい」と回答した企業からの採用意向（＝【Q7】【Q10】、【Q7】【Q11】のクロス集計）は、141 企業・採用想定人数 374 人であり、入学定員を上回っている。このことから、社会福祉学科には安定した人材需要があり、学科の人材養成目的・教育研究上の目的が社会的な人材需要の動向を踏まえたものであると言える。

・福祉社会デザイン学部　子ども支援学科**＜資料 3、P11～13＞**
学科の社会的必要性（【Q9】）については、96.3%（496 社）が子ども支援学科を「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学科であると評価されていることがうかがえる。また、採用意向（【Q10】）、採用想定人数（【Q11】）については、子ども支援学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業が 70.7%（364 社）あり、毎年度の採用想定人数の合計は 747 名で、入学定員数 100 名を大きく上回っている。また、採用したい学問分野（【Q7】）で、学科の学びに関連のある

「教員養成・教育学・保育学」を学んだ学生を「採用したい」と回答した企業からの採用意向（＝【Q7】【Q10】、【Q7】【Q11】のクロス集計）は、83 企業・採用想定人数 235 人であり、入学定員を上回っている。このことから、子ども支援学科には安定した人材需要があり、学科の人材養成目的・教育研究上の目的が社会的な人材需要の動向を踏まえたものであると言える。

・福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科＜資料 3、P15～16＞

学科の社会的必要性（【Q9】）については、90.5%（466 社）が人間環境デザイン学科を「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学科であると評価されていることがうかがえる。また、採用意向（【Q10】）、採用想定人数（【Q11】）については、人間環境デザイン学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業が 72.0%（371 社）あり、毎年度の採用想定人数の合計は 641 名で、入学定員数 160 名を大きく上回っている。また、採用したい学問分野（【Q7】）で、学科の学びに関連のある「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を「採用したい」と回答した企業からの採用意向（＝【Q7】【Q10】、【Q7】【Q11】のクロス集計）は、110 企業・採用想定人数 201 人であり、入学定員を上回っている。このことから、人間環境デザイン学科には安定した人材需要があり、学科の人材養成目的・教育研究上の目的が社会的な人材需要の動向を踏まえたものであると言える。

②-2　地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

・福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

社会福祉法人全国社会福祉協議会中央福祉人材センター「令和 2 年度 福祉分野の求人求職動向」＜資料 4＞によると、福祉分野の人材が特に首都圏で多く求められていることがわかる。当報告書は全国社会福祉協議会中央福祉人材センターの人材紹介事業における求人求職動向であり、当データにおける「福祉分野」とは、介護職、介護補助、相談・支援・指導員、介護支援専門員、ホームヘルパー、保育士、保育補助、社会福祉協議会専門員、セラピスト、看護職、事務職、栄養士、調理員、管理職、サービス提供責任者等である。都道府県別求人求職状況によると、令和 2 年度の新規求人数は、1 都 3 県計 58,947 件（東京都 18,189 件、埼玉県 15,204 件、千葉県 6,102 件、神奈川県 19,452 件）であり、全国合計 263,430 件のうち多くを占め、首都圏での人材需要の多さが確認できる。また、厚生労働省「社会福祉施設等調査」（令和 2 年度）＜資料 5＞によると、福祉関係施設が年々増加しており、かつ首都圏に多く存在することがわかる。当調査の「福祉施設」とは、保護施設、老人福祉施設、障害者支援施設、身体障害者社会参加支援施設、婦人保護施設、児童福祉施設、母子・父子福祉施設等である。「表 1　施設の種類、年次別施設数（基本票）」によると、平成 25 年の施設総数が 58,613 施設に対し、令和 2 年は 80,723 施設と、この間で約 38%増となっている。また、「第 1 表（基本票）社会福祉施設等数，国－都道府県、施設の種類・経営主体の公営－私営別」によると、令和 2 年度の都道府県別社会福祉施設は、1 都 3 県計 19,539 施設（東京都 7,363 施設、埼玉県 3,824 施設、千葉県 3,556 施設、神奈川県 4,796 施設）であり、全国合計 80,723 施設のうち多くを占め、首都圏での需要の多さが確認できる。社会福祉学科は、新たな事業やサービスを展開できる力の養成などを掲げており、既存の福祉分野にとどまらず幅広い進路が考えられるが、現状の福祉分野の求人や施設の動向を鑑みると、東京都に設置する社会福祉学科は地域的な人材需要の動向を踏まえたものであると考える。

・福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

厚生労働省「地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会（第１回）」（2021 年 5 月 26 日）にて示された「保育を取り巻く状況について」＜**資料 6**＞によると、少子化が進む今後の社会においても保育人材の数が求められることが示されている。女性就業率（25～44 歳）と保育所等の利用率の推移で示される通り、女性の就業率の上昇に伴い、1・2 歳児保育利用率も年々上昇傾向にあり、2019 年度の保育所利用率は 48.1％と、10 年前の 2009 年頃と比べて 2 倍近い急速な増加である。これに応えるように、保育所等定員数も近年急拡大を続けている。今後については、0-5 歳人口が 2020 年度約 573 万、2030 年度約 502 万人（出生数中位推計）と減少見込みであることに対し、保育所利用児童数は 2020 年度 270 万人強、2030 年度 300 万人弱（予測）と、微増が予測されている。また地域別の状況としては、厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ（令和 3 年 4 月 1 日）」の全国待機児童マップ（都道府県別）＜**資料 7**＞によると、都市部の人口集中地域に待機児童が多いことが分かる。待機児童数は近年減少傾向だが、地域別には本学が新学科を設置する東京都を含む 1 都 3 県の待機児童数は多い。少子化が進む今後も保育所利用児童数が微増予測であること、また首都圏の人口減少ペースは緩やかであることから、子ども支援学科の設置は地域的な人材需要の動向を踏まえたものであると考える。

・福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

経済産業省「平成 30 年特定サービス産業実態調査報告書　デザイン業，機械設計業編」＜**資料 8**＞によると、デザイン、設計関係の人材需要が特に首都圏で多いことがうかがえる。デザイン、設計関係の事業所数は、1 都 3 県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）計で 3,185 であり、全国計 7,289 の約 44％を占める。また、デザイン業務の事業従事者数は、1 都 3 県計で 15,123 人であり、全国計 30,346 人の約 50％を占める。さらに、デザイン業務（主業）としての年間売上高は、1 都 3 県計で 173,419 百万円であり、全国計 310,366 百万円の約 56％を占める。内閣府「県民経済計算」の 2018 年度県内総生産（名目）＜**資料 9**＞によると、国内総生産に占める 1 都 3 県の県内総生産合計は約 33％であり、単純比較はできないが、デザイン業の年間売上高は全国合計のうち約 56％が 1 都 3 県であることを考えると、デザイン関係業種は全産業と比較して相対的に人材需要に占める首都圏事業所率が高いと推察される。人間環境デザイン学科は、ユニバーサルデザインやユーザビリティの視点といった、福祉分野で特に必要とされるデザイン能力の養成を目的の一つとしており、必ずしもデザイン業界全体の動向と完全に進路が一致するわけではないが、デザイン、設計分野の人材需要に占める首都圏の割合が多いことから、東京都に設置する人間環境デザイン学科は地域的な人材需要の動向を踏まえたものであると考える。

学生の確保の見通し等を記載した書類
資料目次

資料１　東洋大学「福祉社会デザイン学部」健康スポーツ科学部」（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】
資料２　リクルート進学総研「18 歳人口予測、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」
資料３　東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、健康スポーツ科学研究科栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【企業対象調査】
資料４　社会福祉法人全国社会福祉協議会「令和 2 年度 福祉分野の求人求職動向」（抜粋版）
資料５　厚生労働省「社会福祉施設等調査（令和 2 年度）」（抜粋版）
資料６　厚生労働省「保育を取り巻く状況について」（抜粋版）
資料７　厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ（令和３年４月１日）」（抜粋版）
資料８　経済産業省「平成 30 年特定サービス産業実態調査報告書　デザイン業，機械設計業編」（抜粋版）
資料９　内閣府「県民経済計算（H18）県内総生産（生産側、名目）」

東洋大学
「福祉社会デザイン学部」
「健康スポーツ科学部」（仮称）
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和4年1月

株式会社　進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

高校生対象　調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数（依頼校数）	29,774人（132校）
	有効回収数（回収校数）	16,736人（99校） 有効回収率：56.2%
調査時期		2021年11月1日（月）～2021年12月10日（金）
調査実施機関		株式会社　進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問系統 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」への受験意向 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」各学科への入学意向

高校生対象　調査結果まとめ

高校生対象　調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、東洋大学の「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」に対する需要を確認するための調査として設計。東洋大学の主な学生募集エリアである、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、16,736人から回答を得た。

- 回答者の性別は、「男性」が49.5%、「女性」が49.5%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が53.5%、「私立」が46.5%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、東洋大学の所在地である「東京都」が39.9%を占め、最も多い。次に「埼玉県」が33.3%、「千葉県」が16.3%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス（文系コース）」が64.8%で最も多い。次いで「理系クラス（理系コース）」が17.9%、「コース選択はない」が11.6%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」の割合が81.4%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が27.5%、「専門学校・専修学校に進学」が8.4%と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、東洋大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「文学（心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む）」が28.9%で最も高い。次いで「経済・経営・商学」が27.4%、「法学（政治学など含む）」が15.2%と続く。

高校生対象　調査結果まとめ

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度（※）は、以下のとおり。
- 「A.【福祉社会デザイン学部　社会福祉学科】『社会福祉政策系』『福祉社会開発系』『福祉臨床系』の3コースで、理論から実践まで幅広く学び、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格を、希望に応じて複数取得できる学びを展開」の魅力度は55.2％である。
- 「B.【福祉社会デザイン学部　子ども支援学科】保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学を統合した子ども支援学を追究し、多文化共生やICT活用など現代的なテーマを学ぶとともに、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士(受験資格)を取得できる学びを展開」の魅力度は58.8％である。
- 「C.【福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科】『空間デザイン』『生活環境デザイン』『プロダクトデザイン』の3分野で、建築、福祉住環境計画、都市計画から個々の製品や情報とその活用まで、人間中心設計の視点で幅広い『デザイン』の概念・手法を学ぶ」の魅力度は62.2％である。
- 「D.【健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科】アスリート支援や競技パフォーマンス向上等のスポーツ科学から、生理・生化学、運動生理学等の身体理解、さらに教育、文化、ビジネスまで、健康・スポーツのあらゆる分野から選べる幅広い学び」の魅力度は58.5％である。
- 「E.【健康スポーツ科学部　栄養科学科】栄養学、食品機能、スポーツ栄養など、食と栄養に係わる分野を幅広く扱うとともに、栄養士など資格関連科目を充実させ、さらに健康関連企業との連携により栄養科学、栄養管理のスペシャリストを育成」の魅力度は59.7％である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象　調査結果まとめ

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」への受験意向・入学意向

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」を「受験したいと思う」と答えた人は、14.7％（16,736人中、**2,456人**）である。
- 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」を「受験したいと思う」と答えた2,456人のうち、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」各学科への入学意向は以下のとおり。

福祉社会デザイン学部　社会福祉学科　：　15.7％（**385人**）
福祉社会デザイン学部　子ども支援学科　：　14.0％（**343人**）
福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科　：　20.9％（**514人**）
健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科　：　31.3％（**768人**）
健康スポーツ科学部　栄養科学科　：　13.1％（**321人**）

①福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

高校生対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」への入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は2.3％（**385人**）で、予定されている入学定員216人を上回る入学意向者がみられた。

＜属性別＞

◇性別

- 「女性」の入学意向は2.8％（8,280人中、**228人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「文系クラス（文系コース）」に所属している回答者の入学意向は2.8％（10,848人中、**301人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は2.5％（13,630人中、**342人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は2.4％（15,717人中、**370人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値

◇興味のある学問系統別

- 「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の学びと関連する「社会学・社会福祉学」に興味がある回答者の入学意向は10.0％（2,167人中、**216人**）と、予定している入学定員数と同数の入学意向者がみられた。

高校生対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の学びと関連する「社会学・社会福祉学」「生活科学（栄養学除く）」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は9.5%（2,281人中、**217人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の特色Aに魅力を感じている回答者の入学意向は、4.1%（9,236人中、**381人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

②福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

高校生対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」への入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は2.0％（**343人**）で、予定されている入学定員100人を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

＜属性別＞

◇性別

- 「女性」の入学意向は3.4％（8,280人中、**285人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 「埼玉県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は2.2％（5,566人中、**125人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。新設学部・学科の設置予定所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は2.1％（6,673人中、**138人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「文系クラス（文系コース）」に所属している回答者の入学意向は2.5％（10,848人中、**276人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は2.2％（13,630人中、**306人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は2.1％（15,717人中、**324人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値

高校生対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

◇興味のある学問系統別

- 「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の学びと関連する「教員養成・教育学・保育学」に興味がある回答者の入学意向は9.7％（2,478人中、**241人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、直接関連する分野以外では、「文学（心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む）」に興味がある回答者の入学意向は2.1％（4,843人中、**104人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の学びと関連する「教員養成・教育学・保育学」「生活科学（栄養学除く）」「社会学・社会福祉学」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は6.2％（4,303人中、**266人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の特色Bに魅力を感じている回答者の入学意向は、3.4％（9,833人中、**339人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

③福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

高校生対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」への入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は3.1％（**514人**）で、予定されている入学定員160人を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

＜属性別＞

◇性別

- 「男性」の入学意向は2.7％（8,290人中、**227人**）、「女性」の入学意向は3.4％（8,280人中、**283人**）と、ともに予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 「埼玉県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は3.1％（5,566人中、**170人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。新設学部・学科の設置予定所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は3.4％（6,673人中、**226人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「文系クラス（文系コース）」に所属している回答者の入学意向は3.1％（10,848人中、**337人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は3.4％（13,630人中、**464人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は3.2％（15,717人中、**496人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値

高校生対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

◇興味のある学問系統別

- 学科の学びと直接関連する分野ではないが、「経済・経営・商学」に興味がある回答者の入学意向は3.8％（4,589人中、**175人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。「文学（心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む）」に興味がある回答者の入学意向は4.2％（4,843人中、**204人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。「芸術学（美術・デザイン、音楽など含む）」に興味がある回答者の入学意向は8.5％（1,888人中、**160人**）と、予定している入学定員数と同数の入学意向者がみられた。

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の学びと関連する「生活科学（栄養学除く）」「社会学・社会福祉学」「工学」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は6.1％（3,854人中、**237人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の特色Cに魅力を感じている回答者の入学意向は、4.9％（10,404人中、**511人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

④健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科

高校生対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科

東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」への入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は4.6％（**768人**）で、予定されている入学定員230人を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

＜属性別＞

◇性別

- 「男性」の入学意向は6.8％（8,290人中、**560人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 「埼玉県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は4.7％（5,566人中、**264人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。新設学部・学科の設置予定所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は4.8％（6,673人中、**322人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「文系クラス（文系コース）」に所属している回答者の入学意向は5.4％（10,848人中、**591人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は5.2％（13,630人中、**708人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は4.7％（15,717人中、**741人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値

高校生対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科

◇興味のある学問系統別

- 「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の学びと関連する「スポーツ学」に興味がある回答者の入学意向は32.1％（1,891人中、**607人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、直接関連する分野以外では、「経済・経営・商学」に興味がある回答者の入学意向は5.1％（4,589人中、**236人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の学びと関連する「スポーツ学」「看護・保健学」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は22.4％（2,725人中、**611人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の特色Dに魅力を感じている回答者の入学意向は、7.8％（9,797人中、**760人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

⑤健康スポーツ科学部　栄養科学科

高校生対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学部　栄養科学科

東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」への入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「健康スポーツ科学部　栄養科学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は1.9%（**321人**）で、予定されている入学定員100人を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

＜属性別＞

◇性別

- 「男性」の入学意向は1.4%（8,290人中、**113人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。「女性」の入学意向は2.5%（8,280人中、**206人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 「埼玉県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は2.2%（5,566人中、**125人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。新設学部・学科の設置予定所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は1.8%（6,673人中、**120人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「文系クラス（文系コース）」に所属している回答者の入学意向は1.9%（10,848人中、**203人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は2.2%（13,630人中、**294人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は2.0%（15,717人中、**311人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値

高校生対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学部　栄養科学科

◇興味のある学問系統別

- 「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の学びと関連する「栄養学（スポーツ栄養学含む）」に興味がある回答者の入学意向は18.4％（1,058人中、**195人**）と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の学びと関連する「栄養学（スポーツ栄養学含む）」「理学」「看護・保健学」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は6.3％（3,334人中、**210人**）と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

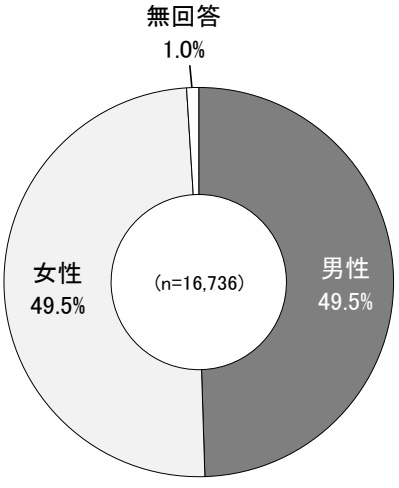
◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の特色Eに魅力を感じている回答者の入学意向は、3.1％（9,996人中、**314人**）と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

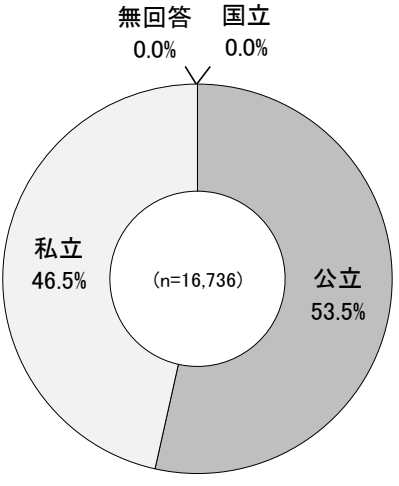
高校生対象　調査結果

回答者の属性（性別／高校種別／高校所在地／所属クラス）

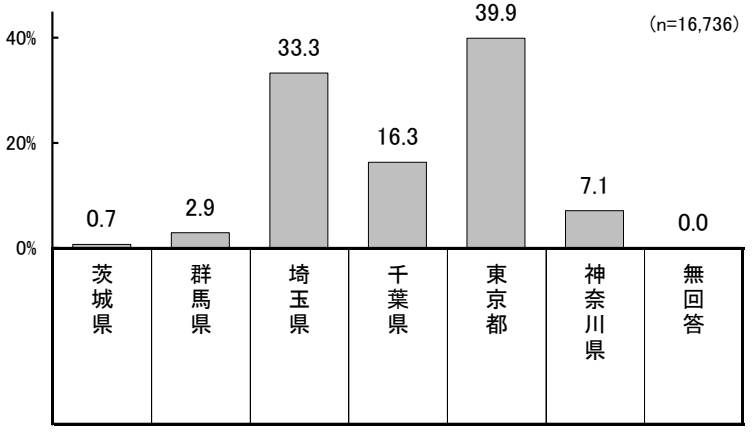
■性別



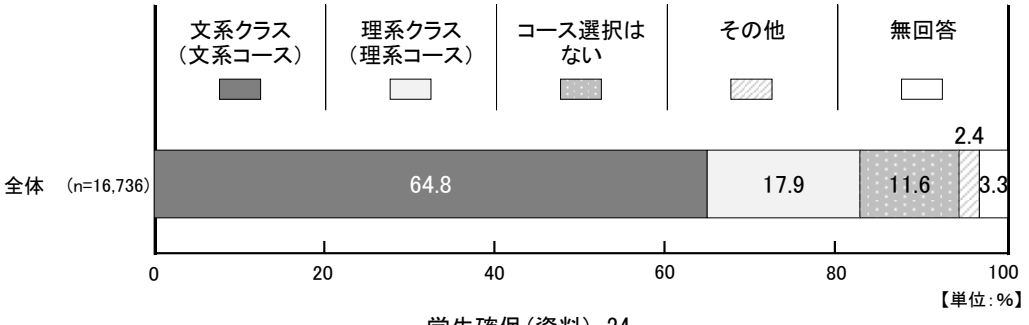
■高校種別



■高校所在地



■所属クラス

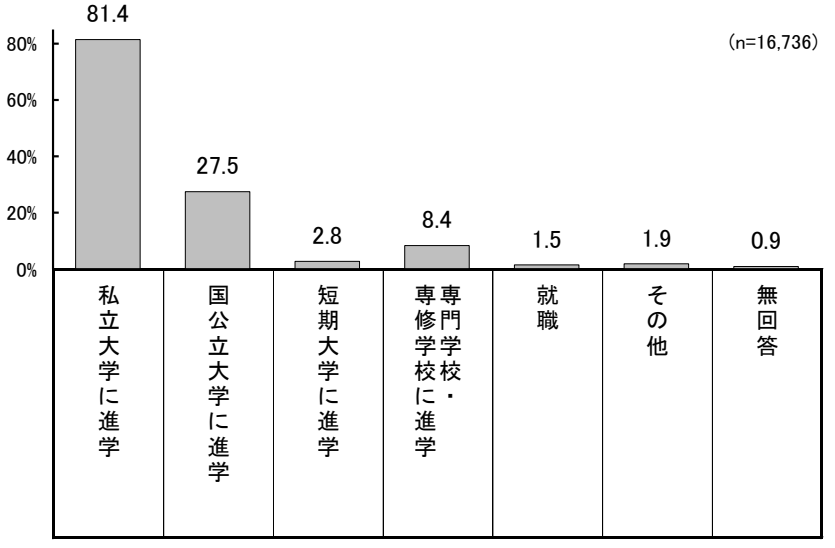


【単位：%】

高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

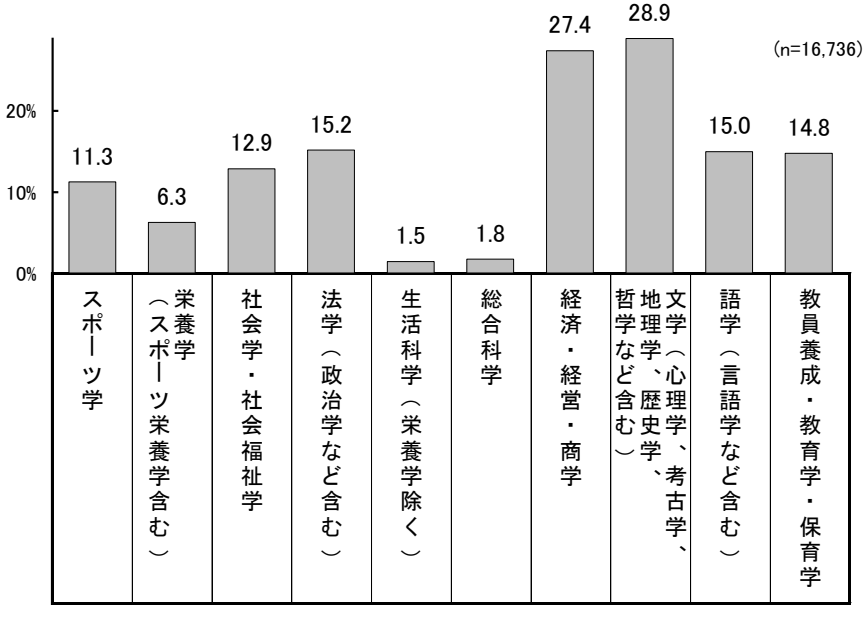
Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目から、あてはまるもの<u>すべてに○</u>をつけてください。(いくつでも)

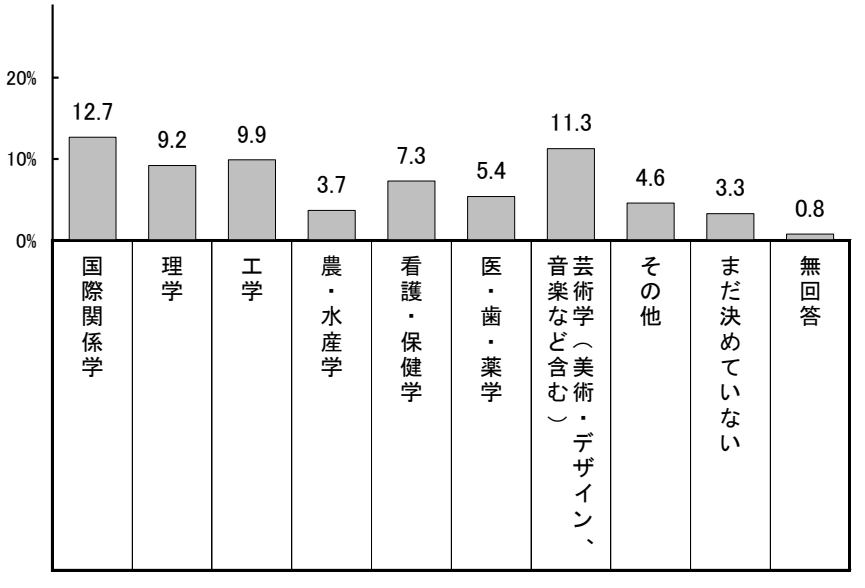


興味のある学問系統

■興味のある学問系統

Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統すべてにOをつけてください。
（いくつでも）（現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。）

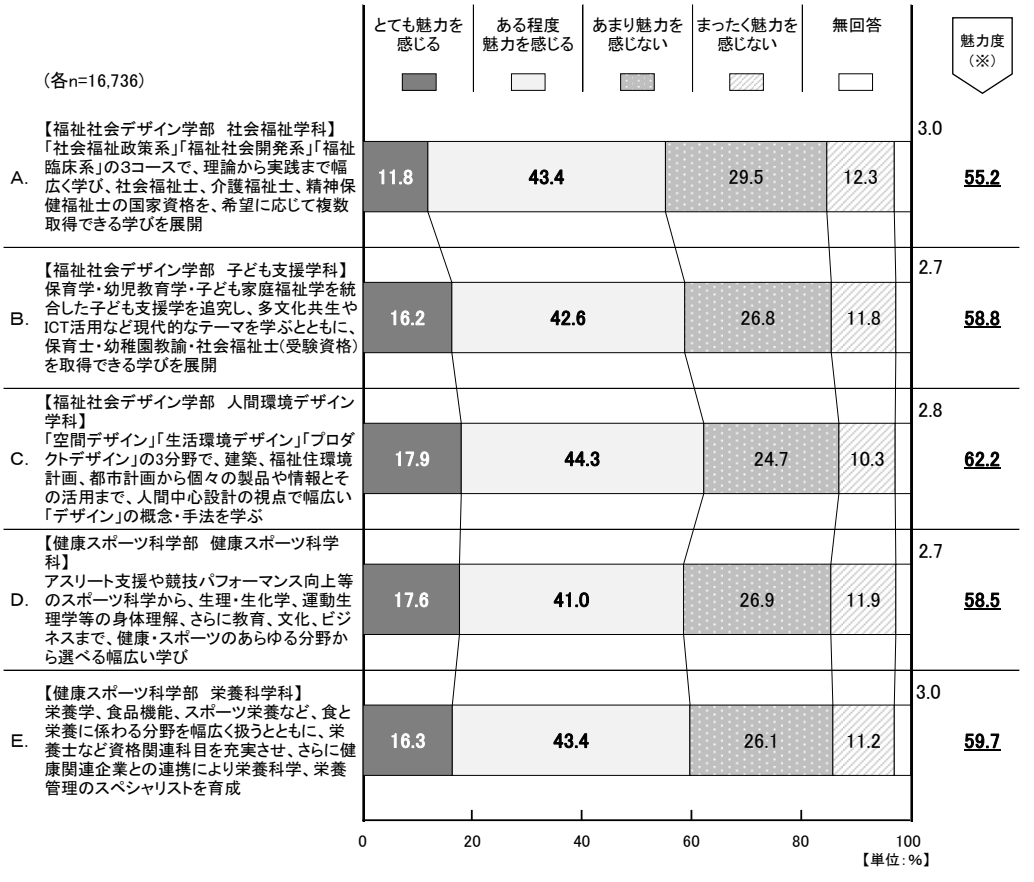




東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

Q3. 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）



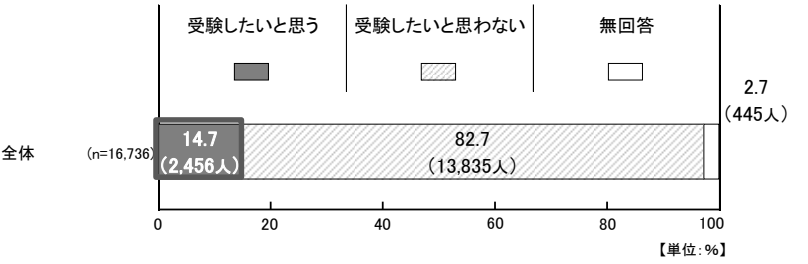
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」への受験意向／入学意向／受験意向別入学意向

■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」への受験意向

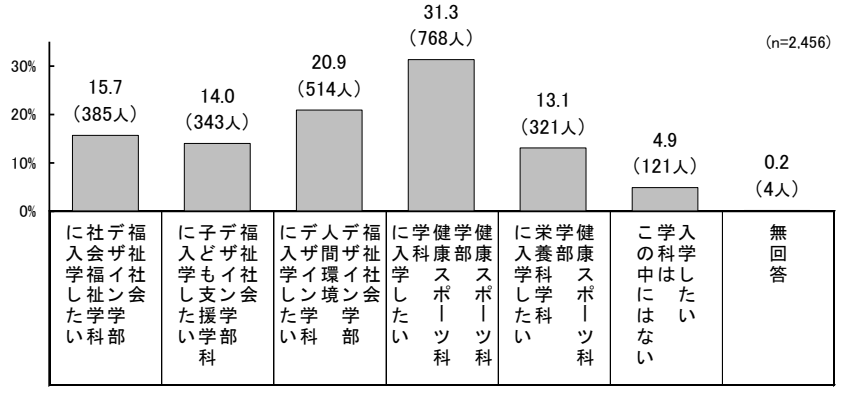
Q4. あなたは、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）のいずれかを受験したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つに○をつけてください。（1つだけ）



「受験したいと思う」と答えた2,456人のみ抽出

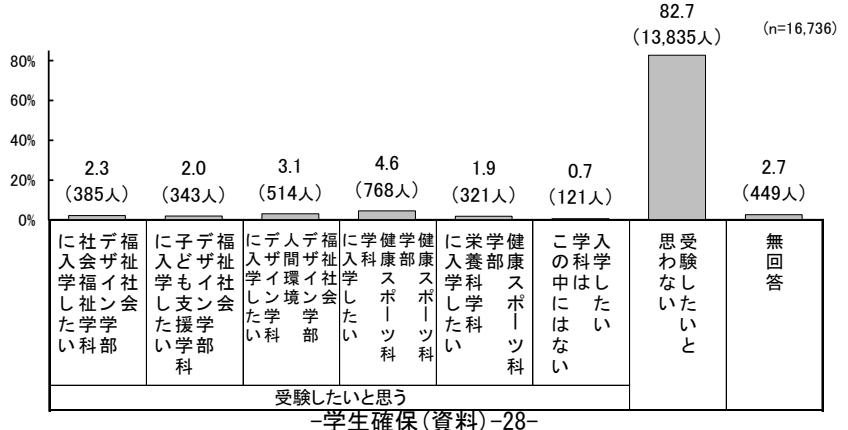
■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」各学科への入学意向

Q5. あなたは、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いもの1つに○をつけてください。（1つだけ）



「受験意向（Q4）」と「入学意向（Q5）」をかけあわせて集計（母数は全回答者）

■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」各学科への受験意向別入学意向

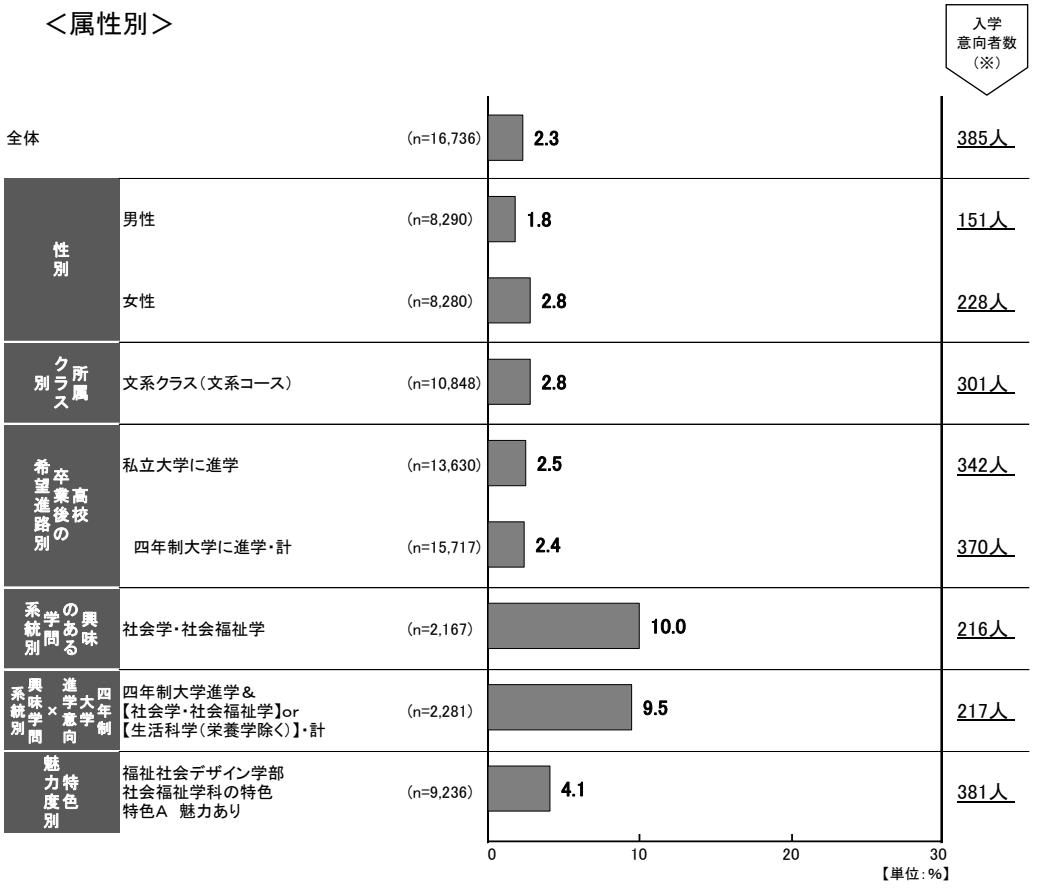


東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の入学意向者と定義する。

＜属性別＞



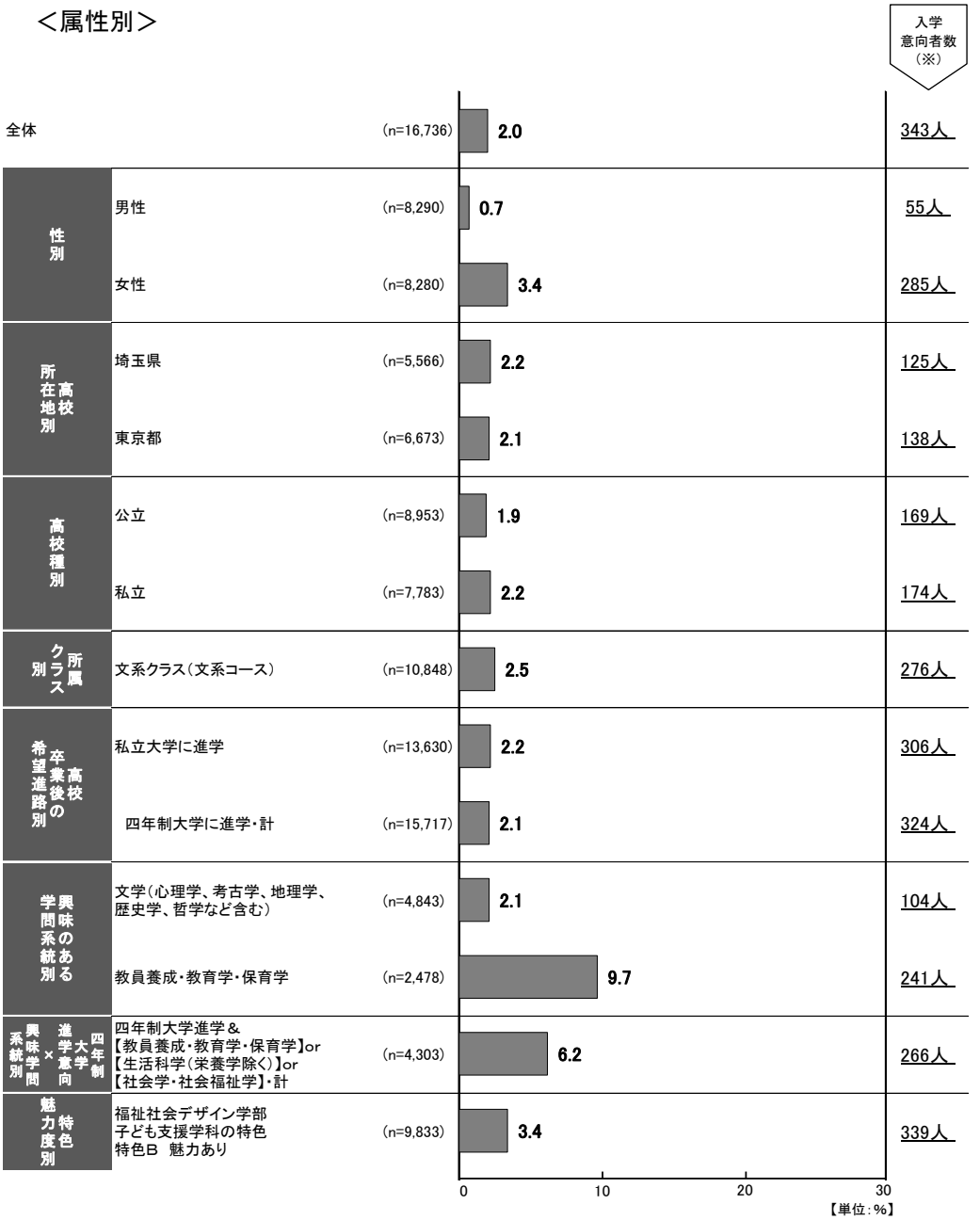
※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科に入学したい」と回答した人の人数

東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の入学意向者と定義する。

＜属性別＞



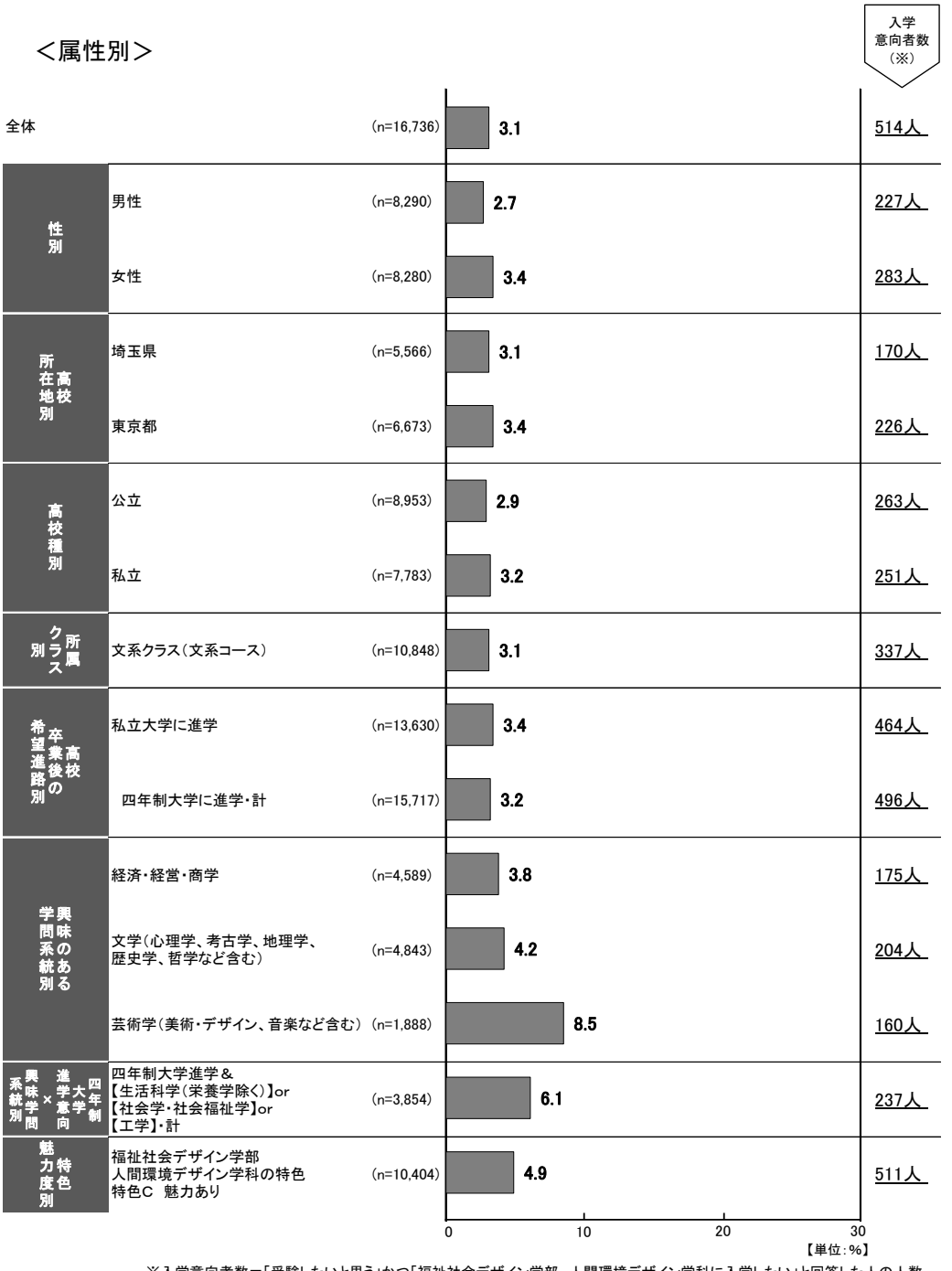
※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科に入学したい」と回答した人の人数

東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の入学意向者と定義する。

＜属性別＞



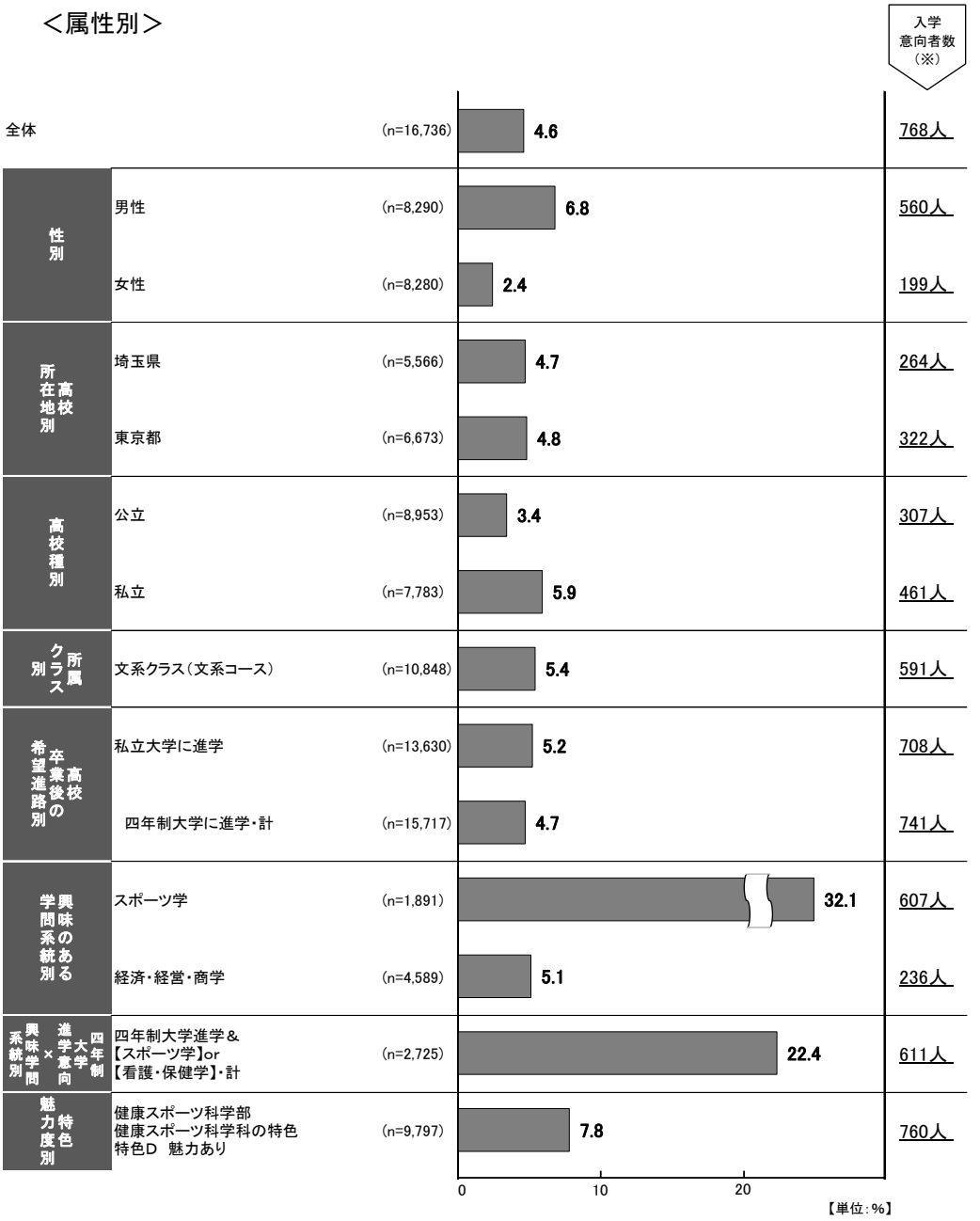
※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科に入学したい」と回答した人の人数

東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

■東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の入学意向者と定義する。

＜属性別＞



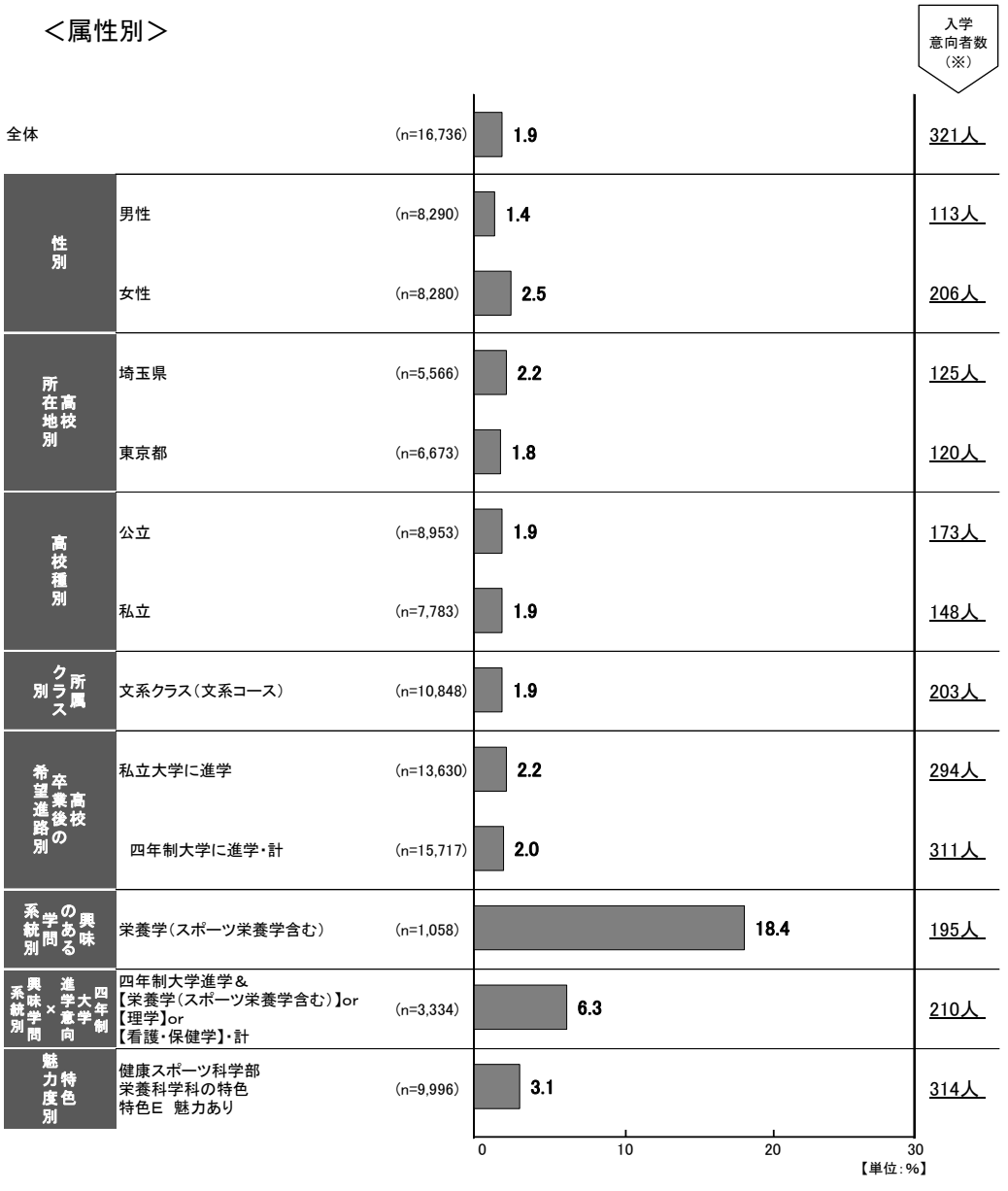
※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科に入学したい」と回答した人の人数

東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

■東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」への受験意向別入学意向＜属性別＞

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「健康スポーツ科学部　栄養科学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の入学意向者と定義する。

＜属性別＞



※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「健康スポーツ科学部　栄養科学科に入学したい」と回答した人の人数

巻末資料　調査票

調査票

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）に関するアンケート

東洋大学では2023年（令和5年）4月より、「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称）を新設することを構想しています。
このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、東洋大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。
このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。
つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ **このアンケートや同封した資料に記載されている「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。**

記入要領

1．回答は、**あてはまる項目の□枠に○**をつけてください。
2．この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
3．記入は、必ず**鉛筆又はシャープペンシル**で濃く書いてください。
4．質問により、１つだけ答えるものと、複数答えるものがあります。
5．下記の**【良い記入例】**にしたがって記入してください。

ここに○印をつけてください　☑ スポーツ学

ID 55　□□□　この欄には記入しないでください

良い記入例		悪い記入例				
☑ スポーツ学	☐ スポーツ学	☐ スポーツ学	☐ スポーツ学	☑ スポーツ学	☑ スポーツ学
☐ 栄養学	☐ 栄養学	☐ 栄養学	☐ 栄養学	☐ 栄養学	☐ 栄養学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別（1つだけ）	☐ 男性　☐ 女性	学年	☐ 1年生　☐ 2年生　☐ 3年生
在籍している高校名	高校所在地［　　］都・道・府・県 ☐ 国立　☐ 公立　☐ 私立（←1つだけ）　［　　］高等学校		
所属クラス（1つだけ）	☐ 文系クラス（文系コース）　☐ コース選択はない ☐ 理系クラス（理系コース）　☐ その他		

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1．あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまるものすべてに○をつけてください。（いくつでも）

☐ 私立大学に進学　☐ 短期大学に進学　☐ 就職
☐ 国公立大学に進学　☐ 専門学校・専修学校に進学　☐ その他

Q2．あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統すべてに○をつけてください。（いくつでも）
（現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。）

☐ スポーツ学　☐ 文学（心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む）　☐ 農・水産学
☐ 栄養学（スポーツ栄養学含む）　☐ 看護・保健学
☐ 社会学・社会福祉学　☐ 語学（言語学など含む）　☐ 医・歯・薬学
☐ 法学（政治学など含む）　☐ 教員養成・教育学・保育学　☐ 芸術学（美術・デザイン、音楽など含む）
☐ 生活科学（栄養学除く）　☐ 国際関係学　☐ その他
☐ 総合科学　☐ 理学　☐ まだ決めていない
☐ 経済・経営・商学　☐ 工学

調査票

ID 56

◆東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）についてお聞きします。

東洋大学では、現在高校２年生のみなさんが大学生となる2023年（令和５年）４月に、
新しく「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称）を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3. 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。
それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

				とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
		例. ○○である。	→	□	◎	□	□
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	A. 「社会福祉政策系」「福祉社会開発系」「福祉臨床系」の3コースで、理論から実践まで幅広く学び、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格を、希望に応じて複数取得できる学びを展開	→	□	□	□	□
	子ども支援学科	B. 保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学を統合した子ども支援学を追究し、多文化共生やICT活用など現代的なテーマを学ぶとともに、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士(受験資格)を取得できる学びを展開	→	□	□	□	□
	人間環境デザイン学科	C. 「空間デザイン」「生活環境デザイン」「プロダクトデザイン」の3分野で、建築、福祉住環境計画、都市計画から個々の製品や情報とその活用まで、人間中心設計の視点で幅広い「デザイン」の概念・手法を学ぶ	→	□	□	□	□
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	D. アスリート支援や競技パフォーマンス向上等のスポーツ科学から、生理・生化学、運動生理学等の身体理解、さらに教育、文化、ビジネスまで、健康・スポーツのあらゆる分野から選べる幅広い学び	→	□	□	□	□
	栄養科学科	E. 栄養学、食品機能、スポーツ栄養など、食と栄養に係わる分野を幅広く扱うとともに、栄養士など資格関連科目を充実させ、さらに健康関連企業との連携により栄養科学、栄養管理のスペシャリストを育成	→	□	□	□	□

Q4. あなたは、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）のいずれかを受験したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つに○をつけてください。（1つだけ）

□ 受験したいと思う　　□ 受験したいと思わない

Q5. あなたは、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いもの1つに○をつけてください。（1つだけ）

□ 福祉社会デザイン学部 社会福祉学科に入学したい
□ 福祉社会デザイン学部 子ども支援学科に入学したい
□ 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科に入学したい
□ 健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科に入学したい
□ 健康スポーツ科学部 栄養科学科に入学したい
□ 入学したい学科はこの中にはない

＊＊＊質問は以上です。ご協力ありがとうございました。＊＊＊

18歳人口予測
大学・短期大学・専門学校進学率
地元残留率の動向

【将来予測　2011～2032年】

▶18歳人口予測　P3～P8

・2020年116.7万人→2032年102.4万人（14.3万人減少）
・東北の減少率が高く、6県中5県で減少率20%以上
・2020年減少率が高いのは東北（78.3%）、減少数が大きいのは近畿（29,398人減）

【経過推移　2011年～2020年】

▶進学率(現役・過年度含)の推移　P9～P15

大学進学率(現役)
・2011年47.7%→2020年51.1%（3.4ポイント上昇）
・上昇率が高いのは、1位 北海道（124.0）、2位 東北（110.4）、3位 四国（108.1）。※
・進学率が高いのは、南関東、東海、近畿の三大都市圏

短期大学進学率(現役)
・ 2011年5.8%→2020年4.2%（1.6ポイント低下）。
・低下率が高いのは、1位 南関東（65.2）、2位 中国 （66.7）、3位 東海（70.0）※
・進学率が高いのは、東北、甲信越、北陸

専門学校進学率(現役)
・2011年16.2%→2020年16.8%（0.6ポイント上昇）
・上昇率が高いのは、1位 南関東（115.0）、2位 近畿（107.1）、3位 北関東（105.8）※
・進学率が高いのは、甲信越、北海道、九州沖縄

都道府県別進学率(現役・2020年)
・大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は鳥取・大分、専門学校進学率1位は沖縄

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・ 2011～2020年）
・2020年現役と過年度含の進学率の差は、大学は3.3ポイント（過年度含が高い）
短期大学は差なし。

注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数

▶地元残留率の推移　P16～P24

・大学入学者の地元残留率は、2011年43.2%→2020年44.1%（0.9ポイント上昇）
・短期大学入学者の地元残留率は、2011年67.4%→2020年69.9%（2.5ポイント上昇）
・大学入学者の地元残留率1位は愛知（71.1%）
・短期大学入学者の地元残留率1位は福岡（92.7%）

▶18歳人口減少率×地元残留率　P25・26

・大学入学者：都道府県別：2020→2032年
・短期大学入学者：都道府県別：2020→2032年

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ　リクルート進学総研
http://souken.shingakunet.com/

分析・データついて

■分析・データについて
データ元：文部科学省「学校基本調査」

① 18歳人口概算は、文部科学省「学校基本調査」より、以下のとおり定義して算出した。
- 18歳人口＝3年前の中学校卒業者および中等教育学校前期課程修了者数
- 中学校卒業者数＝高校生＋フリーター＋就職者　すべて含む

② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とした際の値を示す。
④ 進学率（現役）とは、進学者数(大学・短大・専修学校専門課程(専門学校）)÷高等学校卒業者数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)で算出した。
⑤ 残留率とは、自県内(地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合。（浪人含）
⑥ 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。
⑦ エリア別分析における各エリアに含まれる都道府県については以下のとおり。

北海道　：北海道
東北　　：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北関東　：茨城、栃木、群馬
南関東　：埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越　：新潟、山梨、長野
北陸　　：富山、石川、福井
東海　　：岐阜、静岡、愛知、三重
近畿　　：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国　　：鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国　　：徳島、香川、愛媛、高知
九州沖縄：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

【年早見表】

学校基本調査		18歳人口		2020年4月現在高3	3年前の中学・中等教育卒業者
		図表（年）	人数		
確報	学校基本調査公表	2020	1,167,348	2019	（平成29年）2017年　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数
確報	進学総研集計（予測）	2021	1,141,140	2020	（平成30年）2018年　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数
確報	進学総研集計（予測）	2022	1,121,285	2021	（平成31年）2019年　の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数
速報	進学総研集計（予測）	2023	1,097,416	2022	（令和2年）2020年　の中学校3年生+中等教育学校前期課程修了者（全国計のみ）+義務教育学校卒業者数
速報	進学総研集計（予測）	2024	1,062,870	2023	（令和2年）2020年　の中学校3年生+中等教育学校前期課程3年生＋義務教育学校9年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2025	1,089,970	2024	（令和2年）2020年　の中学校2年生+中等教育学校前期課程2年生＋義務教育学校8年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2026	1,092,118	2025	（令和2年）2020年　の中学校1年生+中等教育学校前期課程1年生＋義務教育学校7年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2027	1,086,573	2026	（令和2年）2020年　の小学校6年生＋義務教育学校6年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2028	1,070,466	2027	（令和2年）2020年　の小学校5年生＋義務教育学校5年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2029	1,068,289	2028	（令和2年）2020年　の小学校4年生＋義務教育学校4年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2030	1,049,877	2029	（令和2年）2020年　の小学校3年生＋義務教育学校3年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2031	1,034,548	2030	（令和2年）2020年　の小学校2年生＋義務教育学校2年生の生徒数
速報	進学総研集計（予測）	2032	1,023,963	2031	（令和2年）2020年　の小学校1年生＋義務教育学校1年生の生徒数

18歳人口予測（全体：全国：2020～2032年）

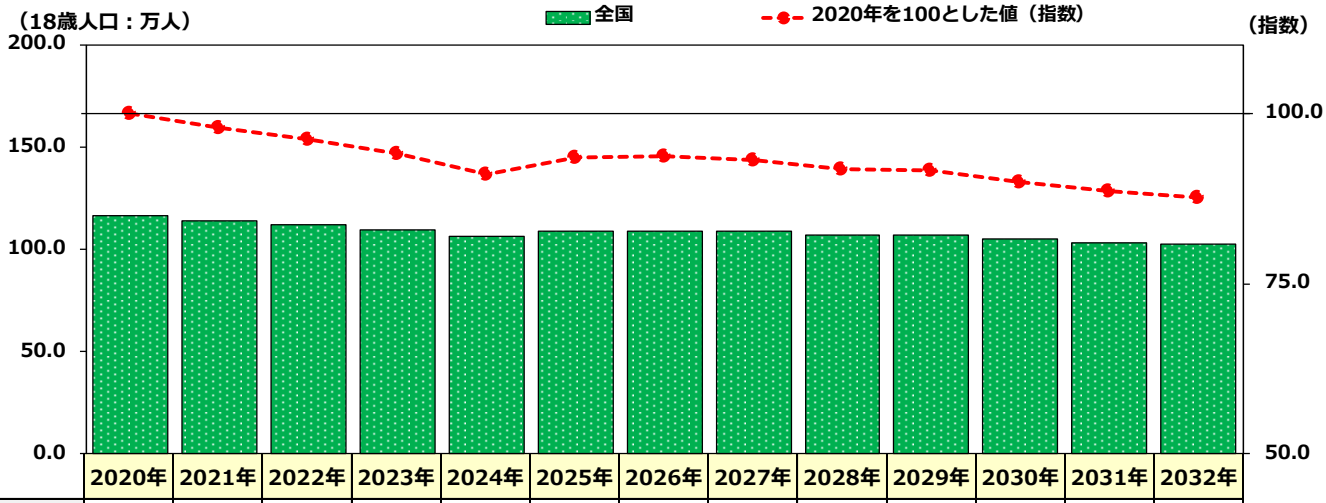
■2020年116.7万人→2032年102.4万人（14.3万人減少）

・全体の18歳人口は、以下の3段階を経て経年的に減少する。

① 2020年～2024年：4年連続減少（116.7万人から106.3万人、10.4万人減少）。
特に2023～2024年の1年で3.4万人と大きく減少する。

② 2025年～2027年：2025年に109.0万人と前年106.3万人に対し2.7万人増加に転じ、
2027年は108.7万人とほぼ変わらず。

③ 2028年～2032年：2028年は107.0万人と前年108.7万に対し1.7万人と再び減少し、
2032年は102.4万人となる。



		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体	人数（万人）	116.7	114.1	112.1	109.7	106.3	109.0	109.2	108.7	107.0	106.8	105.0	103.5	102.4
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7

① ② ③

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男女別：全国：2020～2032年)

■男女ともに12年間で約12%の減少

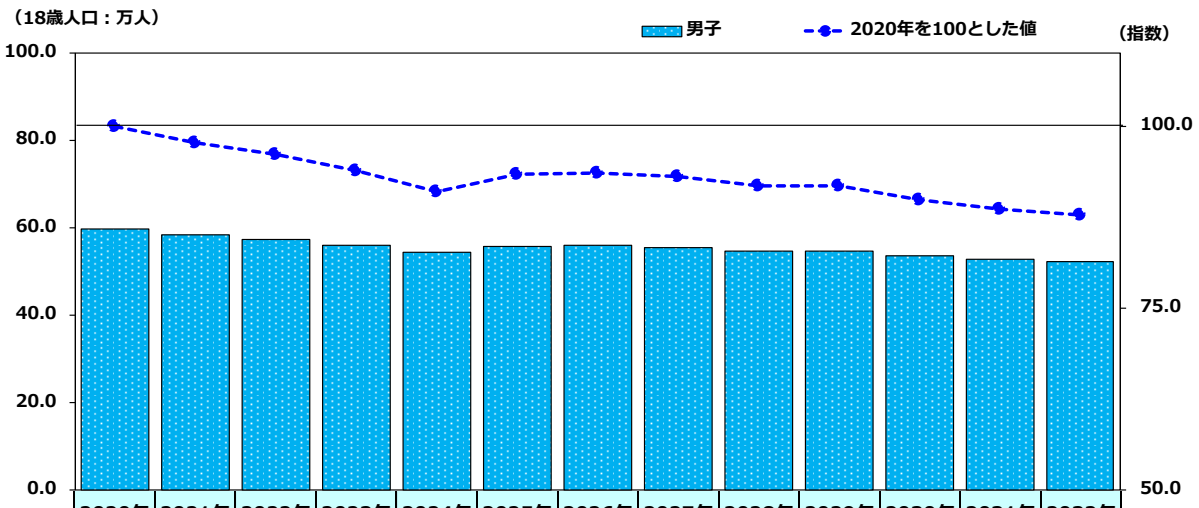
減少のスピード・時期は男女差がほとんどない。

男子

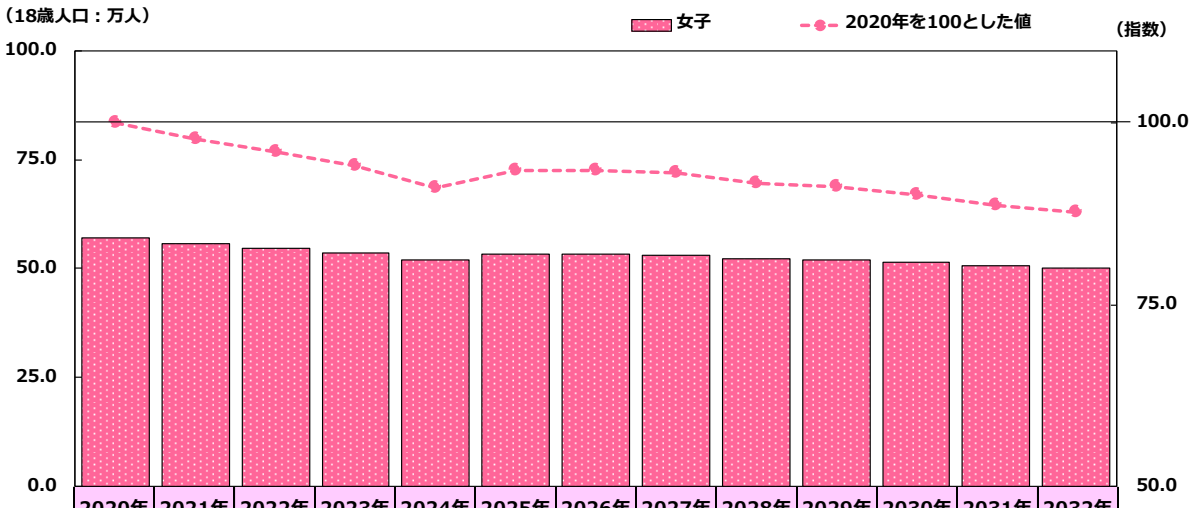
・2020年59.7万人から2032年52.3万人、12年間で7.4万人減少。
・2026年で減少は落ち着くが、2027年から再び減少傾向となり2032年までに3.2万人減少している。

女子

・2020年57.0万人から2032年50.0万人、12年間で7.0万人減少。
・男子と同様2026年で減少が落ち着くが、2027年から2032年にかけて3.1万人減少している。



		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
男子	人数 （万人）	59.7	58.4	57.4	56.1	54.4	55.7	55.9	55.5	54.8	54.7	53.6	52.9	52.3
	指数	100.0	97.7	96.1	93.9	91.0	93.3	93.6	93.0	91.7	91.7	89.8	88.6	87.7



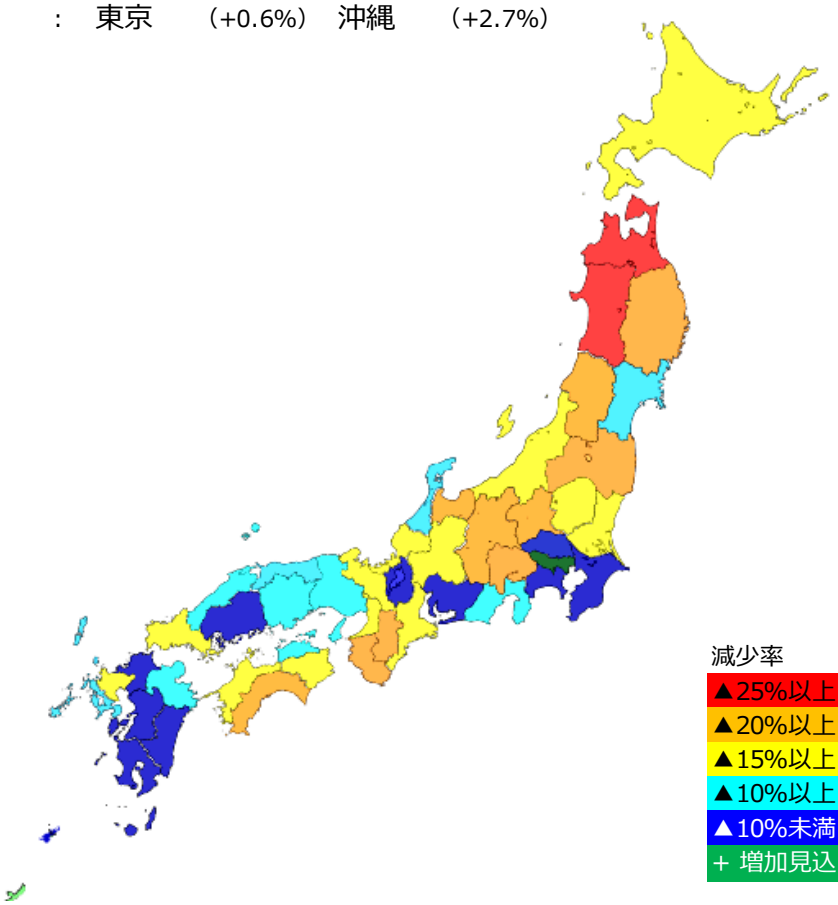
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
女子	人数 （万人）	57.0	55.7	54.8	53.7	51.9	53.3	53.3	53.1	52.3	52.1	51.4	50.6	50.0
	指数	100.0	97.8	96.1	94.2	91.1	93.5	93.5	93.2	91.7	91.3	90.1	88.7	87.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口の予測（全体：都道府県別:2020→2032年）

■東北の減少率が高く、6県中5県で減少率20%以上、東京・沖縄が増加する見込み。

・減少率25%以上	：	青森	(28.3%)	秋田	(27.9%)				
・減少率20%以上25%未満	：	岩手	(23.5%)	山形	(23.8%)	福島	(21.0%)	群馬	(21.9%)
		山梨	(22.7%)	長野	(20.5%)	富山	(22.8%)	奈良	(20.0%)
		和歌山	(24.1%)	高知	(21.5%)				
・減少率15%以上20%未満	：	北海道	(16.8%)	茨城	(18.2%)	栃木	(18.3%)	新潟	(19.4%)
		福井	(18.4%)	岐阜	(17.7%)	三重	(17.3%)	京都	(15.0%)
		大阪	(15.6%)	山口	(17.8%)	徳島	(19.7%)	愛媛	(16.2%)
		佐賀	(15.7%)						
・減少率10%以上15%未満	：	宮城	(13.9%)	石川	(14.9%)	静岡	(14.8%)	兵庫	(12.9%)
		鳥取	(11.2%)	島根	(12.7%)	岡山	(14.3%)	香川	(12.9%)
		長崎	(14.6%)	大分	(11.7%)				
・減少率10%未満	：	埼玉	(9.2%)	千葉	(9.9%)	神奈川	(7.4%)	愛知	(9.1%)
		滋賀	(9.3%)	広島	(9.7%)	福岡	(2.8%)	熊本	(6.7%)
		宮崎	(9.8%)	鹿児島	(9.6%)				
・増加する見込み。	：	東京	(+0.6%)	沖縄	(+2.7%)				



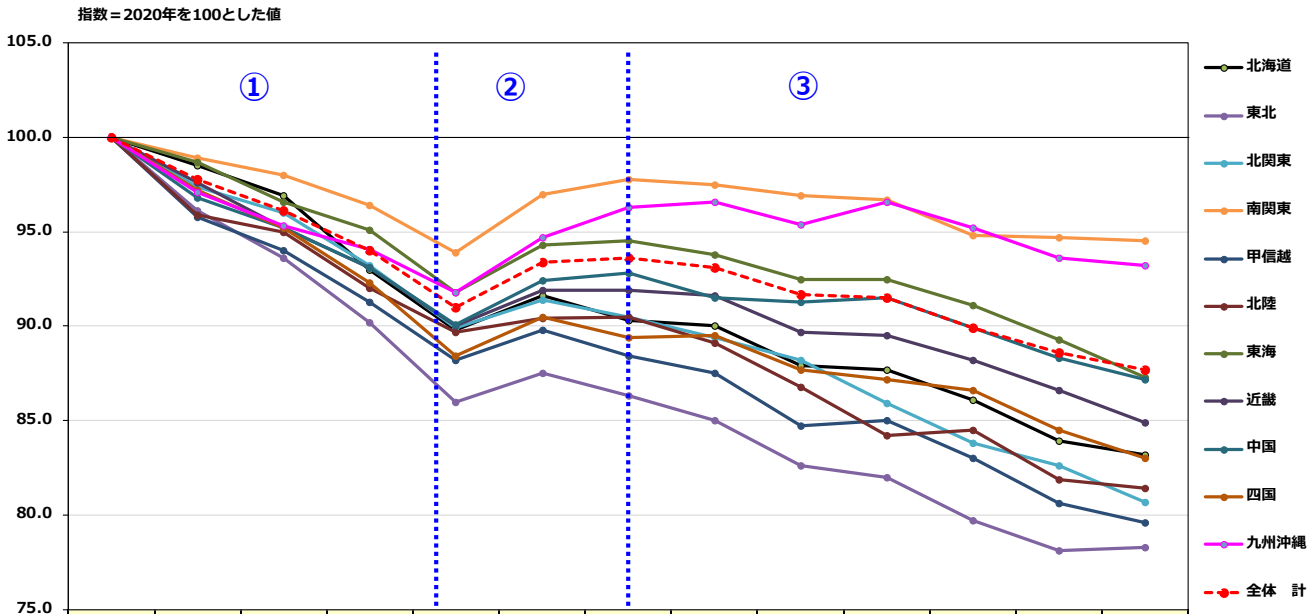
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（全体：エリア別：2020～2032年）

■減少率が高いのは東北（2020年比78.3%）、減少数が大きいのは近畿（29,398人減）

・減少率が高いのは、1位 東北（2020年比78.3%）、2位 甲信越（79.6%）、3位 北関東（80.7%）。
・減少数が大きいのは、1位 近畿（29,398人減）、2位 東海（18,433人減）、3位 東北（18,093人減）。
・減少率が低いのは、1位 南関東（94.5%）、2位 九州沖縄（93.2%）、3位 東海（87.3%）。
・エリア別の18歳人口は、以下の3段階を経て減少する。

① 2020～2024年：全国では約10万人減少、エリアも含め減少傾向になる時期
② 2024～2026年：全国で約2.9万人増加、人口が回復する時期
③ 2026～2032年：回復後さらに減少する時期



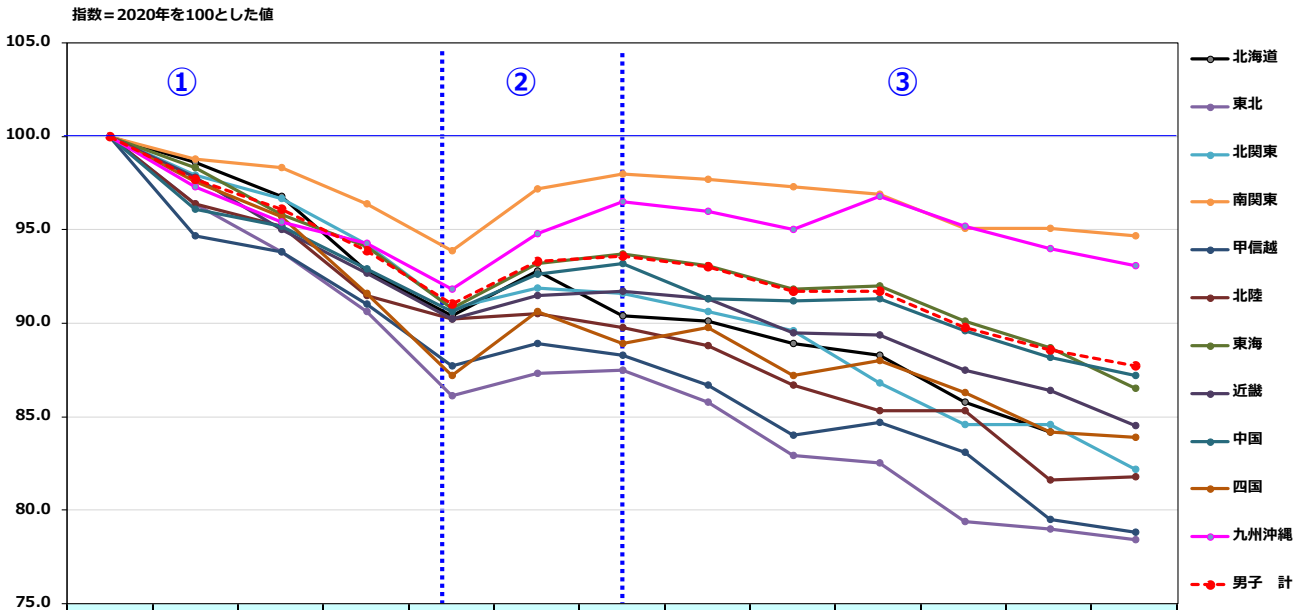
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体　計	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7
北海道	人数	45,674	45,007	44,276	42,489	41,028	41,853	41,256	41,087	40,148	40,064	39,321	38,302	37,985
	指数	100.0	98.5	96.9	93.0	89.8	91.6	90.3	90.0	87.9	87.7	86.1	83.9	83.2
東北	人数	83,524	80,269	78,146	75,379	71,809	73,104	72,063	71,026	69,024	68,469	66,592	65,270	65,431
	指数	100.0	96.1	93.6	90.2	86.0	87.5	86.3	85.0	82.6	82.0	79.7	78.1	78.3
北関東	人数	66,380	64,677	63,720	61,863	59,667	60,662	60,090	59,374	58,555	57,023	55,612	54,815	53,543
	指数	100.0	97.4	96.0	93.2	89.9	91.4	90.5	89.4	88.2	85.9	83.8	82.6	80.7
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
甲信越	人数	49,897	47,817	46,907	45,536	44,033	44,794	44,084	43,684	42,239	42,396	41,412	40,210	39,726
	指数	100.0	95.8	94.0	91.3	88.2	89.8	88.4	87.5	84.7	85.0	83.0	80.6	79.6
北陸	人数	29,004	27,814	27,545	26,692	26,008	26,219	26,256	25,852	25,177	24,413	24,515	23,760	23,613
	指数	100.0	95.9	95.0	92.0	89.7	90.4	90.5	89.1	86.8	84.2	84.5	81.9	81.4
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.5	88.2	86.6	84.9
中国	人数	70,193	67,945	66,821	65,318	63,247	64,858	65,130	64,245	64,060	64,197	63,134	62,001	61,205
	指数	100.0	96.8	95.2	93.1	90.1	92.4	92.8	91.5	91.3	91.5	89.9	88.3	87.2
四国	人数	35,553	34,558	33,841	32,825	31,434	32,184	31,780	31,824	31,182	30,990	30,785	30,031	29,505
	指数	100.0	97.2	95.2	92.3	88.4	90.5	89.4	89.5	87.7	87.2	86.6	84.5	83.0
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：エリア別：2020～2032年）

■減少率が高いのは東北（2020年比78.4%）、減少数が大きいのは近畿（15,466人減）

・減少率が高いのは、1位 東北（2020年比較78.4%）、2位 甲信越（78.8%）、3位 北陸（81.8%）。
・減少数が大きいのは、1位 近畿（15,466人減）、2位 東海（10,137人減）、3位 東北（9,162人減）。
・減少率が低いのは、1位 南関東（94.7%）、2位 九州沖縄（93.1%）、3位 中国（87.2%）。
・③期において2026年~2032年の男子人口は、北海道（1,523人減）、東北（3,856人減）、北関東（3,197人減）、甲信越（2,455人減）、北陸（1,182人減）、東海（5,420人減）、近畿（7,148人減）、中国（2,179人減）、四国（906人減）、九州沖縄（2,444人減）



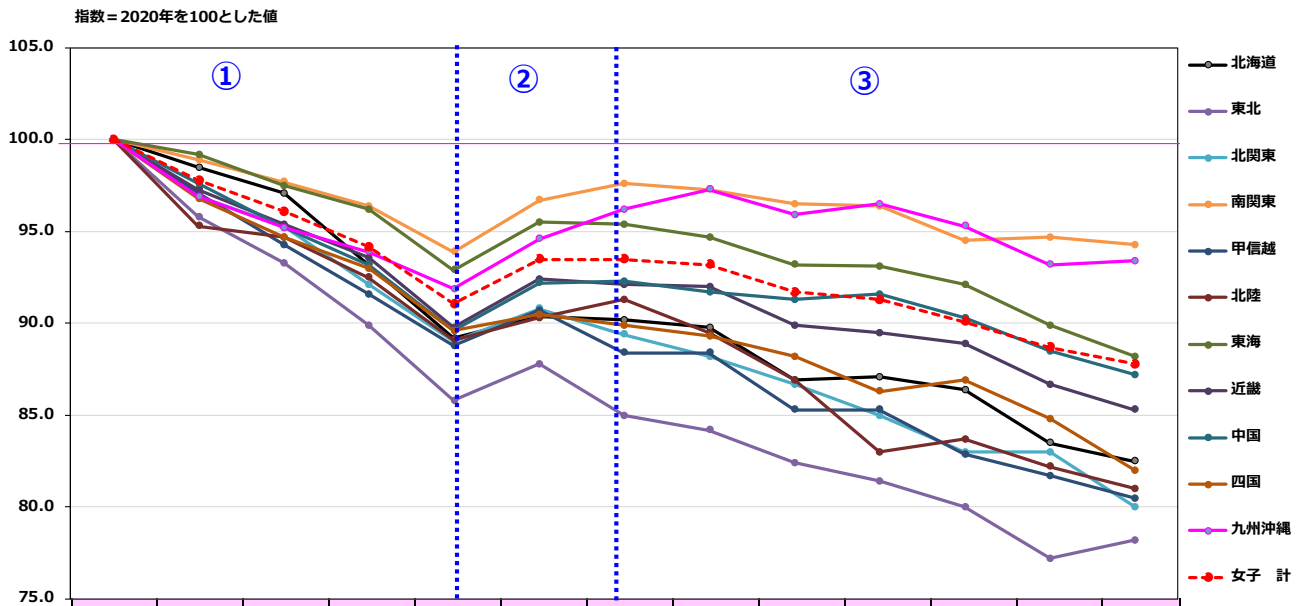
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
男子　計	人数	597,205	583,713	573,645	560,512	543,634	557,059	559,274	555,232	547,718	547,476	536,276	528,879	523,471
	指数	100.0	97.7	96.1	93.9	91.0	93.3	93.6	93.0	91.7	91.7	89.8	88.6	87.7
北海道	人数	23,206	22,885	22,459	21,543	20,984	21,536	20,981	20,908	20,628	20,487	19,910	19,541	19,458
	指数	100.0	98.6	96.8	92.8	90.4	92.8	90.4	90.1	88.9	88.3	85.8	84.2	83.8
東北	人数	42,491	40,967	39,863	38,506	36,603	37,074	37,185	36,463	35,232	35,059	33,754	33,584	33,329
	指数	100.0	96.4	93.8	90.6	86.1	87.3	87.5	85.8	82.9	82.5	79.4	79.0	78.4
北関東	人数	33,713	33,018	32,586	31,764	30,601	30,989	30,896	30,555	30,222	29,254	28,507	28,507	27,699
	指数	100.0	97.9	96.7	94.2	90.8	91.9	91.6	90.6	89.6	86.8	84.6	84.6	82.2
南関東	人数	156,005	154,144	153,337	150,412	146,555	151,709	152,940	152,360	151,722	151,226	148,417	148,417	147,766
	指数	100.0	98.8	98.3	96.4	93.9	97.2	98.0	97.7	97.3	96.9	95.1	95.1	94.7
甲信越	人数	25,673	24,304	24,075	23,352	22,521	22,820	22,677	22,266	21,566	21,743	21,326	20,415	20,222
	指数	100.0	94.7	93.8	91.0	87.7	88.9	88.3	86.7	84.0	84.7	83.1	79.5	78.8
北陸	人数	14,814	14,287	14,101	13,561	13,368	13,412	13,304	13,158	12,845	12,639	12,635	12,092	12,122
	指数	100.0	96.4	95.2	91.5	90.2	90.5	89.8	88.8	86.7	85.3	85.3	81.6	81.8
東海	人数	75,092	73,828	71,901	70,626	68,180	69,963	70,375	69,885	68,910	69,049	67,666	66,624	64,955
	指数	100.0	98.3	95.8	94.1	90.8	93.2	93.7	93.1	91.8	92.0	90.1	88.7	86.5
近畿	人数	99,916	97,759	94,884	92,654	90,139	91,405	91,598	91,180	89,400	89,365	87,474	86,344	84,450
	指数	100.0	97.8	95.0	92.7	90.2	91.5	91.7	91.3	89.5	89.4	87.5	86.4	84.5
中国	人数	35,922	34,513	34,190	33,377	32,539	33,248	33,490	32,802	32,755	32,800	32,190	31,679	31,311
	指数	100.0	96.1	95.2	92.9	90.6	92.6	93.2	91.3	91.2	91.3	89.6	88.2	87.2
四国	人数	18,193	17,754	17,402	16,673	15,872	16,479	16,174	16,330	15,870	16,012	15,700	15,310	15,268
	指数	100.0	97.6	95.7	91.6	87.2	90.6	88.9	89.8	87.2	88.0	86.3	84.2	83.9
九州沖縄	人数	72,180	70,254	68,847	68,044	66,272	68,424	69,654	69,325	68,568	69,842	68,697	67,825	67,210
	指数	100.0	97.3	95.4	94.3	91.8	94.8	96.5	96.0	95.0	96.8	95.2	94.0	93.1

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：エリア別：2020～2032年）

■減少率が高いのは東北 （2020年比82.5%）、減少数が大きいのは近畿 (13,932人減)

・減少率が高いのは、1位 東北（2020年比78.2%）、2位 北関東（80.0%）、3位 甲信越 (80.5%)。
・減少数が大きいのは、1位 近畿（13,932人減）、2位 東北（8,931人減） 、3位 南関東(8,520人減)。
・減少率が低いのは、1位 南関東（94.3%）、2位 九州沖縄（93.4%）、3位 東海（88.2%）。
・③期において2026年~2032年の女子人口は、北海道（1,748人減）、東北（2,776人減） 、
北関東（3,059人減）、甲信越（1,903人減） 、北陸（1,461人減） 、東海（5,040人減）、
近畿（6,408人減）、中国（1,746人減）、四国（1,369人減）、九州沖縄（1,924人減）



		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
女子　計	人数	570,143	557,427	547,640	536,904	519,236	532,911	532,844	531,341	522,748	520,813	513,601	505,669	500,492
	指数	100.0	97.8	96.1	94.2	91.1	93.5	93.5	93.2	91.7	91.3	90.1	88.7	87.8
北海道	人数	22,468	22,122	21,817	20,946	20,044	20,317	20,275	20,179	19,520	19,577	19,411	18,761	18,527
	指数	100.0	98.5	97.1	93.2	89.2	90.4	90.2	89.8	86.9	87.1	86.4	83.5	82.5
東北	人数	41,033	39,302	38,283	36,873	35,206	36,030	34,878	34,563	33,792	33,410	32,838	31,686	32,102
	指数	100.0	95.8	93.3	89.9	85.8	87.8	85.0	84.2	82.4	81.4	80.0	77.2	78.2
北関東	人数	32,667	31,659	31,134	30,099	29,066	29,673	29,194	28,819	28,333	27,769	27,105	27,116	26,135
	指数	100.0	96.9	95.3	92.1	89.0	90.8	89.4	88.2	86.7	85.0	83.0	83.0	80.0
南関東	人数	149,452	147,855	146,019	144,085	140,380	144,496	145,850	145,450	144,215	144,028	141,158	141,566	140,932
	指数	100.0	98.9	97.7	96.4	93.9	96.7	97.6	97.3	96.5	96.4	94.5	94.7	94.3
甲信越	人数	24,224	23,513	22,832	22,184	21,512	21,974	21,407	21,418	20,673	20,653	20,086	19,795	19,504
	指数	100.0	97.1	94.3	91.6	88.8	90.7	88.4	88.4	85.3	85.3	82.9	81.7	80.5
北陸	人数	14,190	13,527	13,444	13,131	12,640	12,807	12,952	12,694	12,332	11,774	11,880	11,668	11,491
	指数	100.0	95.3	94.7	92.5	89.1	90.3	91.3	89.5	86.9	83.0	83.7	82.2	81.0
東海	人数	70,386	69,823	68,609	67,683	65,370	67,191	67,130	66,639	65,633	65,544	64,858	63,269	62,090
	指数	100.0	99.2	97.5	96.2	92.9	95.5	95.4	94.7	93.2	93.1	92.1	89.9	88.2
近畿	人数	95,085	92,527	90,742	88,985	85,362	87,843	87,561	87,520	85,448	85,125	84,486	82,453	81,153
	指数	100.0	97.3	95.4	93.6	89.8	92.4	92.1	92.0	89.9	89.5	88.9	86.7	85.3
中国	人数	34,271	33,432	32,631	31,941	30,708	31,610	31,640	31,443	31,305	31,397	30,944	30,322	29,894
	指数	100.0	97.6	95.2	93.2	89.6	92.2	92.3	91.7	91.3	91.6	90.3	88.5	87.2
四国	人数	17,360	16,804	16,439	16,152	15,562	15,705	15,606	15,494	15,312	14,978	15,085	14,721	14,237
	指数	100.0	96.8	94.7	93.0	89.6	90.5	89.9	89.3	88.2	86.3	86.9	84.8	82.0
九州沖縄	人数	69,007	66,863	65,690	64,825	63,386	65,265	66,351	67,122	66,185	66,558	65,750	64,312	64,427
	指数	100.0	96.9	95.2	93.9	91.9	94.6	96.2	97.3	95.9	96.5	95.3	93.2	93.4

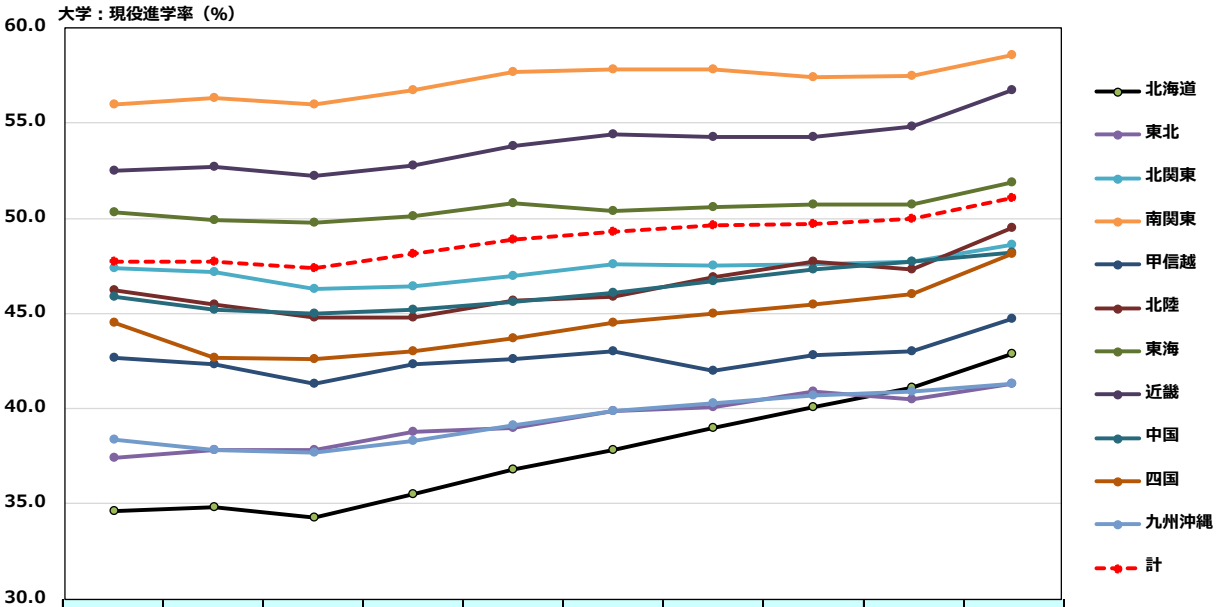
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

大学進学率の推移（現役：エリア別：2011～2020年）

■2011年47.7%→2020年51.1%（3.4ポイント上昇）

・全体の大学進学率は2011年47.7%→2020年51.1%と、10年間で3.4ポイント上昇。
2019年から50%台の進学率となっている。
2011～2013年の3年間は横ばいのトレンド(47.7%→47.4%)。
2014～2020年の7年間で3.0ポイントの上昇（48.1%→51.1%）。
・上昇率が高いのは、1位 北海道（124.0）、2位 東北（110.4）、3位 四国（108.1）。※
・上昇率が低いのは、1位 北関東（102.5）、2位 東海（103.2）、3位 南関東（104.6）。※
・2020年進学率が高いのは、1位 南関東（58.6%）、2位 近畿（56.7%）、3位 東海（51.9%）。

注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
計	進学率	47.7	47.7	47.4	48.1	48.9	49.3	49.6	49.7	50.0	51.1
	指数	100.0	100.0	99.4	100.8	102.5	103.4	104.0	104.2	104.8	107.1
北海道	進学率	34.6	34.8	34.3	35.5	36.8	37.8	39.0	40.1	41.1	42.9
	指数	100.0	100.6	99.1	102.6	106.4	109.2	112.7	115.9	118.8	124.0
東北	進学率	37.4	37.8	37.8	38.8	39.0	39.9	40.1	40.9	40.5	41.3
	指数	100.0	101.1	101.1	103.7	104.3	106.7	107.2	109.4	108.3	110.4
北関東	進学率	47.4	47.2	46.3	46.4	47.0	47.6	47.5	47.6	47.7	48.6
	指数	100.0	99.6	97.7	97.9	99.2	100.4	100.2	100.4	100.6	102.5
南関東	進学率	56.0	56.3	56.0	56.7	57.7	57.8	57.8	57.4	57.5	58.6
	指数	100.0	100.5	100.0	101.3	103.0	103.2	103.2	102.5	102.7	104.6
甲信越	進学率	42.7	42.3	41.3	42.3	42.6	43.0	42.0	42.8	43.0	44.7
	指数	100.0	99.1	96.7	99.1	99.8	100.7	98.4	100.2	100.7	104.7
北陸	進学率	46.2	45.5	44.8	44.8	45.7	45.9	46.9	47.7	47.3	49.5
	指数	100.0	98.5	97.0	97.0	98.9	99.4	101.5	103.2	102.4	107.1
東海	進学率	50.3	49.9	49.8	50.1	50.8	50.4	50.6	50.7	50.7	51.9
	指数	100.0	99.2	99.0	99.6	101.0	100.2	100.6	100.8	100.8	103.2
近畿	進学率	52.5	52.7	52.2	52.8	53.8	54.4	54.3	54.3	54.8	56.7
	指数	100.0	100.4	99.4	100.6	102.5	103.6	103.4	103.4	104.4	108.0
中国	進学率	45.9	45.2	45.0	45.2	45.6	46.1	46.7	47.3	47.7	48.2
	指数	100.0	98.5	98.0	98.5	99.3	100.4	101.7	103.1	103.9	105.0
四国	進学率	44.5	42.7	42.6	43.0	43.7	44.5	45.0	45.5	46.0	48.1
	指数	100.0	96.0	95.7	96.6	98.2	100.0	101.1	102.2	103.4	108.1
九州沖縄	進学率	38.4	37.8	37.7	38.3	39.1	39.9	40.3	40.7	40.9	41.3
	指数	100.0	98.4	98.2	99.7	101.8	103.9	104.9	106.0	106.5	107.6

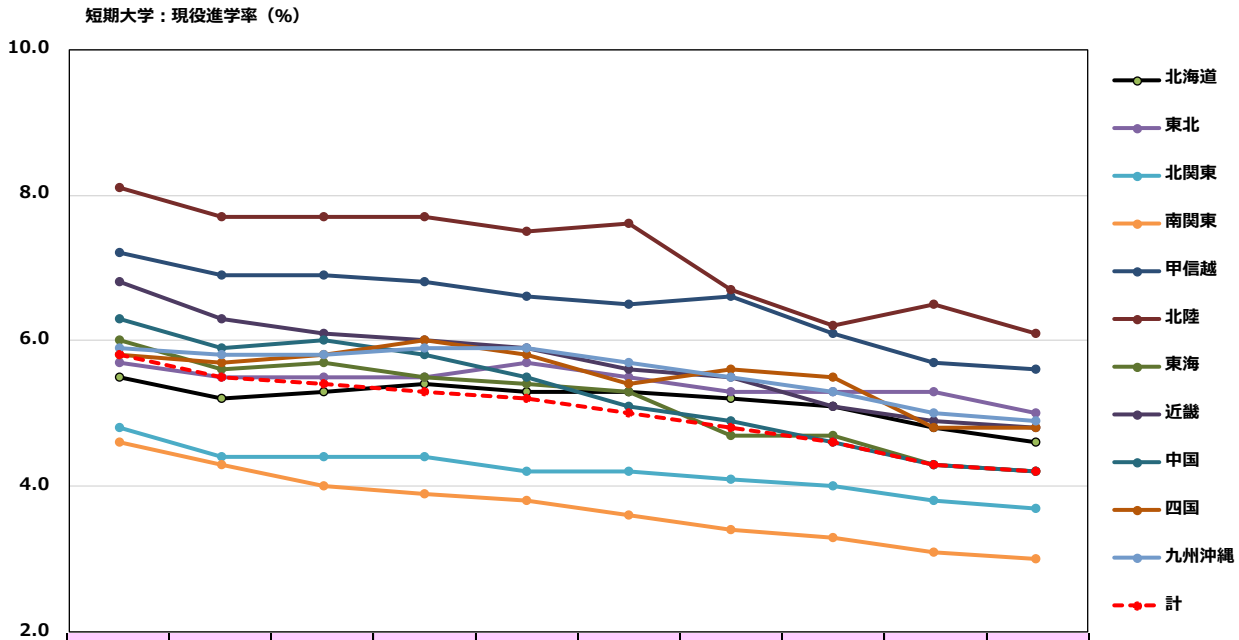
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

短期大学進学率の推移（現役：エリア別：2011～2020年）

■2011年5.8%→2020年4.2%（1.6ポイント低下）

・全体の短期大学進学率は2011年5.8%→2020年4.2%と、10年間で1.6ポイント低下。
・低下率が高いのは、1位 南関東（65.2）、2位 中国 （66.7）、3位 東海（70.0）。※
・低下率が低いのは、1位 東北（87.7）、2位 北海道（83.6）、3位 九州沖縄（83.1）。※
・2020年進学率が高いのは、1位 北陸（6.1%）、2位 甲信越（5.6%）、3位 東北（5.0%）。

注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
計	進学率	5.8	5.5	5.4	5.3	5.2	5.0	4.8	4.6	4.3	4.2
	指数	100.0	94.8	93.1	91.4	89.7	86.2	82.8	79.3	74.1	72.4
北海道	進学率	5.5	5.2	5.3	5.4	5.3	5.3	5.2	5.1	4.8	4.6
	指数	100.0	94.5	96.4	98.2	96.4	96.4	94.5	92.7	87.3	83.6
東北	進学率	5.7	5.5	5.5	5.5	5.7	5.5	5.3	5.3	5.3	5.0
	指数	100.0	96.5	96.5	96.5	100.0	96.5	93.0	93.0	93.0	87.7
北関東	進学率	4.8	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	4.1	4.0	3.8	3.7
	指数	100.0	91.7	91.7	91.7	87.5	87.5	85.4	83.3	79.2	77.1
南関東	進学率	4.6	4.3	4.0	3.9	3.8	3.6	3.4	3.3	3.1	3.0
	指数	100.0	93.5	87.0	84.8	82.6	78.3	73.9	71.7	67.4	65.2
甲信越	進学率	7.2	6.9	6.9	6.8	6.6	6.5	6.6	6.1	5.7	5.6
	指数	100.0	95.8	95.8	94.4	91.7	90.3	91.7	84.7	79.2	77.8
北陸	進学率	8.1	7.7	7.7	7.7	7.5	7.6	6.7	6.2	6.5	6.1
	指数	100.0	95.1	95.1	95.1	92.6	93.8	82.7	76.5	80.2	75.3
東海	進学率	6.0	5.6	5.7	5.5	5.4	5.3	4.7	4.7	4.3	4.2
	指数	100.0	93.3	95.0	91.7	90.0	88.3	78.3	78.3	71.7	70.0
近畿	進学率	6.8	6.3	6.1	6.0	5.9	5.6	5.5	5.1	4.9	4.8
	指数	100.0	92.6	89.7	88.2	86.8	82.4	80.9	75.0	72.1	70.6
中国	進学率	6.3	5.9	6.0	5.8	5.5	5.1	4.9	4.6	4.3	4.2
	指数	100.0	93.7	95.2	92.1	87.3	81.0	77.8	73.0	68.3	66.7
四国	進学率	5.8	5.7	5.8	6.0	5.8	5.4	5.6	5.5	4.8	4.8
	指数	100.0	98.3	100.0	103.4	100.0	93.1	96.6	94.8	82.8	82.8
九州沖縄	進学率	5.9	5.8	5.8	5.9	5.9	5.7	5.5	5.3	5.0	4.9
	指数	100.0	98.3	98.3	100.0	100.0	96.6	93.2	89.8	84.7	83.1

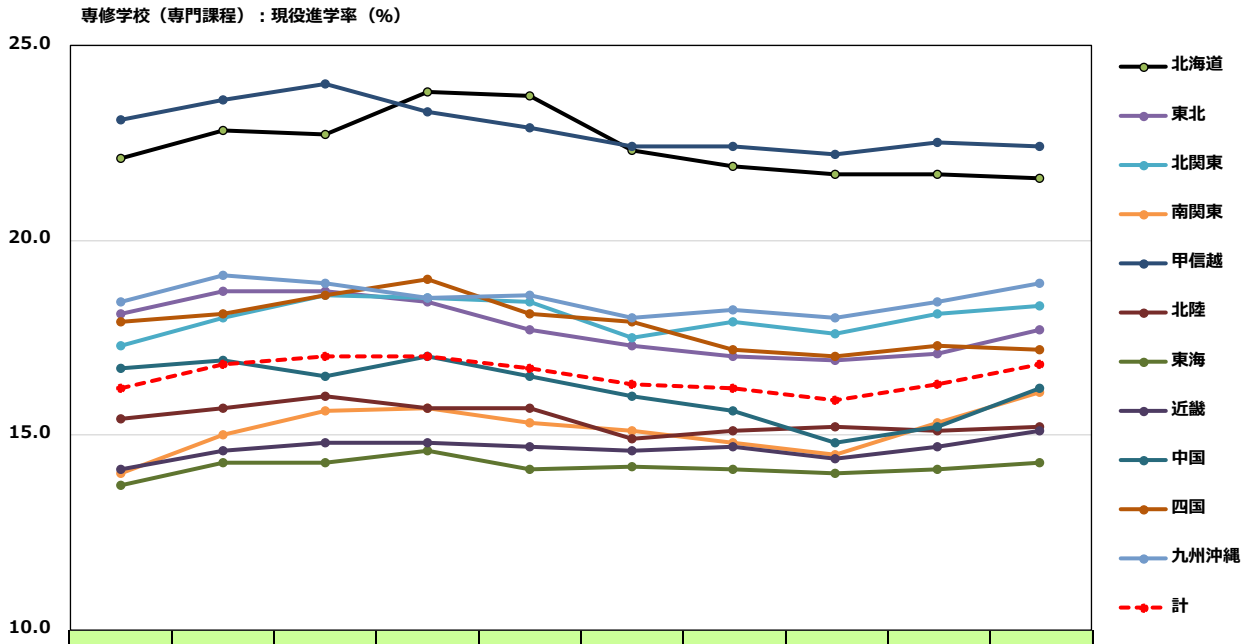
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

専門学校進学率の推移（現役：エリア別：2011～2020年）

■2011年16.2%→2020年16.8%（0.6ポイント上昇）

・全国の専門学校進学率は2011年16.2%→2020年16.8%と、10年間で0.6ポイント上昇。
　上昇、低下を繰り返し、ほぼ横ばい。
・上昇率が高いのは、1位 南関東（115.0）、2位 近畿（107.1）、3位 北関東（105.8）※
・上昇率が低いのは、1位 四国（96.1）、2位 甲信越・中国（97.0）。※
・2020年進学率が高いのは、1位 甲信越（22.4%）、2位 北海道（21.6%）、3位 九州沖縄（18.9%）。

注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



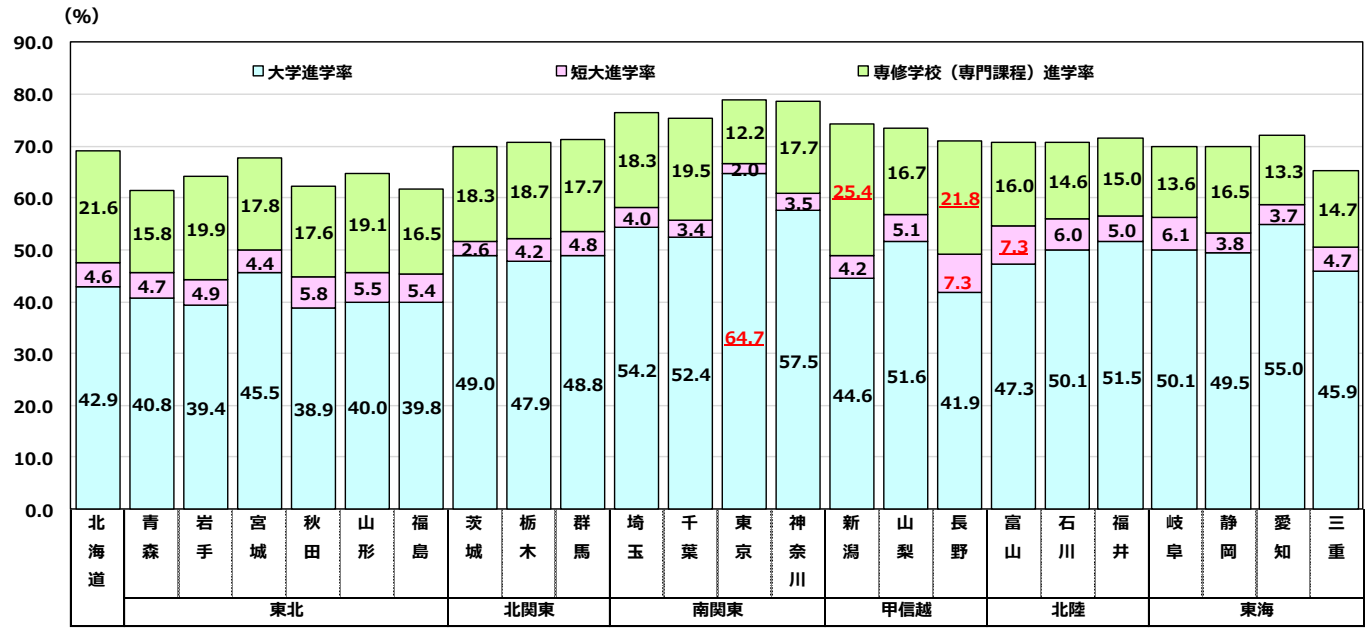
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
計	進学率	16.2	16.8	17.0	17.0	16.7	16.3	16.2	15.9	16.3	16.8
	指数	100.0	103.7	104.9	104.9	103.1	100.6	100.0	98.1	100.6	103.7
北海道	進学率	22.1	22.8	22.7	23.8	23.7	22.3	21.9	21.7	21.7	21.6
	指数	100.0	103.2	102.7	107.7	107.2	100.9	99.1	98.2	98.2	97.7
東北	進学率	18.1	18.7	18.7	18.4	17.7	17.3	17.0	16.9	17.1	17.7
	指数	100.0	103.3	103.3	101.7	97.8	95.6	93.9	93.4	94.5	97.8
北関東	進学率	17.3	18.0	18.6	18.5	18.4	17.5	17.9	17.6	18.1	18.3
	指数	100.0	104.0	107.5	106.9	106.4	101.2	103.5	101.7	104.6	105.8
南関東	進学率	14.0	15.0	15.6	15.7	15.3	15.1	14.8	14.5	15.3	16.1
	指数	100.0	107.1	111.4	112.1	109.3	107.9	105.7	103.6	109.3	115.0
甲信越	進学率	23.1	23.6	24.0	23.3	22.9	22.4	22.4	22.2	22.5	22.4
	指数	100.0	102.2	103.9	100.9	99.1	97.0	97.0	96.1	97.4	97.0
北陸	進学率	15.4	15.7	16.0	15.7	15.7	14.9	15.1	15.2	15.1	15.2
	指数	100.0	101.9	103.9	101.9	101.9	96.8	98.1	98.7	98.1	98.7
東海	進学率	13.7	14.3	14.3	14.6	14.1	14.2	14.1	14.0	14.1	14.3
	指数	100.0	104.4	104.4	106.6	102.9	103.6	102.9	102.2	102.9	104.4
近畿	進学率	14.1	14.6	14.8	14.8	14.7	14.6	14.7	14.4	14.7	15.1
	指数	100.0	103.5	105.0	105.0	104.3	103.5	104.3	102.1	104.3	107.1
中国	進学率	16.7	16.9	16.5	17.0	16.5	16.0	15.6	14.8	15.2	16.2
	指数	100.0	101.2	98.8	101.8	98.8	95.8	93.4	88.6	91.0	97.0
四国	進学率	17.9	18.1	18.6	19.0	18.1	17.9	17.2	17.0	17.3	17.2
	指数	100.0	101.1	103.9	106.1	101.1	100.0	96.1	95.0	96.6	96.1
九州沖縄	進学率	18.4	19.1	18.9	18.5	18.6	18.0	18.2	18.0	18.4	18.9
	指数	100.0	103.8	102.7	100.5	101.1	97.8	98.9	97.8	100.0	102.7

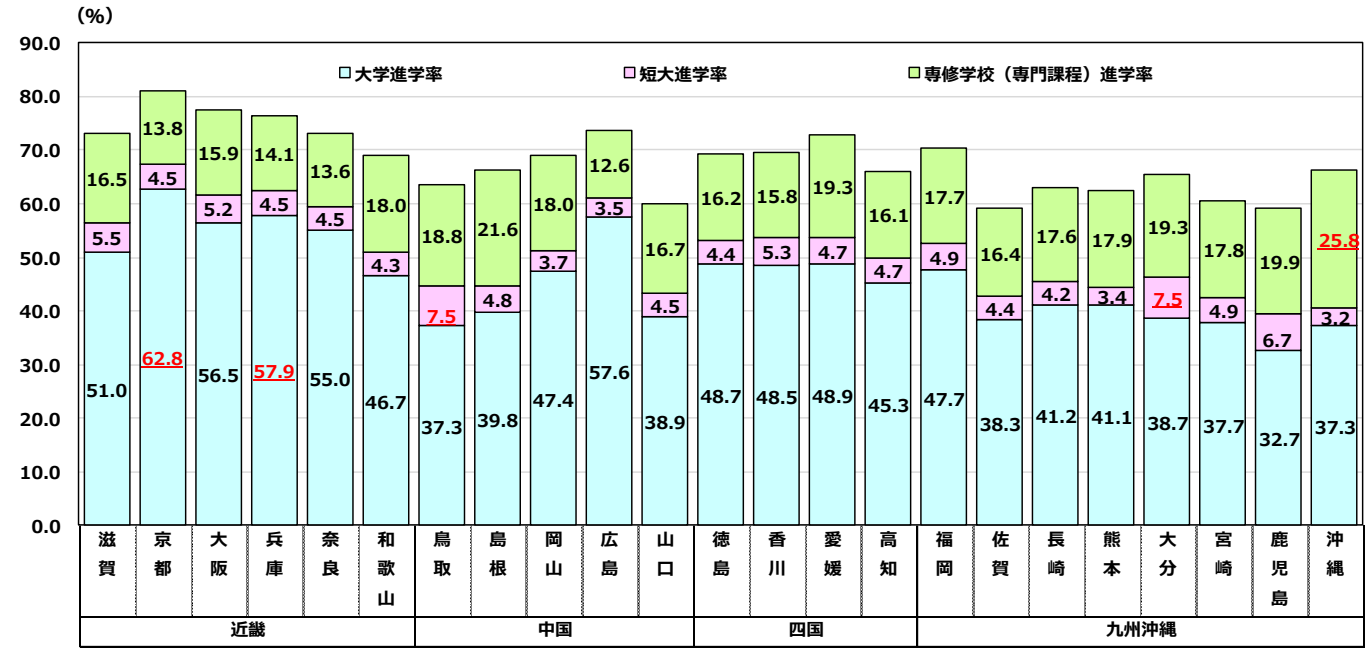
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

大学・短期大学・専門学校進学率（現役：都道府県別：2020年）

■大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は鳥取・大分、専門学校進学率1位は沖縄

大学進学率　1位：東京（64.7%）　2位：京都（62.8%）3位：兵庫（57.9%）
短期大学進学率　1位：鳥取・大分（7.5%）　3位：長野・富山（7.3%）
専門学校進学率　1位：沖縄（25.8%）　2位：新潟（25.4%）3位：長野（21.8%）





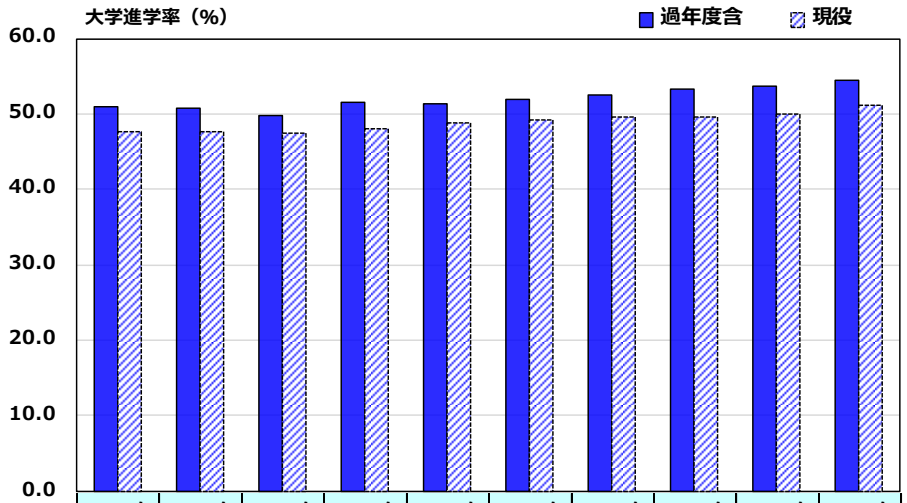
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較：全国：2011～2020年）

■2020年現役と過年度含の進学率の差は、大学は3.3ポイント（過年度含が高い）短期大学は差なし。

大学進学者

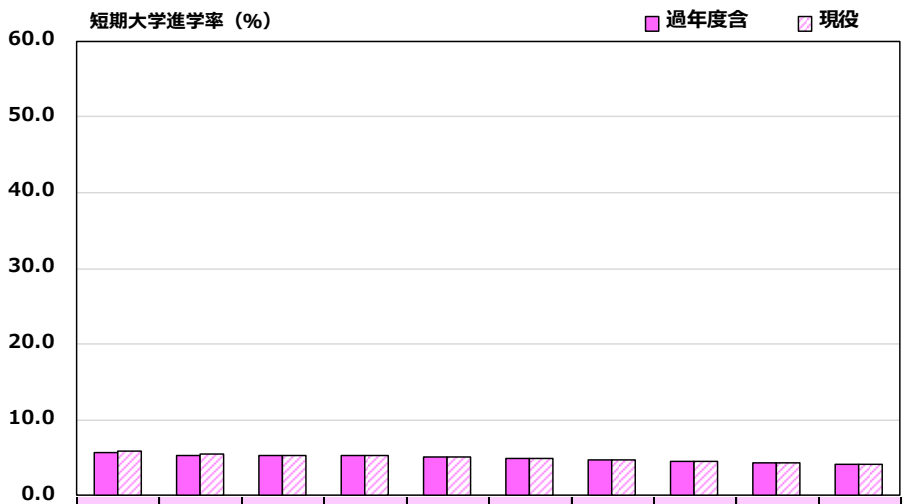
・現役の進学率は2011年47.7%→2020年51.1%（3.4ポイント上昇）。
過年度含の進学率は2011年51.0%→2020年54.4%（3.4ポイント上昇）。
・過年度含と現役の進学率の差は2011年3.3ポイント→2020年3.3ポイント。



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
大学	過年度含	51.0	50.8	49.9	51.5	51.5	52.0	52.6	53.3	53.7	54.4
	現役	47.7	47.7	47.4	48.1	48.9	49.3	49.6	49.7	50.0	51.1

短期大学進学者

・現役の進学率は2011年5.8%→2020年4.2%(1.6ポイント低下）。
過年度含の進学率は2011年5.7%→2020年4.2%（1.5ポイント低下）。
・過年度含と現役の進学率の差は2011年0.1ポイント→2020年差がなくなった。
（4.2%同率）



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
短期大学	過年度含	5.7	5.4	5.3	5.2	5.1	4.9	4.7	4.6	4.4	4.2
	現役	5.8	5.5	5.4	5.3	5.2	5.0	4.8	4.6	4.3	4.2

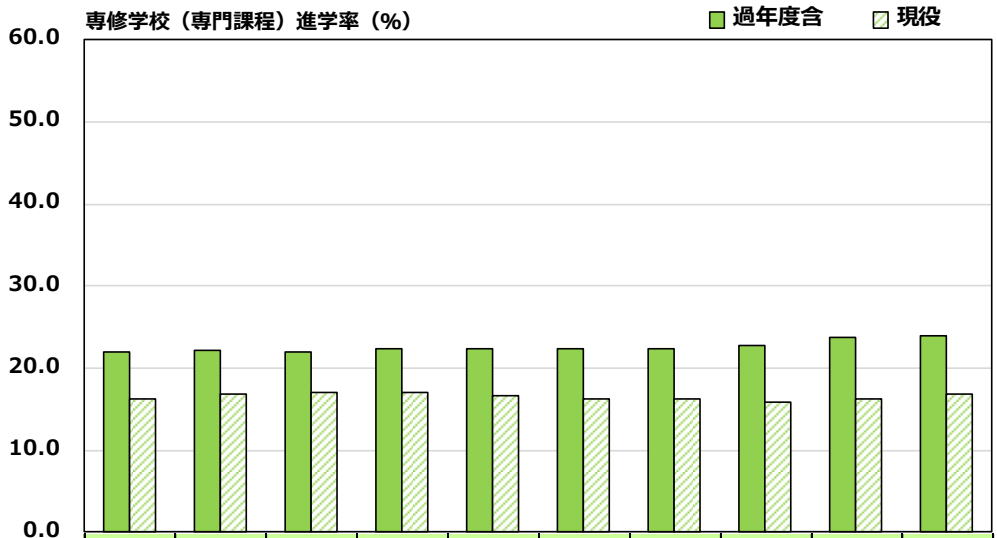
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較：全国：2011～2020年）

■専門学校で現役と過年度含の進学率の差は、6.8ポイント(過年度含が高い)

専門学校進学者

・現役の進学率は2011年16.2%→2020年16.8%（0.6ポイント上昇）。
過年度含の進学率は2011年21.9%→2020年24.0%（2.1ポイント上昇）。
・過年度含と現役の進学率の差は2011年5.7ポイント→2020年7.2ポイントと拡大。



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
専門学校	過年度含	21.9	22.2	21.9	22.4	22.4	22.3	22.4	22.7	23.8	24.0
	現役	16.2	16.8	17.0	17.0	16.7	16.3	16.2	15.9	16.3	16.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

大学・短期大学・専門学校進学率（現役：都道府県別：2020年)

（参考）大学・短期大学・専門学校進学率ランキング

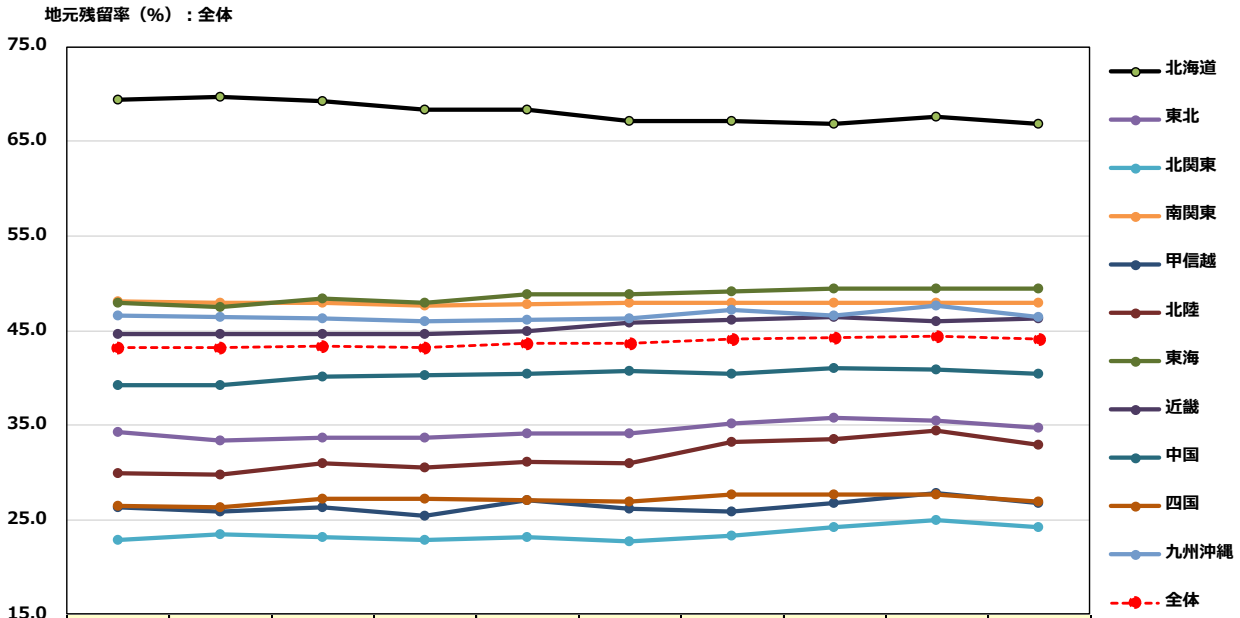
大学			短期大学			専門学校		
1	東京	64.7	1	大分	7.5	1	沖縄	25.8
2	京都	62.8	1	鳥取	7.5	2	新潟	25.4
3	兵庫	57.9	3	富山	7.3	3	長野	21.8
4	広島	57.6	3	長野	7.3	4	島根	21.6
5	神奈川	57.5	5	鹿児島	6.7	4	北海道	21.6
6	大阪	56.5	6	岐阜	6.1	6	鹿児島	19.9
7	愛知	55.0	7	石川	6.0	6	岩手	19.9
7	奈良	55.0	8	秋田	5.8	8	千葉	19.5
9	埼玉	54.2	9	滋賀	5.5	9	大分	19.3
10	千葉	52.4	9	山形	5.5	9	愛媛	19.3
11	山梨	51.6	11	福島	5.4	11	山形	19.1
12	福井	51.5	12	香川	5.3	12	鳥取	18.8
13	滋賀	51.0	13	大阪	5.2	13	栃木	18.7
14	石川	50.1	14	山梨	5.1	14	埼玉	18.3
14	岐阜	50.1	15	福井	5.0	14	茨城	18.3
16	静岡	49.5	16	福岡	4.9	16	和歌山	18.0
17	茨城	49.0	16	岩手	4.9	16	岡山	18.0
18	徳島	48.7	16	宮崎	4.9	18	熊本	17.9
19	愛媛	48.9	19	群馬	4.8	19	宮崎	17.8
20	群馬	48.8	19	島根	4.8	19	宮城	17.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率の推移（全体：大学入学者数：エリア別：2011～2020年）

■2011年43.2%→2020年44.1%（0.9ポイント上昇）

・全体で2011年43.2%→2019年44.1%と0.9ポイント上昇。
・2020年上昇率が高いのは、1位 北陸（110.0）、2位 北関東（106.1）、3位 近畿（103.6）。※
・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（66.9%）、2位 東海（49.4%）、3位 南関東（48.0%）。
・2020年残留率が低いのは、1位 北関東（24.2%）、2位 四国（26.9%）、3位 甲信越（26.8%）。
注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



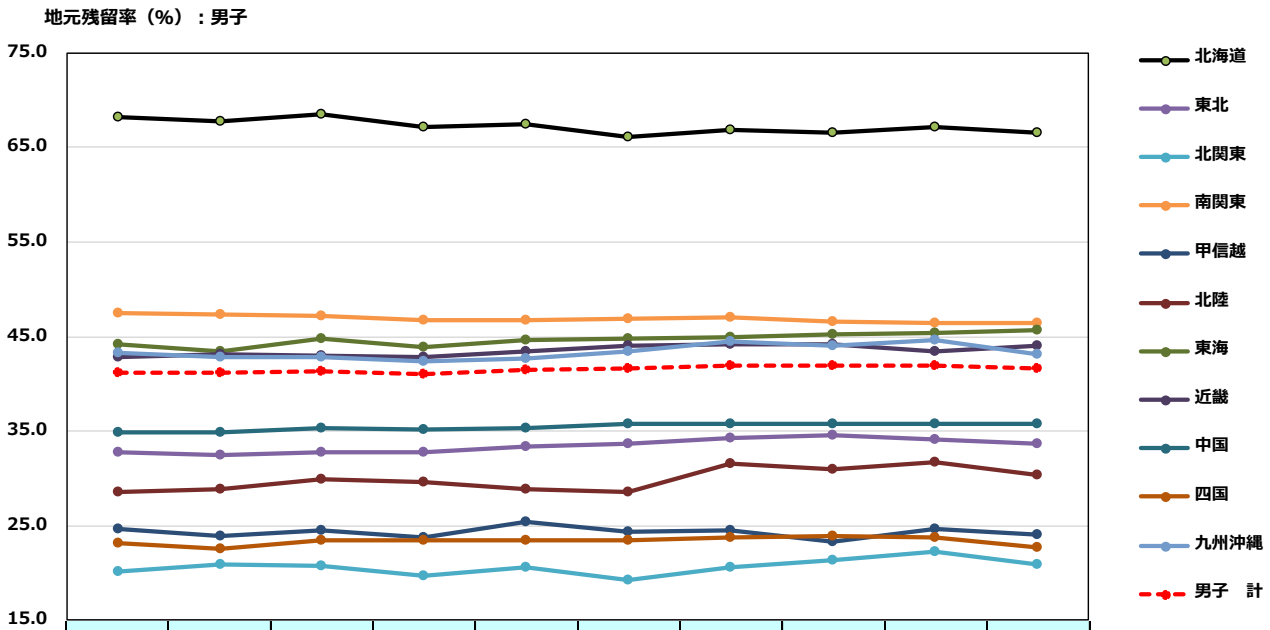
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全体	残留率	43.2	43.2	43.4	43.2	43.6	43.7	44.1	44.2	44.4	44.1
	指数	100.0	100.0	100.5	100.0	100.9	101.2	102.1	102.3	102.8	102.1
北海道	残留率	69.4	69.7	69.2	68.4	68.3	67.1	67.2	66.9	67.6	66.9
	指数	100.0	100.4	99.7	98.6	98.4	96.7	96.8	96.4	97.4	96.4
東北	残留率	34.2	33.3	33.7	33.6	34.1	34.1	35.2	35.7	35.5	34.7
	指数	100.0	97.4	98.5	98.2	99.7	99.7	102.9	104.4	103.8	101.5
北関東	残留率	22.8	23.4	23.1	22.8	23.2	22.7	23.3	24.2	25.0	24.2
	指数	100.0	102.6	101.3	100.0	101.8	99.6	102.2	106.1	109.6	106.1
南関東	残留率	48.1	48.0	47.9	47.7	47.8	47.9	48.0	47.9	47.9	48.0
	指数	100.0	99.8	99.6	99.2	99.4	99.6	99.8	99.6	99.6	99.8
甲信越	残留率	26.3	25.9	26.3	25.4	27.1	26.2	25.9	26.7	27.8	26.8
	指数	100.0	98.5	100.0	96.6	103.0	99.6	98.5	101.5	105.7	101.9
北陸	残留率	29.9	29.7	31.0	30.5	31.1	30.9	33.2	33.5	34.4	32.9
	指数	100.0	99.3	103.7	102.0	104.0	103.3	111.0	112.0	115.1	110.0
東海	残留率	48.0	47.5	48.4	48.0	48.9	48.9	49.2	49.5	49.5	49.4
	指数	100.0	99.0	100.8	100.0	101.9	101.9	102.5	103.1	103.1	102.9
近畿	残留率	44.7	44.7	44.6	44.7	45.0	45.8	46.1	46.4	46.0	46.3
	指数	100.0	100.0	99.8	100.0	100.7	102.5	103.1	103.8	102.9	103.6
中国	残留率	39.3	39.2	40.1	40.3	40.5	40.7	40.5	41.0	40.9	40.4
	指数	100.0	99.7	102.0	102.5	103.1	103.6	103.1	104.3	104.1	102.8
四国	残留率	26.5	26.3	27.2	27.2	27.1	26.9	27.7	27.6	27.6	26.9
	指数	100.0	99.2	102.6	102.6	102.3	101.5	104.5	104.2	104.2	101.5
九州沖縄	残留率	46.6	46.5	46.3	46.0	46.1	46.3	47.2	46.6	47.7	46.5
	指数	100.0	99.8	99.4	98.7	98.9	99.4	101.3	100.0	102.4	99.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率の推移(男子：大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年41.2%→2020年41.7%（0.5ポイント上昇）

・男子は2011年41.2%→2020年41.7%と0.5ポイント上昇。
・2020年上昇率が高いのは、1位 北陸（106.3）、2位 北関東（104.0）、3位 東海（103.4）。※
・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（66.5%）、2位 南関東（46.4%）、3位 東海（45.7%）。
・2020年残留率が低いのは、1位 北関東（20.9%）、2位 四国（22.7%）、3位 甲信越（24.1%）。
注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



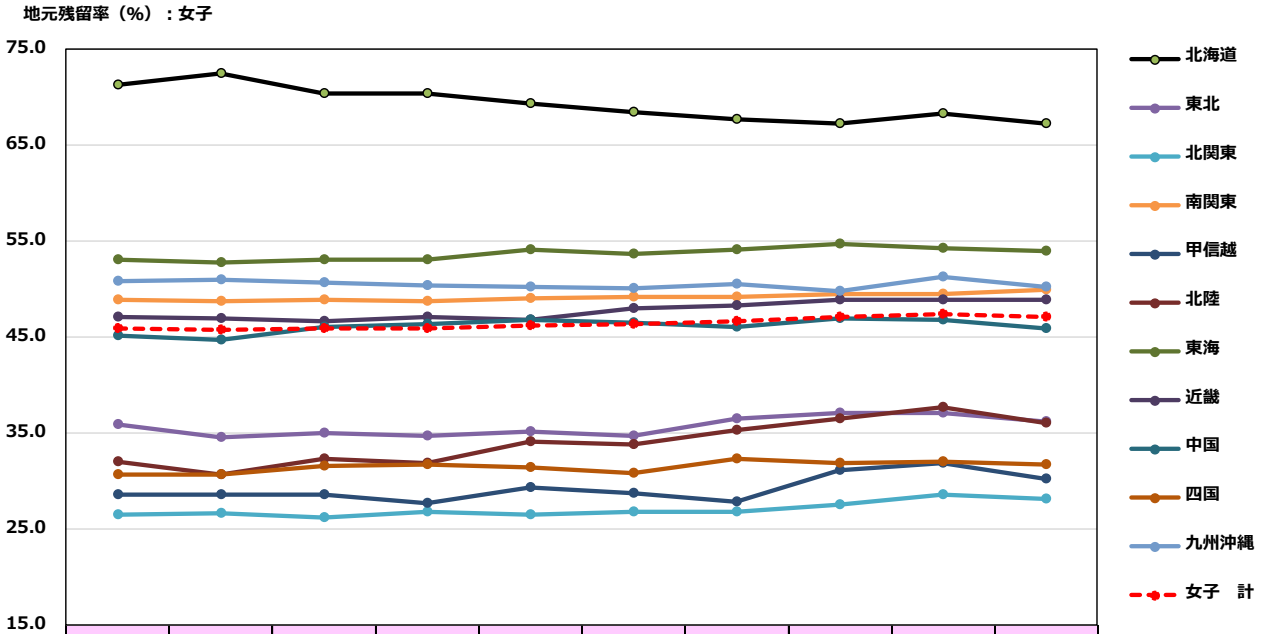
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
男子　計	残留率	41.2	41.2	41.4	41.0	41.5	41.6	42.0	41.9	41.9	41.7
	指数	100.0	100.0	100.5	99.5	100.7	101.0	101.9	101.7	101.7	101.2
北海道	残留率	68.2	67.8	68.5	67.1	67.5	66.1	66.8	66.6	67.1	66.5
	指数	100.0	99.4	100.4	98.4	99.0	96.9	97.9	97.7	98.4	97.5
東北	残留率	32.8	32.4	32.7	32.7	33.3	33.6	34.2	34.6	34.1	33.6
	指数	100.0	98.8	99.7	99.7	101.5	102.4	104.3	105.5	104.0	102.4
北関東	残留率	20.1	20.9	20.7	19.7	20.6	19.3	20.6	21.3	22.2	20.9
	指数	100.0	104.0	103.0	98.0	102.5	96.0	102.5	106.0	110.4	104.0
南関東	残留率	47.5	47.4	47.2	46.8	46.8	46.9	47.0	46.6	46.5	46.4
	指数	100.0	99.8	99.4	98.5	98.5	98.7	98.9	98.1	97.9	97.7
甲信越	残留率	24.6	23.9	24.5	23.7	25.4	24.3	24.5	23.3	24.7	24.1
	指数	100.0	97.2	99.6	96.3	103.3	98.8	99.6	94.7	100.4	98.0
北陸	残留率	28.5	28.9	29.9	29.6	28.8	28.6	31.5	31.0	31.7	30.3
	指数	100.0	101.4	104.9	103.9	101.1	100.4	110.5	108.8	111.2	106.3
東海	残留率	44.2	43.4	44.8	43.9	44.6	44.8	45.0	45.2	45.4	45.7
	指数	100.0	98.2	101.4	99.3	100.9	101.4	101.8	102.3	102.7	103.4
近畿	残留率	42.8	43.1	43.0	42.8	43.5	44.0	44.2	44.2	43.5	44.1
	指数	100.0	100.7	100.5	100.0	101.6	102.8	103.3	103.3	101.6	103.0
中国	残留率	34.8	34.8	35.3	35.2	35.3	35.7	35.7	35.8	35.7	35.7
	指数	100.0	100.0	101.4	101.1	101.4	102.6	102.6	102.9	102.6	102.6
四国	残留率	23.2	22.6	23.5	23.4	23.4	23.4	23.7	23.9	23.7	22.7
	指数	100.0	97.4	101.3	100.9	100.9	100.9	102.2	103.0	102.2	97.8
九州沖縄	残留率	43.3	42.9	42.9	42.4	42.7	43.4	44.5	44.0	44.6	43.2
	指数	100.0	99.1	99.1	97.9	98.6	100.2	102.8	101.6	103.0	99.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率の推移(女子：大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年45.9%→2020年47.0%（1.1ポイント上昇）

・女子は2011年45.9%→2020年47.0%と1.1ポイント上昇。
・2020年上昇率が高いのは、1位 北陸（112.9）、2位 北関東（106.0）、3位 甲信越（105.6）。※
・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（67.3%）、2位 東海（54.0%）、3位 九州沖縄（50.2%）。
・2020年残留率が低いのは、1位 北関東（28.1%）、2位 甲信越（30.2%）、3位 四国（31.6%）。
注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



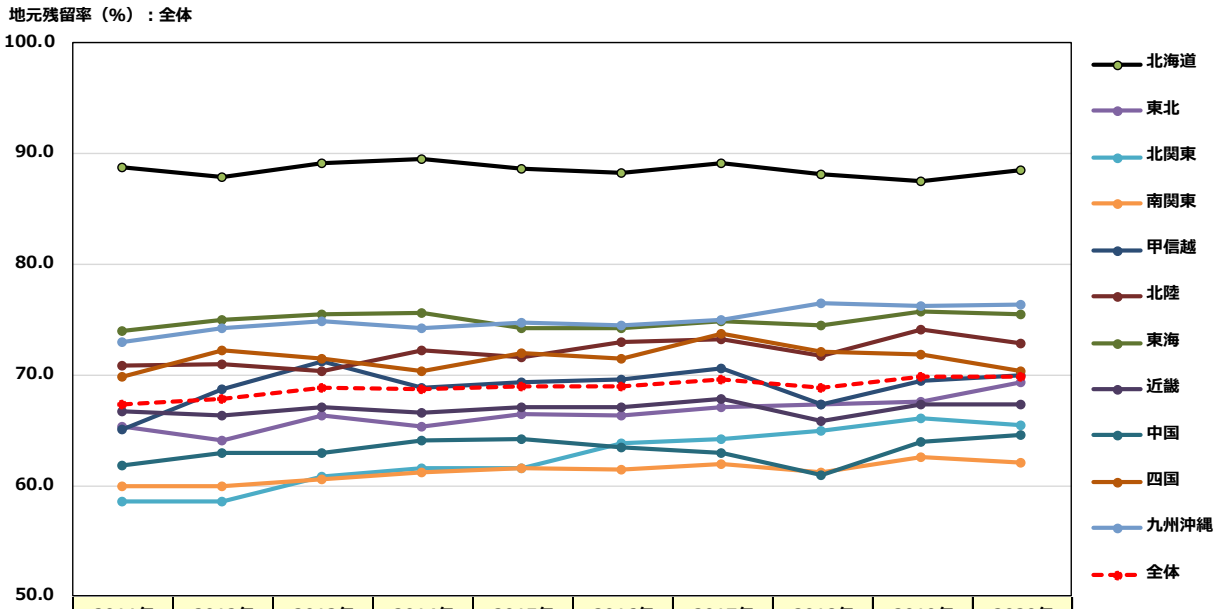
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
女子　計	残留率	45.9	45.7	45.8	45.9	46.2	46.3	46.6	47.0	47.3	47.0
	指数	100.0	99.6	99.8	100.0	100.7	100.9	101.5	102.4	103.1	102.4
北海道	残留率	71.2	72.5	70.3	70.3	69.3	68.4	67.7	67.3	68.3	67.3
	指数	100.0	101.8	98.7	98.7	97.3	96.1	95.1	94.5	95.9	94.5
東北	残留率	35.9	34.5	34.9	34.6	35.1	34.7	36.4	37.0	37.1	36.1
	指数	100.0	96.1	97.2	96.4	97.8	96.7	101.4	103.1	103.3	100.6
北関東	残留率	26.5	26.6	26.1	26.7	26.5	26.7	26.7	27.5	28.5	28.1
	指数	100.0	100.4	98.5	100.8	100.0	100.8	100.8	103.8	107.5	106.0
南関東	残留率	48.8	48.7	48.8	48.7	49.0	49.2	49.2	49.4	49.5	49.9
	指数	100.0	99.8	100.0	99.8	100.4	100.8	100.8	101.2	101.4	102.3
甲信越	残留率	28.6	28.6	28.5	27.7	29.3	28.7	27.8	31.0	31.8	30.2
	指数	100.0	100.0	99.7	96.9	102.4	100.3	97.2	108.4	111.2	105.6
北陸	残留率	31.9	30.7	32.3	31.8	34.0	33.7	35.2	36.5	37.6	36.0
	指数	100.0	96.2	101.3	99.7	106.6	105.6	110.3	114.4	117.9	112.9
東海	残留率	53.0	52.8	53.0	53.1	54.1	53.7	54.1	54.7	54.3	54.0
	指数	100.0	99.6	100.0	100.2	102.1	101.3	102.1	103.2	102.5	101.9
近畿	残留率	47.1	46.9	46.6	47.0	46.8	47.9	48.3	48.8	48.9	48.8
	指数	100.0	99.6	98.9	99.8	99.4	101.7	102.5	103.6	103.8	103.6
中国	残留率	45.1	44.6	46.0	46.3	46.7	46.4	46.0	46.9	46.8	45.8
	指数	100.0	98.9	102.0	102.7	103.5	102.9	102.0	104.0	103.8	101.6
四国	残留率	30.6	30.7	31.5	31.7	31.4	30.8	32.2	31.8	31.9	31.6
	指数	100.0	100.3	102.9	103.6	102.6	100.7	105.2	103.9	104.2	103.3
九州沖縄	残留率	50.8	50.9	50.6	50.4	50.2	50.0	50.5	49.8	51.3	50.2
	指数	100.0	100.2	99.6	99.2	98.8	98.4	99.4	98.0	101.0	98.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率の推移(全体：短期大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年67.4%→2020年69.9%（2.5ポイント上昇）

・全体で2011年67.4%→2020年69.9%と2.5ポイント上昇。
・2020年上昇率が高いのは、1位 北関東（111.8）、2位 甲信越（107.5）、3位 東北（106.1）。※
・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（88.5%）、2位 九州沖縄（76.4%）、3位 東海（75.5%）。
・2020年残留率が低いのは、1位 南関東（62.1%）、2位 中国（64.6%）、3位 北関東（65.5%）。
注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



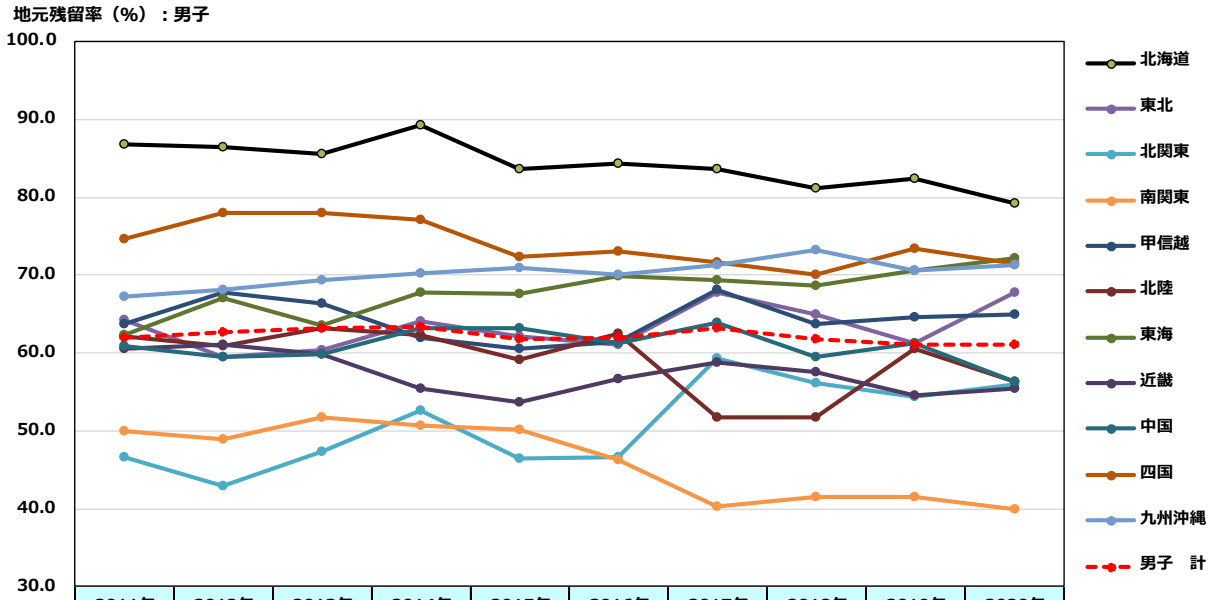
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全体	残留率	67.4	67.8	68.8	68.7	69.0	69.0	69.6	68.9	69.9	69.9
	指数	100.0	100.6	102.1	101.9	102.4	102.4	103.3	102.2	103.7	103.7
北海道	残留率	88.8	87.9	89.1	89.5	88.6	88.3	89.2	88.1	87.5	88.5
	指数	100.0	99.0	100.3	100.8	99.8	99.4	100.5	99.2	98.5	99.7
東北	残留率	65.3	64.1	66.3	65.4	66.5	66.4	67.1	67.4	67.6	69.3
	指数	100.0	98.2	101.5	100.2	101.8	101.7	102.8	103.2	103.5	106.1
北関東	残留率	58.6	58.6	60.8	61.6	61.6	63.8	64.2	65.0	66.1	65.5
	指数	100.0	100.0	103.8	105.1	105.1	108.9	109.6	110.9	112.8	111.8
南関東	残留率	59.9	59.9	60.6	61.2	61.6	61.4	62.0	61.2	62.6	62.1
	指数	100.0	100.0	101.2	102.2	102.8	102.5	103.5	102.2	104.5	103.7
甲信越	残留率	65.1	68.7	71.2	68.9	69.3	69.6	70.6	67.4	69.5	70.0
	指数	100.0	105.5	109.4	105.8	106.5	106.9	108.4	103.5	106.8	107.5
北陸	残留率	70.8	71.0	70.3	72.2	71.6	73.0	73.2	71.7	74.1	72.8
	指数	100.0	100.3	99.3	102.0	101.1	103.1	103.4	101.3	104.7	102.8
東海	残留率	74.0	75.0	75.5	75.6	74.3	74.2	74.9	74.5	75.8	75.5
	指数	100.0	101.4	102.0	102.2	100.4	100.3	101.2	100.7	102.4	102.0
近畿	残留率	66.7	66.3	67.1	66.6	67.1	67.1	67.8	65.8	67.4	67.4
	指数	100.0	99.4	100.6	99.9	100.6	100.6	101.6	98.7	101.0	101.0
中国	残留率	61.8	63.0	63.0	64.1	64.2	63.4	62.9	61.0	63.9	64.6
	指数	100.0	101.9	101.9	103.7	103.9	102.6	101.8	98.7	103.4	104.5
四国	残留率	69.8	72.2	71.5	70.3	72.0	71.5	73.8	72.1	71.8	70.3
	指数	100.0	103.4	102.4	100.7	103.2	102.4	105.7	103.3	102.9	100.7
九州沖縄	残留率	73.0	74.2	74.9	74.2	74.8	74.5	75.0	76.5	76.2	76.4
	指数	100.0	101.6	102.6	101.6	102.5	102.1	102.7	104.8	104.4	104.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率の推移(男子：短期大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年61.9%→2020年61.0%（0.9ポイント低下）

・男子は2011年61.9%→2020年61.0%と0.9ポイント低下。
・2020年上昇率が高いのは、1位 北関東（120.0）、2位 東海（115.7）、3位 九州沖縄（106.0）。※
・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（79.2%）、2位 東海（72.1%）、3位 四国（71.4%）。
・2020年残留率が低いのは、1位 南関東（40.0%）、2位 近畿（55.5%）、3位 北関東（55.9%）。
注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



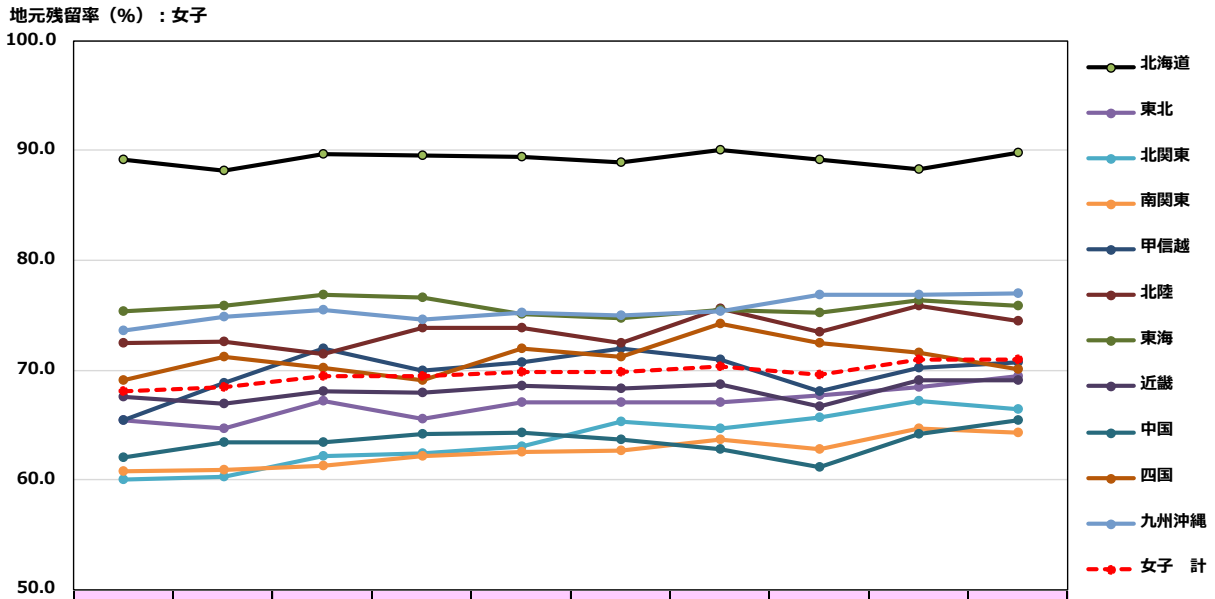
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
男子　計	残留率	61.9	62.6	63.2	63.3	61.7	62.0	63.2	61.8	61.0	61.0
	指数	100.0	101.1	102.1	102.3	99.7	100.2	102.1	99.8	98.5	98.5
北海道	残留率	86.8	86.5	85.5	89.3	83.7	84.3	83.7	81.1	82.4	79.2
	指数	100.0	99.7	98.5	102.9	96.4	97.1	96.4	93.4	94.9	91.2
東北	残留率	64.2	59.5	60.3	64.0	62.2	61.0	67.7	64.9	61.2	67.7
	指数	100.0	92.7	93.9	99.7	96.9	95.0	105.5	101.1	95.3	105.5
北関東	残留率	46.6	43.0	47.3	52.6	46.5	46.7	59.3	56.2	54.3	55.9
	指数	100.0	92.3	101.5	112.9	99.8	100.2	127.3	120.6	116.5	120.0
南関東	残留率	50.0	48.9	51.7	50.6	50.2	46.3	40.2	41.6	41.5	40.0
	指数	100.0	97.8	103.4	101.2	100.4	92.6	80.4	83.2	83.0	80.0
甲信越	残留率	63.7	67.8	66.3	61.9	60.6	61.4	68.1	63.8	64.6	65.0
	指数	100.0	106.4	104.1	97.2	95.1	96.4	106.9	100.2	101.4	102.0
北陸	残留率	62.2	60.9	63.1	62.3	59.1	62.5	51.8	51.8	60.5	56.3
	指数	100.0	97.9	101.4	100.2	95.0	100.5	83.3	83.3	97.3	90.5
東海	残留率	62.3	67.0	63.5	67.8	67.5	69.9	69.4	68.6	70.6	72.1
	指数	100.0	107.5	101.9	108.8	108.3	112.2	111.4	110.1	113.3	115.7
近畿	残留率	60.5	61.1	59.9	55.4	53.7	56.7	58.8	57.6	54.5	55.5
	指数	100.0	101.0	99.0	91.6	88.8	93.7	97.2	95.2	90.1	91.7
中国	残留率	60.9	59.4	59.8	63.2	63.2	61.3	63.9	59.4	61.3	56.4
	指数	100.0	97.5	98.2	103.8	103.8	100.7	104.9	97.5	100.7	92.6
四国	残留率	74.6	77.9	78.0	77.1	72.3	73.1	71.6	70.0	73.4	71.4
	指数	100.0	104.4	104.6	103.4	96.9	98.0	96.0	93.8	98.4	95.7
九州沖縄	残留率	67.2	68.2	69.3	70.2	70.9	70.1	71.3	73.3	70.6	71.2
	指数	100.0	101.5	103.1	104.5	105.5	104.3	106.1	109.1	105.1	106.0

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率の推移(女子：短期大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年68.1%→2020年71.0%（2.9ポイント上昇）

・女子は2011年68.1%→2020年71.0%と2.9ポイント上昇。
・2020年上昇率が高いのは、1位 北関東（110.7）、2位 甲信越（108.1）、3位 東北（106.3） 。※
・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（89.8%）、2位 九州沖縄（77.0%） 、3位 東海（75.9%）。
・2020年残留率が低いのは、1位 南関東（64.3%）、2位 中国（65.4%） 、3位 北関東（66.4%）。
注）※の( )内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
女子　計	残留率	68.1	68.4	69.5	69.4	69.8	69.8	70.3	69.6	70.9	71.0
	指数	100.0	100.4	102.1	101.9	102.5	102.5	103.2	102.2	104.1	104.3
北海道	残留率	89.2	88.2	89.7	89.5	89.4	88.9	90.1	89.2	88.3	89.8
	指数	100.0	98.9	100.6	100.3	100.2	99.7	101.0	100.0	99.0	100.7
東北	残留率	65.4	64.7	67.2	65.6	67.0	67.1	67.1	67.7	68.4	69.5
	指数	100.0	98.9	102.8	100.3	102.4	102.6	102.6	103.5	104.6	106.3
北関東	残留率	60.0	60.3	62.2	62.4	63.0	65.3	64.7	65.7	67.2	66.4
	指数	100.0	100.5	103.7	104.0	105.0	108.8	107.8	109.5	112.0	110.7
南関東	残留率	60.8	60.9	61.3	62.2	62.5	62.6	63.7	62.8	64.6	64.3
	指数	100.0	100.2	100.8	102.3	102.8	103.0	104.8	103.3	106.3	105.8
甲信越	残留率	65.4	68.8	71.9	69.9	70.7	72.0	71.0	68.0	70.2	70.7
	指数	100.0	105.2	109.9	106.9	108.1	110.1	108.6	104.0	107.3	108.1
北陸	残留率	72.4	72.6	71.5	73.9	73.9	72.5	75.6	73.5	75.8	74.5
	指数	100.0	100.3	98.8	102.1	102.1	100.1	104.4	101.5	104.7	102.9
東海	残留率	75.4	75.9	76.8	76.6	75.1	74.7	75.5	75.2	76.4	75.9
	指数	100.0	100.7	101.9	101.6	99.6	99.1	100.1	99.7	101.3	100.7
近畿	残留率	67.5	66.9	68.0	67.9	68.5	68.3	68.7	66.7	69.0	69.1
	指数	100.0	99.1	100.7	100.6	101.5	101.2	101.8	98.8	102.2	102.4
中国	残留率	62.0	63.4	63.4	64.2	64.3	63.7	62.8	61.2	64.1	65.4
	指数	100.0	102.3	102.3	103.5	103.7	102.7	101.3	98.7	103.4	105.5
四国	残留率	69.0	71.2	70.2	69.1	71.9	71.2	74.2	72.4	71.6	70.1
	指数	100.0	103.2	101.7	100.1	104.2	103.2	107.5	104.9	103.8	101.6
九州沖縄	残留率	73.6	74.8	75.5	74.6	75.2	75.0	75.4	76.8	76.8	77.0
	指数	100.0	101.6	102.6	101.4	102.2	101.9	102.4	104.3	104.3	104.6

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率(全体：大学・短期大学入学者数：都道府県別：2020年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の地元残留率1位は福岡

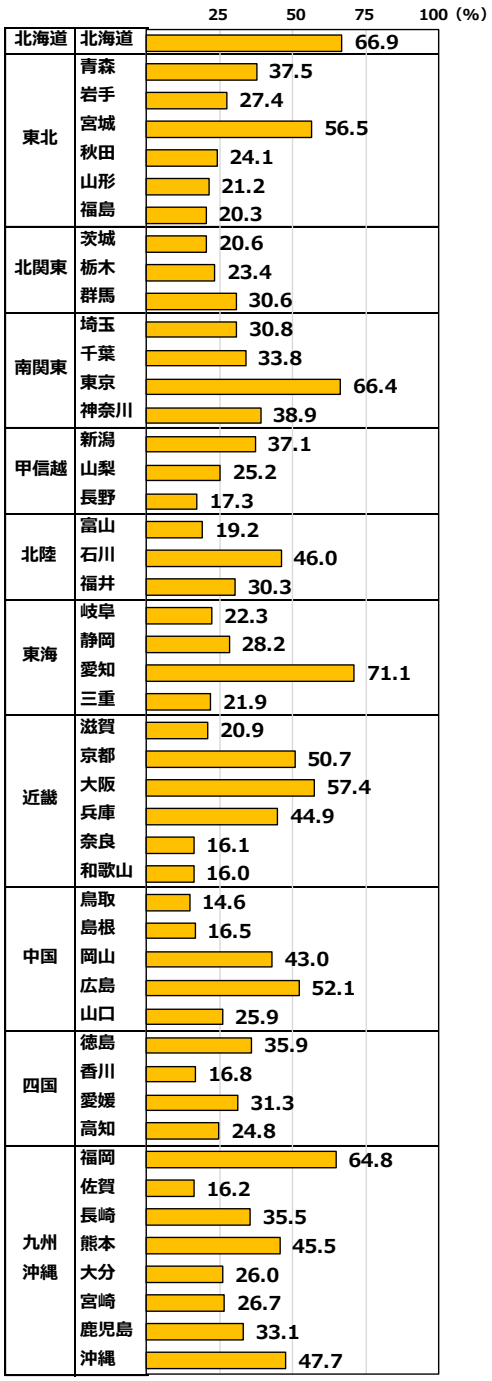
大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 愛知（71.1%）、2位 北海道（66.9%）、3位 東京（66.4%）
残留率が低いのは、1位 鳥取（14.6%）、2位 和歌山（16.0%）、3位 奈良（16.1%）

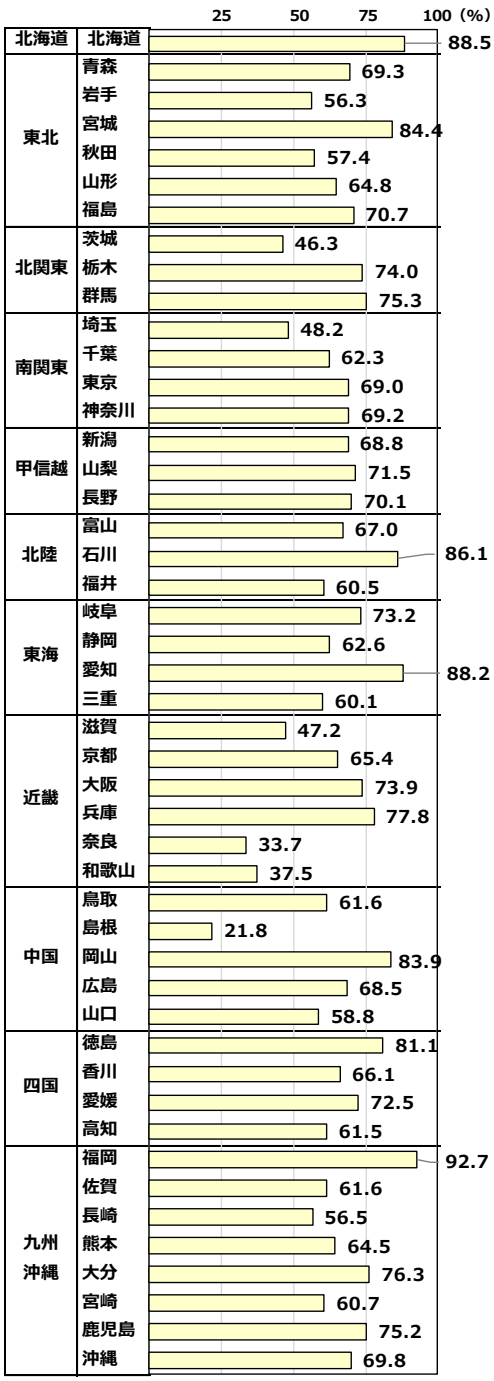
短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 福岡（92.7%）、2位 北海道（88.5%）、3位 愛知（88.2%）
残留率が低いのは、1位 島根（21.8%）、2位 奈良（33.7%）、3位 和歌山（37.5%）

【大学入学者地元残留率：全体】



【短期大学入学者地元残留率：全体】



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率(男子：大学・短期大学入学者数：都道府県別：2020年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の残留率1位は宮城

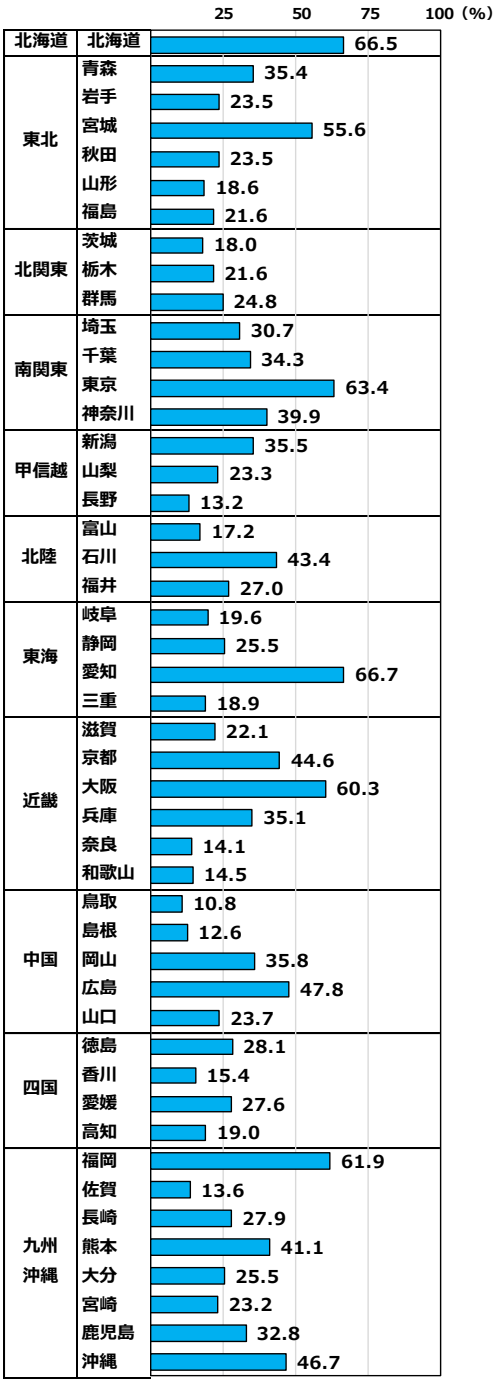
大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 愛知（66.7%）、2位 北海道（66.5%）、3位 東京（63.4%）
残留率が低いのは、1位 鳥取（10.8%）、2位 島根（12.6%）、3位 長野（13.2%）

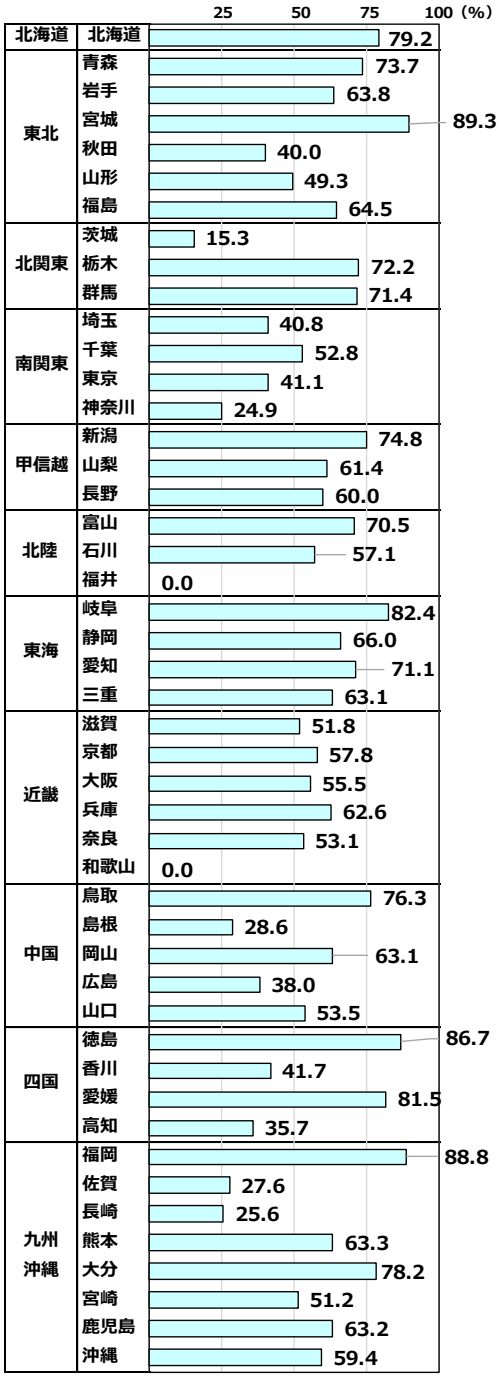
短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 宮城（89.3%）、2位 福岡（88.8%）、3位 徳島（86.7%）
残留率が低いのは、1位 茨城（15.3%）、2位 神奈川（24.3%）、3位 長崎（25.6%）

【大学入学者地元残留率：男子】



【短期大学入学者地元残留率：男子】



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率(女子：大学・短期大学入学者数：都道府県別：2020年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の地元残留率1位は福岡

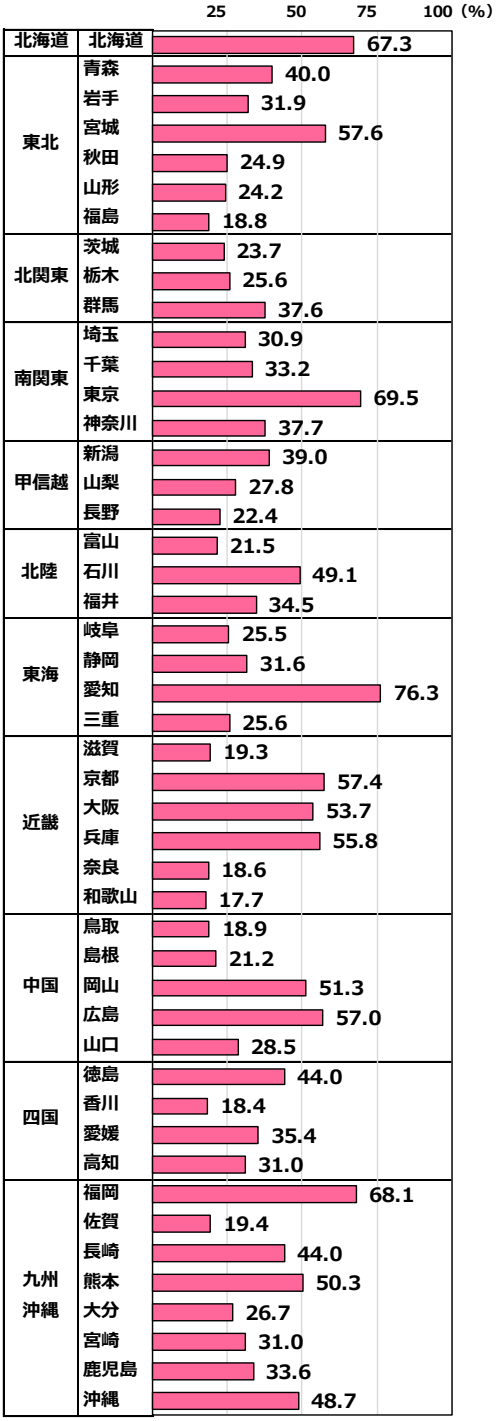
大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 愛知（76.3%）、2位 東京（69.5%）、3位 福岡（68.1%）
残留率が低いのは、1位 和歌山（17.7%）、2位 香川（18.4%）、3位 奈良（18.6%）

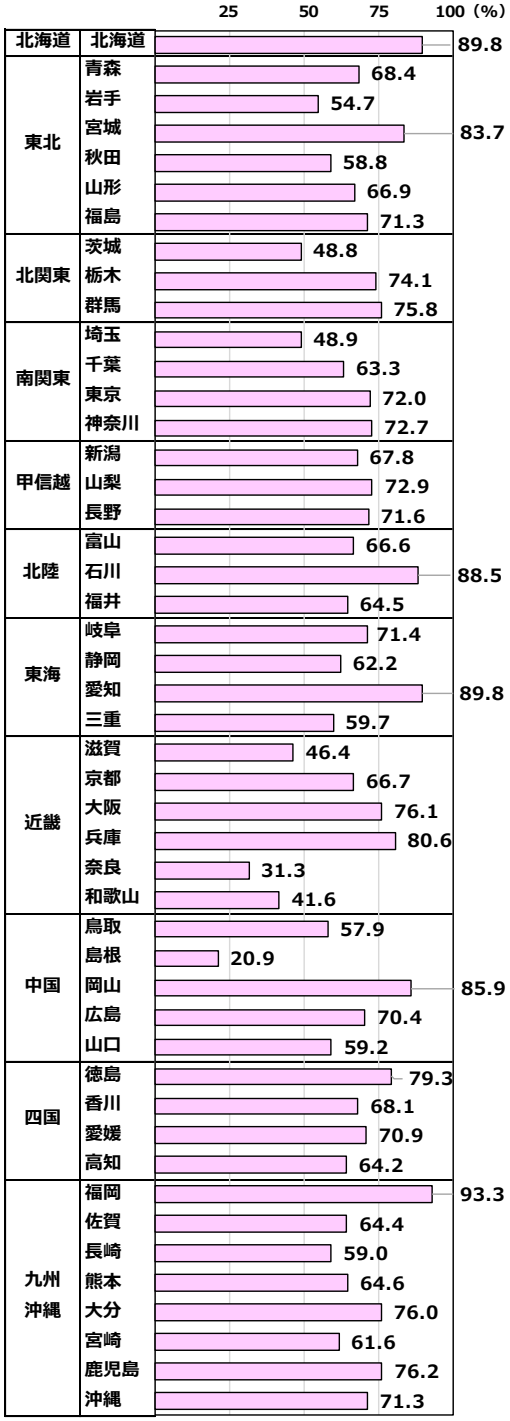
短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 福岡（93.3%）、2位 北海道・愛知（89.8%）
残留率が低いのは、1位 島根（20.9%）、2位 奈良（31.3%）、3位 和歌山（41.6%）

【大学入学者地元残留率：女子】



【短期大学入学者地元残留率：女子】



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口減少率×地元残留率　(大学入学者：都道府県別：2020→2032年)

■「象限④」（18歳人口減少率が高く地元残留率が低い）に多くの県が集まる

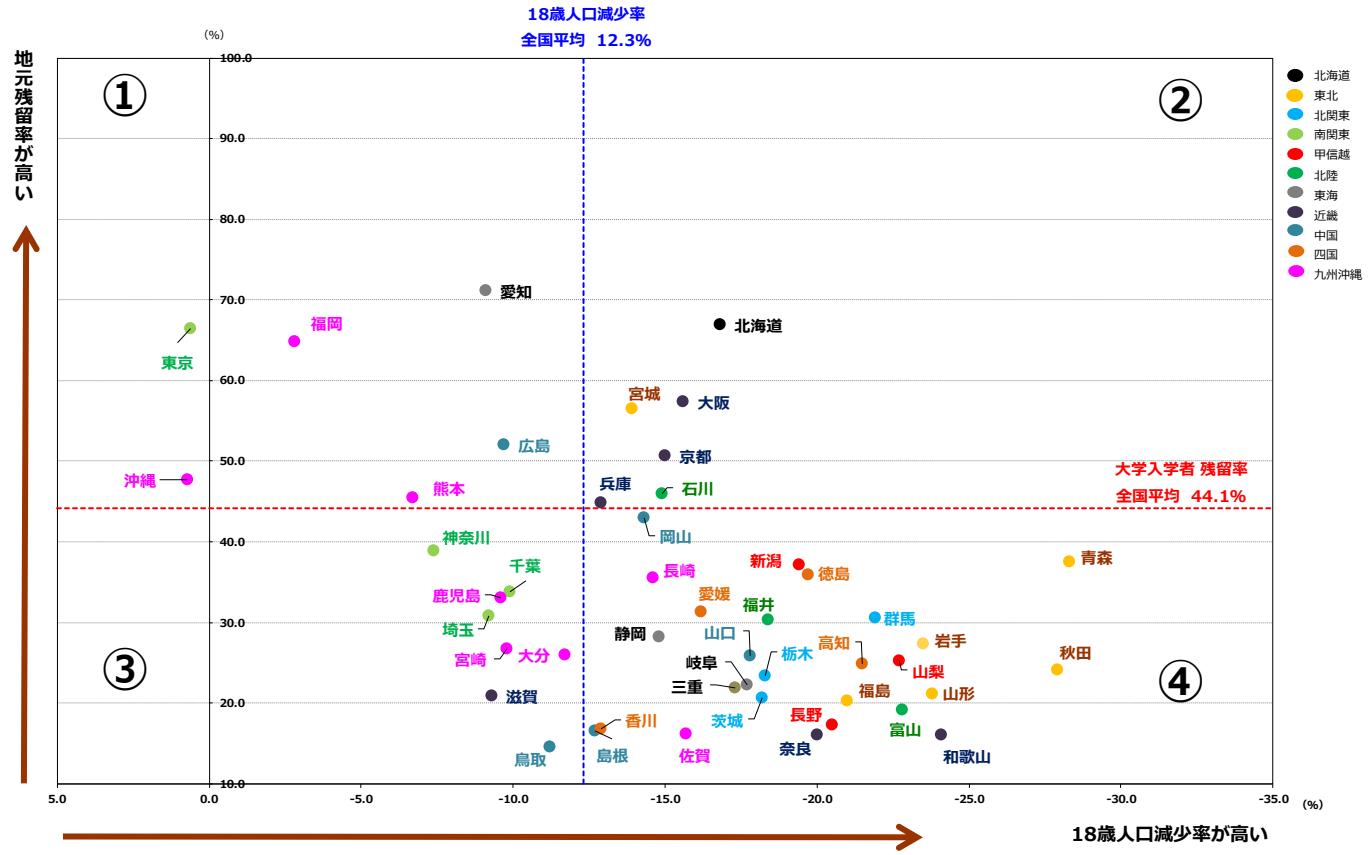
・全国平均でラインを引き4象限に分けると、以下のとおりになる。

象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い
：東京、愛知、広島、福岡、熊本、沖縄
→人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。

象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い
：北海道、宮城、石川、大阪、京都、兵庫
→18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。

象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い
：神奈川、千葉、埼玉、滋賀、鳥取、大分、宮崎、鹿児島
→人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。

象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い
：その他の県
→人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口減少率×地元残留率（短期大学入学者：都道府県別：2020→2032年）

■大学進学者と比較すると、地元に残留する傾向が強い

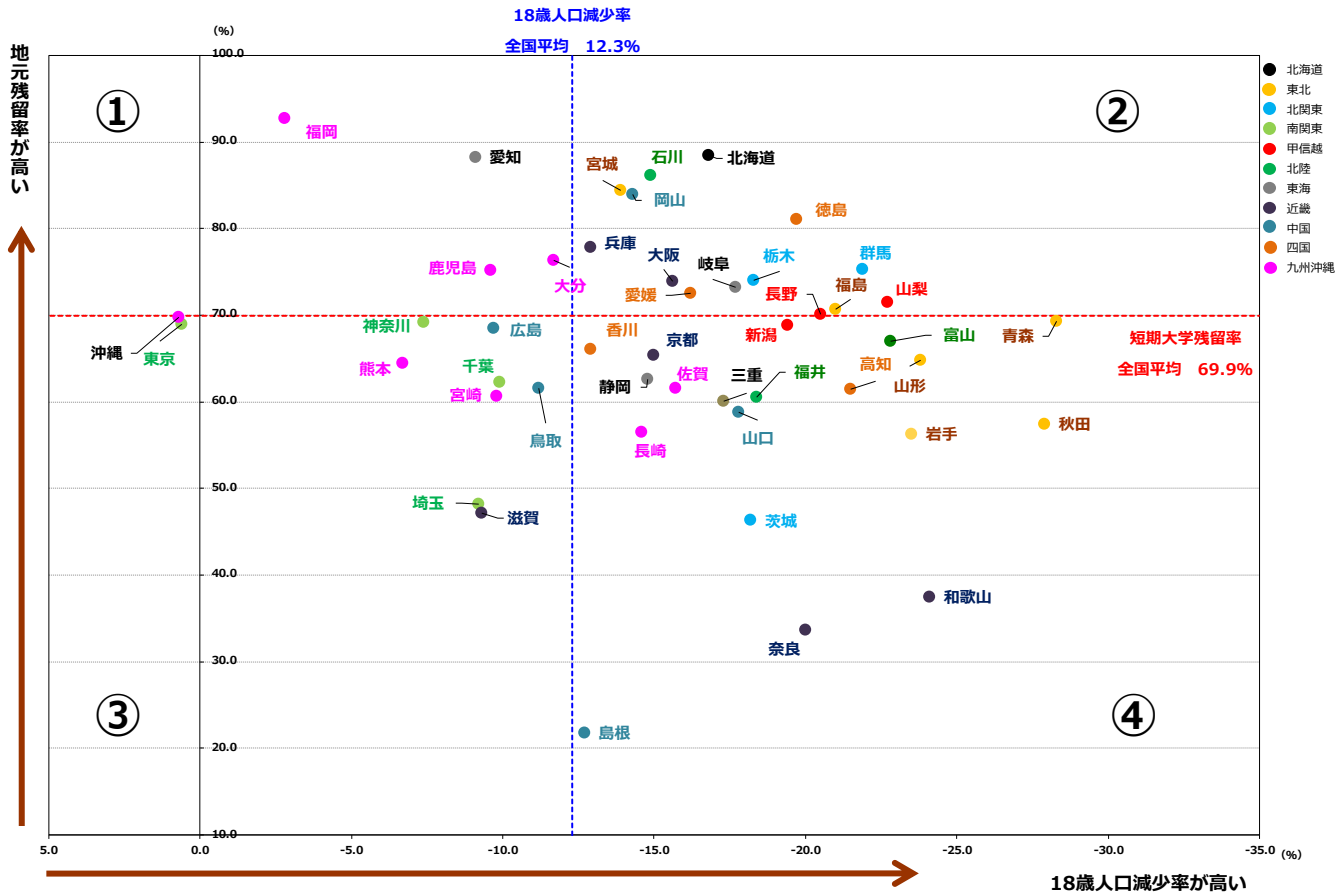
・短期大学の特性として比較的地元密着の傾向が強く、
大学進学者と比較すると地元残留率の平均が25.8ポイント高い。
・全国平均でラインを引き4象限に分けると、以下のとおりになる。

象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い
：愛知、福岡、大分、鹿児島
→人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。

象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い
：北海道、宮城、福島、群馬、栃木、山梨、長野、岐阜、石川、大阪、兵庫、岡山、愛媛、徳島
→18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。

象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い
：東京、埼玉、千葉、神奈川、滋賀、広島、鳥取、宮崎、熊本、沖縄
→人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。

象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い
：その他の府県
→人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

東洋大学
「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」
東洋大学大学院
「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」
（博士前期課程・博士後期課程）、
「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」
（博士前期課程・博士後期課程）
（いずれも仮称）設置に関するニーズ調査
結果報告書

【企業対象調査】

令和4年1月

株式会社　進研アド

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

企業対象　調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア（発送エリア）		宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、福岡県、佐賀県
調査方法		Web調査
調査対象数	依頼数	3,000社
	回収数（回収率）	515社（17.2%）
調査時期		2021年10月29日（金）～2021年11月26日（金）
調査実施機関		株式会社　進研アド

企業対象　調査概要

3. 調査項目

企業対象調査
・人事採用への関与度 ・本社所在地 ・業種 ・従業員数 ・正規社員の平均採用人数 ・本年度の採用予定数 ・採用したい学問分野 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」卒業生に対する採用意向 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」卒業生の毎年の採用想定人数 ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に対する魅力度 ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の社会的必要性 ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）修了生に対する採用意向 ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）修了生の毎年の採用想定人数

企業対象　調査結果まとめ

企業対象　調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)に対する人材需要を確認するための調査として設計。東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の卒業生、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の修了生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、515企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は25.8%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が63.5%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は、東洋大学の所在地である「東京都」が45.4%を占め、最も多い。次いで「埼玉県」が12.2%、「神奈川県」が11.5%である。
- 回答企業の業種としては「医療・福祉」が31.7%で最も多い。次いで「卸売・小売業」が10.9%、「サービス業」が10.3%である。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が43.5%で最も多い。次いで「1,000名～5,000名未満」が14.0%、「500名～1,000名未満」が13.2%である。

企業対象　調査結果まとめ

回答企業の採用状況（過去3か年）／本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が27.0％で最も多い。次いで「5名～10名未満」が20.2％、「10名～20名未満」が19.2％である。毎年、正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が65.6％で最も多い。次いで「増やす」が23.3％、「未定」が6.4％である。回答企業の多くで昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている様子である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が39.0％で最も高い。東洋大学「福祉社会デザイン学部」の学びと関連する分野としては、「社会学・社会福祉学」が29.5％、「生活科学（栄養学除く）」が8.9％、「教員養成・教育学・保育学」が17.3％、「工学」が18.3％である。また、東洋大学「健康スポーツ科学部」、および東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科」の学びと関連する分野としては、「スポーツ学」が13.6％、「栄養学（スポーツ栄養学含む）」が18.6％、「理学」が12.0％、「看護・保健学」が10.5％である。

企業対象　調査結果まとめ

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の各学科の特色に対する魅力度（※）は、以下のとおり。
- 「A.【福祉社会デザイン学部　社会福祉学科】『社会福祉政策系』『福祉社会開発系』『福祉臨床系』の3コースで、理論から実践まで幅広く学び、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格を、希望に応じて複数取得できる学びを展開」の魅力度は71.3％である。
- 「B.【福祉社会デザイン学部　子ども支援学科】保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学を統合した子ども支援学を追究し、多文化共生やICT活用など現代的なテーマを学ぶとともに、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士(受験資格)を取得できる学びを展開」の魅力度は70.9％である。
- 「C.【福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科】『空間デザイン』『生活環境デザイン』『プロダクトデザイン』の3分野で、建築、福祉住環境計画、都市計画から個々の製品や情報とその活用まで、人間中心設計の視点で幅広い『デザイン』の概念・手法を学ぶ」の魅力度は73.0％である。
- 「D.【健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科】アスリート支援や競技パフォーマンス向上等のスポーツ科学から、生理・生化学、運動生理学等の身体理解、さらに教育、文化、ビジネスまで、健康・スポーツのあらゆる分野から選べる幅広い学び」の魅力度は74.4％である。
- 「E.【健康スポーツ科学部　栄養科学科】栄養学、食品機能、スポーツ栄養など、食と栄養に係わる分野を幅広く扱うとともに、栄養士など資格関連科目を充実させ、さらに健康関連企業との連携により栄養科学、栄養管理のスペシャリストを育成」の魅力度は73.6％である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

①福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

企業対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の社会的必要性

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の社会的必要性についての評価は、96.7％（515企業中、**498企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、71.7％（515企業中、**369企業**）である。
- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた369企業へ東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**800名**で、予定している入学定員数216名を3倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、71.6％（497企業中、**356企業**）。採用想定人数の合計は**779人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。また、「東京都」に本社がある企業で絞ると、採用意向は、67.5％（234企業中、**158企業**）。採用想定人数の合計は**341人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇業種別

- 「医療・福祉」の企業からの採用意向は、90.2％（163企業中、**147企業**）。採用想定人数の合計は**450人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　社会福祉学科

◇従業員数別

- 従業員数が「100名～500名未満」「1,000名以上」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の学びに関連のある「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、92.8％（152企業中、**141企業**）。採用想定人数の合計は**374人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、88.6％（367企業中、**325企業**）。採用想定人数の合計は**741人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別（必要だと思う）

- 「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、73.3％（498企業中、**365企業**）。採用想定人数の合計は**795人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

②福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

企業対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の社会的必要性

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の社会的必要性についての評価は、96.3％（515企業中、**496企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、70.7％（515企業中、**364企業**）である。
- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた364企業へ東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**747名**で、予定している入学定員数100名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、71.0％（497企業中、**353企業**）。採用想定人数の合計は**732人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、76.2％（63企業中、**48企業**）。採用想定人数の合計は**111人**で、予定している入学定員数を上回っている。「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、68.8％（234企業中、**161企業**）。採用想定人数の合計は**341人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、78.0％（59企業中、**46企業**）。採用想定人数の合計は**102人**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

◇業種別

- 「医療・福祉」の企業からの採用意向は、89.0％（163企業中、**145企業**）。採用想定人数の合計は**371人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇従業員数別

- 従業員数が「100名～500名未満」「500名～1,000名未満」「1,000名以上」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の学びに関連のある「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、81.6％（152企業中、**124企業**）。採用想定人数の合計は**260人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。また、同様に関連のある「教員養成・教育学・保育学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、93.3％（89企業中、**83企業**）。採用想定人数の合計は**235人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

  また、直接関連する分野以外では、「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、81.4％（70企業中、**57企業**）。採用想定人数の合計は**112人**で、予定している入学定員数を上回っている。「栄養学（スポーツ栄養学含む）」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、65.6％（96企業中、**63企業**）。採用想定人数の合計は**122人**で、予定している入学定員数を上回っている。「経済・経営・商学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、59.4％（128企業中、**76企業**）。採用想定人数の合計は**124人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、84.7％（365企業中、**309企業**）。採用想定人数の合計は**667人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　子ども支援学科

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別
（必要だと思う）

- 「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、72.8％（496企業中、**361企業**）。採用想定人数の合計は**740人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

③福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

企業対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の社会的必要性

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の社会的必要性についての評価は、90.5％（515企業中、**466企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、72.0％（515企業中、**371企業**）である。
- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた371企業へ東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**641名**で、予定している入学定員数160名を4倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、71.8％（497企業中、**357企業**）。採用想定人数の合計は**623人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。また、「東京都」に本社がある企業で絞ると、採用意向は、73.5％（234企業中、**172企業**）。採用想定人数の合計は**293人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇業種別

- 「医療・福祉」の企業からの採用意向は、62.6％（163企業中、**102企業**）。採用想定人数の合計は**199人**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科

◇従業員数別

- 従業員数が「100名～500名未満」「1,000名以上」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の学びに関連のある「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、72.4%（152企業中、**110企業**）。採用想定人数の合計は**201人**で、予定している入学定員数を上回っている。また、同様に関連する分野である「生活科学（栄養学除く）」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、89.1%（46企業中、**41企業**）。採用想定人数の合計は**86人**。「工学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、84.0%（94企業中、**79企業**）。採用想定人数の合計は**126人**である。

  また、直接関連する分野以外では、「経済・経営・商学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、81.3%（128企業中、**104企業**）。採用想定人数の合計は**168人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、86.4%（376企業中、**325企業**）。採用想定人数の合計は**586人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別（必要だと思う）

- 「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、75.5%（466企業中、**352企業**）。採用想定人数の合計は**616人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

④健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科

東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の社会的必要性

- 東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の社会的必要性についての評価は、90.7％（515企業中、**467企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、68.2％（515企業中、**351企業**）である。
- 東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた351企業へ東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**661名**で、予定している入学定員数230名を2倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、68.0％（497企業中、**338企業**）。採用想定人数の合計は**643人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。また、「東京都」に本社がある企業で絞ると、採用意向は、67.9％（234企業中、**159企業**）。採用想定人数の合計は**315人**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科

◇従業員数別

- 従業員数が「100名～500名未満」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の学びに関連のある「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、100.0％（70企業中、**70企業**）。採用想定人数の合計は**159人**。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、68.5％（54企業中、**37企業**）。採用想定人数の合計は**80人**である。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、85.4％（383企業中、**327企業**）。採用想定人数の合計は**618人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別（必要だと思う）

- 「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、72.4％（467企業中、**338企業**）。採用想定人数の合計は**644人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

⑤健康スポーツ科学部　栄養科学科

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学部　栄養科学科

東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の社会的必要性

- 東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の社会的必要性についての評価は、93.8％（515企業中、**483企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、69.5％（515企業中、**358企業**）である。
- 東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた358企業へ東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**656名**で、予定している入学定員数100名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、69.4％（497企業中、**345企業**）。採用想定人数の合計は**635人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「東京都」に本社がある企業で絞ると、採用意向は、70.5％（234企業中、**165企業**）。採用想定人数の合計は**308人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇業種別

- 「医療・福祉」の企業からの採用意向は、71.8％（163企業中、**117企業**）。採用想定人数の合計は**205人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学部　栄養科学科

◇従業員数別

- 従業員数が「100名～500名未満」「1,000名以上」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の学びに関連のある「栄養学（スポーツ栄養学含む）」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、94.8%（96企業中、**91企業**）。採用想定人数の合計は**194人**で、予定している入学定員数を上回っている。

  また、直接関連する分野以外では、「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、84.3%（70企業中、**59企業**）。採用想定人数の合計は**109人**で、予定している入学定員数を上回っている。「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、67.1%（152企業中、**102企業**）で採用想定人数の合計は**160人**、「経済・経営・商学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、67.2%（128企業中、**86企業**）で採用想定人数の合計は**157人**、「教員養成・教育学・保育学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、67.4%（89企業中、**60企業**）で採用想定人数の合計は**119人**と、いずれも予定している入学定員数を上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、85.5%（379企業中、**324企業**）。採用想定人数の合計は**616人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別（必要だと思う）

- 「健康スポーツ科学部　栄養科学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、72.7%（483企業中、**351企業**）。採用想定人数の合計は**648人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象　調査結果まとめ

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に対する魅力度

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の各研究科の特色に対する魅力度（※）は、以下のとおり。
- 「A.【健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）】科学的根拠に基づいて、健康増進、介護予防、スポーツ振興やアスリート支援を可能にするため、健康スポーツ科学領域における幅広くかつ専門的知識を有し、その知識を有機的に活用できる人材を育成する」の魅力度は70.7％である。
- 「B.【健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）】『スポーツサイエンス＆カルチャー』『アスレティックコンディショニング＆コーチング』『ヘルスプロモーション＆エデュケーション』の3つの学問分野を、複合的・横断的に研究し、アスリートの競技力向上と人々の健康増進に科学的にアプローチする」の魅力度は63.9％である。
- 「A.【健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）】栄養学とデータサイエンス・スポーツサイエンスを融合した『栄養科学』について研究し、科学的根拠に基づいた健康寿命延伸策の実現や、スポーツ栄養学的立場からアスリート支援を可能にするための専門的知識を修得する」の魅力度は70.1％である。
- 「B.【健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）】栄養科学領域の専門性の修得に加えて、健康スポーツ科学専攻の『スポーツサイエンス』『ヘルスプロモーション＆エデュケーション』領域とあわせて、両者を兼ね備えたプロフェッショナルを育成する」の魅力度は68.3％である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

⑥健康スポーツ科学研究科
健康スポーツ科学専攻（博士前期課程）

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士前期課程）

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）の社会的必要性

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）の社会的必要性についての評価は、88.2%（515企業中、**454企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）修了生を「採用したいと思う」と答えた企業は、55.3%（515企業中、**285企業**）である。
- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）の修了生を「採用したいと思う」と答えた285企業へ東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**455名**で、予定している入学定員数20名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士前期課程）

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、55.3％（497企業中、**275企業**）。採用想定人数の合計は**444人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、50.8％（63企業中、**32企業**）。採用想定人数の合計は**52人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、58.5％（234企業中、**137企業**）。採用想定人数の合計は**221人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、50.8％（59企業中、**30企業**）。採用想定人数の合計は**41人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- 「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）の学問内容と関連のある「スポーツ関連業」の企業からの採用意向は、90.0％（20企業中、**18企業**）。採用想定人数の合計は**34人**で、予定している入学定員数を上回っている。また、同様に関連のある「医療・福祉」の企業からの採用意向は、54.6％（163企業中、**89企業**）。採用想定人数の合計は**141人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇従業員数別

- 従業員数にかかわらず、定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）の学びに関連のある「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、87.1％（70企業中、**61企業**）。採用想定人数の合計は**91人**で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、61.1％（54企業中、**33企業**）。採用想定人数の合計は**49人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士前期課程）

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に対する魅力度別

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、A・Bどちらの特色でも7割を超えている。採用想定人数の合計も400人以上と、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の社会的必要性別（必要だと思う）

- 「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、60.8％（454企業中、**276企業**）。採用想定人数の合計は**437人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

⑦健康スポーツ科学研究科
健康スポーツ科学専攻（博士後期課程）

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士後期課程）

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）の社会的必要性

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）の社会的必要性についての評価は、87.2％（515企業中、**449企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）修了生を「採用したいと思う」と答えた企業は、53.6％（515企業中、**276企業**）である。
- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）の修了生を「採用したいと思う」と答えた276企業へ東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**430名**で、予定している入学定員数5名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士後期課程）

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、53.5％（497企業中、**266企業**）。採用想定人数の合計は**419人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、50.8％（63企業中、**32企業**）、採用想定人数の合計は**50人**、「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、56.0％（234企業中、**131企業**）、採用想定人数の合計は**207人**、「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、50.8％（59企業中、**30企業**）、採用想定人数の合計は**36人**で、いずれも予定している入学定員数を大きく上回っている。「関東以北以外」のエリアに本社がある企業からの採用意向は、55.6％（18企業中、**10企業**）。採用想定人数の合計は**11人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- 「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）の学問内容と関連のある「スポーツ関連業」の企業からの採用意向は、85.0％（20企業中、**17企業**）。採用想定人数の合計は**31人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「医療・福祉」の企業からの採用意向は、53.4％（163企業中、**87企業**）。採用想定人数の合計は**139人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇従業員数別

- 従業員数にかかわらず、定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）の学びに関連のある「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、82.9％（70企業中、**58企業**）。採用想定人数の合計は**80人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、57.4％（54企業中、**31企業**）。採用想定人数の合計は**43人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士後期課程）

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に対する魅力度別

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、A・Bどちらの特色でも7割を超えている。採用想定人数の合計も400人前後と、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の社会的必要性別（必要だと思う）

- 「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、59.7％（449企業中、**268企業**）。採用想定人数の合計は**420人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

⑧健康スポーツ科学研究科
栄養科学専攻（博士前期課程）

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士前期課程）

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）の社会的必要性

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）の社会的必要性についての評価は、89.9％（515企業中、**463企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）修了生を「採用したいと思う」と答えた企業は、55.9％（515企業中、**288企業**）である。
- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）の修了生を「採用したいと思う」と答えた288企業へ東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**461名**で、予定している入学定員数10名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士前期課程）

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、56.1％（497企業中、**279企業**）。採用想定人数の合計は**451人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、47.6％（63企業中、**30企業**）、採用想定人数の合計は**54人**、「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、59.0％（234企業中、**138企業**）、採用想定人数の合計は**212人**で、どちらも予定している入学定員数を大きく上回っている。「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、47.5％（59企業中、**28企業**）。採用想定人数の合計は**38人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。「関東以北以外」のエリアに本社がある企業からの採用意向は、50.0％（18企業中、**9企業**）。採用想定人数の合計は**10人**で、予定している入学定員数と同数である。

◇業種別

- 「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）の学問内容と関連のある「スポーツ関連業」の企業からの採用意向は、75.0％（20企業中、**15企業**）。採用想定人数の合計は**28人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。また、同様に関連のある「医療・福祉」の企業からの採用意向は、56.4％（163企業中、**92企業**）。採用想定人数の合計は**140人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇従業員数別

- 従業員数にかかわらず、定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）の学びに関連のある「栄養学（スポーツ栄養学含む）」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、74.0％（96企業中、**71企業**）。採用想定人数の合計は**119人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、63.0％（54企業中、**34企業**）。採用想定人数の合計は**54人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士前期課程）

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に対する魅力度別

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、A・Bどちらの特色でも7割を超えている。採用想定人数の合計も400人以上と、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の社会的必要性別（必要だと思う）

- 「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、60.7％（463企業中、**281企業**）。採用想定人数の合計は**452人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

⑨健康スポーツ科学研究科
栄養科学専攻（博士後期課程）

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士後期課程）

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）の社会的必要性

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）の社会的必要性についての評価は、88.7％（515企業中、**457企業**）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）修了生を「採用したいと思う」と答えた企業は、54.0％（515企業中、**278企業**）である。
- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）の修了生を「採用したいと思う」と答えた278企業へ東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**446名**で、予定している入学定員数3名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士後期課程）

＜属性別＞

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、54.1％（497企業中、**269企業**）。採用想定人数の合計は**436人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、46.0％（63企業中、**29企業**）、採用想定人数の合計は**49人**、「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、57.3％（234企業中、**134企業**）、採用想定人数の合計は**208人**、「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、47.5％（59企業中、**28企業**）、採用想定人数の合計は**38人**で、いずれも予定している入学定員数を大きく上回っている。「関東以北以外」のエリアに本社がある企業からの採用意向は、50.0％（18企業中、**9企業**）。採用想定人数の合計は**10人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇業種別

- 「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）の学問内容と関連のある「スポーツ関連業」の企業からの採用意向は、75.0％（20企業中、**15企業**）。採用想定人数の合計は**28人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「医療・福祉」の企業からの採用意向は、53.4％（163企業中、**87企業**）。採用想定人数の合計は**135人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇従業員数別

- 従業員数にかかわらず、定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- 「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）の学びに関連のある「栄養学（スポーツ栄養学含む）」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、69.8％（96企業中、**67企業**）。採用想定人数の合計は**109人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、57.4％（54企業中、**31企業**）。採用想定人数の合計は**47人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象　調査結果まとめ
健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士後期課程）

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に対する魅力度別

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、A・Bどちらの特色でも7割を超えている。採用想定人数の合計も400人以上と、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の社会的必要性別（必要だと思う）

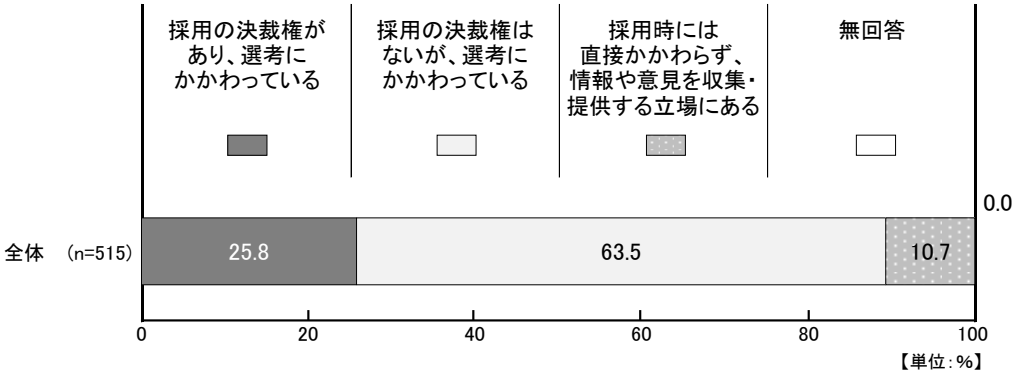
- 「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、59.1％（457企業中、**270企業**）。採用想定人数の合計は**436人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象　調査結果

回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度／本社所在地)

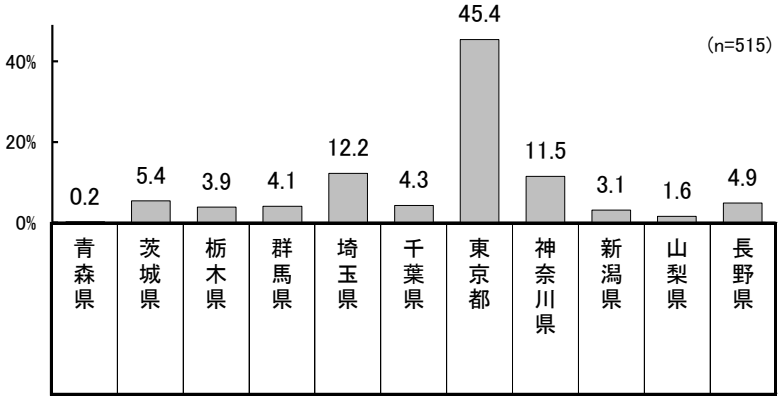
■人事採用への関与度

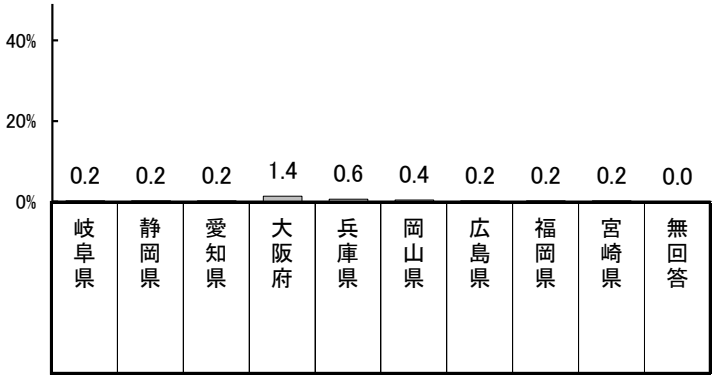
Q1. あなたの人事採用への関与度をお教えください。(1つだけ)



■本社所在地

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えください。

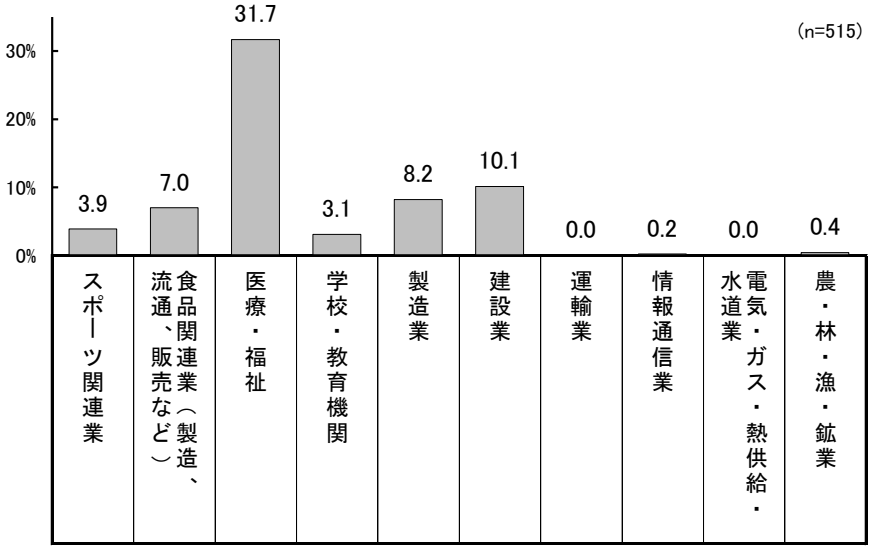


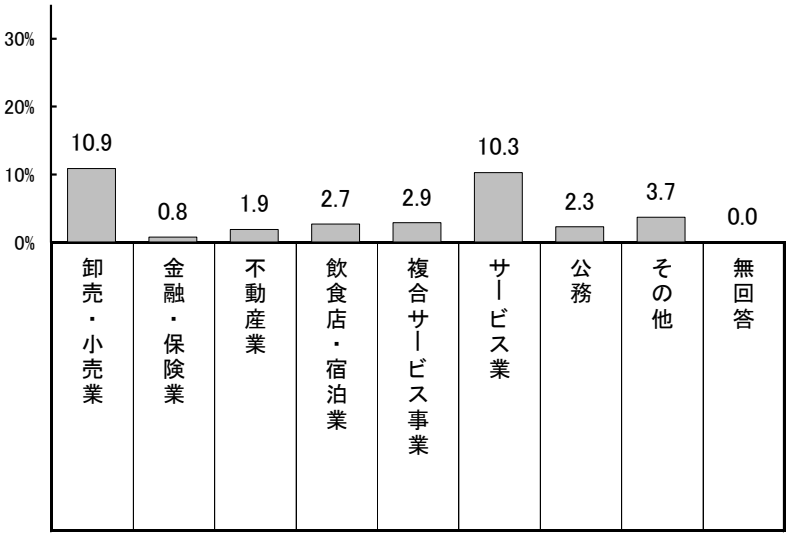


回答企業(回答者)の属性(業種)

■業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(もっともあてはまるもの1つだけ)

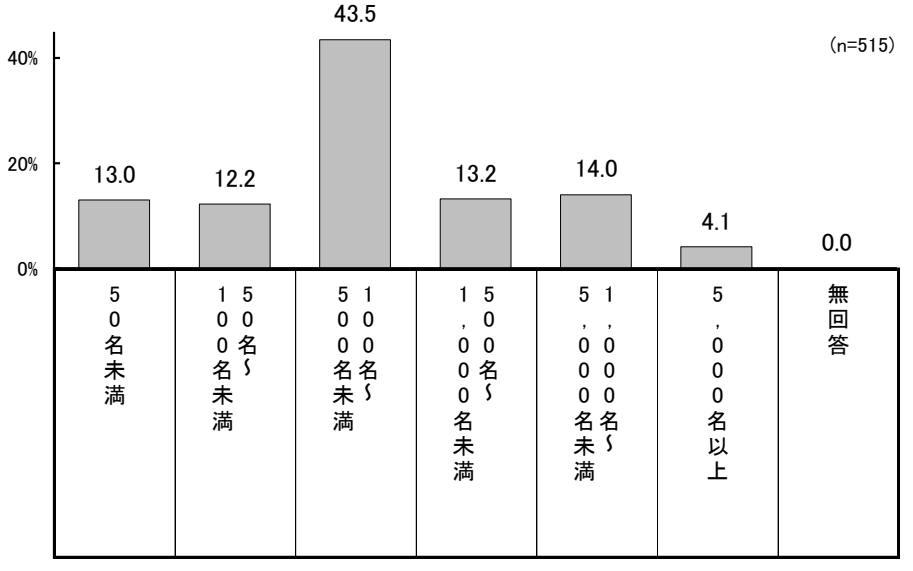




回答企業(回答者)の属性(従業員数)

■従業員数

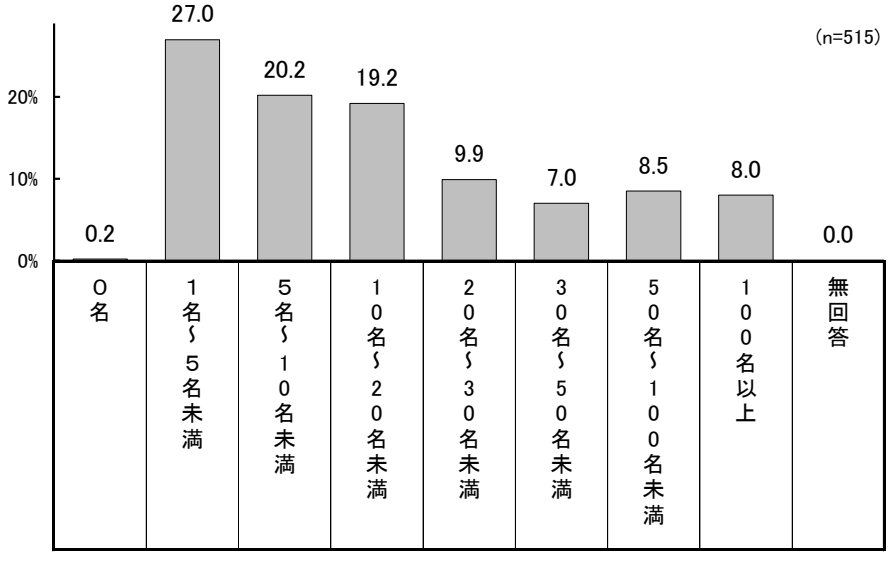
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(1つだけ)



正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数

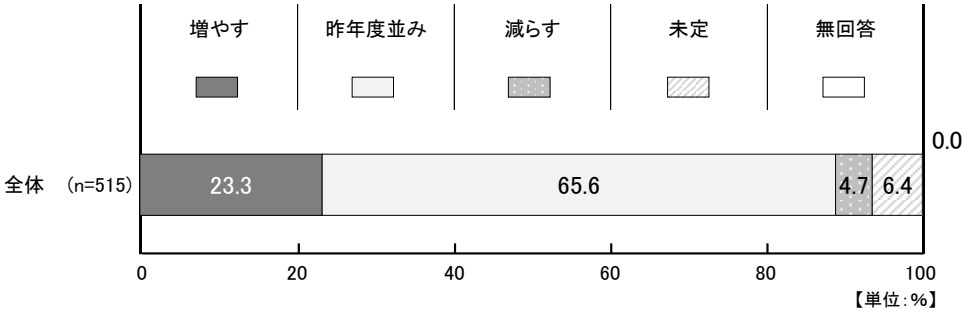
■正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。（1つだけ）



■本年度の採用予定数

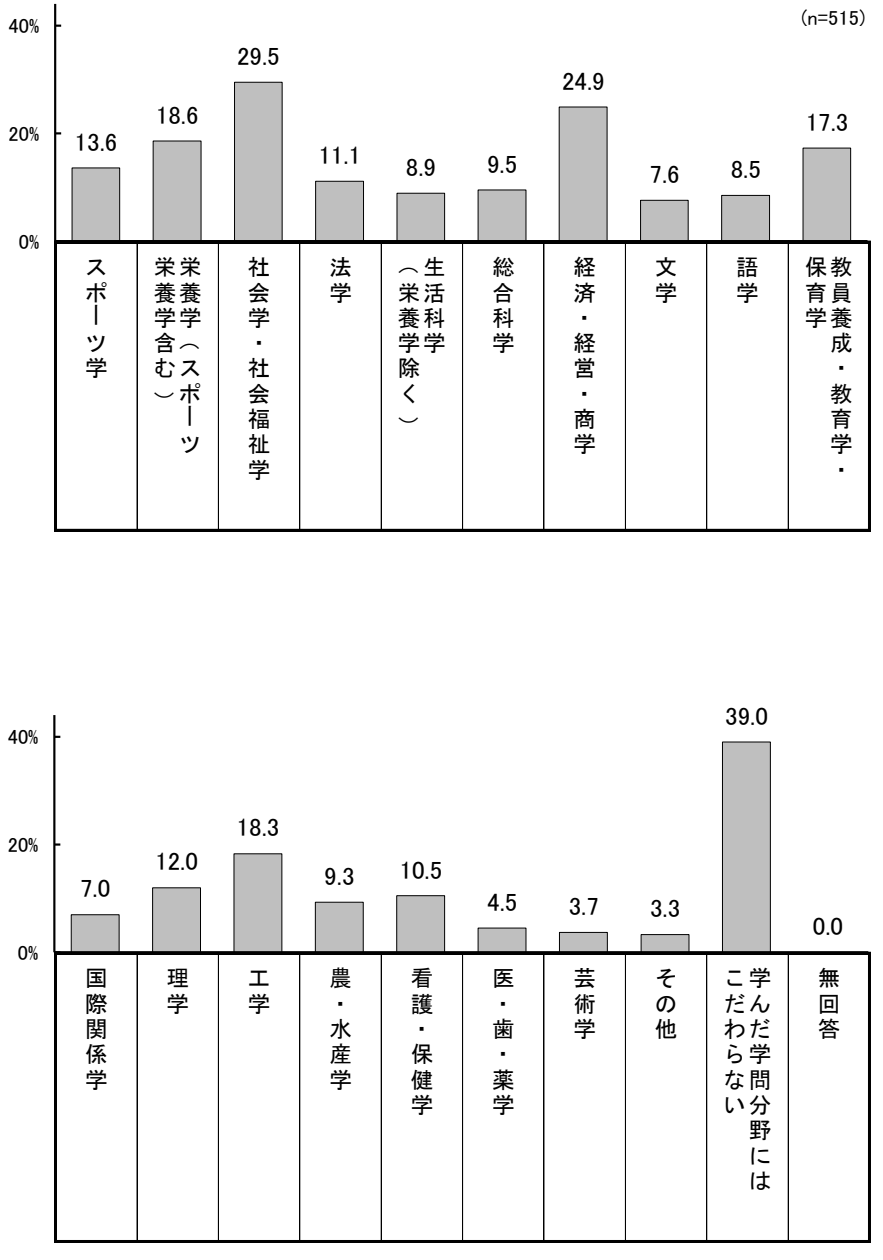
Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。（1つだけ）



採用したい学問分野

■採用したい学問分野

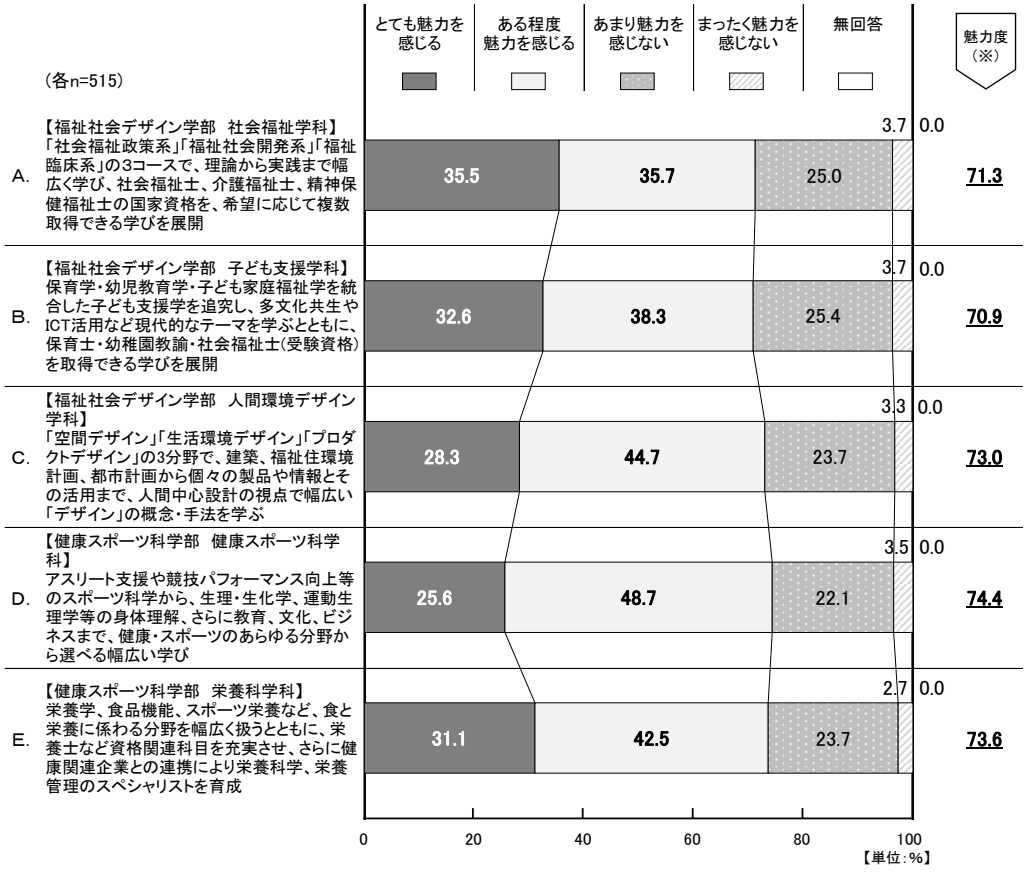
Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学や大学院でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
（あてはまるものすべて）



東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

Q8. 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



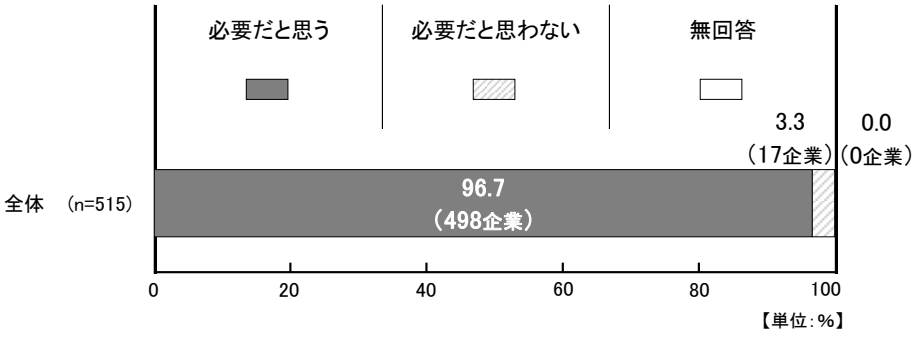
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

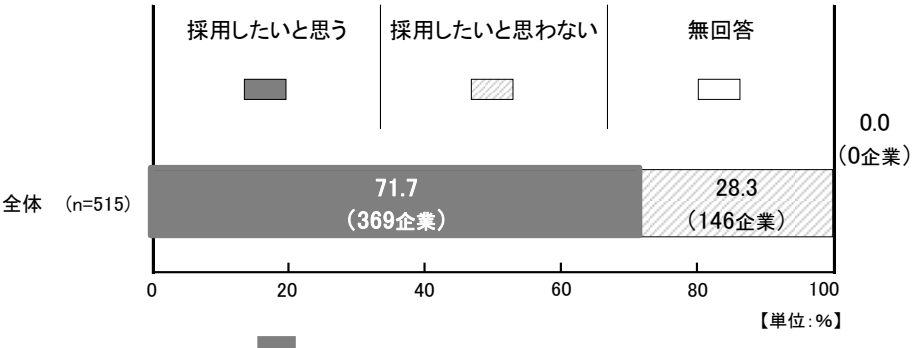
■東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」卒業生に対する採用意向

Q10.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた369企業のみ抽出

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11.Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	369	%	58.0%	17.3%	10.0%	0.8%	9.5%	4.3%		
		企業数	214	64	37	3	35	16	⇒	369
		名	214	128	111	12	175	160		800

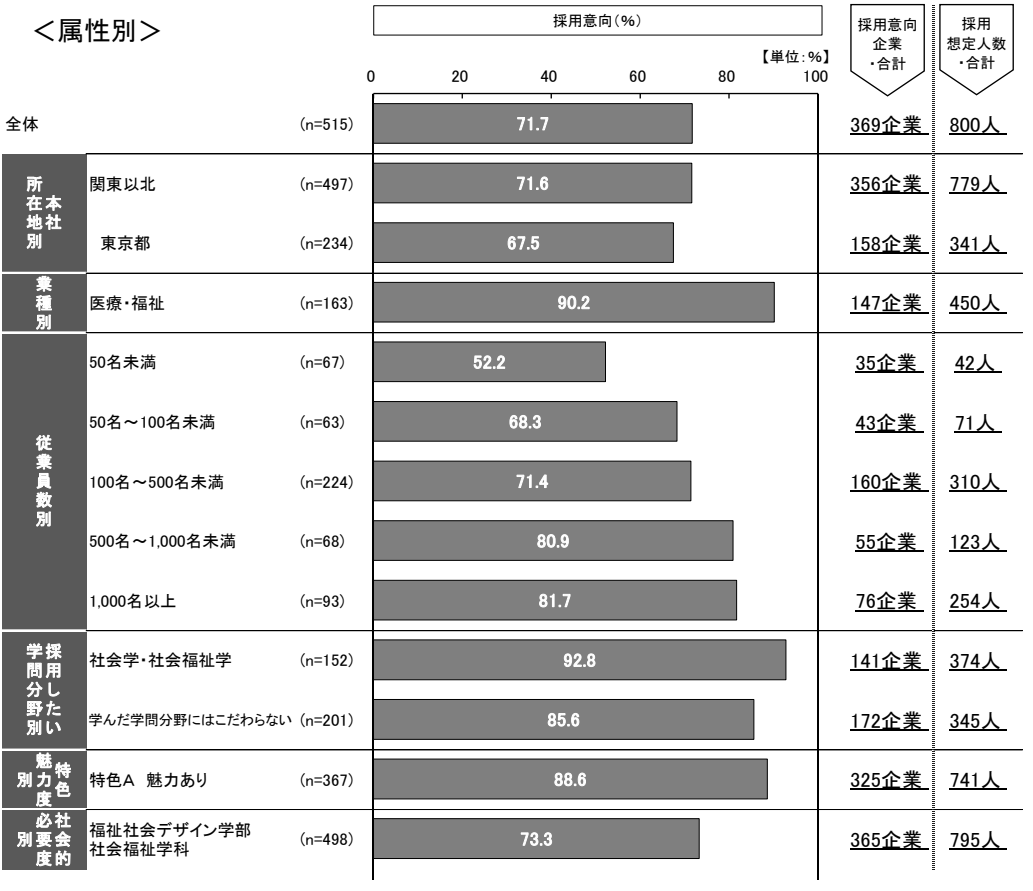
※ 毎年の採用想定人数：「1名」＝1名、「2名」＝2名、…「9名」＝9名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

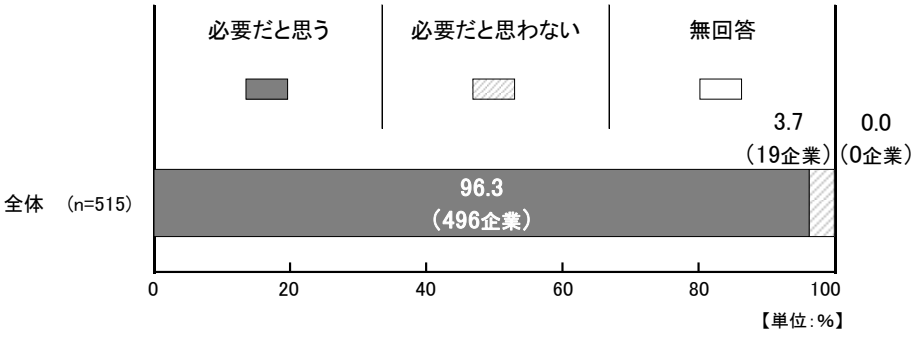


※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

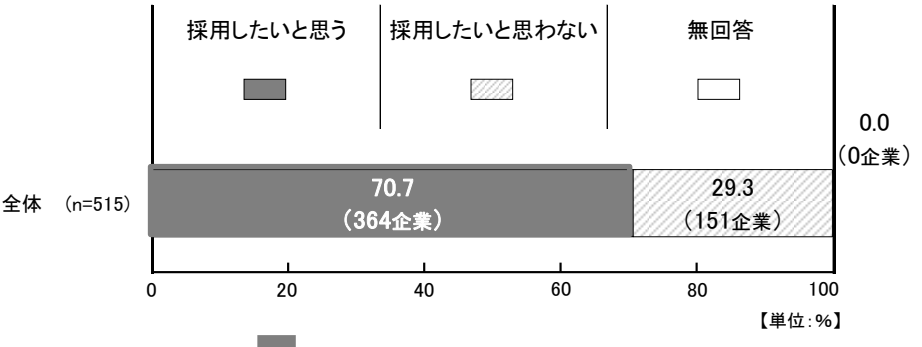
■東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」卒業生に対する採用意向

Q10.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた364企業のみ抽出

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11.Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	364	%	59.6%	16.5%	11.0%	1.4%	8.2%	3.3%		
		企業数	217	60	40	5	30	12	⇒	364
		名	217	120	120	20	150	120		747

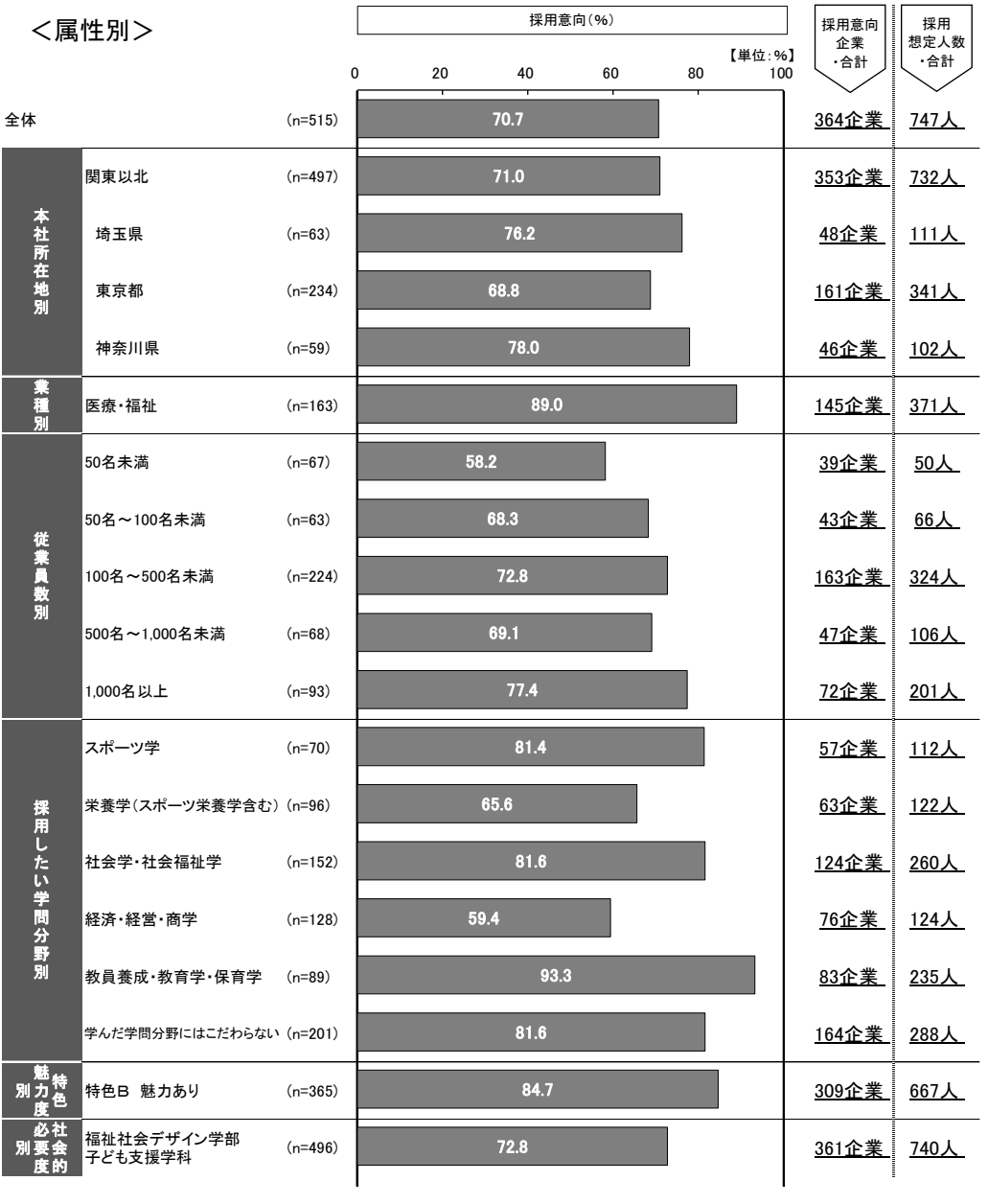
※ 毎年の採用想定人数：「1名」＝1名、「2名」＝2名、「3名」＝3名、「4名」＝4名、「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名 を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

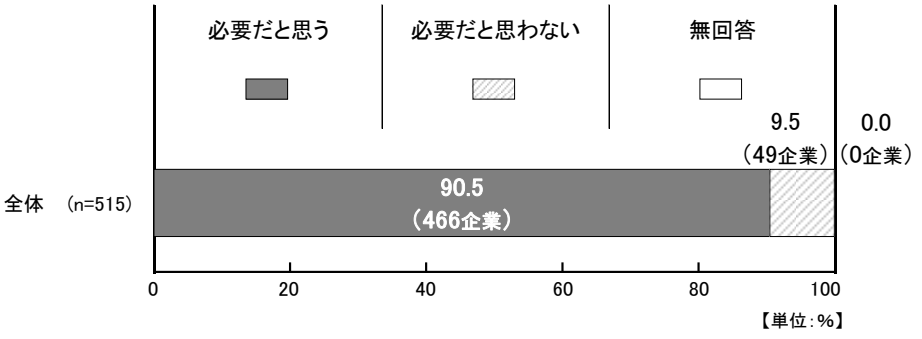


※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

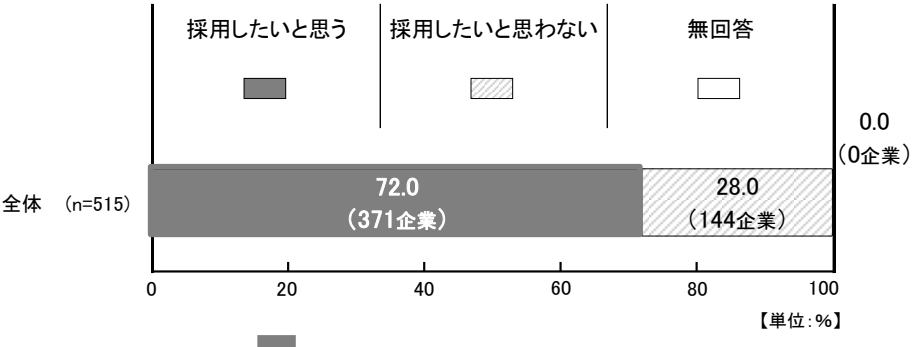
■東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」卒業生に対する採用意向

Q10.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた371企業のみ抽出

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11.Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	371	%	69.0%	16.4%	5.9%	0.8%	5.7%	2.2%		
		企業数	256	61	22	3	21	8	⇒	371
		名	256	122	66	12	105	80		641

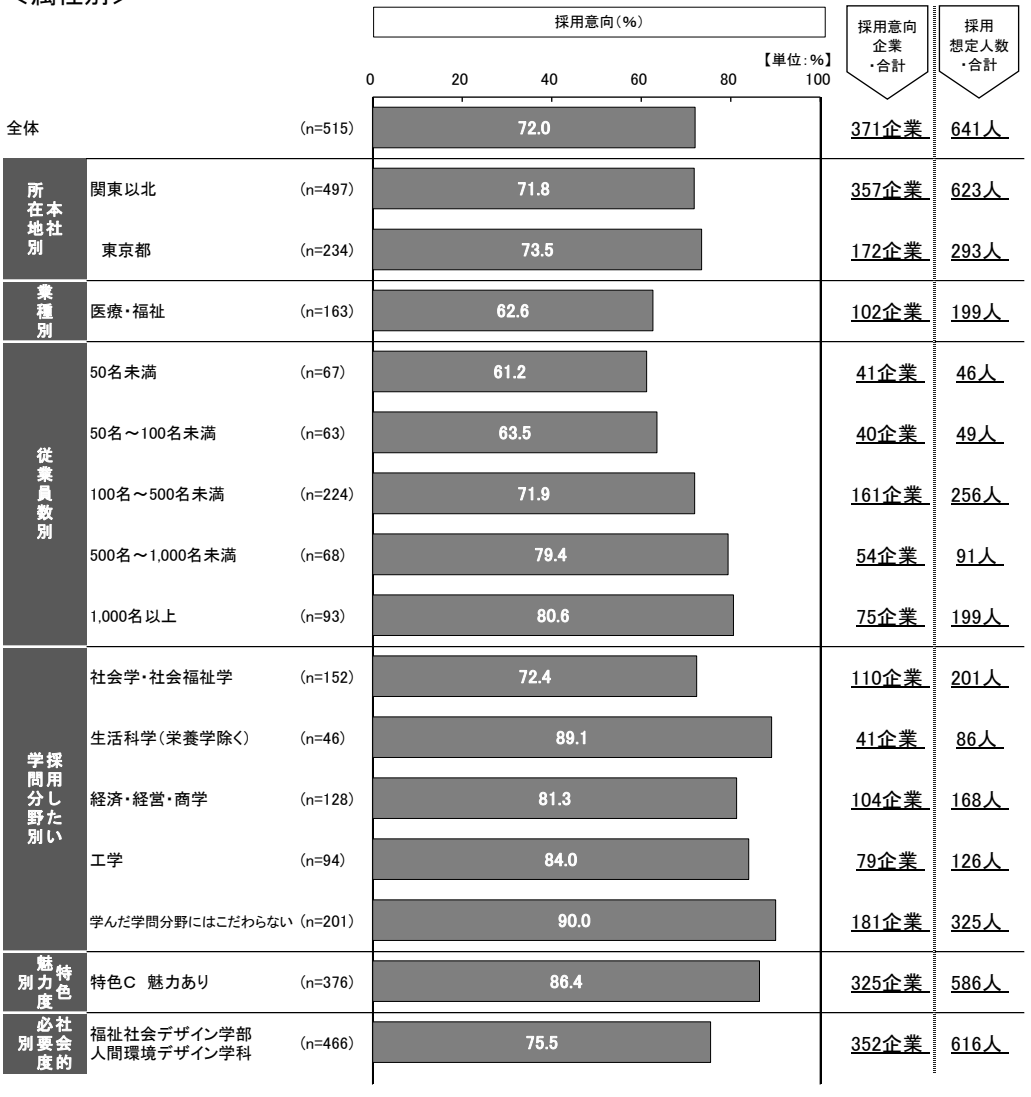
※ 毎年の採用想定人数：「5名～9名」＝7名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

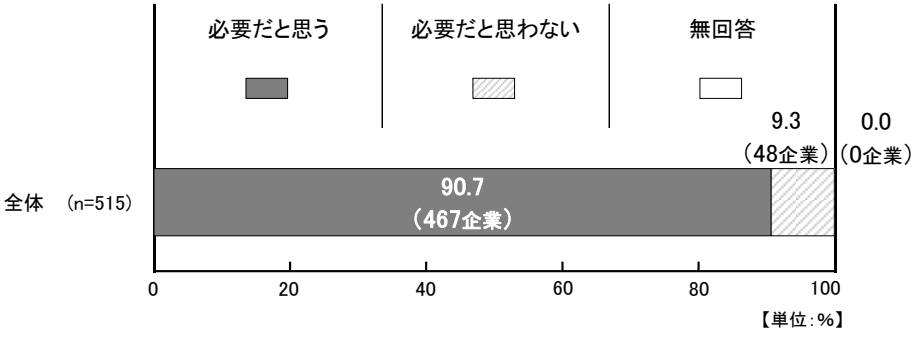


※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

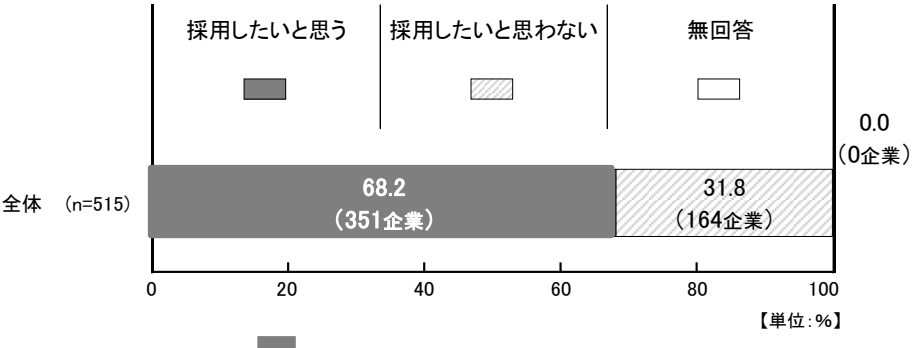
■東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」卒業生に対する採用意向

Q10.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた351企業のみ抽出

■東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11.Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	351	%	63.0%	18.2%	8.5%	0.9%	6.8%	2.6%		
		企業数	221	64	30	3	24	9	⇒	351
		名	221	128	90	12	120	90		661

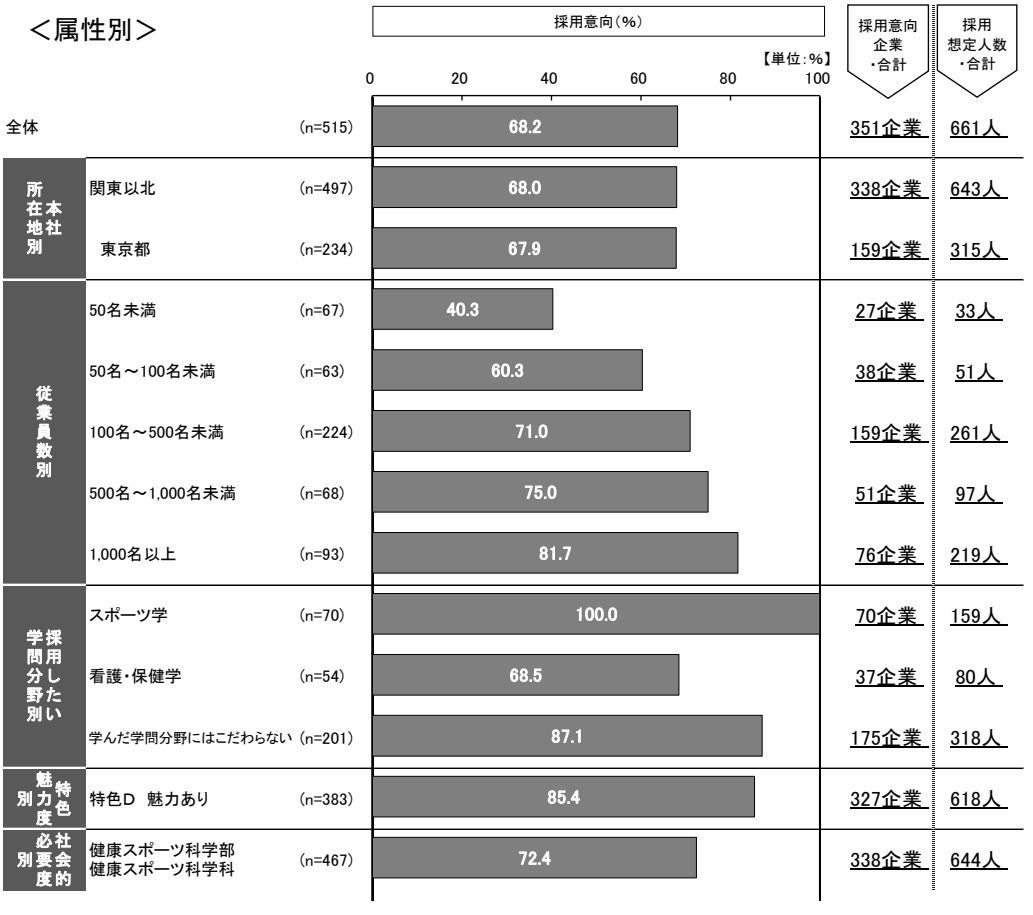
※ 毎年の採用想定人数の計算は、「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞



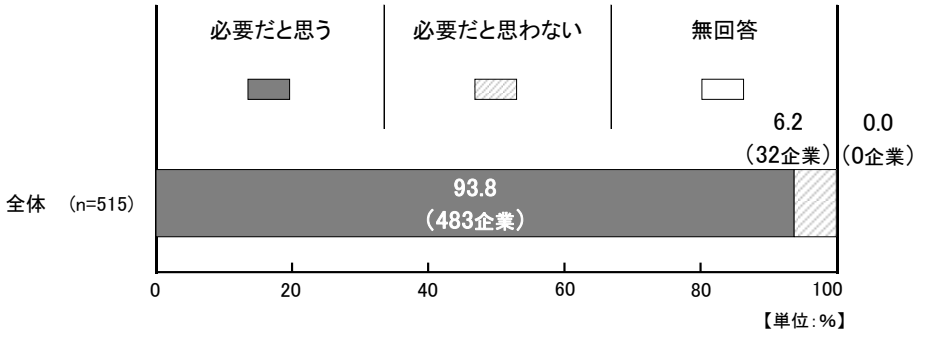
			採用意向（%）	採用意向企業・合計	採用想定人数・合計
全体		(n=515)	68.2	351企業	661人
本社所在地別	関東以北	(n=497)	68.0	338企業	643人
	東京都	(n=234)	67.9	159企業	315人
従業員数別	50名未満	(n=67)	40.3	27企業	33人
	50名～100名未満	(n=63)	60.3	38企業	51人
	100名～500名未満	(n=224)	71.0	159企業	261人
	500名～1,000名未満	(n=68)	75.0	51企業	97人
	1,000名以上	(n=93)	81.7	76企業	219人
採用したい学問分野別	スポーツ学	(n=70)	100.0	70企業	159人
	看護・保健学	(n=54)	68.5	37企業	80人
	学んだ学問分野にはこだわらない	(n=201)	87.1	175企業	318人
特色魅力度別	特色D　魅力あり	(n=383)	85.4	327企業	618人
社会的必要度別	健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	(n=467)	72.4	338企業	644人

※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

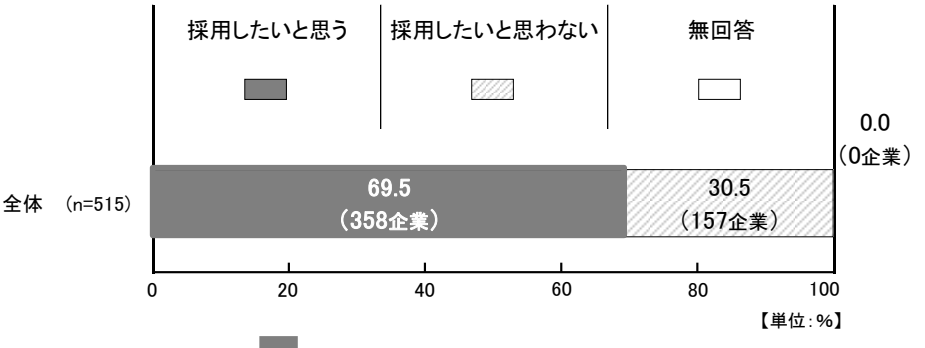
■東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」卒業生に対する採用意向

Q10.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた358企業のみ抽出

■東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11.Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	358	%	65.4%	15.6%	8.1%	0.6%	8.7%	1.7%		
		企業数	234	56	29	2	31	6	⇒	358
		名	234	112	87	8	155	60		656

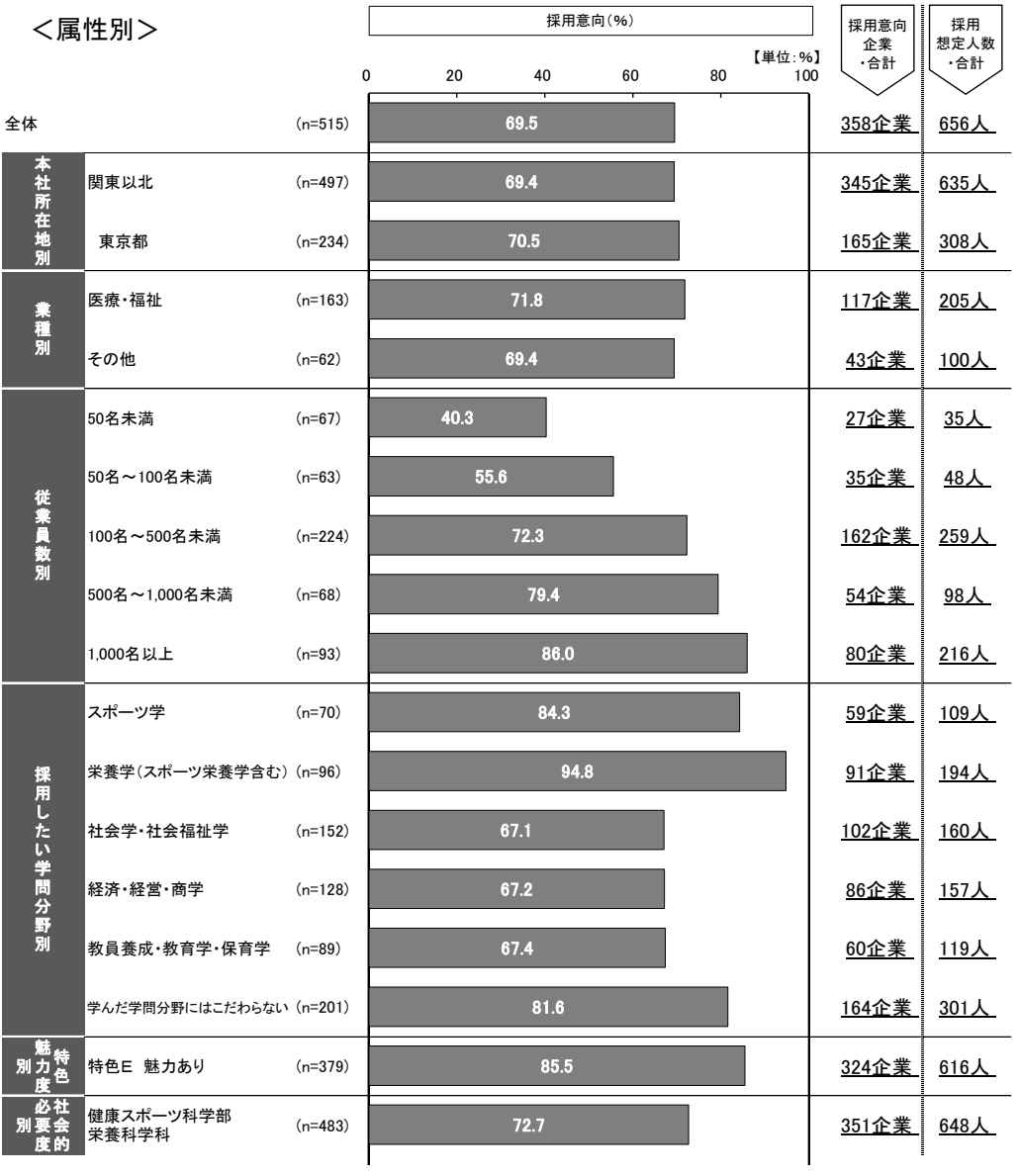
※ 毎年の採用想定人数：「1名」＝1名、「2名」＝2名、…「9名」＝9名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「健康スポーツ科学部　栄養科学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

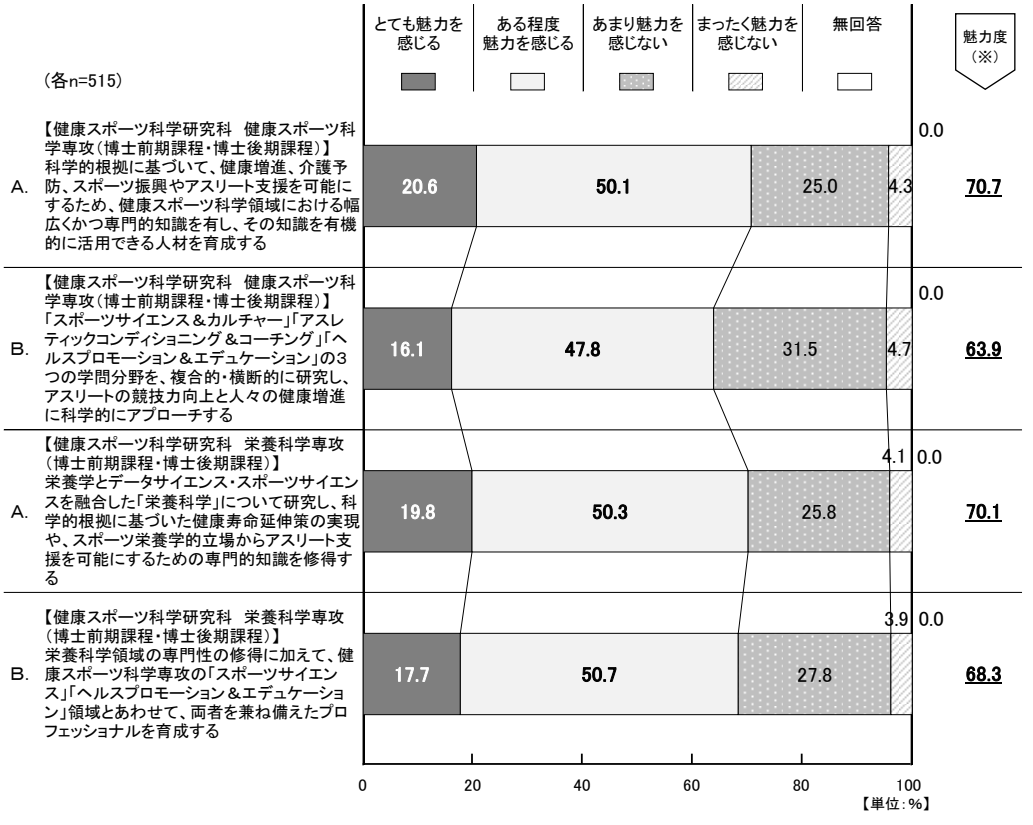


※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に対する魅力度

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）の特色に対する魅力度

Q12.東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。
（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



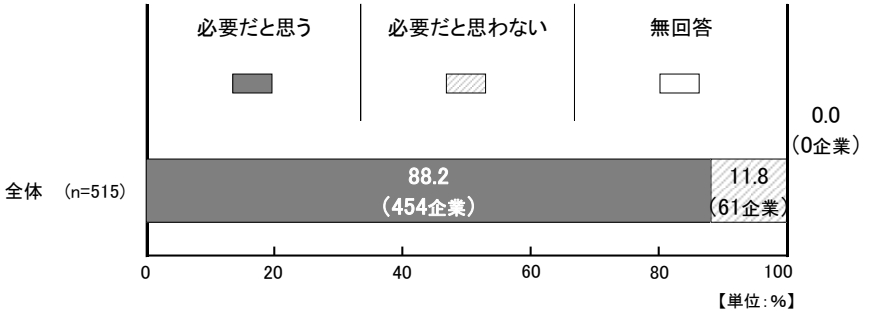
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

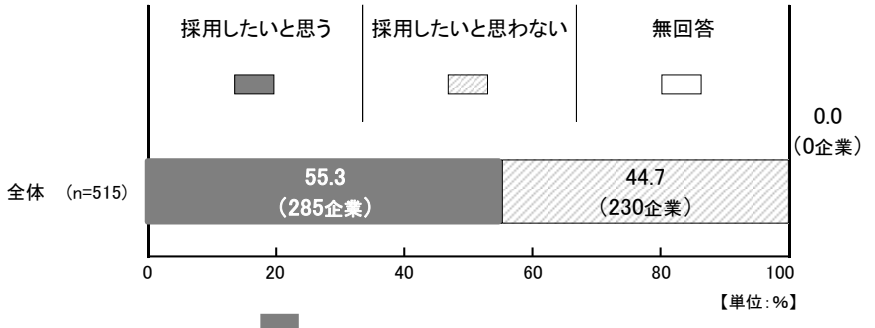
■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）の社会的必要性

Q13.貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）修了生に対する採用意向

Q14.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）を修了した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた285企業のみ抽出

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）修了生の毎年の採用想定人数

Q15.Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	285	%	77.2%	10.9%	3.5%	0.7%	6.0%	1.8%		
		企業数	220	31	10	2	17	5	⇒	285
		名	220	62	30	8	85	50		455

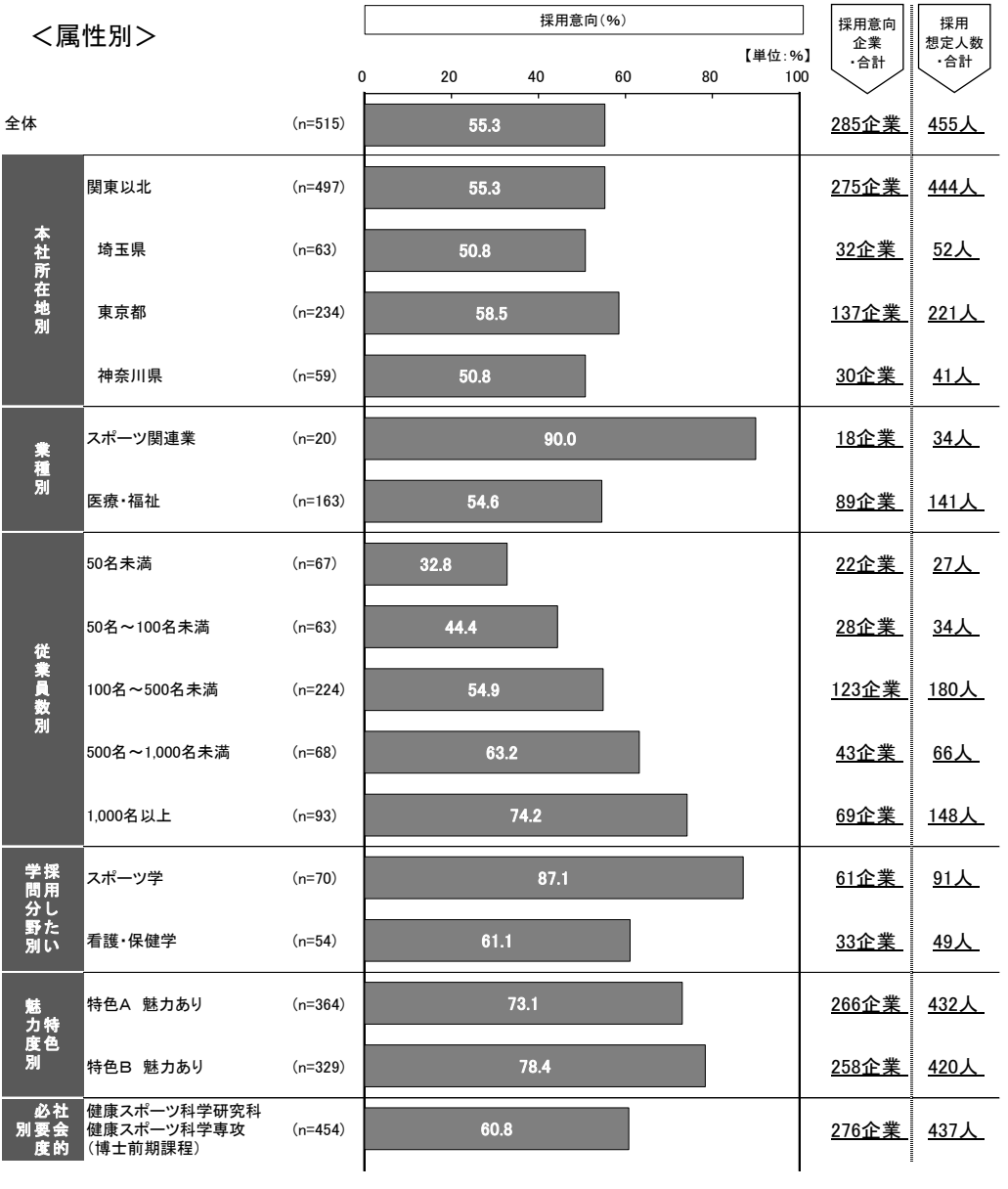
※ 毎年の採用想定人数・計算において、「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）修了生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）修了生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）に対して、Q14で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q15で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

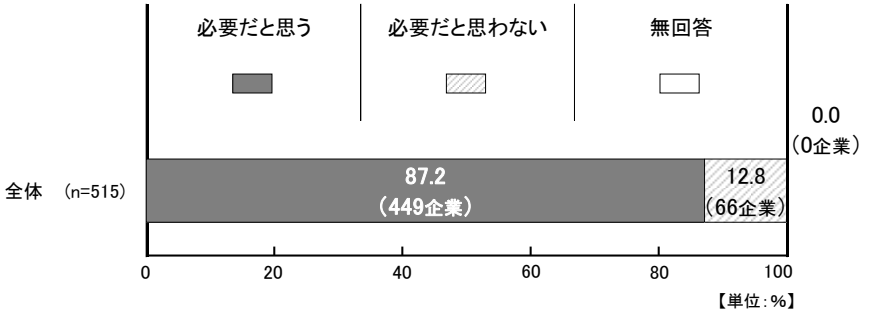


※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

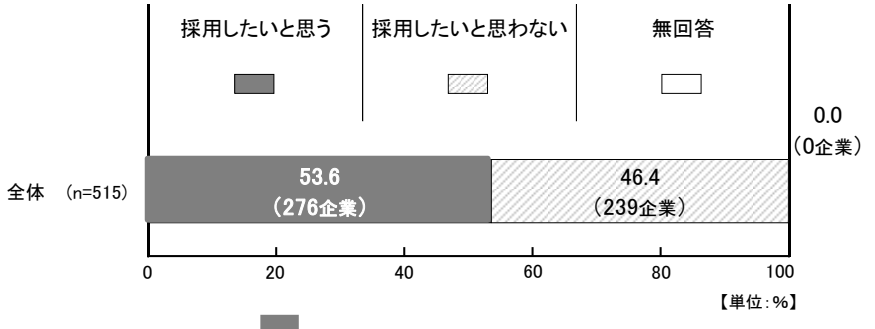
■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）の社会的必要性

Q13.貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）修了生に対する採用意向

Q14.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）を修了した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた276企業のみ抽出

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）修了生の毎年の採用想定人数

Q15.Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	276	%	76.8%	12.0%	4.0%	0.4%	5.4%	1.4%		
		企業数	212	33	11	1	15	4	⇒	276
		名	212	66	33	4	75	40		430

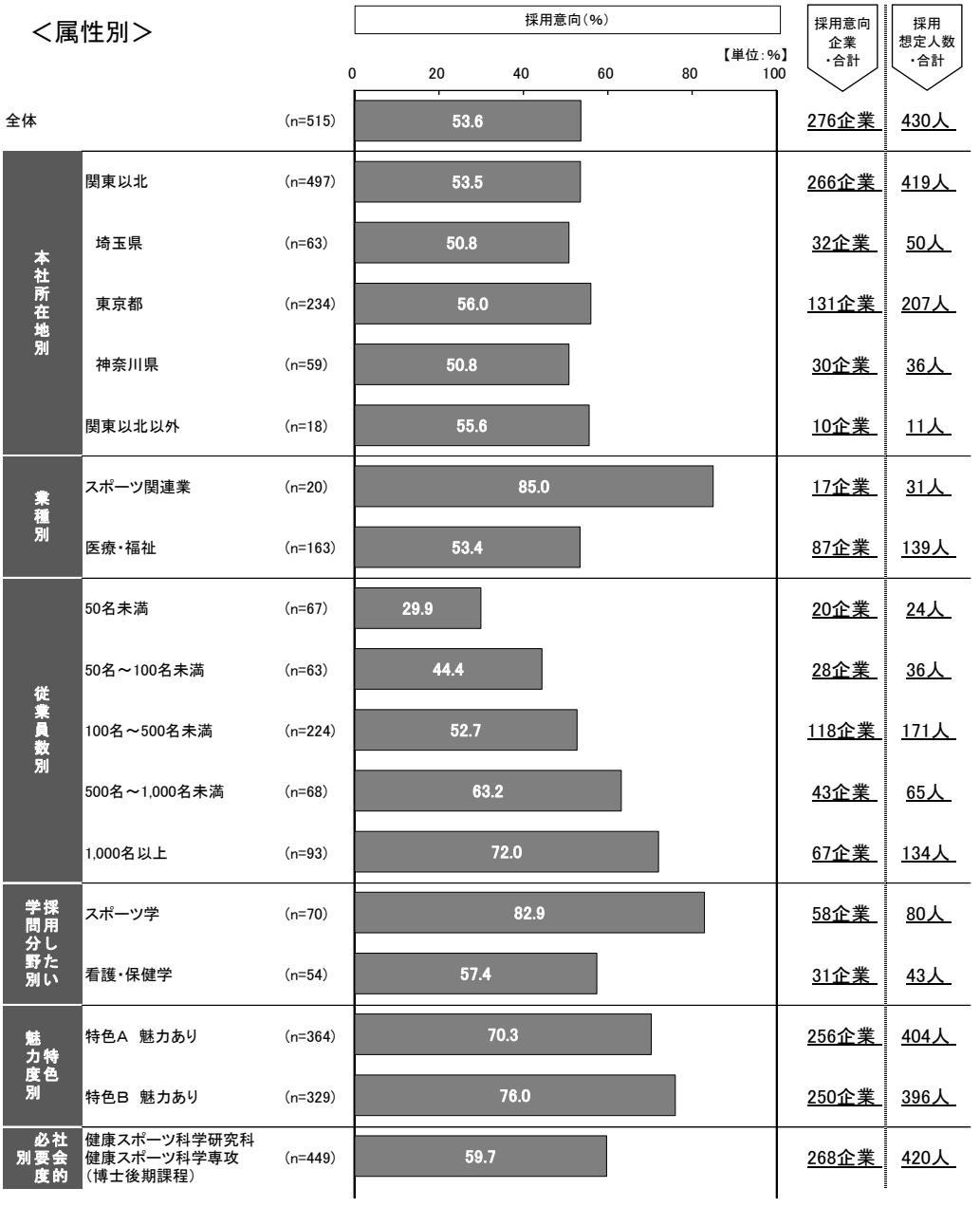
※ 毎年の採用想定人数・計：「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）修了生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）修了生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）に対して、Q14で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q15で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

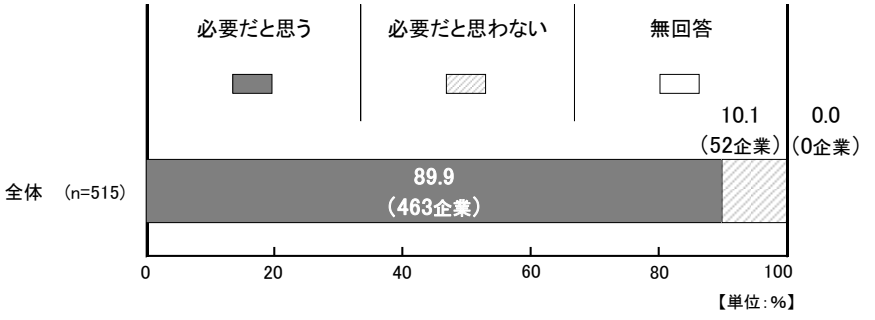


※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

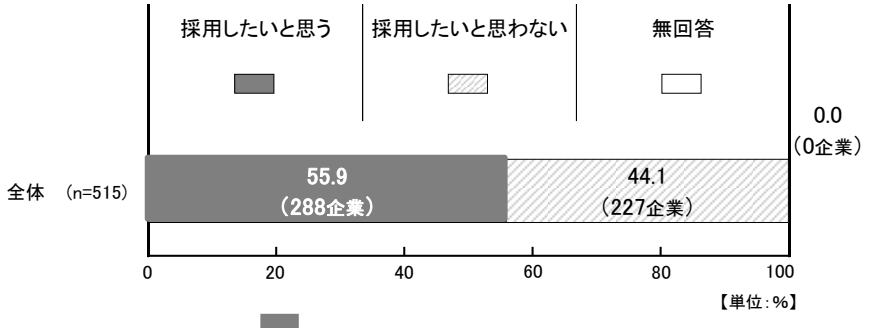
■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）の社会的必要性

Q13.貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）修了生に対する採用意向

Q14.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）を修了した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた288企業のみ抽出

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）修了生の毎年の採用想定人数

Q15.Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	288	%	75.7%	12.5%	3.1%	0.3%	6.9%	1.4%		
		企業数	218	36	9	1	20	4	⇒	288
		名	218	72	27	4	100	40		461

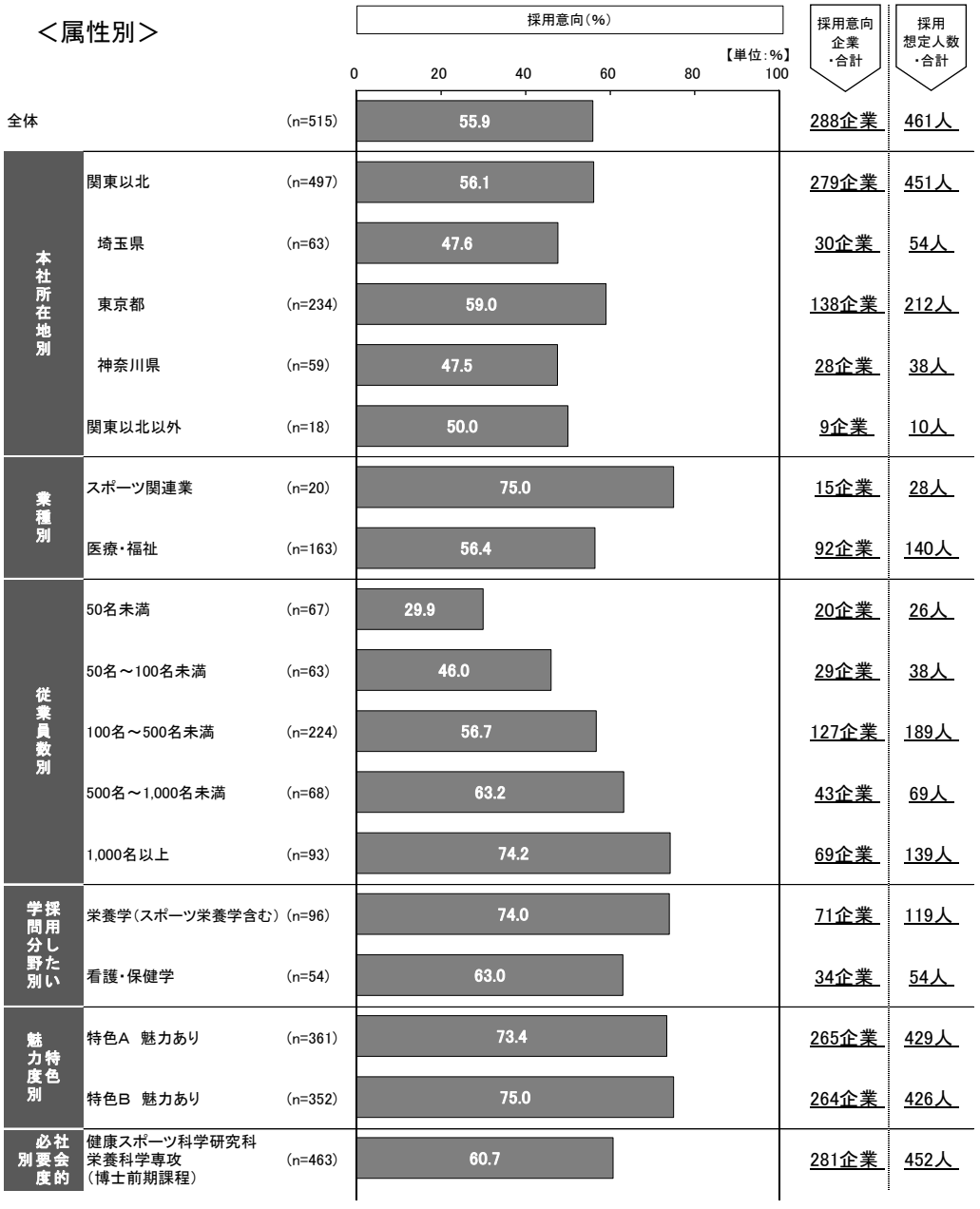
※ 毎年の採用想定人数の計算は、「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名 を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）修了生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）修了生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）に対して、Q14で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q15で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

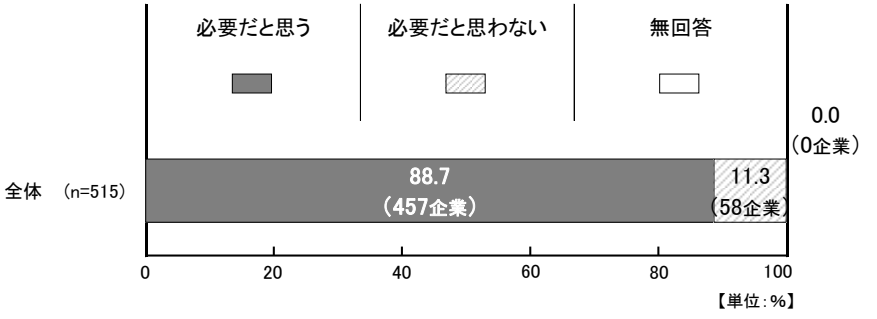


※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

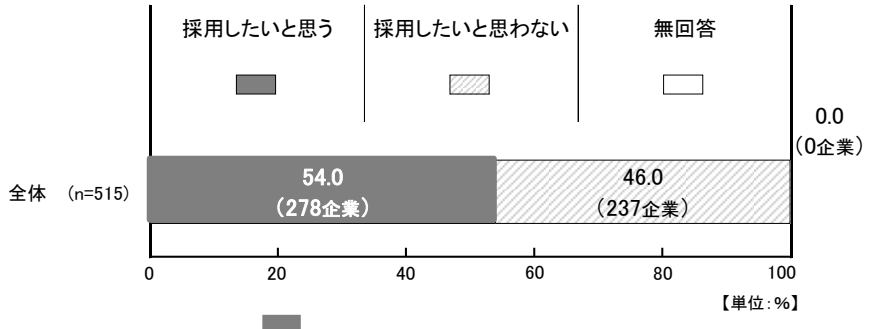
■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）の社会的必要性

Q13.貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）修了生に対する採用意向

Q14.貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）を修了した学生について、採用したいと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）



「採用したいと思う」と答えた278企業のみ抽出

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）修了生の毎年の採用想定人数

Q15.Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。（それぞれ、あてはまるもの1つだけ）

	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名～9名	10名以上		毎年の採用想定人数を示した企業数・計および採用想定人数・計（※）
全体	278	%	75.5%	12.6%	3.2%	0.4%	6.8%	1.4%		
		企業数	210	35	9	1	19	4	⇒	278
		名	210	70	27	4	95	40		446

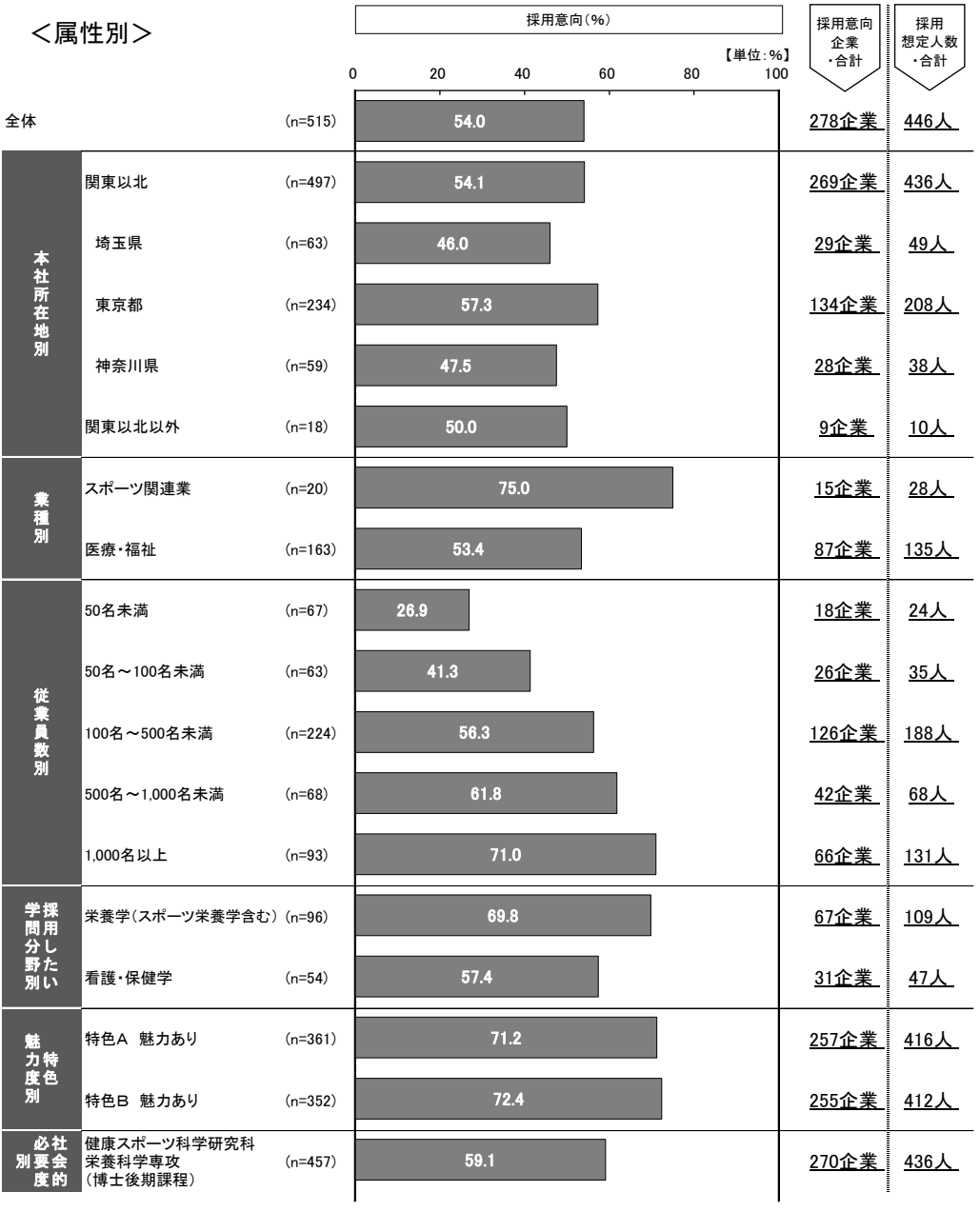
※ 毎年の採用想定人数・計算にあたり、「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）修了生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）修了生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）に対して、Q14で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q15で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞



※ 採用想定人数・合計　「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名　を代入し合計値を算出

巻末資料　調査票

調査票

東洋大学　新学部・学科、東洋大学大学院　新研究科・専攻に関するアンケート

選択肢記号の説明
□　複数選択（チェックボックス）
○　単一選択（ラジオボタン）
▽　単一選択（プルダウン）

SAR **Q1**

あなたの人事採用への関与度をお教えください。（1つだけ）

○ 1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
○ 2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
○ 3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

SAR **Q2**

貴社・貴団体の本社（本部）所在地について、都道府県名をお教えください。

○ 1. 北海道
○ 2. 青森県
○ 3. 岩手県
○ 4. 宮城県
○ 5. 秋田県
○ 6. 山形県
○ 7. 福島県
○ 8. 茨城県
○ 9. 栃木県
○ 10. 群馬県
○ 11. 埼玉県
○ 12. 千葉県
○ 13. 東京都
○ 14. 神奈川県
○ 15. 新潟県
○ 16. 富山県
○ 17. 石川県
○ 18. 福井県
○ 19. 山梨県
○ 20. 長野県
○ 21. 岐阜県
○ 22. 静岡県
○ 23. 愛知県
○ 24. 三重県
○ 25. 滋賀県
○ 26. 京都府
○ 27. 大阪府
○ 28. 兵庫県
○ 29. 奈良県
○ 30. 和歌山県
○ 31. 鳥取県
○ 32. 島根県
○ 33. 岡山県
○ 34. 広島県
○ 35. 山口県
○ 36. 徳島県
○ 37. 香川県
○ 38. 愛媛県
○ 39. 高知県
○ 40. 福岡県
○ 41. 佐賀県
○ 42. 長崎県
○ 43. 熊本県
○ 44. 大分県
○ 45. 宮崎県
○ 46. 鹿児島県
○ 47. 沖縄県
○ 48. 海外

調査票

SAR **Q3**

貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。（もっともあてはまるもの１つだけ）

○ 1.	スポーツ関連業	
○ 2.	食品関連業（製造、流通、販売など）	
○ 3.	医療・福祉	
○ 4.	学校・教育機関	
○ 5.	製造業	
○ 6.	建設業	
○ 7.	運輸業	
○ 8.	情報通信業	
○ 9.	電気・ガス・熱供給・水道業	
○ 10.	農・林・漁・鉱業	
○ 11.	卸売・小売業	
○ 12.	金融・保険業	
○ 13.	不動産業	
○ 14.	飲食店・宿泊業	
○ 15.	複合サービス事業	
○ 16.	サービス業	
○ 17.	公務	
○ 18.	その他【FA】	*Q3_18FA*

SAR **Q4**

貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。（１つだけ）

○ 1.	50名未満
○ 2.	50名～100名未満
○ 3.	100名～500名未満
○ 4.	500名～1，000名未満
○ 5.	1，000名～5，000名未満
○ 6.	5，000名以上

SAR **Q5**

貴社・貴団体の過去３か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。（１つだけ）

○ 1.	0名
○ 2.	1名～5名未満
○ 3.	5名～10名未満
○ 4.	10名～20名未満
○ 5.	20名～30名未満
○ 6.	30名～50名未満
○ 7.	50名～100名未満
○ 8.	100名以上

SAR **Q6**

貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。（１つだけ）

○ 1.	増やす
○ 2.	昨年度並み
○ 3.	減らす
○ 4.	未定

調査票

MAC **Q7**

貴社・貴団体では、今後、大学や大学院でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまるものすべて)

▲ 設問文を折りたたむ

- ☐ 1. スポーツ学
- ☐ 2. 栄養学（スポーツ栄養学含む）
- ☐ 3. 社会学・社会福祉学
- ☐ 4. 法学
- ☐ 5. 生活科学（栄養学除く）
- ☐ 6. 総合科学
- ☐ 7. 経済・経営・商学
- ☐ 8. 文学
- ☐ 9. 語学
- ☐ 10. 教員養成・教育学・保育学
- ☐ 11. 国際関係学
- ☐ 12. 理学
- ☐ 13. 工学
- ☐ 14. 農・水産学
- ☐ 15. 看護・保健学
- ☐ 16. 医・歯・薬学
- ☐ 17. 芸術学
- ☐ 18. その他【FA】 *Q7_18FA*
- ☐ 19. 学んだ学問分野にはこだわらない

MTS **Q8**

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）

▲ 設問文を折りたたむ

項目リスト

Q8S1	1.	「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」の特色 「社会福祉政策系」「福祉社会開発系」「福祉臨床系」の３コースで、理論から実践まで幅広く学び、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格を、希望に応じて複数取得できる学びを展開
Q8S2	2.	「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」の特色 保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学を統合した子ども支援学を追究し、多文化共生やICT活用など現代的なテーマを学ぶとともに、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士(受験資格)を取得できる学びを展開
Q8S3	3.	「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」の特色 「空間デザイン」「生活環境デザイン」「プロダクトデザイン」の3分野で、建築、福祉住環境計画、都市計画から個々の製品や情報とその活用まで、人間中心設計の視点で幅広い「デザイン」の概念・手法を学ぶ
Q8S4	4.	「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」の特色 アスリート支援や競技パフォーマンス向上等のスポーツ科学から、生理・生化学、運動生理学等の身体理解、さらに教育、文化、ビジネスまで、健康・スポーツのあらゆる分野から選べる幅広い学び
Q8S5	5.	「健康スポーツ科学部　栄養科学科」の特色 栄養学、食品機能、スポーツ栄養など、食と栄養に係わる分野を幅広く扱うとともに、栄養士など資格関連科目を充実させ、さらに健康関連企業との連携により栄養科学、栄養管理のスペシャリストを育成

選択肢リスト

- ○ 1. とても魅力を感じる
- ○ 2. ある程度魅力を感じる
- ○ 3. あまり魅力を感じない
- ○ 4. まったく魅力を感じない

調査票

MTS **Q9**

貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）

項目リスト

Q9S1	1. 「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」
Q9S2	2. 「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」
Q9S3	3. 「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」
Q9S4	4. 「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」
Q9S5	5. 「健康スポーツ科学部　栄養科学科」

選択肢リスト

○ 1. 必要だと思う
○ 2. 必要だと思わない

MTS **Q10**

貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。
（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）

項目リスト

Q10S1	1. 「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」
Q10S2	2. 「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」
Q10S3	3. 「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」
Q10S4	4. 「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」
Q10S5	5. 「健康スポーツ科学部　栄養科学科」

選択肢リスト

○ 1. 採用したいと思う
○ 2. 採用したいと思わない

MTS **Q11**

Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）

項目リスト

Q11S1	1. 「福祉社会デザイン学部　社会福祉学科」
Q11S2	2. 「福祉社会デザイン学部　子ども支援学科」
Q11S3	3. 「福祉社会デザイン学部　人間環境デザイン学科」
Q11S4	4. 「健康スポーツ科学部　健康スポーツ科学科」
Q11S5	5. 「健康スポーツ科学部　栄養科学科」

選択肢リスト

○ 1. 1名
○ 2. 2名
○ 3. 3名
○ 4. 4名
○ 5. 5名～9名
○ 6. 10名以上

調査票

MTS **Q12**

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）
※研究科名をクリックすると設置構想内容を再度ご確認いただけます。

項目リスト

Q12S1	1.	「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の特色A：科学的根拠に基づいて、健康増進、介護予防、スポーツ振興やアスリート支援を可能にするため、健康スポーツ科学領域における幅広くかつ専門的知識を有し、その知識を有機的に活用できる人材を育成する
Q12S2	2.	「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の特色B：「スポーツサイエンス＆カルチャー」「アスレティックコンディショニング＆コーチング」「ヘルスプロモーション＆エデュケーション」の３つの学問分野を、複合的・横断的に研究し、アスリートの競技力向上と人々の健康増進に科学的にアプローチする
Q12S3	3.	「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の特色A：栄養学とデータサイエンス・スポーツサイエンスを融合した「栄養科学」について研究し、科学的根拠に基づいた健康寿命延伸策の実現や、スポーツ栄養学的立場からアスリート支援を可能にするための専門的知識を修得する
Q12S4	4.	「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の特色B：栄養科学領域の専門性の修得に加えて、健康スポーツ科学専攻の「スポーツサイエンス」「ヘルスプロモーション＆エデュケーション」領域とあわせて、両者を兼ね備えたプロフェッショナルを育成する

選択肢リスト

○ 1.　とても魅力を感じる
○ 2.　ある程度魅力を感じる
○ 3.　あまり魅力を感じない
○ 4.　まったく魅力を感じない

MTS **Q13**

貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、
「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）
※研究科名をクリックすると設置構想内容を再度ご確認いただけます。

項目リスト

Q13S1	1.	「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）
Q13S2	2.	「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）
Q13S3	3.	「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）
Q13S4	4.	「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）

選択肢リスト

○ 1.　必要だと思う
○ 2.　必要だと思わない

調査票

MTS **Q14**

貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、
「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）を修了した学生について、採用したいと思われますか。
（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）
※研究科名をクリックすると設置構想内容を再度ご確認いただけます。

項目リスト

Q14S1	1.　「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）
Q14S2	2.　「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）
Q14S3	3.　「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）
Q14S4	4.　「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）

選択肢リスト

○	1.　採用したいと思う
○	2.　採用したいと思わない

MTS **Q15**

Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）

項目リスト

Q15S1	1.　「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）
Q15S2	2.　「健康スポーツ科学研究科　健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）
Q15S3	3.　「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士前期課程）
Q15S4	4.　「健康スポーツ科学研究科　栄養科学専攻」（博士後期課程）

選択肢リスト

○	1.　1名
○	2.　2名
○	3.　3名
○	4.　4名
○	5.　5名～9名
○	6.　10名以上

令和2年度 福祉分野の求人求職動向

福祉人材センター・バンク
職業紹介実績報告

＜抜粋版＞

社会福祉法人　全国社会福祉協議会
中央福祉人材センター

Ⅳ　令和2年度都道府県別データ

1．都道府県別求人求職状況

	新規求人数			新規求職者数			有効求人数（平均）			有効求職者数（平均）			有効求人倍率
		全国*1 平均対比	全国比*2（人口修正）		全国*1 平均対比	全国比*2（人口修正）		全国*1 平均対比	全国比*2（人口修正）		全国*1 平均対比	全国比*2（人口修正）	有効求人／有効求職
01.北海道	9,514	*1.70*	*0.64*	2,247	*1.72*	*0.60*	2,295	*1.66*	*0.63*	445	*1.48*	*0.49*	*5.16*
02.青森県	2,444	*0.44*	*0.70*	779	*0.59*	*0.87*	579	*0.42*	*0.67*	152	*0.51*	*0.70*	*3.81*
03.岩手県	4,839	*0.86*	*1.40*	1,304	*1.00*	*1.48*	1,183	*0.86*	*1.39*	244	*0.81*	*1.14*	*4.84*
04.宮城県	3,415	*0.61*	*0.53*	768	*0.59*	*0.46*	829	*0.60*	*0.52*	140	*0.46*	*0.35*	*5.94*
05.秋田県	2,365	*0.42*	*0.87*	333	*0.25*	*0.48*	571	*0.41*	*0.85*	68	*0.23*	*0.41*	*8.35*
06.山形県	5,773	*1.03*	*1.90*	920	*0.70*	*1.19*	1,455	*1.05*	*1.94*	166	*0.55*	*0.89*	*8.75*
07.福島県	3,811	*0.68*	*0.73*	777	*0.59*	*0.59*	949	*0.69*	*0.74*	156	*0.52*	*0.48*	*6.09*
08.茨城県	3,900	*0.70*	*0.48*	781	*0.60*	*0.38*	1,001	*0.73*	*0.50*	124	*0.41*	*0.25*	*8.07*
09.栃木県	7,230	*1.29*	*1.33*	1,689	*1.29*	*1.22*	1,684	*1.22*	*1.25*	322	*1.07*	*0.96*	*5.23*
10.群馬県	7,312	*1.30*	*1.34*	1,911	*1.46*	*1.37*	1,787	*1.30*	*1.33*	356	*1.19*	*1.05*	*5.02*
11.埼玉県	15,204	*2.71*	*0.74*	3,218	*2.46*	*0.61*	3,905	*2.83*	*0.77*	597	*1.99*	*0.47*	*6.54*
12.千葉県	6,102	*1.09*	*0.35*	1,486	*1.13*	*0.33*	1,626	*1.18*	*0.37*	307	*1.02*	*0.28*	*5.30*
13.東京都	18,189	*3.25*	*0.46*	6,140	*4.69*	*0.62*	4,315	*3.13*	*0.45*	1,299	*4.33*	*0.54*	*3.32*
14.神奈川県	19,452	*3.47*	*0.75*	3,405	*2.60*	*0.52*	4,803	*3.48*	*0.75*	556	*1.85*	*0.35*	*8.64*
15.新潟県	4,372	*0.78*	*0.70*	573	*0.44*	*0.36*	1,242	*0.90*	*0.81*	138	*0.46*	*0.36*	*9.01*
16.富山県	4,909	*0.88*	*1.67*	756	*0.58*	*1.01*	1,209	*0.88*	*1.67*	273	*0.91*	*1.50*	*4.44*
17.石川県	4,600	*0.82*	*1.44*	1,389	*1.06*	*1.70*	1,127	*0.82*	*1.43*	359	*1.20*	*1.81*	*3.14*
18.福井県	2,805	*0.50*	*1.30*	1,443	*1.10*	*2.62*	679	*0.49*	*1.27*	332	*1.11*	*2.48*	*2.05*
19.山梨県	2,575	*0.46*	*1.13*	392	*0.30*	*0.67*	661	*0.48*	*1.17*	89	*0.30*	*0.63*	*7.40*
20.長野県	5,544	*0.99*	*0.96*	1,408	*1.07*	*0.96*	1,344	*0.97*	*0.94*	387	*1.29*	*1.08*	*3.48*
21.岐阜県	4,850	*0.87*	*0.87*	571	*0.44*	*0.40*	1,164	*0.84*	*0.84*	141	*0.47*	*0.41*	*8.28*
22.静岡県	14,843	*2.65*	*1.45*	4,794	*3.66*	*1.84*	3,684	*2.67*	*1.46*	1,147	*3.82*	*1.81*	*3.21*
23.愛知県	7,622	*1.36*	*0.36*	1,642	*1.25*	*0.30*	1,886	*1.37*	*0.36*	425	*1.41*	*0.32*	*4.44*
24.三重県	5,049	*0.90*	*1.01*	582	*0.44*	*0.46*	1,281	*0.93*	*1.04*	138	*0.46*	*0.44*	*9.31*
25.滋賀県	4,287	*0.76*	*1.08*	1,226	*0.94*	*1.21*	1,080	*0.78*	*1.10*	328	*1.09*	*1.33*	*3.29*
26.京都府	8,629	*1.54*	*1.19*	1,836	*1.40*	*0.99*	2,252	*1.63*	*1.26*	513	*1.71*	*1.14*	*4.39*
27.大阪府	7,344	*1.31*	*0.30*	1,800	*1.37*	*0.29*	1,770	*1.28*	*0.29*	454	*1.51*	*0.30*	*3.90*
28.兵庫県	4,275	*0.76*	*0.28*	806	*0.62*	*0.21*	1,006	*0.73*	*0.27*	203	*0.68*	*0.21*	*4.95*
29.奈良県	5,541	*0.99*	*1.48*	913	*0.70*	*0.96*	1,270	*0.92*	*1.38*	186	*0.62*	*0.81*	*6.81*
30.和歌山県	2,964	*0.53*	*1.14*	716	*0.55*	*1.08*	709	*0.51*	*1.10*	182	*0.61*	*1.13*	*3.89*
31.鳥取県	1,601	*0.29*	*1.02*	289	*0.22*	*0.73*	472	*0.34*	*1.22*	77	*0.26*	*0.80*	*6.12*
32.島根県	4,395	*0.78*	*2.32*	1,052	*0.80*	*2.18*	1,091	*0.79*	*2.33*	303	*1.01*	*2.58*	*3.60*
33.岡山県	5,926	*1.06*	*1.11*	466	*0.36*	*0.34*	1,524	*1.10*	*1.16*	135	*0.45*	*0.41*	*11.31*
34.広島県	4,614	*0.82*	*0.58*	643	*0.49*	*0.32*	1,172	*0.85*	*0.60*	171	*0.57*	*0.35*	*6.84*
35.山口県	1,935	*0.35*	*0.51*	979	*0.75*	*1.01*	498	*0.36*	*0.53*	249	*0.83*	*1.05*	*2.01*
36.徳島県	4,030	*0.72*	*1.97*	2,761	*2.11*	*5.29*	934	*0.68*	*1.85*	666	*2.22*	*5.25*	*1.40*
37.香川県	5,030	*0.90*	*1.87*	1,611	*1.23*	*2.35*	1,198	*0.87*	*1.80*	421	*1.40*	*2.53*	*2.85*
38.愛媛県	2,939	*0.52*	*0.78*	524	*0.40*	*0.55*	698	*0.51*	*0.75*	131	*0.44*	*0.56*	*5.34*
39.高知県	4,426	*0.79*	*2.25*	1,553	*1.19*	*3.10*	1,141	*0.83*	*2.35*	462	*1.54*	*3.80*	*2.47*
40.福岡県	9,008	*1.61*	*0.63*	575	*0.44*	*0.16*	1,949	*1.41*	*0.55*	149	*0.50*	*0.17*	*13.06*
41.佐賀県	1,189	*0.21*	*0.52*	758	*0.58*	*1.30*	272	*0.20*	*0.48*	195	*0.65*	*1.37*	*1.40*
42.長崎県	4,530	*0.81*	*1.21*	1,258	*0.96*	*1.32*	1,116	*0.81*	*1.21*	298	*0.99*	*1.29*	*3.75*
43.熊本県	2,882	*0.51*	*0.59*	455	*0.35*	*0.36*	735	*0.53*	*0.61*	101	*0.33*	*0.33*	*7.31*
44.大分県	2,989	*0.53*	*0.94*	487	*0.37*	*0.60*	725	*0.53*	*0.92*	148	*0.49*	*0.75*	*4.90*
45.宮崎県	2,386	*0.43*	*0.79*	485	*0.37*	*0.63*	556	*0.40*	*0.75*	116	*0.39*	*0.62*	*4.81*
46.鹿児島県	2,863	*0.51*	*0.64*	335	*0.26*	*0.29*	736	*0.53*	*0.66*	84	*0.28*	*0.30*	*8.77*
47.沖縄県	2,928	*0.52*	*0.72*	727	*0.56*	*0.70*	683	*0.49*	*0.68*	181	*0.60*	*0.71*	*3.78*
合　計	263,430			61,563			64,845			14,109			
全国平均値	5,605			1,310			1,380			300			

※1　全国平均対比　Ｎ／Ｎの全国平均値
　　Ｎは各項目（新規求人・求職者数、有効求人・求職者数）の値を指す。
※2　全国比（人口修正）　補正値／補正値の全国平均値
　　補正値とは全国の平均人口を各都道府県の人口で除した値に上記Ｎを乗じたものであり、人口の全国平均値あたりのＮの値。

厚生労働省　令和2年社会福祉施設等調査　＜抜粋版＞

表1　施設の種類、年次別施設数(基本票)

各年10月1日現在

			平成25年 2013年	平成26年 2014年	平成27年 2015年	平成28年 2016年	平成29年 2017年	平成30年 2018年	令和元年 2019年	令和2年 2020年
総数			58613	61307	66213	70101	72887	77040	78724	80723
保護施設	総数		292	291	292	293	291	286	288	289
保護施設	救護施設		184	183	185	186	186	182	183	183
保護施設	更生施設		19	19	19	21	21	20	20	20
保護施設	医療保護施設		60	60	59	59	59	58	56	56
保護施設	授産施設		18	18	18	17	15	16	15	15
保護施設	宿所提供施設		11	11	11	10	10	10	14	15
老人福祉施設	総数	総数	5308	5334	5327	5291	5293	5251	5262	5228
老人福祉施設	養護老人ホーム	総数	953	952	957	954	959	953	946	948
老人福祉施設	養護老人ホーム	養護老人ホーム（一般）	903	901	906	902	907	901	894	896
老人福祉施設	養護老人ホーム	養護老人ホーム（盲）	50	51	51	52	52	52	52	52
老人福祉施設	軽費老人ホーム	総数	2198	2250	2264	2280	2302	2306	2319	2321
老人福祉施設	軽費老人ホーム	軽費老人ホームＡ型	213	209	204	199	194	192	191	190
老人福祉施設	軽費老人ホーム	軽費老人ホームＢ型	22	17	16	15	14	12	12	13
老人福祉施設	軽費老人ホーム	軽費老人ホーム（ケアハウス）	1963	1989	1996	2007	2023	2028	2035	2034
老人福祉施設	軽費老人ホーム	都市型軽費老人ホーム	…	35	48	59	71	74	81	84
老人福祉施設	老人福祉センター	総数	2157	2132	2106	2057	2032	1992	1997	1959
老人福祉施設	老人福祉センター	老人福祉センター（特Ａ型）	253	250	246	244	242	237	237	227
老人福祉施設	老人福祉センター	老人福祉センター（Ａ型）	1454	1435	1417	1371	1353	1318	1320	1291
老人福祉施設	老人福祉センター	老人福祉センター（Ｂ型）	450	447	443	442	437	437	440	441
障害者支援施設等	総数		6099	5951	5874	5778	5734	5619	5636	5556
障害者支援施設等	障害者支援施設		2652	2612	2559	2550	2549	2544	2561	2570
障害者支援施設等	地域活動支援センター		3286	3183	3165	3082	3038	2935	2935	2849
障害者支援施設等	福祉ホーム		161	156	150	146	147	140	140	137
身体障害者社会参加支援施設	総数		322	322	322	309	314	317	315	316
身体障害者社会参加支援施設	身体障害者福祉センター	総数	162	163	161	151	150	152	154	154
身体障害者社会参加支援施設	身体障害者福祉センター	身体障害者福祉センター（Ａ型）	35	36	36	36	36	36	36	38
身体障害者社会参加支援施設	身体障害者福祉センター	身体障害者福祉センター（Ｂ型）	127	127	125	115	114	116	118	116
身体障害者社会参加支援施設	障害者更生センター		5	5	5	5	5	5	4	4
身体障害者社会参加支援施設	補装具製作施設		18	17	16	15	16	15	14	14
身体障害者社会参加支援施設	盲導犬訓練施設		13	12	12	12	13	13	13	13
身体障害者社会参加支援施設	点字図書館		73	74	73	72	73	73	72	71
身体障害者社会参加支援施設	点字出版施設		11	11	11	10	10	10	10	10
身体障害者社会参加支援施設	聴覚障害者情報提供施設		40	40	44	44	47	49	48	50
婦人保護施設			48	47	47	47	46	46	46	47
児童福祉施設等	総数		33938	34462	37139	38808	40137	43203	44616	45722
児童福祉施設等	助産施設		403	393	391	388	387	385	385	388
児童福祉施設等	乳児院		131	133	134	136	138	138	142	144
児童福祉施設等	母子生活支援施設		248	243	235	228	227	222	219	212
児童福祉施設等	保育所等		24076	24509	25580	26265	27137	27951	28737	29474
児童福祉施設等	地域型保育事業所	総数	…	…	1555	2535	3401	5753	6441	6857
児童福祉施設等	地域型保育事業所	小規模保育事業所Ａ型	…	…	…	1805	2594	3390	4033	4467
児童福祉施設等	地域型保育事業所	小規模保育事業所Ｂ型	…	…	…	618	697	780	805	794
児童福祉施設等	地域型保育事業所	小規模保育事業所Ｃ型	…	…	…	112	110	97	99	87
児童福祉施設等	地域型保育事業所	家庭的保育事業所	…	…	…	…	…	931	899	868
児童福祉施設等	地域型保育事業所	居宅訪問型保育事業所	…	…	…	…	…	12	10	11
児童福祉施設等	地域型保育事業所	事業所内保育事業所	…	…	…	…	…	543	595	630
児童福祉施設等	児童養護施設		590	602	609	609	608	611	609	612
児童福祉施設等	障害児入所施設（福祉型）		263	276	267	266	263	258	255	254
児童福祉施設等	障害児入所施設（医療型）		189	207	200	212	212	218	218	220
児童福祉施設等	児童発達支援センター（福祉型）		355	453	467	500	528	571	601	642
児童福祉施設等	児童発達支援センター（医療型）		107	111	106	99	99	100	98	95
児童福祉施設等	児童心理治療施設		38	38	40	42	44	47	49	51
児童福祉施設等	児童自立支援施設		59	58	58	58	58	58	58	58
児童福祉施設等	児童家庭支援センター		96	99	103	108	114	121	130	144
児童福祉施設等	児童館	総数	4598	4598	4613	4637	4541	4477	4453	4398
児童福祉施設等	児童館	小型児童館	2723	2703	2692	2719	2680	2627	2593	2533
児童福祉施設等	児童館	児童センター	1767	1787	1784	1781	1725	1717	1726	1733
児童福祉施設等	児童館	大型児童館Ａ型	17	17	17	17	17	15	15	15
児童福祉施設等	児童館	大型児童館Ｂ型	4	4	4	4	4	4	4	4
児童福祉施設等	児童館	大型児童館Ｃ型	1	1	－	－	－	－	－	－
児童福祉施設等	児童館	その他の児童館	86	86	116	116	115	114	115	113
児童福祉施設等	児童遊園		2785	2742	2781	2725	2380	2293	2221	2173
母子・父子福祉施設	総数		60	59	58	56	56	56	60	56
母子・父子福祉施設	母子・父子福祉センター		56	56	55	54	54	54	58	54
母子・父子福祉施設	母子・父子休養ホーム		4	3	3	2	2	2	2	2
その他の社会福祉施設等	総数		12546	14841	17154	19519	21016	22262	22501	23509
その他の社会福祉施設等	授産施設		70	71	68	68	66	62	61	61
その他の社会福祉施設等	無料低額宿泊所		291	296	296	350	366	403	448	512
その他の社会福祉施設等	盲人ホーム		19	19	20	19	19	19	19	18
その他の社会福祉施設等	無料低額診療施設		475	509	553	571	586	636	…	…
その他の社会福祉施設等	隣保館		1089	1085	1076	1064	1071	1072	1066	1061
その他の社会福祉施設等	へき地保健福祉館		50	45	42	38	32	31	32	33
その他の社会福祉施設等	へき地保育所		517	493	…	…	…	…	…	…
その他の社会福祉施設等	日常生活支援住居施設		・	・	・	・	・	・	・	9
その他の社会福祉施設等	有料老人ホーム（サービス付き高齢者向け住宅以外）		8502	9632	10651	12570	13525	14454	15134	15956
その他の社会福祉施設等	有料老人ホーム（サービス付き高齢者向け住宅であるもの）		1533	2691	4448	4839	5351	5585	5741	5859

注:都道府県・指定都市・中核市が把握する施設について、活動中の施設を集計している。
保育所等は、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園及び保育所である。
地域型保育事業所は、平成27年から29年は、小規模保育事業所について集計している。
無料低額宿泊所は、平成30年までは宿所提供施設として調査している。

令和２年　　社会福祉施設等調査　　令和２年１０月１日

第１表　（基本票）社会福祉施設等数，国－都道府県、施設の種類・経営主体の公営－私営別※

※施設種類ごとの総数のみに加工

	総数	保護施設	老人福祉施設	障害者支援施設等	身体障害者社会参加支援施設	婦人保護施設	児童福祉施設等	母子・父子福祉施設	その他の社会福祉施設等
全国	**80723**	**289**	**5228**	**5556**	**316**	**47**	**45722**	**56**	**23509**
国	11	-	-	7	1	-	3	-	-
北海道	4165	11	263	379	17	1	1786	4	1704
青森	1313	3	83	98	6	-	660	-	463
岩手	1119	4	85	111	2	1	626	-	290
宮城	1704	2	89	105	4	1	1158	1	344
秋田	751	3	79	67	4	1	420	-	177
山形	863	4	48	51	3	1	503	1	252
福島	1012	10	93	57	4	1	577	1	269
茨城	1506	4	117	136	3	1	834	1	410
栃木	1060	4	61	103	4	1	626	-	261
群馬	1423	3	119	122	8	1	569	-	601
埼玉	**3824**	**6**	**204**	**225**	**9**	**1**	**2298**	**5**	**1076**
千葉	**3556**	**5**	**194**	**221**	**12**	**2**	**2208**	**2**	**912**
東京	**7363**	**41**	**358**	**266**	**24**	**5**	**5225**	**-**	**1444**
神奈川	**4796**	**10**	**129**	**451**	**17**	**1**	**2803**	**1**	**1384**
新潟	1543	6	129	153	4	1	1012	-	238
富山	680	3	52	50	3	-	388	-	184
石川	813	3	69	54	4	1	494	1	187
福井	590	2	39	39	3	1	421	1	84
山梨	584	4	52	64	2	1	347	1	113
長野	1646	7	143	156	8	1	893	1	437
岐阜	1180	1	126	82	3	1	617	3	347
静岡	1788	9	121	123	6	1	1071	-	457
愛知	4690	12	230	226	20	2	2992	4	1204
三重	1150	4	89	51	4	1	568	2	431
滋賀	798	5	52	37	4	1	543	2	154
京都	1436	6	128	79	15	1	929	1	277
大阪	4732	24	257	244	27	2	2339	5	1834
兵庫	2930	11	218	244	11	2	1728	5	711
奈良	688	6	71	56	4	-	329	-	222
和歌山	743	4	40	46	3	1	322	-	327
鳥取	546	2	56	32	1	-	307	-	148
島根	610	3	53	62	5	-	344	1	142
岡山	1245	10	124	116	2	-	626	-	367
広島	1744	5	139	133	6	1	1022	1	437
山口	1108	7	86	72	6	1	494	1	441
徳島	640	6	81	64	2	1	302	-	184
香川	685	3	62	53	4	1	325	-	237
愛媛	944	4	96	76	8	1	461	-	298
高知	645	2	56	47	3	-	394	-	143
福岡	3244	7	205	212	14	1	1565	4	1236
佐賀	753	3	58	46	5	1	366	1	273
長崎	1187	4	90	78	2	1	636	-	376
熊本	1613	7	112	115	5	-	832	2	540
大分	995	3	41	66	3	1	450	1	430
宮崎	1286	3	71	63	4	1	635	-	509
鹿児島	1471	1	121	136	4	1	745	1	462
沖縄	1550	2	39	82	3	1	929	2	492

資料3

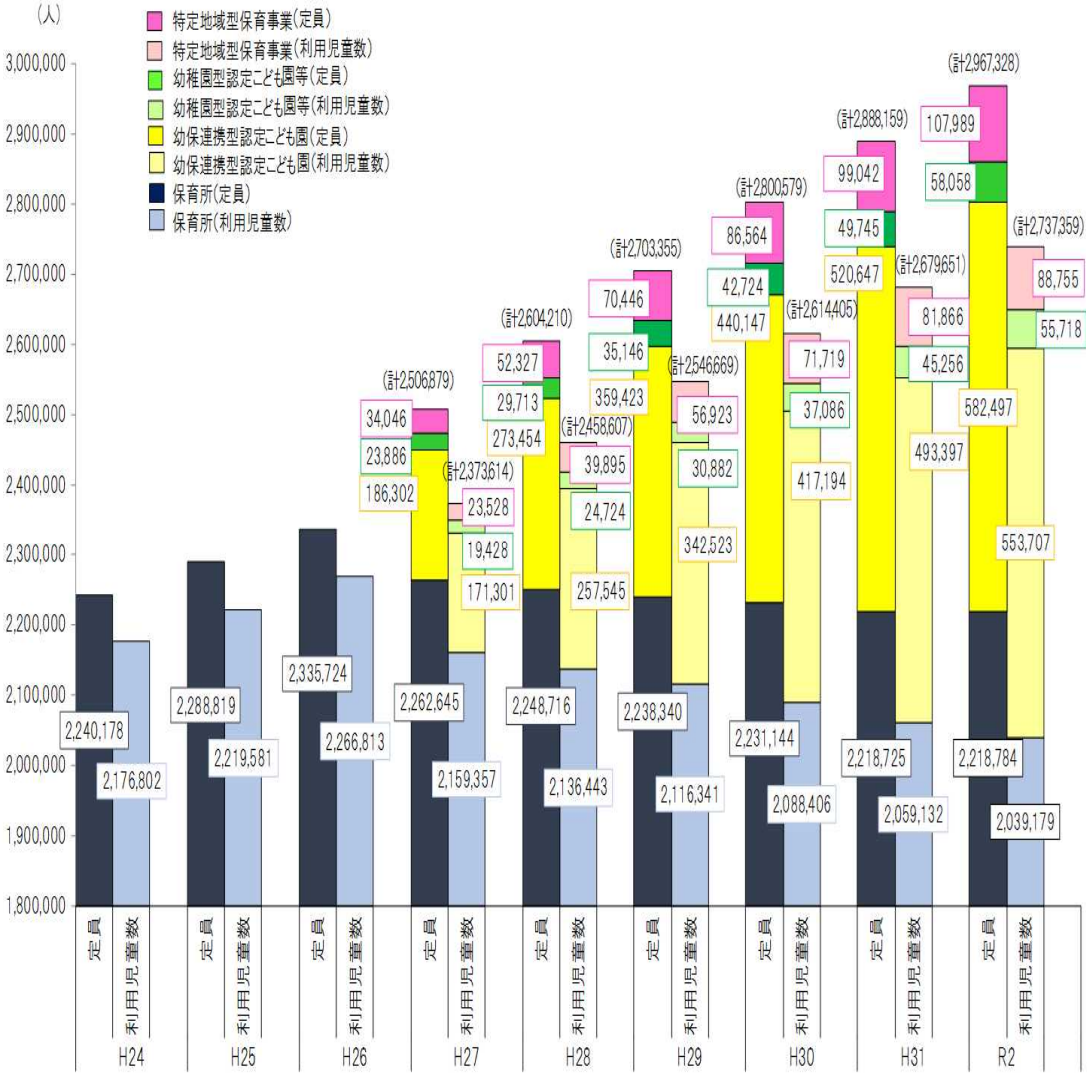
保育を取り巻く状況について

＜抜粋版＞

令和３年５月26日
厚生労働省子ども家庭局保育課

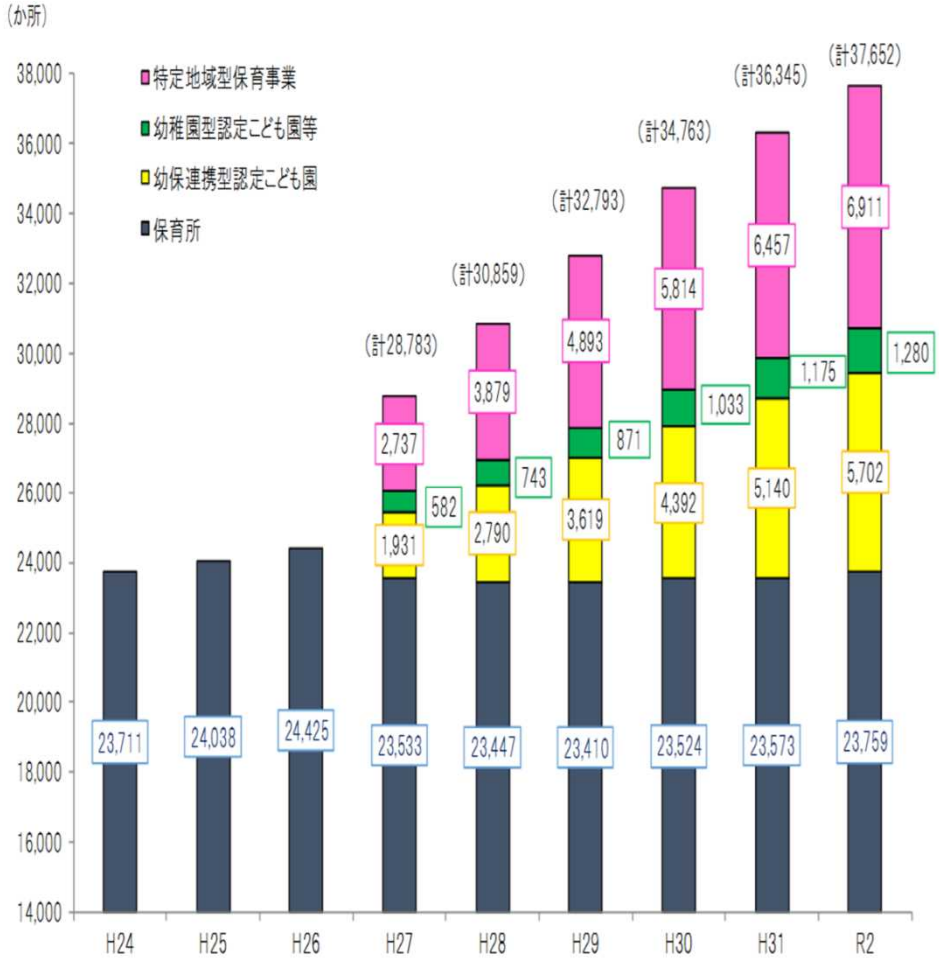
保育所等定員数・利用児童数・保育所等数の推移

○保育所等定員数及び利用児童数の推移



認可定員数 ◀――|――▶ 利用定員数

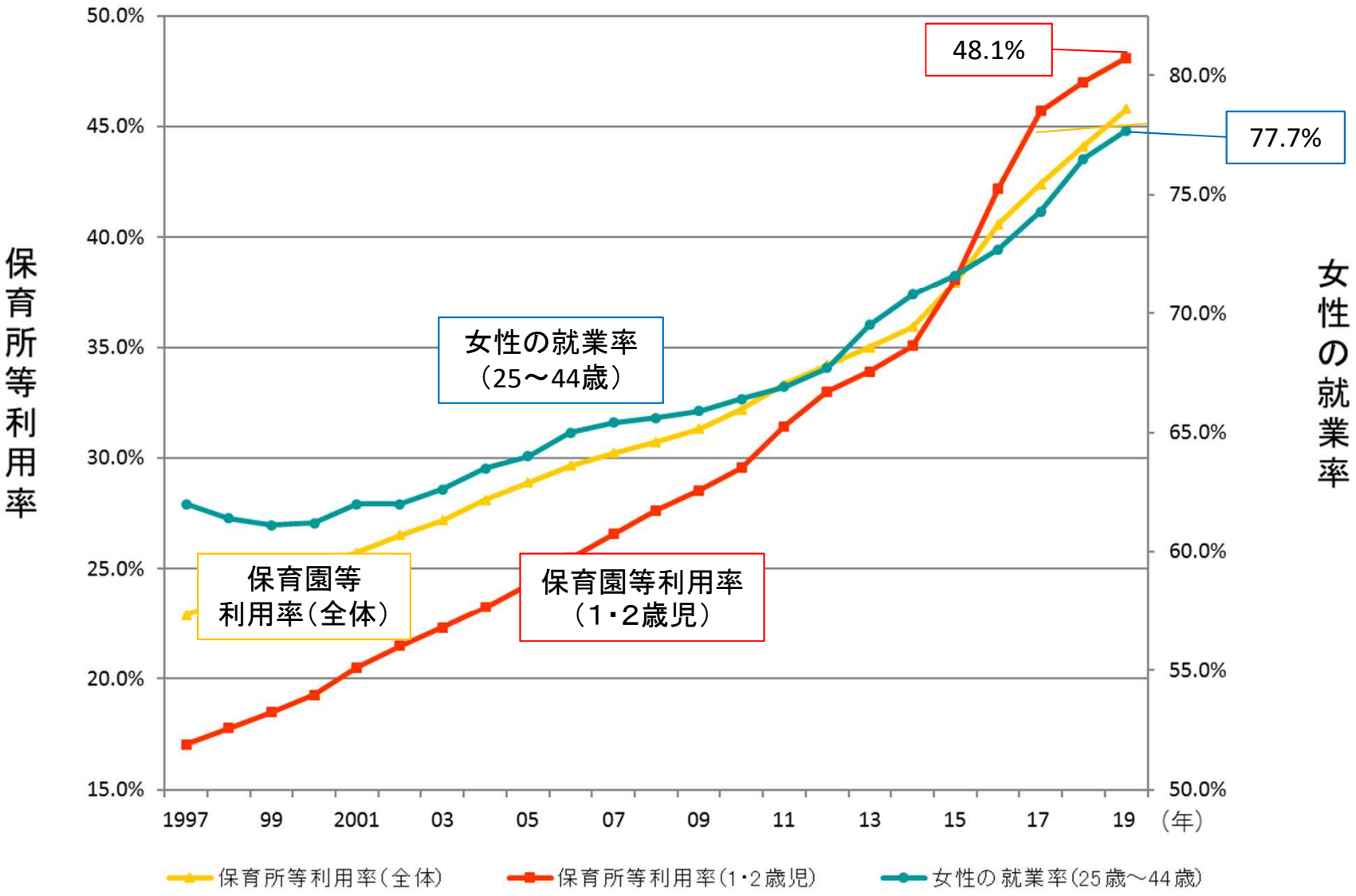
○保育所等数の推移



（出典） 26年－福祉行政報告例（厚生労働省大臣官房統計情報部）
24年、25年、27年、28年－厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課調べ
29年～R2年－厚生労働省子ども家庭局保育課調べ

女性就業率(25～44歳)と保育所等の利用率の推移

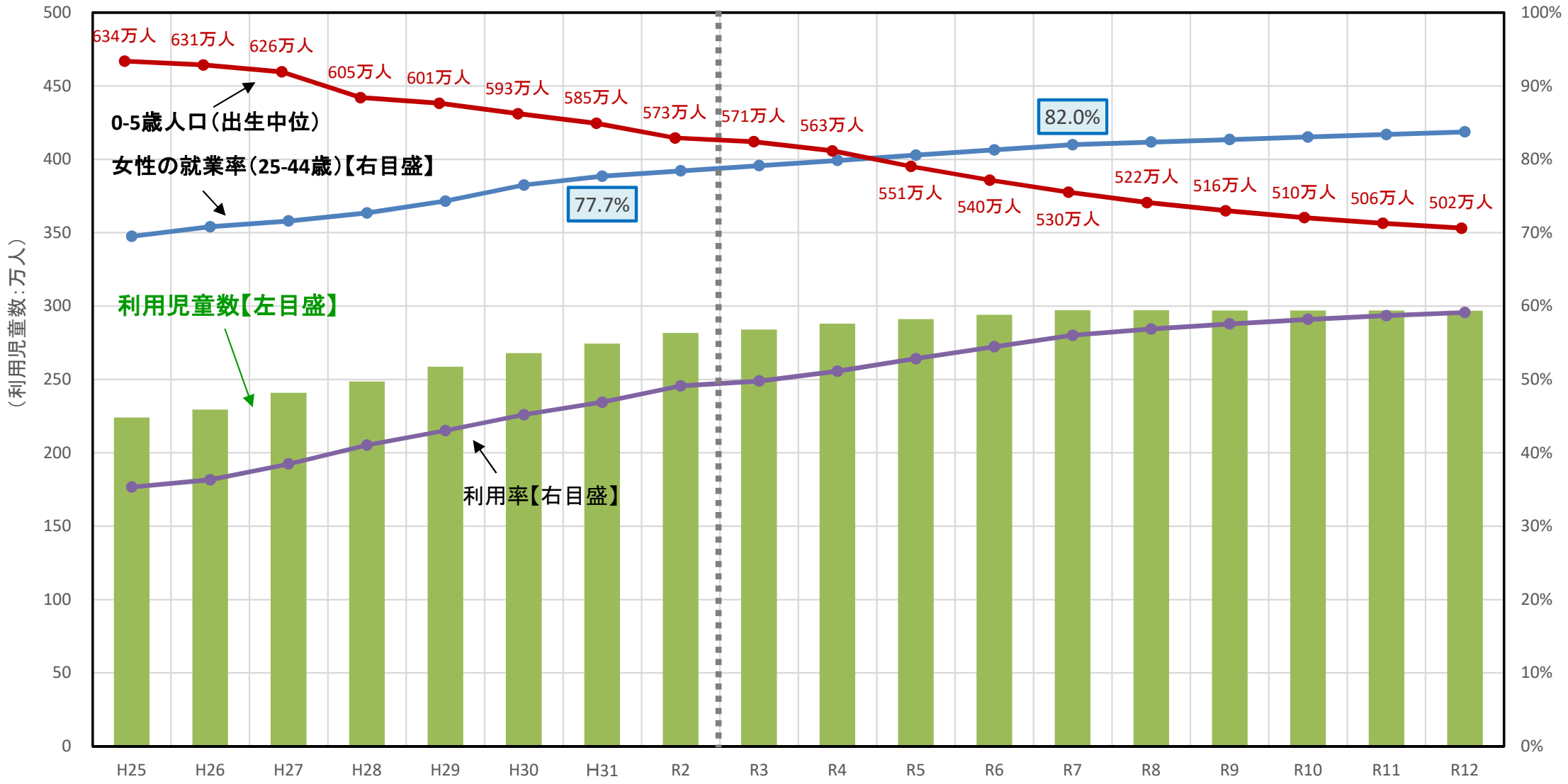
○女性の就業率（25～44歳）と１・２歳児保育利用率ともに、年々上昇傾向にある。



出典：総務省「労働力調査」等を基に厚生労働省保育課で作成

保育所の利用児童数の今後の見込み

○保育所の利用児童数のピークは令和７年となる見込み。



上図の利用児童数は、０～５歳人口を基に、女性の就業率（令和７年：82%、2040年：87.2%）及びそれに伴う保育所等の利用率の上昇を踏まえて機械的に算定したものである。

※１　０～５歳人口については、子どもの推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）による。

※２　女性の就業率については、令和７年に82%との目標（第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略）に対応するとともに、労働政策研究・研修機構「労働力需給推計」（平成31年３月29日、経済成長と労働参加が進むケース）において、2040年で87.2%まで伸びると推計されていることを踏まえて設定。

※３　保育所等の利用率については、女性の就業率の上昇に対応するものとして算定

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

Press Release

令和３年８月 27 日
【照会先】
子ども家庭局 保育課
課 長 補 佐　西浦 啓子（内線 4833）
待機児童対策係長　野田 優也（内線 4840）
（代表電話）03(5253)1111
（直通電話）03(3595)2542

報道関係者　各位

「保育所等関連状況取りまとめ（令和３年４月１日）」を公表します

＜抜粋版＞

厚生労働省では、このほど、令和３年４月１日時点での保育所等の定員や待機児童の状況を取りまとめましたので公表します。

この取りまとめは、全国の保育所等の状況を把握することを目的に毎年実施しているものです。平成 27 年度の調査から、従来の保育所に加え、平成 27 年４月に施行した子ども・子育て支援新制度において新たに位置づけられた幼保連携型認定こども園等の特定教育・保育施設と特定地域型保育事業*1（うち２号・３号認定）の数値を含みます。

【保育所等関連状況取りまとめのポイント】

○保育所等利用定員*2は302万人（前年比５万人の増加）

○保育所等を利用する児童の数は274万人（前年比５千人の増加）

○待機児童数は5,634人で前年比6,805人の減少
- 待機児童のいる市区町村は、前年から88減少して312市区町村。
- 待機児童が100人以上の市区町村は、前年から18減少して４市。
- 待機児童が100人以上増加した自治体はなし。待機児童が100人以上減少したのは、さいたま市（376人減）、岡山市（228人減）、明石市（216人減）など13市区町。

＊１　特定教育・保育施設：幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園及び地方裁量型認定こども園
特定地域型保育事業：小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業及び居宅訪問型保育事業

＊２　保育所等利用定員　：保育所、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園、地方裁量型認定こども園、小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業及び居宅訪問型保育事業の利用定員

（資料3） 都道府県・指定都市・中核市別　待機児童数　集約表

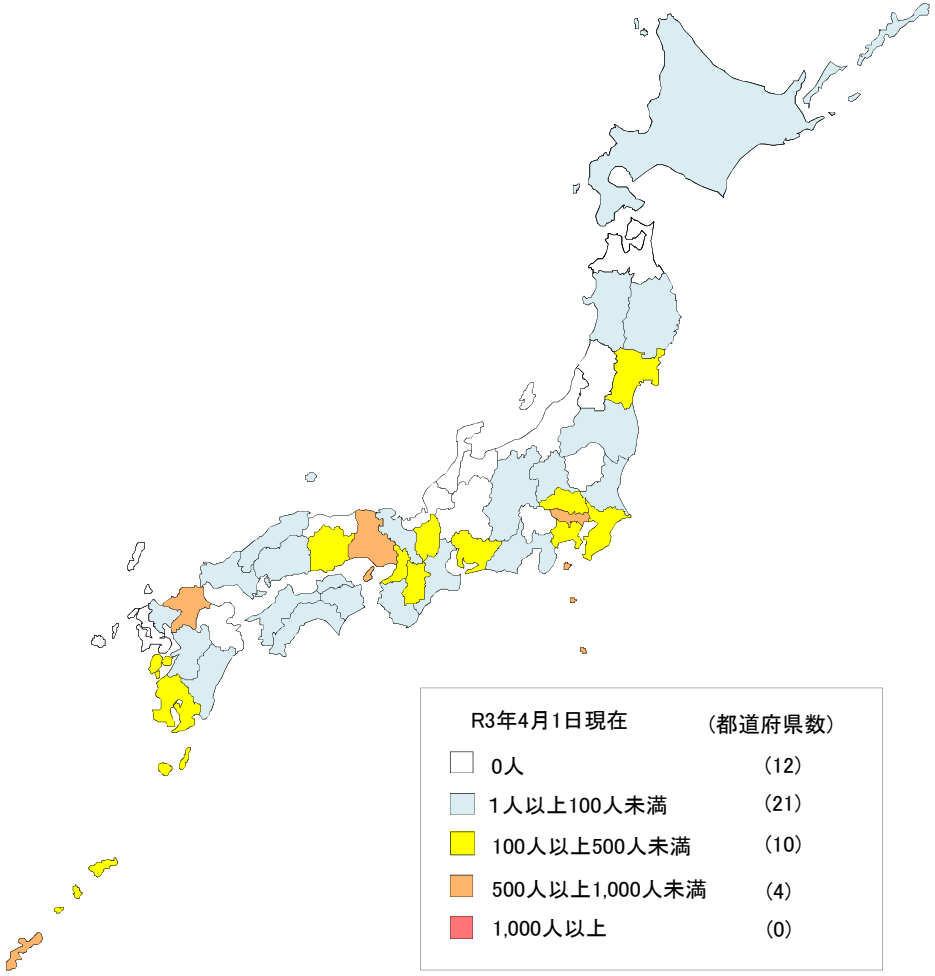
（令和3年4月1日現在）

	都道府県	保育所等数 か所	利用定員数 人	利用児童数 人	待機児童数 人
1	北海道	738	46,368	41,813	68
2	青森県	322	21,926	19,252	0
3	岩手県	400	25,363	22,202	12
4	宮城県	403	24,500	22,223	178
5	秋田県	218	17,810	14,936	10
6	山形県	293	22,765	20,329	0
7	福島県	263	19,410	16,906	58
8	茨城県	716	59,600	53,473	5
9	栃木県	419	34,305	29,640	0
10	群馬県	335	31,647	28,890	4
11	埼玉県	1,338	89,164	82,565	339
12	千葉県	1,221	88,119	77,795	416
13	東京都	4,450	321,424	294,404	950
14	神奈川県	686	48,627	46,471	265
15	新潟県	522	44,734	37,077	0
16	富山県	204	20,494	17,117	0
17	石川県	242	25,560	21,006	0
18	福井県	204	18,687	16,255	0
19	山梨県	221	19,027	15,853	0
20	長野県	481	45,888	35,861	12
21	岐阜県	412	38,923	31,480	0
22	静岡県	600	43,379	39,351	61
23	愛知県	904	99,360	78,945	102
24	三重県	470	45,627	39,649	50
25	滋賀県	346	29,152	27,116	183
26	京都府	280	29,050	26,239	6
27	大阪府	630	58,153	57,103	136
28	兵庫県	559	46,621	45,313	211
29	奈良県	197	21,271	19,359	110
30	和歌山県	145	14,454	12,889	4
31	鳥取県	163	13,271	11,180	0
32	島根県	238	16,249	15,031	1
33	岡山県	220	19,261	17,221	34
34	広島県	314	25,218	20,688	0
35	山口県	316	23,462	21,337	15
36	徳島県	224	18,578	16,266	23
37	香川県	159	14,725	12,812	0
38	愛媛県	279	20,603	17,913	8
39	高知県	173	12,892	10,068	1
40	福岡県	635	59,628	56,980	588
41	佐賀県	340	26,527	24,346	24
42	長崎県	339	21,058	20,328	0
43	熊本県	506	36,092	33,339	8
44	大分県	250	17,362	15,355	0
45	宮崎県	325	22,121	20,448	0
46	鹿児島県	478	28,399	27,348	32
47	沖縄県	688	50,285	48,159	527
	都道府県計	23,866	1,877,139	1,680,331	4,441

	指定都市 中核市	保育所等数 か所	利用定員数 人	利用児童数 人	待機児童数 人
48	札幌市	530	34,218	32,330	0
49	仙台市	410	21,770	21,410	44
50	さいたま市	450	27,463	25,855	11
51	千葉市	343	19,127	17,584	0
52	横浜市	1,146	71,698	69,685	16
53	川崎市	520	33,812	33,552	0
54	相模原市	206	14,880	13,369	4
55	新潟市	284	24,639	22,228	0
56	静岡市	209	15,563	13,698	0
57	浜松市	195	16,902	14,288	0
58	名古屋市	732	53,584	48,757	0
59	京都市	423	31,869	30,682	0
60	大阪市	784	60,579	55,000	14
61	堺市	220	19,988	18,730	0
62	神戸市	476	29,570	29,087	11
63	岡山市	194	18,820	18,061	31
64	広島市	298	30,002	27,424	11
65	北九州市	257	19,113	17,423	0
66	福岡市	454	42,088	38,987	2
67	熊本市	266	21,295	21,407	0
	指定都市計	8,397	606,980	569,557	144
68	函館市	60	3,652	3,240	0
69	旭川市	96	6,467	6,361	0
70	青森市	108	7,217	6,618	0
71	八戸市	85	6,080	5,572	0
72	盛岡市	107	7,599	7,010	0
73	秋田市	103	7,702	6,977	0
74	山形市	91	6,542	5,927	0
75	福島市	79	5,484	5,439	0
76	郡山市	84	5,624	5,374	0
77	いわき市	87	6,652	6,589	4
78	水戸市	104	6,538	6,026	8
79	宇都宮市	153	10,758	11,093	0
80	前橋市	87	8,723	7,926	0
81	高崎市	104	9,541	8,739	0
82	川越市	95	5,861	5,353	7
83	川口市	190	11,562	10,655	30
84	越谷市	113	6,055	5,863	1
85	船橋市	165	14,303	12,974	12
86	柏市	95	8,534	8,787	0
87	八王子市	135	11,193	10,994	19
88	横須賀市	75	4,699	4,512	21
89	富山市	117	13,043	11,006	0
90	金沢市	131	13,355	12,297	0
91	福井市	93	9,662	8,374	0
92	甲府市	59	5,423	4,384	0
93	長野市	92	9,297	7,914	7
94	松本市	66	7,365	5,537	2
95	岐阜市	78	6,409	5,939	0
96	豊橋市	64	9,835	8,342	0
97	岡崎市	56	8,360	7,163	72
98	豊田市	80	10,559	7,395	0
99	一宮市	91	9,869	8,501	0
100	大津市	127	9,065	8,524	1
101	豊中市	115	8,377	8,396	0
102	吹田市	112	7,563	7,539	8
103	高槻市	103	6,475	6,761	0
104	枚方市	80	7,526	7,946	0
105	八尾市	50	6,120	6,017	0
106	寝屋川市	47	4,518	4,434	0
107	東大阪市	110	8,928	8,851	0
108	姫路市	113	12,739	11,770	98
109	尼崎市	142	8,428	8,474	118
110	明石市	96	8,027	7,905	149
111	西宮市	141	8,180	8,275	182
112	奈良市	68	7,236	6,132	22
113	和歌山市	62	7,853	6,928	26
114	鳥取市	65	6,256	5,580	0
115	松江市	85	7,045	6,533	0
116	倉敷市	137	12,353	11,500	39
117	呉市	67	4,334	3,859	0
118	福山市	156	13,982	12,007	3
119	下関市	59	5,582	5,180	0
120	高松市	113	11,321	9,950	29
121	松山市	122	8,411	7,795	25
122	高知市	124	11,254	10,236	11
123	久留米市	90	9,183	8,603	35
124	長崎市	128	10,759	9,818	0
125	佐世保市	99	7,265	6,502	0
126	大分市	151	11,806	11,353	0
127	宮崎市	160	12,371	12,068	1
128	鹿児島市	181	13,475	13,197	82
129	那覇市	157	12,404	11,169	37
	中核市計	6,403	532,799	492,183	1,049
	合計	38,666	3,016,918	2,742,071	5,634

注1：都道府県の数値には指定都市・中核市は含まず。
注2：保育所等数：保育所、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園、地方裁量型認定こども園、小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業、居宅訪問型保育事業

（資料４）　令和３年4月1日　全国待機児童マップ（都道府県別）



注：各都道府県には指定都市・中核市を含む。

都道府県	待機児童数	待機児童率	参考	
			（Ｒ２）待機児童数	増減
	人	%	人	人
北海道	68	0.08	134	▲ 66
青森県	0	0.00	0	0
岩手県	12	0.04	58	▲ 46
宮城県	222	0.50	340	▲ 118
秋田県	10	0.05	22	▲ 12
山形県	0	0.00	0	0
福島県	62	0.18	141	▲ 79
茨城県	13	0.02	193	▲ 180
栃木県	0	0.00	34	▲ 34
群馬県	4	0.01	14	▲ 10
埼玉県	388	0.28	1,083	▲ 695
千葉県	428	0.35	833	▲ 405
東京都	969	0.30	2,343	▲ 1,374
神奈川県	306	0.17	496	▲ 190
新潟県	0	0.00	3	▲ 3
富山県	0	0.00	0	0
石川県	0	0.00	0	0
福井県	0	0.00	0	0
山梨県	0	0.00	0	0
長野県	21	0.04	46	▲ 25
岐阜県	0	0.00	0	0
静岡県	61	0.09	122	▲ 61
愛知県	174	0.11	155	19
三重県	50	0.12	81	▲ 31
滋賀県	184	0.50	495	▲ 311
京都府	6	0.01	48	▲ 42
大阪府	158	0.08	348	▲ 190
兵庫県	769	0.66	1,528	▲ 759
奈良県	132	0.49	201	▲ 69
和歌山県	30	0.15	35	▲ 5
鳥取県	0	0.00	0	0
島根県	1	0.00	0	1
岡山県	104	0.21	403	▲ 299
広島県	14	0.02	39	▲ 25
山口県	15	0.06	17	▲ 2
徳島県	23	0.14	61	▲ 38
香川県	29	0.13	64	▲ 35
愛媛県	33	0.13	55	▲ 22
高知県	12	0.06	28	▲ 16
福岡県	625	0.50	1,189	▲ 564
佐賀県	24	0.10	49	▲ 25
長崎県	0	0.00	0	0
熊本県	8	0.01	70	▲ 62
大分県	0	0.00	10	▲ 10
宮崎県	1	0.00	14	▲ 13
鹿児島県	114	0.27	322	▲ 208
沖縄県	564	0.91	1,365	▲ 801
計	5,634	0.20	12,439	▲ 6,805

平成30年

特定サービス産業実態調査報告書

デザイン業，機械設計業編

＜抜粋版＞

令和元年9月

経済産業省大臣官房調査統計グループ

第　Ⅰ　編
《デザイン業》
１．全規模の部
②都道府県別統計表

② 都 道 府 県

第1表 事業所数、従業者数、事業従事者数、年間売上高、

区分	事業所数 計	事業所数 単独事業所	事業所数 本社	事業所数 支社	従業者数 A (人)	事業従事者数 (人)	うち、デザイン業務の事業従事者数 B
全国計	**7,289**	**6,681**	**367**	**240**	**30,476**	**31,036**	**30,346**
北海道	214	…	…	…	754	758	749
青森	26	…	…	…	61	61	61
岩手	31	…	…	…	48	48	46
宮城	69	…	…	…	343	357	341
秋田	43	…	…	…	148	157	154
山形	25	…	…	…	63	63	63
福島	48	…	…	…	155	157	157
茨城	55	…	…	…	147	153	146
栃木	43	…	…	…	148	148	141
群馬	71	…	…	…	289	319	298
埼玉	142	…	…	…	394	399	394
千葉	89	…	…	…	283	283	282
東京	2,608	…	…	…	13,114	13,536	13,334
神奈川	346	…	…	…	1,137	1,150	1,113
新潟	80	…	…	…	255	259	235
富山	55	…	…	…	196	196	196
石川	79	…	…	…	252	251	246
福井	41	…	…	…	94	94	94
山梨	29	…	…	…	45	45	45
長野	108	…	…	…	360	360	360
岐阜	97	…	…	…	294	294	294
静岡	172	…	…	…	658	658	615
愛知	441	…	…	…	2,001	2,025	1,978
三重	41	…	…	…	141	144	144
滋賀	25	…	…	…	55	55	52
京都	187	…	…	…	748	745	726
大阪	1,088	…	…	…	4,416	4,434	4,326
兵庫	202	…	…	…	592	600	592
奈良	23	…	…	…	56	56	56
和歌山	23	…	…	…	119	120	104
鳥取	24	…	…	…	71	71	71
島根	14	…	…	…	33	33	33
岡山	73	…	…	…	314	314	306
広島	92	…	…	…	276	278	272
山口	34	…	…	…	125	125	125
徳島	23	…	…	…	68	68	57
香川	43	…	…	…	137	137	135
愛媛	48	…	…	…	142	142	142
高知	14	…	…	…	64	64	40
福岡	253	…	…	…	1,150	1,152	1,117
佐賀	16	…	…	…	51	51	51
長崎	21	…	…	…	51	51	51
熊本	34	…	…	…	106	106	105
大分	28	…	…	…	79	79	79
宮崎	17	…	…	…	85	80	80
鹿児島	25	…	…	…	76	76	65
沖縄	30	…	…	…	286	286	279

注6:「事業従事者数」とは、事業所の従業者数から「別経営の事業所に派遣している人」を除き、「別経営の事業所から派遣されている人」を加えた、いわゆる実際に従事している者をいう。
注7:標本調査で拡大推計して集計後に四捨五入をしているため、総計と内訳の合計とは一致しない場合がある。また、単位当たり換算の値は、各数値に単位以下の数値を有しているため、公表値から求めても一致しない場合がある。

模　　の　　部

別　　統　　計　　表

年間営業費用、1事業所当たり及び1人当たりの年間売上高

年間売上高(百万円)			事業所の年間営業費用	1事業所当たり				従業者1人当たりの年間売上高	デザイン業務事業従事者1人当たりの主業年間売上高
計 C	デザイン業務（主業） D	その他業務（従業）	(百万円)	従業者数 (人)	デザイン業務の事業従事者数 (人)	年間売上高 (万円)	デザイン業務の年間売上高 (万円)	C/A (万円)	D/B (万円)
329,763	**310,366**	**19,397**	**303,927**	**4**	**4**	**4,524**	**4,258**	**1,082**	**1,023**
7,774	6,387	1,387	6,979	4	3	3,633	2,985	1,032	853
468	416	52	399	2	2	1,800	1,599	767	682
160	149	12	123	2	1	517	480	332	322
2,794	2,439	355	2,454	5	5	4,049	3,534	814	715
819	816	3	844	3	4	1,906	1,899	555	532
403	398	5	387	3	3	1,611	1,590	641	633
1,058	983	74	1,041	3	3	2,204	2,048	684	627
1,180	1,109	70	1,106	3	3	2,145	2,017	803	760
897	887	9	736	3	3	2,085	2,063	606	631
3,633	3,486	148	3,231	4	4	5,118	4,910	1,257	1,169
5,264	5,226	38	4,868	3	3	3,716	3,689	1,337	1,328
2,498	2,479	19	2,329	3	3	2,806	2,785	882	879
166,530	156,780	9,750	155,862	5	5	6,385	6,012	1,270	1,176
9,486	8,934	552	8,929	3	3	2,742	2,582	835	803
2,063	1,818	245	1,999	3	3	2,579	2,273	809	773
1,637	1,304	333	1,515	4	4	2,976	2,371	835	665
1,363	1,176	187	1,143	3	3	1,725	1,488	541	478
624	605	19	588	2	2	1,521	1,475	661	641
336	321	16	305	2	2	1,171	1,117	751	717
2,810	2,698	112	2,589	3	3	2,602	2,498	781	750
1,829	1,771	59	1,722	3	3	1,884	1,824	623	603
6,351	5,886	465	6,134	4	4	3,703	3,432	965	956
20,839	19,245	1,594	18,702	5	4	4,725	4,364	1,041	973
1,187	1,181	6	1,115	3	4	2,895	2,881	840	819
240	225	15	198	2	2	960	902	434	435
6,004	5,744	260	5,480	4	4	3,211	3,072	803	791
48,404	46,738	1,666	43,060	4	4	4,449	4,296	1,096	1,081
5,098	4,842	255	4,583	3	3	2,524	2,397	861	818
432	382	50	370	2	2	1,878	1,662	778	689
888	785	104	803	5	5	3,863	3,412	746	753
547	518	29	540	3	3	2,279	2,158	775	733
165	155	10	152	2	2	1,177	1,104	499	468
2,755	2,493	261	2,605	4	4	3,773	3,415	877	815
2,039	1,965	74	1,797	3	3	2,217	2,136	738	723
984	798	186	1,017	4	4	2,893	2,346	785	636
659	605	54	569	3	2	2,865	2,632	969	1,062
914	887	27	821	3	3	2,125	2,063	669	657
801	767	34	583	3	3	1,669	1,598	566	542
980	811	169	853	5	3	6,999	5,792	1,531	2,027
12,272	11,749	523	11,140	5	4	4,851	4,644	1,067	1,052
332	332	－	316	3	3	2,073	2,073	655	655
273	272	1	244	2	2	1,298	1,294	539	538
782	740	42	735	3	3	2,301	2,178	741	708
705	705	－	593	3	3	2,518	2,518	896	896
751	713	38	784	5	5	4,416	4,195	880	891
402	362	40	309	3	3	1,607	1,446	530	558
1,336	1,286	50	1,276	10	9	4,453	4,285	466	460

注8:統計表の「　」は、回収標本数が少ないために表章できない項目を表している。

内閣府　県民経済計算（平成18年度 - 平成30年度）

１．県内総生産（生産側、名目）※支出側も同じ

総括表

（実数）　（単位：100万円）

都道府県	平成１８年度 2006	平成１９年度 2007	平成２０年度 2008	平成２１年度 2009	平成２２年度 2010	平成２３年度 2011	平成２４年度 2012	平成２５年度 2013	平成２６年度 2014	平成２７年度 2015	平成２８年度 2016	平成２９年度 2017	平成３０年度 2018	
01 北海道	19,316,568	19,137,599	18,457,858	18,219,113	18,122,675	18,071,493	17,923,502	18,242,119	18,579,766	19,128,504	19,134,399	19,468,886	19,652,846	01
02 青森県	4,633,892	4,596,948	4,320,698	4,284,804	4,305,232	4,325,746	4,354,034	4,282,050	4,356,062	4,525,696	4,520,038	4,432,443	4,374,419	02
03 岩手県	4,397,997	4,363,825	4,140,157	4,036,974	3,994,065	4,022,143	4,184,370	4,351,679	4,455,260	4,567,554	4,568,299	4,666,740	4,739,618	03
04 宮城県	8,591,009	8,381,717	8,030,589	7,819,207	7,880,010	7,672,067	8,246,878	8,515,654	8,918,330	9,313,090	9,380,602	9,452,749	9,512,296	04
05 秋田県	3,674,389	3,586,058	3,352,546	3,282,004	3,286,393	3,311,212	3,281,522	3,301,810	3,334,742	3,383,219	3,432,098	3,568,310	3,520,558	05
06 山形県	4,167,601	4,239,464	3,843,058	3,680,028	3,753,095	3,683,819	3,710,067	3,848,276	3,803,834	3,939,120	4,054,994	4,278,165	4,275,855	06
07 福島県	8,265,754	8,080,916	7,637,805	7,284,859	7,168,892	6,560,830	6,932,399	7,405,271	7,621,532	7,729,259	7,823,757	7,872,892	7,905,423	07
08 茨城県	12,215,380	12,680,005	12,303,163	11,636,029	11,994,475	12,444,032	12,208,562	12,099,866	12,406,472	12,981,492	13,054,424	13,802,033	14,035,454	08
09 栃木県	8,694,875	8,797,377	8,272,255	8,098,891	8,209,263	8,071,631	7,963,689	8,438,449	8,467,013	9,051,240	9,123,072	9,349,264	9,374,826	09
10 群馬県	7,950,984	8,141,547	7,855,646	7,596,531	7,754,959	7,734,507	7,769,806	8,089,205	8,260,027	8,628,353	8,674,224	8,920,450	8,989,798	10
11 埼玉県	21,746,726	21,814,872	21,280,837	20,673,032	20,982,096	21,570,190	21,154,205	21,571,411	21,679,562	22,307,407	22,468,051	23,140,727	23,254,133	11
12 千葉県	19,723,384	20,175,752	19,645,192	19,191,053	19,022,214	18,914,276	18,614,159	19,638,201	19,628,679	20,142,306	20,161,010	20,810,069	21,074,667	12
13 東京都	104,897,928	105,331,451	103,814,636	97,556,925	97,911,461	100,277,084	99,824,147	101,234,576	101,769,228	104,494,963	105,126,848	105,964,694	107,041,763	13
14 神奈川県	34,821,147	35,636,710	34,506,653	31,622,330	32,774,261	33,076,345	32,459,589	32,634,711	32,536,013	34,019,454	34,566,910	35,361,834	35,717,069	14
15 新潟県	9,141,002	9,127,640	8,671,670	8,459,433	8,510,346	8,498,962	8,463,996	8,626,928	8,604,100	8,807,438	8,858,173	9,012,655	9,122,176	15
16 富山県	4,653,671	4,679,561	4,413,428	4,124,288	4,343,429	4,374,644	4,314,889	4,367,335	4,454,662	4,585,364	4,532,778	4,635,991	4,824,735	16
17 石川県	4,575,786	4,606,898	4,456,919	4,179,063	4,170,485	4,116,826	4,170,290	4,323,798	4,421,260	4,598,413	4,602,340	4,663,393	4,768,715	17
18 福井県	3,590,786	3,618,277	3,474,720	3,358,259	3,412,593	3,353,061	3,107,438	3,131,508	3,033,810	3,272,114	3,212,044	3,351,735	3,459,511	18
19 山梨県	3,395,131	3,383,182	3,264,167	3,030,455	3,211,766	3,200,980	3,042,286	3,101,423	3,122,130	3,265,633	3,328,406	3,456,255	3,576,147	19
20 長野県	8,563,778	8,612,567	8,047,312	7,746,020	7,821,522	7,852,987	7,637,218	7,734,489	7,902,229	8,260,718	8,256,134	8,425,513	8,597,553	20
21 岐阜県	7,901,450	7,898,922	7,540,754	7,196,298	7,228,356	7,257,923	7,236,391	7,140,766	7,281,744	7,475,581	7,560,235	7,721,108	7,920,765	21
22 静岡県	17,764,869	17,905,190	17,065,566	15,916,488	16,209,776	16,242,556	16,111,235	16,478,744	16,365,211	16,855,484	16,982,932	17,150,767	17,462,055	22
23 愛知県	39,414,049	40,383,743	35,946,631	34,286,965	33,824,522	34,954,094	36,615,186	37,770,055	38,447,266	39,560,835	39,374,080	40,275,543	40,937,229	23
24 三重県	8,391,255	8,586,062	7,858,164	7,491,413	7,694,240	7,435,912	7,626,982	7,919,655	7,671,850	7,916,818	8,155,561	8,280,243	8,411,362	24
25 滋賀県	6,114,976	6,216,627	6,023,347	5,864,894	6,049,367	5,934,200	5,749,628	5,889,791	5,966,502	6,193,763	6,405,300	6,709,510	6,767,885	25
26 京都府	10,092,897	10,587,292	9,952,030	9,553,604	9,647,911	9,753,159	9,663,618	9,643,629	9,914,964	10,411,786	10,519,872	10,703,826	10,665,508	26
27 大阪府	39,890,155	39,939,941	38,558,397	36,710,031	37,001,134	37,604,481	37,100,179	37,354,921	38,074,073	38,861,735	38,767,605	39,952,558	40,195,600	27
28 兵庫県	20,684,630	20,640,541	20,204,930	18,779,913	19,645,070	19,413,327	19,566,105	19,829,287	20,308,831	20,844,443	20,892,594	21,268,039	21,177,777	28
29 奈良県	3,794,234	3,802,539	3,640,997	3,507,573	3,578,070	3,471,810	3,447,512	3,490,514	3,508,497	3,539,770	3,610,455	3,660,928	3,722,814	29
30 和歌山県	3,728,114	3,674,159	3,579,034	3,354,795	3,503,887	3,571,571	3,554,210	3,569,818	3,497,475	3,479,081	3,640,733	3,476,433	3,604,365	30
31 鳥取県	2,084,134	1,987,302	1,902,049	1,830,017	1,756,885	1,727,434	1,713,905	1,738,638	1,750,700	1,812,681	1,841,731	1,896,972	1,908,004	31
32 島根県	2,532,733	2,567,244	2,377,855	2,361,988	2,362,733	2,375,380	2,314,568	2,335,051	2,378,773	2,466,857	2,488,444	2,482,271	2,531,780	32
33 岡山県	8,210,377	8,075,001	7,505,612	7,164,695	7,103,152	7,352,964	7,134,912	7,392,027	7,367,842	7,757,916	7,621,357	7,810,016	7,805,727	33
34 広島県	11,634,778	12,117,045	11,165,002	10,572,710	10,547,617	10,823,300	10,366,399	10,569,308	11,168,497	11,658,738	11,748,356	11,798,821	11,713,710	34
35 山口県	6,109,542	6,183,669	5,887,865	5,649,785	5,891,135	5,821,735	5,733,872	5,910,640	6,025,119	5,797,725	6,165,564	6,348,332	6,374,592	35
36 徳島県	2,945,348	2,918,230	2,870,670	2,821,873	2,908,998	2,917,689	2,874,822	2,991,705	3,054,005	3,082,666	3,054,820	3,135,012	3,173,285	36
37 香川県	3,834,214	3,882,221	3,705,437	3,670,278	3,600,091	3,742,019	3,718,163	3,646,766	3,662,957	3,733,406	3,791,888	3,838,857	3,855,119	37
38 愛媛県	5,069,932	4,977,450	4,672,385	4,625,527	4,706,117	4,927,371	4,554,110	4,668,221	4,698,714	4,873,214	4,964,425	5,092,895	4,988,260	38
39 高知県	2,371,437	2,346,634	2,266,215	2,231,008	2,239,260	2,239,925	2,226,993	2,286,986	2,326,388	2,375,747	2,402,093	2,413,717	2,418,966	39
40 福岡県	18,228,495	18,619,878	17,905,342	17,919,548	18,267,537	18,167,445	17,874,557	18,097,488	18,322,970	18,964,251	19,197,209	19,599,357	19,808,023	40
41 佐賀県	2,916,878	3,000,320	2,850,855	2,667,892	2,780,148	2,699,790	2,632,048	2,692,281	2,732,404	2,868,546	2,874,318	2,934,756	3,118,356	41
42 長崎県	4,378,827	4,410,114	4,268,437	4,285,469	4,306,027	4,281,328	4,216,361	4,191,475	4,124,274	4,467,739	4,576,578	4,597,055	4,676,556	42
43 熊本県	5,604,236	5,680,926	5,433,429	5,314,990	5,416,240	5,497,565	5,465,825	5,499,366	5,546,286	5,685,540	5,941,437	6,132,184	6,122,421	43
44 大分県	4,338,741	4,347,261	4,303,360	3,982,655	4,231,144	4,178,616	4,157,580	4,166,026	4,248,897	4,419,433	4,343,060	4,493,710	4,614,319	44
45 宮崎県	3,517,376	3,495,501	3,407,741	3,355,649	3,367,904	3,357,921	3,344,516	3,428,597	3,492,055	3,578,673	3,647,335	3,703,311	3,740,151	45
46 鹿児島県	5,416,028	5,475,076	5,244,168	5,079,592	5,112,609	5,084,260	4,943,511	5,050,879	5,110,565	5,311,884	5,360,936	5,551,823	5,548,673	46
47 沖縄県	3,696,733	3,691,938	3,626,533	3,638,867	3,658,122	3,692,582	3,707,321	3,836,534	3,905,192	4,168,147	4,340,289	4,415,717	4,505,641	47
全県計	547,684,226	552,403,192	529,552,114	505,713,815	511,267,284	515,659,192	513,013,555	522,527,927	528,306,762	545,163,796	549,147,808	560,078,559	565,586,505	
地域ブロック														
北海道・東北	62,188,212	61,514,167	58,454,381	57,066,422	57,020,708	56,146,272	57,096,768	58,573,787	59,673,626	61,393,880	61,772,360	62,752,840	63,103,191	
関東	222,009,333	224,573,463	218,989,861	207,151,266	209,682,017	213,142,032	210,673,661	214,542,331	215,771,353	223,151,566	224,759,079	229,230,839	231,661,410	
中部	86,291,866	87,678,653	80,756,182	76,552,774	76,883,401	77,735,016	79,182,411	81,131,861	81,675,803	84,264,609	84,419,970	86,078,780	87,784,372	
近畿	84,305,006	84,861,099	81,958,735	77,770,810	79,425,439	79,748,548	79,081,252	79,777,960	81,270,342	83,330,578	83,836,559	85,771,294	86,133,949	
中国	30,571,564	30,930,261	28,838,383	27,579,195	27,661,522	28,100,813	27,263,656	27,945,664	28,690,931	29,493,917	29,865,452	30,336,412	30,333,813	
四国	14,220,931	14,124,535	13,514,707	13,348,686	13,454,466	13,827,004	13,374,088	13,593,678	13,742,064	14,065,033	14,213,226	14,480,481	14,435,630	
九州	48,097,314	48,721,014	47,039,865	46,244,662	47,139,731	46,959,507	46,341,719	46,962,646	47,482,643	49,464,213	50,281,162	51,427,913	52,134,140	
政令指定都市														
札幌市	6,654,506	6,710,958	6,512,635	6,326,992	6,313,618	6,381,379	6,335,295	6,505,511	6,582,280	6,701,625	6,744,798	6,911,551	7,053,097	
仙台市	4,418,017	4,372,344	4,200,826	4,214,126	4,211,614	4,253,073	4,722,405	4,825,081	4,884,755	5,105,373	5,151,709	5,163,846	5,165,620	
さいたま市	3,911,250	3,984,949	3,948,420	3,863,400	3,902,151	4,014,960	4,017,890	4,159,896	4,139,548	4,305,500	4,337,939	4,517,026	4,542,267	
千葉市	3,758,091	3,834,287	3,712,167	3,522,325	3,528,877	3,515,448	3,422,968	3,580,991	3,649,083	3,756,127	3,775,844	3,840,883	3,933,453	
横浜市	13,634,496	13,761,023	13,511,197	12,972,929	12,999,304	12,940,401	12,770,076	12,960,465	12,910,546	13,305,197	13,401,430	13,688,632	13,877,357	
川崎市	5,993,592	6,040,161	6,087,451	5,609,911	5,751,756	5,788,534	5,687,632	5,810,581	5,885,007	6,151,600	6,127,267	6,352,502	6,381,556	
新潟市	3,038,058	3,118,485	3,009,507	2,978,342	2,993,126	3,006,468	3,011,170	3,067,836	3,058,219	3,063,303	3,089,852	3,146,383	3,172,753	
浜松市	－	3,496,122	3,170,218	3,163,882	3,122,651	3,154,109	3,092,971	3,264,213	3,082,073	3,065,281	3,099,088	3,258,469	3,265,548	
名古屋市	13,493,445	13,523,216	12,766,619	12,004,607	12,267,580	12,600,518	12,560,119	12,812,961	12,901,462	13,215,184	13,171,549	13,439,360	13,580,710	
京都市	6,273,688	6,822,355	6,347,458	6,071,458	6,109,018	6,225,830	6,263,456	6,118,979	6,195,753	6,562,064	6,675,677	6,706,396	6,629,189	
大阪市	20,562,589	20,414,531	19,748,910	18,573,570	18,623,326	18,998,354	18,744,357	18,857,145	18,991,792	19,440,584	19,519,570	19,989,780	20,193,841	
堺市	2,854,556	2,948,920	3,113,795	2,813,012	2,980,424	2,772,118	2,833,360	2,806,374	3,119,465	3,070,197	2,947,066	3,248,888	3,099,934	
神戸市	6,265,315	6,306,427	6,097,924	5,991,125	6,127,788	6,036,909	5,978,819	5,999,002	6,229,969	6,449,840	6,483,979	6,634,094	6,656,098	
岡山市	－	2,697,195	2,625,827	2,576,433	2,562,693	2,637,005	2,648,683	2,654,987	2,707,538	2,824,786	2,823,442	2,832,930	2,881,541	
広島市	4,947,847	5,119,964	5,116,579	4,843,463	4,913,029	5,058,270	4,997,499	5,008,698	5,226,578	5,390,278	5,548,189	5,706,157	5,593,238	
北九州市	3,651,594	3,751,720	3,639,169	3,411,388	3,552,420	3,556,759	3,469,806	3,561,079	3,713,008	3,686,264	3,661,786	3,717,123	3,748,636	
福岡市	7,142,214	7,111,789	6,934,526	6,750,425	6,759,364	7,075,857	7,027,968	7,176,675	7,273,425	7,543,321	7,632,249	7,748,745	7,849,783	

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ヤグチ　エツコ 矢口　悦子 ＜令和2年4月＞		博士 （人文科学）		東洋大学学長 （令和2年4月）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 （学科長）	ｼﾑﾗ ｹﾝｲﾁ 志村 健一 〈令和5年4月〉		Doctor of Education （米国）		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 社会福祉調査の応用 社会福祉調査の基礎 ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 質的調査法 ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 1後 1前 2後 2後 1前 2後 2・3・4前 3後 3前 3後 3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部 教授 〈平23.4〉	5日
2	専	教授	ﾌｼﾞﾊﾞﾔｼ ｹｲｺ 藤林 慶子 〈令和5年4月〉		社会学修士		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ 医療福祉演習Ⅰ 医療福祉演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2後 2・3前 2・3後 3前 3後 3前 3後 3後 3・4前 3・4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 1 1 4 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部 教授 〈平13.4〉	5日
3	専	教授	ｺﾚｴﾀﾞ ｷﾖｼﾞ 是枝 喜代治 〈令和5年4月〉		博士 （教育学）		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 障害者福祉 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 権利擁護を支える法制度 ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 1前 2前 2後 2・3前 3前 3後 3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平24.4〉	5日
	兼任	講師	ｺﾚｴﾀﾞ ｷﾖｼﾞ 是枝 喜代治 〈令和7年4月〉				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 障害者福祉 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 権利擁護を支える法制度 ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 1前 2前 2後 2・3前 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 2 1 2 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
4	専	教授	ｲﾅｶﾞﾜ ﾋﾃﾞｶｽﾞ 伊奈川 秀和 〈令和5年4月〉		博士 （法学）		社会福祉学基礎演習Ⅰ	1前	2	1	東洋大学社会学部教授 〈平28.4〉	5日
							社会福祉学基礎演習Ⅱ	1後	2	1		
							社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							社会福祉学総合演習Ⅰ	2前	2	1		
							社会福祉学総合演習Ⅱ	2後	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2後	2	1		
							アドミニストレーション論	1前	2	1		
							ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2前	1	1		
							ソーシャルワーク実習Ⅰ	2後	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	3前	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	3後	2	1		
							ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前	1	1		
							ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後	1	1		
							ソーシャルワーク実習Ⅱ	3後	4	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	4前	2	1		
							卒業論文	4後	4	1		
	兼任	講師	ｲﾅｶﾞﾜ ﾋﾃﾞｶｽﾞ 伊奈川 秀和 〈令和7年4月〉				社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後	2	1		2日
							ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2後	2	1		
							アドミニストレーション論	1前	2	1		
							社会保障Ⅰ	2･3前	2	1		
							社会保障Ⅱ	2･3後	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	3前	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	3後	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	4前	2	1		
5	専	教授	ｲﾅｻﾞﾜ ｺｳｲﾁ 稲沢 公一 〈令和5年4月〉		博士 （社会福祉学）		社会福祉学基礎演習Ⅰ	1前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部教授 〈平24.4〉	5日
							社会福祉学基礎演習Ⅱ	1後	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							社会福祉学総合演習Ⅰ	2前	2	1		
							社会福祉学総合演習Ⅱ	2後	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2後	2	1		
							精神保健福祉の原理Ⅰ	2前	2	1		
							精神保健福祉の原理Ⅱ	2後	2	1		
							ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）（精神）	2前	2	1		
							ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（精神）	2後	2	1		
							現代社会とメンタルヘルス ※	2･3･4前	0.4	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	3前	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	3後	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神）	3前	2	1		
							ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神）	3後	1	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	4前	2	1		
							ソーシャルワーク実習（精神）	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
6	専	教授	ﾀｶﾔﾏ ﾅｵｷ 高山 直樹 〈令和5年4月〉		修士 （社会福祉学）		社会福祉学基礎演習Ⅰ	1前	2	1	東洋大学社会学部教授 〈平14.4〉	5日
							社会福祉学基礎演習Ⅱ	1後	2	1		
							ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							社会福祉学専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							社会福祉学総合演習Ⅰ	2前	2	1		
							社会福祉学総合演習Ⅱ	2後	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅰ	2前	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2後	2	1		
							ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2前	1	1		
							ソーシャルワーク実習Ⅰ	2後	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	3前	2	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）	3後	2	1		
							ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前	1	1		
							ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後	1	1		
							ソーシャルワーク実習Ⅱ	3後	4	1		
							ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	4前	2	1		
							卒業論文	4後	4	1		

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
7	専	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ (ｶﾄﾞﾜｷ) ﾋﾛﾐ 渡辺（門脇）裕美 〈令和5年4月〉		博士 (社会福祉学)		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） 実習指導の理論と方法 地域医療福祉専門実習Ⅰ 地域医療福祉専門実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文 介護福祉実習Ⅰ こころとからだのしくみⅡ 介護過程Ⅱ 介護総合演習Ⅱ 介護福祉援助概論Ⅱ 介護福祉実習Ⅱ 生活支援技術Ⅳ 生活支援技術Ⅴ 医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ 介護福祉実習Ⅲ 介護教育方法 医療的ケアⅢ 介護福祉実習Ⅳ	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 3・4前 4前 4後 4前 4後 1後 1・2・3・4前 2後 2前 2後 2後 2前 2前 3前 3後 3前 3・4前 4前 4前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 2 1 2 2 3 1 1 2 3 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平17.4〉	5日
8	専	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾐｶ 山本 美香 〈令和5年4月〉		博士 (学術)		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 居住福祉論 ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2後 2後 2・3前 2・3・4後 3前 3後 3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 3 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平21.4〉	5日
9	専	教授	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子 光一 〈令和5年4月〉		博士 (社会福祉学)		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 欧米の社会福祉史 社会福祉発達史 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 1前 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 1前 1前 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部 教授 〈平16.4〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
10	専	教授	ﾖｼｳﾗ ﾄｵﾙ 吉浦 輪 〈令和5年4月〉		博士 (社会福祉学)		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 保健医療と福祉 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ 医療福祉演習Ⅰ 医療福祉演習Ⅱ 地域医療福祉専門実習Ⅰ 地域医療福祉専門実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク実習（精神） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2前 2前 2後 3前 3後 3後 3後 3・4前 3・4後 4前 4後 4前 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 1 1 4 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平21.4〉	5日
11	専	教授	ｶﾔﾏ ﾀﾞﾝ 加山 弾 〈令和5年4月〉		博士 (人間福祉)		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2後 3前 3後 3前 3後 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部 教授 〈平18.4〉	5日
12	専	教授	ﾌﾙｶﾜ ｶｽﾞﾄｼ 古川 和稔 〈令和5年4月〉		博士 (医療福祉学)		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 福祉ＩＣＴ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） 実習指導の理論と方法 ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文 介護福祉援助概論Ⅰ 介護福祉実習Ⅰ 生活支援技術Ⅰ 介護総合演習Ⅲ 介護福祉実習Ⅱ 生活支援技術Ⅱ 介護過程Ⅲ 介護福祉実習Ⅲ 生活支援技術Ⅵ 介護教育方法 生活支援のための運動学とリハビリテーション 介護福祉実習Ⅳ	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2・3・4前 3前 3後 3・4前 4前 4後 1後 1後 1後 2後 2後 2前 3前 3前 3前 3・4前 3・4前 4前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 2 1 1 3 1 1 3 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平31.4〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
13	専	教授	ﾖｼﾀﾞ ｺｳｼﾞ 吉田 光爾 〈令和5年4月〉		博士 (保健学)		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ 精神医学と精神医療Ⅰ 精神医学と精神医療Ⅱ 現代社会とメンタルヘルス ※ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神） ソーシャルワーク実習（精神） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 2･3･4前 3前 3後 4前 4後 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.4 2 2 2 2 1 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平30.4〉	5日
14	専	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾁﾖ 渡辺 道代 〈令和5年4月〉		修士 (社会福祉学) ※		社会貢献活動入門 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） ソーシャルワーク実習（精神） 卒業論文	1･2･3･4後 1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 1後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 4 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平26.4〉	5日
15	専	准教授	ﾀｶﾉ ﾀﾂﾌﾐｷ 高野 龍昭 〈令和5年4月〉		文学士		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 高齢者福祉 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ ケアマネジメント論 ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） 実習指導の理論と方法 ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文 介護福祉実習Ⅰ 介護福祉実習Ⅱ 介護総合演習Ⅳ 介護福祉実習Ⅲ 介護教育方法 介護過程Ⅳ 介護福祉実習Ⅳ	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 1前 2前 2･3･4後 3前 3後 3･4前 4前 4後 1後 2後 3後 3前 3･4前 4前 4前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 3 1 3 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平17.4〉	5日
16	専	准教授	ﾄｲ ﾋﾛｷ 戸井 宏紀 〈令和5年4月〉		Ph.D. (Social Work) (米国)		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 刑事司法と福祉 社会調査および実習Ⅰ 社会調査および実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ 社会福祉の権利 ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 1前 2後 2･3前 2･3･4前 2･3･4後 3前 3後 3前 3後 3後 3･4前 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 1 1 4 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部 准教授 〈令3.4〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
17	専	准教授	ｻﾄｳ ｱｷ 佐藤 亜樹 〈令和5年4月〉		Doctor of Philosophy （米国）		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 人間の幸福とペット 社会調査および実習Ⅰ 社会調査および実習Ⅱ ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2後 2前 2後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 3後 3前 3後 3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部 准教授 〈平30.4〉	5日
18	専	准教授	ﾊﾔｻｶ ﾄｼﾋｻ 早坂 聡久 〈令和5年4月〉		修士 （社会福祉学） ※		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 福祉サービスの組織と経営 ソーシャルアクション論 ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2・3後 2・3・4後 3前 3後 3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平27.4〉	5日
19	専	准教授	ﾔｷﾞ ﾕｶｺ 八木 裕子 〈令和5年4月〉		博士 （介護福祉・ケアマネジメント学）		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ケアワーク論 災害と福祉 ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） 実習指導の理論と方法 ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文 介護過程Ⅰ 介護総合演習Ⅰ 介護福祉実習Ⅰ 介護コミュニケーション技術Ⅰ ※ 介護福祉実習Ⅱ 介護福祉実習Ⅲ 生活支援技術Ⅶ 介護教育方法 介護過程の応用 介護福祉実習Ⅳ 生活支援技術Ⅸ	1前 1後 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2前 2・3・4後 3前 3後 3・4前 4前 4後 1後 1後 1後 2前 2後 3前 3後 3後 3・4前 4後 4前 4前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 1 1 2 1.1 3 3 1 2 1 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平26.4〉	5日
20	専	准教授	ﾏﾄﾊﾞ（ｷｳﾁ） ﾄﾓｺ 的場（木内）智子 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		社会学 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ 現代社会とメンタルヘルス ※ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）（精神） 地域医療福祉専門実習Ⅰ 地域医療福祉専門実習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神） ソーシャルワーク実習（精神） 卒業論文	1・2・3・4前 1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2・3・4前 3後 4前 4後 4前 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 0.4 2 2 2 1 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平17.4〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
21	専	准教授	ｵｷﾞﾉ ﾀｶﾋﾄ 荻野 剛史 〈令和5年4月〉		博士 （社会福祉学）		社会福祉学入門 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 国際社会福祉論Ａ 国際社会福祉論Ｂ 社会福祉国際体験演習Ａ 社会福祉国際体験演習Ｂ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 3前 3後 3前 3後 3後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部准教授〈平27.4〉	5日
22	専	准教授	ｱｸﾂ ｽﾐｴ 阿久津 純恵 〈令和5年4月〉		修士 （文学） ※		英語ⅠＡ 英語ⅠＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ Intercultural Communication Skills ⅡA Intercultural Communication Skills ⅡB 社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ ＳＤＧｓ入門 国際福祉開発交流 卒業論文	1前 1後 1前 1後 2前 2後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1前 1後 3前 3後 4前 4後 2・3・4前 2・3・4後 4後	2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 4	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部准教授〈平27.4〉	5日
23	専	准教授	ｵﾉ ﾐﾁｺ 小野 道子 〈令和5年4月〉		博士 （国際貢献）		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） 児童・家庭福祉 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 1後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部准教授〈令4.4〉	5日
24	専	准教授	ﾊﾔｼ ﾀﾞｲｽｹ 林 大介 〈令和7年4月〉		修士 （政治学）		社会貢献活動入門 地域マネジメント インターンシップ入門 アントレプレナーシップ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会開発論 社会調査および実習Ⅰ 社会調査および実習Ⅱ	1・2・3・4後 1・2・3・4後 3・4前 3・4後 3前 3後 4前 4後 1後 2・3・4前 2・3・4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	浦和大学社会学部准教授〈令2.4〉	5日
	兼任	講師	ﾊﾔｼ ﾀﾞｲｽｹ 林 大介 〈令和5年9月〉				地域マネジメント	1・2・3・4後	2	1		1日
25	専	講師	ｶﾜﾊﾗ(ｲﾉｳｴ) ｹｲｺ 川原（井上）恵子 〈令和5年4月〉		修士 （社会福祉学） ※		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅰ 社会福祉学専門演習Ⅱ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ 貧困に対する支援 社会調査および実習Ⅰ 社会調査および実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門） 卒業論文	1前 1後 3前 3後 4前 4後 2前 2後 2前 2後 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 1 1 4 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部講師〈平18.4〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
26	専	助教	ｵｶﾔｽ(ﾔｽﾀﾞ) ﾄﾓｺ 岡安（保田）朋子 〈令和5年4月〉		博士 （生涯発達科学）		社会福祉学基礎演習Ⅰ 社会福祉学基礎演習Ⅱ 社会福祉学総合演習Ⅰ 社会福祉学総合演習Ⅱ 社会開発論	1前 1後 2前 2後 1後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東洋大学社会学部助教 〈令4.4〉	5日
27	専	助教	ﾁｮｳ ﾑﾖｳ 張 梦瑶 〈令和5年4月〉		博士 （人間福祉）		ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部助教 〈令3.4〉	5日
	兼任	講師	ﾁｮｳ ﾑﾖｳ 張 梦瑶 〈令和8年4月〉				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		5日
28	専	助教（実習担当）	ｼﾑﾗ ﾖｼﾁｶ 志村 敬親 〈令和5年4月〉		修士 （社会福祉学）		ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神） ソーシャルワーク実習（精神）	2前 3後 4後 4前 4後 4前	2 1 2 1 1 4	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部助教（実習担当） 〈令4.4〉	5日
	兼任	講師	ｼﾑﾗ ﾖｼﾁｶ 志村 敬親 〈令和8年4月〉				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（精神） ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（精神） ソーシャルワーク実習（精神）	2前 3後 4後 4前 4後 4前	2 1 2 1 1 4	1 1 1 1 1 1		2日
29	専	助教（実習担当）	ﾆｼﾑﾗ ｹｲｼﾞ 西村 圭司 〈令和5年4月〉		修士 （社会福祉学）		実習指導の理論と方法 介護過程Ⅰ 介護総合演習Ⅰ 介護福祉実習Ⅰ 介護過程Ⅱ 介護総合演習Ⅱ 介護総合演習Ⅲ 介護福祉実習Ⅱ 生活支援技術Ⅴ 介護過程Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護福祉実習Ⅲ 介護過程の応用 介護過程Ⅳ 介護福祉実習Ⅳ	3･4前 1後 1後 1後 2後 2前 2後 2後 2前 3前 3後 3前 4後 4前 4前	2 1 1 2 1 1 1 3 1 1 1 3 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部助教（実習担当） 〈令3.4〉	5日
	兼任	講師	ﾆｼﾑﾗ ｹｲｼﾞ 西村 圭司 〈令和7年4月〉				実習指導の理論と方法 介護過程Ⅰ 介護総合演習Ⅰ 介護福祉実習Ⅰ 介護過程Ⅱ 介護総合演習Ⅱ 介護総合演習Ⅲ 介護福祉実習Ⅱ 生活支援技術Ⅴ 介護過程Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護福祉実習Ⅲ 介護過程の応用 介護過程Ⅳ 介護福祉実習Ⅳ	3･4前 1後 1後 1後 2後 2前 2後 2後 2前 3前 3後 3前 4後 4前 4前	2 1 1 2 1 1 1 3 1 1 1 3 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2日
30	専	助教（実習担当）	ﾐﾔﾓﾄ ﾕｳｼﾞ 宮本 雄司 〈令和5年4月〉		修士 （体育学）		ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部助教（実習担当） 〈令3.4〉	5日
	兼任	講師	ﾐﾔﾓﾄ ﾕｳｼﾞ 宮本 雄司 〈令和7年4月〉				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
31	専	助教（実習担当）	ｴﾁｾﾞﾝ(ﾌｼﾞｷ) ｻﾄﾐ 越前(藤木) 聡美 〈令和5年4月〉		修士（社会福祉学）※		ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部助教（実習担当）〈令3.4〉	5日
	兼任	講師	ｴﾁｾﾞﾝ(ﾌｼﾞｷ) ｻﾄﾐ 越前(藤木) 聡美 〈令和7年4月〉				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2日
32	専	助教（実習担当）	ｲﾑ ｾｱ 任 セア 〈令和5年4月〉		博士（社会福祉学）		実習指導の理論と方法 介護過程Ⅰ 介護総合演習Ⅰ 介護福祉実習Ⅰ 生活支援技術Ⅰ 介護過程Ⅱ 介護総合演習Ⅱ 介護総合演習Ⅲ 介護福祉実習Ⅱ 介護過程Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護福祉実習Ⅲ 介護過程の応用 介護過程Ⅳ 介護福祉実習Ⅳ	3･4前 1後 1後 1後 1後 2後 2前 2後 2後 3前 3後 3前 4後 4前 4前	2 1 1 2 1 1 1 1 3 1 1 3 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部助教（実習担当）〈令2.4〉	5日
	兼任	講師	ｲﾑ ｾｱ 任 セア 〈令和6年4月〉				実習指導の理論と方法 介護過程Ⅰ 介護総合演習Ⅰ 介護福祉実習Ⅰ 生活支援技術Ⅰ 介護過程Ⅱ 介護総合演習Ⅱ 介護総合演習Ⅲ 介護福祉実習Ⅱ 介護過程Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護福祉実習Ⅲ 介護過程の応用 介護過程Ⅳ 介護福祉実習Ⅳ	3･4前 1後 1後 1後 1後 2後 2前 2後 2後 3前 3後 3前 4後 4前 4前	2 1 1 2 1 1 1 1 3 1 1 3 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2日
33	専	助教（実習担当）	ｵｶﾓﾄ ﾁｶ 岡本 周佳 〈令和5年4月〉		博士（社会福祉学）		ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部助教（実習担当）〈令3.4〉	5日
	兼任	講師	ｵｶﾓﾄ ﾁｶ 岡本 周佳 〈令和7年4月〉				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2日
34	専	助教（実習担当）	ｺｳ ｼﾝﾛ コウ シンロ 〈令和5年4月〉		博士（人間福祉）		ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学社会学部助教（実習担当）〈令3.4〉	5日
	兼任	講師	ｺｳ ｼﾝﾛ コウ シンロ 〈令和7年4月〉				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	2前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 4前	2 2 1 2 2 2 1 1 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2日
35	兼担	教授	ｲﾅｶﾞｷ ｻﾄｼ 稲垣 諭 〈令和6年4月〉		博士（文学）		全学総合Ｆ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授〈平28.4〉	1日
36	兼担	教授	ｲﾜｼﾀ ﾃﾂﾉﾘ 岩下 哲典 〈令和5年4月〉		博士（歴史学）		歴史学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授〈平28.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
37	兼担	教授	ｵｵﾂｶ ﾖｼｵﾐ 大塚 佳臣 〈令和5年4月〉		博士（工学）		全学総合Ｄ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学総合情報学部 教授 〈平22.4〉	1日
38	兼担	教授	ｶｶﾞﾐ ｶｽﾞｱｷ 加賀見 一彰 〈令和5年4月〉		博士（経済学）		全学総合Ｋ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学経済学部 教授 〈平18.4〉	1日
39	兼担	教授	ｶﾈｺ ﾘﾂｺ 金子 律子 〈令和5年9月〉		医学博士		生物学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学生命科学部 教授 〈平18.4〉	1日
40	兼担	教授	ｶﾜｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｵ 川口 英夫 〈令和5年9月〉		博士（工学）		全学総合Ｊ	1･2･3･4後	2	1	東洋大学生命科学部 教授 〈平21.4〉	1日
	兼任	講師	ｶﾜｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｵ 川口 英夫 〈令和7年9月〉				全学総合Ｊ	1･2･3･4後	2	1		1日
41	兼担	教授	ｶﾜﾓﾄ ﾋﾃﾞｵ 河本 英夫 〈令和5年4月〉		博士（学術）		全学総合Ｆ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授 〈平3.4〉	1日
42	兼担	教授	ｷｳﾁ ｱｷﾗ 木内 明 〈令和5年4月〉		教育学修士（韓国）		韓国語Ⅰ	1･2･3･4前	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平17.4〉	1日
43	兼担	教授	ｷｸﾁ ﾉﾘﾀｶ 菊地 章太 〈令和5年4月〉		博士（文学）		哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合Ｃ 総合Ｂ 総合Ｃ 総合Ｄ 総合Ｅ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平17.4〉	3日
	兼任	講師	ｷｸﾁ ﾉﾘﾀｶ 菊地 章太 〈令和7年4月〉				哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合Ｃ 総合Ｂ 総合Ｃ 総合Ｄ 総合Ｅ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		3日
44	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻｵ 小林 正夫 〈令和5年9月〉		理学修士		全学総合Ｇ 全学総合Ｈ	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学社会学部 教授 〈平5.4〉	2日
45	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾅｵﾐ 高橋 直美 〈令和5年4月〉		教育学修士		日本文学 口頭表現法 文章読解 レポート・論文のまとめ方 総合Ａ	1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平9.4〉	2日
46	兼担	教授	ﾀﾄﾞｺﾛ ｷﾖｼ 田所 聖志 〈令和5年9月〉		博士（社会人類学）		ダイバーシティ論	1･2･3･4後	2	1	東洋大学社会学部 教授 〈令和3.4〉	1日
47	兼担	教授	ﾀﾆｶﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 谷釜 尋徳 〈令和5年4月〉		博士（体育科学）		全学総合Ｌ 全学総合Ｍ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学法学部 教授 〈平20.4〉	1日
48	兼担	准教授	ｲｼﾀﾞ ﾀﾂﾔ 石田 達也 〈令和5年9月〉		博士（農学）		現代化学	1･2･3･4後	2	1	株式会社明治研究本部 研究員 〈平17.4〉	1日
49	兼担	准教授	ｳｴﾀﾞ ﾄﾓｱｷ 上田 知亮 〈令和5年4月〉		博士（法学）		政治学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学法学部 准教授 〈平27.4〉	1日
50	兼担	准教授	ｳｼｼﾛﾞ ﾘｭｳﾀ 牛窪 隆太 〈令和5年4月〉		博士（日本語教育学）		Integrated Japanese Ⅱ Practice	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 准教授 〈平31.4〉	1日
51	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ﾀｶｺ 小島 貴子 〈令和5年4月〉		修士（国際アドミニストレーション）		キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践	1前 2後	2 2	1 1	東洋大学理工学部 准教授 〈平24.4〉	1日
	兼任	講師	ｺｼﾞﾏ ﾀｶｺ 小島 貴子 〈令和6年4月〉				キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践	1前 2後	2 2	1 1		1日
52	兼担	准教授	ｺﾞﾄｳ ﾀｶｱｷ 後藤 隆彰 〈令和5年9月〉		博士（工学）		全学総合Ｅ	1･2･3･4後	2	1	東洋大学総合情報学部 准教授 〈平31.4〉	1日
53	兼担	准教授	ｺﾊﾞﾔｶﾜ ﾕｳｺ 小早川 裕子 〈令和5年4月〉		博士（国際地域学）		留学のすすめ アカデミックライティング テクニカルライティング	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2 2	1 1 1	東洋大学国際教育センター 准教授 〈平29.4〉	2日
54	兼担	准教授	ｻｶｷﾊﾞﾗ ｹｲｺ 榊原 圭子 〈令和5年4月〉		博士（保健学）		全学総合Ⅰ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学社会学部 准教授 〈平28.4〉	1日
55	兼担	准教授	ﾀｹﾑﾗ ﾐｽﾞﾎ 竹村 瑞穂 〈令和5年4月〉		博士（体育科学）		哲学 生命と倫理 ジェンダー論	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 2 2	1 1 1	日本福祉大学スポーツ科学部 准教授 〈平29.4〉	2日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
56	兼担	准教授	ﾃﾗ ﾖｳﾍｲ 寺 洋平 〈令和5年9月〉		法学修士		日本国憲法	1･2･3･4後	2	1	東洋大学法学部 准教授 〈平23.10〉	1日
57	兼担	准教授	ﾎｿﾀﾆ ﾖｳｺ 細谷 洋子 〈令和5年4月〉		博士（スポーツ科学）		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平30.9〉	1日
58	兼担	准教授	ﾑﾗｶﾐ ｶｽﾞｷ 村上 一基 〈令和5年4月〉		Doctorat en Sciences sociales et Philosophie de connaissance（仏国）		グローバル市民論	1･2･3･4前	2	1	東洋大学社会学部 准教授 〈平30.4〉	1日
59	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ(ｲｼｲ) ｱﾔ 山本(石井) 綾 〈令和5年4月〉		博士（人文科学）		英語および英語圏社会事情 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB Intercultural Communication Skills ⅠA Intercultural Communication Skills ⅠB English Test PreparationⅠ English Test PreparationⅡ	1･2･3･4前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈令4.4〉	3日
60	兼担	講師	ｱﾝﾄﾞﾚｴﾌ ｽﾄｲﾁｪﾌ ｱﾝﾄﾝ アンドレエフ ストイチェフ アントン 〈令和5年4月〉		日本語学博士		Integrated Japanese Ⅰ Theory Integrated Japanese Ⅱ Practice Japanese Reading Ⅰ Japanese Reading Ⅱ Japanese Listening Ⅰ Japanese Listening Ⅱ Japanese Writing Ⅰ Project Work Ⅰ Japanese Culture and Society A Japanese Culture and Society B	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	2日
61	兼担	講師	ｳｨﾙｿﾝ ﾏｼｭｰ ウィルソン マシュー 〈令和5年4月〉		修士(English for Academic Purposes)(英国)		IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking IELTS for Study Abroad I Reading/Writing Pre-Study Abroad: Writing	1･2･3･4前 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後	2 2 2 1	1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	1日
62	兼担	講師	ｴｲﾃｨﾑ ｿｲﾊﾝ エイティム ソイハン 〈令和5年4月〉		Doctor of Education(米国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	2日
	兼任	講師	ｴｲﾃｨﾑ ｿｲﾊﾝ エイティム ソイハン 〈令和8年4月〉				英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1		2日
63	兼担	講師	ｵｵﾊｼ ｶﾂｲﾁﾛｳ 大橋 勝一郎 〈令和5年4月〉		修士(Applied Linguistics(TESOL))(ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	1日
64	兼担	講師	ｺﾆｼ ｶﾅ 小西 可奈 〈令和6年9月〉		博士（スポーツ健康科学）		食と健康	1･2･3･4後	2	1	東洋大学食環境科学部 助教 〈平31.4〉	1日
	兼担	助教	ｺﾆｼ ｶﾅ 小西 可奈 〈令和5年9月〉				食と健康	1･2･3･4後	2	1		1日
65	兼担	講師	ﾁﾝ ｼｭｳｲﾝ 陳 秀茵 〈令和5年4月〉		博士（学術）		Integrated Japanese Ⅰ Theory Integrated Japanese Ⅲ Practice	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 2	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令3.4〉	1日
66	兼担	講師	ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄﾞ ﾄﾗｸｻﾙ デイビッド トラクサル 〈令和5年4月〉		M.S.Education-TESOL(米国)		Business English Communication	1･2･3･4前	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令4.4〉	1日
67	兼担	講師	ﾄﾑｿﾝ ﾌﾞﾚｱ ｼﾞｮﾝ トムソン ブレア ジョン 〈令和5年4月〉		Master of Arts(ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	2日
	兼任	講師	ﾄﾑｿﾝ ﾌﾞﾚｱ ｼﾞｮﾝ トムソン ブレア ジョン 〈令和7年4月〉				英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		2日
68	兼担	講師	ﾅｶﾉ ﾃｲｺ 中野 てい子 〈令和5年4月〉		博士(学術)		Integrated Japanese Ⅰ Practice Project Work Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令3.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
69	兼担	講師	ﾊﾞｯｸ ｼﾞｮﾅｻﾝ バック ジョナサン 〈令和5年4月〉		Master of Arts in English Language Teaching and Applied Linguistics,(英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平30.4〉	1日
70	兼担	講師	ﾋｻﾖｼ ﾀｶｺ 久好 孝子 〈令和5年4月〉		博士(国際文化)		Integrated Japanese Ⅲ Theory Japanese Reading Ⅰ Japanese Listening Ⅰ Japanese Writing Ⅱ Japanese Writing Ⅲ Project Work Ⅱ Project Work Ⅲ Introduction to Japanology A Introduction to Japanology B	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	2日
71	兼担	講師	ﾐｽﾞﾏﾂ ﾐﾅ 水松 巳奈 〈令和5年4月〉		Ph.D(米国)		留学のすすめ 異文化理解概論 海外研修Ⅰ 海外研修Ⅱ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 短期海外研修Ⅰ 短期海外研修Ⅱ 短期海外研修Ⅲ 短期海外研修Ⅳ 短期海外実習Ⅰ 短期海外実習Ⅱ 短期海外実習Ⅲ 短期海外実習Ⅳ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	2日
72	兼担	講師	ﾓｰﾚﾙ ｸﾘｽﾁｬﾝ ﾛﾊﾞｰﾄ モーレル クリスチャン ロバート 〈令和5年4月〉		TESOL修士(米国)		Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後	1	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平27.9〉	1日
73	兼担	講師	ﾘｰ ｼﾞｬｸｿﾝ ｸｰﾝ ｲｪｯﾂ リー ジャクソン クーン イェッツ 〈令和5年4月〉		Master of Arts in Applied Linguistics and TESOL(英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	1日
74	兼担	助教	ｼﾝﾀﾆ ｽﾊﾞﾙ 新谷 昂 〈令和5年4月〉		博士(医学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	日本体育大学体育学部一般研究員 〈令2.4〉	1日
75	兼担	助教	ｱﾀﾞﾁ ｹﾞﾝ 安達 玄 〈令和5年4月〉		博士(スポーツ科学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	早稲田大学スポーツ科学研究センター 招聘研究員 〈令3.4〉	1日
76	兼担	助教	ｵｸﾑﾗ ﾀｸﾛｳ 奥村 拓朗 〈令和5年4月〉		博士(体育科学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	日本体育大学児童スポーツ教育学部 助教 〈令3.4〉	1日
77	兼任	講師	ｱｻﾏ ﾏｻﾐﾁ 淺間 正通 〈令和5年4月〉		教育学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
78	兼任	講師	ｱﾗｶﾜ ｼｭﾝﾔ 荒川 俊也 〈令和5年4月〉		博士(学術)		プログラミング基礎Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	日本工業大学先進工学部 教授 〈令4.4〉	1日
79	兼任	講師	ｱﾝｻﾞｲ ｼﾞｭﾝｺ 安齋 順子 〈令和5年4月〉		修士(教育学)		心理学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
80	兼任	講師	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 安藤 潤一郎 〈令和5年4月〉		修士(文学)		社会学 中国語および中国語圏社会事情 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	1日
81	兼任	講師	ｲｱﾝ ﾌｨﾘｯﾌﾟ ﾊｰﾄ IAN PHILIP HART 〈令和5年4月〉		M.Ed(応用言語学・TESOL)(英国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
82	兼任	講師	ｲｼｲ ｼｮｳﾀ 石井 翔大 〈令和5年4月〉		修士(工学)		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
83	兼任	講師	ｲﾉｸﾞﾁ ｱﾔﾅ 猪口 綾奈 〈令和5年4月〉		Master of Arts in Teaching(米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	2日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
84	兼任	講師	ｲﾜｾ ﾕｳｺ 岩瀬 裕子 〈令和5年9月〉		修士 （人間科学）		文化人類学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
85	兼任	講師	ｳﾒﾐﾔ ﾕｳ 梅宮 悠 〈令和5年4月〉		修士 （文学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
86	兼任	講師	ｴﾄｳ(ﾅｶﾉ) ｷｴ 江藤(中野) 双恵 〈令和5年9月〉		修士 （国際学）		地域文化研究Ｂ	1･2･3･4後	2	1	東洋大学国際学部 講師 〈平29.4〉	1日
87	兼任	講師	ｵｸﾀﾞ ﾏｲ 奥田 麻衣 〈令和5年9月〉		博士 （学術）		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	6	3	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.9〉	1日
88	兼任	講師	ｵﾋﾞｷ ﾏﾐ 尾関 麻美 〈令和5年4月〉		言語学修士 （M.A.）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平8.4〉	1日
89	兼任	講師	ｵ ﾍﾁｮﾝ 呉 海鍾 〈令和5年4月〉		博士 （環境学）		情報リテラシーＩ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
90	兼任	講師	ｵﾎﾞｸﾞﾈ ﾍｽﾗ ﾏﾘﾘﾝ オボグネ ヘスラ マリリン 〈令和5年4月〉		博士 （工学）		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
91	兼任	講師	ｵﾔﾏﾀﾞ ﾕﾀｶ 小山田 豊 〈令和5年4月〉		文学修士		ドイツ語およびドイツ語圏社会事情 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 1 1	1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	1日
92	兼任	講師	ｶﾀｷﾞﾘ ｱｷﾗ 片桐 暁 〈令和5年4月〉		修士 （美術）		情報リテラシーＩ	1･2･3･4前	8	4	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
93	兼任	講師	ｷﾉｼﾀ ﾋﾛﾐ 木下 ひろみ 〈令和5年4月〉		文学修士 （比較文化）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平26.4〉	1日
94	兼任	講師	ｸﾄﾞｳ ｷｴ 工藤 貴恵 〈令和5年4月〉		修士 （文学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
95	兼任	講師	ｸﾄﾞｳ(ﾊﾞﾝ) ﾍﾞﾆ 工藤(坂) 紅 〈令和5年9月〉		博士 （文学）		外国文学	1･2･3･4後	2	1	立正大学経営学部 准教授 〈平27.4〉	1日
96	兼任	講師	ｸﾞﾚﾝ ﾌｧｰﾝ グレン ファーン 〈令和6年4月〉		Education(M.A.)(米国)		英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	2前 2後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平18.4〉	1日
97	兼任	講師	ｺｼﾞﾏ ﾉﾌﾞﾕｷ 小嶋 信之 〈令和5年4月〉		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平23.4〉	1日
98	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾐﾎ 佐藤 美保 〈令和5年4月〉		修士 （文学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
99	兼任	講師	ｼﾞｪﾌﾘｰ ﾌﾞﾙｰｽ Jeffrey Bruce 〈令和5年4月〉		修士 （英語教育）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
100	兼任	講師	ｼｵｻﾞﾜ ｼﾝｲﾁﾛｳ 塩澤 伸一郎 〈令和5年4月〉		修士 （教育学）		情報リテラシーＩ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
101	兼任	講師	ｼ ｹﾞﾝｷﾞﾝ シ ゲンギン 〈令和5年4月〉		博士 （地域研究）		地域文化研究Ｅ	1･2･3･4前	2	1	立教大学異文化コミュニケーション学部 助教 〈令4.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
102	兼任	講師	ｼﾉﾀﾞ ﾅｵｷ 信太 直己 〈令和5年4月〉		博士 （人間科学）		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	2日
103	兼任	講師	ｾｷﾈ ｱｷﾊﾙ 関根 明治 〈令和5年4月〉		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平21.4〉	2日
104	兼任	講師	ｾｷ ﾕｳｺ 関 裕子 〈令和5年4月〉		修士 （人文科学）		Integrated Japanese Ⅱ Theory Japanese Listening Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
105	兼任	講師	ｿｳﾄﾒ ﾋﾛｺ 五月女 仁子 〈令和5年4月〉		修士 （工学）		統計学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
106	兼任	講師	ｿﾈ ﾅｵｷ 曽根 直樹 〈令和5年4月〉		教育学士		障害学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
107	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ(ﾏﾙﾔﾏ) ｵﾘｴ 高橋(丸山) 織恵 〈令和5年4月〉		修士 （人文）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本事情Ⅰ 日本事情Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1 2 2	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.4〉	1日
108	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ｻﾄｼ 高橋 聡 〈令和5年4月〉		修士 （日本語教育学）		Integrated Japanese Ⅲ Theory	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
109	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ 竹内 幸子 〈令和5年4月〉		修士 （コミュニケーション学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
110	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾋﾛｶｽﾞ 田中 宏和 〈令和5年4月〉		修士 （体育科学）		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	高崎経済大学地域政策学部 准教授 ＜令4.4〉	1日
111	兼任	講師	ﾀﾅｶ(ﾂｷﾊｼ) ﾐﾝﾈ 田中(月橋) みんね 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
112	兼任	講師	ﾁｮｳ ﾚｲ 張 麗 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		Japanese Reading Ⅱ	1･2･3･4前･後	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
113	兼任	講師	ﾂﾙﾏｷ ﾀｶｼ 鶴巻 崇 〈令和5年9月〉		修士 （建築学） （英国）		総合Ｆ	1･2･3･4後	2	1	Heatherwick Studio London本社シニアデザイナー 〈平26.4〉	1日
114	兼任	講師	ﾄﾐﾂｶ ﾋﾛﾕｷ 冨塚 博之 〈令和5年4月〉		英文学修士		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平19.4〉	1日
115	兼任	講師	ﾅｶﾈ ﾋｻﾔｽ 中根 久寧 〈令和5年9月〉		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平24.4〉	1日
116	兼任	講師	ﾆｼﾓﾄ(ﾋﾗﾔﾏ) ｶﾅ 西元(平山) 加那 〈令和5年4月〉		修士 （法学）		法学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
117	兼任	講師	ﾊｲﾝ ﾊﾟﾄﾘｯｸ hein patrick 〈令和5年4月〉		PhD Education and SocietyCultural Studies(英国)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
118	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ﾋﾃﾞｼｹﾞ 橋本 英重 〈令和5年4月〉		修士 （国際経営学）		基礎会計学 経営学	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	ミッドメディア有限会社 代表取締役 〈平17.8〉	1日
119	兼任	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ﾀｸﾔ 長谷川 琢哉 〈令和5年4月〉		修士 （文学）		全学総合Ａ 全学総合Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
120	兼任	講師	ﾊｯｼｰ ﾘﾝ ｹﾞｰﾘｰ ハッシー リン ゲーリー 〈令和5年4月〉		M.A. Spec.Ed(英国)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ	1前 1後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
121	兼任	講師	ﾊﾏ ﾔｽｶｽﾞ 濱 泰一 〈令和5年9月〉		博士 (環境学)		環境政策論	1･2･3･4後	2	1	東洋大学国際観光学部 講師 〈平29.4〉	1日
122	兼任	講師	ﾊﾔｼ(ｲﾄｳ) ｼﾞｭﾝｺ 林(伊藤) 順子 〈令和5年4月〉		修士 (教育学)		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
123	兼任	講師	ﾋﾗｻﾜ ﾀｶﾕｷ 平沢 隆之 〈令和5年4月〉		博士 (工学)		数学 物理学	1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2	1 1	東京大学生産技術研究所 助教 〈平21.7〉	1日
124	兼任	講師	ﾋﾗﾊﾞﾔｼ ﾋﾛｶｽﾞ 平林 浩一 〈令和5年4月〉		修士 (政策研究)		公務員論	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	1日
125	兼任	講師	ﾌｶﾔ ﾋﾃﾞｷ 深谷 秀樹 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		プレゼンテーション技法 コミュニケーション＆マナー	1･2･3･4前 1後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平20.4〉	1日
126	兼任	講師	ﾎｿﾀﾞ ｶｽﾞｴ 細田 和江 〈令和5年4月〉		博士 (学術)		地域文化研究Ｃ	1･2･3･4前	2	1	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 フェロー 〈平28.4〉	1日
127	兼任	講師	ﾎﾞﾙｽﾀｰ ﾊﾗﾙﾄﾞ ボルスター ハラルド 〈令和5年4月〉		学術博士 (独国)		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2 2	1 1 2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	1日
128	兼任	講師	ﾎﾝﾀﾞ ﾖｼﾋｺ 本多 吉彦 〈令和5年4月〉		修士 (アジア研究)		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
129	兼任	講師	ﾏｸﾞﾇｿﾝ ｼﾞｮｰｼﾞ ﾃﾞﾋﾞｯﾄ マグヌソン ジョージ デビット 〈令和5年4月〉		MBA(米国)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	1日
130	兼任	講師	ﾏﾂｲ ﾋﾛﾐ 松井 広美 〈令和7年9月〉		－		キャリアデベロップメント	3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.9〉	1日
131	兼任	講師	ﾏﾂﾉ(ｱﾂﾞﾏ) ﾄﾓﾋｷ 松野(我妻) 智章 〈令和5年9月〉		博士 (文学)		地域文化研究Ｄ	1･2･3･4後	2	1	東洋大学文学部 講師 〈平25.4〉	1日
132	兼任	講師	ﾏﾘｯｶｰﾙ ｱｽﾞﾐﾔ ﾌｧﾃｨﾏ マリッカール アズミヤ ファティマ 〈令和5年4月〉		博士 (国際関係学)		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
133	兼任	講師	ﾐｳﾗ ﾅｵｺ 三浦 尚子 〈令和5年9月〉		博士 (社会科学)		地理学	1･2･3･4後	2	1	お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特別研究員 〈令3.10〉	1日
134	兼任	講師	ﾐｽﾞﾀ ｶｵ 水田 佳歩 〈令和5年4月〉		博士 (日本語教育学)		Integrated Japanese Ⅱ Practice Japanese Reading Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令1.9〉	1日
135	兼任	講師	ﾐﾔｻﾞｷ ﾐﾂﾕｷ 宮崎 瑞之 〈令和5年4月〉		M.A. in TESOL(米国)		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平23.4〉	1日
136	兼任	講師	ﾐﾔﾊﾗ ｱﾂｺ 宮原 温子 〈令和5年4月〉		修士 (国際学)		地域文化研究Ａ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学国際学部 講師 〈令2.4〉	1日
137	兼任	講師	ﾔｽﾊﾗ ﾅｴ 安原 七重 〈令和5年9月〉		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平24.4〉	1日
138	兼任	講師	ﾔﾏｷﾞﾜ ﾓﾄｲ 山際 基 〈令和5年4月〉		博士 (工学)		情報化社会と人間	1･2･3･4前	2	1	山梨大学大学院総合研究部教育学域 准教授 〈平28.4〉	1日
139	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾀｶﾋﾛ 山本 崇広 〈令和5年9月〉		修士 (経済学)		経済学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.9〉	1日
140	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 山本 伍紀 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
141	兼任	講師	ﾗｳﾞｪﾙ ﾘｰ ﾄﾞｰﾝ ラヴェル リー ドーン 〈令和5年4月〉		MA (Instructional Technology)(米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.4〉	1日
142	兼任	講師	ﾗｻﾓｴﾗ ﾐﾚｲｴ ラサモエラ ミレイユ 〈令和5年4月〉		Master's degree of mathmatics(仏国)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
143	兼任	講師	ﾘ ﾘｮﾝｷﾞｮﾝ リ(李) リョンギョン(リョン京) 〈令和5年9月〉		修士(政治学)		韓国語および韓国語圏社会事情 韓国語Ⅱ	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	1日
144	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ｴﾐｺ 秋山 恵美子 〈令和7年4月〉		修士(スポーツ科学)		医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ 医療的ケアⅢ	3前 3後 4前	2 2 2	1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平26.4〉	2日
145	兼任	講師	ｵｵﾂｶ ｼﾞｭﾝｺ 大塚 順子 〈令和7年9月〉		博士(学術)		生活支援技術Ⅹ	3後	1	1	東京通信大学人間福祉学部 准教授 〈令4.4〉	1日
146	兼任	講師	ｵｵﾑﾀ ｶｵﾘ 大牟田 佳織 〈令和7年4月〉		-		医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ 医療的ケアⅢ	3前 3後 4前	2 2 2	1 1 1	品川介護福祉専門学校 教務主任 〈平29.2〉	2日
147	兼任	講師	ｵﾀﾞ ﾖｼﾌﾐ 小田 佳史 〈令和7年4月〉		社会学修士		ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神） ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）（精神）	3前 3後	2 2	1 1	株式会社コミュニティライフプロモーションズ 代表取締役 〈平24.5〉	1日
148	兼任	講師	ｸﾆｼｹﾞ ﾄﾓﾋﾛ 國重 智宏 〈令和7年4月〉		修士(社会福祉学)		精神保健福祉制度論	3前	2	1	帝京平成大学人文社会学部 講師 〈平31.4〉	1日
149	兼任	講師	ｺｲｽﾞﾐ ﾋﾛｶｽﾞ 小泉 浩一 〈令和6年9月〉		修士(リハビリテーション)		ソーシャルワーク実習Ⅰ	2後	2	1	日本福祉教育専門学校 専任教員 〈平30.4〉	1日
150	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ｹｲｲﾁ 小林 恵一 〈令和6年9月〉		社会学修士		バリアフリー論	2･3･4後	2	1	江戸川学園おおたかの森専門学校 社会福祉士養成学科 講師 〈平20.4〉	1日
151	兼任	講師	ｼﾏﾉｳﾁ(ﾆｼﾑﾗ) ｱｷ 島内（西村） 晶 〈令和5年9月〉		博士(心理学)		発達と老化の理解	1･2･3･4後	2	1	東京未来大学モチベーション行動科学部 准教授 〈平30.4〉	1日
152	兼任	講師	ｼﾛﾀ ﾊﾙｵ 城田 晴夫 〈令和7年4月〉		Master of Arts(米国)		精神障害リハビリテーション論	3前	2	1	帝京平成大学健康メディカル学部 教授 〈平30.4〉	1日
153	兼任	講師	ｽｶﾞﾜﾗ ﾅﾙｵﾐ 菅原 成臣 〈令和6年4月〉		体育学士		生活支援技術Ⅲ	2前	1	1	東京YMCA 認証主事 〈平15.2〉	1日
154	兼任	講師	ﾀｶｲｼ ｱｷﾄ 高石 啓人 〈令和6年4月〉		博士(文学)		スクールソーシャルワーク論 ソーシャルワーク実習Ⅱ	2･3･4前 3後	2 4	1 1	山梨県立大学人間福祉学部 講師 〈令2.4〉	1日
155	兼任	講師	ﾂﾁﾔ(ｼﾌﾞｶﾜ) ﾐｻﾄ 土屋（渋川） みさと 〈令和7年9月〉		修士(教育学)		生活支援技術Ⅷ	3後	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.9〉	1日
156	兼任	講師	ﾅｲﾄｳ ﾉﾘｺ 内藤 典子 〈令和5年4月〉		博士(医学)		医学概論	1前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.9〉	1日
157	兼任	講師	ﾆｯﾀ ｴﾐ 新田 恵美 〈令和5年9月〉		修士(社会福祉学)		認知症の理解Ⅱ	1･2･3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令1.9〉	1日
158	兼任	講師	ﾉｼﾛ(ｻﾄｳ) ﾋﾛﾖ 野城（佐藤） 尚代 〈令和6年4月〉		博士(法学)		ジェンダーと福祉 現代的福祉課題A	2･3･4前 3･4前	2 2	1 1	日本女子大学大学院 講師 〈令2.4〉	2日
159	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ｱﾔｺ 橋本 理子 〈令和6年9月〉		修士(社会福祉学)		ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 制度・政策・施設史	2後 3後 3･4後	2 4 2	1 1 1	城西国際大学福祉総合学部 准教授 〈令3.4〉	1日
160	兼任	講師	ﾊｯﾄﾘ ﾖｼﾉﾌﾞ 服部 慶亘 〈令和5年9月〉		文学修士		統計情報処理および実習 社会統計解析法 社会統計学 社会調査および実習Ⅰ 社会調査および実習Ⅱ	1後 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	日本大学 専任講師 〈平8.4〉	2日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
161	兼任	講師	ﾋﾛｾ(ﾂﾂｲ) ｹｲｺ 廣瀬（筒井）　圭子 〈令和7年4月〉		博士 (社会福祉学)		医療ソーシャルワーク論	3･4前	2	1	ルーテル学院大学総合人間学部 准教授 〈平29.4〉	1日
162	兼任	講師	ﾌｼﾞｻﾜ ﾏｻｺ 藤澤 雅子 〈令和7年4月〉		修士 (教育学)		医療的ケアⅠ 医療的ケアⅡ 医療的ケアⅢ	3前 3後 4前	2 2 2	1 1 1	荒川区医師非常勤訪問看護師 〈平6.2〉	2日
163	兼任	講師	ﾏｽﾀﾞ ｺｳｼﾝ 益田 幸辰 〈令和7年9月〉		修士 (社会福祉学)		価値と倫理に基づく実践史	3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
164	兼任	講師	ﾐﾔｳﾁ ﾄｼﾋｺ 宮内 寿彦 〈令和7年4月〉		修士 (福祉社会)		介護コミュニケーション技術Ⅱ	3前	2	1	十文字学園女子大学人間生活学部 教授 〈平27.4〉	1日
165	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾕﾐ 山口 由美 〈令和5年4月〉		博士 (人間学)		こころとからだのしくみⅠ こころとからだのしくみⅢ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	十文字学園女子大学人間生活学部 准教授 〈平26.4〉	1日
166	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛﾌﾐ 渡邉 浩文 〈令和5年9月〉		博士 (社会福祉学)		認知症の理解Ⅰ	1･2･3･4後	2	1	武蔵野大学人間科学部 教授 〈平25.4〉	1日
167	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛﾐ 渡邊　浩美 ＜令和7年9月＞		修士 (社会デザイン学)		現代的福祉課題Ｂ	3・4後	2	1	公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 常務理事 ＜令3.3＞	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 （学科長）	ｳﾁﾀﾞ ﾁﾊﾙ 内田 千春 〈令和5年4月〉		Ph.D(Education) （米国）		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 多文化共生保育・教育 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 保育者論 海外保育フィールドワーク 多文化共生保育・教育実践 保育実習ＩＡ（施設） 保育実習ＩＢ（保育所） 保育実習指導ＩＢ（保育所） 保育内容総論 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設）	1前 1後 2前 2後 3後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 2後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 2後 3前 3前 1前 4前 4前 4前	2 1 1 1 2 1 1 1 1 4 2 2 2 1 2 2 1 2 1 2 1 2 2	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平29.4〉	5日
2	専	教授	ﾀｶﾊｼ ﾅｵﾐ 高橋 直美 〈令和5年4月〉		修士 （教育学）※		日本文学 口頭表現法 文章読解 レポート・論文のまとめ方 総合Ａ 子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 子どもと文学 海外保育フィールドワーク 国語表現法	1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1前 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平17.4〉	5日
3	専	教授	ﾀｶﾔﾏ ｼｽﾞｺ 高山 静子 〈令和5年4月〉		博士 （教育学）		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 保育原理 子どもと環境 海外保育フィールドワーク 乳児保育Ⅱ 保育実習ＩＡ（施設） 保育実習ＩＢ（保育所） 保育実習指導ＩＢ（保育所） 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設）	1前 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1前 2後 1･2･3･4前 4前 2後 3前 3前 4前 4前 4前	2 1 1 1 1 1 1 1 4 2 2 2 1 2 2 2 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平25.4〉	5日
4	専	教授	ｼﾏｻﾞｷ ﾋﾛﾂｸﾞ 嶋﨑 博嗣 〈令和5年4月〉		修士 （体育学）		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 子どもと健康 海外保育フィールドワーク 子どもの健康と安全 保育実習ＩＡ（施設） 保育内容の指導法（健康） 保育実習ＩＢ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） 体育あそびの実践	1前 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1前 1･2･3･4前 3前 2後 2後 3前 4前 4前 2･3･4後	2 1 1 1 1 1 1 1 4 2 2 2 2 1 2 2 1 2 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 1 2 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平21.4〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
5	専	教授	ｽｽﾞｷ ﾀｶﾕｷ 鈴木 崇之 〈令和5年4月〉		修士 （社会学）※		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 社会的養護 子ども家庭支援論 海外保育フィールドワーク 社会的養護内容 保育実習ⅠA（施設） 保育実習指導ⅠA（施設） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 保育実習ⅠB（保育所） ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅳ（専門） ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	1前 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1前 4後 1･2･3･4前 2前 2後 2後 2前 3前 2前 3前 4前 4前 4前 3前 3後 4前	2 1 1 1 1 1 1 1 4 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 4 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平24.4〉	5日
6	専	教授	ﾐﾅﾐﾉ ﾅﾂｺ 南野 奈津子 〈令和5年4月〉		博士 （社会福祉学）		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 児童・家庭福祉 海外保育フィールドワーク 国際児童福祉 保育実習ⅠA（施設） 保育実習指導ⅠA（施設） 子どもソーシャルワーク 特別支援教育・保育Ⅰ 保育実習ⅠB（保育所） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設）	1前 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 2後 2後 3後 1前 3前 3前 3後 2前 3前 4前 4前 4前	2 1 1 1 1 1 1 1 4 2 2 2 2 2 1 2 2 1 1 1 2 4 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平29.4〉	5日
7	専	教授	ﾅｶﾐﾁ ﾅｵｺ 中道 直子 〈令和5年4月〉		博士 （教育学）		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 発達心理学 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 海外保育フィールドワーク 保育実習ⅠA（施設） 教育心理学 子ども家庭支援の心理学 保育実習ⅠB（保育所） 保育実習指導ⅠB（保育所） 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） 発達心理学専門演習	1前 1後 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1･2･3･4前 2後 2前 3前 3前 3前 4前 4前 4後 2･3･4後	2 1 2 1 1 1 1 1 1 4 2 2 2 1 2 2 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈令2.4〉	5日
8	専	准教授	ﾀｶﾊｼ ｹﾝｽｹ 高橋 健介 〈令和5年4月〉		修士 （教育学）		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 幼児教育論 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 子どもと人間関係 海外保育フィールドワーク 子どもの理解と援助 保育実習ⅠA（施設） 保育実習ⅠB（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） 教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む） 保育・教職実践演習	1前 1後 1前 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1後 1･2･3･4前 3前 2後 3前 4前 4前 4後 3後 4後	2 1 2 1 1 1 1 1 1 4 2 2 2 2 2 2 1 2 1 1 5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平21.4〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
9	専	准教授	ｳﾁﾀﾞ ﾄｳｺ 内田 塔子 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 教育基礎論 教育制度論 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 子どもの権利と教育 海外保育フィールドワーク 教育と福祉 保育実習ⅠA（施設） 保育実習指導ⅠA（施設） 保育実習ⅠB（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設）	1前 1後 1前 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 2後 2後 3前 4前 4前	2 1 2 2 1 1 1 1 1 1 4 2 2 2 2 2 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平17.4〉	5日
10	専	准教授	ﾔﾏﾊﾗ(ﾌｼﾞｲ) ﾏｷｺ 山原（藤井）麻紀子 〈令和5年4月〉		博士 （学術）		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 子どもと表現Ⅰ 海外保育フィールドワーク 保育実習ⅠA（施設） 保育内容の指導法（音楽表現） 保育実習ⅠB（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） 音楽表現専門演習 保育音楽表現技術Ⅰ 保育音楽表現技術Ⅱ 音楽あそびの実践	1前 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1後 1･2･3･4前 2後 3前 3前 4前 4前 2･3･4後 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後	2 1 2 1 1 1 1 1 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平30.4〉	5日
11	専	講師	ｲﾄｳ ﾐｶ 伊藤 美佳 〈令和5年4月〉		修士 （教育学） 修士 （家政学） 修士 （学術） ※		子ども支援学概論 子ども支援学演習Ⅰ 子ども支援学演習ⅡA 子ども支援学演習ⅡB 子ども支援学演習ⅢA 子ども支援学演習ⅢB 子ども支援学演習ⅣA 子ども支援学演習ⅣB 卒業論文 卒業制作 子育て支援実践 海外保育フィールドワーク 保育実習ⅠA（施設） 保育内容の指導法（言葉） 保育実習ⅠB（保育所） 保育指導法 保育カリキュラム論 保育実習Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅲ（施設） 教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む） 保育・教職実践演習	1前 1後 2前 2後 3前 3前 4前 4後 4後 4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 2後 2前 3前 3前 2後 4前 4前 3後 4後	2 1 1 1 1 1 1 1 4 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平21.4〉	5日
12	専	助教 （実習担当）	ｻﾄｳ ｱｷﾋﾛ 佐藤 昭洋 〈令和5年4月〉		修士 （社会福祉学）		ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ	2前 2後 2前 3後 2前 3前	2 2 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 助教（実習担当） 〈令4.4〉	5日
	兼任	講師	ｻﾄｳ ｱｷﾋﾛ 佐藤 昭洋 〈令和8年4月〉				ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルワーク実習Ⅱ	2前 2後 2前 3後 2前 3前	2 2 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1		2日
13	専	助教 （実習担当）	ｽｴﾋﾛ(ｱｵﾔﾏ) ｱﾝﾘ 末廣(青山) 杏里 〈令和5年4月〉		修士 （人文科学）		保育実習ⅠA（施設） 保育実習指導ⅠA（施設） 保育実習ⅠB（保育所） 保育実習指導ⅠB（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅲ（施設）	2後 2後 3前 3前 4前 4前	2 1 2 1 1 2	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 助教（実習担当） 〈令2.4〉	5日
	兼任	講師	ｽｴﾋﾛ(ｱｵﾔﾏ) ｱﾝﾘ 末廣(青山) 杏里 〈令和6年4月〉				保育実習ⅠA（施設） 保育実習指導ⅠA（施設） 保育実習ⅠB（保育所） 保育実習指導ⅠB（保育所） 保育実習指導Ⅲ（施設） 保育実習Ⅲ（施設）	2後 2後 3前 3前 4前 4前	2 1 2 1 1 2	1 1 1 1 1 1		2日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
14	専	助教（実習担当）	ｵｶﾑﾗ ﾔｽﾋﾛ 岡村 泰敬 〈令和5年4月〉		修士（社会福祉学）		保育実習ＩＡ（施設） 保育実習指導ＩＡ（施設） 保育実習ＩＢ（保育所） 保育実習指導ＩＢ（保育所） 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所）	2後 2後 3前 3前 4前 4前	2 1 2 1 1 2	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 助教（実習担当）〈令3.4〉	5日
	兼任	講師	ｵｶﾑﾗ ﾔｽﾋﾛ 岡村 泰敬 〈令和7年4月〉				保育実習ＩＡ（施設） 保育実習指導ＩＡ（施設） 保育実習ＩＢ（保育所） 保育実習指導ＩＢ（保育所） 保育実習指導Ⅱ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所）	2後 2後 3前 3前 4前 4前	2 1 2 1 1 2	1 1 1 1 1 1		2日
15	兼担	教授	ｲﾅｶﾞｷ ｻﾄｼ 稲垣 諭 〈令和6年4月〉		博士（文学）		全学総合Ｆ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授〈平28.4〉	1日
16	兼担	教授	ｲﾜｼﾀ ﾃﾂﾉﾘ 岩下 哲典 〈令和5年4月〉		博士（歴史学）		歴史学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授〈平28.4〉	1日
17	兼担	教授	ｵｵﾂｶ ﾖｼｵﾐ 大塚 佳臣 〈令和5年4月〉		博士（工学）		全学総合Ｄ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学総合情報学部 教授〈平22.4〉	1日
18	兼担	教授	ｶｶﾞﾐ ｶｽﾞｱｷ 加賀見 一彰 〈令和5年4月〉		博士（経済学）		全学総合Ｋ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学経済学部 教授〈平18.4〉	1日
19	兼担	教授	ｶﾈｺ ﾘﾂｺ 金子 律子 〈令和5年9月〉		医学博士		生物学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学生命科学部 教授〈平18.4〉	1日
20	兼担	教授	ｶﾜｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｵ 川口 英夫 〈令和5年9月〉		博士（工学）		全学総合Ｊ	1･2･3･4後	2	1	東洋大学生命科学部 教授〈平21.4〉	1日
	兼任	講師	ｶﾜｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｵ 川口 英夫 〈令和7年9月〉				全学総合Ｊ	1･2･3･4後	2	1		1日
21	兼担	教授	ｶﾜﾓﾄ ﾋﾃﾞｵ 河本 英夫 〈令和5年4月〉		博士（学術）		全学総合Ｆ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授〈平3.4〉	1日
22	兼担	教授	ｷｳﾁ ｱｷﾗ 木内 明 〈令和5年4月〉		教育学修士（韓国）		韓国語Ⅰ	1･2･3･4前	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 教授〈平17.4〉	1日
23	兼担	教授	ｷｸﾁ ﾉﾘﾀｶ 菊地 章太 〈令和5年4月〉		博士（文学）		哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合Ｃ 総合Ｂ 総合Ｃ 総合Ｄ 総合Ｅ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授〈平17.4〉	3日
	兼任	講師	ｷｸﾁ ﾉﾘﾀｶ 菊地 章太 〈令和7年4月〉				哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合Ｃ 総合Ｂ 総合Ｃ 総合Ｄ 総合Ｅ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		3日
24	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻｵ 小林 正夫 〈令和5年9月〉		理学修士		全学総合Ｇ 全学総合Ｈ	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学社会学部 教授〈平5.4〉	2日
25	兼担	教授	ﾀﾄﾞｺﾛ ｷﾖｼ 田所 聖志 〈令和5年9月〉		博士（社会人類学）		ダイバーシティ論	1･2･3･4後	2	1	東洋大学社会学部 教授〈令和3.4〉	1日
26	兼担	教授	ﾀﾆｶﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 谷釜 尋徳 〈令和5年4月〉		博士（体育科学）		全学総合Ｌ 全学総合Ｍ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学法学部 教授〈平20.4〉	1日
27	兼担	教授	ｲﾅｶﾞﾜ ﾋﾃﾞｶｽﾞ 伊奈川 秀和 〈令和5年9月〉		博士（法学）		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後	2	1	東洋大学社会学部 教授〈平28.4〉	1日
	兼任	講師	ｲﾅｶﾞﾜ ﾋﾃﾞｶｽﾞ 伊奈川 秀和 〈令和7年4月〉				社会福祉の原理と政策Ⅱ 社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ	1後 2･3前 2･3後	2 2 2	1 1 1		2日
28	兼担	教授	ｳﾁﾔﾏ ﾕｳｺ 内山 有子 〈令和6年4月〉		修士（保健学） ※		子どもの保健	2前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 教授〈平28.4〉	1日
29	兼担	教授	ｶﾈｺ ｺｳｲﾁ 金子 光一 〈令和5年4月〉		博士（社会福祉学）		社会福祉の原理と政策Ⅰ 社会福祉発達史	1前 1前	2 2	1 1	東洋大学社会学部 教授〈平16.4〉	2日
30	兼担	教授	ｶﾔﾏ ﾀﾞﾝ 加山 弾 〈令和6年9月〉		博士（人間福祉）		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2･3後	2	1	東洋大学社会学部 教授〈平18.4〉	1日
31	兼担	教授	ｺﾚｴﾀﾞ ｷﾖｼﾞ 是枝 喜代治 〈令和5年4月〉		博士（教育学）		障害者福祉 権利擁護を支える法制度	1前 2･3前	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授〈平24.4〉	1日
	兼任	講師	ｺﾚｴﾀﾞ ｷﾖｼﾞ 是枝 喜代治 〈令和7年4月〉				障害者福祉 権利擁護を支える法制度	1前 2･3前	2 2	1 1		1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
32	兼担	教授	ｼﾑﾗ ｹﾝｲﾁ 志村 健一 〈令和5年4月〉		Doctor of Education(米国)		社会福祉調査の基礎 ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	1前 2後 3後	2 2 2	1 1 1	東洋大学社会学部 教授 〈平23.4〉	2日
33	兼担	教授	ﾀｶﾔﾏ ﾅｵｷ 高山 直樹 〈令和5年4月〉		修士(社会福祉学)		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前	2	1	東洋大学社会学部 教授 〈平14.4〉	1日
34	兼担	教授	ﾌｼﾞﾊﾞﾔｼ ｹｲｺ 藤林 慶子 〈令和6年4月〉		社会学修士		社会保障Ⅰ 社会保障Ⅱ	2･3前 2･3後	2 2	1 1	東洋大学社会学部 教授 〈平13.4〉	1日
35	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾐｶ 山本 美香 〈令和6年4月〉		博士(学術)		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2･3前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平21.4〉	1日
36	兼担	教授	ﾖｼｳﾗ ﾄｵﾙ 吉浦 輪 〈令和6年4月〉		博士(社会福祉学)		保健医療と福祉	2前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平21.4〉	1日
37	兼担	准教授	ｱｸﾂ ｽﾐｴ 阿久津 純恵 〈令和5年4月〉		修士(文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB Intercultural Communication Skills ⅡA Intercultural Communication Skills ⅡB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 1･2･3･4後 1･2･3･4後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平27.4〉	3日
38	兼担	准教授	ｲｼﾀﾞ ﾀﾂﾔ 石田 達也 〈令和5年9月〉		博士(農学)		現代化学	1･2･3･4後	2	1	株式会社明治研究本部 研究員 〈平17.4〉	1日
39	兼担	准教授	ｳｴﾀﾞ ﾄﾓｱｷ 上田 知亮 〈令和5年4月〉		博士(法学)		政治学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学法学部 准教授 〈平27.4〉	1日
40	兼担	准教授	ｳｼｸﾎﾞ ﾘｭｳﾀ 牛窪 隆太 〈令和5年4月〉		博士(日本語教育学)		Integrated Japanese Ⅱ Practice	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 准教授 〈平31.4〉	1日
41	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ﾀｶｺ 小島 貴子 〈令和5年4月〉		修士(国際アドミニストレーション)		キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践	1前 2後	2 2	1 1	東洋大学理工学部 准教授 〈平24.4〉	1日
	兼任	講師	ｺｼﾞﾏ ﾀｶｺ 小島 貴子 〈令和6年4月〉				キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践	1前 2後	2 2	1 1		1日
42	兼担	准教授	ｺﾞﾄｳ ﾀｶｱｷ 後藤 隆彰 〈令和5年9月〉		博士(工学)		全学総合E	1･2･3･4後	2	1	東洋大学総合情報学部 准教授 〈平31.4〉	1日
43	兼担	准教授	ｺﾊﾞﾔｶﾜ ﾕｳｺ 小早川 裕子 〈令和5年4月〉		博士(国際地域学)		留学のすすめ アカデミックライティング テクニカルライティング	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2 2	1 1 1	東洋大学国際教育センター 准教授 〈平29.4〉	2日
44	兼担	准教授	ｻｶｷﾊﾞﾗ ｹｲｺ 榊原 圭子 〈令和5年4月〉		博士(保健学)		全学総合Ⅰ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学社会学部 准教授 〈平28.4〉	1日
45	兼担	准教授	ﾀｹﾑﾗ ﾐｽﾞﾎ 竹村 瑞穂 〈令和5年4月〉		博士(体育科学)		哲学 生命と倫理 ジェンダー論	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 2 2	1 1 1	日本福祉大学スポーツ科学部 准教授 〈平29.4〉	2日
46	兼担	准教授	ﾃﾗ ﾖｳﾍｲ 寺 洋平 〈令和5年9月〉		法学修士		日本国憲法	1･2･3･4後	2	1	東洋大学法学部 准教授 〈平23.10〉	1日
47	兼担	准教授	ﾊﾔｼ ﾀﾞｲｽｹ 林 大介 〈令和7年4月〉		修士(政治学)		インターンシップ入門 アントレプレナーシップ 社会貢献活動入門 地域マネジメント	3･4前 3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学社会学部 講師 〈令3.4〉	2日
	兼任	講師	ﾊﾔｼ ﾀﾞｲｽｹ 林 大介 〈令和5年9月〉				地域マネジメント	1･2･3･4後	2 2	1 1		1日
48	兼担	准教授	ﾎｿﾀﾆ ﾖｳｺ 細谷 洋子 〈令和5年4月〉		博士(スポーツ科学)		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平30.9〉	1日
49	兼担	准教授	ﾏﾄﾊﾞ(ｷｳﾁ) ﾄﾓｺ 的場（木内） 智子 〈令和5年4月〉		博士(文学)		社会学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平17.4〉	1日
50	兼担	准教授	ﾑﾗｶﾐ ｶｽﾞｷ 村上 一基 〈令和5年4月〉		Doctorat en Sciences sociales et Philosophie de connaissance(仏国)		グローバル市民論	1･2･3･4前	2	1	東洋大学社会学部 准教授 〈平30.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
51	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ(ｲｼｲ) ｱﾔ 山本(石井) 綾 〈令和5年4月〉		博士 (人文科学)		英語および英語圏社会事情 英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ Intercultural Communication Skills ⅠA Intercultural Communication Skills ⅠB English Test PreparationⅠ English Test PreparationⅡ	1･2･3･4前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈令4.4〉	3日
52	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾁﾖ 渡辺 道代 〈令和5年9月〉		修士 (社会福祉学)		社会貢献活動入門 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1･2･3･4後 1後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平26.4〉	1日
53	兼担	准教授	ｻﾄｳ ｱｷ 佐藤 亜樹 〈令和6年9月〉		Doctor of Philosophy(米国)		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門） ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	2後 3後	2 2	1 1	東洋大学社会学部 准教授 〈平30.4〉	1日
54	兼担	准教授	ﾀｶﾉ ﾀﾂﾌﾐ 高野 龍昭 〈令和5年4月〉		文学士		高齢者福祉 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	1前 2前	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平17.4〉	2日
55	兼担	准教授	ﾄｲ ﾋﾛｷ 戸井 宏紀 〈令和6年4月〉		Ph.d(Social Work)(米国)		刑事司法と福祉	2･3前	2	1	東洋大学社会学部 准教授 〈令3.4〉	1日
56	兼担	准教授	ﾊﾔｻｶ ﾄｼﾋｻ 早坂 聡久 〈令和6年9月〉		修士 (社会福祉学)		福祉サービスの組織と経営	2･3後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平27.4〉	1日
57	兼担	准教授	ﾔｷﾞ ﾕｳｺ 八木 裕子 〈令和5年9月〉		博士 (介護福祉・ケアマネジメント学)		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平26.4〉	1日
58	兼担	講師	ｱﾝﾄﾞﾚｴﾌ ｽﾄｲﾁｪﾌ ｱﾝﾄﾝ アンドレエフ ストイチェフ アントン 〈令和5年4月〉		日本語学博士		Integrated Japanese Ⅰ Theory Integrated Japanese Ⅱ Practice Japanese Reading Ⅰ Japanese Reading Ⅱ Japanese Listening Ⅰ Japanese Listening Ⅱ Japanese Writing Ⅰ Project Work Ⅰ Japanese Culture and Society A Japanese Culture and Society B	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	2日
59	兼担	講師	ｳｨﾙｿﾝ ﾏｼｭｰ ウィルソン マシュー 〈令和5年4月〉		修士(English for Academic Purposes)(英国)		IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking IELTS for Study Abroad I Reading/Writing Pre-Study Abroad: Writing	1･2･3･4前 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後	2 2 2 1	1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	1日
60	兼担	講師	ｴｲﾃｨﾑ ｿｲﾊﾝ エイティム ソイハン 〈令和5年4月〉		Doctor of Education(米国)		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	2日
	兼任	講師	ｴｲﾃｨﾑ ｿｲﾊﾝ エイティム ソイハン 〈令和8年4月〉				英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1		2日
61	兼担	講師	ｵｵﾊｼ ｶﾂｲﾁﾛｳ 大橋 勝一郎 〈令和5年4月〉		修士(Applied Linguistics(TESOL))(ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	1日
62	兼担	講師	ｺﾆｼ ｶﾅ 小西 可奈 〈令和6年9月〉		博士 (スポーツ健康科学)		食と健康	1･2･3･4後	2	1	東洋大学食環境科学部 助教 〈平31.4〉	1日
	兼担	助教	ｺﾆｼ ｶﾅ 小西 可奈 〈令和5年9月〉				食と健康	1･2･3･4後	2	1		1日
63	兼担	講師	ﾁﾝ ｼｭｳｲﾝ 陳 秀茵 〈令和5年4月〉		博士 (学術)		Integrated Japanese Ⅰ Theory Integrated Japanese Ⅲ Practice	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 2	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令3.4〉	1日
64	兼担	講師	ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄﾞ ﾄﾗｸｻﾙ デイビッド トラクサル 〈令和5年4月〉		M.S.Education-TESOL(米国)		Business English Communication	1･2･3･4前	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令4.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
65	兼担	講師	ﾄﾑｿﾝ ﾌﾞﾚｱ ｼﾞｮﾝ トムソン ブレア ジョン 〈令和5年4月〉		Master of Arts(ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	2日
	兼任	講師	ﾄﾑｿﾝ ﾌﾞﾚｱ ｼﾞｮﾝ トムソン ブレア ジョン 〈令和7年4月〉				英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		2日
66	兼担	講師	ﾅｶﾉ ﾃｲｺ 中野 てい子 〈令和5年4月〉		博士(学術)		Integrated Japanese Ⅰ Practice Project Work Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令3.4〉	1日
67	兼担	講師	ﾊﾞｯｸ ｼﾞｮﾅｻﾝ バック ジョナサン 〈令和5年4月〉		Master of Arts in English Language Teaching and Applied Linguistics,(英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平30.4〉	1日
68	兼担	講師	ﾋｻﾖｼ ﾀｶｺ 久好 孝子 〈令和5年4月〉		博士 (国際文化)		Integrated Japanese Ⅲ Theory Japanese Reading Ⅰ Japanese Listening Ⅰ Japanese Writing Ⅱ Japanese Writing Ⅲ Project Work Ⅱ Project Work Ⅲ Introduction to Japanology A Introduction to Japanology B	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	2日
69	兼担	講師	ﾐｽﾞﾏﾂ ﾐﾅ 水松 巳奈 〈令和5年4月〉		Ph.D(米国)		留学のすすめ 異文化理解概論 海外研修Ⅰ 海外研修Ⅱ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 短期海外研修Ⅰ 短期海外研修Ⅱ 短期海外研修Ⅲ 短期海外研修Ⅳ 短期海外実習Ⅰ 短期海外実習Ⅱ 短期海外実習Ⅲ 短期海外実習Ⅳ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	2日
70	兼担	講師	ﾓｰﾚﾙ ｸﾘｽﾁｬﾝ ﾛﾊﾞｰﾄ モーレル クリスチャン ロバート 〈令和5年4月〉		TESOL修士(米国)		Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後	1	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平27.9〉	1日
71	兼担	講師	ﾘｰ ｼﾞｬｸｿﾝ ｸｰﾝ ｲｪｯﾂ リー ジャクソン クーン イェッツ 〈令和5年4月〉		Master of Arts in Applied Linguistics and TESOL(英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	1日
72	兼担	講師	ｶﾜﾊﾗ(ｲﾉｳｴ) ｹｲｺ 川原（井上） 恵子 〈令和6年4月〉		修士 (社会福祉学)		貧困に対する支援	2･3前	2	1	東洋大学社会学部 講師 〈平18.4〉	1日
73	兼担	助教	ｼﾝﾀﾆ ｽﾊﾞﾙ 新谷 昴 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	日本体育大学体育学部 一般研究員 〈令2.4〉	1日
74	兼担	助教	ｱﾀﾞﾁ ｹﾞﾝ 安達 玄 〈令和5年4月〉		博士 (スポーツ科学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	早稲田大学スポーツ科学研究センター 招聘研究員 〈令3.4〉	1日
75	兼担	助教	ｵｸﾑﾗ ﾀｸﾛｳ 奥村 拓朗 〈令和5年4月〉		博士 (体育科学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	日本体育大学児童スポーツ教育学部 助教 〈令3.4〉	1日
76	兼任	講師	ｱｻﾏ ﾏｻﾐﾁ 淺間 正通 〈令和5年4月〉		教育学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
77	兼任	講師	ｱﾗｶﾜ ｼｭﾝﾔ 荒川 俊也 〈令和5年4月〉		博士 (学術)		プログラミング基礎Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	日本工業大学先進工学部 教授 〈令4.4〉	1日
78	兼任	講師	ｱﾝｻﾞｲ ｼﾞｭﾝｺ 安齋 順子 〈令和5年4月〉		修士 (教育学)		心理学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
79	兼任	講師	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 安藤 潤一郎 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		社会学 中国語および中国語圏社会事情 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
80	兼任	講師	ｲｱﾝ ﾌｨﾘｯﾌﾟ ﾊｰﾄ IAN PHILIP HART 〈令和5年4月〉		M.Ed(応用言語学・TESOL)(英国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
81	兼任	講師	ｲｼｲ ｼｮｳﾀ 石井 翔大 〈令和5年4月〉		修士（工学）		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
82	兼任	講師	ｲﾉｸﾞﾁ ｱﾔﾅ 猪口 綾奈 〈令和5年4月〉		Master of Arts in Teaching(米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	2日
83	兼任	講師	ｲﾜｾ ﾕｳｺ 岩瀬 裕子 〈令和5年9月〉		修士（人間科学）		文化人類学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
84	兼任	講師	ｳﾒﾐﾔ ﾕｳ 梅宮 悠 〈令和5年4月〉		修士（文学）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
85	兼任	講師	ｴﾄｳ(ﾅｶﾉ) ﾓｴ 江藤(中野) 双恵 〈令和5年9月〉		修士（国際学）		地域文化研究B	1･2･3･4後	2	1	東洋大学国際学部 講師 〈平29.4〉	1日
86	兼任	講師	ｵｸﾀﾞ ﾏｲ 奥田 麻衣 〈令和5年9月〉		博士（学術）		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	6	3	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.9〉	1日
87	兼任	講師	ｵﾋﾞｷ ﾏﾐ 尾関 麻美 〈令和5年4月〉		言語学修士（M.A.）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平8.4〉	1日
88	兼任	講師	ｵ ﾍﾁｮﾝ 呉 海鍾 〈令和5年4月〉		博士（環境学）		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
89	兼任	講師	ｵﾎﾞｸﾞﾈ ﾍｽﾗ ﾏﾘﾘﾝ オボグネ ヘスラ マリリン 〈令和5年4月〉		博士（工学）		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
90	兼任	講師	ｵﾔﾏﾀﾞ ﾕﾀｶ 小山田 豊 〈令和5年4月〉		文学修士		ドイツ語およびドイツ語圏社会事情 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 1 1	1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	1日
91	兼任	講師	ｶﾀｷﾞﾘ ｱｷﾗ 片桐 暁 〈令和5年4月〉		修士（美術）		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	8	4	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
92	兼任	講師	ｷﾉｼﾀ ﾋﾛﾐ 木下 ひろみ 〈令和5年4月〉		文学修士（比較文化）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平26.4〉	1日
93	兼任	講師	ｸﾄﾞｳ ｷｴ 工藤 貴恵 〈令和5年4月〉		修士（文学）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
94	兼任	講師	ｸﾄﾞｳ(ﾊﾞﾝ) ﾍﾞﾆ 工藤(坂) 紅 〈令和5年9月〉		博士（文学）		外国文学	1･2･3･4後	2	1	立正大学経営学部 准教授 〈平27.4〉	1日
95	兼任	講師	ｸﾞﾚﾝ ﾌｧｰﾝ グレン ファーン 〈令和6年4月〉		Education(M.A.)(米国)		英語ⅣA 英語ⅣB	2前 2後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平18.4〉	1日
96	兼任	講師	ｺｼﾞﾏ ﾉﾌﾞﾕｷ 小嶋 信之 〈令和5年4月〉		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平23.4〉	1日
97	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾐﾎ 佐藤 美保 〈令和5年4月〉		修士（文学）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
98	兼任	講師	ｼﾞｪﾌﾘｰ ﾌﾞﾙｰｽ Jeffrey Bruce 〈令和5年4月〉		修士 （英語教育）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
99	兼任	講師	ｼｵｻﾞﾜ ｼﾝｲﾁﾛｳ 塩澤 伸一郎 〈令和5年4月〉		修士 （教育学）		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
100	兼任	講師	ｼ ｹﾞﾝｷﾞﾝ シ ゲンギン 〈令和5年4月〉		博士 （地域研究）		地域文化研究Ｅ	1･2･3･4前	2	1	立教大学異文化コミュニケーション学部 助教 〈令4.4〉	1日
101	兼任	講師	ｼﾀﾞ ﾅｵｷ 信太 直己 〈令和5年4月〉		博士 （人間科学）		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	2日
102	兼任	講師	ｾｷﾈ ｱｷﾊﾙ 関根 明治 〈令和5年4月〉		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平21.4〉	2日
103	兼任	講師	ｾｷ ﾕｳｺ 関 裕子 〈令和5年4月〉		修士 （人文科学）		Integrated Japanese Ⅱ Theory Japanese Listening Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
104	兼任	講師	ｿｳﾄﾒ ﾋﾛｺ 五月女 仁子 〈令和5年4月〉		修士 （工学）		統計学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
105	兼任	講師	ｿﾈ ﾅｵｷ 曽根 直樹 〈令和5年4月〉		教育学士		障害学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
106	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ(ﾏﾙﾔﾏ) ｵﾘｴ 高橋(丸山) 織恵 〈令和5年4月〉		修士 （人文）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本事情Ⅰ 日本事情Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1 2 2	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.4〉	1日
107	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ｻﾄｼ 高橋 聡 〈令和5年4月〉		修士 （日本語教育学）		Integrated Japanese Ⅲ Theory	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
108	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ 竹内 幸子 〈令和5年4月〉		修士 （コミュニケーション学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
109	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾋﾛｶｽﾞ 田中 宏和 〈令和5年4月〉		修士 （体育科学）		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	高崎経済大学地域政策学部 准教授 ＜令4.4〉	1日
110	兼任	講師	ﾀﾅｶ(ﾂｷﾊｼ) ﾐﾈ 田中(月橋) みんね 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
111	兼任	講師	ﾁｮｳ ﾚｲ 張 麗 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		Japanese Reading Ⅱ	1･2･3･4前･後	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
112	兼任	講師	ﾂﾙﾏｷ ﾀｶｼ 鶴巻 崇 〈令和5年9月〉		修士 （建築学） （英国）		総合Ｆ	1･2･3･4後	2	1	Heatherwick Studio London本社シニアデザイナー 〈平26.4〉	1日
113	兼任	講師	ﾄﾐﾂｶ ﾋﾛﾕｷ 冨塚 博之 〈令和5年4月〉		英文学修士		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平19.4〉	1日
114	兼任	講師	ﾅｶﾈ ﾋｻﾔｽ 中根 久寧 〈令和5年9月〉		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平24.4〉	1日
115	兼任	講師	ﾆｼﾓﾄ(ﾋﾗﾔﾏ) ｶﾅ 西元(平山) 加那 〈令和5年4月〉		修士 （法学）		法学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
116	兼任	講師	ﾊｲﾝ ﾊﾟﾄﾘｯｸ hein patrick 〈令和5年4月〉		PhD Education and SocietyCultural Studies(英国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
117	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ﾋﾃﾞｼｹﾞ 橋本 英重 〈令和5年4月〉		修士(国際経営学)		基礎会計学 経営学	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	ミッドメディア有限会社 代表取締役 〈平17.8〉	1日
118	兼任	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ﾀｸﾔ 長谷川 琢哉 〈令和5年4月〉		修士(文学)		全学総合A 全学総合B	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
119	兼任	講師	ﾊｯｼｰ ﾘﾝ ｹﾞｰﾘｰ ハッシー リン ゲーリー 〈令和5年4月〉		M.A.Spec.Ed(英国)		英語ⅡA 英語ⅡB	1前 1後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
120	兼任	講師	ﾊﾏ ﾔｽｶｽﾞ 濱 泰一 〈令和5年9月〉		博士(環境学)		環境政策論	1･2･3･4後	2	1	東洋大学国際観光学部 講師 〈平29.4〉	1日
121	兼任	講師	ﾊﾔｼ(ｲﾄｳ) ｼﾞｭﾝｺ 林(伊藤) 順子 〈令和5年4月〉		修士(教育学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
122	兼任	講師	ﾋﾗｻﾜ ﾀｶﾕｷ 平沢 隆之 〈令和5年4月〉		博士(工学)		数学 物理学	1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2	1 1	東京大学生産技術研究所 助教 〈平21.7〉	1日
123	兼任	講師	ﾋﾗﾊﾞﾔｼ ﾋﾛｶｽﾞ 平林 浩一 〈令和5年4月〉		修士(政策研究)		公務員論	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	1日
124	兼任	講師	ﾌｶﾔ ﾋﾃﾞｷ 深谷 秀樹 〈令和5年4月〉		修士(文学)		プレゼンテーション技法 コミュニケーション＆マナー	1･2･3･4前 1後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平20.4〉	1日
125	兼任	講師	ﾎｿﾀﾞ ｶｽﾞｴ 細田 和江 〈令和5年4月〉		博士(学術)		地域文化研究C	1･2･3･4前	2	1	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 フェロー 〈平28.4〉	1日
126	兼任	講師	ﾎﾞﾙｽﾀｰ ﾊﾗﾙﾄﾞ ボルスター ハラルド 〈令和5年4月〉		学術博士(独国)		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2 2	1 1 2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	1日
127	兼任	講師	ﾎﾝﾀﾞ ﾖｼﾋｺ 本多 吉彦 〈令和5年4月〉		修士(アジア研究)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
128	兼任	講師	ﾏｸﾞﾇｿﾝ ｼﾞｮｰｼﾞ ﾃﾞﾋﾞｯﾄ マグヌソン ジョージ デビット 〈令和5年4月〉		MBA(米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	1日
129	兼任	講師	ﾏﾂｲ ﾋﾛﾐ 松井 広美 〈令和7年9月〉		-		キャリアデベロップメント	3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.9〉	1日
130	兼任	講師	ﾏﾂﾉ(ｱﾂﾞﾏ) ﾄﾓｱｷ 松野(我妻) 智章 〈令和5年9月〉		博士(文学)		地域文化研究D	1･2･3･4後	2	1	東洋大学文学部 講師 〈平25.4〉	1日
131	兼任	講師	ﾏﾘｯｶｰﾙ ｱｽﾞﾐﾔ ﾌｧﾃｨﾏ マリッカール アズミヤ ファティマ 〈令和5年4月〉		博士(国際関係学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
132	兼任	講師	ﾐｳﾗ ﾅｵｺ 三浦 尚子 〈令和5年9月〉		博士(社会科学)		地理学	1･2･3･4後	2	1	お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特別研究員 〈令3.10〉	1日
133	兼任	講師	ﾐｽﾞﾀ ｶｵ 水田 佳歩 〈令和5年4月〉		博士(日本語教育学)		Integrated Japanese Ⅱ Practice Japanese Reading Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令1.9〉	1日
134	兼任	講師	ﾐﾔｻﾞｷ ﾐﾂﾕｷ 宮崎 瑞之 〈令和5年4月〉		M.A. in TESOL(米国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平23.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
135	兼任	講師	ﾐﾔﾊﾗ ｱﾂｺ 宮原 温子 〈令和5年4月〉		修士 (国際学)		地域文化研究Ａ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学国際学部 講師 〈令2.4〉	1日
136	兼任	講師	ﾔｽﾊﾗ ﾅｴ 安原 七重 〈令和5年9月〉		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平24.4〉	1日
137	兼任	講師	ﾔﾏｷﾞﾜ ﾓﾄｲ 山際 基 〈令和5年4月〉		博士 (工学)		情報化社会と人間	1･2･3･4前	2	1	山梨大学大学院総合研究部教育学域 准教授 〈平28.4〉	1日
138	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾀｶﾋﾛ 山本 崇広 〈令和5年9月〉		修士 (経済学)		経済学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.9〉	1日
139	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 山本 伍紀 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
140	兼任	講師	ﾗｳﾞｪﾙ ﾘｰ ﾄﾞｰﾝ ラヴェル リー ドーン 〈令和5年4月〉		MA (Instructional Technology)(米国)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.4〉	1日
141	兼任	講師	ﾗｻﾓｴﾗ ﾐﾚｲﾕ ラサモエラ ミレイユ 〈令和5年4月〉		Master's degree of mathmatics(仏国)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
142	兼任	講師	ﾘ ﾘｮﾝｷﾞｮﾝ リ(李) リョンギョン (リョン京) 〈令和5年9月〉		修士 (政治学)		韓国語および韓国語圏社会事情 韓国語Ⅱ	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	1日
143	兼任	講師	ｱｻﾊﾞ(ｷﾑﾗ) ｻﾄﾐ 浅羽（木村） 聡美 〈令和5年4月〉		修士 (芸術)		子どもと表現Ⅱ 保育内容の指導法（造形表現） 造形あそびの実践	1後 2後 2･3･4前	1 1 2	1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	1日
144	兼任	講師	ｱﾝ ｳﾝｷﾞｮﾝ 安 ウンギョン 〈令和5年4月〉		修士 (教育学)		多文化共生保育・教育 子育て支援実践 多文化共生保育・教育実践 保育実習ＩＡ（施設） 保育実習指導ＩＡ（施設） 保育実習ＩＢ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所）	3後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 2後 2後 3前 4前	1 1 1 2 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 助教 〈平30.4〉	3日
145	兼任	講師	ｲｼｶﾜ(ｵｶﾉ) ﾏｻｴ 石川（岡埜） 眞佐江 〈令和6年4月〉		博士 (学術)		保育音楽表現技術Ⅰ	2･3･4前	2	1	静岡大学教育学部 准教授 〈平24.4〉	1日
146	兼任	講師	ｳｴﾀﾞ ﾐｶ 上田 美香 〈令和6年9月〉		修士 (社会福祉学)		保育実習ＩＡ（施設） 保育実習ＩＢ（保育所） 子育て支援 保育実習Ⅱ（保育所）	2後 3前 4前 4前	2 2 1 2	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.9〉	2日
147	兼任	講師	ｳｴﾉ(ｲﾇｶｲ) ﾅｵｺ 上野（犬飼） 直子 〈令和8年4月〉		教育学修士		子育て支援	4前	1	1	朝霞市保健センター心理相談担当 〈平27.4〉	1日
148	兼任	講師	ｵｵﾀ ﾕﾘｺ 太田 百合子 〈令和5年9月〉		家政学士		子どもの食と栄養（実習含む）	1後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平26.9〉	1日
149	兼任	講師	ｶﾅｼﾞ(ｵｵｼﾏ) ｱﾐ 金持（大島） 亜実 〈令和5年9月〉		博士 (音楽)		子どもと表現Ⅰ	1後	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.9〉	1日
150	兼任	講師	ｷﾑﾗ ｱﾕﾐ 木村 歩美 〈令和7年4月〉		教育学修士		保育内容の指導法（環境）	3前	1	1	おおぞら教育研究所 代表 〈平9.10〉	1日
151	兼任	講師	ｷﾑﾗ ﾏﾅﾌﾞ 木村 学 〈令和5年9月〉		修士 (教育学)		生活と総合学習	1･2･3･4後	2	1	文京学院大学人間学部 准教授 〈平22.4〉	1日
152	兼任	講師	ｺｼﾞﾏ ﾃﾙｷ 小島 栄希 〈令和6年9月〉		修士 (社会福祉学)		保育実習ＩＡ（施設） 保育実習ＩＢ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所）	2後 3前 4前	2 2 2	1 1 1	ベル・フラワー保育園 園長 〈平30.4〉	2日
153	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾖｳｺ 齊藤 葉子 〈令和8年4月〉		修士 (社会福祉学)		保育実習Ⅲ（施設）	4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	1日
154	兼任	講師	ｼﾉｻﾞﾜ(ﾔﾏﾀﾞ) ｶｵﾙ 篠沢（山田） 薫 〈令和6年4月〉		修士 (人間科学)		保育内容の指導法（人間関係） 特別支援教育・保育Ⅱ	2後 2前	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.9〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
155	兼任	講師	ｾｶﾞﾜ(ｵｶﾞﾜ) ﾐｶ 瀬川（小川） 未佳 〈令和6年9月〉		修士 (臨床心理学)		乳児保育Ⅰ	2後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.9〉	1日
156	兼任	講師	ｿｳﾏ ﾔｽｱｷ 相馬 靖明 〈令和7年4月〉		家政学修士		幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	3前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平24.4〉	1日
157	兼任	講師	ﾀｼﾞﾘ ｻﾔｶ 田尻 さやか 〈令和7年4月〉		修士 (人間生活学)		保育実習ＩＢ（保育所） 保育実習Ⅱ（保育所）	3前 4前	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	2日
158	兼任	講師	ﾀｼﾞﾘ ﾕｷ 田尻 由起 〈令和5年4月〉		修士 (教育学)		特別支援教育・保育Ⅰ	1前	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
159	兼任	講師	ﾄﾏﾙ(ｻｸﾗｲ) ｹｲｺ 都丸（櫻井） けい子 〈令和7年9月〉		博士 (教育学)		保育・教育相談 子育て支援	3後 4前	2 1	1 1	聖徳大学心理・福祉学部 専任講師 〈平24.9〉	1日
160	兼任	講師	ﾄﾔ ﾄｷｺ 戸谷 登貴子 〈令和6年4月〉		博士 (教育学)		保育音楽表現技術Ⅰ	2･3･4前	2	1	早稲田大学教育学部 講師 〈令3.4〉	1日
161	兼任	講師	ﾅｲﾄｳ ﾉﾘｺ 内藤 典子 〈令和5年4月〉		博士 (医学)		医学概論	1前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.9〉	1日
162	兼任	講師	ﾌｼﾞﾀ ﾖｼｺ 藤田 佳子 〈令和5年4月〉		文学士		子どもと言葉	1前	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	1日
163	兼任	講師	ﾏﾂｻﾞｷ ﾏﾐ 松崎 真実 〈令和7年9月〉		修士 (障害科学)		教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）	3後	5	1	こども教育宝仙大学こども教育学部 講師 〈令3.4〉	1日
164	兼任	講師	ﾑﾗｶﾐ ﾔｽｺ 村上 康子 〈令和5年9月〉		博士 (学術)		子どもと表現Ⅰ	1後	1	1	共立女子大学家政学部 教授 〈令2.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 （学部長）	ﾐｽﾞﾑﾗ(ｱｵｷ) ﾋﾛｺ 水村（青木）容子 〈令和5年4月〉		博士 （学術）		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 生活環境デザイン演習ＩＢ 生活環境デザイン演習ⅡＡ 生活環境デザイン演習ⅡＢ 卒業研究 住居計画 インテリアデザイン ※ インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ 福祉住環境コーディネート論	1前 2前 3後 4前 4後 4後 2前 2前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4後	2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平18.4〉	5日
2	専	教授 （学科長）	ｽｶﾞﾜﾗ ﾏｲｺ 菅原 麻衣子 〈令和5年4月〉		博士 （工学）		人間環境デザイン学概論 ユニバーサルデザイン概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 生活環境デザイン演習ＩＢ 生活環境デザイン演習ⅡＡ 生活環境デザイン演習ⅡＢ 卒業研究 建築とまちのＵＤ インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ 環境設計演習	1前 1前 1前 3後 4前 4後 4後 3･4後 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 4前	2 2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平24.4〉	5日
3	専	教授	ｳﾁﾀﾞ ﾖｼｵ 内田 祥士 〈令和5年4月〉		博士 （工学）		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 空間デザイン演習ＩＢ 空間デザイン演習ⅡＡ 空間デザイン演習ⅡＢ 卒業研究 ＣＡＤ演習Ⅰ 建築歴史意匠Ａ インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ 建築設計論	1前 2前 3後 4前 4後 4後 1後 1前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4前	2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平17.4〉	5日
4	専	教授	ｲｹﾀﾞ ﾁﾄｾ 池田 千登勢 〈令和5年4月〉		博士 （芸術工学）		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ プロダクトデザイン演習ＩＢ プロダクトデザイン演習ⅡＡ プロダクトデザイン演習ⅡＢ 卒業研究 製品と情報のＵＤ デザイン特別講義 ※ 情報メディアデザイン ※ インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ プロダクトデザインⅠ	1前 1前 3後 4前 4後 4後 1後 3･4前 3･4前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4前	2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平18.4〉	5日
5	専	教授	ﾀｶﾊｼ ﾖｼﾕｷ 高橋 良至 〈令和5年4月〉		博士 （工学）		人間環境デザイン学概論 プロダクトデザイン演習ⅡＡ プロダクトデザイン演習ⅡＢ 卒業研究 ＣＡＤ演習Ⅰ ＣＡＤ演習Ⅱ デザイン工学基礎 インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ メカトロニクス・デザイン	1前 4前 4後 4後 1後 2前 2前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4後	2 2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平18.4〉	5日
6	専	教授	ﾐﾈ ﾔｽﾋﾛ 嶺 也守寛 〈令和5年4月〉		博士 （人間科学）		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ 生活環境デザイン演習ＩＡ 生活環境デザイン演習ⅡＡ 生活環境デザイン演習ⅡＢ 卒業研究 ＣＡＤ演習Ⅰ 福祉デザイン工学概論 インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ 福祉デザイン工学各論 支援技術とデザイン	1前 1後 3前 4前 4後 4後 1後 2前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4後	2 3 3 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平25.4〉	5日
7	専	教授	ｵｵﾇﾏ ｱﾂｼ 大沼 敦 〈令和5年4月〉		学士 （芸術）		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ プロダクトデザイン演習ＩＡ プロダクトデザイン演習ⅡＡ プロダクトデザイン演習ⅡＢ 卒業研究 プロダクトデザイン基礎 産業とプロダクトデザイン インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ	1前 1後 3前 4前 4後 4後 1前 3後 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前	2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈令2.4〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
8	専	教授	ｶﾂﾋﾗ ｼﾞｭﾝｼﾞ 勝平 純司 〈令和5年4月〉		博士 (保健医療学)		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン総合演習 生活環境デザイン演習ＩＡ 生活環境デザイン演習ＩＢ 生活環境デザイン演習ⅡＡ 生活環境デザイン演習ⅡＢ 卒業研究 人間工学 生活支援デザイン概論 道具の歴史 インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ	1前 2後 3前 3後 4前 4後 4後 2後 1前 1後 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前	2 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈令2.4〉	5日
9	専	教授	ﾅｶ ｱﾔｺ 仲 綾子 〈令和5年4月〉		博士 (工学)		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 人間環境デザイン総合演習 空間デザイン演習ＩＡ 空間デザイン演習ⅡＡ 空間デザイン演習ⅡＢ 卒業研究 インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ 建築空間構成論 医療福祉建築計画 環境デザイン論	1前 2前 2後 3前 4前 4後 4後 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4後 2前	2 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平26.9〉	5日
10	専	准教授	ｶｼﾜｷﾞ ﾘｮｳ 柏樹 良 〈令和5年4月〉		学士 (造形)		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅲ プロダクトデザイン演習ＩＢ プロダクトデザイン演習ⅡＡ プロダクトデザイン演習ⅡＢ 卒業研究 コンピュータ・グラフィックス デザイン思考法 インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ プロダクトデザインⅡ	1前 2前 3後 4前 4後 2前 2前 2前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4後	2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平20.4〉	5日
11	専	准教授	ｻｲﾄｳ ﾋﾛｼ 齋藤 博 〈令和5年4月〉		Ph.D in Urban Planning (英国)		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 空間デザイン演習ＩＢ 空間デザイン演習ⅡＡ 空間デザイン演習ⅡＢ 卒業研究 都市・まちのデザイン インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ 都市計画論	1前 1前 3後 4前 4後 4後 1後 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4前	2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平31.4〉	5日
12	専	准教授	ﾅﾄﾘ ｱｷﾗ 名取 発 〈令和5年4月〉		博士 (工学)		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅲ 空間デザイン演習ＩＢ 空間デザイン演習ⅡＡ 空間デザイン演習ⅡＢ 卒業研究 建築歴史意匠Ａ 材料・素材一般 ※ 建築生産 構造力学 インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ 建築設計論 構法計画 構法計画演習	1前 2前 3後 4前 4後 4後 1前 1後 1後 2後 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4前 3･4前 3･4前	2 3 3 2 2 2 2 0.67 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平18.4〉	5日
13	専	准教授	ﾏﾂﾓﾄ ｶｽﾞﾔ 松本 和也 〈令和5年4月〉		学士 (芸術)		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン総合演習 プロダクトデザイン演習ＩＡ プロダクトデザイン演習ⅡＡ プロダクトデザイン演習ⅡＢ 卒業研究 ＣＡＤ演習Ⅱ インターンシップＡ インターンシップＢ インターンシップＣ インターンシップＤ 情報デザインⅠ 情報デザインⅡ	1前 2後 3前 4前 4後 4後 2前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前 2前 3･4後	2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈令2.9〉	5日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
14	専	准教授	ﾄﾐﾔｽ ﾘｮｳｽｹ 冨安 亮輔 〈令和5年4月〉		博士 （工学）		人間環境デザイン学概論 人間環境デザイン基礎演習Ⅱ 空間デザイン演習ⅠA 空間デザイン演習ⅡA 空間デザイン演習ⅡB 卒業研究 生活空間計画 調査分析のデザイン インターンシップA インターンシップB インターンシップC インターンシップD	1前 1後 3前 4前 4後 4後 2後 3･4前 3･4後 3･4前 3･4後 3･4前	2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平31.4〉	5日
15	兼担	教授	ｲﾅｶﾞｷ ｻﾄｼ 稲垣 諭 〈令和6年4月〉		博士 （文学）		全学総合F	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授 〈平28.4〉	1日
16	兼担	教授	ｲﾜｼﾀ ﾃﾂﾉﾘ 岩下 哲典 〈令和5年4月〉		博士 （歴史学）		歴史学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授 〈平28.4〉	1日
17	兼担	教授	ｵｵﾂｶ ﾖｼｵﾐ 大塚 佳臣 〈令和5年4月〉		博士 （工学）		全学総合D	1･2･3･4前	2	1	東洋大学総合情報学部 教授 〈平22.4〉	1日
18	兼担	教授	ｶｶﾞﾐ ｶｽﾞｱｷ 加賀見 一彰 〈令和5年4月〉		博士 （経済学）		全学総合K	1･2･3･4前	2	1	東洋大学経済学部 教授 〈平18.4〉	1日
19	兼担	教授	ｶﾈｺ ﾘﾂｺ 金子 律子 〈令和5年9月〉		医学博士		生物学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学生命科学部 教授 〈平18.4〉	1日
20	兼担	教授	ｶﾜｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｵ 川口 英夫 〈令和5年9月〉		博士 （工学）		全学総合J	1･2･3･4後	2	1	東洋大学生命科学部 教授 〈平21.4〉	1日
	兼任	講師	ｶﾜｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｵ 川口 英夫 〈令和7年9月〉				全学総合J	1･2･3･4後	2	1		1日
21	兼担	教授	ｶﾜﾓﾄ ﾋﾃﾞｵ 河本 英夫 〈令和5年4月〉		博士 （学術）		全学総合F	1･2･3･4前	2	1	東洋大学文学部 教授 〈平3.4〉	1日
22	兼担	教授	ｷｳﾁ ｱｷﾗ 木内 明 〈令和5年4月〉		教育学修士 （韓国）		韓国語Ⅰ	1･2･3･4前	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平17.4〉	1日
23	兼担	教授	ｷｸﾁ ﾉﾘﾀｶ 菊地 章太 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合C 総合B 総合C 総合D 総合E	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平17.4〉	3日
	兼任	講師	ｷｸﾁ ﾉﾘﾀｶ 菊地 章太 〈令和7年4月〉				哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合C 総合B 総合C 総合D 総合E	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		3日
24	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻｵ 小林 正夫 〈令和5年9月〉		理学修士		全学総合G 全学総合H	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学社会学部 教授 〈平5.4〉	2日
25	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾅｵﾐ 高橋 直美 〈令和5年4月〉		教育学修士		日本文学 口頭表現法 文章読解 レポート・論文のまとめ方 総合A	1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平9.4〉	5日
26	兼担	教授	ﾀﾄﾞｺﾛ ｷﾖｼ 田所 聖志 〈令和5年9月〉		博士 （社会人類学）		ダイバーシティ論	1･2･3･4後	2	1	東洋大学社会学部 教授 〈令和3.4〉	1日
27	兼担	教授	ﾀﾆｶﾞﾏ ﾋﾛﾉﾘ 谷釜 尋徳 〈令和5年4月〉		博士 （体育科学）		全学総合L 全学総合M	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学法学部 教授 〈平20.4〉	1日
28	兼担	教授	ｳﾁﾔﾏ ﾕｳｺ 内山 有子 〈令和8年4月〉		修士 （保健学） ※		教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4前	3	1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平28.4〉	1日
29	兼担	教授	ｵｵﾂｼﾞ ﾋｻｼ 大辻 永 〈令和7年4月〉		修士 （教育）		工業科指導法Ⅰ 工業科指導法Ⅱ	3前 3後	2 2	1 1	東洋大学理工学部 教授 〈平28.4〉	1日
30	兼担	教授	ｺﾚｴﾀﾞ ｷﾖｼﾞ 是枝 喜代治 〈令和5年9月〉		博士 （教育学）		特別支援教育基礎論	1後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 教授 〈平24.4〉	#N/A
	兼任	講師	ｺﾚｴﾀﾞ ｷﾖｼﾞ 是枝 喜代治 〈令和7年9月〉				特別支援教育基礎論	1後	2	1		#N/A

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
31	兼担	准教授	ｱｸﾂ ｽﾐｴ 阿久津 純恵 〈令和5年4月〉		修士 （文学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ Intercultural Communication Skills ⅡA Intercultural Communication Skills ⅡB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 1･2･3･4後 1･2･3･4後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平27.4〉	3日
32	兼担	准教授	ｲｼﾀﾞ ﾀﾂﾔ 石田 達也 〈令和5年9月〉		博士 （農学）		現代化学	1･2･3･4後	2	1	株式会社明治研究本部 研究員 〈平17.4〉	1日
33	兼担	准教授	ｳｴﾀﾞ ﾄﾓｱｷ 上田 知亮 〈令和5年4月〉		博士 （法学）		政治学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学法学部 准教授 〈平27.4〉	1日
34	兼担	准教授	ｳｼｸﾎﾞ ﾘｭｳﾀ 牛窪 隆太 〈令和5年4月〉		博士 （日本語教育学）		Integrated Japanese Ⅱ Practice	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 准教授 〈平31.4〉	1日
35	兼担	准教授	ｺｼﾞﾏ ﾀｶｺ 小島 貴子 〈令和5年4月〉		修士 （国際アドミニストレーション）		キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践	1前 2後	2 2	1 1	東洋大学理工学部 准教授 〈平24.4〉	1日
	兼任	講師	ｺｼﾞﾏ ﾀｶｺ 小島 貴子 〈令和6年4月〉				キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践	1前 2後	2 2	1 1		1日
36	兼担	准教授	ｺﾞﾄｳ ﾀｶｱｷ 後藤 隆彰 〈令和5年9月〉		博士 （工学）		全学総合Ｅ	1･2･3･4後	2	1	東洋大学総合情報学部 准教授 〈平31.4〉	1日
37	兼担	准教授	ｺﾊﾞﾔｶﾜ ﾕｳｺ 小早川 裕子 〈令和5年4月〉		博士 （国際地域学）		留学のすすめ アカデミックライティング テクニカルライティング	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2 2	1 1 1	東洋大学国際教育センター 准教授 〈平29.4〉	2日
38	兼担	准教授	ｻｶｷﾊﾞﾗ ｹｲｺ 榊原 圭子 〈令和5年4月〉		博士 （保健学）		全学総合Ｉ	1･2･3･4前	2	1	東洋大学社会学部 准教授 〈平28.4〉	1日
39	兼担	准教授	ﾀｹﾑﾗ ﾐｽﾞﾎ 竹村 瑞穂 〈令和5年4月〉		博士 （体育科学）		哲学 生命と倫理 ジェンダー論	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 2 2	1 1 1	日本福祉大学スポーツ科学部 准教授 〈平29.4〉	2日
40	兼担	准教授	ﾃﾗ ﾖｳﾍｲ 寺 洋平 〈令和5年9月〉		法学修士		日本国憲法	1･2･3･4後	2	1	東洋大学法学部 准教授 〈平23.10〉	1日
41	兼担	准教授	ﾊﾔｼ ﾀﾞｲｽｹ 林 大介 〈令和7年4月〉		修士 （政治学）		インターンシップ入門 アントレプレナーシップ 社会貢献活動入門 地域マネジメント 特別活動と総合的な学習の時間の指導法	3･4前 3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東洋大学社会学部 講師 〈令3.4〉	2日
	兼任	講師	ﾊﾔｼ ﾀﾞｲｽｹ 林 大介 〈令和5年9月〉				地域マネジメント 特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1･2･3･4後 1後	2 2	1 1		1日
42	兼担	准教授	ﾎｿﾀﾆ ﾖｳｺ 細谷 洋子 〈令和5年4月〉		博士 （スポーツ科学）		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平30.9〉	1日
43	兼担	准教授	ﾏﾄﾊﾞ(ｷｳﾁ) ﾄﾓｺ 的場（木内） 智子 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		社会学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平17.4〉	1日
44	兼担	准教授	ﾑﾗｶﾐ ｶｽﾞｷ 村上 一基 〈令和5年4月〉		Doctorat en Sciences sociales et Philosophie de connaissance （仏国）		グローバル市民論	1･2･3･4前	2	1	東洋大学社会学部 准教授 〈平30.4〉	1日
45	兼担	准教授	ﾔﾏﾓﾄ(ｲｼｲ) ｱﾔ 山本(石井) 綾 〈令和5年4月〉		博士 （人文科学）		英語および英語圏社会事情 英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ Intercultural Communication Skills ＩA Intercultural Communication Skills ＩB English Test Preparation Ⅰ English Test Preparation Ⅱ	1･2･3･4前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈令4.4〉	3日
46	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾐﾁﾖ 渡辺 道代 〈令和5年9月〉		修士 （社会福祉学） ※		社会貢献活動入門	1･2･3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平30.4〉	1日
47	兼担	准教授	ｳﾁﾀﾞ ﾄｳｺ 内田 塔子 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		教職概論 生徒指導論（進路指導論を含む）	1前 2後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平17.4〉	1日
48	兼担	准教授	ﾋﾗﾉ ﾄﾓﾕｷ 平野 智之 〈令和8年4月〉		修士 （体育学）		教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む） 教職実践演習（中・高）	4前 4後	3 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 准教授 〈平27.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
49	兼担	講師	ｱﾝﾄﾞﾚｴﾌ ｽﾄｲﾁｪﾌ ｱﾝﾄﾝ アンドレエフ ストイチェフ アントン 〈令和5年4月〉		日本語学博士		Integrated Japanese Ⅰ Theory Integrated Japanese Ⅱ Practice Japanese Reading Ⅰ Japanese Reading Ⅱ Japanese Listening Ⅰ Japanese Listening Ⅱ Japanese Writing Ⅰ Project Work Ⅰ Japanese Culture and Society A Japanese Culture and Society B	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	2日
50	兼担	講師	ｳｨﾙｿﾝ ﾏｼｭｰ ウィルソン マシュー 〈令和5年4月〉		修士(English for Academic Purposes)(英国)		IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking IELTS for Study Abroad I Reading/Writing Pre-Study Abroad: Writing	1･2･3･4前 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後	2 2 2 1	1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	1日
51	兼担	講師	ｴｲﾃｨﾑ ｿｲﾊﾝ エイティム ソイハン 〈令和5年4月〉		Doctor of Education(米国)		英語ⅠA 英語Ⅰ B 英語ⅡA 英語Ⅱ B 英語ⅢA 英語Ⅲ B 英語ⅣA 英語Ⅳ B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	2日
	兼任	講師	ｴｲﾃｨﾑ ｿｲﾊﾝ エイティム ソイハン 〈令和8年4月〉				英語ⅠA 英語Ⅰ B 英語ⅡA 英語Ⅱ B 英語ⅢA 英語Ⅲ B 英語ⅣA 英語Ⅳ B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1		2日
52	兼担	講師	ｵｵﾊｼ ｶﾂｲﾁﾛｳ 大橋 勝一郎 〈令和5年4月〉		修士(Applied Linguistics(TESOL))(ｵｰｽﾄﾗﾘｱ)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	1日
53	兼担	講師	ｺﾆｼ ｶﾅ 小西 可奈 〈令和6年9月〉		博士（スポーツ健康科学）		食と健康	1･2･3･4後	2	1	東洋大学食環境科学部 助教 〈平31.4〉	1日
	兼担	助教	ｺﾆｼ ｶﾅ 小西 可奈 〈令和5年9月〉				食と健康	1･2･3･4後	2	1		1日
54	兼担	講師	ﾁﾝ ｼｭｳｲﾝ 陳 秀茵 〈令和5年4月〉		博士（学術）		Integrated Japanese Ⅰ Theory Integrated Japanese Ⅲ Practice	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 2	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令3.4〉	1日
55	兼担	講師	ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄﾞ ﾄﾗｸｻﾙ デイビッド トラクサル 〈令和5年4月〉		M.S.Education-TESOL(米国)		Business English Communication	1･2･3･4前	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令4.4〉	1日
56	兼担	講師	ﾄﾑｿﾝ ﾌﾞﾚｱ ｼﾞｮﾝ トムソン ブレア ジョン 〈令和5年4月〉		Master of Arts(ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ)		英語ⅡA 英語Ⅱ B 英語ⅢA 英語Ⅲ B 英語ⅣA 英語Ⅳ B	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	2日
	兼任	講師	ﾄﾑｿﾝ ﾌﾞﾚｱ ｼﾞｮﾝ トムソン ブレア ジョン 〈令和7年4月〉				英語ⅡA 英語Ⅱ B 英語ⅢA 英語Ⅲ B 英語ⅣA 英語Ⅳ B	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		2日
57	兼担	講師	ﾅｶﾉ ﾃｲｺ 中野 てい子 〈令和5年4月〉		博士(学術)		Integrated Japanese Ⅰ Practice Project Work Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令3.4〉	1日
58	兼担	講師	ﾊﾞｯｸ ｼﾞｮﾅｻﾝ バック ジョナサン 〈令和5年4月〉		Master of Arts in English Language Teaching and Applied Linguistics,(英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平30.4〉	1日
59	兼担	講師	ﾋｻﾖｼ ﾀｶｺ 久好 孝子 〈令和5年4月〉		博士（国際文化）		Integrated Japanese Ⅲ Theory Japanese Reading Ⅰ Japanese Listening Ⅰ Japanese Writing Ⅱ Japanese Writing Ⅲ Project Work Ⅱ Project Work Ⅲ Introduction to Japanology A Introduction to Japanology B	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4前	2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平29.4〉	2日
60	兼担	講師	ﾐｽﾞﾏﾂ ﾐﾅ 水松 巳奈 〈令和5年4月〉		Ph.D(米国)		留学のすすめ 異文化理解概論 海外研修Ⅰ 海外研修Ⅱ 海外実習Ⅰ 海外実習Ⅱ 短期海外研修Ⅰ 短期海外研修Ⅱ 短期海外研修Ⅲ 短期海外研修Ⅳ 短期海外実習Ⅰ 短期海外実習Ⅱ 短期海外実習Ⅲ 短期海外実習Ⅳ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4後 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	2日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
61	兼担	講師	ﾓｰﾚﾙ ｸﾘｽﾁｬﾝ ﾛﾊﾞｰﾄ モーレル クリスチャン ロバート 〈令和5年4月〉		TESOL修士(米国)		Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1･2･3･4前･後	1	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈平27.9〉	1日
62	兼担	講師	ﾘｰ ｼﾞｬｸｿﾝ ｸｰﾝ ｲｪｯﾂ リー ジャクソン クーン イェッツ 〈令和5年4月〉		Master of Arts in Applied Linguistics and TESOL(英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学国際教育センター 講師 〈令2.4〉	1日
63	兼担	助教	ｼﾝﾀﾆ ｽﾊﾞﾙ 新谷 昴 〈令和5年4月〉		博士(医学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	日本体育大学体育学部 一般研究員 〈令2.4〉	1日
64	兼担	助教	ｱﾀﾞﾁ ｹﾞﾝ 安達 玄 〈令和5年4月〉		博士(スポーツ科学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	早稲田大学スポーツ科学研究センター 招聘研究員 〈令3.4〉	1日
65	兼担	助教	ｵｸﾑﾗ ﾀｸﾛｳ 奥村 拓朗 〈令和5年4月〉		博士(体育科学)		スポーツ健康科学実技Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅱ 教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む） 教職実践演習（中・高）	1･2･3･4前 1･2･3･4後 4前 4後	1 1 3 2	1 1 1 1	日本体育大学児童スポーツ教育学部 助教 〈令3.4〉	1日
66	兼任	講師	ｱｻﾏ ﾏｻﾐﾁ 淺間 正通 〈令和5年4月〉		教育学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
67	兼任	講師	ｱﾗｶﾜ ｼｭﾝﾔ 荒川 俊也 〈令和5年4月〉		博士(学術)		プログラミング基礎Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	日本工業大学先進工学部 教授 〈令4.4〉	1日
68	兼任	講師	ｱﾝｻﾞｲ ｼﾞｭﾝｺ 安齋 順子 〈令和5年4月〉		修士(教育学)		心理学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
69	兼任	講師	ｱﾝﾄﾞｳ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 安藤 潤一郎 〈令和5年4月〉		修士(文学)		社会学 中国語および中国語圏社会事情 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	1日
70	兼任	講師	ｲｱﾝ ﾌｨﾘｯﾌﾟ ﾊｰﾄ IAN PHILIP HART 〈令和5年4月〉		M.Ed(応用言語学・TESOL)(英国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令4.4〉	2日
71	兼任	講師	ｲｼｲ ｼｮｳﾀ 石井 翔大 〈令和5年4月〉		修士(工学)		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
72	兼任	講師	ｲﾉｸﾞﾁ ｱﾔﾅ 猪口 綾奈 〈令和5年4月〉		Master of Arts in Teaching(米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	2日
73	兼任	講師	ｲﾜｾ ﾕｳｺ 岩瀬 裕子 〈令和5年9月〉		修士(人間科学)		文化人類学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
74	兼任	講師	ｳﾒﾐﾔ ﾕｳ 梅宮 悠 〈令和5年4月〉		修士(文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
75	兼任	講師	ｴﾄｳ(ﾅｶﾉ) ｻｴ 江藤(中野) 双恵 〈令和5年9月〉		修士(国際学)		地域文化研究B	1･2･3･4後	2	1	東洋大学国際学部 講師 〈平29.4〉	1日
76	兼任	講師	ｵｸﾀﾞ ﾏｲ 奥田 麻衣 〈令和5年9月〉		博士(学術)		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	6	3	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.9〉	1日
77	兼任	講師	ｵﾋﾞｷ ﾏﾐ 尾関 麻美 〈令和5年4月〉		言語学修士(M.A.)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平8.4〉	1日
78	兼任	講師	ｵ ﾍﾁｮﾝ 呉 海鍾 〈令和5年4月〉		博士(環境学)		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
79	兼任	講師	ｵﾎﾞｸﾞﾈ ﾍｽﾗ ﾏﾘﾘﾝ オボグネ ヘスラ マリリン 〈令和5年4月〉		博士(工学)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
80	兼任	講師	ｵﾔﾏﾀﾞ ﾕﾀｶ 小山田 豊 〈令和5年4月〉		文学修士		ドイツ語およびドイツ語圏社会事情 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 1 1	1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平29.4〉	1日
81	兼任	講師	ｶﾀｷﾞﾘ ｱｷﾗ 片桐 暁 〈令和5年4月〉		修士（美術）		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	8	4	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平31.4〉	1日
82	兼任	講師	ｶﾅｻﾞﾜ ﾉﾌﾞﾕｷ 金澤 信之 〈令和6年9月〉		文學士		道徳教育論 教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	3前 2後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平30.4〉	1日
83	兼任	講師	ｷﾉｼﾀ ﾋﾛﾐ 木下 ひろみ 〈令和5年4月〉		文学修士（比較文化）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平26.4〉	1日
84	兼任	講師	ｸﾄﾞｳ ｷｴ 工藤 貴恵 〈令和5年4月〉		修士（文学）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈令4.4〉	2日
85	兼任	講師	ｸﾄﾞｳ(ﾊﾞﾝ) ﾍﾞﾆ 工藤(坂) 紅 〈令和5年9月〉		博士（文学）		外国文学	1･2･3･4後	2	1	立正大学経営学部 准教授〈平27.4〉	1日
86	兼任	講師	ｸﾞﾚﾝ ﾌｧｰﾝ グレン ファーン 〈令和6年4月〉		Education(M.A.)(米国)		英語ⅣA 英語ⅣB	2前 2後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平18.4〉	1日
87	兼任	講師	ｺｼﾞﾏ ﾉﾌﾞﾕｷ 小嶋 信之 〈令和5年4月〉		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平23.4〉	1日
88	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾐﾎ 佐藤 美保 〈令和5年4月〉		修士（文学）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈令4.4〉	2日
89	兼任	講師	ｼﾞｪﾌﾘｰ ﾌﾞﾙｰｽ Jeffrey Bruce 〈令和5年4月〉		修士（英語教育）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈令4.4〉	2日
90	兼任	講師	ｼｵｻﾞﾜ ｼﾝｲﾁﾛｳ 塩澤 伸一郎 〈令和5年4月〉		修士（教育学）		情報リテラシーⅠ	1･2･3･4前	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平30.4〉	1日
91	兼任	講師	ｼ ｹﾞﾝｷﾞﾝ シ ゲンギン 〈令和5年4月〉		博士（地域研究）		地域文化研究E	1･2･3･4前	2	1	立教大学異文化コミュニケーション学部 助教〈令4.4〉	1日
92	兼任	講師	ｼﾀﾞ ﾅｵｷ 信太 直己 〈令和5年4月〉		博士（人間科学）		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	4 4	2 2	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平27.4〉	2日
93	兼任	講師	ｾｷﾈ ｱｷﾊﾙ 関根 明治 〈令和5年4月〉		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平21.4〉	2日
94	兼任	講師	ｾｷ ﾕｳｺ 関 裕子 〈令和5年4月〉		修士（人文科学）		Integrated Japanese Ⅱ Theory Japanese Listening Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平31.4〉	1日
95	兼任	講師	ｿｳﾄﾒ ﾋﾛｺ 五月女 仁子 〈令和5年4月〉		修士（工学）		統計学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈令3.4〉	1日
96	兼任	講師	ｿﾈ ﾅｵｷ 曽根 直樹 〈令和5年4月〉		教育学士		障害学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈令2.4〉	1日
97	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ(ﾏﾙﾔﾏ) ｵﾘｴ 高橋(丸山) 織恵 〈令和5年4月〉		修士（人文）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本事情Ⅰ 日本事情Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1 2 2	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師〈平28.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
98	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ｻﾄｼ 高橋 聡 〈令和5年4月〉		修士 （日本語教育学）		Integrated Japanese Ⅲ Theory	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
99	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｺ 竹内 幸子 〈令和5年4月〉		修士 （コミュニケーション学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
100	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾋﾛｶｽﾞ 田中 宏和 〈令和5年4月〉		修士 （体育科学）		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	高崎経済大学地域政策学部 准教授 ＜令4.4〉	1日
101	兼任	講師	ﾀﾅｶ(ﾂｷﾊｼ) ﾐﾝﾈ 田中(月橋) みんね 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
102	兼任	講師	ﾁｮｳ ﾚｲ 張 麗 〈令和5年4月〉		博士 （文学）		Japanese Reading　Ⅱ	1･2･3･4前･後	1	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
103	兼任	講師	ﾂﾙﾏｷ ﾀｶｼ 鶴巻 崇 〈令和5年9月〉		修士 （建築学） （英国）		総合Ｆ	1･2･3･4後	2	1	Heatherwick Studio London本社 シニアデザイナー 〈平26.4〉	1日
104	兼任	講師	ﾄﾏﾙ(ｻｸﾗｲ) ｹｲｺ 都丸（櫻井） けい子 〈令和5年4月〉		博士 （教育学）		教育心理学 教育相談	1前 2後	2 2	1 1	聖徳大学心理・福祉学部 専任講師 〈平24.9〉	1日
105	兼任	講師	ﾄﾐﾂｶ ﾋﾛﾕｷ 冨塚 博之 〈令和5年4月〉		英文学修士		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平19.4〉	1日
106	兼任	講師	ﾅｶﾈ ﾋｻﾔｽ 中根 久寧 〈令和5年9月〉		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平24.4〉	1日
107	兼任	講師	ﾆｼﾓﾄ(ﾋﾗﾔﾏ) ｶﾅ 西元(平山) 加那 〈令和5年4月〉		修士 （法学）		法学	1･2･3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
108	兼任	講師	ﾊｲﾝ ﾊﾟﾄﾘｯｸ hein patrick 〈令和5年4月〉		PhD Education and SocietyCultural Studies(英国)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ 英語ⅣＡ 英語ⅣＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
109	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ﾋﾃﾞｼｹﾞ 橋本 英重 〈令和5年4月〉		修士 （国際経営学）		基礎会計学 経営学	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	ミッドメディア有限会社 代表取締役 〈平17.8〉	1日
110	兼任	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ﾀｸﾔ 長谷川 琢哉 〈令和5年4月〉		修士 （文学）		全学総合Ａ 全学総合Ｂ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
111	兼任	講師	ﾊｯｼｰ ﾘﾝ ｹﾞｰﾘｰ ハッシー リン ゲーリー 〈令和5年4月〉		M.A.Spec.Ed(英国)		英語ⅡＡ 英語ⅡＢ	1前 1後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
112	兼任	講師	ﾊﾏ ﾔｽｶｽﾞ 濱 泰一 〈令和5年9月〉		博士 （環境学）		環境政策論	1･2･3･4後	2	1	東洋大学国際観光学部 講師 〈平29.4〉	1日
113	兼任	講師	ﾊﾔｼ(ｲﾄｳ) ｼﾞｭﾝｺ 林(伊藤) 順子 〈令和5年4月〉		修士 （教育学）		英語ＩＡ 英語ＩＢ 英語ⅢＡ 英語ⅢＢ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
114	兼任	講師	ﾋﾗｻﾜ ﾀｶﾕｷ 平沢 隆之 〈令和5年4月〉		博士 （工学）		数学 物理学	1･2･3･4前 1･2･3･4前	2 2	1 1	東京大学生産技術研究所 助教 〈平21.7〉	1日
115	兼任	講師	ﾋﾗﾊﾞﾔｼ ﾋﾛｶｽﾞ 平林 浩一 〈令和5年4月〉		修士 （政策研究）		公務員論	1･2･3･4前･後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	1日
116	兼任	講師	ﾌｶﾔ ﾋﾃﾞｷ 深谷 秀樹 〈令和5年4月〉		修士 （文学）		プレゼンテーション技法 コミュニケーション&マナー	1･2･3･4前 1後	2 2	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平20.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
117	兼任	講師	ﾎｿﾀﾞ ｶｽﾞｴ 細田 和江 〈令和5年4月〉		博士 （学術）		地域文化研究C	1･2･3･4前	2	1	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 フェロー 〈平28.4〉	1日
118	兼任	講師	ﾎﾞﾙｽﾀｰ ﾊﾗﾙﾄﾞ ボルスター ハラルド 〈令和5年4月〉		学術博士 （独国）		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 2 2	1 1 2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	1日
119	兼任	講師	ﾎﾝﾀﾞ ﾖｼﾋｺ 本多 吉彦 〈令和5年4月〉		修士 （アジア研究）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
120	兼任	講師	ﾏｸﾞﾇｿﾝ ｼﾞｮｰｼﾞ ﾃﾞﾋﾞｯﾄ マグヌソン ジョージ デビット 〈令和5年4月〉		MBA（米国）		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	1日
121	兼任	講師	ﾏﾂｲ ﾋﾛﾐ 松井 広美 〈令和7年9月〉		－		キャリアデベロップメント	3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.9〉	1日
122	兼任	講師	ﾏﾂﾉ(ｱﾂﾞﾏ) ﾄﾓﾉﾘ 松野(我妻) 智章 〈令和5年9月〉		博士 （文学）		地域文化研究D	1･2･3･4後	2	1	東洋大学文学部 講師 〈平25.4〉	1日
123	兼任	講師	ﾏﾘｯｶｰﾙ ｱｽﾞﾐﾔ ﾌｧﾃｨﾏ マリッカール アズミヤ ファティマ 〈令和5年4月〉		博士 （国際関係学）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.4〉	1日
124	兼任	講師	ﾐｳﾗ ﾅｵｺ 三浦 尚子 〈令和5年9月〉		博士 （社会科学）		地理学	1･2･3･4後	2	1	お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特別研究員 〈令3.10〉	1日
125	兼任	講師	ﾐｽﾞﾀ ｶｵ 水田 佳歩 〈令和5年4月〉		博士 （日本語教育学）		Integrated Japanese Ⅱ Practice Japanese Reading Ⅲ	1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令1.9〉	1日
126	兼任	講師	ﾐﾔｻﾞｷ ﾐﾂﾕｷ 宮崎 瑞之 〈令和5年4月〉		M.A. in TESOL（米国）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平23.4〉	1日
127	兼任	講師	ﾐﾔﾊﾗ ｱﾂｺ 宮原 温子 〈令和5年4月〉		修士 （国際学）		地域文化研究A	1･2･3･4前	2	1	東洋大学国際学部 講師 〈令2.4〉	1日
128	兼任	講師	ﾔｽﾊﾗ ﾅｴ 安原 七重 〈令和5年9月〉		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1･2･3･4後	4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平24.4〉	1日
129	兼任	講師	ﾔﾏｷﾞﾜ ﾓﾄｲ 山際 基 〈令和5年4月〉		博士 （工学）		情報化社会と人間	1･2･3･4前	2	1	山梨大学大学院総合研究部教育学域 准教授 〈平28.4〉	1日
130	兼任	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ｱｷｺ 山口 晶子 〈令和5年4月〉		教育学 （修士）		教育基礎論 教育制度論 教育課程総論	1前 1後 1後	2 2 2	1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令2.4〉	1日
131	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾀｶﾋﾛ 山本 崇広 〈令和5年9月〉		修士 （経済学）		経済学	1･2･3･4後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.9〉	1日
132	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾄﾓﾉﾘ 山本 伍紀 〈令和5年4月〉		修士 （文学）		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平31.4〉	1日
133	兼任	講師	ﾗｳﾞｪﾙ ﾘｰ ﾄﾞｰﾝ ラヴェル リー ドーン 〈令和5年4月〉		MA（Instructional Technology）（米国）		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.4〉	1日
134	兼任	講師	ﾗｻﾓｴﾗ ﾐﾚｲｭ ラサモエラ ミレイユ 〈令和5年4月〉		Master's degree of mathmatics（仏国）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1･2･3･4前 1･2･3･4後	1 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平25.4〉	1日
135	兼任	講師	ﾘ ﾘｮﾝｷﾞｮﾝ リ（李） リョンギョン（リョン京） 〈令和5年9月〉		修士 （政治学）		韓国語および韓国語圏社会事情 韓国語Ⅱ	1･2･3･4後 1･2･3･4後	2 1	1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
136	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ｻﾄｼ 秋山 怜史 〈令和7年9月〉		学士 (工学)		生活環境デザイン演習ＩＢ	3後	3	1	一級建築士事務所秋山立花 代表 〈平20.5〉	1日
137	兼任	講師	ｱｷﾔﾏ ｼｭｳｼﾞ 秋山 修志 〈令和5年9月〉		工学修士		ＣＡＤ演習Ⅰ	1後	2	1	ここまち計画研究所 主宰 〈平16.4〉	1日
138	兼任	講師	ｱｻｺ ﾖｳｽｹ 浅古 陽介 〈令和6年4月〉		学士 (工学)		ＣＡＤ演習Ⅱ	2前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平20.4〉	1日
139	兼任	講師	ｱｻﾉｳﾐ ﾖｼﾊﾙ 淺海 義治 〈令和6年9月〉		Master of City Planning(U.C.Berkeley)		まちづくり	2後	2	1	公益財団法人練馬区環境まちづくり公社 みどりのまちづくりセンター 所長 〈平30.4〉	1日
140	兼任	講師	ｱﾍﾞ ﾄﾓｷ 阿部 智樹 〈令和5年9月〉		修士 (建設工学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1後	3	1	一級建築士事務所タステンアトリエ 代表 〈平17.4〉	1日
141	兼任	講師	ｱﾗｲｴ ﾄｼﾀｹ 新家 寿健 〈令和5年9月〉		学士 (工学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅱ ＣＡＤ演習Ⅰ	1後 1後	3 2	1 1	厚生労働省所管職業能力開発総合大学校能力開発院新成長分野系福祉工学ユニット 准教授 〈平25.4〉	1日
142	兼任	講師	ｲｲｼﾞﾏ ﾋﾛｼ 飯島 浩 〈令和6年9月〉		－		人間環境デザイン総合演習 支援技術とデザイン	2後 3･4後	3 2	1 1	横浜市総合リハビリテーションセンター 研究開発部門テクニカルアドバイザー 〈昭62.7〉	1日
143	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾘｮｳｺ 伊藤 亮子 〈令和5年9月〉		－		発達と障害	1後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平28.9〉	1日
144	兼任	講師	ｲﾉｳｴ ｱｷﾗ 井上 晃良 〈令和6年4月〉		造形学士		人間環境デザイン基礎演習Ⅲ デザイン特別講義 ※	2前 3･4前	3 0.4	1 1	inoue design 代表 〈平10.1〉	1日
145	兼任	講師	ｳｴﾊﾗ ｶｽﾞ 上原 和 〈令和6年4月〉		学士 (建築学)		ＣＡＤ演習Ⅱ	2前	2	1	株式会社上原和建築研究所 代表取締役 〈令4.1〉	1日
146	兼任	講師	ｴﾋﾞｻﾜ ﾖｳｺ 海老澤 洋子 〈令和5年9月〉		工学士		人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1後	3	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平19.4〉	1日
147	兼任	講師	ｵｵｳﾁ ﾀｸｵ 大内 卓夫 〈令和5年9月〉		芸術学士		ＣＡＤ演習Ⅰ	1後	2	1	グリッドデザイン 代表 〈平4.10〉	1日
148	兼任	講師	ｵｵﾐﾈ ﾕｷｴ 大嶺 由希江 〈令和6年9月〉		修士 (人間環境デザイン学)		人間環境デザイン総合演習 生活環境デザイン演習ＩＡ	2後 3前	3 3	1 1	ウイングアシストプロジェクト 福祉用具プランナー管理指導者 〈平26.10〉	1日
149	兼任	講師	ｵｶﾞﾜ ｼｭﾝｼﾞ 小川 俊二 〈令和7年4月〉		工学士		プロダクトデザイン演習ＩＡ 情報メディアデザイン ※	3前 3･4前	3 1.1	1 1	有限会社カイデザイン 取締役 〈平22.4〉	1日
150	兼任	講師	ｵｸﾉ ﾏｻｱｷ 奥野 公章 〈令和7年9月〉		修士 (建築学)		空間デザイン演習ＩＢ	3後	3	1	奥野公章建築設計室 代表 〈平16.4〉	1日
151	兼任	講師	ｵｼﾔﾏ ﾚｵ 押山 玲央 〈令和6年4月〉		学士 (建築学)		ＣＡＤ演習Ⅱ	2前	2	1	株式会社白矩 代表取締役 〈平30.11〉	1日
152	兼任	講師	ｶﾞｲﾉ ﾀｹﾕｷ 我伊野 威之 〈令和7年9月〉		建築学士		空間デザイン演習ＩＢ	3後	3	1	我伊野構造設計室一級建築士事務所 代表 〈平8.10〉	1日
153	兼任	講師	ｶｸﾀﾞﾃ ﾏｻﾋﾃﾞ 角舘 政英 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		インテリアデザイン ※	2前	0.7	1	ぼんぼり光環境計画株式会社 代表 〈平12.4〉	1日
154	兼任	講師	ｶﾄｳ ｶﾝｼﾞ 加藤 完治 〈令和7年4月〉		芸術学士		デザイン特別講義 ※	3･4前	0.4	1	株式会社GK設計 副社長 〈平30.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
155	兼任	講師	ｶﾄｳ ﾂﾖｼ 加藤 剛 〈令和7年4月〉		建築学士		デザイン特別講義 ※	3･4前	0.4	1	株式会社丹青社 シニアクリエイティブデザイナー 〈平4.4〉	1日
156	兼任	講師	ｶﾜｲ ﾄｼﾋﾛ 河合 俊宏 〈令和7年4月〉		－		リハビリテーション工学	3･4前	2	1	埼玉県庁 主任 〈平2.4〉	1日
157	兼任	講師	ｶﾜｶﾐ ﾀｴｺ 河上 妙子 〈令和7年4月〉		Master of Art(英国)		グラフィックデザイン論	3･4前	2	1	河上妙子デザイン事務所 グラフィックデザイナー 〈平7.5〉	1日
158	兼任	講師	ｶﾜﾋﾄ ﾀｹｼ 川人 武 〈令和7年4月〉		学士 (教育学)		工芸科指導法Ⅰ 工芸科指導法Ⅱ	3前 3後	2 2	1 1	筑波大学附属駒場中・高等学校 教諭 〈令4.4〉	1日
159	兼任	講師	ｶﾜﾑﾗ(ﾓﾘ) ﾅﾂｺ 川村（森） 奈津子 〈令和7年4月〉		学士 (工学)		空間デザイン演習ＩＡ	3前	3	1	株式会社MDS 取締役 〈平22.3〉	1日
160	兼任	講師	ｷｳﾁ ｱﾂｺ 木内 厚子 〈令和6年9月〉		建築美術修士		人間環境デザイン総合演習	2後	3	1	スタジオエイト設計室 代表 〈平14.3〉	1日
161	兼任	講師	ｷﾀ ｼﾝｺﾞ 北 真吾 〈令和6年9月〉		Master of Design(英国)		ヒューマンインターフェース	2後	2	1	北デザイン 代表 〈平7.1〉	1日
162	兼任	講師	ｸﾎﾞｶﾜ ｶﾂﾔ 窪川 勝哉 〈令和6年4月〉		学士(文学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2前	3	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.4〉	1日
163	兼任	講師	ｸﾛﾀﾞ ｶﾂｼ 黒田 克史 〈令和6年4月〉		工学修士		ＣＡＤ演習Ⅱ	2前	2	1	株式会社モノグラフアーツ 代表取締役 〈平22.12〉	1日
164	兼任	講師	ｺｶﾞ ﾄｼﾋｺ 古賀 俊彦 〈令和5年9月〉		博士 (工学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1後	3	1	職業能力開発総合大学校 准教授 〈平31.4〉	1日
165	兼任	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁ 小林 進一 〈令和6年4月〉		修士 (工学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2前	3	1	コバヤシ401.Design Room株式会社 代表取締役 〈平29.6〉	1日
166	兼任	講師	ｺﾎﾞﾘ(ｾｷﾈ) ｷﾖﾐ 小堀（関根） 清美 〈令和5年9月〉		学士 (家政学)		ＣＡＤ演習Ⅰ	1後	2	1	考房建築設計事務所 代表 〈平17.7〉	1日
167	兼任	講師	ｺﾏﾂ ﾀｶﾉﾘ 小松 孝徳 〈令和7年9月〉		博士 (学術)		認知科学	3･4後	2	1	明治大学先端数理科学研究科 教授 〈平30.4〉	1日
168	兼任	講師	ｺﾝﾄﾞｳ ﾖｼｵ 近藤 嘉男 〈令和5年9月〉		工学修士		材料・素材一般 ※	1後	0.7	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.9〉	1日
169	兼任	講師	ｻｸﾗｲ ｾｲﾔ 櫻井 誠也 〈令和7年4月〉		学士 (芸術)		表現手法	3･4前	2	1	YKKAP株式会社 正社員 〈平30.10〉	1日
170	兼任	講師	ｻｸﾗｲ ﾖｼｵ 櫻井 義夫 〈令和6年4月〉		修士 (工学)		建築歴史意匠Ｂ	2前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令5.4〉	1日
171	兼任	講師	ｻｻｷ ﾀﾂﾛｳ 佐々木 龍郎 〈令和6年4月〉		工学修士		人間環境デザイン基礎演習Ⅲ インテリアデザイン ※	2前 2前	3 0.7	1 1	株式会社佐々木設計事務所 代表取締役 〈平21.7〉	1日
172	兼任	講師	ｻﾄｳ(ｻｻｷ) ｹｲ 佐藤（佐々木） 圭 〈令和6年4月〉		学士 (理工学)		インテリアデザイン ※	2前	0.7	1	株式会社TENHACHI一級建築士事務所 共同代表 〈平28.10〉	1日
173	兼任	講師	ｼｹﾞﾅﾘ ﾀｹｼ 繁成 剛 〈令和5年9月〉		博士 (医療情報学)		道具の歴史	1後	2	1	長野大学 社会福祉学部 教授 〈令2.4〉	1日
174	兼任	講師	ｼﾌﾞﾔ ﾃﾂｵ 澁谷 哲男 〈令和5年9月〉		－		ＣＡＤ演習Ⅰ	1後	2	1	シブヤデザインスタジオ 代表 〈平6.4〉	1日
175	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ｷﾖｼｹﾞ 鈴木 清重 〈令和7年4月〉		博士 (心理学)		安全工学	3･4前	2	1	愛知淑徳大学 講師 〈令3.9〉	1日
176	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾋﾃﾞﾕｷ 鈴木 英之 〈令和7年4月〉		博士 (工学)		材料力学	3･4前	2	1	株式会社安藤・間技術研究所 副所長 〈平27.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
177	兼任	講師	ﾀｶｲﾜ ﾁﾋﾛ 高岩 千尋 〈令和7年9月〉		修士 (教育学)		職業指導Ⅱ	3･4後	2	1	東京都立世田谷泉高等学校 主任教諭 〈平21.4〉	1日
178	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ｼｮｳﾀ 高橋 翔太 〈令和6年4月〉		修士 (工学)		ＣＡＤ演習Ⅱ	2前	2	1	株式会社ロビットプロダクトデザイン担当 〈令1.5〉	1日
179	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾄｼｵ 高橋 利男 〈令和6年9月〉		－		デザイン工学応用	2後	2	1	ブレインウェーブ 代表 〈昭63.6〉	1日
180	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾏｺﾄ 高橋 真 〈令和5年9月〉		学士 (理工学)		材料・素材一般 ※	1後	0.7	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平21.4〉	1日
181	兼任	講師	ﾁﾊﾞ ﾖｼﾋﾛ 千葉 吉裕 〈令和7年4月〉		理学修士		職業指導Ⅰ	3･4前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平27.4〉	1日
182	兼任	講師	ﾂﾁﾔ ｹﾝｲﾁ 土屋 健一 〈令和5年4月〉		学士 (造形学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅰ 人間環境デザイン総合演習	1前 2後	3 3	1 1	エム・ティ・プランニング株式会社 代表取締役 〈平24.8〉	1日
183	兼任	講師	ﾄﾐﾖｼ ｹﾝﾄ 冨吉 剣人 〈令和5年9月〉		学士 (芸術)		人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1後	3	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.9〉	1日
184	兼任	講師	ﾄﾘｲ ﾀﾀﾞｼ 鳥居 斉 〈令和5年9月〉		工学修士		ＣＡＤ演習Ⅰ	1後	2	1	株式会社トリイデザイン研究所 代表取締役 〈平25.12〉	1日
185	兼任	講師	ﾅｶｸﾗ ｺｳｽｹ 中倉 康介 〈令和6年4月〉		修士 (工学)		ＣＡＤ演習Ⅱ	2前	2	1	株式会社中倉康介建築設計事務所 代表取締役 〈令2.10〉	1日
186	兼任	講師	ﾅﾄﾘ ｶｽﾞﾕｷ 名取 和幸 〈令和5年9月〉		文学修士		色彩論	1後	2	1	一般財団法人日本色彩研究所 常務理事 〈平30.6〉	1日
187	兼任	講師	ﾆﾀﾅｲ ｼﾛｳ 似内 志朗 〈令和7年4月〉		Diploma in Architecture (英国)		デザイン特別講義 ※	3･4前	0.4	1	ファシリティデザインラボ 代表 〈平31.4〉	1日
188	兼任	講師	ﾆﾜ ﾅｵ 丹羽 菜生 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		建築・都市法規	2前	2	1	中央大学研究開発機構 機構助教 〈平28.6〉	1日
189	兼任	講師	ﾉﾅｶ ﾄｼﾋﾛ 野中 俊宏 〈令和6年9月〉		博士 (工学)		環境計画	2後	2	1	東京理科大学工学部 嘱託教授 〈令4.4〉	1日
190	兼任	講師	ﾉﾑﾗ ﾂﾈﾀｶ 野村 庸高 〈令和5年4月〉		修士 (工学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅰ ＣＡＤ演習Ⅱ	1前 2前	3 2	1 1	アキアーキデザイン一級建築士事務所 代表 〈平26.2〉	1日
191	兼任	講師	ﾊｷﾞﾉ ﾏｻｶｽﾞ 萩野 正和 〈令和5年4月〉		修士 (工学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	1前	3	1	株式会社connel 代表取締役 〈平28.4〉	1日
192	兼任	講師	ﾊﾅﾏｷ(ﾀﾅｶ) ﾕｳｺ 花巻（田中） 裕子 〈令和5年9月〉		学士 (家政学)		人間環境デザイン基礎演習Ⅱ	1後	3	1	株式会社田中花巻事務所 代表取締役 〈平25.3〉	1日
193	兼任	講師	ﾋｸﾞﾁ ﾀｶﾋｺ 樋口 貴彦 〈令和5年4月〉		博士 (デザイン学)		ＣＡＤ演習Ⅰ ＣＡＤ演習Ⅱ International Design Practices	1後 2前 1･2･3･4後	2 2 2	1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 助教 〈平30.4〉	1日
194	兼任	講師	ﾌﾅｷ ｻﾁｺ 船木 幸子 〈令和6年4月〉		工学修士		人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	2前	3	1	有限会社フナキサチコケンチクセッケイジムショ取締役 〈平13.5〉	1日
195	兼任	講師	ﾍﾞｯﾌﾟ ﾄﾓﾔ 別府 知哉 〈令和5年4月〉		芸術工学修士		人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	1前	3	1	八千代エンジニヤリング株式会社 部長 〈令3.7〉	1日
196	兼任	講師	ﾎﾘｸﾞﾁ ﾋﾄﾐ 堀口 仁美 〈令和7年4月〉		専門士		情報メディアデザイン ※	3･4前	1.1	1	株式会社アイ・デザイン 取締役 〈平29.4〉	1日

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現　職 （就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
197	兼任	講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾄﾓﾋｺ 松本 知彦 〈令和7年4月〉		学士 (造形)		プロダクトデザイン演習ＩＢ デザイン特別講義 ※	3後 3･4前	3 0.4	1 1	株式会社ディグ 代表取締役 〈平8.10〉	1日
198	兼任	講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾔｽﾋﾛ 松本 康弘 〈令和7年9月〉		修士 (建築計画)		生活環境デザイン演習ＩＢ	3後	3	1	松本康弘建築工房 代表 〈平16.4〉	1日
199	兼任	講師	ﾏﾂﾔ ｶｽﾞｷ 松谷 一樹 〈令和6年4月〉		人間環境デザイン学士		ＣＡＤ演習Ⅱ	2前	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平30.4〉	1日
200	兼任	講師	ﾏﾍﾞ ｼﾝｲﾁﾛｳ 間辺 慎一郎 〈令和5年4月〉		学士 (芸術)		人間環境デザイン基礎演習Ｉ	1前	3	1	クリナップ株式会社 社員 〈平19.4〉	1日
201	兼任	講師	ﾐｽﾞｶﾐ ﾃﾂﾔ 水上 哲也 〈令和6年9月〉		学士 (工学)		人間環境デザイン総合演習	2後	3	1	水上哲也建築設計事務所 代表 〈平25.6〉	1日
202	兼任	講師	ﾐﾔｶﾞﾜ ﾀﾀﾞﾕｷ 宮川 忠之 〈令和7年9月〉		農学士		ランドスケープデザイン	3･4後	2	1	株式会社エキープ・エスパス 設計主任 〈平11.4〉	1日
203	兼任	講師	ﾑﾗｲ(ｱｻﾉ) ｴﾘ 村井（浅野） エリ 〈令和5年4月〉		家政学修士		人間環境デザイン基礎演習Ｉ	1前	3	1	一級建築士事務所all 代表 〈平13.9〉	1日
204	兼任	講師	ﾓﾘ ﾄｼﾋﾄ 森 俊人 〈令和7年4月〉		修士 (工学)		空間デザイン演習ＩＡ	3前	3	1	株式会社市浦ハウジング&プランニング シニアアーキテクト 〈令4.2〉	1日
205	兼任	講師	ﾔｷﾞ ﾖｼｶｽﾞ 八木 祥和 〈令和6年9月〉		教育学士 (英語教育学)		プロダクトデザイン演習ＩＢ マーケティング	3後 2後	3 2	1 1	太陽工業株式会社 部長 〈令2.10〉	1日
206	兼任	講師	ﾖｼﾀﾞ ﾀｶｼ 吉田 崇 〈令和7年9月〉		学士 (理学)		設備計画	3･4後	2	1	株式会社森村設計 部長 〈平30.4〉	1日
207	兼任	講師	ﾖｼﾀﾞ ｼｮｳﾍｲ 吉田 尚平 〈令和5年9月〉		修士 (人間環境デザイン学)		ＣＡＤ演習Ｉ	1後	2	1	合同会社オンド 代表社員 〈平30.3〉	1日
208	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾏﾅﾌﾞ 渡辺 学 〈令和5年9月〉		専門士 (インテリアデザイン課程)		ＣＡＤ演習Ｉ	1後	2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈平29.9〉	1日
209	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾕｳｽｹ 渡辺 佑介 〈令和6年9月〉		修士 (工学)		人間環境デザイン総合演習	2後	3	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 〈令3.9〉	1日

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	0人	0人	0人	3人	4人	2人	0人	9人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	1人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博　士	0人	0人	0人	5人	1人	0人	0人	6人	
	修　士	0人	0人	0人	3人	0人	1人	0人	4人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講　師	博　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修　士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助　教	博　士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合　計	博　士	0人	0人	0人	9人	5人	2人	0人	16人	
	修　士	0人	0人	0人	4人	0人	2人	0人	6人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

（福祉社会デザイン学部社会福祉学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	採用根拠等
5	専	教授	ｲﾅｻﾞﾜ ｺｳｲﾁ 稲沢 公一 〈令和5年4月〉		年俸契約雇用制度に関する要綱 福祉社会デザイン学部等設置準備委員会 (R2.10.1開催)にて承認
6	専	教授	ﾀｶﾔﾏ ﾅｵｷ 高山 直樹 〈令和5年4月〉		年俸契約雇用制度に関する要綱 福祉社会デザイン学部等設置準備委員会 (R2.10.1開催)にて承認
7	専	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ(ｶﾄﾞﾜｷ)　ﾋﾛﾐ 渡辺(門脇)　裕美 〈令和5年4月〉		年俸契約雇用制度に関する要綱 福祉社会デザイン学部等設置準備委員会 (R2.10.1開催)にて承認

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（福祉社会デザイン学部子ども支援学科）

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	0人	0人	1人	1人	1人	1人	0人	4人	
	修　士	0人	0人	0人	2人	0人	1人	0人	3人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博　士	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	2人	
	修　士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講　師	博　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修　士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助　教	博　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合　計	博　士	0人	0人	1人	3人	1人	1人	0人	6人	
	修　士	0人	0人	0人	4人	0人	1人	0人	5人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科）

職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	0人	0人	0人	4人	3人	0人	0人	7人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博　士	0人	0人	1人	2人	0人	0人	0人	3人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	1人	1人	0人	0人	2人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講　師	博　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助　教	博　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合　計	博　士	0人	0人	1人	6人	3人	0人	0人	10人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	2人	1人	0人	0人	3人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	